

科目名	経営学 I	科目名 (英文)	Introduction to Business Administration I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	畠山 俊宏
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1001a0		

授業概要・目的	本講義の目的は、経営学の各分野の基本的な知識を習得し、それらの知識に基づいて企業の活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義と経営学検定の過去問題の演習を通じて、経営学の基本的な内容について学習する。 授業担当者は、民間企業における経理事務の経験から企業の経営活動の実践的な分析方法を教授する。
到達目標	①企業論、経営戦略論、経営組織論、グローバル経営論の基礎的な内容を説明できる。 ②経営理論に基づいて企業の活動を分析できる。
授業方法と留意点	教科書を予習した後解説動画を視聴する。動画を視聴した後は Moodle で経営学検定の過去問題の演習を行う。正解できるまで繰り返し受験することが望ましい。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	企業と経営	本講義のガイダンスと企業と経営の概要について学習する。	事前：シラバスと教科書の第 1 部第 1 章を読んでおくことを事前に読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間)
2	企業・会社の概念と諸形態	様々な企業の形態について学習する。	事前：教科書の第 1 部第 2 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間)
3	所有・経営・支配と経営目的	株式会社の所有と経営の関係について学習する。	事前：教科書の第 1 部第 3 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間)
4	会社機関とコーポレート・ガバナンス	株式会社の様々な機関とコーポレートガバナンスについて学習する。	事前：教科書の第 1 部第 4 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間)
5	経営戦略の体系と理論	経営戦略の概念や経営戦略論の発展について学習する。	事前：教科書の第 2 部第 1 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間)
6	全社戦略 (1)	全社戦略の概要やドメインについて学習する。	事前：教科書の第 2 部第 2 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間)
7	全社戦略 (1)	成長のための戦略について学習する。	事前：教科書の第 2 部第 2 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間)
8	事業戦略	事業戦略や競争戦略について学習する。	事前：教科書の第 2 部第 3 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間)
9	機能別戦略	研究開発、生産、マーケティング、人事等の機能別の戦略について学習する。	事前：教科書の第 2 部第 4 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間)
10	経営組織の基本形態	ライン組織、ファンクショナル組織、ライン・アンド・スタッフ組織等の経営組織の基本形態について学習する。	事前：教科書の第 3 部第 2 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間)
11	企業組織の諸形態 (1)	職能部門制組織、事業部制組織等の企業組織の様々な形態について学習する。	事前：教科書の第 3 部第 3 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間)
12	企業組織の諸形態 (2)	マトリックス組織等の企業組織の様々な形態について学習する。	事前：教科書の第 3 部第 3 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間)
13	M&A と買収防衛策	M&A の目的・手法、買収防衛策について学習する。	事前：教科書の第 5 部第 1 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間)
14	経営のグローバル化	経営の国際化、グローバル化について学習する。	事前：教科書の第 5 部第 2 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間)
15	企業経営と情報化	企業経営における情報化の進展、情報ビジネスについて学習する。	事前：教科書の第 5 部第 3 章を読んでおくこと。小テストに解答しておくこと (1.5 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間)

関連科目 企業論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、グローバル経営論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経営学検定試験公式テキスト 1 経営学の基本	経営能力開発センター	中央経済社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 第 14 回の講義後に Moodle で実施する小テスト 20%、期末レポート 80% で評価する。

学生へのメッセージ	予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んで欲しい。
担当者の研究室等	11号館8階 島山研究室
備考	①小テストは、第14回の講義終了後から第15回の講義の前日23時までには回答しなければならない。得点は、回答終了後にMoodleで表示されるので各自で確認すること。 ②授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。

科目名	経営学Ⅱ	科目名 (英文)	Introduction to Business Administration II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北 真収
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1002a0		

授業概要・目的	経営学の基本について全体を網羅して講義を行います。授業で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。企業での企画調査や海外駐在の実務経験を講義に取り入れます。
到達目標	経営とは何か、何が課題なのかなど、現実即して経営への疑問を広く理解することが目標です。
授業方法と留意点	事例を紹介しながら経営知識を講義します。理解を助けるためにDVDなども活用します。 学習課題への応答を求めるなど参加を重視します。 小テスト、中間テストの解答例は試験後に解説します。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおく 事後：講義内容を復習する
2	企業と社会	企業の社会的責任を中心に講義します	事前：教科書の1章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
3	企業の種類	私的企業、公的企業について講義します	事前：教科書の2章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
4	企業理念と企業文化	企業理念や企業文化の形成について講義します	事前：教科書の3章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
5	企業統治	経営者を規律づけるしくみ (ガバナンス) を学びます	事前：教科書の4章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
6	企業倫理	不祥事を未然に防ぐことについて考えます	事前：教科書の5章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
7	企業戦略、競争戦略	企業の成長、競争に打ち勝つ考え方を説明します	事前：教科書の6章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
8	企業財務	資金の調達、運用について説明します	事前：教科書の7章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
9	合併・買収 (M&A)	合併・買収の意義や効果を考えます	事前：教科書の8章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
10	イノベーション	新しい事業の創出、そのプロセスについて講義します	事前：教科書の9章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
11	マーケティング	製品やサービスの販売 (対象や価値伝達) に関して学びます	事前：教科書の10章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
12	組織の構造	企業が活動できるしくみを学びます	事前：教科書の11章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
13	ものづくり	多品種少量生産を中心にものづくりの発展について学びます	事前：教科書の12章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
14	仕事と生活の調和	ワークライフバランスの必要性、多様な働き方について考えます	事前：教科書の13章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
15	国際経営	グローバルな経営組織や経営の現地化について講義します	事前：教科書の14章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)

関連科目	経営組織論、経営管理論、人的資源管理論、経営戦略論、グローバル経営論
------	------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実践に学ぶ経営学	風間信隆・松田健編著	文真堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	レポート 30%、中間等テスト 50%、毎回小テスト 20%で評価します。
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	代表的な事例を使って経営知識を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
-----------	--

担当者の研究室等	寝屋川 11 号館 8 階 北 真収研究室 (相談時は事前に連絡してください)
----------	---

備考	
----	--

科目名	経営管理論	科目名 (英文)	Business Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1003a0		

授業概要・目的	<p>企業活動に必要な経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報・技術」等を最大限に活かし、企業活動の効率向上と社会への貢献力強化を図るための戦略と管理手法を学びます。毎回、講義内容について各自、事前に調べてきた事項について発表（発言）する機会を設けます。得た知識をより自己の知恵として活かすことができる能力を身に付けてもらいます。</p> <p>【担当教員実務経歴】 ①金融機関勤務（本部企画部経営企画・本店営業部融資と信審査管理業務） ②ベンチャー投資財団（企業への投資業務） ③監査法人（株式上場コンサルティング） ④ベンチャー企業監査役兼務（複数社）</p>
到達目標	<p>企業内人材および社会人として必要な基礎知識を学ぶとともに、当該知識を知恵として様々な事象に応用しうる人材の育成を目指します。単なる「暗記」での知識ではなく、応用する「知恵」を身に付けるための授業方法にしています。将来、企業内人材として、プロジェクトの企画・提案、製品、商品、サービスに係る企画など、企業就職後の自身の活躍の場を拓けられる知恵をしっかりと習得してもらいます。</p>
授業方法及び留意点	<p>オンライン授業にて開講します。 毎回の資料はTeamsの「日付」のチャンネル内の「ファイル」に、講義回の前週金曜日に格納しておきますので、各自、ダウンロード等準備の上、講義に参加して下さい。 毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）をWebFolderで配布します。当日の24時までに提出してもらいます。アンケートに記載された講義内容に関する質問については、次回講義時に一覧表にして配布すると共に解説します。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>卒業後、ビジネスパーソンとして求められる基本的・実践的な経営知識を習得すると共に、業務を通じ自己表現を図り、社会人として戦略的・主体的に挑戦する意欲が醸成される。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 社会へ巣立つための心構え	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 社会とは？ 企業とは？ そこで求められる人材とは？	<事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
2	知識社会で活躍する人材とは	社会に必要な能力と意思決定のプロセス 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
3	株式会社の機能	株式会社の構造と管理手法 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
4	企業内新規事業プロジェクトの考え方	新規事業プロジェクト企画の考え方と戦略事例 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
5	企業を取り巻く経営環境分析	経営環境の見方とガバナンス体制の事例研究 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
6	戦略的企業組織とは？	企業組織の戦略思考と事例研究 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
7	中小企業、ベンチャー企業の光と影	中小企業・ベンチャー企業における戦略思考とビジネスモデル事例 事前予習による専門用語の確認。 設問による内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
8	戦略経営と事業リスク	戦略経営の考え方とリスクマネジメント手法 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（各自）（1時間）
9	企業財務の視点	企業財務の捉え方と管理会計の考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワード事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（各自）（1時間）
10	企業財務の実態把握	財務諸表の基本的な見方と分析法。 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（各自）（1時間）
11	経営分析の基本 個人資産形成	経営指標を用いた分析手法と個人資産形成 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（各自）（1時間）
12	投資の基本的考え方	株式投資・債券投資の基本的知識 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（各自）（1時間）
13	リーガルマネジメント	企業法務と営業秘密管理手法 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（各自）（1時間）
14	プレゼンテーション技法	プレゼンテーションの効果的手法と社	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を

		会人基礎力養成 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	活用した用語等の習得 (30分)。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習 (各自) (1時間)																
15	プレゼンテーション発表 (演習)	学生による発表 (希望者のみ) 発表学生のプレゼンを聴講し、質問等を 積極的にすること。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞プレゼン発表資料の策定 (2時間: 希望者のみ) ＜事後＞授業で学んだ事項の再認識 (各自) (1時間)																
関連科目	ベンチャービジネス論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>①毎回のアンケート内の [設問 1] に対する回答評価 (評価割合: 50%) 授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します (正解/不正解を問うものではありません)。またアンケート内の [設問 2] (授業内容に関する質問および要望) について、積極的に質問または提案した場合は加点評価とします。なお、当該質問や要望については、次回以降の授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に配信配付します。</p> <p>②期末レポート (評価割合: 50%) 授業全般にわたっての課題を提示します。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>現在、起こっている事例を参考に、自身の専門分野にとらわれない、将来企業人の一員となるために必要な産業界 (実務) の知識を習得してください。 普段より新聞等の経営事象に目を通すこと (社会人として習慣化することを勧めます)。</p>																		
担当者の研究室等備考	11号館7階 林研究室																		

科目名	財務諸表論入門	科目名 (英文)	Introduction to Accounting
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐井 英子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1005a0		

授業概要・目的	<p>会計情報は、債権者や投資家など特定の人々にのみ有用なものではない。今日の経済社会においては、すべての人々が企業活動と何らかの関係を持っている。企業は、地域社会をはじめ多くの関係者と利害関係を有しており、会計情報は、誰にとっても必要で有用な情報である。また、会計はビジネスの言語といわれ、ビジネスに不可欠になっている。会計を知らずして、経済社会を理解することはできないといえる。本講義では、会計の意義、目的、規範、会計情報開示制度等に関する基礎的知識・用語を初心者向けに分かり易く解説し、公表されている会計情報、財務諸表から企業の経営内容を読み取り、理解できるようになり、また、2年生以降に履修することになる上級科目のより円滑な理解に結びつくことを目的とする。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会計の目的、役割を理解する。 ・我が国の会計制度、会計情報開示制度の概要を理解する。 ・自ら必要な会計情報を入手できるようになる。 ・主用財務諸表である、貸借対照表、損益計算書を作成することができる。 ・財務諸表の内容、作成ルールを理解し、会計情報から企業内容を推察することができる。
授業方法と留意点	<p>原則として、対面授業を実施する。 教材、課題の提出は、WebFolder を利用する。</p>
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマンとして必要なビジネス言語である会計リテラシーが修得できる。 ・組織 (主として企業) に関する会計情報を読み取る力を修得することにより2年次以降の学びに有用できる。 ・経営学部に関連する一連の各種資格取得のための受験準備スタートのよい契機になる。 ・会計と資格、職業についての理解が得られる。(公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士等)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	会計の意義と目的	会計の意義、財務会計と管理会計、会計の役割・機能	配布資料の復讐と整理 (1 時間)
2	わが国の会計制度	トライアングル体制、会社法会計、金融商品取引法会計、税務会計	事前学習 (30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 (1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
3	会計情報開示制度	ディスクロージャーとは、電子開示システム	事前学習 (30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 (1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
4	会計基準	企業会計原則、会計基準の国際的統合	事前学習 (30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 (1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
5	会計情報の内容 (1)	会計情報の入手方法、個別財務諸表と連結財務諸表	事前学習 (30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 (90 分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
6	会計情報の内容 (2)	貸借対照表 様式、基本原則、分類基準	事前学習 (30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 (1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
7	会計情報の内容 (3)	貸借対照表 資産について	事前学習 (30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 (90 分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
8	会計情報の内容 (4)	貸借対照表 負債について	事前学習 (30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 (1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
9	会計情報の内容 (5)	貸借対照表 純資産について	事前学習 (30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 (1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
10	まとめと確認テスト	まとめと小テスト	事前学習 (90 分) 今までの配付資料、練習問題の復習 事後学習 (30 分) まとめテストの見直し
11	会計情報の内容 (6)	損益計算書 収益の認識と測定	事前学習 (30 分) まとめてテストで理解できないところを調べる 事後学習 (1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し の見直し
12	会計情報の内容 (7)	損益計算書 費用の認識と測定 営業損益、経常損益、純損益	事前学習 (30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 (1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し

	13	会計情報の利用・分析	安全性分析、収益性分析	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(90分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成																
	14	会計と職業・資格	日商簿記検定、ビジネス会計検定試験、BATIC、公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し																
	15	まとめ	講義の復習とまとめ 質問の受付	事前学習(1時間) 今までの講義でどこが理解できていないか箇条書きにする。 事後学習(5時間) 試験に備え、今までの復習																
関連科目	経営学、企業簿記																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アカウンティング</td> <td>笹倉 淳史他</td> <td>同文館出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1からの会計</td> <td>桜井 久勝</td> <td>中央経済社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	アカウンティング	笹倉 淳史他	同文館出版	2	1からの会計	桜井 久勝	中央経済社	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1	アカウンティング	笹倉 淳史他	同文館出版																
	2	1からの会計	桜井 久勝	中央経済社																
3																				
評価方法 (基準)	授業への(参加)と課題の提出(40%)、定期テスト(60%)、																			
学生への メッセージ	毎回授業に出席して、練習問題を自分で解いて下さい。																			
担当者の 研究室等	佐井研究室(11号館8階)																			
備考	定期試験は、15回目の授業で対面で実施します。																			

科目名	マーケティング概論	科目名 (英文)	Introduction to Marketing Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑨, DP2②		
科目ナンバリング	IDD1006a0		

授業概要・目的	本授業は、企業や組織が直面する問題を主体的に解決するための基礎的な能力を身につけることを目指します。とりわけ、マーケティングの基本的な枠組みを説明しながら、企業活動を考察します。つまり、売れ続けている製品やサービス、その仕組みについて理解を深めます。なお、授業担当者の旅行会社での実務経験から、「モノ」だけではなく「サービス」を含めた多様な事例を紹介しながら授業を進めます。
到達目標	・マーケティングの基礎的な枠組みについて説明することができる。 ・その枠組みを用いて複数の企業の取り組み事例を比較することができる。
授業方法と留意点	・講義に加え、新製品に関するニュースを題材に議論も予定しています。 ・企業における最新のマーケティングの理解を深めるために、ゲスト講師による講義を行う場合もあります。 ・詳細は、Microsoft Teamsに掲載しますので、毎週、確認ください。
科目学習の効果 (資格)	リテール・マーケティング (販売士)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	マーケティング発想の経営	売れる製品についてマーケティングの概要を紹介しながら説明します。	【事前学習】企業のマーケティングについて新聞、WEB等で調べる (30分)。 【事後学習】設問について考える (30分)。
2	マーケティング論のなりたち	マーケティングの必要性について事例を用いて理解を深めます。	【事前学習】企業のマーケティングについて新聞、WEB等で調べる (30分)。 【事後学習】設問について考える (30分)。
3	マーケティングの基本概念	STP、4Pをはじめとした枠組みの概要について説明します。	【事前学習】企業のマーケティングについて新聞、WEB等で調べる (30分)。 【事後学習】設問について考える (30分)。
4	戦略的マーケティング	競争地位別のマーケティングについて理解します。	【事前学習】企業のマーケティングについて新聞、WEB等で調べる (30分)。 【事後学習】設問について考える (30分)。
5	製品のマネジメント	市場機会の分析から製品戦略への展開について考察します。	【事前学習】企業のマーケティングについて新聞、WEB等で調べる (30分)。 【事後学習】設問について考える (30分)。
6	価格のマネジメント	身近な事例を挙げながら価格の組み立てを読み解きます。	【事前学習】企業のマーケティングについて新聞、WEB等で調べる (30分)。 【事後学習】設問について考える (30分)。
7	広告のマネジメント	広告の効果や表現のパターンについて理解を深めます。	【事前学習】企業のマーケティングについて新聞、WEB等で調べる (30分)。 【事後学習】設問について考える (30分)。
8	チャネルのマネジメント	製品やサービスの多様なチャネルについて説明します。	【事前学習】企業のマーケティングについて新聞、WEB等で調べる (30分)。 【事後学習】設問について考える (30分)。
9	営業のマネジメント	営業活動の基本について事例を用いて説明します。	【事前学習】企業のマーケティングについて新聞、WEB等で調べる (30分)。 【事後学習】設問について考える (30分)。
10	顧客関係のマネジメント	顧客との関係構築の意義や課題について理解を深めます。	【事前学習】企業のマーケティングについて新聞、WEB等で調べる (30分)。 【事後学習】設問について考える (30分)。
11	顧客理解のマネジメント	マーケティング・リサーチの基本について説明します。	【事前学習】企業のマーケティングについて新聞、WEB等で調べる (30分)。 【事後学習】設問について考える (30分)。
12	ブランド構築のマネジメント	ブランドの意義やその構築方法について理解を深めます。	【事前学習】企業のマーケティングについて新聞、WEB等で調べる (30分)。 【事後学習】設問について考える (30分)。
13	ブランド組織のマネジメント	ブランドマネージャーの役割について事例を用いて説明します。	【事前学習】企業のマーケティングについて新聞、WEB等で調べる (30分)。 【事後学習】設問について考える (30分)。
14	事例研究 1	企業事例を通じて、マーケティングに対する理解を深めます。	【事前学習】企業のマーケティングについて新聞、WEB等で調べる (30分)。 【事後学習】設問について考える (30分)。
15	事例研究 2	企業事例を通じて、マーケティングに対する理解を深めます。	【事前学習】企業のマーケティングについて新聞、WEB等で調べる (30分)。 【事後学習】設問について考える (30分)。

関連科目 消費者行動論、リテールマーケティング

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	わかりやすいマーケティング戦略	沼上幹	有斐閣アルマ
2	1からのマーケティング	石井淳蔵・廣田章光	碩学舎	
3				

評価方法 (基準)	平常点(クイズ等) 40% 最終レポート 60%
学生への メッセージ	新製品や新しいサービスに関する情報を自ら取得するように心がけてください。
担当者の 研究室等	田中祥司研究室 11号館8階
備考	各回、予習・復習をあわせて1時間程度の準備が必要になります。 ※教科書、参考文献については、初回の授業時に説明します。

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1007a0		

授業概要・目的	日本を含め世界経済はダイナミックな変化の過程にある。例えば、先進国の経済成長率が鈍化する一方、新興国は世界経済の動力源として機能しつつある。ここで重要なのは、これらは私たちのくらしと決して無縁ではなく、むしろ私たちはこれら経済問題を積極的に理解し、自らの力で対処しなければならない、ということである。本講義では、経済に関する考え方や事例を私たちの身近なものから取り上げ説明し、できるだけ学生と対話しながら進めたい。
到達目標	経済問題を考えるための初歩的なスキルの修得
授業方法と留意点	教科書中心の講義形式で進める言うまでもなく教科書は必携である。私語への対処は、他の講義よりも厳しいと心得ておいて欲しい。また高校と異なり、大学の講義では板書よりも口頭説明が多く、自分なりのノートの取り方を工夫しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	日々のくらしの中で遭遇する経営・経済問題を深く理解し、対処するスキルを身につけることができる。また多くの社会科学系専門科目をより深く理解するための基礎となり、資格取得・公務員試験などにも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	経済現象と日々のくらしとの結びつきについて概説し、「くらしと経済」で何を考え学ぶのかを解説する。新聞の読み方についても解説する。	事後復習すること
	2	分業の利益	分業、比較優位、機会費用について解説する。	事前、教科書第1章をよんでおくこと 事後、練習問題の解答と復習 (各60分)
	3	需要と供給	需要曲線、供給曲線について解説する。	事前、教科書第2章をよんでおくこと 事後、練習問題の解答と復習 (各60分)
	4	価格メカニズム	市場取引や価格決定のメカニズムについて解説する。	事前、教科書第3章をよんでおくこと 事後、練習問題の解答と復習 (各60分)
	5	市場の効率性	望ましい経済の基準として効率性について解説する。	事前、教科書第4章をよんでおくこと 事後、練習問題の解答と復習 (各60分)
	6	市場の失敗	市場は万能ではない。市場の失敗について解説する。	事前、教科書第5章をよんでおくこと 事後、練習問題の解答と復習 (各60分)
	7	市場の限界	市場の失敗の原因の一つである情報の非対称性や市場の限界について解説する。	事前、教科書第6章をよんでおくこと 事後、練習問題の解答と復習 (各60分)
	8	今までのまとめ (中間試験)	前回までの内容について復習	これまでの授業の復習 (60分)
	9	労働市場	学生にとって最も身に染みて感じるであろう労働市場について解説する。	事前、教科書第7章をよんでおくこと 事後、練習問題の解答と復習 (各60分)
	10	GDPについて	国の豊かさを測るGDPについて解説する。	事前、教科書第8, 9章をよんでおくこと 事後、練習問題の解答と復習 (各60分)
	11	消費需要と投資需要	GDP構成要素の消費と投資について解説する。	事前、教科書第10章をよんでおくこと 事後、練習問題の解答と復習 (各60分)
	12	貨幣と金融	経済取引に欠かせない貨幣と経済取引の大半を占める金融について解説する。	事前、教科書第11章をよんでおくこと 事後、練習問題の解答と復習 (各60分)
	13	政府の役割	市場は万能ではなく、政府の存在意義の一つもそこにある。政府の経済的な役割について解説する。	事前、教科書第12章をよんでおくこと 事後、練習問題の解答と復習 (各60分)
	14	外国貿易と為替レート	資源小国かつ技術立国日本は海外諸国との貿易で生計を立てている。日本の貿易の状況や為替レートの決定について解説する。	事前、教科書第13章をよんでおくこと 事後、練習問題の解答と復習 (各60分)
	15	経済成長と国民生活	経済の成長は豊かさの維持と密接に関わる。経済成長率の表し方やその分析方法について解説する。	事前、教科書第14章をよんでおくこと 事後、練習問題の解答と復習 (各60分)

関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学など
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からの経済学	中谷武、中村保 編著	碩学舎・中央経済社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	小テスト(40%) + 中間試験またはレポート (30%) + 期末試験またはレポート試験(30%)。小テストは基本的に毎回 Moodle で出題する。
------	--

(基準)	
学生へのメッセージ	単位取得のためではなく、自身の能力向上のために受講するんだ、という姿勢であって欲しい。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進願いたい。
担当者の研究室等	11号館7階(杉本准教授室)
備考	第1回講義はリモート講義を予定しています。講義方法が変更する場合はTeamsで連絡するので毎回確認してください。講義資料の配布、課題提出はMoodleで行うので、事前に登録を完了してください。

科目名	ミクロ経済学	科目名 (英文)	Micro Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1008a0		

授業概要・目的	現代経済学の理論は、体系化された科学としてミクロ経済学とマクロ経済学に大別される。そのうち、ミクロ経済学は、皆が納得しうる仮定を起点とした論理に基づく消費者と企業の行動原理を説明する理論である。本講義では、ミクロ経済学を現実事象と照らし合わせながら解説し、使えるミクロ経済学の修得を目的とする。 オンラインの講義は教材 (パワーポイント) を moodle にアップロードします。教材をダウンロードして、教科書と合わせて視聴して下さい。復習、確認のための小テストも moodle で行いますので、必ずやって下さい。連絡、質問などは teams を通じて対応します。
到達目標	1. 経済主体の意思決定や市場について理解できるようになる 2. 経済学的思考の使い方が分かるようになる
授業方法と留意点	講義は極力教科書に沿って行うので、必ず教科書を購入のこと。漠然と講義に出席するのではなく、予習・復習を行い、疑問点は迷うことなく質問し解消すること。質問は学習意欲の表れとして評価の対象である。
科目学習の効果 (資格)	TV や新聞、インターネットから無造作に流される経済的事象を自らで整理し、自らで判断するための初歩的な能力が身につく。さらに、教員免許状取得・公務員試験・中小企業診断士試験など資格取得に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ミクロ経済学で学ぶこと	経済学を学ぶ理由、ミクロ経済学とマクロ経済学の違い、価格メカニズムの働き、図とグラフ	事前に教科書第1章 (pp. 13-28) を読んでおくこと。復習も行うこと。(1時間)
	2	需要の理論 (1)	市場需要曲線	事前に教科書第2章 (pp. 31-36) を読んでおくこと。復習も行うこと。(0.5時間)
	3	需要の理論 (2)	需要曲線のシフト、消費者余剰	事前に教科書第3章 (pp. 36-46) を読んでおくこと。復習も行うこと。(1時間)
	4	需要の理論 (3)	無差別曲線	事前に教科書第3章 (pp. 51-52) を読んでおくこと。復習も行うこと。(0.5時間)
	5	需要の理論 (4)	予算制約、最適消費	事前に教科書第3章 (pp. 49-51, 53-58) を読んでおくこと。復習も行うこと。(1時間)
	6	供給の理論	限界費用、市場供給曲線、生産者余剰、供給曲線のシフト要因	事前に教科書第4章 (pp. 59-72) を読んでおくこと。復習も行うこと。(1.5時間)
	7	限界概念と微分	限界概念と微分との関係について	予習はできないが、復習をしっかりと行うこと。(1時間)
	8	需給曲線と弾力性	需要の価格弾力性、弾力性を左右する要因、差別価格	事前に教科書第5章 (pp. 73-88) を読んでおくこと。復習も行うこと。(1.5時間)
	9	ここまでのまとめ	まとめとして中間試験を行う	事前に復習を行っておくこと
	10	市場の理論	様々な市場構造、価格メカニズム、社会的余剰、効率性、分配の公正性	事前に教科書第6章 (pp. 89-102) を読んでおくこと。復習も行うこと。(2時間)
	11	需要と供給で解く経済問題	需給曲線を用い経済問題を考える	事前に教科書第7章 (pp. 103-118) を読んでおくこと。復習も行うこと。(1.5時間)
	12	余剰分析で解く経済問題	余剰を用い経済問題を考える	事前に教科書第8章 (pp. 119-137) を読んでおくこと。復習も行うこと。(1.5時間)
	13	市場の失敗 (1)	外部効果、公共財	事前に教科書第9章 (pp. 139-156) を読んでおくこと。復習も行うこと。(1.5時間)
	14	市場の失敗 (2)	情報の非対称性 独占市場の特徴	事前に教科書第10, 11章 (pp. 157-179) を読んでおくこと。復習も行うこと。(1.5時間)
	15	市場の失敗 (3)	独占企業の価格決定	事前に教科書第11章 (pp. 179-186) を読んでおくこと。復習も行うこと。(1時間)

関連科目 経済学入門、マクロ経済学、ファイナンス、コーポレートファイナンス 等々

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ベーシックプラス ミクロ経済学の基礎	小川光、家森信善	中央経済社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	原則として中間試験 (30%) と期末試験 (30%) + 小テスト (40%) で評価する。小テストは毎回講義内容に関する小問を Moodle で出題する。ただし、学習意欲 (注意: 出席率ではない) の顕著な者には加点して評価する。詳細は初回講義で述べる。
学生へのメッセージ	経済の基本的な考え方を身につけておくことは、社会人としてだけでなく日常生活においても“身を守る”という意味で極めて重要である。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進することを期待する。
担当者の研究室等	11号館7階 (杉本研究室)
備考	

科目名	経営史	科目名 (英文)	Business History
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐藤 秀昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1009a0		

授業概要・目的	江戸時代より平成初期にいたる企業経営の発展過程を振り返ります。 本講義では、いわゆる「財閥」の生成・発展や「日本的経営」の特徴に焦点を当てます。受講生は、日本経営史研究が蓄積してきた経済・経営の分析手法を身につけることができます。 講義担当者は、民間企業における研修業務担当の経験から、講義内容の実践的な活用方法を教授します。
到達目標	① 本講義を通じて受講生は、企業経営に関する歴史的な出来事・概念について説明できるようになります。 ② 本講義を通じて受講生は、信頼できるデータベースから作成した図表をもとに、自らの意見を述べるスキルを身につけることができます。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進めます。 講義内容の理解を深めるために、毎回の講義終了後に小レポートの提出を求めます。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	江戸時代の経営	近代的な経済成長の前提となった江戸時代の商家経営を学びます	事前：シラパスを読んでおく (10分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
2	明治の企業家たち	明治の企業家の5つのタイプを理解し、その企業家精神を学びます	事前：前回の配布資料に目を通して復習を行う (10分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
3	近代産業経営の成立	後発工業国日本が、いかにして国際競争力を高めたのかを学びます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (10分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
4	財閥の多角化と組織	いわゆる「財閥」がどのように誕生したのかを学びます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (15分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
5	重化学工業化と新興財閥	重化学工業を担った「三大財閥」と「新興財閥」を学びます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (20分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
6	技術経営の誕生	電機企業における研究開発を可能にした組織能力の形成を学びます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (25分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
7	「日本的」人事管理とサラリーマンの誕生	新卒採用・終身雇用制度がいかにして誕生したのかを学びます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (30分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
8	都市型ビジネスの成立	都市化の発展に伴う新しい市場をターゲットにした諸企業の商品開発を学びます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (35分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
9	経済民主化と企業変革	企業集団の形成と、労使協調・企業特殊熟練の形成を学びます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (40分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
10	大衆消費社会の到来と家電メーカーの発展	家電製品の急速な普及をもたらした家電メーカーの経営を学びます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (45分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
11	企業集団とメインバンク	戦後日本のメインバンク・システムの形成と、同システムによる企業救済の具体的な事例を学びます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (50分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
12	日本的生産システムの形成	トヨタの事例から日本的生産システム・「ものづくり」を学びます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (55分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
13	流通のイノベーション	スーパーとコンビニエンス・ストアの事例から流通革命を学びます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (60分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
14	変貌する総合商社	三菱商事の事例を通じて総合商社の発展を学びます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (60分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
15	日本的経営とその変容	日本企業の3つのタイプを理解し、日本的経営の課題を探ります	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (60分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からの経営史	宮本又郎・岡部桂史・平野恭平編	碩学舎
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小レポート(毎回の講義終了後に提出)40%、期末レポート(全講義終了後に提出)60%で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	佐藤秀昭講師室(11号館7階)			
備考				

科目名	ビジネス情報処理 I	科目名 (英文)	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1010a0		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報セキュリティに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、情報セキュリティ、Word を用いた文書作成、Excel を用いた表計算、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	パソコンによる課題作成を通じた学習が中心となる。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。動画配信型授業（ハイフレックス方式）で実施する。学生は、対面またはオンラインの好きな方を選択して受講のこと。オンラインで受講する場合は、パソコンが必要である。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	基礎的な技術の確認、パソコン、OS の概要と日本語変換	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
2	インターネットの活用とセキュリティ (1)	インターネット環境と情報検索	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
3	インターネットの活用とセキュリティ (2)	インターネットの光と影	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
4	パソコンの活用	ファイルとフォルダーの操作、Windows アプリケーションの利用	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
5	文書作成 (1)	Word の基礎知識、文字の書式設定・保存	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
6	文書作成 (2)	文書の作成、箇条書き、タブとインデント	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
7	文書作成 (3)	表の作成、画像、図形の挿入と編集	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
8	文書作成 (4)	表現力アップのための応用技術、アウトライン、レポート作成に活用できる機能	前半の内容を復習しておく (90 分) タイピング練習 (5 分)
9	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめ、確認テストと解説	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
10	表計算 (1)	表の作成と編集、セルの書式設定、集計表の作成	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
11	表計算 (2)	グラフの種類と作成	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
12	プレゼンテーション (1)	PowerPoint の概要、スライド作成の基本	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
13	プレゼンテーション (2)	図表の活用、スライドの視覚効果	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
14	プレゼンテーション応用	表計算で作成したグラフの活用、テーマ別スライド作成	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
15	後半のまとめ、学力診断テスト	後半のまとめ、確認テストと解説	後半の内容を復習しておく (90 分) タイピング練習 (5 分)

関連科目	I C T 概論、ビジネス情報処理 II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	授業中の演習課題 (50%)、確認テスト (50%) をもとに総合的に評価する。
------	--

(基準)	この授業は演習中心であるため、出席（授業中の課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11号館8階(橋本講師室)
備考	確認テストは回収後、解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。

科目名	ビジネス情報処理 I	科目名 (英文)	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	G H J K L M
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1010a0		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報セキュリティに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、情報セキュリティ、Word を用いた文書作成、Excel を用いた表計算、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	パソコンによる課題作成を通じた学習が中心となる。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	基礎的な技術の確認、パソコン、OS の概要と日本語変換	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
2	インターネットの活用とセキュリティ (1)	インターネット環境と情報検索	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
3	インターネットの活用とセキュリティ (2)	インターネットの光と影	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
4	パソコンの活用	ファイルとフォルダの操作、Windows アプリケーションの利用	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
5	文書作成 (1)	Word の基礎知識、文字の書式設定・保存	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
6	文書作成 (2)	文書の作成、箇条書き、タブとインデント	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
7	文書作成 (3)	表の作成、画像、図形の挿入と編集	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
8	文書作成 (4)	表現力アップのための応用技術、アウトライン、レポート作成に活用できる機能	前半の内容を復習しておく (90 分) タイピング練習 (5 分)
9	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめ、確認テストと解説	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
10	表計算 (1)	表の作成と編集、セルの書式設定、集計表の作成	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
11	表計算 (2)	グラフの種類と作成	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
12	プレゼンテーション (1)	PowerPoint の概要、スライド作成の基本	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
13	プレゼンテーション (2)	図表の活用、スライドの視覚効果	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
14	プレゼンテーション応用	表計算で作成したグラフの活用、テーマ別スライド作成	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
15	後半のまとめ、学力診断テスト	後半のまとめ、確認テストと解説	後半の内容を復習しておく (90 分) タイピング練習 (5 分)

関連科目 ICT 概論、ビジネス情報処理 II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 授業中の演習課題 (50%)、確認テスト (50%) をもとに総合的に評価する。

学生への 質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。

メッセージ	
担当者の 研究室等	11号館8階 塚田研究室
備考	

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名 (英文)	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1011a0		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、Excelを用いたデータの加工、およびデータベースとデータ分析の基礎とプログラミング入門の内容を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、データの分析方法を身につけ、プログラミング入門の演習を通して論理的思考を身につけることを目指す。
到達目標	表計算の機能を使って、データをまとめる手法について基礎的な知識と技術を修得することができる。またビジュアルプログラミングを使って論理的思考の手続きを理解することができる。本科目では、Excelを用いた表計算の応用的な使い方から実践に活用できるデータ分析とプログラミング入門の知識を身につけることができる。
授業方法と留意点	ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましい。パソコンによる課題作成を通じた学習が中心となる。習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。Moodle に留意事項を掲載していますので、確認してください。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、Excel の基礎知識、データの入力・編集	タイピング練習 (5分) 授業の内容を復習しておく (30分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
2	表計算 (1)	様々な関数の利用、相対参照と絶対参照	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
3	表計算 (2)	様々な関数を使ったデータ処理	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
4	表計算 (3)	データの並べ替えと抽出、検索と置換	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
5	表計算 (4)	ピボットテーブル	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) ピボットテーブルを使ってどのような集計が可能か調べる (30分)
6	データ分析 (1)	代表値について、度数分布とヒストグラム	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) 代表値、度数分布、ヒストグラムについて予習する (30分)
7	データ分析 (2)	相関と相関係数	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) 相関、相関係数について予習する (30分)
8	データ分析 (3)	回帰分析の方法	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) 相関、相関係数について予習する (30分)
9	データ分析応用	統計データを使った分析	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) 総務省統計局のサイトにどのようなデータがあるか調べる (30分)
10	前半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	後半の内容を復習しておく (60分) タイピング練習 (5分)
11	ビジュアルプログラミング (1)	言語の概要と特徴、プログラミング環境	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) Scratch について調べる (30分)
12	ビジュアルプログラミング (2)	繰り返し、分岐を使った処理	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) 前回授業の振り返り (30分)
13	ビジュアルプログラミング (3)	変数、イベントの処理	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) 前回授業の振り返り (30分)
14	ビジュアルプログラミング (4)	オリジナル作品の制作	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) 前回授業の振り返り (30分)
15	後半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	後半の内容を復習しておく (60分) タイピング練習 (5分)

関連科目	ICT 概論、ビジネス情報処理Ⅰ
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の演習課題 (50%)、確認テスト (50%) をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、課題提出状況が単位取得に大きく影響する。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階(橋本講師室)
備考	確認テストは回収後、解答の解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名 (英文)	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	G H J K L M
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1011a0		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、Excelを用いたデータの加工、およびデータベースとデータ分析の基礎とプログラミング入門の内容を習得する。本科目では、Windowsパソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、データの分析方法を身につけ、プログラミング入門の演習を通して論理的思考を身につけることを目指す。
到達目標	表計算の機能を使って、データをまとめる手法について基礎的な知識と技術を修得することができる。またビジュアルプログラミングを使って論理的思考の手続きを理解することができる。本科目では、Excelを用いた表計算の応用的な使い方から実践に活用できるデータ分析とプログラミング入門の知識を身につけることができる。
授業方法と留意点	対面授業とする。教材配布及び課題提出にはWeb Folderを使用する。 ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましい。パソコンによる課題作成を通じた学習が中心となる。習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート試験、基本情報処理技術者試験などのIT系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、Excelの基礎知識、データの入力・編集	タイピング練習(5分) 授業の内容を復習しておく(30分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)
2	表計算(1)	様々な関数の利用、相対参照と絶対参照	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)
3	表計算(2)	様々な関数を使ったデータ処理	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)
4	表計算(3)	データの並べ替えと抽出、検索と置換	タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)
5	表計算(4)	ピボットテーブル	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) ピボットテーブルを使ってどのような集計が可能か調べる(30分)
6	データ分析(1)	代表値について、度数分布とヒストグラム	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) 代表値、度数分布、ヒストグラムについて予習する(30分)
7	データ分析(2)	相関と相関係数	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) 相関、相関係数について予習する(30分)
8	データ分析(3)	回帰分析の方法	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) 相関、相関係数について予習する(30分)
9	データ分析応用	統計データを使った分析	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) 総務省統計局のサイトにどのようなデータがあるか調べる(30分)
10	前半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	後半の内容を復習しておく(60分) タイピング練習(5分)
11	ビジュアルプログラミング(1)	言語の概要と特徴、プログラミング環境	タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) Scratchについて調べる(30分)
12	ビジュアルプログラミング(2)	繰り返し、分岐を使った処理	タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) 前回授業の振り返り(30分)
13	ビジュアルプログラミング(3)	変数、イベントの処理	タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) 前回授業の振り返り(30分)
14	ビジュアルプログラミング(4)	オリジナル作品の制作	タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) 前回授業の振り返り(30分)
15	後半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	後半の内容を復習しておく(60分) タイピング練習(5分)

関連科目 ICT概論、ビジネス情報処理Ⅰ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Office2019で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業中の演習課題 (50%)、確認テスト (50%) をもとに総合的に評価する。		
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。		
担当者の 研究室等	11号館8階 塚田研究室		
備考			

科目名	ICT概論	科目名(英文)	Introduction to Information and Communications Technology
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1012a0		

授業概要・目的	インターネットやソーシャルメディアの利活用が、組織や個人の活動に浸透する今日において、ICT(情報通信技術)がどのような社会課題の解決を支援するのかを考察する。ICTの効果的な適用により、企業の経営や個人の活動が、いかに変化し、どのような価値創造が可能になるかを、主要業界の事例を通して学習する。
到達目標	経営課題の解決を支援するICTの役割と位置づけを理解する。インターネットを中心とするICTの利活用について、自主学習を進め、課題・視点を発見すること、いかに解決を図るのかを経営資源の中核である情報の視点から考えること、ICTの役割と組織・個人との関係について、自分の『気づき』を表現し、自ら発信できることを目指す。
授業方法と留意点	授業資料(PDF)は、各回の授業日までにWeb Folderにアップロードする。毎回の授業でテーマに関する演習課題を課す。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組むこと。また、ランダムに指名し各自の意見を求めた際には、積極的・建設的な発言等で授業への参画に励むよう努めること。適宜、最新の業界トピック、適用されているテクノロジーを取り上げる。民間企業の経営者を招いて講演を行う場合もある。
科目学習の効果(資格)	・新聞やWebが提供するICT関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・同僚・先輩学生と意見交換を図るための基礎知識や素養を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、ICT(情報通信技術)とは何か	シラバスの確認(10分) 配布資料の指定頁の予復習(30分)
2	コンピュータと情報化社会	データと情報、コンピュータの歴史と仕組み	配布資料の指定頁の予復習(40分)
3	ハードウェアとソフトウェア	ハードウェアとソフトウェアの種類と役割、データの種類	配布資料の指定頁の予復習(40分)
4	ハードウェアとソフトウェア2	ソフトウェアの台頭、プラットフォームの誕生	配布資料の指定頁の予復習(40分)
5	コンピュータの未来	コンピュータとデータ通信技術の進化と未来	配布資料の指定頁の予復習(40分)
6	e-commerce(電子商取引)	B2C(Business to Consumer)企業対消費者間の取引、B2B(Business to Business)企業対企業間の取引	配布資料の指定頁の予復習(40分)
7	顧客インターフェースのICT	フロントオフィス(Front Office)、バックオフィス(Back Office)、サービス業(金融、観光等)情報化	配布資料の指定頁の予復習(40分)
8	仲介機能のICT	ミドルオフィス(Middle Office)、ソフトウェア・エージェント、流通業(小売り、物流等)情報化	配布資料の指定頁の予復習(40分)
9	AI(人工知能)が変える社会	人工知能の歴史と種類、ディープラーニング、AIと経営	配布資料の指定頁の予復習(40分)
10	クラウドコンピューティングとIoT	クラウドコンピューティングサービス、グローバル企業のICT事例(Google/Amazon/Uber/Airbnb/Walmart等) ・グループワーク・発表	配布資料の指定頁の予復習(40分)
11	シェアリングエコノミー	経済効果、既存産業や市場に与える影響、サービス事例	配布資料の指定頁の予復習(40分)
12	ビッグデータ	ビッグデータを取り巻くICTの進展、ビッグデータの質的側面、量的側面、	配布資料の指定頁の予復習(40分)
13	オープンデータ	オープンデータの意義と目的、日本と世界の相違点、事例紹介	配布資料の指定頁の予復習(40分)
14	ICTとマネジメント	社会や企業が求める人材、ICTを用いた問題解決のプロセス、実践	配布資料の指定頁の予復習(40分)
15	まとめ	総括	授業内容の見直し(90分)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経営の基礎から学ぶ 経営情報システム教科書	武藤 明則	同文館出版
2	経営情報論 新版補訂	遠山 暁	有斐閣
3			

評価方法(基準) レポートの提出(40%)、定期試験(60%)による総合評価を行う。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 11号館8階 塚田研究室

備考 初回の授業ガイダンスでは、シラバス説明、成績評価基準の説明を説明するので、必ず出席すること。

科目名	情報倫理	科目名 (英文)	Information and Morals
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1013a0		

社会における情報化は非常に速いスピードで浸透し、情報技術は我々の生活の中で欠かせないものとなっている。

その一方で、インターネットを使用した犯罪や事件は後を絶たず、利用者は被害者となるだけでなく、巧妙な手口から意図しないまま加害者となってしまうことさえある。

こうした情報化社会における影の部分の部分を踏まえて、さまざまなトラブル事例から組織や個人としてどのように情報倫理を考えるかを学び、インターネット犯罪に対して防止・対応できる能力を養っていく。

また、毎回のレポート作成を通し、現代社会で必須スキルである情報収集能力、情報精査能力を身につけてもらう。

到達目標
インターネットやソーシャルメディアなどを使用するなかで、情報に接する際の倫理的な思考を養い、組織や個人としての行動規範を修得することができる。

授業方法と留意点
この講義では、90分を前後半のパートで構成する。前半約30分は、各テーマに関する倫理観、法律、事例紹介、防止・対応策を座学形式で行い、後半60分はインターネットを活用した情報収集をしてレポートを作成してもらう。全15回の講義のなかでは、2回の確認テストを実施し、情報倫理についての理解度を確認する。

各回ごとに講義の配布資料 (pdf ファイル) を配布するため、教科書の購入は必須ではない。

科目学習の
効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・イントロダクション ・情報倫理の必要性	事前学習：なし 事後学習：なし
2	ソーシャルメディアと情報	・ソーシャルネットワーク ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
3	ソーシャルメディアと情報 2	・ソーシャルゲーム ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
4	個人情報管理とプライバシー 保護 1	・プライバシー ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
5	個人情報管理とプライバシー 保護 2	・情報セキュリティ ・サイバー犯罪 ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
6	個人情報管理とプライバシー 保護 3	・E-commerce (電子商取引) ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
7	個人情報管理とプライバシー 保護 4	・情報の価値 ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
8	企業における情報倫理	・コンプライアンスと法令遵守 ・IT システムと企業倫理 ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
9	科学技術と情報倫理・知的財産 権	・知的財産の侵害 ・著作物と著作権 ・参考文献と引用 ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
10	科学技術と情報倫理・知的財産 権 2	・エッセイ/未科学 ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
11	情報倫理	・総括 ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
12	最新時事問題 1	・最新的话题を紹介 ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
13	最新時事問題 2	・最新的话题を紹介 ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
14	テスト	・総括 ・確認テスト	事前学習：前回の復習 (30分) 事後学習：なし
15	フォローアップ	・テスト解説 ・フォローアップ	事前学習：なし 事後学習：なし

関連科目
情報処理関連の基礎科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ネット炎上対策の教科書	小林 直樹	日経BP社
2	情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー	高橋慈子、原田隆史ほか	技術評論社
3	事例でわかる情報モラル 30 テーマ	実教出版編修部	実教出版(株)

評価方法 (基準)
平常点 (出席態度、レポート課題) 60%、中間・最終テスト 40%を踏まえて総合的に評価する。

学生への
メッセージ

担当者の研究室等	11号館6階 経営学部非常勤講師室
備考	講義の後半パート、レポート作成中は他の学生との積極的な意見交換や議論を推奨する。そのため席を離れ自由に出歩いても構わない。

科目名	情報倫理	科目名 (英文)	Information and Morals
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	G H J K L M
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1013a0		

社会における情報化は非常に速いスピードで浸透し、情報技術は我々の生活の中で欠かせないものとなっている。

その一方で、インターネットを使用した犯罪や事件は後を絶たず、利用者は被害者となるだけでなく、巧妙な手口から意図しないまま加害者となってしまうことさえある。

こうした情報化社会における影の部分の部分を踏まえて、さまざまなトラブル事例から組織や個人としてどのように情報倫理を考えるかを学び、インターネット犯罪に対して防止・対応できる能力を養っていく。

また、毎回のレポート作成を通し、現代社会で必須スキルである情報収集能力、情報精査能力を身につけてもらう。

インターネットやソーシャルメディアなどを使用するなかで、情報に接する際の倫理的な思考を養い、組織や個人としての行動規範を修得することができる。

この講義では、90分を前後半のパートで構成する。前半約30分は、各テーマに関する倫理観、法律、事例紹介、防止・対応策を座学形式で行い、後半60分はインターネットを活用した情報収集をしてレポートを作成してもらう。全15回の講義のなかでは、2回の確認テストを実施し、情報倫理についての理解度を確認する。

各回ごとに講義の配布資料 (pdf ファイル) を配布するため、教科書の購入は必須ではない。

科目学習の
効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・イントロダクション ・情報倫理の必要性	事前学習：なし 事後学習：なし
2	ソーシャルメディアと情報	・ソーシャルネットワーク ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
3	ソーシャルメディアと情報 2	・ソーシャルゲーム ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
4	個人情報管理とプライバシー保護 1	・プライバシー ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
5	個人情報管理とプライバシー保護 2	・情報セキュリティ ・サイバー犯罪 ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
6	個人情報管理とプライバシー保護 3	・E-commerce (電子商取引) ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
7	個人情報管理とプライバシー保護 4	・情報の価値 ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
8	企業における情報倫理	・コンプライアンスと法令遵守 ・IT システムと企業倫理 ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
9	科学技術と情報倫理・知的財産権	・知的財産の侵害 ・著作物と著作権 ・参考文献と引用 ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
10	科学技術と情報倫理・知的財産権 2	・エッセイ/未科学 ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
11	情報倫理	・総括 ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
12	最新時事問題 1	・最新的话题を紹介 ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
13	最新時事問題 2	・最新的话题を紹介 ・レポート課題	事前学習：前回の復習 (10分) 事後学習：レポート作成 (30分程度)
14	テスト	・総括 ・確認テスト	事前学習：前回の復習 (30分) 事後学習：なし
15	フォローアップ	・テスト解説 ・フォローアップ	事前学習：なし 事後学習：なし

関連科目 情報処理関連の基礎科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ネット炎上対策の教科書	小林 直樹	日経BP社
2	情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー	高橋慈子、原田隆史ほか	技術評論社
3	事例でわかる情報モラル 30 テーマ	実教出版編修部	実教出版(株)

評価方法 (基準) 平常点 (出席態度、レポート課題) 60%、中間・最終テスト 40%を踏まえて総合的に評価する。

学生への
メッセージ

担当者の研究室等	11号館6階 経営学部非常勤講師室
備考	講義の後半パート、レポート作成中は他の学生との積極的な意見交換や議論を推奨する。そのため席を離れ自由に出歩いても構わない。

科目名	経営統計学	科目名 (英文)	Business Statistics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP2②		
科目ナンバリング	IDD1014a0		

授業概要・目的	「統計学」という言葉を聞くと、多くの学生は難しいのではないかという印象を持つであろうが、手元にあるデータからその特徴を見つけ出すために必要となる学問である。統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。本科目では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要な基礎的知識を身につける。
到達目標	統計データの整理の仕方や表・グラフでの表し方、基本統計量の求め方とその意味について理解し、実際のデータを客観的に解釈して活用するための基礎的な知識と技術を身につけることができる。
授業方法と留意点	配布資料をもとに説明を行い、パソコン等を使った演習を取り入れつつ授業を進める。配布資料に含まれる演習問題を、表計算ソフトのExcelを使って解くことで理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。社会調査士資格の取得に必要な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、統計学とはどのような学問か	配付資料を読んでおく (30分)
2	統計学の基礎的発想 (1)	変数、尺度水準	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
3	統計学の基礎的発想 (2)	標本空間と事象、確率分布	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
4	統計資料の整理 (1)	統計資料の収集と読み方	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
5	統計資料の整理 (2)	統計資料のまとめ方、提示の方法	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
6	データの集計 (1)	代表値について、平均値、分散、標準偏差	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
7	データの集計 (2)	度数分布、ヒストグラム、標準化	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
8	前半のまとめ、学力診断テスト1	前半部分の振り返り、確認テストと解説	前半部分の内容を見直しておく (90分)
9	データの集約 (1)	クロス表とクロス集計	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
10	データの集約 (2)	クロス集計の実践	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
11	データの相関関係 (1)	散布図と相関関係、相関関係と因果関係	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
12	データの相関関係 (2)	共分散と相関係数、相関係数の解釈、擬似相関	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
13	経営における統計学	経営分野で用いられる統計学の手法	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
14	後半のまとめ、学力診断テスト2	後半部分の振り返り、確認テストと解説	後半部分の内容を見直しておく (120分)
15	統計学の応用	統計的検定・推定について	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)

関連科目 数学基礎 I、数学基礎 II、ビジネス情報処理 II、ビジネスデータ分析

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 課題の提出状況 (10%)、課題に基づく学修到達度 (50%)、確認テスト (40%) をもとに総合的に評価します。私語、スマートフォンの使用など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。

学生へのメッセージ 経営統計学は、数学的な思考が必要となる学問ですので、数学が苦手な学生については、予習・復習が不可欠となります。積極的な取り組みを期待します。情報処理室でのパソコンを利用した講義になります。

担当者の研究室等 11号館7階 (杉本研究室)

備考 必要に応じて資料を配布します。確認テストは回収後、解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。資料配布、課題提出はMoodleで行いますので、事前に登録して下さい。実習が必要なので、対面を予定しています。連絡はTeamsで行うので必ず確認してください。

科目名	経営統計学	科目名 (英文)	Business Statistics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	G H J K L M
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	樋口 友紀
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP2②		
科目ナンバリング	IDD1014a0		

授業概要・目的	「統計学」という言葉を聞くと、多くの学生は難しいのではないかという印象を持つであろうが、手元にあるデータからその特徴を見つけ出すために必要となる学問である。統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。本科目では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要な基礎的知識を身につける。
到達目標	統計データの整理の仕方や表・グラフでの表し方、基本統計量の求め方とその意味について理解し、実際のデータを客観的に解釈して活用するための基礎的な知識と技術を身につけることができる。
授業方法と留意点	配布資料をもとに説明を行い、パソコン等を使った演習を取り入れつつ授業を進める。配布資料に含まれる演習問題を、表計算ソフトのExcelを使って解くことで理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。社会調査士資格の取得に必要な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、統計学とはどのような学問か	配付資料を読んでおく (30分)
2	統計学の基礎的発想 (1)	変数、尺度水準	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
3	統計学の基礎的発想 (2)	標本空間と事象、確率分布	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
4	統計資料の整理 (1)	統計資料の収集と読み方	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
5	統計資料の整理 (2)	統計資料のまとめ方、提示の方法	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
6	データの集計 (1)	代表値について、平均値、分散、標準偏差	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
7	データの集計 (2)	度数分布、ヒストグラム、標準化	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
8	前半のまとめ・中間レポート課題	前半部分の振り返りとまとめ、中間レポート課題	前半部分の内容を見直しておく (90分)
9	データの集約 (1)	クロス表とクロス集計	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
10	データの集約 (2)	クロス集計の実践	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
11	データの相関関係 (1)	散布図と相関関係、相関関係と因果関係	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
12	データの相関関係 (2)	共分散と相関係数、相関係数の解釈、擬似相関	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
13	経営における統計学	経営分野で用いられる統計学の手法	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
14	統計学の応用	統計的検定・推定について	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
15	全体のまとめ・最終レポート課題	全体の振り返りとまとめ、最終レポート課題	全体の内容を見直しておく (120分)

関連科目 数学基礎 I、数学基礎 II、ビジネス情報処理 II、ビジネスデータ分析

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の提出課題 (70%)、中間・最終レポート課題 (30%) をもとに総合的に評価します。授業中の課題提出状況が単位取得に大きく影響しますので、計画的に受講してください。
学生へのメッセージ	経営統計学は、数学的な思考が必要となる学問ですので、数学が苦手な学生については、予習・復習が不可欠となります。積極的な取り組みを期待します。
担当者の研究室等	11号館8階 (樋口研究室)
備考	必要に応じて資料を配布します。

科目名	市場調査入門	科目名 (英文)	Introduction to Marketing Research
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1015a0		

授業概要・目的	社会調査(市場調査)の意義やその歴史、調査倫理、調査類型など、社会調査全般に関して講義を行う。さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究を紹介しつつ、それぞれの調査の特徴や相違点について学んでいく。 SDGs-8, 9
到達目標	社会調査(市場調査)の基礎知識を得ることができる。社会調査(市場調査)の基礎を知り、簡単な調査をすることができる。
授業方法と留意点	毎回、担当者がパワーポイントによるプレゼンテーション形式で行う。資料をDLし、ノートを取る。 対面授業ではあるが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学生同士の話し合いなどは行わない。 資料はmoodleで配布する、毎週必ずチェックすること。 また、小テスト、課題の提出はすべてMoodleで行うのでスマホを持参すること。
科目学習の効果 (資格)	社会調査士資格の取得に履修が必要な科目のうち「【A】 社会調査の基本的事項に関する科目」に対応。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 市場調査とは?	授業の概要について	事前学習課題: 市場調査とは何か? 事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)
2	社会調査とは	社会調査とは何か。なぜ社会調査が必要なのか。	事前学習課題: 社会調査の必要性について事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)
3	社会調査の歴史	社会調査はいつからおこなわれ、どのように発展してきたか。	事前学習課題: 社会調査の歴史について調べまとめておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)
4	社会調査の種類	さまざまな社会調査の種類について。市場調査、世論調査など。	事前学習課題: 社会調査の種類とその内容について調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)
5	調査倫理	調査をおこなう際の心得について。ラポールなど。	事前学習課題: ラポールとは何か? 事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)
6	量的調査と質的調査—それぞれの特徴	量的調査と質的調査の特徴と違いについて。	事前学習課題: 量的調査と質的調査の違いについてまとめておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)
7	官庁統計 1—官庁統計の利用と統計法	行政機関がおこなう社会調査には何かがあるか。統計法とは何か。	事前学習課題: 官庁統計とは何か? 事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)
8	官庁統計 2—官庁統計による諸研究	官庁統計のデータを用いた研究の紹介。	事前学習課題: 官庁統計を使った研究の事例を調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)
9	量的調査 1—統計学と質問紙調査 (1)	質問紙調査の概要について。統計学との関係。	事前学習課題: 質問紙調査とは何か? 事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)
10	量的調査 2—統計学と質問紙調査 (2)	質問紙調査の方法について。統計的手法	事前学習課題: 調査で使う統計の知識について調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)
11	量的調査 3—質問紙調査による諸研究	質問紙調査のデータを用いた研究を紹介する。	事前学習課題: 質問紙調査を利用した研究を見つけて読むこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)
12	質的調査 1—聞き取り調査	聞き取り調査の方法について。聞き取り調査をおこなった研究の紹介。	事前学習課題: 聞き取り調査とは何か? 事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)
13	質的調査 2—参与観察	参与観察の方法について。参与観察をおこなった研究の紹介。	事前学習課題: 参与観察とは何か? 事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)
14	質的調査 3—ドキュメント分析	ドキュメント分析の方法について。ドキュメント分析をおこなった研究の紹介。	事前学習課題: ドキュメント分析の研究論文を探して読んでおくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)
15	まとめ	社会調査の基礎的な知識を身につけることができたかを確認。	事前学習課題: 社会調査の基礎について総復習しておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題について最終レポートを作成すること(2時間)

関連科目	「市場調査法」、「市場調査実習Ⅰ・Ⅱ」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門・社会調査法—2ステップで基礎から学ぶ	轟亮・杉野勇	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の小テストの結果(45%)と授業課題の提出(45%)、教科書課題(10%)の割合で、総合的に判断する。 対面授業の場合には、遅刻(10分まで)、欠席は減点の対象となる。			
学生への メッセージ	市場調査を含む社会調査全般について学ぶ基礎的な講義です。 アクティブ・ラーニングを取り入れているので、課題に対しては積極的・主体的に取り組むこと。 対面授業の場合には、遅刻(10分まで)、欠席は減点の対象となる。 小テスト、課題の配布、提出などはすべてMoodleを用いて行います。 毎週必ず授業開講前に、moodleを確認すること。			
担当者の 研究室等	11号館7階(牧野(幸)准教授室)			
備考	対面授業に参加した学生のみ、小テスト、授業課題を実施することができます。 授業課題、教科書課題には締切があります。 必ず厳守してください。 締切以降の受験、提出はいついそい認めません。 事前学習には毎回1時間以上、事後学習には毎回1時間以上をかけること。 授業内で課された課題については、次週以降の授業で解説してフィードバックを行う。			

科目名	マネジメントサイエンス	科目名 (英文)	Management Science
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1016a0		

授業概要・目的	マネジメントサイエンス (経営科学、オペレーションズ・リサーチ) とは、経営活動にかかわる種々の課題をモデル化して数学的に解析を行うことにより、経営の意思決定を科学的な方法で支援するための知識の体系である。本科目では、日程計画、線形計画法、待ち行列や意思決定理論を中心とした基本的な知識と技法 (解法) について修得することが目的である。
到達目標	数式、あるいはワークシート形式で定義された経営の諸問題についてのモデルを理解し、電卓等を使った数値計算などで最適な答えを導き出すことができる。
授業方法と留意点	配布資料を中心に手法や理論を解説し、ゲームやシミュレーション形式の例題を用いた課題を解くことで理解を深める。課題に取り組む中で、経営における問題の発見やその構造のあらましを把握する能力を養ってほしい。
科目学習の効果 (資格)	I Tパスポート、基本情報技術者などの情報系の資格試験をはじめ、販売士や中小企業診断士などの経営関係の資格試験にも関連する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、マネジメントサイエンスの概要	次回の内容を確認する (30分) 配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)
2	在庫管理 (1)	在庫管理の考え方、最適発注量	事後課題に取り組む (60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)
3	在庫管理 (2)	発注システム、データからの在庫管理	事後課題に取り組む (60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)
4	グラフ理論	グラフ理論の考え方、最適な経路を見つける方法	事後課題に取り組む (60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)
5	日程計画 (1)	日程計画の考え方、日程計画を図で管理する方法	事後課題に取り組む (60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)
6	日程計画 (2)	PERTによる日程計画、作業の進捗管理	事後課題に取り組む (60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)
7	待ち行列理論	待ち行列の基礎、到着時間とサービス時間の分布	事後課題に取り組む (60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)
8	前半のまとめ、中間レポート課題	前半の振り返り、中間レポート課題	前半の学習内容を復習しておく (90分)
9	線形計画法 (1)	線形計画法の考え方、仕事の効率を高める方法	事後課題に取り組む (60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)
10	線形計画法 (2)	シンプレックス法による最適解法、出荷・輸送計画を事例とした演習	事後課題に取り組む (60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)
11	整数計画法	整数計画法の考え方、人員の最適配置計画	事後課題に取り組む (60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)
12	決定理論 (1)	決定理論の考え方、不確実性下の意思決定 (ミニマックス原理など)	事後課題に取り組む (60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)
13	決定理論 (2)	ゲーム理論 (囚人のジレンマ、安定マッチングなど)	事後課題に取り組む (60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)
14	決定理論 (3)	複数候補からの意思決定、割当て問題	事後課題に取り組む (60分) 配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)
15	全体のまとめ、最終レポート課題	全体のまとめ、最終レポート課題、経営学分野における実用例	全体の学習内容を復習しておく (180分)

関連科目 数学基礎 I、数学基礎 II、経営統計学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業中の課題 (50%)、中間・最終レポート課題 (40%)、授業への取組姿勢 (10%) により総合的に評価します。授業中の課題提出状況が単位取得に大きく影響しますので、計画的に受講してください。
学生へのメッセージ	高度な数学は使いませんが、演習を中心とした内容ですので、単位修得には8割以上の課題提出が必要です。毎回、数値を扱うので電卓 (関数電卓でなくてよい) を準備してください。
担当者の研究室等	11号館8階 (栢木教授室)
備考	必要に応じて教材を配布します。また、授業内容に関する質疑応答は、主に Teams のチャット機能またはメールを使用します。

科目名	経営組織論	科目名 (英文)	Organizational Behavior
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北 真収
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2017a0		

授業概要・目的	組織理論の基本を学ぶことに主眼を置いています。組織現象はどのようにして生じるのか、どんな影響を与えるのか、そうしたメカニズムを事例や体験を通じて平易に講義します。企業での企画調査や海外駐在の実務経験を講義に取り入れます。
到達目標	組織現象について理解し、その背景的知識や思考方法を習得することを目標とします。
授業方法と留意点	遠隔授業により事例を紹介しながら経営理論を講義します。理解を助けるためにDVDなども活用します。小テスト、中間テストの解答例は試験後に解説します。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおくこと 事後：講義内容を復習する
2	経営組織の特徴	分業の原理、調整の原理について説明します	事前：役割分担について考えておくこと、配付資料を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
3	経営組織の構造	事業部制、持ち株会社制、プロジェクト組織、海外展開の組織を説明します	事前：会社はどのように組織化しているのか、配付資料を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
4	グループワーク (経営組織の構造)	ネットワーク組織に関するビデオを視聴した後、グループワークを行います	事前：企業間で協働する利点を考えておくこと、配付資料を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
5	モチベーション	達成欲求、内発的動機づけについて説明します	事前：勉強意欲が高まるのはどのような時か、配付資料を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
6	キャリア	キャリア開発、ガラスの天井について説明します	事前：キャリアについて考えてみよう、配付資料を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
7	リーダーシップ 1	リーダーの役割、リーダーの行動について説明します	事前：リーダーについてどんな人を連想するか、配付資料を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
8	リーダーシップ 2	カリスマ、アントレプレナーについて説明します	事前：起業家に必要なものは何か、配付資料を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
9	組織文化	組織文化の機能、逆機能について説明します	事前：組織文化は仕事のやり方に影響を与えるか、配付資料を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
10	組織のライフサイクル	組織の成長モデルについて説明します	事前：組織が大きくなるにつれて特性はどのように変わるか、配付資料を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
11	組織の変革 1	変革への抵抗、組織慣性について説明します	事前：人はなぜ、変革に抵抗するのだろうか、配付資料を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
12	組織の変革 2	変革型ミドルについて説明します	事前：変革はトップだけでなく、ミドルも主導できるのだろうか、配付資料を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
13	組織学習	高次学習、低次学習について説明します	事前：どんな時に高次学習が必要になるのか、配付資料を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
14	人的資源管理	人事評価、エンパワメントについて説明します	事前：人事評価はどのように行われるべきか、配付資料を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
15	非営利組織	NPO など非営利組織の経営について説明します	事前：配付資料を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)

関連科目	人的資源管理論、経営管理論
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経営組織論	十川廣國	中央経済社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中テスト60%、レポート20%、小テスト20%で評価します。
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	事例を使って組織理論を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
-----------	--------------------------------------

担当者の	11号館8階 北 真収 研究室 (相談時は事前に連絡してください)
------	-----------------------------------

研究室等	
備考	

科目名	マーケティング戦略論	科目名 (英文)	Marketing Strategy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP2②		
科目ナンバリング	IDD2018a0		

授業概要・目的	本授業は、企業や組織が直面する問題を主体的に解決するための能力を身につけることを目指します。とりわけ、マーケティング概論で学んだことをさらに発展させ、「戦略」という視点からマーケティングをとらえなおし、学んでいきます。つまり、実際のビジネス社会で役立つマーケティング戦略論の考え方について理解を深めます。なお、授業担当者の旅行会社での実務経験から、「モノ」だけではなく「サービス」を含めた多様な事例を紹介しながら授業を進めます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> マーケティング戦略の考え方について説明することができる。 複数の企業の取り組み事例をマーケティング戦略の視点で比較することができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 講義に加え、新製品に関するニュースなどを題材に議論することも予定しています。 企業における最新のマーケティングの理解を深めるために、ゲスト講師による講義を行う場合もあります。 詳細は、Microsoft Teamsに掲載しますので、毎週、確認ください。
科目学習の効果 (資格)	リテール・マーケティング (販売士)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	競争環境をとらえる	競争環境とは何か。いかに対処すべきかを考察します。	【事前学習】企業のマーケティングについて、新聞、WEB等で調べる(30分)。 【事後学習】設問について考える(30分)。
2	市場環境をとらえる	消費者行動の理解を図ります。	【事前学習】企業のマーケティングについて、新聞、WEB等で調べる(30分)。 【事後学習】設問について考える(30分)。
3	流通環境をとらえる	小売業者や卸売業者の役割、インターネットの影響などを考えます。	【事前学習】企業のマーケティングについて、新聞、WEB等で調べる(30分)。 【事後学習】設問について考える(30分)。
4	市場機会の探索と評価	事業機会を探し出し、評価するための枠組みを紹介します。	【事前学習】企業のマーケティングについて、新聞、WEB等で調べる(30分)。 【事後学習】設問について考える(30分)。
5	需要多様性への対応	探された市場機会への対応方法について考察します。	【事前学習】企業のマーケティングについて、新聞、WEB等で調べる(30分)。 【事後学習】設問について考える(30分)。
6	価値提供と競争優位	競争相手に対して有利な立場に立てるようなやり方で顧客に価値を提供するための枠組みについて考察します。	【事前学習】企業のマーケティングについて、新聞、WEB等で調べる(30分)。 【事後学習】設問について考える(30分)。
7	新製品開発戦略	新製品開発課程とマーケティング戦略構築とを関連づけて考察します。	【事前学習】企業のマーケティングについて、新聞、WEB等で調べる(30分)。 【事後学習】設問について考える(30分)。
8	製品ライフサイクルとマーケティング戦略	製品ライフサイクルの各段階でどのようなマーケティング施策を必要とするかを考えます。	【事前学習】企業のマーケティングについて、新聞、WEB等で調べる(30分)。 【事後学習】設問について考える(30分)。
9	製品戦略	提供価値と提供方法をどのような製品で実現し、どのようなサービスを付加するのかを考えます。	【事前学習】企業のマーケティングについて、新聞、WEB等で調べる(30分)。 【事後学習】設問について考える(30分)。
10	ブランド戦略	ブランディングについて考えます。	【事前学習】企業のマーケティングについて、新聞、WEB等で調べる(30分)。 【事後学習】設問について考える(30分)。
11	価格戦略	価格設定に影響を与える要因や価格の使い分けなどについて考えます。	【事前学習】企業のマーケティングについて、新聞、WEB等で調べる(30分)。 【事後学習】設問について考える(30分)。
12	プロモーション戦略	消費者とのコミュニケーションを図る方法であるプロモーション手段の組み合わせなどを考察します。	【事前学習】企業のマーケティングについて、新聞、WEB等で調べる(30分)。 【事後学習】設問について考える(30分)。
13	流通チャネル戦略	標的市場に提供価値を届けるための最適な流通チャネルの選択と管理について考察します。	【事前学習】企業のマーケティングについて、新聞、WEB等で調べる(30分)。 【事後学習】設問について考える(30分)。
14	事例研究 1	企業事例を通じて、マーケティング戦略の実際を学びます。	【事前学習】企業のマーケティングについて、新聞、WEB等で調べる(30分)。 【事後学習】設問について考える(30分)。
15	事例研究 2	企業事例を通じて、マーケティング戦略の実際を学びます。	【事前学習】企業のマーケティングについて、新聞、WEB等で調べる(30分)。 【事後学習】設問について考える(30分)。

関連科目 マーケティング概論、消費者行動論、リテールマーケティング

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門マーケティング戦略	池尾恭一	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	わかりやすいマーケティング戦略	沼上幹	有斐閣アルマ
2				
3				

評価方法 (基準)	クイズ等40% 最終レポート60%
学生への メッセージ	新しい製品やサービスに関心をもってください。 その製品やサービスが世の中に出てきた背景について考える癖をつけてください。
担当者の 研究室等	田中祥司研究室 11号館8階
備考	各回、予習・復習をあわせて1時間程度の準備が必要になります。 ※教科書、参考文献については、初回の授業時に説明します。

科目名	経営戦略論	科目名 (英文)	Strategic Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北 真収
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2019a0		

授業概要・目的	競争戦略の基本を学ぶことに主眼を置いています。基本戦略や考え方の枠組み（フレームワーク）だけでなく、最近のトピックスも含めて講義します。 企業での企画調査や海外駐在の実務経験を講義に取り入れます。
到達目標	競争優位に通じるような思考方法や参考点を学ぶことによって、自分なりに課題解決のアイデアを考えたり、提案ができるような能力を習得することが目標です。
授業方法と留意点	遠隔授業により事例を紹介しながら経営理論を講義します。理解を助けるためにDVDなども活用します。 小テスト、中間テストの解答例は試験後に解説します。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおく 事後：講義内容を復習する
2	経営戦略とは何か	企業ドメインなどについて説明します	事前：企業ドメインの果たす役割は何か、教科書序章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
3	業界構造分析	5フォース分析について説明します	事前：自動車業界を分析してみよう、教科書6章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
4	競争の基本戦略	コスト、差異化、集中の戦略について説明します	事前：それぞれの戦略の違いを理解しよう、配付資料を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
5	コストリーダーシップ戦略	規模の経済などについて説明します	事前：低価格政策を意味しないことを理解しよう、教科書1章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
6	垂直的、水平的差異化	差異化戦略について説明します	事前：両者の違いを理解しよう、教科書2章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
7	製品以外での差異化	カスタマイゼーションについて説明します。	事前：カスタマイゼーションとは何か、教科書2章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
8	コストと差異化の両立	ブルー・オーシャン戦略について説明します	事前：レッド・オーシャンとどう違うのか、教科書2章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
9	先発優位の源泉	ネットワーク外部性などについて説明します	事前：ICTの普及とネットワーク外部性の関係を理解すること、教科書3章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
10	先発企業の戦略	同質化戦略などについて説明します	事前：模倣も重要な手法であるのか、教科書3章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
11	後発優位と逆転	サンク・コストなどについて説明します	事前：先発企業の弱みは何か考えてみよう、教科書4章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
12	後発企業の戦略	チャレンジャーの戦略などについて説明します	事前：競争上の位置によってとる戦略が違うことを理解しよう、教科書4章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
13	公的標準、事実上の標準	国際標準などについて説明します	事前：標準がどのようにして決まるのだろうか、教科書5章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
14	オープン化戦略	オープン・イノベーションについて説明します	どこまでをオープンにするのか理解しておこう、教科書5章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
15	GAFAの戦略	ITプラットフォームの戦略の実際例を説明します	事前：配付資料を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)

関連科目	グローバル経営論
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストブック 経営戦略	北 真収	岡山大学出版会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経営戦略入門	網倉久永・新宅純二郎	日本経済新聞出版社
2				
3				

評価方法 (基準)	課題レポート50%、中間テスト30%、小テスト20%で評価します。
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	事例を使って戦略理論を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
-----------	--------------------------------------

担当者の 研究室等	11号館8階 北 真取 研究室（相談時は事前に連絡してください）
備考	

科目名	人的資源管理論 I	科目名 (英文)	Human Resources Management I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑨, DP2②		
科目ナンバリング	IDD2020a0		

授業概要・目的	<p>[授業概要]</p> <p>働き方が多様化した現代の企業経営において、人のマネジメントはますます重要な意義を有するようになってきました。本講義では、「人のマネジメント」として人的資源管理の基本的な考え方を学ぶことによって、組織を活かし個人も生きるための知的・実践的スキルを身につけることを目指します。人的資源管理 I では、組織や戦略と人的資源管理の関わりなど人的資源管理の総論を中心に講義します。</p> <p>なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明することで、より深い学生の理解を促します。</p> <p>[授業目的]</p> <p>企業経営における人的資源とそのマネジメントに関する理解を深めることを目的としています。</p>			
到達目標	<p>[到達目標]</p> <p>①人的資源管理の基礎的な概念について理解できるようになる。</p> <p>②組織と人に関わる経営現象について、人のマネジメントの視点から説明できるようになる。</p>			
授業方法と留意点	<p>主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントやプリントを活用し、企業における人的資源管理の実態についても紹介します。</p> <p>この授業を受講するには、経営学の基礎を理解していることが望まれます。</p>			
科目学習の効果 (資格)	<p>中小企業診断士、社会保険労務士</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション 【オンライン授業】	講義の進め方、本講義の内容について説明します。	シラバスを読んでください。
	2	戦略的人的資源管理論 【配付資料学習】	企業の戦略と人的資源管理の関係について自己学習します。	事前課題：教科書の第3章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること
	3	戦略的人的資源管理論 【オンライン授業】	企業の戦略と人的資源管理の関係についてリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第3章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること
	4	組織構造 【配付資料自己学習】	組織・職場のデザインという観点から人的資源管理を自己学習します。	事前課題：教科書の第5章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること
	5	組織構造 【オンライン授業】	組織・職場のデザインという観点からの人的資源管理をリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第5章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること
	6	小テスト① 【オンライン授業】	リアルタイムのオンラインで小テスト①を行います。	事前課題：これまでの講義資料および教科書1時間程度読むこと 事後学習：小テストの内容を1時間程度復習すること
	7	リーダーシップとマネジメントの違い 【配付資料自己学習】	リーダーシップとマネジメントの違いについて自己学習します。	事前課題：配付資料を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること
	8	リーダーシップとマネジメントの違い 【対面授業】	リーダーシップとマネジメントの違いについてリアルタイムで解説します。	事前課題：配付資料および教科書代7章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること
	9	リーダーシップ 【配付資料自己学習】	リーダーシップ現象についてこれまでの知見を自己学習します。	事前課題：教科書の第7章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること
	10	リーダーシップ 【対面授業】	リーダーシップ現象についてこれまでの知見をリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第7章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること
	11	雇用 【配付資料自己学習】	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのかを自己学習します。	事前課題：教科書の第9章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること
	12	雇用 【対面授業】	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのかをリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第9章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること
	13	昇進・賃金 【配付資料自己学習】	評価は、昇進・昇格や賃金にどのように反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴や機能がある	事前課題：教科書の第12, 13章を1時間程度再度読むこと

			のかについて自己学習します。	事後学習：配付資料を1時間程度予習すること																
	14	昇進・賃金 【対面授業】	評価は、昇進・昇格や賃金にどのように反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴や機能があるのかについてリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第12, 13章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること																
	15	小テスト②、課題レポート提出締切日 【Google formで小テスト②を実施】	リアルタイムのオンラインで小テスト②を行います。	事前課題：これまでの講義資料および教科書1時間程度読むこと 事後学習：小テストの内容を1時間程度復習すること																
関連科目	経営学、経営管理論、経営組織論、経営戦略論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人的資源管理</td> <td>上林憲雄</td> <td>中央経済社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経験から学ぶ人的資源管理</td> <td>上林憲雄他</td> <td>有斐閣ブックス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>入門人的資源管理</td> <td>奥林康司他</td> <td>中央経済社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経験から学ぶ人的資源管理	上林憲雄他	有斐閣ブックス	2	入門人的資源管理	奥林康司他	中央経済社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	経験から学ぶ人的資源管理	上林憲雄他	有斐閣ブックス																	
2	入門人的資源管理	奥林康司他	中央経済社																	
3																				
評価方法 (基準)	小テスト①30点、小テスト②30点、レポート40点、合計100点で評価します。ただし、授業態度や参加具合によって加点・減点をする場合があります。																			
学生への メッセージ	人的資源管理論の対象は、「人」そのものです。そのため、講義を受けるにあたっては、日頃から組織と人間に対する関心を持ち続けることが何より大切になってきます。自分自身の感性も磨きながら、主体的に受講するようにしてください。																			
担当者の 研究室等	11号館8階(西之坊研究室)																			
備考																				

科目名	人的資源管理論Ⅱ	科目名 (英文)	Human Resources Management II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2021a0		

授業概要・目的	<p>[授業概要] 現代の企業経営において、ヒトのマネジメントはますます重要な位置づけになっています。人的資源管理の中でも「採用」にフォーカスし、実在する企業の採用広報・学生への動機づけ・選考方法の企画立案を通じて人的資源管理の理解を促します。 なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明することで、より深い学生の理解を促します。</p> <p>[授業目的] 実在する企業の採用における広報・学生への動機づけ・選考方法の企画立案を通じてヒトのマネジメントに関する理解を深めることを目的としています。</p>
到達目標	<p>[到達目標] ①人的資源管理の基礎的な概念について理解できるようになる。 ②組織と人に関わる経営現象について、ヒトのマネジメントの視点から説明できるようになる。</p>
授業方法と留意点	<p>主としてグループワーク形式の授業です。人的資源管理論の中でも「採用」にフォーカスし、実在する企業の採用広報・学生への動機づけ・選考方法をグループ単位で企画立案し、当該企業の前でプレゼンテーションを行います。</p> <p>この授業を受講するには、人的資源管理Ⅰ、経営学の単位を取得していることが望ましい。</p>
科目学習の効果 (資格)	中小企業診断士、社会保険労務士

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この授業の概要と進め方について説明します。	シラバスを読んでください
2	【対面授業】 対象企業の割当てと当該企業の分析方法解説 ※グループを決めますので履修者は必ず遅刻せず出席してください。	各グループに、どの企業を担当するか割当てを行い、次回以降行うべき課題および講義の評価方法の説明を行います。また、最終発表会までのタイムスケジュールをリーダー中心に作成します。	事前課題：特徴的な採用活動を行っている企業を1時間程度調べてくること 事後課題：割り当てられた企業の研究を1時間程度行うこと
3	【偶数グループ対面授業】 グループワーク(1)	リーダーを中心としてグループワークを行います。まず、スケジュール管理表を作成し、今後の活動計画をできるだけ詳細に作成します。	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成を1時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リーダーが指示した作業を1時間程度行うこと
4	【奇数グループ対面授業】 グループワーク(2)	リーダーを中心としてグループワークを行います。まず、スケジュール管理表を作成し、今後の活動計画をできるだけ詳細に作成します。	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成を1時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リーダーが指示した作業を1時間程度行うこと
5	【偶数グループ対面授業】 グループワーク(3)	リーダーを中心としてグループワークを行います。まず、スケジュール管理表を作成し、今後の活動計画をできるだけ詳細に作成します。	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成を1時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リーダーが指示した作業を1時間程度行うこと
6	【奇数グループ対面授業】 グループワーク(4)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、リーダーは出欠とメンバー評価および根拠を授業担当者に報告する。	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成を1時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リーダーが指示した作業を1時間程度行うこと
7	【偶数グループ対面授業】 グループワーク(5)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、リーダーは出欠とメンバー評価および根拠を授業担当者に報告する。	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成を1時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リーダーが指示した作業を1時間程度行うこと
8	【奇数グループ対面授業】 グループワーク(6)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、リーダーは出欠とメンバー評価および根拠を授業担当者に報告する。	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成を1時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リーダーが指示した作業を1時間程度行うこと
9	【偶数グループ対面授業】 グループワーク(7)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、リーダーは出欠とメンバー評価および根拠を授業担当者に報告する。	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成を1時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リーダーが指示した作業を1時間程度行うこと
10	【奇数グループ対面授業】 グループワーク(8)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、リーダーは出欠とメンバー評価および根拠を授業担当者に報告する。	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成を1時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リーダーが指示した作業を1時間程度行うこと
11	【偶数グループ対面授業】 グループワーク(9)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、リーダーは出欠とメンバー評価および根拠を授業担当者に報告する。	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成を1時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リーダーが指示した作業を1時間程度行うこと
12	【奇数グループ対面授業】	リーダーを中心としてグループワー	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成

		グループワーク(10)	クを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、リーダーは出欠とメンバー評価および根拠を授業担当者に報告する。と一緒に報告する。	を1時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リーダーが指示した作業を1時間程度行うこと
	13	【対面授業】 最終プレゼンテーション	グループ別にプレゼンテーションを行い、評価を行います。	事前課題：各グループは発表資料を作成および印刷を1時間程度行うこと 事後課題：企業様からいただいたコメントを踏まえ、企業の人的資源管理を教科書で1時間程度復習すること
	14	【オンライン授業】 期末テスト	本講義で学んだことについて期末テスト(レポート課題)を行います。	事前課題：「採用学」の大切な箇所を1時間程度読み直すこと 事後課題：期末レポート課題のテーマについて教科書などで1時間程度復習すること
	15	【オンライン授業】 まとめ	本講義に関する質疑応答をオンラインで行います。	事前課題：講義資料全体を1時間程度読み直すこと 事後課題：本講義で学んだことを、今後迎える就職活動でどのように有効活用するのか1時間程度でノートにまとめること
関連科目	人的資源管理Ⅰ、経営学、経営管理論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	採用学	服部泰宏	新潮選書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社
	2	日本企業の採用革新	服部泰宏	中央経済社
	3			
評価方法 (基準)	(1)グループワーク : 70点 (14点×5回=70点) (2)期末テスト : 20点 (論述式) (3)最終発表グループ: 10点 なお、継続したグループワークを行うため、出席重視の科目です。従って、出席または遅刻が2割を上回る場合は、単位を認めない場合があります。			
学生への メッセージ	グループ別に特定企業の募集方法および選考手法の立案を行い、当該企業の前でプレゼンテーションを行います。したがって、「出席が大前提」の授業となります。遅刻も控えてください。			
担当者の 研究室等	11号館8階(西之坊研究室)			
備考	原則対面授業を行います。ただし、グループワークは密にならないように偶数グループと奇数グループに分け、交互に対面授業を行います。上記授業計画をよく確認して間違えないようにしてください。特に第2回はグループを決めますので、履修希望者は遅刻せず必ず出席してください。なお、第14回と第15回はTeamsを用いてオンライン授業を行います。			

科目名	現代日本経営史	科目名 (英文)	Business History of Modern Japan
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐藤 秀昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2022a0		

授業概要・目的	第二次世界大戦後の日本経済・産業の発展過程をたどりながら、各時代を代表する企業と企業家が直面した経営環境を振り返ります。本講義では、いわゆる「バブル崩壊」を画期とした日本型企業システムの転換に焦点を当てます。講義担当者は、民間企業における研修業務担当の経験から、講義内容の実践的な活用方法を教授します。
到達目標	① 本講義を通じて受講生は、企業経営に関する歴史的な出来事・人物・概念について説明できるようになります。 ② 本講義を通じて受講生は、信頼できるデータベースから作成した図表をもとに、自らの意見を述べるスキルを身につけることができます。また、特定の人物についてその魅力を誰かに伝えるスキルを身につけることができます。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進めます。 講義内容の理解を深めるために、毎回の講義終了後に小レポートの提出を求めます。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	本講義の目的・到達目標・成績評価について説明します。	事前：シラバスを読んでおく (10分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
2	戦後改革と復興 (1)	戦時の変化と戦後改革のインパクトについて考えます。個別事例として、出光興産の出光佐三を取り上げます。	事前：前回の配布資料に目を通して復習を行う (10分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
3	戦後改革と復興 (2)	戦後復興期における経済復興について考えます。個別事例として、川崎製鉄の西山弥太郎を取り上げます。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (10分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
4	高度成長のメカニズム (1)	後発工業国日本が、いかにして国際競争力を高めたのかについて、輸出の成長と産業構造の重化学工業化に即して考えます。個別事例として、ソニーの井深大・盛田夫を取り上げます。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (15分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
5	高度成長のメカニズム (2)	メインバンクシステム・安定株主化について考えます。個別事例として、ホンダの本田宗一郎・藤沢武夫を取り上げます。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (20分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
6	高度成長のメカニズム (3)	大量消費社会の出現について考えます。個別事例として、パナソニックの松下幸之助を取り上げます。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (25分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
7	石油危機と安定成長への転換 (1)	石油危機後の減量経営について考えます。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (30分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
8	石油危機と安定成長への転換 (2)	安定成長下において自動車産業が得た競争優位について考えます。個別事例として、トヨタの豊田喜一郎を取り上げます。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (35分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
9	石油危機と安定成長への転換 (3)	安定成長下における日本企業の国際競争力について、加工組立産業の比較優位に即して考えます。個別事例として、京セラの稲盛和夫を取り上げます。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (40分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
10	バブルの形成と崩壊 (1)	いわゆる「バブル」がいかにして形成されたのかについて考えます。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (45分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
11	バブルの形成と崩壊 (2)	バブルの崩壊が銀行等金融機関・証券会社の経営に及ぼした影響について考えます。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (50分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
12	流通革命	いわゆる「流通革命」と呼ばれる日本型流通システムの形成について考えます。個別事例として、セブンイレブンの鈴木敏文を取り上げます。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (55分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
13	長期停滞と日本型企業システムの転換 (1)	「失われた 20 年」における日本型企業システムの転換について考えます。個別事例として、ユニクロの柳井正を取り上げます。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (60分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
14	長期停滞と日本型企業システムの転換 (2)	東アジア経済圏の成長と、日本企業の対外進出について考えます。個別事例として、ソフトバンクの孫正義を取り上げます。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (60分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
15	長期停滞と日本型企業システムの転換 (3)	本講義で学んだ内容を振り返り、日本型企業システムの課題を探ります	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (60分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)

関連科目	現代日本経営史			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代日本経済	橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齊藤直	有斐閣
	2	イノベーションの歴史 日本の革新的企業家群像	橘川武郎	有斐閣
	3			
評価方法 (基準)	小レポート（毎回の講義終了後に提出）40%、期末レポート（全講義終了後に提出）60%で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	佐藤秀昭講師室（11号館7階）			
備考				

科目名	生産管理論	科目名 (英文)	Production and Operations Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2023a0		

授業概要・目的	<p>・学ぶのは、「戦略」です。企業ビジネスの視点から「ものづくり」にフォーカスし、その「戦略」を「ビジネス・スクール形式」で学びます。</p> <p>・主な学習テーマは、以下のとおりです。</p> <p>①「ものづくり」の戦略とは何か？ 経営学部の学生にとって、なぜそれを学ぶことが必要なのか？</p> <p>②「ものづくり」を行う製造業は、日頃どんな課題を抱え、どのように解決しているのか？</p> <p>③「ものづくり」を行う製造業は、卸売業、小売業、サービス業とはどんな違いがあるのか？</p> <p>④「ものづくり」を、ビジネス戦略や企業の持続的成長にどう活かせば良いのか？</p> <p>・なお、この科目は、「実務経験のある教員による授業科目」です。民間企業、経済団体、シンクタンク等に通算29年間（生産管理部門含む）勤務し、また経営コンサルタント（中小企業診断士）として150社以上（うち製造業90社以上）の企業経営支援に携わった実務経験を活かし、アクティブラーニング（ケースメソッド形式）による実践的な授業を行います。</p> <p>・この科目は、SDGs9（産業と技術革新の基盤づくり）、SDGs12（つくる責任とつかう責任）の目標に関連する科目です。</p>
到達目標	<p>・実社会で「戦術」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。</p> <p>・「ものづくり」とビジネス戦略の関連性について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。</p> <p>・その到達目標をクリアできているか検証するため、毎回の授業においてケースメソッドによる個人作業、グループワーク、プレゼン、質疑応答等を実施し、その到達度合いを一人一人判定します。</p>
授業方法と留意点	<p>・この授業は、当面はMicrosoft Teamsを使用した「遠隔授業」で行います。ただし、コロナ感染状況次第では、対面授業に変更する可能性がある点をお含みおき下さい。</p> <p>①まず、履修希望者は「生産管理論」にサインインして下さい。（コード入力が必要）</p> <p>②授業は、「教材・課題提供型授業」となります。毎回、教科書テキストのケース事例の掲載ページに基づいて課題を与え、期限までに解答を提出するルールです。</p> <p>③毎回の授業毎に、音声入りのPower PointをTeamsにアップしますので、内容をよく理解し、解答</p>
科目学習の効果（資格）	<p>・販売士または中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目的とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	<p><予習> テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように(1時間)。なお、2回目以降の授業の本欄に、事前に熟読してほしい教科書の頁数を記載します。</p> <p><復習> 「本日のポイント」の内容について、自分の「武器」として使えるようにまとめておいて下さい(1時間)。</p>
2	ケースメソッドⅠ： ものづくりをマネジメントする①	企業事例研究：和菓子メーカーS社～① 生産方法、生産形態、作業標準書～	<p><予習> 教科書 p3-22(1時間)</p> <p><復習> 生産方法・形態の違い、作業標準書がなぜ必要か等について復習し、まとめて下さい(1時間)</p>
3	ケースメソッドⅠ： ものづくりをマネジメントする②	企業事例研究：和菓子メーカーS社～② 生産工程マネジメント～	<p><予習> 教科書 p3-22(1時間)</p> <p><復習> 生産計画の遅れを生じさせる原因分析と、それが取引先にどれだけ迷惑をかけるのか等について復習し、まとめて下さい(1時間)</p>
4	ケースメソッドⅠ： ものづくりをマネジメントする③	企業事例研究：和菓子メーカーS社～③ 不良品発生とその解決策～	<p><予習> 教科書 p3-22(1時間)</p> <p><復習> 1個の不良品発生が生産工程全体にどんな影響を及ぼすのか等について復習し、まとめて下さい(1時間)</p>
5	ケースメソッドⅠ： ものづくりをマネジメントする④	企業事例研究：和菓子メーカーS社～④ 工程間のムダの排除～	<p><予習> 教科書 p3-22(1時間)</p> <p><復習> 生産の進捗を遅らせる「揺らぎ」を解決するために何が必要か等について復習し、まとめて下さい(1時間)</p>
6	ケースメソッドⅠ： ものづくりをマネジメントする⑤	企業事例研究：和菓子メーカーS社～⑤ ロット生産と1個流し～	<p><予習> 教科書 p3-22(1時間)</p> <p><復習> 製造業にとって、市場で生き残るための「ものづくり」とは何か等について復習し、まとめて下さい(1時間)</p>
7	ケースメソッドⅡ： アジアの中で生き残り！①	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～①企業の海外進出理由～	<p><予習> 教科書 p23-38(1時間)</p> <p><復習> 業種や進出先によって進出理由が異なる点について復習し、まとめて下さい(1時間)</p>
8	ケースメソッドⅡ： アジアの中で生き残り！②	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～②国内回帰とマザー工場～	<p><予習> 教科書 p23-38(1時間)</p> <p><復習> せっかく海外進出したのに、なぜ日本に戻って来るのか等について復習し、まとめて下さい(1時間)</p>
9	ケースメソッドⅡ： アジアの中で生き残り！③	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～③ライン生産とセル生産～	<p><予習> 教科書 p23-38(1時間)</p>

				<復習> 2つの生産方法のメリット、デメリット、国際立地戦略における使い分け等について復習し、まとめて下さい(1時間)
	10	ケースメソッドⅡ： アジアの中で生き残り！④	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～④ライン生産のボトルネック～	<予習> 教科書 p23-38(1時間) <復習> ライン生産のボトルネックについて、実例と試算による検証等について復習し、まとめて下さい(1時間)
	11	ケースメソッドⅡ： アジアの中で生き残り！⑤	企業事例研究：プリント基板メーカーY社～⑤アジアとの競争の中で生き残り戦略～	<予習> 教科書 p23-38(1時間) <復習> アジアとの競争の中で、生産の3要素をどのように戦略化すべきか等について復習し、まとめて下さい(1時間)
	12	ケースメソッドⅢ： 目指せ！「匠」のマネジメント①	企業事例研究：食品調味料メーカーU社～①力量進捗・判定表～	<予習> 教科書 p39-56(1時間) <復習> なぜ、力量進捗・判定表が必要なのか等について復習し、まとめて下さい(1時間)
	13	ケースメソッドⅢ： 目指せ！「匠」のマネジメント②	企業事例研究：食品調味料メーカーU社～②従業員の労務管理とCSR～	<予習> 教科書 p39-56(1時間) <復習> 従業員の欠勤リスクと生産能力の社会的責任等について復習し、まとめて下さい(1時間)
	14	ケースメソッドⅢ： 目指せ！「匠」のマネジメント③	企業事例研究：食品調味料メーカーU社～③労災リスクと危険防止～	<予習> 教科書 p39-56(1時間) <復習> 労災リスクの実態と危険防止方法等について復習し、まとめて下さい(1時間)
	15	ケースメソッドⅢ： 目指せ！「匠」のマネジメント④	～企業事例研究：食品調味料メーカーU社～④コンタミネーションと食品表示～	<予習> 教科書 p39-56(1時間) <復習> 食品のアレルギーコンタミネーション管理方法と食品表示等について復習し、まとめて下さい(1時間)
関連科目	CSR経営論、企業論ほか			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アクティブラーニング（ケースメソッド）授業テキスト ものづくりと経営戦略[第4版]	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イラスト図解 工場のしくみ	松林光男、渡部弘	日本実業出版社
	2	工場コストダウン事典	五十嵐瞭	日刊工業新聞社
	3	現場のムダどり事典	山田日登志	日刊工業新聞社
評価方法 (基準)	①理解度 (40%) ②表現力 (40%) ③自分なりの独創性 (20%) ただし、①～③は、毎回の授業の都度採点し、集計します。 また、定期試験については、最終回の授業で別途指示させて頂きます。			
学生への メッセージ	・コロナ禍は、成績不良の理由にはなりません。厳しい状況下、自分自身をしっかり見定め、学業等に励んでください。 ・通算35年間の民間企業等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！ ・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。			
担当者の 研究室等	11号館7階 大田住吉研究室			
備考	・理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。 ・事前事後学習は、各々概ね60分程度を目安に行ってください。			

科目名	企業論	科目名 (英文)	Theory of Corporate Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2024a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、第8回目の授業(11/9)から、以下のとおり対面授業(1133教室)を実施します。ただし、状況によって、一部オンライン授業を併用する場合があります。</p> <p>【本来の授業概要・目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶのは、「戦略」です。ビジネス社会における「企業」にフォーカスし、その「戦略」を「ビジネス・スクール形式」で学びます。 ・主な学習テーマは、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ①「企業」とは何か？ 経営学部の学生にとって、「企業」の何を学ぶべきなのか？ ②企業の様々な「戦略」は、なぜ生まれるのか？ また何が目的なのか？ ③激動の時代変遷の中で、企業は今後どうあるべきなのか？ ・なお、この科目は、「実務経験のある教員による授業科目」です。民間企業、経済団体、シンクタンク等に通算29年間勤務し、また経営コンサルタント(中小企業診断士)として150社以上の企業経営支援に携わった実務経験を活かし、アクティブラーニング(ケースメソッド形式)による実践的な授業を行います。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・企業のしくみ・社会的役割や将来像について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。 ・その到達目標をクリアできているか検証するため、毎回の授業においてケースメソッドによる個人作業、グループワーク、プレゼン、質疑応答等を実施し、その到達度合いを一人一人判定します。
授業方法と留意点	<p>本科目は、第8回目の授業(11/9)から、以下のとおり対面授業(1133教室)を実施します。ただし、状況によって、一部オンライン授業を併用する場合があります。</p> <p>【本来の授業方法と留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ① 企業を取り巻く様々なテーマについて、毎回ショートケースメソッド(仮想企業による事例分析)を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。 ② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・販売士または中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目標とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	<p><予習> テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように(1時間) なお、2回目以降の授業の本欄に、事前に熟読してほしい教科書の頁数を記載します。</p> <p><復習> 授業の最後に必ず「本日のポイント」を説明します。その内容について、しっかり復習して下さい(1時間)</p>
2	企業はどのようにして生まれるのか？	企業の様々な種類 個人経営、組合、NPO法人等との違い	<p><予習> 教科書 p3-18(1時間)</p> <p><復習> 個人経営と法人では何が違うのか、各々のメリット、デメリットについて復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間)</p>
3	企業を創るのに、どれくらい資金が必要なのか？	企業設立登記、資本金 開業準備と資金調達	<p><予習> 教科書 p20-24(1時間)</p> <p><復習> 企業設立に関わるイニシャルコストとランニングコストの違い等について復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間)</p>
4	なぜ、企業は上場するのか？	株式上場のメリット、デメリット	<p><予習> 教科書 p26-28(1時間)</p> <p><復習> 株式上場のメリット、デメリットについて復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間)</p>
5	なぜ、株式総会が必要なのか？	株主総会の役割、 株主の権利と責任	<p><予習> 教科書 p30-32(1時間)</p> <p><復習> 株主総会の開催理由について企業、株主双方の立場から復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間)</p>
6	{所有と経営の分離}とは、何か？	経営と所有の分離 外部・内部ののステークホルダー	<p><予習> 教科書 p34-36(1時間)</p> <p><復習> なぜ、所有と経営を分離する必要があるのか等について復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間)</p>
7	2通りの取締役会とは、何か？	マネジメント・ボードとモニタリング・モデル	<p><予習> 教科書 p38-40(1時間)</p> <p><復習> 2つの制度の違い、誕生の背景等について復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間)</p>
8	大企業と中小企業、何が違うのか？	中小企業の定義と経営戦略	<p><予習> 教科書 p46-48(1時間)</p> <p><復習> 大企業と中小企業では何が違うのか、各々のメリット、デメリットについて復習し、小レポートにまと</p>

				めて下さい(1時間) <予習> 教科書 p50-52(1時間) <復習> 「アライアンス」には、必ず理由がある。それは何か、それぞれの事例において何が違うのか等について復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間)																
	9	なぜ、企業は連携するのか？	アライアンス戦略、競争と連携、多角化経営	<予習> 教科書 p54-56(1時間) <復習> 「リストラ」とは、本来どういう意味か、企業はなぜリストラをする必要があるのか等について復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間)																
	10	なぜ、企業はリストラするのか？	事業の選択と集中	<予習> 教科書 p58-60(1時間) <復習> 企業の倒産理由と自社や社会的影響等について復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間)																
	11	なぜ、企業は倒産するのか？	企業倒産の原因・種類とその社会的影響	<予習> 教科書 p62-64(1時間) <復習> 国際化のメリット、デメリット、注意すべき点などについて復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間)																
	12	なぜ、企業は国際化を目指すのか？	グローバル経営、国際化のメリット・デメリット	<予習> 教科書 p66-68(1時間) <復習> サクセッションプランとは何か、なぜそれが必要なのか等について復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間)																
	13	なぜ、後継者育成計画が必要なのか？	サクセッションプラン、事業承継	<予習> 教科書 p70-72(1時間) <復習> 子会社の範囲はどこまでか？親会社の経営に何が影響するのか等について復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間)																
	14	なぜ、グループ内部統制が必要なのか？	子会社の定義、グループ内部統制	<予習> 教科書 p74-76(1時間) <復習> 本来のCSRとは何か？ 様々なリスクをどう防ぐのか等について復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間)																
	15	企業の社会的責任とは何か？	リスクマネジメントとCSR経営																	
関連科目	経営学ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アクティブラーニング(ケースメソッド)授業テキスト 企業論[第3版]</td> <td>大田住吉、佐々木公之</td> <td>デザインエッグ社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	アクティブラーニング(ケースメソッド)授業テキスト 企業論[第3版]	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	アクティブラーニング(ケースメソッド)授業テキスト 企業論[第3版]	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>会社のしくみ</td> <td>坂田 岳史</td> <td>日本実業出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかる企業論</td> <td>佐久間 信夫</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	会社のしくみ	坂田 岳史	日本実業出版社	2	よくわかる企業論	佐久間 信夫	ミネルヴァ書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	会社のしくみ	坂田 岳史	日本実業出版社																	
2	よくわかる企業論	佐久間 信夫	ミネルヴァ書房																	
3																				
評価方法(基準)	<p>【遠隔授業の評価方法(基準)】</p> <p>(1) 遠隔授業の成績評価は、全て毎回提出される課題の解答内容により都度判定し、全15回分を合計し、判定します。</p> <p>(2) 判定基準は、理解度(40%)、表現力(35%)、自分なりの独創性(20%)、定期試験(5%)です。</p> <p>【本来の評価方法(基準)】</p> <p>①グループワークへの貢献度(参加意欲、役割分担、個人作業、呼応発言内容など)(35%)</p> <p>②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力(15%)</p> <p>③プレゼン力および質疑応答対応力(15%)</p> <p>④毎回の授業における理解度チェック小テスト(30%)</p> <p>⑤定期試験(論述式)(5%)</p> <p>による総合評価。</p> <p>ただし、①～④は、毎回の授業の都度採点し、集計します。</p>																			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍は、成績不良の理由にはなりません。厳しい状況下、自分自身をしっかりと見定め、学業等に励んでください。 ・通算35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！ ・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。 																			
担当者の研究室等	11号館7階 大田住吉研究室																			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。 ・事前事後学習は、各々概ね60分程度を目安に行ってください。 																			

科目名	C S R 経営論	科目名 (英文)	Corporate Social Responsibility Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP2②		
科目ナンバリング	IDD2025a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、第 7 回目の授業 (11/5) から、以下のとおり対面授業 (1134 教室) を実施します。ただし、状況によって、一部オンライン授業を併用する場合があります。</p> <p>【本来の授業概要・目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶのは、「戦略」です。企業倫理の視点から今日的なテーマである C S R (企業の社会的責任) を取り上げ、「ビジネス・スクール形式」で学びます。 ・主な学習テーマは、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ① 企業にとって、「真の C S R」とは何か？ また、なぜそれが必要なのか？ ② 経営学部の学生にとって、なぜ「真の C S R」を学ぶことが必要なのか？ ③ C S R を実践するにあたり、企業は具体的に何をすれば良いのか？ ④ 内部統制、リスクマネジメント、コンプライアンスと C S R は、どんな関連性があるのか？ ⑤ C S R を、ビジネス戦略や企業の持続的成長にどう活かせば良いのか？ ・なお、この科目は、「実務経験のある教員による授業科目」です。民間企業、経済団体、シンクタンク等に通算 29 年間 (CSR 部門含む) 勤務し、また経営コンサルタント (中小企業診断士) として 150 社以上の企業経営支援 (CSR に関わる支援を含む) に携わった実務経験を活かし、アクティブラーニング (ケースメソッド形式) による実践的な授業を行います。 ・この科目は、SDGs9 (産業と技術革新の基盤づくり)、SDGs12 (つくる責任とつかう責任) の目標に関連する科目です。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・C S R とビジネス戦略の関連性について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。 ・その到達目標をクリアできているか検証するため、毎回の授業においてケースメソッドによる個人作業、グループワーク、プレゼン、質疑応答等を実施し、その到達度合いを一人一人判定します。
授業方法と留意点	<p>本科目は、第 7 回目の授業 (11/5) から、以下のとおり対面授業 (1134 教室) を実施します。ただし、状況によって、一部オンライン授業を併用する場合があります。</p> <p>【本来の授業方法と留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ① 基本的な C S R の企業事例について、実際のビジネス現場で起きるケースメソッド (仮想企業による事例研究) を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。 ② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・販売士または中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目標とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	<p><予習> テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように (1 時間) なお、2 回目以降の授業の本欄に、事前に熟読してほしい教科書の頁数を記載します。</p> <p><復習> 授業の最後に必ず「本日のポイント」を説明します。その内容について、しっかり復習して下さい (1 時間)</p>
2	ケースメソッド I : 失敗の美学①	企業事例研究 : 水産加工食品メーカー Y 社 ～①企業は、なぜ失敗するのか？～	<p><予習> 教科書 p3-12 (1 時間)</p> <p><復習> 「失敗」とは何か？、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい (1 時間)</p>
3	ケースメソッド I : 失敗の美学②	企業事例研究 : 水産加工食品メーカー Y 社 ～②リスクダメージの原因分析とその対策～	<p><予習> 教科書 p3-12 (1 時間)</p> <p><復習> 「失敗」には必ず原因がある。それをどうやって分析するか等について復習し、まとめて下さい (1 時間)</p>
4	ケースメソッド I : 失敗の美学③	企業事例研究 : 水産加工食品メーカー Y 社 ～③全社的な内部統制とは？～	<p><予習> 教科書 p3-12 (1 時間)</p> <p><復習> リスクマネジメントの 3 点セットとは何か？、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい (1 時間)</p>
5	ケースメソッド II : コンプラって、何だろう？①	企業事例研究 : 加工食品メーカー N 社 ～①コンプライアンスの判定基準	<p><予習> 教科書 p13-36 (1 時間)</p> <p><復習> 「コンプライアンス」とは何か？、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい (1 時間)</p>
6	ケースメソッド II : コンプラって、何だろう？②	企業事例研究 : 加工食品メーカー N 社 ～②企業風土とコンプライアンス～	<p><予習> 教科書 p13-36 (1 時間)</p> <p><復習> 企業風土とコンプライアンスはどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい (1 時間)</p>
7	ケースメソッド II : コンプラって、何だろう？③	企業事例研究 : 加工食品メーカー N 社 ～③営業取引とコンプライアンス～	<p><予習> 教科書 p13-36 (1 時間)</p> <p><復習> 営業取引、営業接待と CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい (1 時間)</p>

8	ケースメソッドⅡ： コンプラって、何だろう？④	企業事例研究：加工食品メーカーN社 ～④大企業と中小企業のコンプライア ンス比較～	<予習> 教科書 p13-36(1時間) <復習> 大企業と中小企業でコンプラダメージにどんな違 いがあるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
9	ケースメソッドⅢ： もしも？のためのBCP①	企業事例研究：企業の事業継続とCSR ～①自然災害によるダメージとCSR～	<予習> 教科書 p37-50(1時間) <復習> 災害等による企業ダメージは、CSRとどんな関係が あるのか等について復習し、まとめて下さい(1時 間)
10	ケースメソッドⅢ： もしも？のためのBCP②	企業事例研究：企業の事業継続とCSR ～②自社の中核事業とCSR～	<予習> 教科書 p37-50(1時間) <復習> 災害時における「中核事業」とは何か？、CSRとど んな関係があるのか等について復習し、まとめて下 さい(1時間)
11	ケースメソッドⅢ： もしも？のためのBCP③	企業事例研究：企業の事業継続とCSR ～③災害からの早期復旧とCSR～	<予習> 教科書 p37-50(1時間) <復習> 災害からの早期復旧を目指す際の「ボトルネック」 とは何か等について復習し、まとめて下さい(1時 間)
12	ケースメソッドⅢ： もしも？のためのBCP④	企業事例研究：企業の事業継続とCSR ～④BCPの具体的内容とCSR～	<予習> 教科書 p37-50(1時間) <復習> CSRを果たす上で、BCPの具体的内容はどうあるべ きか等について復習し、まとめて下さい(1時間)
13	ケースメソッドⅣ： いま、なぜ、CSR？①	企業事例研究：監査法人F社 ～①同族経営とCSR～	<予習> 教科書 p51-68(1時間) <復習> 「同族経営」とは何か？、CSRとどんな関係がある のか等について復習し、まとめて下さい(1時間)
14	ケースメソッドⅣ： いま、なぜ、CSR？②	企業事例研究：監査法人F社 ～②監査法人とCSR～	<予習> 教科書 p51-68(1時間) <復習> 「監査法人」とは何か？、CSRとどんな関係がある のか等について復習し、まとめて下さい(1時間)
15	ケースメソッドⅣ： いま、なぜ、CSR？③	～企業事例研究：監査法人F社 ～③企業不祥事とJ-SOX法～	<予習> 教科書 p51-68(1時間) <復習> J-SOX法、インセンティブのねじれとは何か？、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめ て下さい(1時間)

関連科目 企業論、生産管理論ほか

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アクティブラーニング(ケースメソッド)授業テキ スト CSR経営戦略[第4版]	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CSR経営戦略	伊吹 英子	東洋経済新報社
2	内部統制のポイント	三浦 太	中経出版
3	中小企業のための「内部統制」制度の確立	武田 隆二	TKC出版

【遠隔授業の評価方法(基準)】
(1) 遠隔授業の成績評価は、全て毎回提出される課題の解答内容により都度判定し、全15回分を合計し、判定します。
(2) 判定基準は、理解度(40%)、表現力(35%)、自分なりの獨創性(20%)、定期試験(5%)です。

【本来の評価方法(基準)】
①グループワークへの貢献度(参加意欲、個人作業、役割分担、呼応発言内容など)(35%)
②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力(15%)
③プレゼン力および質疑応答対応力(15%)
④毎回の授業における理解度チェック小テスト(30%)
⑤定期試験(論述式)(5%)
による総合評価。
ただし、①～④は、毎回の授業の都度採点し、集計します。

学生へのメッセージ
・コロナ禍は、成績不良の理由にはなりません。厳しい状況下、自分自身をしっかりと見つけ、学業等に励んでください。
・通算35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！
・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。

担当者の研究室等
11号館7階 大田住吉研究室

備考
・理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。
・事前事後学習は、各々概ね60分程度を目安に行ってください。

科目名	グローバル経営論	科目名 (英文)	Global Business
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島山 俊宏
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2026a0		

授業概要・目的	本講義の目的は、多国籍企業の経営活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義と問題演習を通じて国際経営論に関する理論の発展や経営機能の国際化要因について学習する。 企業の海外進出は活発に行われており、多国籍企業で活躍できる人材になるためには国際経営論に関する基礎的知識を習得することは不可欠である。 授業担当者は、民間企業における経理業務の経験から多国籍企業の経営活動の実践的な分析方法を教授する。
到達目標	①海外直接投資の理論の概要を説明できる。 ②企業がマーケティング・生産・研究開発などの経営機能を国際化する論理を説明できる。 ③国際経営論の理論に基づいて多国籍企業の経営活動を分析できる。
授業方法と留意点	教科書を予習した後に解説動画を視聴する。動画を視聴した後はMoodleで課題に取り組み、学習内容を復習する。初回はTeamsで受講方法を確認すること。 第8回から対面授業で実施する。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義のガイダンスと国際経営論の概要、海外進出の理由について学習する。	事前：シラバスと教科書の第1章を事前に読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
2	海外直接投資の理論	海外直接投資の代表的な理論とその発展の歴史について学習する。	事前：教科書の第2章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
3	多国籍企業による国際競争の歴史	多国籍企業の発展の歴史について学習する。	事前：教科書の第3章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
4	多国籍企業の組織デザイン	多国籍企業の経営組織の概要とその進化について学習する。	事前：教科書の第4章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
5	トランスナショナル経営	I-Rフレームワークとトランスナショナル経営について学習する。	事前：教科書の第5章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
6	海外子会社の経営	海外子会社の類型化や成長のプロセスについて学習する。	事前：教科書の第6章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
7	日本企業による海外進出	第2回から第6回までの学習内容を踏まえて、日本企業の海外進出に関するビデオを視聴して Moodle で課題に取り組む。	事前：第2回から第6回の講義資料を読み返しておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
8	国際マーケティング (1)	国際マーケティングのプロセスについて学習する。	事前：教科書の第7章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
9	国際マーケティング (2)	新興国における国際マーケティングについて学習する。	事前：教科書の第7章と第8回の講義資料を読み返しておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
10	国際マーケティング (3)	第8回と第9回の学習内容を踏まえて、日本企業の新興国向け製品開発に関するビデオを視聴して Moodle で課題に取り組む。	事前：第8回、第9回の講義資料を読み返しておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
11	ものづくりの国際拠点展開 (1)	海外生産拠点の設立・運営や知識移転について学習する。	事前：教科書の第8章を読んでおくこと (1時間) 事後：事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
12	ものづくりの国際拠点展開 (2)	第11回の学習内容を踏まえて、海外生産拠点の設立と知識移転に関するビデオを視聴してグループディスカッションを行う。	事前：教科書の第8章と第11回の講義資料を読み返しておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
13	研究開発の国際化	海外研究開発の要因や海外研究開発拠点のマネジメントについて学習する。	事前：教科書の第9章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
14	グローバル製品開発	第13回の学習内容を踏まえて、グローバル製品開発に関するビデオを視聴して Moodle で課題に取り組む。	事前：教科書の第9章と第13回の講義資料を読み返しておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
15	国際的な人的資源管理	海外駐在員や現地従業員のマネジメントについて学習する。	事前：教科書の第10章を読んでおくこと。小テストに解答しておくこと (1.5時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)

関連科目 経営学Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての国際経営	中川功一・林正・多田 和美・大木清弘	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 第14回の講義後にMoodleで実施する小テスト20%、期末レポート80%で評価する。

(基準)	
学生へのメッセージ	予習・復習を行い、課題に積極的に取り組んで欲しい。
担当者の研究室等	11号館8階 畠山研究室
備考	授業内容に関する質問は、メールと Teams で対応する。メールアドレスについては、Team s および講義資料に記載する。

科目名	マクロ経済学	科目名 (英文)	Macro Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2027a0		

授業概要・目的	現代経済学は体系化された科学としてマクロ経済学とミクロ経済学に大別されます。マクロ経済学では、国家レベルの経済問題や社会全体など大きな動きについて論じます。なお、ミクロ経済学では、経済主体の意思決定プロセスや市場について議論することを目的とします。これによりビジネスニュースや新聞の経済面をより深く読むことが出来るようになることを目指します。
到達目標	マクロ経済学の理論を通して、日本経済の問題を理解、説明できる。
授業方法と留意点	教科書を中心に行うが、適宜、新聞やTVで取り上げられたトピックも用いる。講義を妨げる私語、携帯電話の使用は厳に慎むこと。減点、単位失格の対象となります。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験・経済学検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	経済学とは何か	経済学とはどのような学問か？マクロ経済学とミクロ経済学の違い	経済記事や経済ニュースを普段から読んだり聞いたりする習慣を付けてください。
2	GDPとは何だろうか？	付加価値、三面等価の原則 GDPの範囲、GNI (GNP)との違い、名目値と実質値	テキスト第1章を読んでおくこと。(60分)
3	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？(1)	ケインズ型の消費関数	テキスト第2章「ケインズ型の消費関数」を読んでおくこと。(60分)
4	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？(2)	ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、流動性制約、日本の貯蓄率の動向	テキスト第2章「ライフサイクル仮説、恒常所得仮説」「貯蓄の決定」を読んでおくこと。(60分)
5	設備投資と在庫投資(1)	資本ストックと設備投資、投資の決定理論、新古典派の投資理論	テキスト第3章「投資の決定要因」「資本の限界生産性と資本の使用者費用」を読んでおくこと。(60分)
6	設備投資と在庫投資(2)	調整費用モデル、在庫投資	テキスト第3章「調整費用モデル」を読んでおくこと。(60分)
7	金融と株価(1)	企業の資金調達手段、家計の資産選択	テキスト第4章「企業の資金調達手段」「家計の資産選択」を読んでおくこと。(60分)
8	金融と株価(2)	株価の決定理論、トービンのq	テキスト第4章「株価の決定理論」「トービンのq理論」を復習しておくこと。(60分)
9	貨幣の需要と供給(1)	貨幣の機能、貨幣ストックの概念、	テキスト第5章「貨幣の3つの機能」「貨幣の概念」「貨幣需要動機」を読んでおくこと。(60分)
10	貨幣の需要と供給(2)	貨幣需要関数、貨幣量のコントロール、金融政策の手段、利子率の決定	テキスト第5章「貨幣需要関数」「ハイパワードマネーと貨幣の供給」「貨幣乗数」を読んでおくこと。(60分)
11	乗数理論とIS-LM理論(1)	有効需要の原理、乗数理論	テキスト第6章「有効需要の原理」「乗数理論」を予習しておくこと。(60分)
12	乗数理論とIS-LM理論(2)	財市場とIS曲線、貨幣市場とLM曲線、IS-LM分析	テキスト第6章「IS曲線とLM曲線」「IS-LM分析」、7章「IS-LM分析における金融政策の有効性」を読んでおくこと。(60分)
13	IS-LM分析と財政・金融政策の効果(1)	流動性のわな、非伝統的金融政策、ルカス批判、	テキスト第7章「IS-LM分析における経済政策の有効性」「非伝統的金融政策」を読んでおくこと。(60分)
14	IS-LM分析と財政・金融政策の効果(2)	日本の財政赤字、国債の中立命題	テキスト第7章「IS-LM分析における経済政策の有効性」、第8章を読んでおくこと。(60分)
15	まとめ(期末課題)		これまでの復習、練習問題の予習(60分)

関連科目: ミクロ経済学、経済学入門

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マクロ経済学入門	福田慎一、照山博司	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
 期末課題 (テストまたはレポート) 50%
 小テスト 50%
 小テストは原則毎回 Moodle で行います。

学生へのメッセージ
 事前に指定されたテキストの範囲を読んで問題意識を持って講義に臨んでください。事後にはテキストやノートでの復習は必ずすること。

担当者の研究室等
 11号館7階(杉本研究室)

備考
 第1回の講義は、リモートで行います。資料、課題などは Moodle で配布、提出受付しますので、事前に登録して下さい。講義の方法の変更などは Teams で連絡します。必ず確認して下さい。

科目名	商業簿記	科目名 (英文)	Commercial Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊瀬 堂人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2028a0		

授業概要・目的	1年次で学習した内容をさらに発展させた簿記および会計学の知識を養成することを目的とする。具体的には2級の商業簿記を中心に、より実践的な会計知識を学習する。
到達目標	令和3年度以降の日本商工会議所簿記検定2級（商業簿記）レベルの簿記論・会計学の知識と応用能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	簿記2級の内容を中心に授業を進める。また関連する簿記3級の内容も適宜扱うが、全てを取り上げることが難しいため、簿記3級の知識を有していることが望ましい。授業の前半では当該テーマの解説を行い、後半では問題演習を行う。商業簿記2級で扱われるテーマは非常に多岐にわたるため、受講を円滑にするためには毎授業ごとに予復習を行うことが必須である。詳細な留意点については初回授業時に説明するので、必ず受講すること。
科目学習の効果（資格）	日本商工会議所簿記検定2級の合格を目指す。ただし、当該検定に合格するには、本講義に加えて、2級工業簿記も習得する必要がある。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション「簿記一巡の手続と財務諸表」	簿記一巡の手続を復習し、全体の流れを改めて確認する。加えて、授業の進め方、評価方法等について説明する。	「簿記入門」で学んだ「全体の会計処理の流れ」を改めて復習認する。教科書のテーマ0、1をしっかりと「予習」しておくこと（1.5時間）。また質問があれば準備しておくこと。
2	商品売買	教科書のテーマ2に従い、簿記3級範囲の商品売買の復習とともに、返品や割引などに関する演習を行う。	教科書のテーマ2をしっかりと「予習」しておくこと（1.5時間）。当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること。（1.5時間）
3	現金および預金	教科書のテーマ3に従い、現金預金に関連する項目の演習を行う。	教科書のテーマ3をしっかりと「予習」しておくこと（1.5時間）。当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
4	債権・債務	教科書のテーマ4に従い、クレジット売掛金や電子記録債権・債務などの債権・債務に関連する項目の演習を行う。	教科書のテーマ4をしっかりと「予習」しておくこと（1.5時間）。当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
5	有価証券	教科書のテーマ5に従い、有価証券に関する知識を整理する。	教科書のテーマ5をしっかりと「予習」しておくこと（1.5時間）。当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
6	有形固定資産	教科書のテーマ6、7に従い、有形固定資産の取得や減価償却などに関する知識を整理する。	教科書のテーマ6、7をしっかりと「予習」しておくこと（1.5時間）。当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
7	リース取引	教科書のテーマ8に従い、リース取引の知識を整理し、問題演習に取り組む。	教科書のテーマ8をしっかりと「予習」しておくこと（1.5時間）。当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
8	無形固定資産等と研究開発費、引当金	教科書のテーマ9、10に従い、無形固定資産等および引当金に関する問題演習を行う。	教科書のテーマ9、10をしっかりと「予習」しておくこと（1.5時間）。当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
9	外貨換算会計、税金	教科書のテーマ11、12に従い、外貨換算会計および税金に関する知識を整理する。	教科書のテーマ11、12をしっかりと「予習」しておくこと（1.5時間）。当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
10	株式の発行	教科書のテーマ13に従い、株式の発行に関する知識を整理し、問題演習に取り組む。	教科書のテーマ13をしっかりと「予習」しておくこと（1.5時間）。当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
11	剰余金の配当と処分	教科書のテーマ14に従い、剰余金に関する知識を整理し、株主資本変動計算書を概括する。	教科書のテーマ14をしっかりと「予習」しておくこと（1.5時間）。当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
12	株主資本等変動計算書	教科書のテーマ14の中でも、株主資本変動計算書に重点をおいて問題演習に取り組む。	教科書のテーマ14をしっかりと「予習」しておくこと（1.5時間）。当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
13	決算手続き	教科書のテーマ15に従い、決算手続きを概説し、精算表の作成に取り組む。	教科書のテーマ15をしっかりと「予習」しておくこと（1.5時間）。当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
14	税効果会計	教科書のテーマ17に従い、税効果会計に関する知識を整理する。	教科書のテーマ17をしっかりと「予習」しておくこと（1.5時間）。当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
15	本支店会計、合併と事業譲渡	教科書のテーマ18、19に従い、税効果会計に関する知識を整理する。	教科書のテーマ18、19をしっかりと「予習」しておくこと（1.5時間）。当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。

関連科目	簿記入門、財務諸表論入門、財務会計論
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	合格テキスト 日商簿記2級 商業簿記	TAC 簿記検定講座	TAC 出版
	2	合格トレーニング 日商簿記2級 商業簿記	TAC 簿記検定講座	TAC 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末課題 70%、授業で出題する課題 30%			
学生への メッセージ	商業簿記2級で扱う内容は、3級に比べて非常に多岐にわたるものであるが、会計知識はビジネス言語とも呼ばれ、企業の経済活動を解釈するうえで非常に有用なツールである。早い段階で応用的な簿記・会計学の知識を習得することは社会に出てからも非常に有用である。予復習をしっかりと行い、主体的に授業へと参加することが望ましい。			
担当者の 研究室等	11号館8階伊瀬研究室			
備考	講義の内容が前後するなど変更等がある時は、可能な限り事前に伝える。 詳細な留意点に関しては初回授業時に説明するので、必ず出席すること。 リモート講義受講にあたって、スマートフォンを平常点計算のために使用するので、PCなどスマホ以外の端末で受講することが望ましい。			

科目名	工業簿記	科目名 (英文)	Industry Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2029a0		

授業概要・目的
 商業簿記は、卸売店、小売店などの商品売買業を対象とする簿記であるが、工業簿記は、製造業(メーカー)を対象とする簿記である。製造業では、商品売買業では行われない製造活動が行われる。そこで、工業簿記では、外部取引に関する記録・計算の他に、外部から購入した材料、労働力、機械設備などの経営資源を利用して、企業内部で製品を造り出していく製造活動から生じる様々な内部取引の記録・計算が必要となる。また、製造活動の記録・計算のためには、複式簿記に加えて原価計算の利用も必要不可欠となる。本講義は、この工業簿記および原価計算の基礎知識を身につけることを目的としている。
 SDGs-8, 12

到達目標
 工業簿記および原価計算の基本事項を理解し、日商簿記検定2級程度の工業簿記の記帳ができることを目標とする。

授業方法と留意点
 対面授業の再開まで、動画視聴型の授業を行います。毎回 Teams の授業動画を視聴し、その内容をノートに整理しまとめた後で、moodle を通じて、毎回必ず小テストに解答し、提出して下さい。小テストの解答の際、必要な場合電卓を使用しても構いません。小テストの提出には期限(1週間)がありますので、必ず指定された期限までに提出して下さい。なお、小テストの解答は、実施授業回ごとに、moodle に資料として解答期限の後に提示しますので確認してください。

科目学習の効果(資格)
 日商簿記検定2級以上や公認会計士試験の受験のための基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと簿記の基本事項の確認	授業の内容・授業の進め方・評価基準等についての説明、複式簿記の基本事項の確認(仕訳など)	事前:借方・貸方の区別や仕訳などの簿記の基本事項を復習しておく(4時間) 事後:簿記の基本事項のうち苦手箇所を再度復習する(2時間)
2	工業簿記の基礎(1)	工業簿記と原価計算、原価計算の目的、原価計算の手続過程、原価計算の形態	事前:教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後:授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
3	工業簿記の基礎(2)	原価の一般概念、原価の諸概念、原価要素	事前:教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後:授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
4	材料費の計算(1)	材料費の分類、材料購入原価の計算	事前:教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後:授業でやった例題の復習をする(1時間)。
5	材料費の計算(2)	材料消費量の把握、材料消費価格の計算、棚卸減耗費の把握	事前:教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後:授業でやった例題の復習をする(1時間)。
6	労務費の計算(1)	労務費の分類、支払賃金の計算	事前:教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後:授業でやった例題の復習をする(1時間)。
7	労務費の計算(2)	消費賃金の計算	事前:教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後:授業でやった例題の復習をする(1時間)。
8	経費の計算	経費の分類、経費の計算	事前:教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後:授業でやった例題の復習をする(1時間)。
9	部門別計算(1)	部門別計算の目的、原価部門の設定	事前:教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後:授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
10	部門別計算(2)	部門個別費と部門共通費の区分、原価要素の各部門への集計	事前:教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後:授業でやった例題の復習をする(1時間)。
11	部門別計算(3)	補助部門費の配賦	事前:教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後:授業でやった例題の復習をする(1時間)。
12	個別原価計算	個別原価計算の意義、個別原価計算の手続	事前:教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後:授業でやった例題の復習をする(1時間)。
13	総合原価計算(1)	総合原価計算の意義、単純総合原価計算	事前:教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後:授業でやった例題の復習をする(1時間)。
14	総合原価計算(2)	組別総合原価計算、等級別総合原価計算	事前:教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後:授業でやった例題の復習をする(1時間)。
15	まとめ	授業全体のまとめ	事前:今までやった内容を教科書でざっと確認する(2時間)。 事後:特に苦手な部分を復習する(4時間)。

関連科目
 簿記入門、財務会計論、管理会計論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	原価・管理会計の基礎	山田庫平他	中央経済社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
 定期試験の点数(70%)と毎回の授業で行う小テストの合計点数(30%)に基づいて評価する。

学生へのメッセージ
 講義について分からないところがあれば、メール等で質問して下さい。

担当者の研究室等
 11号館7階(三木准教授室)

備考

科目名	財務会計論 I	科目名 (英文)	Financial Accounting I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊瀬 堂人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2030a0		

授業概要・目的	財務会計とは、企業の財政状況や経営成績を株主や債権者等の利害関係者に伝達することを目的に、企業活動を認識・報告することであり、「ビジネス言語」とも呼ばれる。企業の経済活動を正確に理解するためには、この「ビジネス言語」を正しく読み取る能力が必要である。この講義の目的は、財務諸表がどのように作成されているのかを理解し、どのように活用すべきかを学習することである。
到達目標	財務諸表を作成する一連の流れを理解し、作成された財務諸表から企業活動の概要を読み取ることができるようになることを目指す。また、その知識を応用して財務諸表に示された会計情報を用い、自ら投資判断を行うことができるようになることを本講義の目的とする。本講義の受講に当たっては、日商簿記2級、3級の商業簿記の基礎的知識を習得していることが望ましい。
授業方法と留意点	配布する資料をもとに授業を進める。授業では事例研究等を行う予定であるので、主体的に授業に取り組むことが望ましい。詳細な留意点は初回授業で説明するので、必ず受講すること。リモート講義および講義に関する即時的な連絡事項は teams で行うので、teams を適宜参照しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	日商簿記検定試験2級以上、税理士試験、公認会計士試験、ファイナンシャル・プランナーの資格取得に関連する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	概要説明、会計の意義	本講義の進め方および講義予定を説明する。また、財務会計の種類と目的に関する概括を行う。	会計の種類と目的について自分なりに調べておくこと (1時間)。
2	財務会計への法規制と財務会計の役割	日本の財務会計と会社法、金融商品取引法および法人税法との関係性を解説する。また、財務会計が担う役割についてを説明する。	会計の役割を整理しておくこと (1時間)。「トライアングル体制」および財務会計の役割を整理しておくこと (1.5時間)。
3	財務会計のシステムと基本原則	複式簿記の構造や損益計算、資産評価の基本原則を説明する。	財務会計が担う役割を理解しておくこと (0.5時間)。損益計算および資産評価の基本原則を整理しておくこと (1.5時間)。
4	株式会社の設立と資金調達	株式会社の設立にかかる一連の流れを説明するとともに、自己資本と他人資本について解説する。	自己資本と他人資本について自分なりに調べておくこと (1時間)。
5	社債	企業の資金調達法の一つである社債について詳細に説明を行う。	社債に関する知識を整理しておくこと (1時間)。
6	仕入・生産活動	企業の営業循環を説明するとともに、仕入・生産活動に関連する企業活動を概観する。	企業の仕入・生産活動および原価、人件費などを整理しておくこと (1時間)。
7	販売活動	売上の認識と測定法や売上原価の計算方法、棚卸資産の期末評価を解説する。	企業の仕入・生産から販売までの営業循環を整理しておくこと (2時間)。
8	固定資産	固定資産の種類や取得についてを解説する。また、研究活動と特許等の無形固定資産に関する説明を行う。	固定資産の種類や取得についてを整理しておくこと (2時間)。
9	減価償却	固定資産の価値減耗の認識法である減価償却に関する説明を行う。	減価償却の概要とその具体的な方法を整理しておくこと (2時間)。
10	財務諸表の作成	財務諸表の作成にかかる一連の流れを整理するとともに、報告式と勘定式による表示法を解説する。	財務諸表の作成の流れと表示されている情報が何を示しているのかを整理しておくこと (2時間)。
11	クリーン・サープラス関係	貸借対照表と損益計算書に関する概括を行うとともにそれら二つの繋がりであるクリーン・サープラス関係に関する説明を行う。	貸借対照表と損益計算書に関する知識を整理しておくこと (1時間)。貸借対照表と損益計算書の繋がりを整理しておくこと (1時間)。
12	財務分析	財務分析を行う上で、重要となる指標をいくつか説明する。また、財務分析をより簡便に行うことができる比例縮尺貸借対照表の見方を説明する。	貸借対照表と損益計算書に関する知識を整理しておくこと (1時間) 自ら興味のある企業の比例縮尺貸借対照表を確認しておくこと (1時間)。
13	事例研究 (1)	実際の企業データを用いて簡易的な財務分析を行い、企業活動と財務諸表の関連性を検討する。	第12回で用いた資料を確認しておくこと (1時間)。
14	事例研究 (2)	実際の企業データを用いて簡易的な財務分析を行い、その結果に関する議論を行う。	第12回で用いた資料を確認しておくこと (1時間)。
15	講義の総括	第1回から14回で学習した内容の概括を行う。	これまでの授業内容で理解できていない部分などを事前に把握しておくこと (2時間)。

関連科目 企業簿記システム、会計情報論、管理会計論、経営分析論、国際会計論、税務会計論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定なし		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	財務会計・入門	櫻井 久勝、須田 一幸	有斐閣アルマ
2	財務会計講義(第20版)	櫻井 久勝	中央経済社	
3				

評価方法 (基準)	期末レポートの評価 70%、毎授業で出題する課題の成績30%
学生への メッセージ	本講義により会計の基礎的知識を習得することは、公認会計士あるいはファイナンシャルプランナー等の受験に役立つ他、就職活動ひいては就職後においても有用なものとなる。また、自らの資金運用としての投資判断にも役立つものであるので、主体的に授業へと参加してもらいたい。
担当者の 研究室等	11号館8階(伊瀬研究室)
備考	講義の内容が前後するなど若干の変更等がある場合は、可能な限り事前に伝える。 詳細に関しては初回授業で説明する。 リモート講義受講にあたって、スマートフォンを平常点計算のために使用するので、PCなどスマホ以外の端末で受講することが望ましい。

科目名	財務会計論Ⅱ	科目名 (英文)	Financial Accounting II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊瀬 堂人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2031a0		

授業概要・目的	財務会計とは、企業の財政状況や経営成績を株主や債権者等の利害関係者に伝達することを目的に、企業活動を認識・報告することであり、「ビジネス言語」とも呼ばれる。企業の経済活動を正確に理解するためには、この「ビジネス言語」を正しく読み取る能力が必要である。この講義では、財務会計論Ⅰの内容を前提に、株主資本等変動計算書の作成方法や財務諸表分析などを学習し、より実践的に財務諸表を活用できるようになることを目的とする。
到達目標	財務諸表で示されている会計情報を正しく理解することで、企業の実態に関する概要を把握することができるようになることを目標とする。また、各財務指標などを用いて投資判断を行うことができるようになることを目指す。受講に関しては、日商簿記3級レベルの基礎知識を習得していることおよび財務会計論Ⅰを受講していることが望ましい。
授業方法と留意点	配布する資料をもとに授業を進める。授業では事例研究等を行う予定であるので、主体的に授業に取り組むことが望ましい。詳細な留意点は初回授業で説明するので、必ず受講すること。
科目学習の効果 (資格)	簿記検定試験2級以上、税理士試験、公認会計士試験、ファイナンシャル・プランナーの資格取得に関連する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	概要説明、財務会計の役割	本講義の進め方および講義予定を説明する。また、財務会計論Ⅰの内容を概括する。	財務会計論Ⅰの資料を復習しておくこと (1時間)
	2	財務諸表の作成 (1): キャッシュ・フロー計算書	キャッシュ・フロー計算書の意義とその作成法および示されている情報の解釈についてを説明する。	キャッシュ・フロー計算書の作成法について整理しておく (2時間)
	3	キャッシュ・フローと会計発生高	当期純利益とキャッシュ・フローの関係性を解説するほか、当期純利益の非現金収支部分である会計発生高の性質に関する説明を行う。	キャッシュ・フローと会計発生高についてを整理しておく (1時間)。
	4	財務諸表の作成 (2): 株主資本等変動計算書	第四の財務諸表とも呼ばれる株主資本等変動計算書の内容を概説するとともにその作成法に関する説明を行う。	株主資本等変動計算書について自分なりに調べておくこと (1時間)。 株主資本等変動計算書やキャッシュ・フロー計算書が作成される意義について整理しておくこと (1時間)。
	5	財務諸表の作成 (3): 株主資本等変動計算書	株主資本等変動計算書の作成方法を説明し、数値例を用いて問題に取り組む。	株主資本等変動計算書の作成方法を復習しておくこと (1時間)。 授業で配布する問題に取り組む (1時間)。
	6	財務諸表による経営分析 (1)	財務会計論Ⅰで扱った指標も踏まえて、より詳しく財務諸表分析、特に安全性を行う方法を紹介する。	財務会計論Ⅰで扱った指標を復習しておくこと (1時間)。 各指標の意味と計算方法を整理しておくこと (1時間)。
	7	財務諸表による経営分析 (2)	財務諸表分析により企業の収益性を分析する方法を紹介する。	各指標の意味と計算方法を整理しておくこと (1時間)。
	8	財務諸表による経営分析 (3)	財務諸表分析により企業の収益性を分析する方法を紹介する。その中でも特に、ROEに着目して解説を行う。	各指標の意味と計算方法を整理しておくこと (1時間)。
	9	ケーススタディ: 財務諸表による経営分析 (1)	実際の企業データを用いて、企業の収益性、安全性および成長性を分析し、その内容に関する検討を行う。	実際の企業データから財務分析を行い、自らの解釈を行うこと (3時間)
	10	ケーススタディ: 財務諸表による経営分析 (2)	実際の企業データを用いて、企業の収益性、安全性および成長性を分析し、その内容に関する検討を行う。	実際の企業データから財務分析を行い、自らの解釈を行うこと (3時間)
	11	ケーススタディ: 日本企業の国際比較	実際の企業データを用いて、日本企業が国際的にどのような位置づけにしているのかを概観する。	伊藤レポートの内容について整理すること (1時間)。
	12	利益マネジメント、会計不正とその実例	企業が利益を恣意的に操作して報告を行うことが確認されている。なぜそのような行動をとるのか、またそのことによる社会への影響を実例を踏まえて考察する。	利益マネジメントの種類とその影響を整理しておくこと (1時間)。 会計不正が行われた実例とその影響を調べておくこと (2時間)。
	13	自主的開示、会計基準の国際統合	近年、企業は情報を自主的に開示することがある。なぜこのような行動を企業がとるのかを解説する。また、グローバル化に伴い、会計基準がどのように変化していくのかを考察する。	自主的に開示を行なっている企業を調べ、その内容を整理すること (1時間)。 会計基準の変遷について整理すること (1時間)。
	14	ESG投資	環境、社会への取り組みなどを投資判断に織り込む ESG 投資に関する解説および ESG 投資が投資活動全体にもたらす影響を考察する。	ESG投資とは何かを事前に調べておくこと (1時間)。 ESG投資を促進するような行動をとる企業の実例を調べること (1時間)。
	15	講義の総括	第1回から14回で学習した内容の概括を行う。	これまでの授業内容で理解できていない部分などを事前に把握しておくこと (2時間)。

関連科目 企業簿記システム、会計情報論、管理会計論、経営分析論、国際会計論、税務会計論、財務会計論Ⅰ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	財務会計・入門	櫻井 久勝、須田 一幸	有斐閣アルマ
	2	財務会計講義(第20版)	櫻井 久勝	中央経済社
	3	財務会計の理論と実証	ウィリアム R スコット 訳： 太田 康広 椎葉 淳 西谷 順平	中央経済社
評価方法 (基準)	期末レポートの評価 70%、講義内で出題する課題 30%			
学生への メッセージ	講義により会計の基礎的知識を習得することは、公認会計士あるいはファイナンシャルプランナー等の受験に役立つ他、就職活動ひいては就職後においても有用なものとなる。また、自らの資金運用としての投資判断にも役立つものであるので、主体的に授業へと参加してもらいたい。			
担当者の 研究室等	11号館8階(伊瀬研究室)			
備考	講義の内容が前後するなど若干の変更等がある場合は、可能な限り事前に伝える。その他の詳細な事項に関しては初回授業で説明する。初回講義についておよび講義形式が変更となる場合などの連絡は、Teamsで行うためチームに必ず参加し連絡事項を確認しておくこと。			

科目名	管理会計論 I	科目名 (英文)	Management Accounting I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP2②		
科目ナンバリング	IDD2032a0		

授業概要・目的	管理会計は、企業内部の各階層の経営管理者が適切な意思決定や業績管理を行う上で役に立つ会計情報の提供を目的とする会計領域である。本講義では、管理会計の意義・役割について学んだ上で、標準原価計算や予算管理など伝統的な管理会計の諸技法の基礎知識を身につける。 SDGs-8, 9, 12
到達目標	日商簿記検定2級レベル以上の工業簿記・原価計算の知識(戦略の策定と遂行のための原価計算を除く)を身につける。
授業方法と留意点	対面授業の再開まで、動画視聴型の授業を行います。毎回 Teams の授業動画を視聴し、その内容をノートに整理しまとめた後で、moodle を通じて、毎回必ず小テストに解答し、提出して下さい。小テストの解答の際、必要な場合電卓を使用しても構いません。小テストの提出には期限(1週間)がありますので、必ず指定された期限までに提出して下さい。なお、小テストの解答は、実施授業回ごとに、moodle に資料として解答期限の後に提示しますので確認してください。
科目学習の効果(資格)	日商簿記検定2級以上や公認会計士試験の受験のための基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスおよび原価計算の基本事項の確認	授業内容・授業の進め方・評価基準等についての説明、原価計算の基本事項の確認	事前：教科書の「第1章 原価計算の意義」を読んでおく(2時間)。 事後：教科書の「第1章 原価計算の意義」の内容をノートに整理する(2時間)
2	管理会計の意義(1)	企業会計とは何か、財務会計と管理会計の相違	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
3	管理会計の意義(2)	管理会計の体系(業績管理会計と意思決定会計)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
4	標準原価計算(1)	原価管理の意味、標準原価計算の意義と目的、標準原価の種類	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
5	標準原価計算(2)	原価標準の設定、原価差異の分析(直接材料費、直接労務費)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
6	標準原価計算(3)	原価差異の分析(製造間接費)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
7	損益分岐点分析	損益分岐点分析の意義、損益分岐点の計算方法、原価の固定分解	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
8	直接原価計算	直接原価計算の意義、直接原価計算の計算構造、直接原価計算と経営管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
9	予算管理(1)	予算管理の意義、予算管理の機能	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
10	予算管理(2)	予算の種類と体系、予算の編成、参加的予算管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
11	予算管理(3)	予算統制と予算実績差異分析	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
12	差額原価収益分析(1)	経営意思決定の意義と分類、経営意思決定のプロセス、特殊原価概念	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
13	差額原価収益分析(2)	業務執行的意思決定と差額原価収益分析	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
14	設備投資の経済性計算	戦略的意思決定の意義、設備投資案の評価方法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
15	まとめ	授業全体のまとめ	事前：今までやった内容を教科書でざっと確認する(4時間)。 事後：今までやった内容の中で特に苦手な部分の復習をする(4時間)。

関連科目	工業簿記、財務会計論など
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	原価・管理会計の基礎	山田庫平ほか	中央経済社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	定期試験の点数(70%)と毎回の授業で行う小テストの合計点数(30%)に基づいて評価する。
学生への メッセージ	講義について分からないところがあれば、メール等で質問して下さい。
担当者の 研究室等	11号館7階(三木准教授室)
備考	

科目名	管理会計論Ⅱ	科目名 (英文)	Management AccountingⅡ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2033a0		

授業概要・目的	管理会計は、企業内部の各階層の経営管理者が適切な意思決定や業績管理を行う上で役に立つ会計情報の提供を目的とする会計領域である。本講義では、管理会計論Ⅰの内容を理解していることを前提にして、原価企画やABCなど1980年代後半から登場してきた戦略管理会計と呼ばれる新しい管理会計の領域の諸技法について学んでいく。 SDGs-8, 9, 12
到達目標	日商簿記検定1級の工業簿記・原価計算で出題される「戦略の策定と遂行のための原価計算」に関する知識を身につける。
授業方法と留意点	Teamsを用いて教材・課題提供型で授業を行う。学生の理解度を高めるため、毎回講義の内容に関連した小テストをMoodleを用いて行う。また、授業の最終回にMoodleを用いて期末テストを行う。小テストや期末テストの解答の際に、必要であれば電卓を使用してもよい。
科目学習の効果 (資格)	日商簿記検定1級以上や公認会計士試験の受験のための基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスおよび管理会計の基本事項の確認	授業内容・授業の進め方・評価基準等の説明、管理会計の基本事項の確認	事前：教科書の「第2章 管理会計の意義」を読んでおく(3時間) 事後：教科書の「第2章 管理会計の意義」の内容をノートに整理する(1時間)。
2	原価企画(1)	原価企画の定義、原価企画の目的と特徴	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
3	原価企画(2)	原価企画の基礎概念とプロセス	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
4	原価企画(3)	目標原価の設定方法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
5	原価企画(4)	VEによる目標原価の達成活動	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
6	原価企画(5)	原価見積による設計代替案に対する経済性の評価、マイルストーン管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
7	ABC(1)	ABCの意義、ABCの特質、ABCの基礎概念	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
8	ABC(2)	ABCの計算構造、ABCによる製品原価の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
9	ABC(3)	ABMの意義、活動分析、原価作用因分析、業績分析	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
10	ABC(4)	ABBの意義、ABBにおける予算編成プロセス	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
11	バランスト・スコアカード(1)	バランスト・スコアカードの意義、バランスト・スコアカードの基本構造	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
12	バランスト・スコアカード(2)	因果連鎖、戦略マップ	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
13	バランスト・スコアカード(3)	バランスト・スコアカードによる戦略の具体化と監視、バランスト・スコアカードによる戦略のコントロール	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
14	ライフサイクル・コストニング	ライフサイクル・コストニングの意義、ライフサイクル・コストの特徴、ライフサイクル・コストのマネジメント	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1時間)。
15	期末テスト	期末テストの実施	事前：今までやった内容をしっかり復習する(6時間)。 事後：試験でできなかった、あるいは難しかったテーマについてもう一度復習する(2時間)

関連科目	工業簿記、管理会計論Ⅰ、財務会計論など
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	原価・管理会計の基礎	山田庫平ほか	中央経済社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回の授業で行う小テストの合計点数(30%)と期末試験の点数(70%)に基づいて評価する。
学生への メッセージ	講義の内容で分からないところがあれば、遠慮なく質問して下さい。
担当者の 研究室等	11号館7階(三木准教授室)
備考	新型コロナの状況によって、対面授業に切り替える可能性があります。その場合は、事前はこちらから連絡します。

科目名	会計情報分析論	科目名 (英文)	Financial Statements Analysis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP2②		
科目ナンバリング	IDD2034a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 企業は誕生してから消滅するまで会計情報を生み出す存在であり、会計情報には企業がおこなった経済活動が反映されている。 会計情報を理解すれば、企業がどのような経済活動を行い、利益を獲得したのかその仕組みを理解することができる。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本財務諸表である貸借対照表と損益計算書の会計情報を用いて、資金調達から利益獲得までの企業がおこなう諸活動の全体像が理解できる。 企業内部の利害関係者である管理者や経営者の観点から、企業の安全性、収益性、効率性を評価し、改善策が提案できる。
授業方法と留意点	<p>★ 4月26日の授業から、オンライン授業となります。講義内で案内したように、リアルタイム+Teamsで実施しますので、該当授業日・授業開始時間に「会計情報分析論 (経営分析論)・呉重和」のTeams (コード:「tqq50sqj」)の授業日チャンネルに参加してください。例えば、4月26日4限の授業については、4月26日15:00に、「会計情報分析論 (経営分析論)・呉重和」Teams→「12. 第2回4月26日」のチャンネルで、リアルタイムの授業を実施します。</p> <p>≫授業レジュメを事前にMoodleから入手し、活</p>
科目学習の効果 (資格)	中小企業診断士、証券アナリスト、ファイナンシャルプランナー、簿記検定など、会計関連資格取得に必要な基礎知識を提供する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義概要	事前:配布資料の入手と確認 (30分) 事後:授業アンケート (10分)
	2	貸借対照表と資産	企業の資金運用の状態	事前:講義資料の確認 (30分) 事後:小テスト (20分)
	3	貸借対照表と資本	企業の資金調達の状態と財務諸表の入手方法	事前:講義資料の確認 (30分) 事後:小テスト (20分)
	4	百分率貸借対照表と推移比分析	百分率貸借対照表の作成と推移比分析	事前:講義資料の確認 (30分) 事後:小テスト (20分)
	5	貸借対照表と安全性分析	企業の安全性と改善策	事前:講義資料の確認 (30分) 事後:小テスト (20分)
	6	安全性と改善策	課題①に対する質問対応	課題① (120分)
	7	報告式損益計算書と勘定式損益計算書	勘定式損益計算書と段階別利益	事前:講義資料の確認 (30分) 事後:小テスト (20分)
	8	百分率損益計算書と利益率	百分率損益計算書と趨勢比分析	事前:講義資料の確認 (30分) 事後:小テスト (20分)
	9	収益性と改善策	収益性を向上させる改善策	事前:講義資料の確認 (30分) 事後:小テスト (20分)
	10	産業別損益計算書	産業別損益計算書の特徴	事前:講義資料の確認 (30分) 事後:小テスト (20分)
	11	収益性と改善策	課題②に対する質問対応	課題② (120分)
	12	収益性と効率性	貸借対照表と損益計算書の両方を用いた収益性分析	事前:講義資料の確認 (30分) 事後:小テスト (20分)
	13	投下資本利益率の要因分解	ROAの2分解と要因分析	事前:講義資料の確認 (30分) 事後:小テスト (20分)
	14	デュボン展開と資本コスト	ROAのデュボン展開と資本コスト	事前:講義資料の確認 (30分) 事後:小テスト (20分)
	15	収益性と効率性	課題③に対する質問対応、	課題③ (120分)

関連科目	企業簿記 (簿記入門), 財務会計論, 管理会計論, 企業分析 (財務戦略ケース分析) など
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない。講義資料 (スライド, レジュメ等) はMoodle 又はTeams の講義資料チャンネルからダウンロードし利用すること。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス・アカウンティング	山根節・太田康広・村上祐太郎	中央経済社
	2	財務諸表分析	桜井久勝	中央経済社
	3	ビジネススクールで教える経営分析	太田康弘	日本経済新聞社

評価方法 (基準)	<p>★原則基準1:小テスト10%+課題①10%+課題②10%+課題③30%+期末試験40%</p> <p>☆オンライン基準2:小テスト20%+課題①20%+課題②20%+課題③40%</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テストは10回ほど実施予定 課題はMoodleから課題を入手し、Wordファイルで回答し、Moodleに提出 期末試験が実施できない状況においては、基準2を適用する。
-----------	---

学生へのメッセージ	会計情報分析論では、経営者の立場から、企業経営の問題点について検討し、改善策を提案できることを目標とする。経営者になる・なったつもりで講義に挑んでほしい。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館7階 呉准教授室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	コーポレート・ファイナンス I	科目名 (英文)	Corporate Finance I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊瀬 堂人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2037a0		

授業概要・目的	企業は経済活動を行うにあたって様々なマーケットと関係性を持っている。コーポレート・ファイナンスでは、その中でも「お金」のマーケットとの関係性に注目することで、どのような金融活動を行うことが企業にとって最適かを分析する。本講義の目的は、コーポレート・ファイナンスの基礎概念を理解することである。具体的には、コーポレート・ファイナンスの基本的な理論を学習後に、基礎理論に基づいた分析ツールを用いて事例研究を行い、結果に関する評価および議論を行う。
到達目標	企業の経営活動にとって欠かすことのできないコーポレート・ファイナンスの基本概念を理解し、資本コスト、企業価値評価および、理論株価などを自ら算出することができる。
授業方法と留意点	配布する資料をもとに授業を進める。コーポレート・ファイナンスで学習する内容をより実践的に身に付けるためには、授業で紹介した理論等を用いて自ら計算することが必要である。そのため、適宜出題する練習問題等を授業の事前および事後に積極的に取り組むことが望ましい。詳細な留意点は初回授業で説明するので、必ず受講すること。リモート講義および講義に関する即時的な連絡事項は teams で通知するので、teams を適宜参照しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	企業への就職を希望する者や起業を志す者にとっては、企業の財務活動の基本的概念を理解することができる。また、公認会計士、証券アナリストなどの資格試験範囲にも関連している。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	概要説明	コーポレート・ファイナンスの基礎的内容および本講義の概要を説明する。	講義で配布する資料に目を通し、コーポレート・ファイナンスが企業活動の中でどのような領域を扱うのかを整理しておくこと (2時間)。
2	会計とファイナンス	コーポレート・ファイナンスを理解する上で重要な会計とファイナンスの基礎知識を概説するとともに、両者のつながりや違いなどについてを解説する。	会計とファイナンスがどのような内容を扱うかを自分なりに整理しておくこと (1時間)。 会計とファイナンス、それぞれの目的および違いについて整理しておくこと (1時間)。
3	財務諸表 (1)	企業の財政状態や経営成績が示されている財務諸表に関する概説を行い、投資家の目線から企業の状況をどのように把握するのかについてを解説する。	財務諸表とはどのようなものかを参考文献等で事前に調べておくこと (1時間)。 財務諸表がどのような目的で作成されるのか、また財務諸表にどのような情報が示されているかを整理しておくこと (1時間)。
4	財務諸表 (2)	財務諸表に基づいた企業分析についてを概説する。また、実際の企業データから簡易的な財務分析を行う。	第3回で配布した資料を復習し、財務諸表に関する知識を整理しておくこと (1時間)。実際の企業データを用いて簡易的な財務分析を行うこと (1時間)。
5	資金調達	企業の資金調達の手段である債権および株式に関する基礎知識を解説するとともに、これらの資金調達活動がどのように違うのかを分析する。	直接金融と間接金融について参考文献等で事前に調べておくこと (1時間)。 債権と株式の特徴および両者の違いについて整理しておくこと (2時間)。
6	資本コスト (1)	企業の資金調達活動を理解する上で重要な資本コストという概念を解説する。	企業の視点および投資家の視点から資本コストがどのような意味を持つかを事前に調べておくこと (1時間)。 負債の資本コスト、株式の資本コストおよび、加重平均資本コストを整理し、それぞれの関係性を理解すること (2時間)。
7	資本コスト (2)	資本コストを算出する上で重要な CAPM に関する説明を行う。また、実際のデータでこのモデルを活用する。	第6回で配布した資料を復習し、資本コストに関する知識を整理しておくこと (2時間)。 実際の企業データを用いて簡易的な資本コスト推定を行うこと (1時間)。
8	現在価値	ファイナンスの基礎知識である現在価値の概要を説明する。	現在価値とは何か、どのような意味を持つかを事前に調べておくこと (1時間)。 現在価値について、配布資料をもとに整理しておくこと (1時間)。
9	現在価値：演習 (1)	現在価値に関する問題を演習する。	授業で配布する現在価値を用いる練習問題に取り組むこと (1.5時間)。
10	現在価値：演習 (2)	現在価値に関する問題を演習する。	授業で配布する現在価値を用いる練習問題に取り組むこと (1.5時間)。
11	企業価値評価 (1) (企業価値とは?)	企業価値に関する解説を行うとともに、企業価値評価法の概要および純資産法を解説する。	企業価値がどのようなものであるかを参考文献等で事前に調べておくこと (1時間)。 授業資料を復習し、それぞれの企業価値評価法を整理しておくこと (2時間)。
12	企業価値評価 (2) (マルチプル法)	市場において成立する価格をもとにする「マーケット・アプローチ」による企業価値評価を概説し、その中でも「マルチプル法」に焦点を当てて解説する。	マルチプル法が使用された事例を新聞記事等で調べておくこと (1時間)。 授業で配布する練習問題に取り組み、マルチプル法を修得すること (2時間)。
13	企業価値評価 (2) (マルチプル法)	市場において成立する価格をもとにする「マーケット・アプローチ」による企業価値評価を概説し、その中でも「マルチプル法」に焦点を当てて解説する。	授業で配布する練習問題に取り組み、マルチプル法を修得すること (2時間)。
14	ケーススタディ	第11回から第13回で学習した内容をもとに、実際の企業情報を用いて企業価値評価を行い、それぞれの方法に関する議論や検討を行う。	第11回から第13回の講義資料に目を通し、それぞれの企業価値評価法を整理しておくこと (1時間)。 実際の企業データを用いて、簡単な企業価値評価を行うこと (3時間)。
15	講義の総括	第1回目から第14回目までの内容を概説し、講義の総括を行う。	これまでの授業内容で理解できていない部分などを事前に把握しておくこと (2時間)。

関連科目	簿記入門、ミクロ経済学、財務会計論、ファイナンス、会計情報分析論、企業分析 (財務戦略ケース分析) など								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名				
番号	書籍名	著者名	出版社名						

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コーポレート・ファイナンス入門<第2版>	砂川 信幸	日経文庫
	2	知識の基盤になるファイナンス	石橋 尚平 高橋 陽二 内木 栄莉子	中央経済社
	3			
評価方法 (基準)	期末レポート70% , 毎授業内で出題する課題 30%			
学生への メッセージ	コーポレート・ファイナンスで扱う内容には、聞きなれない専門用語が多分に含まれ、難解に感じるかもしれない。しかし、その仕組みや理論をしっかりと理解すれば、実社会でも役立つ有用なツールとなる。そのため、毎授業ごとに予復習を行うことが望ましい。			
担当者の 研究室等	伊瀬研究室 (11号館8階)			
備考	講義の内容が前後するなど若干の変更等がある場合は、可能な限り事前に伝える。 詳細に関しては初回授業で説明する。 リモート講義受講にあたって、スマートフォンを平常点計算のために使用するので、PCなどスマホ以外の端末で受講することが望ましい。			

科目名	コーポレート・ファイナンスⅡ	科目名 (英文)	Corporate Finance II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊瀬 堂人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2038a0		

授業概要・目的	企業は経済活動を行うにあたって様々なマーケットと関係性を持っている。コーポレート・ファイナンスでは、その中でも「お金」のマーケットとの関係性に注目することで、どのような金融活動を行うことが企業にとって最適かを分析する。 コーポレート・ファイナンスⅡではコーポレート・ファイナンスⅠで学んだ知識を前提として、より発展的な内容を扱うとともに、事例研究を通して実践的な知識を紹介する。 本講義の目的は、企業の財務行動を理解し分析するうえで不可欠な知識・分析手法を十分に理解し、より実践的な経営学的素養を培うことである。
到達目標	企業の金融活動を正しく理解し、企業における実社会のさまざまな意思決定や行動が、企業価値の向上につながるものであるかどうかを、自分なりに、評価し、判断することができる。
授業方法と留意点	配布する資料をもとに授業を進める。 授業では事例研究等を行う予定であるので、主体的に授業に取り組むことが望ましい。 詳細な留意点は初回授業で説明するので、必ず受講すること。
科目学習の効果 (資格)	企業への就職を希望する者や起業を志す者にとっては、企業の財務活動の基本的概念を理解することができる。また、公認会計士、証券アナリストなどの資格試験範囲にも関連している。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義の概要説明	講義の概要説明を行うとともに、コーポレート・ファイナンスⅠで扱った内容を概括する。	コーポレート・ファイナンスⅠにおいて説明した現在価値の意味とその算定方法を復習しておくこと (2時間)。
2	企業価値評価と理論株価(1)	コーポレート・ファイナンスⅠで扱った企業価値評価を復習するとともに、配当割引モデルに基づいた企業価値評価法を説明する。	演習問題を通じて、企業価値の基礎的な算定方法を整理する (1.5時間)。
3	企業価値評価と理論株価(2)	DDM (配当割引モデル) 法を用いた理論株価の算出方法を解説したのちに練習問題を通して、理論への理解を深める。	CAPM および DDM 法を整理しておくこと (2時間)。 DDM 法を整理し、特徴および問題点に関する議論を受講生同士でディスカッションすること (3時間)。
4	企業価値評価と理論株価(3)	DCF 法を用いた理論株価の算出方法を解説したのちに練習問題を通して、理論への理解を深める。	DCF 法を整理しておくこと (2時間)。
5	企業価値評価と理論株価(4)	第4回で扱った知識を体得するために、DCF 法の演習問題およびケーススタディに取り組む。	DCF 法を整理し、特徴および問題点に関する議論を受講生同士でディスカッションすること (3時間)。
6	ROE と財務分析(1)	ROE という収益性指標が何を示しているのかを解説する。	ROE について事前に調べておくこと (1時間)。 ROE の算出方法を整理すること (1時間)
7	ROE と財務分析(2)	ROE を分解する「デュボン展開」に関する解説を行う。	デュボン展開について事前に調べておくこと (1時間)。 講義で配布する練習問題に取り組むこと (1時間)。
8	ROE と財務分析(3)	ROE のさらなる応用的な分解法である「上級デュボン展開」に関する解説を行う。	上級デュボン展開の各構成要素が何を示しているのかを整理すること (2時間)。
9	ROE と財務分析: ケーススタディ	実際の企業データを用いて、デュボン展開および上級デュボン展開を行い、その結果に関する解釈および議論を行う。	興味のある企業を選定し、自らデュボン展開を行うこと (3時間)。
10	日本企業の今とこれから	日本企業の ROE およびデュボン展開の各構成要素の数値を他国の数値と比較し、日本企業がどのような位置づけにいるのかを確認するとともに、今後の展望を考察する。	伊藤レポートの内容を整理すること (1.5時間)
11	企業の投資決定(1)	企業の投資決定方法を解説する。具体的には NPV 法の計算方式に関する解説を行う。	講義で配布する練習問題に取り組むこと (1.5時間)。
12	企業の投資決定(2)	企業の投資決定方法を解説する。具体的には IRR 法の計算方式に関する解説を行う。	講義で配布する練習問題に取り組むこと (1.5時間)。
13	企業の資本構成と配当政策(1)	配当政策に関する基礎理論であるモディリアーニ・ミラーの結論を用いて、資本構成が企業価値に与える影響を考察する。	資本構成が及ぼす企業価値および株主価値への影響を整理しておくこと (2時間)
14	企業の資本構成と配当政策(2)	配当政策に関する基礎理論であるモディリアーニ・ミラーの結論を用いて、資本構成および配当政策が企業価値に与える影響を考察する。	税金およびデフォルトコストを考慮した場合に、資本構成が企業価値および株主価値に及ぼす影響を整理しておくこと (2時間)
15	講義の総括	第1回目から第14回目までの内容を概説し、講義の総括を行う。	これまでの授業内容で理解できていない部分などを事前に把握しておくこと (2時間)。

関連科目 簿記入門、ミクロ経済学、財務会計論、ファイナンス、会計情報分析論、企業分析 (財務戦略ケース分析) など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『特に指定なし』		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コーポレート・ファイナンス入門<第2版>	砂川 信幸	日経文庫

	2	知識の基盤になるファイナンス	石橋 尚平 高橋 陽二 内木 栄莉子	中央経済社
	3			
評価方法 (基準)	期末レポート 70% , 講義内で出題する課題 30%			
学生への メッセージ	コーポレート・ファイナンスで扱う内容には、聞きなれない専門用語が多分に含まれ、難解に感じるかもしれない。しかし、その仕組みや理論をしっかりと理解すれば、実社会でも役立つ有用なツールとなる。そのため、毎授業ごとに予復習を行うことが望ましい。			
担当者の 研究室等	伊瀬研究室 (11号館8階)			
備考	講義の内容が前後するなど若干の変更等がある場合は、可能な限り事前に伝える。その他の詳細な事項に関しては初回授業で説明する。初回講義についておよび講義形式が変更となる場合などの連絡は、Teamsで行うためチームに必ず参加し連絡事項を確認しておくこと。			

科目名	ファイナンス I	科目名 (英文)	Finance I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP2⑩		
科目ナンバリング	IDD2035a0		

授業概要・目的	人は生きていく上でお金を利用する。働いてお金を受け取り、モノやサービスの消費に使う。また消費以外にも投資という形で金に働かせる。さらに借入により消費や投資のお金を賄うこともある。ファイナンスとは端的に言えばお金の管理を意味し、学問としてのファイナンスとは消費や投資、借入に関し、お金をいかに管理すべきかを論じたものである。お金の管理と言えば企業のそれを想起するかもしれないが、個人や家計レベルでも重要である。たとえ今はその重要性が分からなくても、社会に出れば否応なくファイナンスの重要性を認識するようになる。本講義はそのようなファイナンスの基礎知識の修得を目的としている。なお教員は、バブル経済の絶頂・崩壊前期を銀行渉外課員として過ごしたため、当時と現時との差異を考慮しつつ金融界の状況についても適宜言及する。
到達目標	1. 金利や貨幣、リスクの初歩的知識を得ること 2. 資金を借りるもしくは資産を運用する際の窓口である金融機関や借入・運用の場である金融市場の初歩的知識を習得すること 3. 長期の資産運用に関する理論的な考え方が分かること
授業方法と留意点	授業形態のオンライン化に伴い以下のように一部改訂します。 -----2021年4月15日現在の改訂部分----- 講義第1回目は Teams による遠隔授業とした。すでに開講済み。以降、4/27 からオンライン講義 (Teams 経由) とする。第1回目を受講していない学生や不明点のある学生は Teams に質問箱があるので不明な点は書き込んでください。 -----改訂部分ここまで-----
科目学習の効果 (資格)	金融経済動向を考えるための基礎能力が身につく。FP 資格の基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	ファイナンス I で学ぶ内容を概観し、ファイナンスや金融が身近な存在であることを述べる	事前：特になし 事後：人生で「是非実現したい」と思うことを3つくらい挙げてください。例) こんな仕事をしたい、こんな暮らしをしたい、こんな人と結婚したい、子供は2人欲しい、親孝行したい、等々
2	ファイナンスの重要性	人生におけるお金の問題について考える	事前：資料作成による予習 (教科書指定なし)、人生で「是非実現したい」と思うことを3つくらい考える。 事後：復習と小テスト (計1時間)
3	貨幣 (お金) とは	現代の貨幣 (通貨) について解説し、貨幣と物価の関係について考察する	事前：資料作成による予習 (教科書第2章 (pp. 29-44, 64-65))、事後：復習と小テスト (計1.5時間)
4	お金と時間の仲介役：金利 (1)	キャピタルゲインとインカムゲイン、単利と複利、実質利率と名目利率、利回り (収益率)、債券の残存期間と金利の関係等を解説する	事前：資料作成による予習 (教科書第3章 (pp. 45-54))、事後：復習と小テスト (計1時間)
5	お金と時間の仲介役：金利 (2)	債券価格の決定と金利の関係等を解説する	事前：資料作成による予習 (教科書第3章 (pp. 54-57))、事後：復習と小テスト (計1時間)
6	代表的な金融市場	重要な指標の確認と、マーケットデータを読む際の注意点を述べる	事前：資料作成による予習 (教科書第3章 (pp. 57-62))、事後：復習と小テスト (計1時間)
7	金融商品	リスクや分散投資、金融商品の特徴を解説する	事前：資料作成による予習 (教科書第12, 13章 (pp. 196-218))、事後：復習と小テスト (計2時間)
8	中間試験	前回までのまとめとして試験を行う	復習を行っておくこと
9	金融システム概観	金融システムの役割や日本の金融システムについて解説する。なお、講義冒頭で前回中間試験について解説する。	事前：資料作成による予習 (教科書第1, 7章 (pp. 13-22, 111-112))、事後：復習と小テスト (計1時間)
10	日本の金融サービス業 (1)	保険会社の機能や実態について解説する	事前：資料作成による予習 (教科書第7, 8章 (pp. 111-112, 132))、事後：復習と小テスト (計1時間)
11	日本の金融サービス業 (2)	銀行の機能や実態について解説する。また公的金融機関についても解説する。	事前：資料作成による予習 (教科書第7, 8章 (pp. 112-131, 139-144))、事後：復習と小テスト (計2時間)
12	日本の金融サービス業 (3)	証券会社、証券取引所、格付け機関等、株式や債券といった有価証券を取り扱う機関について解説する	事前：資料作成による予習 (教科書第8章 (pp. 132-138)) 事後：復習と小テスト (計1時間)
13	ファイナンスの基礎理論 (1)	ポートフォリオ理論の前提となる期待収益率、リスク、投資機会集合について解説する	事前：資料作成による予習 (教科書第14章 (pp. 227-242))、事後：復習と小テスト (計2時間)
14	ファイナンスの基礎理論 (2)	ポートフォリオ理論の前提となる投資家の選好を解説し、資産運用の基礎を解説する	事前：資料作成による予習 (教科書第14章 (pp. 227-242))、事後：復習と小テスト (計1時間)
15	ファイナンスの基礎理論 (3)	現代ファイナンス論の基礎となる CAPM について言及の後、現代ファイナンス論の論点である効率的市場仮説やアノマリーについて述べる	事前：資料作成による予習 (教科書第14章 (pp. 227-242))、事後：復習と小テスト (計1時間)

関連科目 経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンスII、コーポレートファイナンスI, II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ベーシックプラス 金融論 第2版	家森信善	中央経済社
2				
3				

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	原則、各回小テスト(30%)、中間試験(30%)、期末試験(40%)の合計で評価する。中間試験と期末試験の受験は必須である。ただし、学習意欲(注意:出席率ではない)の顕著な学生には加点する。詳細は初回講義で説明する。			
学生への メッセージ	企業が学生に求める能力は以前にも増して高くなっている。単位を稼ぐための受動的な受講姿勢ではなく、能力向上のための能動的な受講姿勢を期待する。			
担当者の 研究室等	11号館8階(岩坪教授室)			
備考	小テストや中間試験については結果を返却し解説を付記しているので参照して欲しい。			

科目名	ファイナンスⅡ	科目名(英文)	Finance II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2036a0		

授業概要・目的	<p>本講義の目的は次の通り。①ファイナンスⅠの知識をもとに、個人・家計レベルでのファイナンスに関する初歩的な実践力を修得する。すなわち、「お金を借りる・返す」や「資産運用」について、可能な限り実践に則した事例や考え方について解説する。②コートレート・ファイナンスで必要となる基礎知識を修得する。</p> <p>なお教員は、バブル経済の絶頂・崩壊前期を銀行渉外課員として過ごしたため、当時と現時との差異を考慮しつつ金融界の現実について適宜言及する。</p>																																																																		
到達目標	<p>1. 資金の借り入れを理解すること 2. 資産の形成・運用に関する基礎的で実践的な考え方が分かること 3. 平均分散モデル、CAPMの考え方が分かること</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>講義は11/9より対面式で進める。ただし、新型コロナウイルス感染状況を鑑みて、オンライン式に切り替える場合もある。</p> <p>毎回の構成は、①事前学習として資料作り(予習)、②受講(含む演習)、③事後学習(復習と小テスト)である。資料配布にはMicrosoft Teams(遠隔システムおよびビデオ保存庫として使う)とOneNote(クラスノートブック、大学支給のOffice365のソフトの一つ)を用い、事後学習にはMoodle(小テストと課題)を用いる。作業は少々複雑に見えるが、できる限りの学習効率の向上を目指してい</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>資金借入や資産形成・運用に関する初歩的かつ実践的な能力が身につく。FP資格の基礎知識が身につく。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに</td> <td>ファイナンスⅡで学ぶこと、Teamsによるオンライン形式を予定</td> <td>事前：特になし 事後：特になし</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>お金の時間価値</td> <td>機会費用、複利の効果、将来価値と現在価値</td> <td>事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計1.5時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>資産と信用の管理</td> <td>ライフイベントと金融商品、家計のバランスシート</td> <td>事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計1.5時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>住宅購入を考える</td> <td>持ち家と賃貸住宅、持ち家の資金計画</td> <td>事前：資料作成による予習、事後：復習と課題1(計2時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資産運用の基礎知識(1)</td> <td>不確実性とリスク、リスク指標、資産価格</td> <td>事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計2時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>資産運用の基礎知識(2)</td> <td>現代ポートフォリオ理論</td> <td>事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計2時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>資産運用の基礎知識(3)</td> <td>理論の限界、より実践へ</td> <td>事前：資料作成による予習、事後：復習と課題2(計2時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>情報源と銘柄選び</td> <td>情報収集の仕方</td> <td>事前：特になし、事後：復習と小テスト(計1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>株式投資(1)</td> <td>日本の株式市場、投資とトレード</td> <td>事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計2時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>株式投資(2)</td> <td>資金管理</td> <td>事前：資料作成による予習、事後：復習と課題3(計2時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>株式投資(3)</td> <td>リスク管理</td> <td>事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計2時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>株式投資(4)</td> <td>エッジについて</td> <td>事前：資料作成による予習、事後：復習と課題4(計2時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>株式投資(5)</td> <td>理論的根拠について</td> <td>事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計2時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>株式投資(6)</td> <td>分析手法について</td> <td>事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計2時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>再考：資産運用</td> <td>富裕層の資産運用、老後資金の計画</td> <td>事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計0.5時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	はじめに	ファイナンスⅡで学ぶこと、Teamsによるオンライン形式を予定	事前：特になし 事後：特になし	2	お金の時間価値	機会費用、複利の効果、将来価値と現在価値	事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計1.5時間)	3	資産と信用の管理	ライフイベントと金融商品、家計のバランスシート	事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計1.5時間)	4	住宅購入を考える	持ち家と賃貸住宅、持ち家の資金計画	事前：資料作成による予習、事後：復習と課題1(計2時間)	5	資産運用の基礎知識(1)	不確実性とリスク、リスク指標、資産価格	事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計2時間)	6	資産運用の基礎知識(2)	現代ポートフォリオ理論	事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計2時間)	7	資産運用の基礎知識(3)	理論の限界、より実践へ	事前：資料作成による予習、事後：復習と課題2(計2時間)	8	情報源と銘柄選び	情報収集の仕方	事前：特になし、事後：復習と小テスト(計1時間)	9	株式投資(1)	日本の株式市場、投資とトレード	事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計2時間)	10	株式投資(2)	資金管理	事前：資料作成による予習、事後：復習と課題3(計2時間)	11	株式投資(3)	リスク管理	事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計2時間)	12	株式投資(4)	エッジについて	事前：資料作成による予習、事後：復習と課題4(計2時間)	13	株式投資(5)	理論的根拠について	事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計2時間)	14	株式投資(6)	分析手法について	事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計2時間)	15	再考：資産運用	富裕層の資産運用、老後資金の計画	事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計0.5時間)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに	ファイナンスⅡで学ぶこと、Teamsによるオンライン形式を予定	事前：特になし 事後：特になし																																																																
2	お金の時間価値	機会費用、複利の効果、将来価値と現在価値	事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計1.5時間)																																																																
3	資産と信用の管理	ライフイベントと金融商品、家計のバランスシート	事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計1.5時間)																																																																
4	住宅購入を考える	持ち家と賃貸住宅、持ち家の資金計画	事前：資料作成による予習、事後：復習と課題1(計2時間)																																																																
5	資産運用の基礎知識(1)	不確実性とリスク、リスク指標、資産価格	事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計2時間)																																																																
6	資産運用の基礎知識(2)	現代ポートフォリオ理論	事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計2時間)																																																																
7	資産運用の基礎知識(3)	理論の限界、より実践へ	事前：資料作成による予習、事後：復習と課題2(計2時間)																																																																
8	情報源と銘柄選び	情報収集の仕方	事前：特になし、事後：復習と小テスト(計1時間)																																																																
9	株式投資(1)	日本の株式市場、投資とトレード	事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計2時間)																																																																
10	株式投資(2)	資金管理	事前：資料作成による予習、事後：復習と課題3(計2時間)																																																																
11	株式投資(3)	リスク管理	事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計2時間)																																																																
12	株式投資(4)	エッジについて	事前：資料作成による予習、事後：復習と課題4(計2時間)																																																																
13	株式投資(5)	理論的根拠について	事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計2時間)																																																																
14	株式投資(6)	分析手法について	事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計2時間)																																																																
15	再考：資産運用	富裕層の資産運用、老後資金の計画	事前：資料作成による予習、事後：復習と小テスト(計0.5時間)																																																																
関連科目	<p>経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学、コーポレートファイナンスⅠ,Ⅱ</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>パーソナルファイナンス入門</td> <td>榊原茂樹・城下賢吾・姜喜永・砂川伸幸</td> <td>中央経済社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	パーソナルファイナンス入門	榊原茂樹・城下賢吾・姜喜永・砂川伸幸	中央経済社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	パーソナルファイナンス入門	榊原茂樹・城下賢吾・姜喜永・砂川伸幸	中央経済社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>原則、小テスト(30%)、課題(30%)、期末試験(40%)の合計で評価する。期末試験の受験は必須である。ただし、学習意欲(注意：出席率ではない)の顕著な者には加点する。詳しくは初回講義時に述べる。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>企業が学生に求める能力は以前にも増して高くなっている。単位を稼ぐためだけの受動的な受講姿勢ではなく、能力向上のための能動的な受講姿勢を希望する。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>11号館8階(岩坪教授室)</p>																																																																		
備考	<p>小テストや課題については結果を返却し解説を付記しているので参照して欲しい。</p>																																																																		

科目名	ベンチャービジネス論	科目名 (英文)	Venture Business
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3039a0		

授業概要・目的	<p>新規事業の着想から、ビジネスモデルの構築、そして実際の起業に至るまでの諸課題や実務についての講義、並びに各界における起業経験者の体験談を聞き、起業の実際、事業の維持・継続と発展に不可欠な諸要素について学びます。</p> <p>【担当教員実務経歴】</p> <p>①金融機関（本部企画部経営企画・本店営業部融資と信審査業務） ②ベンチャー投資財団（企業への投資業務） ③監査法人（株式上場コンサルティング） ④ベンチャー企業監査役兼務（複数社）</p>
到達目標	<p>「起業」そのものを自身の将来の照準として身近に捉えられるよう、新規ビジネスの必要性について学び、将来の選択肢として自身のアイデアをビジネスに転換するための知恵を習得する起業家育成の講義をします。</p> <p>将来、企業内人材となっても、社内での商品・製品企画、プロジェクト参加に必要な企画能力を身に付けてもらいます。</p>
授業方法と留意点	<p>オンライン授業にて実施します。</p> <p>毎回の講義資料は、Teamsの「日付」チャンネル内の「ファイル」に、講義週の月曜日に格納しておきますので、事前にダウンロード等準備の上、講義に参加して下さい。</p> <p>毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）をWebFolderにて配布します。当日の24時までに提出してもらいます。</p> <p>講義内容に関する質問については、一覧表にして次回授業時に配布すると共に解説します。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>「起業」に必要な挑戦意欲の醸成と、起業アイデアの創出</p> <p>企業就職後における製品企画、商品アイデアなどの創出ノウハウ</p> <p>中小企業、ベンチャー企業の実態把握と自らの将来像の分析</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 起業家とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 起業家教育を受ける理由	<事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
2	起業家の目指すべき方向性とその役割	事業化に至るまでの指針 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
3	起業家としての経営的視点と意思決定	トラブルシューターとしての起業家の役割 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
4	参入市場の環境分析能力	大手企業との関係と目指すべき市場の選定 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
5	ベンチャー企業における組織体制	起業から成熟企業に至るまでのガバナンス体制の維持 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
6	事業ドメインの設定と知財戦略	事業コアコンピタンスの重要性と科学的見地での探索 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
7	起業成長に必要な収益モデリング	起業家としての管理会計の考え方と株主対応 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
8	起業家実体験談① 【外部講師】 株式会社アंकシステムズ 代表取締役 金明淑 氏	新規事業（雇用方針） 授業聴講でのポイントをメモ。	<事前> 講師企業についてネット等を活用した質問事項の用意（30分）。 <事後> 授業で聴講したキーワードを調べることによる再認識（1時間）
9	起業家実体験談② 【外部講師】 CHRONOGIST 株式会社 代表取締役 CEO 古田 紀之 氏	I IT 系調査企業の実態把握 授業聴講でのポイントをメモ。	<事前> 講師企業についてネット等を活用した質問事項の用意（30分）。 <事後> 授業で聴講したキーワードを調べることによる再認識（1時間）
10	起業家支援実体験談③ 【外部講師】 大阪産業創造館 おおさかなレッジ・フロンティア推進機構 チーフプランナー 長谷川 新 氏	起業支援事業（コンサルティング） 授業聴講でのポイントをメモ。	<事前> 講師機関についてネット等を活用した質問事項の用意（30分） <事後> 授業で聴講したキーワードを調べることによる再認識（1時間）
11	起業家実体験談④ 【外部講師】 大化物流開発合同会社代表社員 入江 徹 氏	事業形態（LLC）企業。 授業聴講でのポイントをメモ。	<事前> 講師企業についてネット等を活用した質問事項の用意（30分）。 <事後> 授業で聴講したキーワードを調べることによる再認識（1時間）
12	起業家実体験談⑤ 【外部講師】 株式会社環境セラビ （元仮想通貨リサーチ企業代表取締役） 福島 健太 氏	起業経験、海外事業展開 授業聴講でのポイントをメモ。	<事前> 講師企業についてネット等を活用した質問事項の用意（30分）。 <事後> 授業で聴講したキーワードを調べることによる再認識（1時間）

	13	事業プランニング	新規創業、事業プランニングの考え方 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を 活用した用語等の習得 (30分)。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習 (1時間)
	14	生産管理の考え方	品質管理、原価管理、納期管理 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を 活用した用語等の習得 (30分)。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習 (1時間)
	15	事業継続ノウハウ	起業から成長段階に至るまでの事業継 続措置の考え方 講義のキーワードに基づく授業聴講で のポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事後>授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習 (各自) (1時間)
関連科目	経営管理論 ビジネスプランニング			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>①毎回のアンケート内の〔設問1〕に対する回答評価 (評価割合: 50%) 授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価し ます。またアンケート内の〔設問2〕(授業内容に関する質問および要望) について、積極的に質問または提案し た場合は加点評価とします。なお、当該質問や要望については、次回以降の授業時に解説文を付けて一覧表 にして学習者全員に資料配付します</p> <p>②期末レポート (評価割合: 50%) 授業全般にわたっての課題を提示します。</p>			
学生への メッセージ	<p>自身の将来 (やりたい事) が実現できるのか、自己分析を含め授業により認識してください。</p> <p>【注意: 外部講師の授業回について】 外部講師の授業については、講師の都合等により開講回が変更となることがあります。 また外部講師に失礼の無い姿勢で授業に臨んでください。</p>			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考	<p>学生のうちに起業を目指したいと考えている学生は、自身のアイデアについて個別に相談してください。 <連絡先>masahiro.hayashi@kjo.setsunan.ac.jp</p>			

科目名	ビジネスプランニング	科目名 (英文)	Business Planning
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3040a0		

授業概要・目的	<p>企業における戦略的経営手法、事業成長施策の基本的プロセスの考え方を学ぶと共に、チーム制による起業化シミュレーションを行います。シミュレーション (成果物) は、「創業事業計画書」と「資金繰り計画表 (4期分) の作成です。最終回にて各チームのプレゼン発表を開催します。</p> <p>【担当教員実務経歴】 ①金融機関 (本部企画部経営企画・本店営業部融資と信審査業務) ②ベンチャー投資財団 (企業投資業務) ③監査法人 (株式上場コンサルティング) ④ベンチャー企業監査役兼務 (複数社) 【SDGs-.9】 (産業と技術革新の基盤を作る) ⑤ベンチャービジネスプラン審査員 (複数機関) ⑥文部科学省「EDGE-NEXT (ベンチャー創出) 事業 実務担当者</p>
到達目標	<p>将来、企業におけるプロジェクトリーダー、プロジェクトデベロッパーを目指します。特に、昨今多く見られる企業内ベンチャーの創出、または新規事業プロジェクトの企画業務、製品企画等のノウハウとして役立ちます。</p> <p>【授業形態】 演習 11月8日以降は対面でのチームディスカッションを実施します。チームを編成し、チーム別にベンチャー企業設立シミュレーション (演習) を行います。各自、チーム内での役割に従い、チーム自治でディスカッションによる演習作業を進めてもらいます。したがって、欠席が多いと見込まれる学生は、チームメンバーへ負荷が掛かりますので履修にあたっては留意してください。</p>
授業方法と留意点	
科目学習の効果 (資格)	<p>ニーズ嗜好での製品・商品企画力の養成。 販売市場分析能力。 組織の一員としての役割認識と遂行能力。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 事業プランニングとは?	講座ガイダンス (演習方法・評価方法) 事業計画策定の留意点および考え方。 授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事後> ビジネスアイデアの提示 (身の回りにある不具合を改善するための提案等) (1時間)
2	ビジネスアイデア、コアコンピタンスの選定	チーム単位で検討するビジネスアイデア、コアコンピタンスの決定とチーム編成。 チーム内での各自役割分担。	<事前> ビジネスアイデアの提示 (身の回りにある不具合を改善するための提案等) (1時間) <事後> チーム内での自身の役割に基づく考え方の整理 (30分)
3	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前> ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査 (30分)。 <事後> ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業 (1時間)。
4	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前> ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査 (30分)。 <事後> ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業 (1時間)。
5	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前> ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査 (30分)。 <事後> ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業 (1時間)。
6	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前> ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査 (30分)。 <事後> ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業 (1時間)。
7	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前> ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査 (30分)。 <事後> ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業 (1時間)。
8	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前> ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査 (30分)。 <事後> ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業 (1時間)。
9	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前> ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査 (30分)。 <事後> ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業 (1時間)。
10	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前> ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査 (30分)。 <事後> ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業 (1時間)。
11	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前> ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査 (30分)。 <事後> ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業 (1時間)。
12	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。 「創業事業計画書」・「資金繰り計画表」の提出・修正	<事前> チームでの成果物 (創業事業計画書、資金繰り表) の提出 (1時間: チーム単位) <事後> プレゼンテーションデータの作成 (1時間: チーム単位)
13	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位でのプレゼンテーションデータの作成および修正	<事前> プレゼンデータの確認 (1時間) <事後> プレゼン発表練習 (各自担当部分) (1時間)

		プレゼンテーション事前練習		間)																
	14	プレゼン発表(1) (2~3チーム)	各チーム単位でのベンチャー企業の事業プレゼンを実施 他チームプレゼン発表に対する質疑および相互評価	<事前>プレゼン練習(1時間)。 <事後>審査による指摘点の検討(1時間)。																
	15	プレゼン発表(2) (2~3チーム)	各チーム単位でのベンチャー企業の事業プレゼンを実施 他チームプレゼン発表に対する質疑および相互評価	<事前>プレゼン練習(1時間)。 <事後>審査による指摘点の検討(1時間)。																
関連科目	ベンチャービジネス論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<p>①プレゼン発表によるチーム単位での評価(評価割合:60%) 「事業計画書」「資金繰り表」「プレゼンデータ」等の提出期限厳守を基準として評価します。 なお、他チームの発表後、積極的に質問し自らも理解を深める者は加点評価とします。</p> <p>②期末レポート(評価割合:40%) チーム単位での自身における役割の遂行度の自己評価、および当該演習(シミュレーション)により企業内人材として何を得られたのか、など授業習得度に対する評価。</p>																			
学生への メッセージ	<p>通常の大学講義では得られない貴重な体験をしてもらいたい。 就活の面接時における有効な武器(履修実績)として活用してもらいたい。 なお、欠席が複数回見込まれる学生については、チーム単位での演習に付き、チームメンバーに迷惑等が生じますので、履修については留意願います。</p>																			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室																			
備考	自身のパソコンでの履修が可能な学生。 「簿記」を履修した学生の参加を多く望みます。																			

科目名	中小企業会計論	科目名 (英文)	Accounting for Small and Medium-Sized Entities
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3041a0		

授業概要・目的	証券取引所に株式を上場することで資金調達を行う上場会社（大企業）は、投資家保護を目的とする金融証券取引法、債権者保護を目的とする会社法、課税公平を目的とする税法の3つの法律にもとづいた会計処理が求められる。しかし、株式を一般に公開しない中小企業は、会社法と税法にもとづいた会計処理が求められる。 本講座では、中小企業会計の最低限の基準である「中小企業の会計に関する基本要領（以下、基本要領）」について学習する。また、基本要領による会計処理と中小企業を対象とする他の会計基準「中小企業の会計に関する指針（以下、中小指針）」及び「法人税法」による会計処理の共通点と相違点について把握する。																																																																		
到達目標	① 中小企業会計の最低限の基準である基本要領の会計処理ができる。 ② 中小企業を対象とする3つの会計基準（基本要領、中小指針、法人税法）による会計処理の共通点と相違点について理解できる。																																																																		
授業方法と留意点	2021年後期講義は、オンライン形式で（リアルタイム講義はTeams、講義資料はMoodle）開始しましたが、11月4日から対面で実施しております。 ★初回（9月16日）の講義は、Moodleから講義概要資料を入手し、Teamsの講義日チャンネルに参加してください。 ・ 本講座では、簿記に関する基本知識（簿記入門又は日商簿記3級）を有することを前提とする。 ・ 講義資料（講義概要、スライド、レジュメ）→Moodleから事前入手 ・ 小テスト→Teams又はMoodleで実施 ・ 中間テスト・期末																																																																		
科目学習の効果（資格）	中小企業診断士，税理士，簿記検定など，会計関連資格取得に必要な基礎知識を習得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基本要領の概要</td> <td>・基本要領の概要 ・資料配布</td> <td>事前：配布資料と講義計画の確認（20分） 事後：授業アンケートの回答（20分）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>総論</td> <td>・基本要領の目的，対象，他会計基準との関係，留意事項</td> <td>事前：基本要領の総論の確認（20分） 事後：小テスト①（30分）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>収益と費用の基本的な会計処理</td> <td>・収益と費用の認識基準と基本的な会計処理</td> <td>事前：基本要領の各論①の確認（20分） 事後：小テスト②（30分）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>資産と負債の基本的な会計処理</td> <td>・資産と負債の基本的な会計処理</td> <td>事前：基本要領の各論②の確認（20分） 事後：小テスト③（30分）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>金銭債権と金銭債務①</td> <td>・金銭債権と取得価額</td> <td>事前：基本要領の各論③の確認（20分） 事後：小テスト④（30分）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>金銭債権と金銭債務②</td> <td>・金銭債務と債務額</td> <td>事前：講義スライドとレジュメによる復習 事後：小テスト⑤（30分）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>貸倒損失と貸倒引当金</td> <td>・倒産と倒産の可能性</td> <td>事前：基本要領の各論④の確認（20分） 事後：小テスト⑥（30分）</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>有価証券①</td> <td>・有価証券と取得原価</td> <td>事前：基本要領の各論⑤の確認（20分） 事後：小テスト⑦（30分）</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>有価証券②</td> <td>・有価証券の評価方法</td> <td>事前：講義スライドとレジュメによる復習 事後：小テスト⑧（30分）</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>有価証券③</td> <td>・有価証券の評価替え</td> <td>事前：講義スライドとレジュメによる復習 事後：小テスト⑨（30分）</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>中間テスト</td> <td>・中間テスト</td> <td>事前：これまでの講義資料を用いて復習（60分） 事後：中間テストの問題の確認（60分）</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>棚卸資産①</td> <td>・棚卸資産と取得原価</td> <td>事前：基本要領の各論⑥の確認（20分） 事後：小テスト⑩（30分）</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>棚卸資産②</td> <td>・棚卸資産の評価方法と評価基準</td> <td>事前：講義スライドとレジュメによる復習 事後：小テスト⑩（30分）</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>経過勘定</td> <td>・当期の損益と次期の損益</td> <td>事前：基本要領の各論⑦の確認（20分） 事後：小テスト⑪（30分）</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの内容のまとめ</td> <td>事前：これまで学習した基本要領の確認（30分） 事後：これまでの講義資料を用いて復習（60分）</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	基本要領の概要	・基本要領の概要 ・資料配布	事前：配布資料と講義計画の確認（20分） 事後：授業アンケートの回答（20分）	2	総論	・基本要領の目的，対象，他会計基準との関係，留意事項	事前：基本要領の総論の確認（20分） 事後：小テスト①（30分）	3	収益と費用の基本的な会計処理	・収益と費用の認識基準と基本的な会計処理	事前：基本要領の各論①の確認（20分） 事後：小テスト②（30分）	4	資産と負債の基本的な会計処理	・資産と負債の基本的な会計処理	事前：基本要領の各論②の確認（20分） 事後：小テスト③（30分）	5	金銭債権と金銭債務①	・金銭債権と取得価額	事前：基本要領の各論③の確認（20分） 事後：小テスト④（30分）	6	金銭債権と金銭債務②	・金銭債務と債務額	事前：講義スライドとレジュメによる復習 事後：小テスト⑤（30分）	7	貸倒損失と貸倒引当金	・倒産と倒産の可能性	事前：基本要領の各論④の確認（20分） 事後：小テスト⑥（30分）	8	有価証券①	・有価証券と取得原価	事前：基本要領の各論⑤の確認（20分） 事後：小テスト⑦（30分）	9	有価証券②	・有価証券の評価方法	事前：講義スライドとレジュメによる復習 事後：小テスト⑧（30分）	10	有価証券③	・有価証券の評価替え	事前：講義スライドとレジュメによる復習 事後：小テスト⑨（30分）	11	中間テスト	・中間テスト	事前：これまでの講義資料を用いて復習（60分） 事後：中間テストの問題の確認（60分）	12	棚卸資産①	・棚卸資産と取得原価	事前：基本要領の各論⑥の確認（20分） 事後：小テスト⑩（30分）	13	棚卸資産②	・棚卸資産の評価方法と評価基準	事前：講義スライドとレジュメによる復習 事後：小テスト⑩（30分）	14	経過勘定	・当期の損益と次期の損益	事前：基本要領の各論⑦の確認（20分） 事後：小テスト⑪（30分）	15	まとめ	これまでの内容のまとめ	事前：これまで学習した基本要領の確認（30分） 事後：これまでの講義資料を用いて復習（60分）
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	基本要領の概要	・基本要領の概要 ・資料配布	事前：配布資料と講義計画の確認（20分） 事後：授業アンケートの回答（20分）																																																																
2	総論	・基本要領の目的，対象，他会計基準との関係，留意事項	事前：基本要領の総論の確認（20分） 事後：小テスト①（30分）																																																																
3	収益と費用の基本的な会計処理	・収益と費用の認識基準と基本的な会計処理	事前：基本要領の各論①の確認（20分） 事後：小テスト②（30分）																																																																
4	資産と負債の基本的な会計処理	・資産と負債の基本的な会計処理	事前：基本要領の各論②の確認（20分） 事後：小テスト③（30分）																																																																
5	金銭債権と金銭債務①	・金銭債権と取得価額	事前：基本要領の各論③の確認（20分） 事後：小テスト④（30分）																																																																
6	金銭債権と金銭債務②	・金銭債務と債務額	事前：講義スライドとレジュメによる復習 事後：小テスト⑤（30分）																																																																
7	貸倒損失と貸倒引当金	・倒産と倒産の可能性	事前：基本要領の各論④の確認（20分） 事後：小テスト⑥（30分）																																																																
8	有価証券①	・有価証券と取得原価	事前：基本要領の各論⑤の確認（20分） 事後：小テスト⑦（30分）																																																																
9	有価証券②	・有価証券の評価方法	事前：講義スライドとレジュメによる復習 事後：小テスト⑧（30分）																																																																
10	有価証券③	・有価証券の評価替え	事前：講義スライドとレジュメによる復習 事後：小テスト⑨（30分）																																																																
11	中間テスト	・中間テスト	事前：これまでの講義資料を用いて復習（60分） 事後：中間テストの問題の確認（60分）																																																																
12	棚卸資産①	・棚卸資産と取得原価	事前：基本要領の各論⑥の確認（20分） 事後：小テスト⑩（30分）																																																																
13	棚卸資産②	・棚卸資産の評価方法と評価基準	事前：講義スライドとレジュメによる復習 事後：小テスト⑩（30分）																																																																
14	経過勘定	・当期の損益と次期の損益	事前：基本要領の各論⑦の確認（20分） 事後：小テスト⑪（30分）																																																																
15	まとめ	これまでの内容のまとめ	事前：これまで学習した基本要領の確認（30分） 事後：これまでの講義資料を用いて復習（60分）																																																																
関連科目	簿記入門，財務会計論，管理会計論，会計情報分析論，企業分析（財務戦略ケース分析），経営財務論など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しないが、「中小企業の会計に関する基本要領」を活用する。また、各テーマについては、以下の参考書を反映したレジュメを活用する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しないが、「中小企業の会計に関する基本要領」を活用する。また、各テーマについては、以下の参考書を反映したレジュメを活用する。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	特に指定しないが、「中小企業の会計に関する基本要領」を活用する。また、各テーマについては、以下の参考書を反映したレジュメを活用する。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経営に役立つ中小企業会計要領の実務対応</td> <td>上西佐大信</td> <td>ぎょうせい</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>最新中小企業会計論</td> <td>河崎照行</td> <td>中央経済社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>中小企業会計基本要領による会計処理と法人税申告書の書き方</td> <td>三浦昭彦</td> <td>大蔵財務協会</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経営に役立つ中小企業会計要領の実務対応	上西佐大信	ぎょうせい	2	最新中小企業会計論	河崎照行	中央経済社	3	中小企業会計基本要領による会計処理と法人税申告書の書き方	三浦昭彦	大蔵財務協会																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	経営に役立つ中小企業会計要領の実務対応	上西佐大信	ぎょうせい																																																																
2	最新中小企業会計論	河崎照行	中央経済社																																																																
3	中小企業会計基本要領による会計処理と法人税申告書の書き方	三浦昭彦	大蔵財務協会																																																																
評価方法（基準）	★対面時：小テスト（30%）＋中間テスト（30%）＋期末テスト（40%） ☆オンライン時：小テスト（30%）＋中間テスト（30%）＋期末課題（40%）																																																																		
学生へのメッセージ	中小企業の経営者，経理担当者，管理者として活躍することを希望される方を対象に，中小企業にとって最低限必要となる会計処理の知識について学習します。複式簿記の内容が中小企業でどのように実践されているのかを確認する機会になると思います。 講義資料については，事前にMoodleから入手してください。																																																																		
担当者の	11号館7階 呉准教授室																																																																		

研究室等	
備考	講義の題材となる会計基準は以下からも入手できます。 <ul style="list-style-type: none">・ 「基本要領」 (https://www.nichizeiren.or.jp/taxaccount/sme_support/guide/#point)・ 「中小企業の会計に関する指針」 (https://www.nichizeiren.or.jp/taxaccount/sme_support/guide/#guide)

科目名	企業分析 (経営戦略ケース分析)	科目名 (英文)	Analysis of Strategic Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北 真収
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP2⑩		
科目ナンバリング	IDD3042a0		

授業概要・目的	企業戦略の基本についてケース分析を通じて学ぶことに主眼を置いています。有形資源だけでなく無形資源の重要性に言及しながら講義を進めます。 企業での企画調査や海外駐在の実務経験を講義に取り入れます。
到達目標	経営資源を前提にして、中長期的に、どの事業に、どの程度、資源を配分するべきなのか。こうした基本的枠組み (フレームワーク) や関係する経営知識を組み合わせて課題を深く考えられることが目標です。
授業方法と留意点	事例を分析しながら戦略理論を講義します。高い出席率と学習課題に対する返答を毎回求めます。 小テスト、中間テストの解答例は試験後に解説します。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおくこと 事後：講義内容を復習する
2	統合と分化	統合の動機、分化の動機などについて講義します	事前：教科書の7章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
3	事例の分析	徹底して統合を図ってきた企業の事例についてグループ討議をします	事前：教科書の7章と事例を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
4	内製か購買か	内製か購買かを選択する要因、デジタル化によるモジュールの進展などについて説明します	事前：教科書の7章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
5	事例の分析	アウトソーシングビジネスの事例についてグループ討議をします	事前：教科書の7章と事例を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
6	多角化	多角化のタイプ、動機について講義します	事前：教科書の8章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
7	事例の分析	ハードからソフトへの多角化の成功事例についてグループ討議をします	事前：教科書の8章と事例を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
8	多角化 (2)	多角化の効果、資源の配分方法について説明します	事前：教科書の8章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
9	事例の分析	情報事業へ多角化し失敗した事例についてグループ討議をします	事前：教科書の8章と事例を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
10	企業の合併・買収	合併・買収の動機や成否の要因について講義をします	事前：教科書の9章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
11	事例の分析	海外企業を買収した事例についてグループ討議をします	事前：教科書の9章と事例を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
12	技術変化と転換・移行	技術の変化、それへの転換・移行の遅れ、組織慣性などについて講義します	事前：教科書の10章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
13	事例の分析	技術転換に失敗した事例についてグループ討議をします	教科書の10章と事例を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
14	ビジネスモデル	定番のビジネスモデルやロングテールモデルなどについて説明します	事前：教科書の12章のビジネスモデルを読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)
15	事例の分析	新しいビジネスモデルを築いた事例についてグループ討議をします	事前：前回の配布資料と事例を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間)

関連科目	経営戦略論、グローバル経営論
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストブック 経営戦略	北 真収	岡山大学出版会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	レポート 30%、中間等テスト 50%、毎回小テスト 20%で評価します。
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	事例を使って戦略理論を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	11号館8階 北 真収 研究室 (相談時は事前に連絡してください)
----------	-----------------------------------

備考	
----	--

科目名	企業分析 (財務戦略ケース分析)	科目名 (英文)	Analysis of Financial Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3043a0		

授業概要・目的	利益獲得を目的とする企業は、企業の諸活動を財務情報として報告している。財務情報を理解すれば、企業がどのような活動を行い、利益を獲得しているのかについて理解できる。本講座では、損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書という財務3表を用いて、利益を生み出す企業の財務戦略について把握する。また、企業外部の利害関係者の観点から、企業の財務戦略を分析・評価することで、ビジネスパーソンとして最低限必要である知識を提供する。																																																																		
到達目標	① 企業の財務諸表を入手することができる。 ② 損益計算書を用いて利益マップを作成し、利益の量 (利益額) と質 (利益率) の側面から企業の収益性を評価することができる。 ③ 貸借対照表を用いて企業別 (産業別) の資金調達と資金運用の特徴について説明できる。 ④ キャッシュフロー計算書の3つの企業活動によるキャッシュフローを用いて企業の財務戦略に関する8つのパターンが把握できる。 ⑤ 企業の財務戦略と3つの財務諸表との関係について説明できる。																																																																		
授業方法と留意点	2021年後期の講義はオンライン形式で (講義資料入手は Moodle, リアルタイム講義は Teams) 開始しました。 ★2021年11月4日から対面で実施しております。講義 Teams の案内をご確認ください。 初回 (9月16日) の講義から、事前に Moodle から、講義資料を入手し、講義日講義時間に Teams に参加してください。 <ul style="list-style-type: none"> 講義資料 (レジュメ, スライド) → Moodle から事前入手 小テスト → Teams で、該当講義当日提出 課題 → Moodle から事前入手 → Moodle に提出期限までに 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中小企業診断士, 証券アナリスト, ファイナンシャルプランナー, 簿記検定など, 会計関連資格取得に必要な基礎知識を提供する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>財務諸表の関係</td> <td>企業活動と財務3表との関係</td> <td>事前: 講義資料の入手 (20分) 事後: 授業アンケート (10分)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>資本市場と情報開示</td> <td>株式会社と資本市場との関係、財務諸表の入手方法</td> <td>事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>損益計算書と利益</td> <td>売上高と営業利益の利益マップ</td> <td>事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>損益計算書と利益率①</td> <td>同業種の利益と利益率の利益マップ</td> <td>事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>損益計算書と利益率②</td> <td>異業種の利益と利益率の利益マップ</td> <td>事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>課題①</td> <td>課題に対する質問対応</td> <td>課題① (120分)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>貸借対照表と負債</td> <td>負債と企業の資金調達の状態</td> <td>事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>貸借対照表と資産</td> <td>企業の資金運用の状態</td> <td>事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>貸借対照表と損益計算書</td> <td>貸借対照表と損益計算書の関係</td> <td>事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>課題②</td> <td>課題に対する質問対応</td> <td>課題② (120分)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>キャッシュフロー計算書</td> <td>3つの活動によるキャッシュフロー</td> <td>事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>キャッシュフロー計算書と財務戦略</td> <td>キャッシュフローのパターンと財務戦略</td> <td>事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>財務戦略と財務諸表</td> <td>財務戦略と3つの財務諸表との関係</td> <td>事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>課題③</td> <td>課題に対する質問対応</td> <td>課題③ (120分)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの講義内容のまとめ</td> <td>事前: これまでの講義内容の確認 (60分) 事後: これまでの講義資料の復習 (120分)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	財務諸表の関係	企業活動と財務3表との関係	事前: 講義資料の入手 (20分) 事後: 授業アンケート (10分)	2	資本市場と情報開示	株式会社と資本市場との関係、財務諸表の入手方法	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)	3	損益計算書と利益	売上高と営業利益の利益マップ	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)	4	損益計算書と利益率①	同業種の利益と利益率の利益マップ	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)	5	損益計算書と利益率②	異業種の利益と利益率の利益マップ	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)	6	課題①	課題に対する質問対応	課題① (120分)	7	貸借対照表と負債	負債と企業の資金調達の状態	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)	8	貸借対照表と資産	企業の資金運用の状態	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)	9	貸借対照表と損益計算書	貸借対照表と損益計算書の関係	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)	10	課題②	課題に対する質問対応	課題② (120分)	11	キャッシュフロー計算書	3つの活動によるキャッシュフロー	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)	12	キャッシュフロー計算書と財務戦略	キャッシュフローのパターンと財務戦略	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)	13	財務戦略と財務諸表	財務戦略と3つの財務諸表との関係	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)	14	課題③	課題に対する質問対応	課題③ (120分)	15	まとめ	これまでの講義内容のまとめ	事前: これまでの講義内容の確認 (60分) 事後: これまでの講義資料の復習 (120分)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	財務諸表の関係	企業活動と財務3表との関係	事前: 講義資料の入手 (20分) 事後: 授業アンケート (10分)																																																																
2	資本市場と情報開示	株式会社と資本市場との関係、財務諸表の入手方法	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)																																																																
3	損益計算書と利益	売上高と営業利益の利益マップ	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)																																																																
4	損益計算書と利益率①	同業種の利益と利益率の利益マップ	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)																																																																
5	損益計算書と利益率②	異業種の利益と利益率の利益マップ	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)																																																																
6	課題①	課題に対する質問対応	課題① (120分)																																																																
7	貸借対照表と負債	負債と企業の資金調達の状態	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)																																																																
8	貸借対照表と資産	企業の資金運用の状態	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)																																																																
9	貸借対照表と損益計算書	貸借対照表と損益計算書の関係	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)																																																																
10	課題②	課題に対する質問対応	課題② (120分)																																																																
11	キャッシュフロー計算書	3つの活動によるキャッシュフロー	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)																																																																
12	キャッシュフロー計算書と財務戦略	キャッシュフローのパターンと財務戦略	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)																																																																
13	財務戦略と財務諸表	財務戦略と3つの財務諸表との関係	事前: 講義資料の確認 (20分) 事後: 小テスト (20分)																																																																
14	課題③	課題に対する質問対応	課題③ (120分)																																																																
15	まとめ	これまでの講義内容のまとめ	事前: これまでの講義内容の確認 (60分) 事後: これまでの講義資料の復習 (120分)																																																																
関連科目	簿記入門, 財務会計論, 会計情報分析論, 経営財務論など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しないが、以下、参考書を反映し、各テーマについてレジュメを活用する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しないが、以下、参考書を反映し、各テーマについてレジュメを活用する。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	特に指定しないが、以下、参考書を反映し、各テーマについてレジュメを活用する。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ビジネス・アカウンティング</td> <td>山根節・太田康広・村上祐太郎</td> <td>中央経済社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>財務諸表分析</td> <td>桜井久勝</td> <td>中央経済社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>なぜ、会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった?</td> <td>村上祐太郎</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ビジネス・アカウンティング	山根節・太田康広・村上祐太郎	中央経済社	2	財務諸表分析	桜井久勝	中央経済社	3	なぜ、会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった?	村上祐太郎	東洋経済新報社																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ビジネス・アカウンティング	山根節・太田康広・村上祐太郎	中央経済社																																																																
2	財務諸表分析	桜井久勝	中央経済社																																																																
3	なぜ、会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった?	村上祐太郎	東洋経済新報社																																																																
評価方法 (基準)	①対面時基準: 小テスト (20%) + 課題① (10%) + 課題② (10%) + 課題③ (20%) + 期末試験 (40%) ②オンライン時基準: 小テスト (20%) + 課題① (20%) + 課題② (20%) + 課題③ (40%) →1つでも課題提出できなかった場合、成績評価対象から外す。(提出期限等は授業内で案内)																																																																		
学生へのメッセージ	本講義では、企業の活動を記録した会計情報を用いて、利益につながる企業の財務戦略について理解することを目標とします。投資家またはアナリストになる・なったつもりで講義に挑んでください。レジュメ, 講義スライド, 課題などの講義資料はすべて Moodle に掲載します。事前に用意してください。																																																																		
担当者の研究室等	11号館7階 呉准教授室																																																																		

科目名	企業分析(経営組織ケース分析)	科目名(英文)	Analysis of Organizational Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3044a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 本講義は、これまで学んできた専門的な知識を再確認するためのものである。講義方法は(1)実際の企業活動の実態に触れることによって、より深く企業について理解し、(2)テキストに基づく企業事例についてグループプレゼンテーションやレポートを発表する講義である。 なお、多忙な実務家を講師として招いて講義いただくことを強く認識すること。遅刻、居眠り、スマホ操作等は厳禁である。また、学外から来られた先生方に失礼な態度や行為があった場合、退室を命ずる場合がある。 なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明することで、より深い学生の理解を促します。</p> <p>【目的】 企業の経済的・社会的な役割を認識し、「ヒト・モノ・カネ・情報」などの経営資源をどのように活用し、社会の発展に貢献しているのか等、企業の実態を理解する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業トップの意思決定を理解する 2. 企業における人的資源管理、労務管理を理解する 3. 企業における人材育成、リーダーシップ、マーケティングを理解する 4. ベンチャー企業のチャレンジ精神および事業の多角化を理解する
授業方法と留意点	<p>本講義は、(1)実務家をお招きし、具体的な事例を通して、企業分析のための実践的な知識を得ること。(2)テキストに基づく企業事例を学習し、プレゼンテーションおよびレポートを課すことで知識を得ること。である。 なお、講師の都合によって講義内容の順序を変更する場合がある。</p>
科目学習の効果(資格)	組織の管理と運営に関する具体的な課題と企業の抱える現実的問題を学ぶことができ、就職活動の参考になることが期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス:講師の紹介と講義の進め方	講義担当者を紹介し、本講義の目的・目標および授業の進め方や成績評価法について説明する	事前課題:シラバスおよび外部講師が所属する企業を1時間程度調べておくこと。 事後課題:外部講師が所属する企業に関する疑問点を1時間程度調べる。
2	【対面授業】 グループワークおよびプレゼンテーションに関する説明	グループワークとプレゼンテーションを行うための説明を行います。また、発表グループ分けを行います。	事前課題:テキストを1時間程度読み、ケーススタディとなっている企業について調べる。 事後課題:ケーススタディレポートを1時間程度で作成すること。
3	マーケティングの基本STP	マーケティングの基本STPに関して、講師が実務での体験談を通じてわかりやすく解説します。(久保田先生)	事前課題:これまで学んだ教科書でマーケティングについて1時間程度調べておくこと。 事後課題:講師が取り上げたマーケティングの事例について1時間程度調べてまとめること。
4	サントリーの新飲料開発	グループ別に授業テーマについてプレゼンテーションし、全体でディスカッションをします。	事前課題:1時間程度でテキストを読み事前学習すること。 事後課題:配付資料を1時間程度復習すること。
5	キャリアを見据えた企業分析の必要性和手法	企業の採用活動に対して、学生が知っておくべき企業分析の必要性とその方法についてリクナビ副編集長が解説します。(山下先生)	事前課題:企業分析について1時間程度調べておくこと。 事後課題:1時間程度同業他社2社の企業分析による比較を行い、復習すること。
6	フォードとGMの覇権交代	グループ別に授業テーマについてプレゼンテーションし、全体でディスカッションをします。	事前課題:1時間程度でテキストを読み事前学習すること。 事後課題:配付資料を1時間程度復習すること。
7	リクルートの起業家精神に基づく組織文化	グループ別に授業テーマについてプレゼンテーションし、全体でディスカッションをします。	事前課題:1時間程度でテキストを読み事前学習すること。 事後課題:配付資料を1時間程度復習すること。
8	マネジメントとリーダーシップ	マネジメントとリーダーシップの違いについて、講師が経験した事例を交えながら学びます。(久保田先生)	事前課題:これまで学んだ教科書でリーダーシップについて1時間程度調べておくこと。 事後課題:講師が取り上げたリーダーシップの事例について1時間程度調べてまとめること。
9	企業の労務管理	企業で行っている労務管理や、実際に発生している労務問題を取り上げ、働き方や労働関係法令について学びます。(小西先生)	事前課題:労働基準法を1時間程度目を通しておくこと。 事後課題:1時間程度労働問題の事例を探し、復習すること。
10	マクドナルドとモスバーガーの戦略	グループ別に授業テーマについてプレゼンテーションし、全体でディスカッションをします。	事前課題:1時間程度でテキストを読み事前学習すること。 事後課題:配付資料を1時間程度復習すること。
11	企業の人財育成	企業がどのような人財育成に取り組んでいるのか、それはなぜなのかについて、マネジメントとリーダーシップの違いについて、講師が経験した事例を交えながら学びます。(久保田先生)	事前課題:これまで学んだ教科書で人財育成について1時間程度調べておくこと。 事後課題:講師が取り上げた企業の事例について1時間程度調べてまとめること。
12	労務問題事例と企業の見方	労働問題事例から企業側の問題点、働	事前課題:これまで学習したリーダーシップ理論を

			き手側の問題点について考えます。(小西先生)	1時間程度復習して講義に臨むこと。 事後課題：1時間程度企業の労務問題記事を探し、考えをまとめること。																
	13	【対面授業】 新規事業開発のマネジメント	経営資源がない中、どのようにしてベンチャー企業が基板試作事業の開発の経営判断を行ったのかについて学びます。(北山先生)	事前課題：電子技販株式会社について1時間程度企業研究を行うこと。 事後課題：本日学んだ事業の多角化が、どの理論で説明できるのか復習すること。																
	14	富士フィルムの企業変貌	グループ別に授業テーマについてプレゼンテーションし、全体でディスカッションをします。	事前課題：1時間程度でテキストを読み事前学習すること。 事後課題：配付資料を1時間程度復習すること。																
	15	まとめ	これまでの講義を振り返り、質疑応答を行います。	事前課題：1時間程度これまでの資料を事前に目を通しておくこと。 事後課題：教科書および配付資料全体を1時間程度目を通すこと。																
関連科目	その他の企業経営コース科目と関係する。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ケースに学ぶ経営学(第3版)</td> <td>東北大学経営学グループ</td> <td>有斐閣ブックス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ケースに学ぶ経営学(第3版)	東北大学経営学グループ	有斐閣ブックス	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ケースに学ぶ経営学(第3版)	東北大学経営学グループ	有斐閣ブックス																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・リレー式の講義を7回行い、毎回小レポートを課します。7回×10点=70点 ・プレゼンテーションまたはレポート30点 これらの合計で成績をつけます。 なお、8割以上出席がないと単位を認めない場合があります。ただし、就職活動や慶弔関係でやむを得ず欠席した時は、証拠を現認した上で配慮する場合があります。																			
学生への メッセージ	講師の先生は実務家です。本講義をビジネスの現場として捉え、遅刻、私語、居眠り、途中の入退室、スマホ操作を厳禁とする。決してマナーに反しないように心掛けてください。																			
担当者の 研究室等	11号館8階 西之坊研究室																			
備考	原則オンラインで講義を行います。ただし、第2回(4/22)および第13回(7/15)は対面で授業を行います。注意してください。																			

科目名	経営学特講Ⅱ	科目名 (英文)	Up-to-date Topics of Business Administration II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2047a0		

授業概要・目的	本授業は、企業や組織が直面する問題を主体的に解決するための能力を身につけることを目指します。とりわけ、マーケティング概論で学んだことをさらに発展させ、「消費者」の視点からマーケティングをとらえなおし、学んでいきます。つまり、消費者の立場から企業活動を考察します。なお、授業担当者の旅行会社での実務経験から、「モノ」だけではなく「サービス」を含めた多様な事例を紹介しながら授業を進めます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の購買意思決定プロセスについて説明することができる。 消費者視点で複数の企業のマーケティング戦略を比較することができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 講義に加え、新製品に関するニュースなどを題材に議論することも予定しています。 企業における最新のマーケティングの理解を深めるために、ゲスト講師による講義を行う場合もあります。 詳細は、Microsoft Teamsに掲載しますので、毎週、確認ください。
科目学習の効果 (資格)	リテール・マーケティング (販売士)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	消費者行動とマーケティング	消費者の行動を理解する意義について説明します。	【事前学習】マーケティング論の復習、教科書第1章の読解(30分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30分)。
2	消費者行動の分析フレーム	消費者の行動を分析するための代表的なフレームについて紹介します。	【事前学習】教科書第2章の読解(30分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30分)。
3	マーケティング研究・消費者行動研究の系譜	研究系譜について理解しながら、消費者視点で企業活動を捉える意義について理解を深めます。	【事前学習】教科書第3章の読解(30分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30分)。
4	消費行動と消費パターンの分析	消費者の代表的な消費パターンについて理解します。	【事前学習】教科書第4章の読解(30分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30分)。
5	消費者行動の変化とその諸相	消費者を取り巻く環境について理解します。	【事前学習】教科書第5章の読解(30分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30分)。
6	情報処理のメカニズム	消費者情報処理について理解を深めます。	【事前学習】教科書第6章の読解(30分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30分)。
7	情報処理の動機づけ	消費者の購買に対する動機や関与について理解を深めます。	【事前学習】教科書第7章の読解(30分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30分)。
8	情報処理の能力	認知構造と消費者行動との関係について説明します。	【事前学習】教科書第8章の読解(30分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30分)。
9	購買意思決定の分析	消費者の購買意思決定プロセスの概要について理解します。	【事前学習】教科書第9章の読解(30分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30分)。
10	購買前の情報処理	消費者の内部探索・外部探索について理解を深めます。	【事前学習】教科書第10章の読解(30分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30分)。
11	購買時の情報処理	製品やサービスに対する態度について説明します。	【事前学習】教科書第11章の読解(30分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30分)。
12	購買後の情報処理	購買後の満足の仕組みについて説明します。	【事前学習】教科書第12章の読解(30分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30分)。
13	購買意思決定プロセスとマーケティング	消費者の購買意思決定プロセスに応じた企業のマーケティングについて考えます。	【事前学習】教科書第13章の読解(30分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30分)。
14	購買意思決定の特性とマーケティング	消費者の情報処理と企業のマーケティング活動との関係について理解を深めます。	【事前学習】教科書第14章の読解(30分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30分)。
15	ブランド構築とIMC	記憶とブランドとの関係について説明します。	【事前学習】教科書第15章の読解(30分)。 【事後学習】これまでの学習範囲を復習し、期末レポートに備える(30分)。

関連科目 マーケティング概論、マーケティング戦略、リテールマーケティング

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費者行動論	青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎・松下光司	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	クイズ等40% 期末レポート60%		
学生への メッセージ	新しい製品やサービスに関心をもってください。 その製品やサービスが世の中に出てきた背景について考える癖をつけてください。		
担当者の 研究室等	田中祥司研究室 11号館8階		
備考	各回、予習・復習をあわせて1時間程度の準備が必要になります。		

科目名	経営学特講Ⅲ	科目名 (英文)	Up-to-date Topics of Business Administration III
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐井 英子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3048a0		

授業概要・目的
 会計情報とは、企業の経済活動という現実の事象を、会計ルールに従って加工ないし写像したものである。ゆえに会計情報を解釈し、その背後にある現実の事象を正しく把握するには、会計ルールすなわち会計固有の用語とその仕組みに関する知識が不可欠である。特に近年、企業活動の多様化、グローバル化に伴い会計ルールは、さまざまな形で新設、変近年、企業経営において、連結グループとしての戦略に基づいて経営をすすめていくという連結経営が主流となっている。
 それに伴い、証券取引法（現金融証券取引法）では、平成12年3月以降、個別ベースであった有価証券等の記載が、連結ベースとなる改正がおこなわれ、会社法でも連結計算書類が導入された。したがって現代会計の知識を修得するには、個別財務諸表に加えて連結財務諸表を理解しなければならない。
 本講義では、連結会計の全体像、資本連結や成果連結といった基本事項、持分法や在外古賀者の処理、連結キャッシュフロー計算書、セグメント情報等の開示などに関連する論点、企業結合会計等についてわかりやすく解説する。本。

到達目標
 ・連結財務諸表作成の基本的ルールを理解する。
 ・子会社、関連会社、関係会社等グループ経営について理解する。
 ・持分法に関する手続きを理解する。
 ・連結損益計算書、連結貸借対照表、等を理解でき、実際に作成できるようになる表されている会計情報を、自ら利用できるようになる。

授業方法と留意点
 配・連結損益計算書、連結貸借対照表、連結キャッシュフロー計算書等を理解でき、実際に作成できるようになる布資料を文献、資料を中心に解説のあと、練習問題、課題を提示するので、グループワークあるいは個人で解決し、プレゼンテーションする。講義内容の理解を深めるために練習問題、課題レポートの提出を求める。
 授業は、対面を原則として、資料、課題の提出は、WebFoider を通じて行います。
 必要に応じて、Teams による事前講義を実施します。

科目学習の効果 (資格)
 公認会計士試験、税理士試験、証券アナリスト試験等の会計資格取得に有用である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	連結財務諸表の作成①	連結財務諸表とは、連結主体論、	当配布プリントの内容を復習し整理する。理解できないところは図書館で調べる (1時間) 習問題 (講義後に配布) を解く
2	連結財務諸表の作成②	連結範囲、子会社、関連会社	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。理解できないところは図書館で調べる (1時間)
3	連結財務諸表の作成③	非支配株主持分、のれんの処理	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する練習問題を解く (90分)
4	連結財務諸表の作成④	連結貸借対照表の作成①	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する練習問題を解く (90分)
5	連結財務諸表の作成⑤	連結貸借対照表の作成②	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する練習問題を解く (90分)
6	中間テスト	確認テスト	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する練習問題を解く (90分)
7	連結損益計算書の作成⑥	連結損益計算書の作成①	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する課題を解きレポートを作成する (90分)
8	連結損益計算書の作成⑦	連結損益計算書の作成②	今までの内容を復習し、確認テストの準備をする。
9	セグメント情報	連結情報とセグメント情報	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する課題を解きレポートを作成する (90分)
10	連結財務諸表の作成	連結精算表の作成①	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する課題を解きレポートを作成する (90分)
11	連結財務諸表の作成	連結精算表の作成②	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する課題を解きレポートを作成する (90分)
12	連結財務諸表の作成	連結精算表の作成③	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する練習問題を解く (90分)
13	持分法	持分法とは、その会計処理	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する練習問題を解く (90分)
14	復習・質問	総合問題	
15	まとめ (可能なら期末テスト)	総復習	配布した資料、練習問題の復讐

関連科目
 企業簿記システム、財務会計論、管理会計論、会計情報分析論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	連結会計の基礎	植野 清貴	中央経済社
2	連結会計入門	ビジネスアカウンティング研究会	同文館出版
3	連結会計	一法師信武、榎本雅正他	同文館出版

評価方法 (基準)
 課題提出 (60%) と、期末試験 (レポート提出の予定) 40%
 対面授業が可能となりましたら、講義期間中に、中間テスト (30%)、期末テスト (30%)、課題提出 (40%) とします

学生へのメッセージ
 会計情報を分析し、活用するためには、会計ルール (基準) やその作成プロセスを理解することが必要です。企業活動の多様化、グローバルに伴い、会計ルールも複雑化しています。本講義では、連結財務諸表や外貨換算会計、企業結合会計などより高度な会計情報について学びます。連結会計は、非常に難解ですが、本講義では日商簿記2級のレベルを目標として実施します。

担当者の
 11号館8階(佐井教授室)

研究室等	
備考	

科目名	民法	科目名 (英文)	Civil Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IDD2049a0		

授業概要・目的	法律は、社会において生じる問題を解決するために使われるものがある。そのような法律も、いくつかの形に分類がなされる。本講義で扱う民法とは、私人の間の問題等を規律するための法律であり、特に財産問題と家族問題を扱っている。すなわち、財産と家族の問題を扱う一番基本となる法律が民法である。 本講義では、この民法を理解するために、まず概論として、法律学とはどのような学問であるのか、そして、その法律学の中で民法がどのように扱われているのかなど、法学を概観し、その後、具体的な民法の中身を簡単にではあるが把握していくことを予定している。
到達目標	この講義を通じて、学生には民法全般および民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観をつかむことができるようになること、ならびに社会における法的問題がいかなるものであるかを理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義に関連する、レジュメまたは資料を配布する予定である。レジュメは Teams でデータ配信をし、講義はオンデマンド型で Teams に動画をアップロードします。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要です。
科目学習の効果（資格）	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法（民法、民事訴訟法、破産法等）が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	法律学および民法	法律科目というもののガイダンス、法律一般および民法の概要について確認する予定です。	予習：新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持つ部分を見つけ、整理すること。 復習：講義部分の教科書を確認すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
2	民法と財産法総論	法律というものが対象としているものなどを大きく捉え、その中で民法典の役割を確認し、さらに財産法の内容を確認していく予定です。	予習：1回目の内容から、自分の周りに存在する財産法と関連する問題を考えること。 復習：財産法と家族法の役割の違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
3	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	予習：現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを検討すること。 復習：契約成立と申し込み・承諾お関係を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
4	民法における人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人があるのかなどを確認する予定です。	予習：これまでの経験から、法的に自分が置かれてきた立場を整理すること。 復習：親の同意を必要とする契約がいかなるものであるのかを見直すこと。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
5	代理・時効	契約も単独でできない場合があります。その場合に、代わりに契約を行ってくれる人などの代理についてを確認し、また時効制度も確認する。	予習：他人が自分のために契約をしてくれる場面を確認すること。 復習：法的な意味における代理と、日常用語に言う代理の違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
6	契約の締結	契約を締結するとはどのようなことなのかを確認する予定です。	予習：友達との約束についての法的意味を検討・議論すること。 復習：契約内容に違反した場合における損害の意味を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
7	所有権を通しての物権	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	予習：他人が自分の物を返さないという場合を法的に考えてみること。 復習：物的担保がいかなる意味を有し、どのような種類があるのかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
8	不法行為①	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならぬことを、法的に見ていきます。	予習：交通事故や約束違反によって生じた損害は、いかなる賠償により回復することができるのかを検討すること。 復習：損害の意味を、判例を通じて整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
9	不法行為②	現代社会は進歩が激しく、法律も新しい局面に向かいあう必要が生じています。そこで、不法行為の制度をより多角的に見ていく予定です。	予習：他人に損害賠償を請求するために必要となる事情・要件を整理すること。 復習：特別な場合における不法行為制度を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
10	事務管理・不当利得	契約や不法行為とは異なった形で、他人との間で法的な関係が生じる場合をみます。	予習：人情を法律でとらえることや、契約終了後の関係について検討すること。 復習：不当利得の形を判例を通じて入りすること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。

	11	婚姻	婚姻がどのようにすると成立し、その結果どのような義務が生じるのかなどを見ていく予定です。	予習：誰でも婚姻できるのか、婚姻する意味を考えること。 復習：婚姻とそれと類似する形を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	12	離婚	離婚原因を確認し、離婚の際に生じる問題を確認していく。	予習：国家が認める婚姻関係を解消することの重大性を今一度確認すること。 復習：離婚の形と要件を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	13	親子関係	親子は互いにどのような権利義務関係があるのか、また、子の扱いが異なる現状を確認する。	予習：非嫡出子には法的にいかなる取扱いの違いがあるのかを確認すること。 復習：親子関係が形成される場面を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	14	相続	相続の意義や誰が相続できるのかについて確認する。	予習：法律がどのような範囲で相続を認めているのかを確認すること。 復習：相続できる範囲はいかなるものかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	15	遺言および講義のまとめ	相続における被相続人の意思を遺す方法やその問題点を確認する。	予習：遺言の形を整理すること。 復習：全体の確認を行うこと。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
関連科目	憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各回、teamsを使った小テストを行う。その合計100点満点計算を行う予定である。			
学生への メッセージ	民事法は日常生活に関する規範である。したがって、民事法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。			
担当者の 研究室等	11号館9階 大川研究室			
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要がある。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てくるため、必ず講義でそれらの対象を聞くこと。 近年、受講態度のひどい学生が散見されることから、受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外す予定である。			

科目名	会社法	科目名 (英文)	Corporate Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高間 佐知子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IDD3050a0		

授業概要・目的	この講義では、「会社法」で定められている法制度・法規制について学習することを目的としている。経済社会において会社という存在が活動するなかで、どのようにして組織されていて、またどのようにして活動しているのか、法的な観点から学んでいく。会社経営の要にもなるコーポレートガバナンスに対する法規定を中心に、経営者である取締役の法的責任についても言及する。																																																																		
到達目標	この講義の目標は、会社法で定められた制度を理解できるようにすることに加え、会社法に関する法的問題点に対して論理的に検討できるようになることである。																																																																		
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながらの湯を理解してほしい。事後学習として分からない単語は参考書で調べるなどして解決し、また、授業中の課題も確実に理解するよう疑問点は早めに対処すること。 令和元年会社法改正に対応していない参考書も多いので、改正部分については最新の六法や改正に対応した参考書で補うようにすること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	ビジネス実務法務検定3級合格レベルの知識は最低でも習得する。その他、就職試験や公認会計士試験などに必要な基礎知識を習得する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>会社法の概要、会社の種類、持分会社のしくみ</td> <td>会社法の役割、会社の種類、持分会社の内部組織。</td> <td>持分会社の概要について調べておく。(約40分)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>株式会社のしくみ</td> <td>株式会社の資金調達や内部組織、株式会社の諸原則。</td> <td>所有と経営の分離、有限責任について調べておく。(約60分)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>株主の権利</td> <td>自益権・共益権・単独株主権・少数株主権。</td> <td>株主の権利にはどのようなものがあるか調べておく。(約60分)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>株式会社の種類・機関</td> <td>公開会社、大会社、機関設置の基本事項。</td> <td>会社の機関とは何か調べておく。(約40分)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>株主総会の役割</td> <td>株主総会の権限、招集、議決方法、利益供与。</td> <td>株主総会とは何か調べておく。(約60分)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>取締役・代表取締役の役割</td> <td>取締役・取締役会の役割、代表取締役の選任・役割。</td> <td>取締役会および代表取締役について調べておく。(約60分)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>取締役の義務</td> <td>善管注意義務、協業禁止義務、利益相反取引規制、監視義務。</td> <td>取締役の義務について簡単に調べておく。(約60分)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>取締役の責任</td> <td>会社に対する責任、第三者に対する責任、株主代表訴訟、刑事責任。</td> <td>株主代表訴訟とは何か調べておく。(約60分)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>取締役の責任軽減制度、保険制度、報酬規制</td> <td>責任軽減制度、D&O保険、報酬決定に関する規制。</td> <td>D&O保険について調べておく。(約60分)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>経営・会計に関する監督機関</td> <td>監査役、監査役会、会計監査人、会計参与。</td> <td>監査役について調べて取締役との違いを検討する。(約60分)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>委員会制度</td> <td>指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。</td> <td>指名委員会等設置会社について調べておく。(約60分)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>会社の機関構成</td> <td>会社の機関設計に関する法的規制。</td> <td>機関設計に関する会社法の条文を調べておく。(約60分)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>会社の資金調達</td> <td>株式発行の形態・手続。</td> <td>直接金融、間接金融、自己資本、他人資本について調べておく。(約60分)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>株式発行の瑕疵</td> <td>有利発行の概要、差止請求、無効の訴え。</td> <td>有利発行とは何か簡単に調べておく。(約40分)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>会社の組織再編</td> <td>合併、会社分割、株式交換・株式移転、株式交付、事業譲渡。</td> <td>組織再編について簡単に調べておく。(約60分) 今まで学習したことを見直しておく。(約5時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	会社法の概要、会社の種類、持分会社のしくみ	会社法の役割、会社の種類、持分会社の内部組織。	持分会社の概要について調べておく。(約40分)	2	株式会社のしくみ	株式会社の資金調達や内部組織、株式会社の諸原則。	所有と経営の分離、有限責任について調べておく。(約60分)	3	株主の権利	自益権・共益権・単独株主権・少数株主権。	株主の権利にはどのようなものがあるか調べておく。(約60分)	4	株式会社の種類・機関	公開会社、大会社、機関設置の基本事項。	会社の機関とは何か調べておく。(約40分)	5	株主総会の役割	株主総会の権限、招集、議決方法、利益供与。	株主総会とは何か調べておく。(約60分)	6	取締役・代表取締役の役割	取締役・取締役会の役割、代表取締役の選任・役割。	取締役会および代表取締役について調べておく。(約60分)	7	取締役の義務	善管注意義務、協業禁止義務、利益相反取引規制、監視義務。	取締役の義務について簡単に調べておく。(約60分)	8	取締役の責任	会社に対する責任、第三者に対する責任、株主代表訴訟、刑事責任。	株主代表訴訟とは何か調べておく。(約60分)	9	取締役の責任軽減制度、保険制度、報酬規制	責任軽減制度、D&O保険、報酬決定に関する規制。	D&O保険について調べておく。(約60分)	10	経営・会計に関する監督機関	監査役、監査役会、会計監査人、会計参与。	監査役について調べて取締役との違いを検討する。(約60分)	11	委員会制度	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	指名委員会等設置会社について調べておく。(約60分)	12	会社の機関構成	会社の機関設計に関する法的規制。	機関設計に関する会社法の条文を調べておく。(約60分)	13	会社の資金調達	株式発行の形態・手続。	直接金融、間接金融、自己資本、他人資本について調べておく。(約60分)	14	株式発行の瑕疵	有利発行の概要、差止請求、無効の訴え。	有利発行とは何か簡単に調べておく。(約40分)	15	会社の組織再編	合併、会社分割、株式交換・株式移転、株式交付、事業譲渡。	組織再編について簡単に調べておく。(約60分) 今まで学習したことを見直しておく。(約5時間)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	会社法の概要、会社の種類、持分会社のしくみ	会社法の役割、会社の種類、持分会社の内部組織。	持分会社の概要について調べておく。(約40分)																																																																
2	株式会社のしくみ	株式会社の資金調達や内部組織、株式会社の諸原則。	所有と経営の分離、有限責任について調べておく。(約60分)																																																																
3	株主の権利	自益権・共益権・単独株主権・少数株主権。	株主の権利にはどのようなものがあるか調べておく。(約60分)																																																																
4	株式会社の種類・機関	公開会社、大会社、機関設置の基本事項。	会社の機関とは何か調べておく。(約40分)																																																																
5	株主総会の役割	株主総会の権限、招集、議決方法、利益供与。	株主総会とは何か調べておく。(約60分)																																																																
6	取締役・代表取締役の役割	取締役・取締役会の役割、代表取締役の選任・役割。	取締役会および代表取締役について調べておく。(約60分)																																																																
7	取締役の義務	善管注意義務、協業禁止義務、利益相反取引規制、監視義務。	取締役の義務について簡単に調べておく。(約60分)																																																																
8	取締役の責任	会社に対する責任、第三者に対する責任、株主代表訴訟、刑事責任。	株主代表訴訟とは何か調べておく。(約60分)																																																																
9	取締役の責任軽減制度、保険制度、報酬規制	責任軽減制度、D&O保険、報酬決定に関する規制。	D&O保険について調べておく。(約60分)																																																																
10	経営・会計に関する監督機関	監査役、監査役会、会計監査人、会計参与。	監査役について調べて取締役との違いを検討する。(約60分)																																																																
11	委員会制度	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	指名委員会等設置会社について調べておく。(約60分)																																																																
12	会社の機関構成	会社の機関設計に関する法的規制。	機関設計に関する会社法の条文を調べておく。(約60分)																																																																
13	会社の資金調達	株式発行の形態・手続。	直接金融、間接金融、自己資本、他人資本について調べておく。(約60分)																																																																
14	株式発行の瑕疵	有利発行の概要、差止請求、無効の訴え。	有利発行とは何か簡単に調べておく。(約40分)																																																																
15	会社の組織再編	合併、会社分割、株式交換・株式移転、株式交付、事業譲渡。	組織再編について簡単に調べておく。(約60分) 今まで学習したことを見直しておく。(約5時間)																																																																
関連科目	民法、商法																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎から学べる会社法</td> <td>近藤光男・志谷匡史・石田真得・釜田薫子</td> <td>弘文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>会社法</td> <td>神田秀樹</td> <td>弘文堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎から学べる会社法	近藤光男・志谷匡史・石田真得・釜田薫子	弘文堂	2	会社法	神田秀樹	弘文堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	基礎から学べる会社法	近藤光男・志谷匡史・石田真得・釜田薫子	弘文堂																																																																
2	会社法	神田秀樹	弘文堂																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題(30%)及びレポート(70%)によって評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	法律は難しいイメージがあるかもしれないが、何をするにしても法律はついて回ってくるので、社会に出て講義で学んだことが少しでも役立つように自分なりに頑張ってもらいたい。																																																																		
担当者の研究室等	11号館10階																																																																		
備考	Teamsで講義を受けた後に練習問題に取り組んで復習してください。 加えて、課題とレポートを提出しましょう。 第1回の講義でお伝えしたTeamsのコードが間違っていましたので、シラバス掲載のコードを使ってください。																																																																		

科目名	労働法	科目名 (英文)	Labor Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IDD3051a0		

授業概要・目的	労働法は労働者と使用者との契約関係を規律する「労働保護法」と労働組合の団体行動を規律する「労働団体法」の2分野に大きく分けられますが、この授業では双方の分野を含めて労働法を概観します。
到達目標	この授業を通じて、学生は労働者の保護という法律の目的が具体的にどのような規定によって実現されているのかを理解し、低賃金労働、長時間労働、労働災害、外国人労働者問題といった現実の社会で生起している問題を法律の観点からとらえ、問題の解決の方向を見出すことができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	第2回以降はTeamsで講義動画を配信する(オンデマンド方式)ほか、論点を整理したレジュメその他の資料を適宜配布して行います。教科書および六法は必ず手元に置くようにして下さい。授業では適宜課題を提出するほか、最終回の講義では定期試験を行います(いずれもTeamsを利用したオンライン実施の予定です)。
科目学習の効果(資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。学生の多くは卒業後に就職することになるでしょうが、労働法の知識は社会生活を送るうえで極めて有用なものであるはずですが。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	労働法の意義と基本構造	・労働法の全体像、規律構造 ・労働者の権利について	教科書第1編(2頁-22頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
2	労働者保護の一般原則 労働契約	・労基法の適用範囲 ・労働契約の基本	教科書第2編第1章から第3章の2まで(24頁-79頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
3	労働契約の当事者の権利義務	・労働契約の法的規制 ・労働契約における権利と義務 ・配転と使用者の業務命令権	教科書第2編第3章の3から6まで(79頁-109頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(2時間)
4	賃金	・賃金と退職金 ・賃金支払の原則 ・休業手当	教科書第2編第4章(110頁-131頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
5	労働時間	・労働時間の意味 ・労働時間規制の原則と例外	教科書第2編第5章の1から6(132頁-154頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
6	休憩・休日 年次有給休暇 年少者と女性労働者の保護	・休憩に関する規制 ・年休権の内容 ・年少者と女性労働者の労働規制	教科書第2編第5章の7から第7章まで(154頁-184頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
7	安全衛生と災害補償	・使用者の安全配慮義務 ・労働災害の補償	教科書第2編第8章(185頁-204頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
8	就業規則	・就業規則の意義とその効果	教科書第2編第9章(205頁-223頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
9	懲戒	・使用者の懲戒権の法的根拠 ・懲戒処分の内容	教科書第2編第10章(224頁-242頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
10	解雇・定年・退職 多様な働き方	・解雇の法理 ・パート労働、派遣労働	教科書第2編第11、12章(243頁-286頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
11	労働組合の基本	労働組合の意義と目的	教科書第4編第1、2章(312頁-329頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
12	団体交渉と労働協約	・団体交渉権の保障とその範囲 ・労働協約の効力	教科書第4編第3、4章(330頁-354頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
13	労働争議	・争議行為の意義と限界	教科書第4編第5章(355頁-379頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
14	組合活動と不当労働行為	・就業時間中の組合活動 ・不当労働行為の意義と救済	教科書第4編第6、7章(380頁-418頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
15	まとめ・試験	これまでのまとめと、あまり触れられなかった問題の補足と定期試験	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分などがどこかを確認しておくこと(1時間)

関連科目	日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法 [第12版]	安枝英紳・西村健一郎	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働判例百選 [第9版]		有斐閣
2				
3				

評価方法(基準)	学期末試験(70%)、授業中の課題(30%)により総合的に評価します。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館9階 川谷研究室
----------	--------------

備考	小テストを実施した場合、次回講義で問題の解説を行います。
----	------------------------------

科目名	金融商品取引法	科目名 (英文)	Financial Instrument and Exchange Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高間 佐知子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IDD3052a0		

授業概要・目的	この講義では、「金融商品取引法」で定められている法制度・法規制について学習することを目的としている。法律科目の中でも金融商品取引法は専門性が高く、少し難しく感じるものかもしれないが、経済社会において必要不可欠となっている証券市場に関するルールを定めているものである。この講義では金融商品取引法にどのような規制が何のために存在するかを明らかにしていく。
到達目標	この講義は、金融商品取引法で定められた法規制を理解できるようにすることに加え、証券市場を取り巻く法的問題点に対して論理的に検討できるようにすることを目標としている。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながらの湯を理解してほしい。事後学習として分からない単語は参考書で調べるなどして解決し、また、授業中の課題も確実に理解するよう疑問点は早めに解消すること。法改正が頻繁に行われているので、参考書は最新のものを利用するようにしてほしい。
科目学習の効果 (資格)	金融の中でも証券取引に関する専門性の高い法律知識を習得することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方、金融商品市場の基本的な仕組み	証券市場について大まかに調べる (30分)
2	金融商品取引法の全体像	金融商品取引法の目的と適用範囲	金融商品取引法について大まかに調べる (30分)
3	有価証券の取引方法①	有価証券の上場	上場や証券市場について調べる (60分)
4	有価証券の取引方法②	有価証券取引の仕組み、金融商品取引所	有価証券取引について大まかに調べる (30分)
5	企業内容の開示規制①	発行開示制度、継続開示制度	開示される情報について調べる (60分)
6	企業内容の開示規制②	虚偽の情報開示と法的責任	虚偽の情報開示とはどのようなものか調べる (60分)
7	金融商品取引業者の規制①	金融商品取引業、金融商品仲介業、外務員への規制	金融商品取引業者について調べる (60分) * 授業形態をハイフレックス形式に変更 (備考参照のこと)
8	金融商品取引業者の規制②	誠実公正義務、顧客への情報提供、適用除外	顧客に対してどのような情報が提供されるか調べる (60分)
9	公開買付け	公開買付 (TOB) の意義と法規制	公開買付けがどのような場合に利用されるか調べる (60分)
10	5%ルール、委任状勧誘	大量保有報告制度 (5%ルール) の意義と法規制、委任状勧誘の意義	5%ルールが適用される場面について調べる (60分)
11	証券詐欺に対する規制	詐欺的行為に対する禁止規定の意義	何が詐欺的行為にあたるのか調べる (60分)
12	インサイダー取引	インサイダー取引の意義と法規制	インサイダー取引とは何か大まかに調べる (30分)
13	相場操縦	相場操縦の意義と法規制	相場操縦とは何か大まかに調べる (30分)
14	法の実現、デリバティブ取引	デリバティブ取引の定義と種類	デリバティブ取引とは何か大まかに調べる (30分)
15	総括	今までの授業の振り返り	授業で扱った内容すべてについて復習する (3時間)

関連科目	会社法
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学べる金融商品取引法 (第4版)	近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子	弘文堂
2			
3			

評価方法 (基準)	課題1～3 (40%) 及び最終課題 (60%) によって評価する。
-----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	金融や株式取引などに興味のある学生は新たな法的視点を得ることができると思う。すでに知っている内容は少ないので難しく感じられるかもしれないが、それは多くの学生が同じ状況なので、みんな同じスタートラインから学べる内容です。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館10階
----------	---------

備考	11月5日第7回講義より対面講義と Teams によるリアルタイムオンライン講義を併用します。対面講義を原則とするものですので、授業時間内に Teams にアクセスするようにしてください。Teams は法学部と合同です。
----	--

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	卒論作成に向けた個別指導を実施します。なお、3年次に策定した「卒業論文計画書」に従い、順次、仮説の立証に向けた調査および考察をしてもらいます。 また卒業論文計画書に記載したスケジュールに従い、「中間ドラフトの開示」および提出に向けた個別修正・訂正、追加見解の必要性など指示します。
到達目標	4年次の12月上旬までの完成（提出期限）を目指し、各自で随時、進捗を確認して完成を目指します。 また、12月中旬に論文発表会を開催します。
授業方法と留意点	原則、Teamsでの個別相談または研究室での授業とします。 対面の際には、自身のPCを持参の上、授業に参加すること。
科目学習の効果 (資格)	将来、企業内での文書作成、調査などに役立つノウハウと記載方法を習得してもらいます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	各自、卒論進捗状況の確認	各自の「卒業論文計画書」に基づく進捗の確認。 調査事項に対する考察	引用・参考文献の抽出と、再検索による文献調査 (1時間)。
2	各自、卒論進捗状況の確認	各自の「卒業論文計画書」に基づく進捗の確認。 調査事項に対する考察	引用・参考文献の抽出と、再検索による文献調査 (1時間)。
3	各自、卒論進捗状況の確認	各自の「卒業論文計画書」に基づく進捗の確認。 調査事項に対する考察	引用・参考文献の抽出と、再検索による文献調査 (1時間)。
4	中間ドラフトの発表	中間時点での調査事項、仮説に対する検証の可能性を評価する。	引用・参考文献の抽出と、再検索による文献調査 (1時間)。
5	各自、卒論進捗状況の確認	各自の「卒業論文計画書」に基づく進捗の確認。 調査事項に対する考察	引用・参考文献の抽出と、再検索による文献調査 (1時間)。
6	各自、卒論進捗状況の確認	各自の「卒業論文計画書」に基づく進捗の確認。 調査事項に対する考察	引用・参考文献の抽出と、再検索による文献調査 (1時間)。
7	各自、卒論進捗状況の確認	各自の「卒業論文計画書」に基づく進捗の確認。 調査事項に対する考察	引用・参考文献の抽出と、再検索による文献調査 (1時間)。
8	各自、卒論進捗状況の確認	各自の「卒業論文計画書」に基づく進捗の確認。 調査事項に対する考察	引用・参考文献の抽出と、再検索による文献調査 (1時間)。
9	各自、卒論進捗状況の確認	各自の「卒業論文計画書」に基づく進捗の確認。 調査事項に対する考察	引用・参考文献の抽出と、再検索による文献調査 (1時間)。
10	各自、卒論進捗状況の確認	各自の「卒業論文計画書」に基づく進捗の確認。 調査事項に対する考察	引用・参考文献の抽出と、再検索による文献調査 (1時間)。
11	各自、卒論進捗状況の確認	各自の「卒業論文計画書」に基づく進捗の確認。 調査事項に対する考察	引用・参考文献の抽出と、再検索による文献調査 (1時間)。
12	各自、卒論進捗状況の確認	各自の「卒業論文計画書」に基づく進捗の確認。 調査事項に対する考察	引用・参考文献の抽出と、再検索による文献調査 (1時間)。
13	各自、卒論進捗状況の確認	各自の「卒業論文計画書」に基づく進捗の確認。 調査事項に対する考察	引用・参考文献の抽出と、再検索による文献調査 (1時間)。
14	各自、卒論進捗状況の確認	各自の「卒業論文計画書」に基づく進捗の確認。 調査事項に対する考察	引用・参考文献の抽出と、再検索による文献調査 (1時間)。
15	第1次草稿文提出	個別指導。特に仮説立証に向けた調査事項の確認。	引用・参考文献の抽出と、再検索による文献調査 (1時間)。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
評価方法 (基準)	中間ドラフトの提出と内容の精査 (評価割合: 30%) 第1次原案提出による論文進捗評価 (評価割合: 30%) 完成論文の評価 (40%)																

学生へのメッセージ	各自の「卒業論文計画書」に従い、実効性の伴う調査をしてもらいたい。
担当者の研究室等	11号館 7階 林研究室
備考	

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1. Sharing information about yourselves.	Reading, vocabulary building. Speaking and listening activities. Pair and group work.	Follow instructions as provided in class.
3	Unit 1	Writing. Basic form of a paragraph. Using "but" "so" and "because" in college English. Sharing your writing and asking questions.	Follow instructions as provided in class.
4	How was your golden Week Talking about the recent past.	Speaking, listening and note taking. Speaking strategies, especially follow up questions.	Follow instructions as provided in class.
5	Unit 2. Friends.	Reading, vocabulary building. Speaking and listening activities. Pair and group work.	Follow instructions as provided in class.
6	Unit 2	Writing. Ready to write. Preparing ideas. Editing and adding detail. Re-writing. Sharing your writing and asking questions.	Follow instructions as provided in class.
7	Unit 3 "Special friends"	Reading, vocabulary building. Speaking and listening activities. Pair and group work.	Follow instructions as provided in class.
8	Unit 3	Writing. Using the skills taught so far. Sharing your writing and feedback.	Follow assessment instructions
9	Unit 4 Shopping. Yes, we are going to do unit 6 before unit 5.	Reading, vocabulary building. Speaking and listening activities. Pair and group work.	Follow assessment instructions.
10	Unit 4	Writing. Using the skills taught so far. Sharing your writing and feedback.	Follow instructions as provided in class.
11	Unit 6. Jobs. Yes, we are going to do unit 6 before unit 5.	Reading, vocabulary building. Speaking and listening activities. Pair and group work.	Follow instructions as provided in class.
12	Unit 6	Writing. Using the skills taught so far. Sharing your writing and feedback.	Follow instructions as provided in class.
13	Unit 5 The future: Plans for the summer	Reading, vocabulary building. Speaking and listening activities. Pair and group work.	Follow instructions as provided in class.
14	Unit 6: Summer plans.	Writing. Using the skills taught so far. Sharing your writing and feedback.	Follow assessment instructions.
15	Review and feedback.		Follow assessment instructions.

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Face to Face (second edition) ISBN 978477363919	Dale Fuller/ Corey Fuller	MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (participation, speaking and communication skills, various written activities, such as paragraphs, interaction and reflection reports) 80%		
学生への メッセージ	I'm looking forward to teaching you this year. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.		
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Course introduction Unit 1</td> <td>Syllabus will be explained. Textbook layout and purposes will be discussed. Getting to Know You</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1 continued</td> <td>Getting to Know You</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 2</td> <td>Food & Drink</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 3</td> <td>Your Neighborhood</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 4</td> <td>Daily Routines</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 5</td> <td>Entertainment</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Review /Preparation / Quiz</td> <td></td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Midterm Assessment Activity /Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 6</td> <td>Friends & Dating</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 7</td> <td>Fashion & Style</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 8</td> <td>University Life</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 9</td> <td>Shopping</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 10</td> <td>Travel</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Review /Preparation / Quiz</td> <td></td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>End of Term Assessment Activity / Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Course introduction Unit 1	Syllabus will be explained. Textbook layout and purposes will be discussed. Getting to Know You		2	Unit 1 continued	Getting to Know You	Homework	3	Unit 2	Food & Drink	Homework	4	Unit 3	Your Neighborhood	Homework	5	Unit 4	Daily Routines	Homework	6	Unit 5	Entertainment	Homework	7	Review /Preparation / Quiz		Homework	8	Midterm Assessment Activity /Quiz			9	Unit 6	Friends & Dating	Homework	10	Unit 7	Fashion & Style	Homework	11	Unit 8	University Life	Homework	12	Unit 9	Shopping	Homework	13	Unit 10	Travel	Homework	14	Review /Preparation / Quiz		Homework	15	End of Term Assessment Activity / Quiz		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Course introduction Unit 1	Syllabus will be explained. Textbook layout and purposes will be discussed. Getting to Know You																																																																	
2	Unit 1 continued	Getting to Know You	Homework																																																																
3	Unit 2	Food & Drink	Homework																																																																
4	Unit 3	Your Neighborhood	Homework																																																																
5	Unit 4	Daily Routines	Homework																																																																
6	Unit 5	Entertainment	Homework																																																																
7	Review /Preparation / Quiz		Homework																																																																
8	Midterm Assessment Activity /Quiz																																																																		
9	Unit 6	Friends & Dating	Homework																																																																
10	Unit 7	Fashion & Style	Homework																																																																
11	Unit 8	University Life	Homework																																																																
12	Unit 9	Shopping	Homework																																																																
13	Unit 10	Travel	Homework																																																																
14	Review /Preparation / Quiz		Homework																																																																
15	End of Term Assessment Activity / Quiz																																																																		
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>The English Gym</td> <td>Jon Charles</td> <td>Oak Hills Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%																																																																		
学生へのメッセージ	Bring your textbook to every class. Let's enjoy speaking in English together!																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Course introduction</td> <td>Syllabus will be explained. Textbook layout and purposes will be discussed.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1</td> <td>It's nice to meet you</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 1</td> <td>It's nice to meet you</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 2</td> <td>Who are they talking about?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 2</td> <td>Who are they talking about?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 3</td> <td>When do you start?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 3</td> <td>When do you start?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 4</td> <td>Where does this go?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 4</td> <td>Where does this go?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 5</td> <td>How do I get there?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 5</td> <td>How do I get there?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 6</td> <td>What happened?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 6</td> <td>What happened?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Review / Preparation / Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>End of Term Assessment Activity / Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	Course introduction	Syllabus will be explained. Textbook layout and purposes will be discussed.		2	Unit 1	It's nice to meet you	Homework	3	Unit 1	It's nice to meet you	Homework	4	Unit 2	Who are they talking about?	Homework	5	Unit 2	Who are they talking about?	Homework	6	Unit 3	When do you start?	Homework	7	Unit 3	When do you start?	Homework	8	Unit 4	Where does this go?	Homework	9	Unit 4	Where does this go?	Homework	10	Unit 5	How do I get there?	Homework	11	Unit 5	How do I get there?	Homework	12	Unit 6	What happened?	Homework	13	Unit 6	What happened?	Homework	14	Review / Preparation / Quiz			15	End of Term Assessment Activity / Quiz		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	Course introduction	Syllabus will be explained. Textbook layout and purposes will be discussed.																																																																	
2	Unit 1	It's nice to meet you	Homework																																																																
3	Unit 1	It's nice to meet you	Homework																																																																
4	Unit 2	Who are they talking about?	Homework																																																																
5	Unit 2	Who are they talking about?	Homework																																																																
6	Unit 3	When do you start?	Homework																																																																
7	Unit 3	When do you start?	Homework																																																																
8	Unit 4	Where does this go?	Homework																																																																
9	Unit 4	Where does this go?	Homework																																																																
10	Unit 5	How do I get there?	Homework																																																																
11	Unit 5	How do I get there?	Homework																																																																
12	Unit 6	What happened?	Homework																																																																
13	Unit 6	What happened?	Homework																																																																
14	Review / Preparation / Quiz																																																																		
15	End of Term Assessment Activity / Quiz																																																																		
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Firsthand 1, Fifth Edition</td> <td>Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Firsthand 1, Fifth Edition	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Firsthand 1, Fifth Edition	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%																																																																		
学生へのメッセージ	Do your best to succeed in the online environment!																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室(前期3号館2階/後期7号館2階)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、自己紹介	テキストの予習と単語の学習
	2	Unit 1 I'm a Big Fan (1)	Be 動詞 (1)	テキストの予習と単語の学習
	3	Unit 1 I'm a Big Fan (2)	Be 動詞 (2)	テキストの予習と単語の学習
	4	Unit 2 He's Kissing Her (1)	現在進行形 (1)	テキストの予習と単語の学習
	5	Unit 2 He's Kissing Her (2)	現在進行形 (2)	テキストの予習と単語の学習
	6	Unit 3 I Don't Have Any Money (1)	現在形・肯定文と否定文 (1)	テキストの予習と単語の学習
	7	Unit 3 I Don't Have Any Money (2)	現在形・肯定文と否定文 (2)	テキストの予習と単語の学習 確認テストに向けての学習
	8	確認テスト	Unit 1-3 の内容のテスト	テキストの予習と単語の学習
	9	Unit 4 What Do You Do Every Day? (1)	現在形・疑問文 (1)	テキストの予習と単語の学習 暗唱テストの予習
	10	Unit 4 What Do You Do Every Day? (2)	現在形・疑問文 (2)	テキストの予習と単語の学習
	11	Unit 5 Wow! Is That Your Car? (1)	代名詞 (1)	テキストの予習と単語の学習
	12	Unit 5 Wow! Is That Your Car? (2)	代名詞 (2)	テキストの予習と単語の学習
	13	Unit 6 Be Careful! (1)	命令文 (1)	テキストの予習と単語の学習
	14	Unit 6 Be Careful! (2)	命令文 (2)	テキストの予習と単語の学習 まとめテストに向けての学習
	15	まとめテスト・復習	これまでの内容の復習とまとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Charge	Robert Hickling、市川泰弘	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% テスト 30% 課題 50%
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	毎回課題を提出することを心掛けてください。
-----------	-----------------------

担当者の研究室等	3 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	Moodle を使ったオンデマンド型の授業を行う。毎回課題を提示し、期限までに提出を求め、提出期限後に解答や解説を提示して行く。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、自己紹介、プリント教材を使った学習	テキストの予習と単語の学習 テキストの予習をしながら単語帳を作ること (以下同様)
	2	Fashion (1)	名詞	テキストの予習と単語の学習
	3	Fashion (2)/ Companies (1)	名詞/ 代名詞	テキストの予習と単語の学習
	4	Companies (2)	代名詞	テキストの予習と単語の学習
	5	Business Trips (1)	自動詞・他動詞	テキストの予習と単語の学習
	6	Business Trips (2)/ Transportations and Commuting (1)	自動詞・他動詞/ 助動詞	テキストの予習と単語の学習
	7	Transportations and Commuting (2)	助動詞	テキストの予習と単語の学習
	8	Marketing, Sales and Products (1)	不定詞・動名詞	テキストの予習と単語の学習
	9	Marketing, Sales and Products (2)/ Offices and Supplies (1)	不定詞・動名詞/ 場所・動きを表す前置詞	テキストの予習と単語の学習
	10	Offices and Supplies (2)	場所・動きを表す前置詞	テキストの予習と単語の学習
	11	Meetings and Presentations (1)	時間を表す前置詞	テキストの予習と単語の学習
	12	Meetings and Presentations (2)/ Art (1)	時間を表す前置詞/ 形容詞・副詞	テキストの予習と単語の学習
	13	Art (2)	形容詞・副詞	テキストの予習と単語の学習
	14	復習	前期の内容の復習	テキストの予習と単語の学習
	15	まとめの課題	前期内容のまとめの課題	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Grip	本多 吉彦、Robert Hickling Hickling	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% Moodle の提出課題 80%
学生へのメッセージ	毎回期限までに課題を提出するように心がけてください。また共通課題は英語課題は計画的に進めて、必ず期限までに終わるようにしてください。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (3 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions.
2	Conversation Strategies	Students will learn how to make comments, follow-up questions, and how to add detail in their speaking. Pair and group work activities will be used.	Follow instructions as provided in class.
3	Unit 1	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
4	Unit 1	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
5	Unit 2	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
6	Unit 2	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
7	Unit 4	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
8	Unit 4	Students will complete a small group written task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instructions
9	Midterm Assessment	Students will complete activities reviewing what they have studied in units 1, 2 & 4 and demonstrate that they understand the material.	Follow assessment instructions.
10	Unit 5	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
11	Unit 5	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
12	Unit 6	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
13	Unit 6	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
14	Review Lesson	Students will complete a small group written task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instruction
15	Final Assessment	Students will complete activities reviewing what they have studied in units 1, 2, 4, 5 & 6 and demonstrate that they understand the material.	Follow assessment instructions.

関連科目	他の英語科目
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Stretch 1 (ISBN 9780194603126)	Susan Stempleski	Oxford
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	I'm looking forward to teaching you this year. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。※専任教員は「その他質問等は学生アワーにて対応する。」と記入する。			

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction オリエンテーション	Introductions, explaining the class.	No preparation required. 準備は必要ありません。
	2	Unit 1 Lifestyles.	Asking people about themselves. Telling about yourself.	Pages 4 - 5.
	3	Unit 1 Lifestyles continued.	Exchanging personal information.	Pages 6 - 8.
	4	Unit 2 Student Life.	Describing your student life.	Pages 10 - 11.
	5	Unit 2 Student Life continued.	Describing daily routines.	Pages 12 - 14.
	6	Unit 3 Hobbies and interests.	Talking about people's interests.	Pages 16 - 17.
	7	Unit 3 Leisure time and abilities.	How you spend your free time.	Pages 18 - 20.
	8	Test of units 1-3. Special topic.	Test of units 1-3. Special topic.	Review of grammar and vocabulary of units 1 - 3.
	9	Unit 4 Neighborhoods.	Talking about your hometown.	Pages 24 - 25.
	10	Unit 4 Neighborhoods continued.	Neighborhood facilities.	Pages 26 - 28.
	11	Unit 5 Directions and travel	How to describe where things are.	Pages 30 - 31.
	12	Unit 5 Direction and travel continued.	Finding places when you travel.	Pages 32 - 34.
	13	Unit 6 Shopping and money.	Expressions for money and travel.	Pages 36 - 37.
	14	Unit 6 Shopping and money continued.	Talking about shopping.	Pages 38 - 39.
15	Test of units 4 - 6.	Test of units 4 - 6.	Review of grammar and vocabulary of units 4 - 6.	

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Breakthrough Plus 1 (2nd edition)	Miles Craven	MacMillan ISBN: 9781380003089
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中間テスト: 25% 期末テスト: 25% 小テスト (2): 20% 出席授業参加態度: 30%。 Online Classes Grading: 成績評価: リスニングテスト 30%、レポート 25%、授業勉強、宿題 45%。
-----------	---

学生へのメッセージ	オンライン授業には Zoom を使用します。Zoom の URL、パスワード、ID は 1 週目の摂南 WebFolder にありますのでご確認ください。 We will use Zoom for online classes. Please find the Zoom URL, password and ID in Setsunan Web Folder in Week 1 folder. 良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ※専任教員は「・・・行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。」とする。
----	---

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェーン バーンター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達する
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction オリエンテーション	Introductions, explaining the class..	No preparation required. 準備は必要ありません。
2	Unit 1 Lifestyles.	Asking people about themselves.	Telling about yourself. Pages 4 - 5.
3	Unit 1 Lifestyles continued.	Exchanging personal information.	Pages 6 - 8.
4	Unit 2 Student Life.	Describing your student life.	Pages 10 - 11.
5	Unit 2 Student Life continued.	Describing daily routines.	Pages 12 - 14.
6	Unit 3 Hobbies and interests.	Talking about people's interests.	Pages 16 - 17.
7	Unit 3 Leisure time and abilities.	How you spend your free time.	Pages 18 - 20.
8	Mid-term test of units 1-3.	Special topic. Mid-term test of units 1-3.	Special topic. Review of grammar and vocabulary of units 1 - 3.
9	Unit 4 Neighborhoods.	Talking about your hometown.	Pages 24 - 25.
10	Unit 4 Neighborhoods continued.	Neighborhood facilities.	Pages 26 - 28.
11	Unit 5 Directions and travel.	How to describe where things are.	Pages 30 - 31.
12	Unit 5 Direction and travel continued.	Finding places when you travel.	Pages 32 - 34.
13	Unit 6 Shopping and money.	Expressions for money and travel.	Pages 36 - 37.
14	Unit 6 Shopping and money continued.	Talking about shopping.	Pages 38 - 39.
15	Test of units 4 - 6.	Test of units 4 - 6.	Review of grammar and vocabulary of units 4 - 6.

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Breakthrough Plus 1, 2nd edition	Miles Craven	MacMillan 9781380003089
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) Short tests and quizzes 20 percent, speaking test 20 percent, presentation 25 percent, final test 30 percent, class participation 5 percent

学生へのメッセージ Please bring the textbook, pen, pencil, paper and a dictionary (or use an online dictionary on your cell phone) to every class.

担当者の研究室等 非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内 で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達する
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting a stranger.
2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
3	Unit 1: Describing hobbies (using present perfect continuous tense). Complete textbook vocabulary, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
4	Unit 1: Describing hobbies (using present perfect continuous tense). Complete textbook vocabulary, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
5	Unit 2: Describing TV shows (using indirect questions). Complete textbook vocabulary, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
6	Unit 2: Describing TV shows (using indirect questions). / Units 1&2 test. Complete textbook vocabulary, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
7	Unit 3: Talking about art	Students will discover, practice	Complete online homework

		(using passive tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	(https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	8	Unit 3: Talking about art (using passive tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	9	Unit 4: Describing people (using relative clauses). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	10	Unit 4: Describing people (using relative clauses). / Units 3&4 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	11	Unit 5: Discussing technology (using infinitives and gerunds). Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	12	Unit 5: Discussing technology (using infinitives and gerunds). Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	13	Unit 6: Describing events (using the past perfect tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	14	Unit 6: Describing events (using the past perfect tense) / Units 5 & 6 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback.
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English level 'maintenance' methods.

	using 'will' and 'going to'.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Smart Choice: 4th Edition Level 2 Student Book with Online Practice (ISBN: 978-0-19-406114-8)	Wilson, K.
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	Class participation / Online homework sc3e.ouonlinepractice.com (10%) Unit review tests (3x30%) In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.		
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.		
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内 で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・グアイース
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction オリエンテーション	Introductions, explaining the class..	No preparation required. 準備は必要ありません。
	2	Grammar of Questions 1 Small Talk	Open Questions, General Verbs	Review
	3	Grammar of Questions 2 Small Talk	Open Questions, Verb "To Be"	Review
	4	Grammar of Questions 3 Small Talk	Yes/No Questions	Review
	5	Grammar of Questions 4 Small Talk	Else/ What movie did you watch?	Review
	6	Grammar of Questions 5 Small Talk	How Questions	Review
	7	Grammar of Questions 6 Small Talk	Questions about preferences	Review
	8	Mid-term test. Grammar of Questions Small Talk	Mid Term Test. Grammar of Questions	Review
	9	Unit 1 Small Talk	Introductions	Review
	10	Unit 1 Small Talk	Introductions	Review
	11	Unit 2 Small Talk	Exchanging personal information	Review
	12	Unit 2 Small Talk	Exchanging personal information	Review
	13	Unit 3 Small Talk	Offering and Accepting Food and Drink	Review
	14	Unit 3 Small Talk	Offering and Accepting Food and Drink	Review
	15	Test of units 1-3 and small talk questions	Test of units 1-3 and small talk questions	

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	International Express Beginner	Bryan Stephens	Oxford
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席授業参加態度: 50%. 中間テスト: 25% 期末テスト: 25%
-----------	--

学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業、提出物、評価方法の説明	————
	2	Unit1	be 動詞	教科書 p14-16
	3	Unit2	一般動詞 (現在)	教科書 p. 17-19
	4	Unit3	一般動詞 (過去)	教科書 p. 20-22
	5	Unit4	進行形	教科書 p. 23-25
	6	Unit5	未来形	教科書 p. 26-28
	7	Unit6	助動詞	教科書 p. 29-31
	8	Unit7	名詞、冠詞	教科書 p. 32-34
	9	Unit8	代名詞	教科書 p. 35-37
	10	Unit9	前置詞	教科書 p. 38-40
	11	Unit10	形容詞、副詞	教科書 p. 41-43
	12	Unit11	比較	教科書 p. 44-46
	13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	習った内容は何度も復習して覚えよう
	14	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	習った内容は何度も復習して覚えよう
15	総合復習	定期試験対策	教科書など前期範囲一通り	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Primer <Revised Edition> 基礎からの英語入門 <改訂新版>	佐藤哲三、アベ松伸二、愛甲ゆかり、小手川巧光、福島孝夫、重久睦美、村上美穂、新彰	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集) 改訂新版	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (70%)、授業中の小テスト (5%)、平常点 (提出物、授業への参加、貢献度含め 25%) の点数を総合評価します。また、日頃の授業態度も重視します。 進行状況により授業内容が変わる事があります。 オンライン授業期間中は単語の小テストは行いません。また最後までオンライン授業が続いた場合は期末試験は行わず、課題提出 (100%) で評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	「明るく、元気で感動を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction オリエンテーション テキスト Getting to Know You, Class Rules, Evaluation, etc.	Introduction exercises Getting to Know You	Students should study the content of the day's lesson
	2	単語テスト Exercises - Getting to Know You Pt 2	次回の単語テストの予習 テキスト Getting to Know You	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	単語テスト Exercises - Food & Drink	次回の単語テストの予習 テキスト Eating Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	単語テスト Exercises - Your Neighbourhood	テキスト Living Conditions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises - Daily Routines	次回の単語テストの予習 テキスト Personal Schedules	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	単語テスト Exercises - Daily Routines	次回の単語テストの予習 テキスト Personal Schedules	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	単語テスト Exercises - Entertainment	次回の単語テストの予習 テキスト Movies, TV, Music	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	単語テスト Exercises - Friends & Dating	テキスト Relationships, Going Out	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises - Fashion & Style	次回の単語テストの予習 テキスト Dress for Success	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	単語テスト Exercises - University Life	次回の単語テストの予習 テキスト Education, Club Activities	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	単語テスト Exercises - University Life	テキスト Student Life	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises - Shopping	次回の単語テストの予習 テキスト Clothes, Supermarket, On-line	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	13	単語テスト Exercises - Travel	次回の単語テストの予習 テキスト Travel Experience	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	単語テスト Exercises - Summer Vacation	テキスト Summer Activities	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review Test and Feedback Session	Feedback session	Students should prepare for review test

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press ISBN 978-4-9909741-0-7
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	25% of Grade on unit assignments
------	----------------------------------

(基準)	25% of Grade on end-of-unit quizzes 50% of Grade on Review Test (in-class Final Test)
学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Re-orientation and The Recent Past. How was your summer?	Orientation. Re-familiarising yourself with the course and the participants.	Follow orientation instructions.
2	Unit 7	Giving and understanding opinions. Reading, vocabulary building. Speaking strategies, especially follow-up questions.	Follow instructions as provided in class.
3	Unit 7	Writing. Sharing your writing and feedback.	Follow instructions as provided in class.
4	Unit 8	Music. Giving and understanding opinions. Reading, vocabulary building. Speaking strategies, especially follow-up questions.	Follow instructions as provided in class.
5	Unit 8 and Cultural festivals	Writing. Sharing your writing and feedback.	Follow instructions as provided in class.
6	Unit 9 character	Discussing personality. Writing and interaction report.	Follow instructions as provided in class.
7	Unit 10: money	Asking and answering questions regarding money and its importance. Writing an interaction report.	Follow instructions as provided in class.
8	Street Food	Talking about food from your hometown. Writing interaction report.	Follow assessment instructions
9	Interesting things about your hometown.	Places of interest in your hometown discussion and interaction report.	Follow assessment instructions.
10	Unit 11 Situations in life.	Discussing various situations in life.	Follow instructions as provided in class.
11	Travel	Making a travel plan.	Follow instructions as provided in class.
12	Unit 12	Plans for the future.	Follow instructions as provided in class.
13	Your plans for the winter break.	Conversation and discussion and interaction report.	Follow instructions as provided in class.
14	How was your winter break.	Conversation discussion and interaction report.	Follow assessment instructions.
15	Review. Feedback. Saying goodbye.		Follow assessment instructions.

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Face to Face (2nd Edition)	Dale Fuller/ Corey Fuller	MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生への	I'm looking forward to teaching you this year.

メッセージ	Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Course Review Taking about summer break Start Unit 11</td> <td>Summer Vacation</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 11</td> <td>Summer Vacation continued</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 12</td> <td>Family & Home</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 13</td> <td>Eating Out</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 14</td> <td>Work (Part-time Jobs & Future Career)</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 15</td> <td>Marriage & Family Life</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Review /Preparation / Quiz</td> <td></td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Midterm Assessment Activity /Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 16</td> <td>People</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 17</td> <td>Sightseeing in Japan</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 18</td> <td>Holidays & Special Days</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 19</td> <td>Big Issues</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 20</td> <td>Future Plans</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Review /Preparation / Quiz</td> <td></td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>End of Term Assessment Activity / Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Course Review Taking about summer break Start Unit 11	Summer Vacation		2	Unit 11	Summer Vacation continued	Homework	3	Unit 12	Family & Home	Homework	4	Unit 13	Eating Out	Homework	5	Unit 14	Work (Part-time Jobs & Future Career)	Homework	6	Unit 15	Marriage & Family Life	Homework	7	Review /Preparation / Quiz		Homework	8	Midterm Assessment Activity /Quiz			9	Unit 16	People	Homework	10	Unit 17	Sightseeing in Japan	Homework	11	Unit 18	Holidays & Special Days	Homework	12	Unit 19	Big Issues	Homework	13	Unit 20	Future Plans	Homework	14	Review /Preparation / Quiz		Homework	15	End of Term Assessment Activity / Quiz		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Course Review Taking about summer break Start Unit 11	Summer Vacation																																																																	
2	Unit 11	Summer Vacation continued	Homework																																																																
3	Unit 12	Family & Home	Homework																																																																
4	Unit 13	Eating Out	Homework																																																																
5	Unit 14	Work (Part-time Jobs & Future Career)	Homework																																																																
6	Unit 15	Marriage & Family Life	Homework																																																																
7	Review /Preparation / Quiz		Homework																																																																
8	Midterm Assessment Activity /Quiz																																																																		
9	Unit 16	People	Homework																																																																
10	Unit 17	Sightseeing in Japan	Homework																																																																
11	Unit 18	Holidays & Special Days	Homework																																																																
12	Unit 19	Big Issues	Homework																																																																
13	Unit 20	Future Plans	Homework																																																																
14	Review /Preparation / Quiz		Homework																																																																
15	End of Term Assessment Activity / Quiz																																																																		
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>The English Gym</td> <td>Jon Charles</td> <td>Oak Hills Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	Bring your textbook to every class. Let's enjoy speaking in English together!																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Course Review and orientation</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 7</td> <td>I'd love that job</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 7</td> <td>I'd love that job</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 8</td> <td>What's playing?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 8</td> <td>What's playing?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 9</td> <td>What are you going to do?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 9</td> <td>What are you going to do?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 10</td> <td>How much is this?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 10</td> <td>How much is this?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 11</td> <td>How do you make it?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 11</td> <td>How do you make it?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 12</td> <td>Listen to the music</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 12</td> <td>Listen to the music</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Review / Preparation / Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>End of Term Assessment Activity / Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Course Review and orientation			2	Unit 7	I'd love that job	Homework	3	Unit 7	I'd love that job	Homework	4	Unit 8	What's playing?	Homework	5	Unit 8	What's playing?	Homework	6	Unit 9	What are you going to do?	Homework	7	Unit 9	What are you going to do?	Homework	8	Unit 10	How much is this?	Homework	9	Unit 10	How much is this?	Homework	10	Unit 11	How do you make it?	Homework	11	Unit 11	How do you make it?	Homework	12	Unit 12	Listen to the music	Homework	13	Unit 12	Listen to the music	Homework	14	Review / Preparation / Quiz			15	End of Term Assessment Activity / Quiz		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Course Review and orientation																																																																		
2	Unit 7	I'd love that job	Homework																																																																
3	Unit 7	I'd love that job	Homework																																																																
4	Unit 8	What's playing?	Homework																																																																
5	Unit 8	What's playing?	Homework																																																																
6	Unit 9	What are you going to do?	Homework																																																																
7	Unit 9	What are you going to do?	Homework																																																																
8	Unit 10	How much is this?	Homework																																																																
9	Unit 10	How much is this?	Homework																																																																
10	Unit 11	How do you make it?	Homework																																																																
11	Unit 11	How do you make it?	Homework																																																																
12	Unit 12	Listen to the music	Homework																																																																
13	Unit 12	Listen to the music	Homework																																																																
14	Review / Preparation / Quiz																																																																		
15	End of Term Assessment Activity / Quiz																																																																		
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Firsthand 1, Fifth Edition</td> <td>Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Firsthand 1, Fifth Edition	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Firsthand 1, Fifth Edition	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<table> <tr> <td>全学共通英語課題</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>TOEIC B r i d g e のスコア</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)</td> <td>70%</td> </tr> </table>			全学共通英語課題	20%	TOEIC B r i d g e のスコア	10%	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%																																																										
全学共通英語課題	20%																																																																		
TOEIC B r i d g e のスコア	10%																																																																		
授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%																																																																		
学生へのメッセージ	Bring your textbook to every class. Let's enjoy speaking in English together!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	前期の復習 プリント教材	前期内容のポイントのチェックとプリントを使った課題	テキストの予習と単語の学習
2	Unit 7 let's Meet at the Station (1)	場所を示す前置詞 (1)	テキストの予習と単語の学習
3	Unit 7 let's Meet at the Station (2)	場所を示す前置詞 (2)	テキストの予習と単語の学習
4	Unit 8 How Was Rome? (1)	was/were (1)	テキストの予習と単語の学習
5	Unit 8 How Was Rome? (2)	was/were (2)	テキストの予習と単語の学習
6	Unit 9 I Read it in a Magazine (1)	過去形・肯定文 (1)	テキストの予習と単語の学習 確認テストに向けての学習
7	確認テスト	これまでの内容の確認テスト	テキストの予習と単語の学習
8	Unit 9 I Read it in a Magazine (2) 第 8 回目より対面授業	過去形・肯定文 (2)	テキストの予習と単語の学習
9	Unit 10 What Did You Do on Sunday? (2)	過去形・否定文と疑問文 (2)	テキストの予習と単語の学習
10	Unit 10 What Did You Do on Sunday? (2)	過去形・否定文と疑問文 (2)	テキストの予習と単語の学習
11	Unit 11 The Goats Were Dancing (1)	過去進行形 (1)	テキストの予習と単語の学習
12	Unit 11 The Goats Were Dancing (2)	過去進行形 (2)	テキストの予習と単語の学習
13	Unit 12 If Animals Could Tali (1)	接続詞 (1)	テキストの予習と単語の学習
14	Unit 12 If Animals Could Tali (2)	接続詞 (2)	テキストの予習と単語の学習 まとめテストに向けての学習
15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習、まとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Charge	Robert Hickling, 市川康弘	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge のスコア 10% 課題 40% テスト 30%
-----------	--

学生へのメッセージ	オンライン授業授業ですので、確実に課題を提出して下さい。辞書を使い必ず毎回課題提出すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IE1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	毎回 Moodle を通して課題や講義資料を提示、提出期限後に解説、提出された解答に対するコメント、注意点を提示して行く。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 8 回目からは対面授業に変更。原則として、未提出課題と対面授業の欠席の合計が 4 回以上あった場合には単位が取得できない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習</td> <td>前期内容のポイントの復習</td> <td>テキストの予習と単語の学習 予習をしながら単語帳を作ること (以下同様)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Restaurants and Food (1)</td> <td>原級・比較級・最上級</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Restaurants and Food (2)/ Housing (1)</td> <td>原級・比較級・最上級/ 接続詞 ①</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Housing (2)</td> <td>接続詞 ①</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>The Environment and Recycling (1)</td> <td>現在時制と現在進行時制</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>The Environment and Recycling (2)/ Business Profile (1)</td> <td>現在時制と現在進行時制/ 過去時制</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Business Profile (2)</td> <td>過去時制</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Schedules (1)</td> <td>未来時制</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Schedules (2)/ Computers and the Internet (1)</td> <td>未来時制/ 現在完了時制・過去完了時制</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Computers and the Internet (2)</td> <td>現在完了時制・過去完了時制</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Industry and Manufacturing (1)</td> <td>能動態と受動態</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Industry and manufacturing (2)/ Making Arrangements (1)</td> <td>能動態と受動態/ 接続詞 ② (従位接続 詞)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Making Arrangements (2)</td> <td>接続詞 ② (従位接続詞)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>後期内容の確認の英作文</td> <td>後期内容の復習、英作文の練習など</td> <td>テキストの復習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめの課題</td> <td>後期内容のまとめの課題</td> <td>これまでの内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	前期内容のポイントの復習	テキストの予習と単語の学習 予習をしながら単語帳を作ること (以下同様)	2	Restaurants and Food (1)	原級・比較級・最上級	テキストの予習と単語の学習	3	Restaurants and Food (2)/ Housing (1)	原級・比較級・最上級/ 接続詞 ①	テキストの予習と単語の学習	4	Housing (2)	接続詞 ①	テキストの予習と単語の学習	5	The Environment and Recycling (1)	現在時制と現在進行時制	テキストの予習と単語の学習	6	The Environment and Recycling (2)/ Business Profile (1)	現在時制と現在進行時制/ 過去時制	テキストの予習と単語の学習	7	Business Profile (2)	過去時制	テキストの予習と単語の学習	8	Schedules (1)	未来時制	テキストの予習と単語の学習	9	Schedules (2)/ Computers and the Internet (1)	未来時制/ 現在完了時制・過去完了時制	テキストの予習と単語の学習	10	Computers and the Internet (2)	現在完了時制・過去完了時制	テキストの予習と単語の学習	11	Industry and Manufacturing (1)	能動態と受動態	テキストの予習と単語の学習	12	Industry and manufacturing (2)/ Making Arrangements (1)	能動態と受動態/ 接続詞 ② (従位接続 詞)	テキストの予習と単語の学習	13	Making Arrangements (2)	接続詞 ② (従位接続詞)	テキストの予習と単語の学習	14	後期内容の確認の英作文	後期内容の復習、英作文の練習など	テキストの復習と単語の学習	15	まとめの課題	後期内容のまとめの課題	これまでの内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	前期内容のポイントの復習	テキストの予習と単語の学習 予習をしながら単語帳を作ること (以下同様)																																																																
2	Restaurants and Food (1)	原級・比較級・最上級	テキストの予習と単語の学習																																																																
3	Restaurants and Food (2)/ Housing (1)	原級・比較級・最上級/ 接続詞 ①	テキストの予習と単語の学習																																																																
4	Housing (2)	接続詞 ①	テキストの予習と単語の学習																																																																
5	The Environment and Recycling (1)	現在時制と現在進行時制	テキストの予習と単語の学習																																																																
6	The Environment and Recycling (2)/ Business Profile (1)	現在時制と現在進行時制/ 過去時制	テキストの予習と単語の学習																																																																
7	Business Profile (2)	過去時制	テキストの予習と単語の学習																																																																
8	Schedules (1)	未来時制	テキストの予習と単語の学習																																																																
9	Schedules (2)/ Computers and the Internet (1)	未来時制/ 現在完了時制・過去完了時制	テキストの予習と単語の学習																																																																
10	Computers and the Internet (2)	現在完了時制・過去完了時制	テキストの予習と単語の学習																																																																
11	Industry and Manufacturing (1)	能動態と受動態	テキストの予習と単語の学習																																																																
12	Industry and manufacturing (2)/ Making Arrangements (1)	能動態と受動態/ 接続詞 ② (従位接続 詞)	テキストの予習と単語の学習																																																																
13	Making Arrangements (2)	接続詞 ② (従位接続詞)	テキストの予習と単語の学習																																																																
14	後期内容の確認の英作文	後期内容の復習、英作文の練習など	テキストの復習と単語の学習																																																																
15	まとめの課題	後期内容のまとめの課題	これまでの内容の復習																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Grip</td> <td>本多 吉彦、Robert Hickling</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Grip	本多 吉彦、Robert Hickling	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Grip	本多 吉彦、Robert Hickling	金星堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% Moodle を通した課題の評価及び授業中の課題の評価 70% TOEIC Bridge のスコア 10%																																																																		
学生へのメッセージ	期限を確認して、必ず毎回課題を提出するように心がけてください。わからないことがあれば、学内メールアドレスに質問してください。課題提出期限後に、解答、解説、皆さんが提出した解答に対するコメントを提示しますので、必ず目を通して復習してください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions.
2	Conversation Strategies	Students will learn strategies to help them communicate when difficulties arise. These include asking clarification questions and making comprehension checks.	Follow instructions as provided in class.
3	Unit 7	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
4	Unit 7	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
5	Unit 9	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
6	Unit 9	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
7	Conversation Strategy	Students will learn how to give their opinions, as well as how to agree and disagree with others opinions. Pair and group work activities will be used.	Follow instructions as provided in class.
8	Midterm Assessment	Students will complete an assessment activity to display their understanding of the materials taught in weeks 1~7.	Follow assessment instructions
9	Unit 10	Students will complete a small group speaking task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow instructions as provided in class.
10	Unit 10	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
11	Unit 12	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
12	Unit 12	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
13	Review Unit	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
14	Final Assessment	Students will complete an assessment activity to display their understanding of the materials taught in this course.	Follow assessment instructions.
15	Discussion Activity	Students will take part in small group discussion activities	Follow instructions provided in class.

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 1 (ISBN 9780194603126)	Susan Stempleski	Oxford
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%			
学生への メッセージ	Will be returning to face to face classes from November 8th.			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 後期 7号館 2階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Special topic.	Special topic.	No preparation required.
	2	Unit 7 Your Life.	Describing daily routines. Describing daily routines.	Pages 44 - 45.
	3	Unit 7 Your Life continued.	Talking about what you do. Asking what others do.	Pages 46 - 48.
	4	Unit 8 Describing People.	Words and expressions for describing people.	Pages 50 - 51.
	5	Unit 8 Describing People continued.	Asking others about people in their lives.	Pages 52 - 54.
	6	Unit 9 Future plans.	Talking about what you will do in the future.	Pages 56 - 57.
	7	Unit 9 Future plans continued.	How you spend your free time.	Pages 58 - 60.
	8	Test of units 7 - 9. Special topic.	Test of units 7 - 9. Special topic.	Review of words and grammar of units 7 - 9.
	9	Unit 10 Vacations.	Words to describe travel.	Pages 64 - 65.
	10	Unit 10 Vacations continued.	Where you like to go on vacation and what you like to do.	Pages 66 - 68.
	11	Unit 11 Early Memories.	Describing events in your life.	Pages 70 - 71.
	12	Unit 11 Early Memories continued.	Asking about people's lives.	Pages 72 - 74.
	13	Unit 12 Hopes and Dreams.	What you would like to do in the future.	Pages 76 - 77.
	14	Unit 12 Hopes and dreams continued.	Asking others about their dreams.	Pages 78 - 80.
15	Test of units 10 - 12.	Test of units 10 - 12.	Review of words and grammar of units 10 - 12.	

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Breakthrough Plus 1 (2nd edition)	Miles Craven	MacMillan ISBN: 9781380003089
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	成績評価: 中間テスト 35%、期末テスト 35%、授業、教科書と参加 30%。 オンライン成績評価: 授業勉強、宿題: 50%、レポート 20%、ビデオレポート 20%、参加 10%。もし、対面式の授業に戻すことができれば、筆記試験があり、採点方法も少し変わります。
----------	--

学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェーン バーンター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 7 Your Life.	Describing daily routines.	Pages 44 - 45.
	2	Unit 7 Your Life continued.	Talking about what you do. Asking what others do.	Pages 46 - 48.
	3	Unit 8 Describing People.	Words and expressions for describing people.	Pages 50 - 51.
	4	Unit 8 Describing People continued.	Asking others about people in their lives.	Pages 52 - 54.
	5	Unit 9 Future plans.	Talking about what you will do in the future.	Pages 56 - 57.
	6	Unit 9 Future plans continued.	How you spend your free time.	Pages 58 - 60.
	7	Mid-term test of units 7 - 9. Special topic.	Mid-term test of units 7 - 9. Special topic.	Review of words and grammar of units 7 - 9.
	8	Unit 10 Vacations.	Words to describe travel.	Pages 64 - 65.
	9	Unit 10 Vacations continued.	Where you like to go on vacation and what you like to do.	Pages 66 - 68.
	10	Unit 11 Early Memories.	Describing events in your life.	Pages 70 - 71.
	11	Unit 11 Early Memories continued.	Asking about people's lives.	Pages 72 - 74.
	12	Unit 12 Hopes and Dreams.	What you would like to do in the future.	Pages 76 - 77.
	13	Unit 12 Hopes and dreams continued.	Asking others about their dreams.	Pages 78 - 80.
	14	Review	Review of units 10 - 12.	No preparation required.
15	Test of units 10 - 12.	Test of units 10 - 12.	Review of words and grammar of units 10 - 12.	

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Breakthrough Plus 1	Miles Craven	MacMillan ISBN: 9781380003089
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席授業参加態度: 40%. 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。I'm looking forward to our classes. Please relax and don't worry about making mistakes!
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation, review greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
	2	Unit 7: Describing appearance (using have/get something done). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	3	Unit 7: Describing appearance (using have/get something done). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	4	Unit 8: Describing places (using second conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	5	Unit 8: Describing places (using second conditional). Units 7 & 8 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	6	Unit 9: Talking about regrets and solutions (using should/would have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	7	Unit 9: Talking about regrets and solutions (using should/would have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	8	Unit 10: Speculating on	Students will discover, practice	Complete online homework

		the past (using may, might, could couldn't, and must have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	(https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	9	Unit 10: Speculating on the past (using may, might, could couldn't, and must have). / Units 9 & 10 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	10	Unit 11: Describing inventions (using the third conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups. Units 3 & 4 test.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	11	Unit 11: Describing inventions (using the third conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	12	Unit 12: Discussing the news (using reported speech). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	13	Unit 12: Discussing the news (using reported speech).. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	14	Unit 12 review. Units 11 & 12 Test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

関連科目

英語基礎会話 b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice Level 2 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406114-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	All online homework assignments completed by deadline (10%) Unit review tests (3x30%) In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.			
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・グアイアス
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 4 Small Talk	Making an Arrangement	Review
	2	Unit 4 Small Talk	Making and Arrangement	Review
	3	Unit 5 Small Talk	Talking about things you like/suggestions	Review
	4	Unit 5 Small Talk	Talking about things you like/suggestions	Review
	5	Unit 6 Small Talk	Eating Out	Review
	6	Unit 6 Small Talk	Eating Out	Review
	7	Mid-term test. Units 4-6 Unit 7	Mid-term test. Units 4-6 Making Requests	Review
	8	Unit 7 Small Talk	Making Requests	Review
	9	Unit 8 Small Talk	Checking in and out of a hotel	Review
	10	Unit 8 Small Talk	Checking in and out of a hotel	Review
	11	Unit 9 Small Talk	Directions	Review
	12	Unit 9 Small Talk	Directions	Review
	13	Unit 10 Small Talk	Saying Thank you and Goodbye	Review
	14	Unit 10 Small Talk	Saying Thank you and Goodbye	Review
	15	Test of units 7-10	Test of units 7-10	

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	International Express Beginner	Bryan Stephens	Oxford
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席授業参加態度: 50%. 中間テスト: 25% 期末テスト: 25%
-----------	--

学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習</td> <td>前期に習った内容の復習など</td> <td>————</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit13</td> <td>接続詞 (1)</td> <td>教科書 p. 50-52</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit14</td> <td>不定詞 (1)、動名詞 (1)</td> <td>教科書 p. 53-55</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit15</td> <td>受動態</td> <td>教科書 p. 56-58</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit16</td> <td>現在完了形</td> <td>教科書 p. 59-61</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit17</td> <td>接続詞 (2) (時勢の一致を含む) 等</td> <td>教科書 p. 62-64</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit18</td> <td>5 つの基本文型</td> <td>教科書 p. 65-67</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit19</td> <td>各種疑問文</td> <td>教科書 p. 68-70</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit20</td> <td>不定詞 (2)</td> <td>教科書 p. 71-73</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit21</td> <td>It の特別用法</td> <td>教科書 p. 74-76</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit22</td> <td>分詞、動名詞 (2)</td> <td>教科書 p. 77-79</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit23</td> <td>関係代名詞</td> <td>教科書 p. 80-82</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>資格、検定などの問題演習</td> <td>授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。</td> <td>習った内容は何度も復習して覚えよう</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資格、検定などの問題演習</td> <td>授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。</td> <td>習った内容は何度も復習して覚えよう</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総合復習</td> <td>定期試験対策</td> <td>教科書など後期範囲一通り</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	前期に習った内容の復習など	————	2	Unit13	接続詞 (1)	教科書 p. 50-52	3	Unit14	不定詞 (1)、動名詞 (1)	教科書 p. 53-55	4	Unit15	受動態	教科書 p. 56-58	5	Unit16	現在完了形	教科書 p. 59-61	6	Unit17	接続詞 (2) (時勢の一致を含む) 等	教科書 p. 62-64	7	Unit18	5 つの基本文型	教科書 p. 65-67	8	Unit19	各種疑問文	教科書 p. 68-70	9	Unit20	不定詞 (2)	教科書 p. 71-73	10	Unit21	It の特別用法	教科書 p. 74-76	11	Unit22	分詞、動名詞 (2)	教科書 p. 77-79	12	Unit23	関係代名詞	教科書 p. 80-82	13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	習った内容は何度も復習して覚えよう	14	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	習った内容は何度も復習して覚えよう	15	総合復習	定期試験対策	教科書など後期範囲一通り
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	前期に習った内容の復習など	————																																																																
2	Unit13	接続詞 (1)	教科書 p. 50-52																																																																
3	Unit14	不定詞 (1)、動名詞 (1)	教科書 p. 53-55																																																																
4	Unit15	受動態	教科書 p. 56-58																																																																
5	Unit16	現在完了形	教科書 p. 59-61																																																																
6	Unit17	接続詞 (2) (時勢の一致を含む) 等	教科書 p. 62-64																																																																
7	Unit18	5 つの基本文型	教科書 p. 65-67																																																																
8	Unit19	各種疑問文	教科書 p. 68-70																																																																
9	Unit20	不定詞 (2)	教科書 p. 71-73																																																																
10	Unit21	It の特別用法	教科書 p. 74-76																																																																
11	Unit22	分詞、動名詞 (2)	教科書 p. 77-79																																																																
12	Unit23	関係代名詞	教科書 p. 80-82																																																																
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	習った内容は何度も復習して覚えよう																																																																
14	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	習った内容は何度も復習して覚えよう																																																																
15	総合復習	定期試験対策	教科書など後期範囲一通り																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Primer <Revised Edition> 基礎からの英語入門 <改訂新版></td> <td>佐藤哲三、アベ松伸二、愛甲ゆかり、小手川巧光、福島孝夫、重久睦美、村上美穂、新彰</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集) 改訂新版</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Primer <Revised Edition> 基礎からの英語入門 <改訂新版>	佐藤哲三、アベ松伸二、愛甲ゆかり、小手川巧光、福島孝夫、重久睦美、村上美穂、新彰	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集) 改訂新版	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	First Primer <Revised Edition> 基礎からの英語入門 <改訂新版>	佐藤哲三、アベ松伸二、愛甲ゆかり、小手川巧光、福島孝夫、重久睦美、村上美穂、新彰	南雲堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集) 改訂新版	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	定期試験 (70%)、授業中の小テスト (5%)、平常点 (提出物、授業への参加、貢献度含め 25%) の点数を総合評価します。また、日頃の授業態度も重視します。進行状況により授業内容が変わる事があります。オンライン授業期間中は単語の小テストは行いません。11 月第 1 週の 7 回目より対面授業に変わっています。単語帳より単語小テストを行っています。最後まで対面授業が続いた場合は課題提出 (オンライン 40% 及び対面 20%)、単語テスト (5%) 及び授業最終日の復習テスト (35%) で評価します (授業評価の各割合は目安で多少変わる場合があります)。今後の社会情勢及び授業形態の変化に伴い、評価方法が変更になる場合があります。																																																																		
学生へのメッセージ	「明るく、元気で感動を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Writing - Your Summer	How did you spend your summer?	Students should study the content of the day's lesson
	2	単語テスト Exercises - Summer Vacation	次回の単語テストの予習 テキスト Summer in Japan	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	単語テスト Exercises - Family & Home	次回の単語テストの予習 テキスト Family Life	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	単語テスト Exercises - Eating Out	次回の単語テストの予習 テキスト Restaurant Culture	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises - Work	次回の単語テストの予習 テキスト Part-time, Career	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	単語テスト Exercises - Marriage, Family Life	次回の単語テストの予習 テキスト Future Plans	Students should review the lessons in preparation of the midterm
	7	Mid-term Test	Mid-term Test	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Test Review	Test Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	単語テスト Exercises - People	次回の単語テストの予習 テキスト Appearances	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	単語テスト Exercises - Sightseeing in Japan	テキスト Where to Visit in Japan	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Writing - Planning a Day Trip	次回の単語テストの予習 テキスト Travel in Japan	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	単語テスト Exercises - Holidays	次回の単語テストの予習 テキスト Japanese & North American Holidays Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	13	単語テスト Exercises - Big Issues	テキスト Global Warming, Natural Disasters, etc.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	単語テスト Exercises - Future Plans	単語テスト Exercises - Future Plans	Students should review the lessons
	15	Final Test	Final Test	Students should review

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press ISBN 978-4-9909741-0-7
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Grading will be based on weekly assignments to be found on Moodle, including end of unit quizzes and tests. Final grade points will be deducted for incomplete assignments or tests.
-----------	--

学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応
----	--

する。

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業のガイダンス	授業の進め方と評価方法の説明 短いニュースの聴きとりと内容把握	教科書と辞書を持参
	2	Unit 1 Making Waves with a Magical Instrument 不屈のテルミン奏者	語彙問題と聴きとり	当該Unitの予習と復習
	3	Unit 1: Making Waves with a Magical Instrument 不屈のテルミン奏者	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 1の小テストの準備
	4	Unit 2: Backstage Tour with Augmented Reality Stars ARアイドルの裏側に迫る	語彙問題と聴きとり Unit 1の小テスト	当該Unitの予習と復習
	5	Unit 2: Backstage Tour with Augmented Reality Stars ARアイドルの裏側に迫る	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 2の小テストの準備
	6	Unit 3: Drinking to Eat 現代人の食事、「飲む」おにぎり	語彙問題と聴きとり Unit 2の小テスト	当該Unitの予習と復習
	7	Unit 3 Drinking to Eat 現代人の食事、「飲む」おにぎり	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit3の小テストの準備
	8	Unit 4: Next Generation Mobility 次世代の移動手段	語彙問題と聴きとり Unit3の小テスト	当該Unitの予習と復習
	9	Unit 4: Next Generation Mobility 次世代の移動手段	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 4の小テストの準備
	10	Unit 5: Eco-friendly Fashion Statement 衣料品ロス	語彙問題と聴きとり Unit4の小テスト	当該Unitの予習と復習
	11	Unit 5: Eco-friendly Fashion Statement 衣料品ロス	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit5の小テストの準備
	12	Unit 6: Building a Bridge to Share a Son's Dream 日韓の架け橋になりたい	語彙問題と聴きとり Unit 5の小テスト	当該Unitの予習と復習
	13	Unit 6: Building a Bridge to Share a Son's Dream 日韓の架け橋になりたい	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 6の小テストの準備
	14	Unit 7: Taking Aim シュートの達人、スリーポイントおじいさん	語彙問題と聴きとり Unit 6の小テスト	当該Unitの予習と復習 前期内容の総復習
	15	前期のまとめ	前期の学習範囲の習熟度をテストの形で実施	前期内容の学習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	NHK NEWSLINE 4	山崎達朗・Stella M. Yamazaki・Erika C. Yamazaki	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生への メッセージ	予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。
担当者の 研究室等	3号館2階(前期) 7号館2階(後期) 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	嶋村 貢志
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業のガイダンス Unit 1 Spill the Beans	授業の進め方と成績の説明 秘密を漏らす 以下、毎回講読、演習形式	教科書を購入し、Unit 1をざっと一読しておくこと。 辞書を毎回持参のこと。
	2	Unit 2 Sell Like Hotcakes	飛ぶように売れる	予習と復習
	3	Unit 3 Bring Home the Bacon	生活費を稼ぐ	予習と復習
	4	Unit 4 Butter Someone Up	人にごまをする	予習と復習
	5	Unit 5 Wine and Dine	酒食でもてなす	予習と復習
	6	Unit 6 Put All One's Eggs in One Basket	一つの事業に全財産を投資する	予習と復習
	7	Unit 7 Turn Green with Envy	嫉妬で青さめる	予習と復習
	8	Unit 8 A White Lie	罪のないウソ	予習と復習
	9	Unit 9 See Red	かっとなる	予習と復習
	10	Unit 10 With Flying Colors	大成功を収めて	予習と復習
	11	Unit 11 Out of the Blue	思いがけずに	予習と復習
	12	Unit 12 Catch Someone Red-handed	人を現行犯で逮捕する	予習と復習
	13	サントリーホールディングス株式会社	水と生きる	予習と復習
	14	前期の確認	意見発表	予習と復習
	15	前期のまとめ	前期の学習範囲の習熟度をテストの形で実施	前期内容の学習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Idioms in 24 Exciting Stories ストーリーで学ぶ英語イディオム	佐藤史郎 / John Oliphant / 古田島綾子	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。
-----------	--

担当者の研究室等	3号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。Zoomによるライブで解説授業を行う。ZoomのURLは授業開始時間までにMoodleにアップする。その他の質問等はメールで。
----	--

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	Moodleを使ったオンデマンド型の授業を行う。毎回課題を提示して期限までに提出を求め、提出期限後に解答や解説を提示して行く。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える未提出のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業についての説明、自己紹介、プリント教材を使った学習	テキストの予習と単語の学習 予習をしながら単語帳を作ること(以下同様)
2	Canada: Natural Beauty Abounds (1)	自然に恵まれたカナダの調和の文化(1)	テキストの予習と単語の学習
3	Canada: Natural Beauty Abounds (2)	自然に恵まれたカナダの調和の文化(2)	テキストの予習と単語の学習
4	Thailand: Where Culture and Fragrance Harmonize (1)	香りにこだわるタイの文化(1)	テキストの予習と単語の学習
5	Thailand: Where Culture and Fragrance Harmonize (2)	香りに「こだわるタイの文化(2)	テキストの予習と単語の学習
6	Germany: Leaders in Protecting Our Environment (1)	環境先進国ドイツ(1)	テキストの予習と単語の学習
7	Germany: Leaders in Protecting Our Environment (2)	環境先進国ドイツ(2)	テキストの予習と単語の学習
8	Turkey: Finish Up Your Coffee (1)	コーヒーとお茶がつなぐトルコの人情文化(1)	テキストの予習と単語の学習
9	Turkey: Finish Up Your Coffee (2)	コーヒーとお茶がつなぐトルコの人情文化(2)	テキストの予習と単語の学習
10	Russia: Home to the Coldest Place Inhabited by Humans (1)	極寒の中に生きるロシアの文化(1)	テキストの予習と単語の学習
11	Russia: Home to the Coldest Place Inhabited by Humans (2)	極寒の中に生きるロシアの文化(2)	テキストの予習と単語の学習
12	Israel: A Land of Tradition and Technology (1)	伝統と技術が融合するイスラエルの文化(1)	テキストの予習と単語の学習
13	Israel: A Land of Tradition and Technology (2)	伝統と技術が融合するイスラエルの文化(2)	テキストの予習と単語の学習
14	South Africa: The Country with 11 Different Names	アフリカ大陸最南端の親睦文化	テキストの予習と単語の学習
15	まとめ課題	前期の内容のまとめの課題	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Guess What?!-Intercultural Surprises-	松井 夏津紀 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% Moodle の提出課題 80%
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	期限を厳守して、毎回課題を提出するように心がけてください。共通英語課題は、計画的に進めて期限までに必ず終わるようにしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(3号館2階)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応
----	--

する。

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大江 麻里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	授業の進め方の説明	テキストにざっと目を通しておくこと
	2	Chapter 1 Things Young People Are Less Interested in	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	3	Chapter 1 Things Young People Are Less Interested in	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	4	Chapter 2 What's in a Name?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	5	Chapter 2 What's in a Name?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	6	Chapter 3 Throwing It All Away	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	7	Chapter 3 Throwing It All Away	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	8	Chapter 4 Everything Caught on Video	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	9	Chapter 4 Everything Caught on Video	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	10	Chapter 5 Employers Checking Facebook	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	11	Chapter 5 Employers Checking Facebook	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	12	Chapter 6 LCCs	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	13	Chapter 6 LCCs	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	14	前期の総復習	質疑応答	前期の範囲で分からなかった点などをまとめておく
15	まとめのテスト	これまでの内容の総復習	テキストのこれまでの内容の復習	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Trend Watching	Jonathan Lynch 他	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生へのメッセージ	英語の学習は地道な努力が必要です。授業中にだす指示に従って、積極的に参加してください。
担当者の研究室等	非常勤講師室(前期3号館2階/後期7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 三千代
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	遠隔での課題授業で進める。e-learning 課題や、授業課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える課題未提出の場合には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Orientation	授業の進め方の説明	テキストの予習
2	Welcome to the "Big Apple"	お礼を伝える 動詞の現在形を理解する 自己紹介をする	テキストの予習と単語の学習
3	Welcome to the "Big Apple"	お礼を伝える 動詞の現在形を理解する 自己紹介をする	テキストの予習と単語の学習
4	What's the Boss Like?	感想を述べる 代名詞の使い方に慣れる 友人を紹介する	テキストの予習と単語の学習
5	What's the Boss Like?	感想を述べる 代名詞の使い方に慣れる 友人を紹介する	テキストの予習と単語の学習
6	Masa's First Day on the Job	勤務時間についてたずねる 前置詞の使い方に慣れる 行動予定について書く	テキストの予習と単語の学習
7	Masa's First Day on the Job	勤務時間についてたずねる 前置詞の使い方に慣れる 行動予定について書く	テキストの予習と単語の学習
8	Summer Fun	週末にしたことを述べる 動詞の過去形を理解する ある1日を振り返る	テキストの予習と単語の学習
9	Summer Fun	週末にしたことを述べる 動詞の過去形を理解する ある1日を振り返る	テキストの予習と単語の学習
10	Hotel Guest Satisfaction	相手を励ます 可算名詞・不可算名詞を理解する 大学で必要な物について書く	テキストの予習と単語の学習
11	Hotel Guest Satisfaction	相手を励ます 可算名詞・不可算名詞を理解する 大学で必要な物について書く	テキストの予習と単語の学習
12	Brainstorming	これからすることを提案する 進行形の使い方に慣れる 健康状態について書く	テキストの予習と単語の学習
13	Brainstorming	これからすることを提案する 進行形の使い方に慣れる 健康状態について書く	テキストの予習と単語の学習
14	Glad to Be of Service	助けを求める WH 疑問文の使い方に慣れる 好きな人物を紹介する	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Missions! Basic	Robert Hickling 他	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (Revised Edition)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 課題提出率と内容 40%
-----------	------------------------------

	まとめのテスト 40%
学生へのメッセージ	今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによってあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じ、親しむように心がけて欲しい。
担当者の研究室等	3号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題の準備などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降に行う。その他の質問等は学内メールにて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。4回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ・毎回授業の始めに前回の授業の復習小テスト(3~5分)を行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 小テスト	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明 小テスト答え合わせ Lesson 1を始める	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
2	1-1 No Poverty 貧困をなくそう	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
3	1-11 Donate what you don't use	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
4	2-1 Zero Hunger 飢餓をゼロに	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
5	2-11 Avoid throwing away food	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
6	3-1 Good Health & Well-being すべての人に健康と福祉を	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
7	3-11 Vaccinate your family to protect them and improve public health	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
8	中間テスト 4-1 Quality Education 質の高い教育をみんなに	前半の学習内容の復習 CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	中間テストに備えて勉強 下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
9	4-11 Help children in your community to read	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
10	5-1 Gender Equality ジェンダー平等を実現しよう	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
11	5-11 Call out sexist language and behavior	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
12	6-1 Clean Water & Sanitation 安全な水とトイレを世界に	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
13	6-11 Avoid wasting water	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
14	7-1 Affordable & Clean Energy エネルギーをみんなに、そしてクリーンに	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
15	最終テスト	後半の学習内容の復習	最終テストに向けての勉強

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>AFP World News Report 5(「AFP ニュースで見る世界 5」)</td> <td>宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test— Revised Edition—</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	AFP World News Report 5(「AFP ニュースで見る世界 5」)	宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test— Revised Edition—	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	AFP World News Report 5(「AFP ニュースで見る世界 5」)	宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子	成美堂													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test— Revised Edition—	西谷 恒志	成美堂													
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (English Central) 20%			
	授業への参加度 (小テスト、質問に対する発言、中間、最終テスト、宿題など) 80%			
学生への メッセージ	<p>持続可能な開発目標として国連が掲げている 17 項目を読んでいます。 指定された箇所を必ず辞書を引き予習しておくこと。余裕ができ授業中での理解度も高まります。</p> <p>Teams はリアルタイムで行う。 コロナの感染状況によってはシラバスの予定が多少変わることもある。</p>			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。			

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIB
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	猪熊 慶祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LEN2306c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。なお、Wi-Fiの通信障害等で出席できなかった場合は、課題提出等をもって代替とする。 *Teamsに障害等が生じた場合には、Zoomを代替のツールとする。リンクはウェブフォルダに格納済みなので各自で確認しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Orientation, Questionnaire, Self-Introduction	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法、英語共通課題などについて説明を行う。また、教科書の内容について導入を行う。	教科書の内容や構成を確認する。(1時間)
2	Unit 1 College Sports (1) アメリカの大学生とスポーツについてのエッセイの読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
3	Unit 1 College Sports (2) アメリカの大学生とスポーツに関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 1 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。(1時間)
4	Unit 2 Hip Hop Music (1) アメリカの若者とヒップホップ音楽についてのエッセイの読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
5	Unit 2 Hip Hop Music (2) アメリカの若者とヒップホップ音楽に関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 2 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。(1時間)
6	Unit 3 Travel (1) 旅行についてのエッセイの読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
7	Unit 3 Travel (2) 旅行に関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 3 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。(1時間)
8	Unit 4 Video Games (1) テレビゲームについてのエッセイの読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
9	Unit 4 Video Games (2) テレビゲームに関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 4 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。(1時間)
10	Unit 5 Recycling (1) リサイクルについてのエッセイの読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
11	Unit 5 Recycling (2) リサイクルに関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 5 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。(1時間)
12	Unit 6 Fast Food (1) ファーストフードについてのエッセイの読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
13	Unit 6 Fast Food (2) ファーストフードに関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 6 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。(1時間)
14	Unit 7 Extreme Weather (1) 異常気象についてのエッセイの読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
15	Unit 7 Extreme Weather (2)	エッセイの内容に関連した英文を完成	Unit 7 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いて

		異常気象に関連した英作文と会話の聴解	させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	おく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。(1 時間)
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Indicator 3	Cohen, Mihara 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は、自主発表するなどの積極的な態度が評価されます。 ・折々、復習テストを行いますので、常に授業外の学習を行ってください。 ・授業内容は進度によって変更する場合があります。 			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	竹部 春樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業についての注意事項や進め方の説明。	テキストを購入して、目を通しておくこと。
2	Things Young People Are Less Interested in (1)	教科書の第一章を学習する。	テキストの予習
3	Things Young People Are Less Interested in (2)	教科書の第一章を学習する。	テキストの予習・復習
4	What's in a Name? (1)	教科書の第二章を学習する。	テキストの予習・復習
5	What's in a Name? (2)	教科書の第二章を学習する。	テキストの予習・復習
6	Throwing It All Away . . . the Danshari Boom (1)	教科書の第三章を学習する。	テキストの予習・復習
7	Throwing It All Away . . . the Danshari Boom (2)	教科書の第三章を学習する。	テキストの予習・復習
8	Everything Caught on Video (1)	教科書の第四章を学習する。	テキストの予習・復習
9	Everything Caught on Video (2)	教科書の第四章を学習する。	テキストの予習・復習
10	Employers Checking Facebook (1)	教科書の第五章を学習する。	テキストの予習・復習
11	Employers Checking Facebook (2)	教科書の第五章を学習する。	テキストの予習・復習
12	LCCs - Low Cost Carriers (1)	教科書の第六章を学習する。	テキストの予習・復習
13	LCCs - Low Cost Carriers (2)	教科書の第六章を学習する。	テキストの予習・復習
14	Young People Don't Travel Abroad (1)	教科書の第七章を学習する。	テキストの予習・復習
15	Young People Don't Travel Abroad (2)	教科書の第七章を学習する。	テキストの予習・復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Trend Watching	Jonathan Lynch / 委文光太郎	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生へのメッセージ	英語の訓練は楽器やスポーツの練習に似ているところがあって、(少しずつでも) 毎日やるのが大切だと思います。がんばりましょう。質問などあればいつでもどうぞ。
担当者の研究室等	非常勤講師室(前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	――
	2	Unit 1 Lions 百獣の王ライオン	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 1-4
	3	Unit 2 Ramen ラーメン	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 5-8
	4	Unit 3 The Leaning Tower ピサの斜塔	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 9-12
	5	Unit 4 A Smart Dog 賢いワンちゃん	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 13-16
	6	Unit 5 Twenty-First Century Books 電子書籍	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 17-20
	7	Unit 6 Valentine's Day バレンタインデー	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 21-24
	8	Unit 7 The Taj Mahal ある愛の形	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 25-28
	9	Unit 8 A Computer Problem コンピューターのホットな問題	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 29-32
	10	Unit 9 The Mobius Band 不思議な輪	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 33-36
	11	Unit 10 A Long Weekend 休日の落とし穴	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 37-40
	12	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
	13	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
	14	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
	15	総合復習	試験に向けた復習	教科書など前期範囲一通り

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Basic Faster Reading New Edition 速読の基礎演習 最新版	Casey Malarcher、原田慎一	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集) 改訂新版	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 定期試験 50% 授業への参加、貢献 (提出物、小テスト、まとめテスト等も含む) 30% 進行状況により授業内容が変わる場合があります。 オンライン授業中は単語テストはありません。また最後までオンライン授業が続いた場合は課題提出 (80%) 及び全学共通英語課題 (20%) で評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れてしまいます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)
----------	------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応
----	--

する。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	東野 厚子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 1 It's a pleasure to meet you.	授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習
	2	Unit 1 It's a pleasure to meet you.	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	3	Unit 2 Business English	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	4	Unit 2 Business English	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	5	Unit 3 Culture Skills	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	6	Unit 3 Culture Skills	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	7	Unit 4 More than Just Words	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	8	Unit 4 More than Just Words	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	9	Unit 5 Meetings	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	10	Unit 5 Meetings	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	11	Unit 6 Business Communication Style	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	12	Unit 6 Business Communication Style	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	13	Unit 7 Let's negotiate.	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	14	Unit 7 Let's negotiate.	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	15	まとめテスト	全体の復習とテスト	単語学習 テキスト (Unit1-7) の復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Indicator 4	Alison Kit z man 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西垣恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通課題 20% 授業への参加、貢献 (課題、まとめテスト等を含む) 80%
学生へのメッセージ	知っておきたい基本的なビジネスルールを英語で学びます。主体的に取り組み、英語の運用能力を向上させましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。質問等は学内メールにて対応する。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1: The United Kingdom	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.6-7 練習問題を行うこと。
	2	Unit 1: The United Kingdom	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.8-9 練習問題を行うこと。
	3	Unit 2: Germany	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.10-11 練習問題を行うこと。
	4	Unit 2: Germany	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.12-13 練習問題を行うこと。
	5	Unit 3: France	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.14-15 練習問題を行うこと。
	6	Unit 3: France	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.16-17 練習問題を行うこと。
	7	Unit 4: Switzerland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.18-19 練習問題を行うこと。
	8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	9	Unit 4: Switzerland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.20-21 練習問題を行うこと。
	10	Unit 5: Finland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.22-23 練習問題を行うこと。
	11	Unit 5: Finland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.24-25 練習問題を行うこと。
	12	Unit 6: Sweden	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.26-27 練習問題を行うこと。
	13	Unit 6: Sweden	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.28-29 練習問題を行うこと。
	14	Unit 7: Russia	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.30-33 練習問題を行うこと。
	15	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Business Trends	Iwao Yamashita ほか	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80% なお、遠隔授業の場合は課題提出をもって小テスト等の代替とする。
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 TOEICを受験することを勧める。さらに単語力を増強するため、リンガポルテを活用し、積極的に自習すること。 リンガポルテの取り組みも成績評価に反映されます。
担当者の研究室等	非常勤講師室(前期3号館2階/後期7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	利ハ・ケイブレット
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introductions	Meeting other class members	Please prepare some questions to ask your classmates.
	2	Unit 1 Introducing People	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	3	Unit 1	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	4	Unit 2: Invitations	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	5	Unit 2	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	6	Unit 2	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	7	Unit 3 Checking Travel Information	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	8	Unit 3	Reading, writing, listening and speaking tasks Small test	Homework and previous class review.
	9	Unit 3	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	10	Unit 4 Giving and getting directions	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	11	Unit 4	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	12	Unit 4	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	13	Unit 5 Offers and requests	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	14	Unit 5	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	15	Unit 5 and review	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	International Express Elementary	Angela Buckingham 他	オックスフォード
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	I look forward to working with you all to level up your Business English skills. Don't worry about having perfect English, just try your best in class to produce as much as you can!
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期3号館/後期7号館2階)
----------	------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIC
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Unit 7: Taking Aim シュートの達人、スリーポイントおじいさん	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 7の小テストの準備
2	Unit 8: Boccia Boom Revitalizing Japanese Companies 企業に広がるボッチャ競技	語彙問題と聴きとり Unit 7の小テスト	当該Unitの予習と復習
3	Unit 8: Boccia Boom Revitalizing Japanese Companies 企業に広がるボッチャ競技	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 8の小テストの準備
4	Unit 9: Rising Profile 人気のインスタ「東北女子」	語彙問題と聴きとり Unit 8の小テスト	当該Unitの予習と復習
5	Unit 9: Rising Profile 人気のインスタ「東北女子」	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 9の小テストの準備
6	Unit 10: All Blacks Cause City to Rethink Ink ラグビーが 뜨なぐリスペクト	語彙問題と聴きとり Unit 9の小テスト	当該Unitの予習と復習.
7	Unit 10: All Blacks Cause City to Rethink Ink ラグビーが 뜨なぐリスペクト	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 10の小テストの準備
8	Unit 11: Man-made Threat to Japanese Deer ブラゴミから鹿を守る	語彙問題と聴きとり Unit 10の小テスト	当該Unitの予習と復習
9	Unit 11: Man-made Threat to Japanese Deer ブラゴミから鹿を守る	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 11の小テストの準備
10	Unit 12: Home Appliance Maker Leads Comeback 海外の巻き返しを図る家電メーカー	語彙問題と聴きとり Unit 11の小テスト	当該Unitの予習と復習
11	Unit 12: Home Appliance Maker Leads Comeback 海外の巻き返しを図る家電メーカー	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 12の小テストの準備
12	Unit 13: Hospitals Breaking Down Language Barrier 広がる医療通訳	語彙問題と聴きとり Unit 12の小テスト	当該Unitの予習と復習
13	Unit 13: Hospitals Breaking Down Language Barrier 広がる医療通訳	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 13の小テストの準備
14	Unit 14: A New View of Hokusai 知られざる北斎の魅力	語彙問題と聴きとり Unit 13の小テスト	当該Unitの予習 後期内容の総復習
15	後期内容のまとめのテスト	後期学習範囲の習熟度をテストの形で復習する	後期学習範囲の習熟度

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	NHK NEWSLINE 4	山崎達朗・Stella M. Yamazaki・Erika C. Yamazaki	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge 10% 平常点(小テスト・授業への参加度等) 35% まとめのテスト 35%			
学生への メッセージ	予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	3号館2階(前期) 7号館2階(後期) 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 後期8回目から対面授業へ変更			

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	嶋村 貢志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から</p>																																																																		
授業方法と留意点	当面の間、Moodleの課題、オンラインの解説授業を行う。3回を超える課題の提出忘れがある場合は原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>序 Unit 13 The Lion's Share</td> <td>後期の説明 不当に大きな分け前</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 14 The Rat Race</td> <td>出世競争</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 15 Like a Fish Out of Water</td> <td>場違いで</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 16 Crocodile Tears</td> <td>ウン泣き</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 17 Take the Bull by the Horns</td> <td>困難に敢然と立ち向かう</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 18 A Dark Horse</td> <td>意外な力量を持った候補者.</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 19 Save Face</td> <td>面目を保つ</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 20 Play It by Ear</td> <td>臨機応変に処理する</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 21 Get Cold Feet</td> <td>おじげづく</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 22 A Pain in the Neck</td> <td>うんざりさせる人</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 23 Give Someone the Cold Shoulder</td> <td>人を冷たくあしらう</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 24 Not Lift a Finger</td> <td>(否定形で) 何の努力もしない</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>映画</td> <td>視聴</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>映画、後期の確認</td> <td>字幕復習、意見交換</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>後期内容のまとめのテスト</td> <td>後期学習範囲の習熟度をテストの形で復習する</td> <td>後期学習範囲の習熟度</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	序 Unit 13 The Lion's Share	後期の説明 不当に大きな分け前	予習と復習	2	Unit 14 The Rat Race	出世競争	予習と復習	3	Unit 15 Like a Fish Out of Water	場違いで	予習と復習	4	Unit 16 Crocodile Tears	ウン泣き	予習と復習	5	Unit 17 Take the Bull by the Horns	困難に敢然と立ち向かう	予習と復習	6	Unit 18 A Dark Horse	意外な力量を持った候補者.	予習と復習	7	Unit 19 Save Face	面目を保つ	予習と復習	8	Unit 20 Play It by Ear	臨機応変に処理する	予習と復習	9	Unit 21 Get Cold Feet	おじげづく	予習と復習	10	Unit 22 A Pain in the Neck	うんざりさせる人	予習と復習	11	Unit 23 Give Someone the Cold Shoulder	人を冷たくあしらう	予習と復習	12	Unit 24 Not Lift a Finger	(否定形で) 何の努力もしない	予習と復習	13	映画	視聴	予習と復習	14	映画、後期の確認	字幕復習、意見交換	予習と復習	15	後期内容のまとめのテスト	後期学習範囲の習熟度をテストの形で復習する	後期学習範囲の習熟度
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	序 Unit 13 The Lion's Share	後期の説明 不当に大きな分け前	予習と復習																																																																
2	Unit 14 The Rat Race	出世競争	予習と復習																																																																
3	Unit 15 Like a Fish Out of Water	場違いで	予習と復習																																																																
4	Unit 16 Crocodile Tears	ウン泣き	予習と復習																																																																
5	Unit 17 Take the Bull by the Horns	困難に敢然と立ち向かう	予習と復習																																																																
6	Unit 18 A Dark Horse	意外な力量を持った候補者.	予習と復習																																																																
7	Unit 19 Save Face	面目を保つ	予習と復習																																																																
8	Unit 20 Play It by Ear	臨機応変に処理する	予習と復習																																																																
9	Unit 21 Get Cold Feet	おじげづく	予習と復習																																																																
10	Unit 22 A Pain in the Neck	うんざりさせる人	予習と復習																																																																
11	Unit 23 Give Someone the Cold Shoulder	人を冷たくあしらう	予習と復習																																																																
12	Unit 24 Not Lift a Finger	(否定形で) 何の努力もしない	予習と復習																																																																
13	映画	視聴	予習と復習																																																																
14	映画、後期の確認	字幕復習、意見交換	予習と復習																																																																
15	後期内容のまとめのテスト	後期学習範囲の習熟度をテストの形で復習する	後期学習範囲の習熟度																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Idioms in 24 Exciting Stories</td> <td>佐藤史郎 / John Oliphant / 古田島綾子</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Idioms in 24 Exciting Stories	佐藤史郎 / John Oliphant / 古田島綾子	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Idioms in 24 Exciting Stories	佐藤史郎 / John Oliphant / 古田島綾子	金星堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%																																																																		
学生へのメッセージ	予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	Moodleを通して課題や講義資料を提示、提出期限後に解説、提出された解答に対するコメント、注意点等を提示して行く。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。毎回の課題を期限を確認して提出すること。8回目からは対面授業に変更。原則として、未提出課題と対面授業の欠席の合計が4回以上あった場合には単位が取得できない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	前期の内容の復習	前期の内容の復習	テキストの予習と単語の学習 予習をしながら単語帳を作ること (以下同様)
2	The United States: A Nation on the Road (1)	自動車大国、アメリカ (1)	テキストの予習と単語の学習
3	The United States: A Nation on the Road (2)	自動車大国、アメリカ (2)	テキストの予習と単語の学習
4	France: A Place of Little Waste (1)	効率重視のフランス文化 (1)	テキストの予習と単語の学習
5	France: A Place of Little Waste (2)	効率重視のフランス文化 (2)	テキストの予習と単語の学習
6	Bangladesh: Where Chaos and Peace Coexist (1)	バングラデシュの混沌とのどかさ (1)	テキストの予習と単語の学習
7	Bangladesh: Where Chaos and Peace Coexist (2)	バングラデシュの混沌とのどかさ (2)	テキストの予習と単語の学習
8	New Zealand: Where Native Culture Thrives (1)	共生のニュージーランド文化 (1)	テキストの予習と単語の学習
9	New Zealand: Where Native Culture Thrives (2)	共生のニュージーランド文化 (2)	テキストの予習と単語の学習
10	South Korea: The Crossroads of Food, Culture and Tradition (1)	食で深まる韓国の絆文化 (1)	テキストの予習と単語の学習
11	South Korea: The Crossroads of Food, Culture and Tradition (2)	食で深まる韓国の絆文化 (2)	テキストの予習と単語の学習
12	Niger: Friendly Faces in a Dry Land (1)	長い挨拶とおしゃべり好きなニジェール文化 (1)	テキストの予習と単語の学習
13	Niger: Friendly Faces in a Dry Land (2)	長い挨拶とおしゃべり好きなニジェール文化 (2)	テキストの予習と単語の学習
14	Brazil: A Paradise for Soccer and Dance Lovers	サッカーとダンスが織りなすブラジル文化	テキストの予習と単語の学習
15	まとめの課題	まとめの課題、後期の内容の復習	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Guess What?!-Intercultural Surprises-	松井 夏津紀 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge のスコア 10% Moodle を通した課題と対面授業の課題の評価 70%
学生へのメッセージ	課題の期限を確認して、必ず毎回提出するように心がけてください。わからないことがあれば、学内メールアドレスに質問してください。課題提出期限後に、解答、解説、皆さんが提出した解答に対するコメントを提示しますので、必ず目を通して復習してください。
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大江 麻里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	テキスト前期の内容の確認と後期の進め方の説明	テキストの予習
	2	Chapter 7 Young People Don't Travel Abroad	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	3	Chapter 7 Young People Don't Travel Abroad	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	4	Chapter 8 Foreign Views of Japanese Culture	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	5	Chapter 8 Foreign Views of Japanese Culture	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	6	Chapter 9 Rethinking University Education	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	7	Chapter 9 Rethinking University Education	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	8	Chapter 10 Graffiti	英語学習・読解・英作 対面授業再開	テキストの予習と単語の学習
	9	Chapter 10 Graffiti	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	10	Chapter 13 Bright White Teeth for Everybody	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	11	Chapter 13 Bright White Teeth for Everybody	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	12	Chapter 16 QR Codes--A Japanese Success Story	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	13	Chapter 16 QR Codes--A Japanese Success Story	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	14	後期の総復習	質疑応答	後期の範囲で分からなかった点をまとめておく
15	まとめのテスト	これまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習	

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Trend Watching	Jonathan Lynch 他	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ	英語学習は地道な努力が必要です。授業中に出される指示に従い、積極的に参加してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIC
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 三千代
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ		内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation		授業の進め方の説明
2	Socializing Co-Workers	with	パーティーに誘う 動名詞・不定詞を理解する 好きなこと・嫌いなことについて書く	テキストの予習と単語の学習
3	Socializing Co-Workers	with	パーティーに誘う 動名詞・不定詞を理解する 好きなこと・嫌いなことについて書く	テキストの予習と単語の学習
4	Vacation Spots		相手に約束する 未来形の使い方に慣れる 未来の自分について書く	テキストの予習と単語の学習
5	Vacation Spots		相手に約束する 未来形の使い方に慣れる 未来の自分について書く	テキストの予習と単語の学習
6	Sports Talk		好みを伝える 比較級・最上級を理解する 自分の価値観について書く	テキストの予習と単語の学習
7	Sports Talk		好みを伝える 比較級・最上級を理解する 自分の価値観について書く	テキストの予習と単語の学習
8	Tour Day		同僚に確認する 助動詞の使い方に慣れる 大学の規則について書く	テキストの予習と単語の学習
9	Tour Day		同僚に確認する 助動詞の使い方に慣れる 大学の規則について書く	テキストの予習と単語の学習
10	Party Time!		喜びを伝える 現在完了形を理解する 最近したことについて書く	テキストの予習と単語の学習
11	Party Time!		喜びを伝える 現在完了形を理解する 最近したことについて書く	テキストの予習と単語の学習
12	Office Meeting		滞在先の感想をたずねる 関係詞を理解する 尊敬する人物について書く	テキストの予習と単語の学習
13	A Bit of History		観光名所を案内する 受動態を理解する 通っている大学について書く	テキストの予習と単語の学習
14	farewell, Masa and Lucy		お礼の言葉を述べる 接続詞の使い方に慣れる 普段の習慣について書く	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習		まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Missions! Basic	Robert Hickling 他	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (Revised Edition)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 TOEIC Bridge	20% 10%
----------	--------------------------	------------

	授業への参加(課題提出等)、貢献(小テスト、まとめのテスト等も含む) 70%
学生へのメッセージ	辞書を活用して、必ず予習しておくことを心がけてください。授業中は積極的に発表することだけでなく、クラスメートの発表をしっかり聞くことも大切です。今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによってあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じ、親しむように心がけて欲しい。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIC
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 ・各 Lesson の終わりにまとめの語彙テスト(3~5分)を行う。 ・4回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ・遠隔授業では常に Teams を使用し、リスニングなどの課題提出は Moodle を使用する。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	9-11 Think of innovative new ways to repurpose old material	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
3	10-1 Reduced Inequalities 人や国の不平等をなくそう	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
4	10-11 Raise your voice against discrimination	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
5	11-1 Sustainable Cities & Communities 住み続けられるまちづくりを	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
6	11-11 Bike, walk, or use public transportation	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
7	12-1 Responsible Consumption & Production つくる責任、つかう責任	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
8	12-1 Responsible Consumption & Production つくる責任、つかう責任 中間テスト(予定)	Exercise(語彙、英問英答など) 前半の学習の確認テスト	中間テストの勉強 下読みと単語調べ、exerciseの予習(1時間)
9	12-11 Recycle paper, plastic, glass, and aluminum	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
10	13-1 Climate Action 気候変動に具体的な対策を	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
11	13-11 Educate young people on climate change	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
12	14-1 Life Below Water 海の豊かさを守ろう	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
13	14-11 Avoid plastic bags to keep the ocean safe and clean	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise(語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise(リスニング含む)の予習(2時間)
14	まとめ(復習)テスト	後半の学習の確認テスト	まとめテストに備え復習をしておくこと
15	まとめテストの解答・解説 (実力問題に挑戦)	テストの答え合わせ (教科書に出て来た語彙の総復習など)	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AFP World News Report 5(「AFP ニュースで見る世界5」)	宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test—Revised Edition—	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（小テスト、中間及び期末テスト、宿題等も含む） 80%			
学生への メッセージ	国連が掲げている、17項目の開発目標の後半部分を読んでいきます。Lesson 9から始めます。（途中計画通りに進まないこともあります。） 授業に備えて、単語調べや構文確認は毎回必ずしておくように。余裕ができ授業中での理解度も高まります。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	猪熊 慶祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。なお、Wi-Fi等の通信障害による欠席は、課題の提出等により代替とする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 6 Fast Food (1) ファーストフードについてのエッセイの読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
2	Unit 6 Fast Food (2) ファーストフードに関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 6 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させるようにする。(1時間)
3	Unit 7 Extreme Weather (1) 異常気象についてのエッセイの読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
4	Unit 7 Extreme Weather (2) 異常気象に関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 7 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させるようにする。(1時間)
5	Unit 8 Medical Tourism (1) 医療サービスを受けるための海外渡航についてのエッセイ読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
6	Unit 8 Medical Tourism (2) 医療サービスを受けるための海外渡航に関連した英作文と会話聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 8 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させるようにする。(1時間)
7	Unit 9 Advertising (1) 宣伝広告についてのエッセイ読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
8	Unit 9 Advertising (2) 宣伝広告に関連した英作文と会話聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 9 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させるようにする。(1時間)
9	Unit 10 Business Travel (1) 出張についてのエッセイ読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
10	Unit 10 Business Travel (2) 出張に関連した英作文と会話聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 10 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させる。(1時間)
11	Unit 11 E-commerce (1) インターネットによる商取引についてのエッセイ読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
12	Unit 11 E-commerce (2) インターネットによる商取引に関連した英作文と会話聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 11 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させるようにする。(1時間)
13	Unit 12 Coffee Shop (1) 世界にチェーン店をもつスターバックスについてのエッセイ読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
14	Unit 12 Coffee Shop (2) コーヒーチェーン店に関連する英作文と会話聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 12 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させるようにする。(1時間)
15	Units 6-12 復習	今学期に読んだ、教科書のエッセイや、	事前に、今学期の自分の提出物に目を通し、質問す

			それに関連した読解・作文・文法の練習問題を再確認し、分からない点が無いようにする。	べきことを準備する。事後に、まとめのためのテスト問題を解答する。(1時間)
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Indicators 3	Cohen, Mihara 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	遠隔授業で、教科書の課題を、締め切り日までに解答して提出する。毎回の課題の分量を少なめにしているため、その分、時間をかけてじっくりと基礎的なことから学習し、身に付けていってほしい。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 毎回の課題を有効に利用し、基礎から少しずつ英語力をつけていってください。 少しでも疑問に思う点や不明な点があれば、そのつど質問してください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 7 号館 2 階			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English II d
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹部 春樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業についての注意事項や進め方の説明。	テキストを購入して、目を通しておくこと。
2	Asian Dust and PM2.5 - A Deadly Mix	教科書の第 11 章を学習する。	テキストの予習
3	Tsunami Countermeasures (1)	教科書の第 12 章を学習する。	テキストの予習・復習
4	Tsunami Countermeasures (2)	教科書の第 12 章を学習する。	テキストの予習・復習
5	Bright White Teeth for Everybody	教科書の第 13 章を学習する。	テキストの予習・復習
6	Helium in Short Supply (1)	教科書の第 14 章を学習する。	テキストの予習・復習
7	Helium in Short Supply (2)	教科書の第 14 章を学習する。	テキストの予習・復習
8	Forced Drinking at Universities	教科書の第 15 章を学習する。	テキストの予習・復習
9	QR Codes - A Japanese Success Story (1)	教科書の第 16 章を学習する。	テキストの予習・復習
10	QR Codes - A Japanese Success Story (2)	教科書の第 16 章を学習する。	テキストの予習・復習
11	Rebuilding the Titanic	教科書の第 17 章を学習する。	テキストの予習・復習
12	The Costco Phenomenon (1)	教科書の第 18 章を学習する。	テキストの予習・復習
13	The Costco Phenomenon (2)	教科書の第 18 章を学習する。	テキストの予習・復習
14	Tablets for Business	教科書の第 19 章を学習する。	テキストの予習・復習
15	Are We Running Out of Fuel?	教科書の第 20 章を学習する。	テキストの予習・復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Trend Watching	Jonathan Lynch / 委文光太郎	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	英語の訓練は楽器やスポーツの練習に似ているところがあって、(少しずつでも) 毎日やるのが大切だと思います。がんばりましょう。質問などあればいつでもどうぞ。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室(前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	---------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習	前期に習った内容の復習	———
	2	Unit 11 Breakfast in America アメリカの朝食	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 41-44
	3	Unit 12 The World Cup ワールドカップ	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 45-48
	4	Unit 13 Blood Types 血液型で性格判断	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 49-52
	5	Unit 14 Reality TV リアリティ番組	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 53-56
	6	Unit 15 Rodeos ロデオ	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 57-60
	7	Unit 16 Women's Sumo 女子相撲	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 61-64
	8	Unit 17 Studying Abroad 海外で学ぼう	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 65-68
	9	Unit 18 The Palace of Salt しよっぱいホテル	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 69-72
	10	Unit 19 The Mona Lisa モナリザの微笑	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 73-76
	11	Unit 20 Lizards トカゲは好きですか	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 77-80
	12	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
	13	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
	14	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
	15	総合復習	試験に向けた復習	教科書など後期範囲一通り

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Basic Faster Reading New Edition 速読の基礎演習 最新版	Casey Malarcher, 原田慎一	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition 改訂新版	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 定期試験 50% 授業への参加、貢献 (提出物、小テスト、まとめテスト等も含む) 30% オンライン授業期間中は単語の小テストは行いません。 11月第1週の7回目より対面授業に変わっています。単語帳より単語小テストを行っています。最後まで対面授業が続いた場合は課題提出(オンライン 25%及び対面 15%)、単語テスト(5%)及び授業最終日の復習テスト(25%)に全学共通英語課題(20%)、TOEIC Bridge(10%)を足して総合評価します(授業評価の各割合は目安で多少変わる場合があります)。今後の社会情勢及び授業形態の変化に伴い、評価方法が変更になる場合があります。
-----------	--

学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	東野 厚子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行い、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 8 The Modern Workplace	授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習
	2	Unit 8 The Modern Workplace	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	3	Unit 9 The Use of Social Media	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	4	Unit 9 The Use of Social Media	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	5	Unit 10 Effective Business Writing	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	6	Unit 10 Effective Business Writing	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	7	Unit 11 The Modern Office 《第7回より対面授業に移行》	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	8	Unit 11 The Modern Office 《対面授業》	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	9	Unit 12 Socializing with a Purpose 《対面授業》	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	10	Unit 12 Socializing with a Purpose 《対面授業》	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	11	Unit 13 The Business Trip 《対面授業》	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	12	Unit 13 The Business Trip 《対面授業》	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	13	Unit 14 Dining In and Dining Out 《対面授業》	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	14	Unit 14 Dining In and Dining Out 《対面授業》	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
15	まとめ Unit 8-14 の復習 《対面授業》	全体の復習 まとめテスト	単語学習 テキスト (Unit8-14) の復習	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>English Indicator 4</td> <td>Alison Kit z man 他</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-</td> <td>西垣恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Indicator 4	Alison Kit z man 他	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西垣恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	English Indicator 4	Alison Kit z man 他	南雲堂													
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西垣恒志	成美堂														
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2			
	番号	書籍名	著者名	出版社名									
1													
2													

	3		
評価方法 (基準)	全学共通課題 TOEIC Bridge 授業への参加、貢献(課題、小テスト、まとめテスト等を含む)	20% 10% 70%	
学生への メッセージ	知っておきたい基本的なビジネスルールを英語で学びます。主体的に取り組み、英語の運用能力を向上させましょう。 授業での課題等は必ず、期限を守って提出してください。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	英語Ⅱd	科目名(英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 8: South Korea	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.34-35 練習問題を行うこと。
	2	Unit 8: South Korea	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.36-37 練習問題を行うこと。
	3	Unit 9: Vietnam	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.38-39 練習問題を行うこと。
	4	Unit 9: Vietnam	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.40-41 練習問題を行うこと。
	5	Unit 10: China	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.42-43 練習問題を行うこと。
	6	Unit 10: China	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.44-45 練習問題を行うこと。
	7	Unit 11: Thailand	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.46-47 練習問題を行うこと。
	8	復習, 臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	9	Unit 11: Thailand	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.48-49 練習問題を行うこと。
	10	Unit 12: India	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.50-51 練習問題を行うこと。
	11	Unit 12: India	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.52-53 練習問題を行うこと。
	12	Unit 13: Brazil	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p54-55 練習問題を行うこと。
	13	Unit 13: Brazil	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.56-57 練習問題を行うこと。
	14	Unit 14: The United States of America	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.58-61 練習問題を行うこと。
	15	復習, 臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を復習しておく。

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Business Trends	Iwao Yamashita ほか	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(臨時テスト、小テストなども含む) 80% なお、遠隔授業の場合は課題提出をもって臨時テスト、小テスト等の代替とする。
----------	--

学生へのメッセージ	授業に関する大切なお知らせが1回目 WebFolder に入っています。必ずご確認ください。 毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 TOEICを受験することを勧める。さらに単語力を増強するため、リンガポルテを活用し、積極的に自習すること。 リンガポルテの取り組みも成績評価に反映されます。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室(前期3号館2階/後期7号館2階)
----------	-------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	利ハ・ケイアレット
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 6 Welcoming a visitor	Meeting other class members	Please bring a short report on what you did over the break (150 words)
	2	Unit 6	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	3	Unit 6	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	4	Unit 7 Making arrangements	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	5	Unit 7	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	6	Unit 7	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	7	Unit 8 Recommending places to visit	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	8	Unit 8	Reading, writing, listening and speaking tasks Short test	Homework and review classwork.
	9	Unit 8	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	10	Unit 9 Giving opinions	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	11	Unit 9	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	12	Unit 9	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	13	Unit 10 Discussing progress	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	14	Unit 10	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	15	Unit 10	Final review, wrapping up, small presentation	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	International Express Elementary	Angela Buckingham 他	オックスフォード
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	We will continue building on the skills you have developed in the first semester and look at more challenging Business English. Remember just to participate and try your best! Please check Moodle - "Announcements" for Zoom link
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期3号館/後期7号館2階)
----------	------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジュリア クネグアイチ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	1EN3331c1		

授業概要・目的
 ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
 経済は決して専門分野ではなく、日常生活と密接に結びついているのです。企業の海外進出、海外企業との合弁、海外での子会社設立などビジネス英語のニーズも高まっています。
 この授業では面白いエピソードを交えた文章を読むことによって、お金の役割から経済のシステムまでのビジネス英語の基本的知識を得られ、役に立つ英語表現も無理なく学習できます。
 授業計画は進度によって変わる場合があります。

到達目標
 (1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う。
 (2) 前期は CEFR-J[B1.1]、後期は CEFR-J[B1.2] に英語力が到達することを目標とする。
 この授業を通して短い文章を読解する能力と文法の基礎を習得できます。
 毎回行う英単語の小テストによって大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。
 リスニングとライティングを中心に日常生活に必要な英語の語彙力、表現力、理解力をつける事を目標とする。
 又、並行して英語の資格、検定の練習問題

授業方法と留意点
 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
 授業を効果的に遂行するため、学生の予習を期待しています。

科目学習の効果 (資格)
 基本的文法の復習、リスニング、語彙力、英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入。コース全体の組み立て。授業の進め方。成績のつけ方。出席・欠席への注意など。	どうしてこのコースを選択したか。キャリアデザインとの関係。英語はどう役立つか。	Chapter I: Money: The Basics の Chapter I: Money: The Basics を読んでくる。
2	お金の機能について	I-1 Money has three functions.	Chapter I: Money: The Basics の When you borrow money, you have to pay interest. を読んでくる。
3	お金を借りたら利息がつく。	When you borrow money, you have to pay interest.	Chapter I: Money: The Basics の What happens to money you deposit in a bank? を読んでくる。
4	銀行に預けたお金はどうなるのか。	What happens to money you deposit in a bank?	Chapter I: Money: The Basics の Banks aren't the only financial institutions.
5	銀行が唯一の金融機関ではない。	Banks aren't the only financial institutions.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Prices are set according to the principle of supply and demand. を読んでくる。
6	価格は需要と供給によって決まる。	Prices are set according to the principle of supply and demand.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Foreign trade is a two-way street. を読んでくる。
7	海外貿易は二方向。	Foreign trade is a two-way street.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Exchange rates also vary according to supply and demand. を読んでくる。
8	為替レートも需要と供給。	Exchange rates also vary according to supply and demand.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Currencies continuously strengthen and weaken against one another. を読んでくる。
9	通貨の強弱。	Currencies continuously strengthen and weaken against one another.	Chapter III: How Companies Work の Joint-stock companies: how they came about を読んでくる。
10	株式会社はどう生まれたか。	Joint-stock companies: how they came about?	Chapter III: How Companies Work の Companies share their profits among their shareholders. を読んでくる。
11	企業は株主と利益を分配する。	Companies share their profits among their shareholders.	Chapter III: How Companies Work の Trading in Stocks has become a full-fledged market. を読んでくる。
12	株式の取引は本物の市場になった。	Trading in Stocks has become a full-fledged market.	Chapter III: How Companies Work の E-trading has changed the nature of stock trading dramatically. を読んでくる。
13	E-trading は株式の取引を根本的に変えた。	E-trading has changed the nature of stock trading dramatically.	Chapter III: How Companies Work の A company doesn't belong only to its shareholders. を読んでくる。
14	企業は株主のものだけではない。	A company doesn't belong only to its shareholders.	これまでのまとめ。
15	総復習。	これまでのまとめ。	期末テストへの注意と解説。

関連科目 他の英語関係科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	All About Money and the Economy	池上 彰	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD	西谷恒志	成美堂

		BOOK (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、課題レポート 40%で評価する。			
学生への メッセージ	課題を重視する。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	<p>【事前事後学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に単語は e-learning 学習など、毎日、平均 1 時間は学習してください。 ・授業の 13 回目までに、単語番号 201~400 までを最低一巡は終わるようにしてください。 <p>【授業中の注意点について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辞書を必ず持参してください。 <p>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>			

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名 (英文)	Business English II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジュリア クネグアイツ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN3332c1		

授業概要・目的

ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。

この授業では面白いエピソードを交えた文章を読むことによって、お金の役割から経済のシステムまでのビジネス英語の基本的知識を得られ、役に立つ英語表現も無理なく学習できます。大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。これらの能力を習得することによってコミュニケーションスキルに念頭を置いた実用的な英語基礎能力が期待されます。

到達目標

(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う。
(2) 前期は CEFR-J[B1.1]、後期は CEFR-J[B1.2] に英語力が到達することを目標とする。

この授業ではリスニングとライティングを中心に、英語の4技能の強化を図ります。
到達目標：日常生活で必要とする基礎的な英語の理解力・表現力を身につける。
ビジネスの場で必要とされる読解力、語彙力をつけ、TOEICのスコアアップを目指します。

授業方法と留意点

演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

授業を効果的に遂行するため、学生の予習を期待しています。また、学生同士が教え教えられることで active learning にしていきたいと考えています。
テキスト(教科書)を忘れた場合、また私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業を欠席し

科目学習の効果(資格)

リスニング・ライティングの訓練を継続的に行えば、半年でかなりの実力が付きます。
最初は難しいと感じても、根気よく続けてください。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	後期にあたって、新たな気持ちで英語に取り組む姿勢を喚起する。	各レッスンの訳、要約。自発的で積極的な授業への取り組み方を考える。	Chapter III: The State of the Economy の The economy fluctuates in cycle. を読んでくる。 指定単語の学習
2	経済は周期的に変動する。	The economy fluctuates in cycle.	Chapter III: The State of the Economy の There are two basic ways countries can stimulate their economics. を読んでくる。 指定単語の学習
3	経済を活性化する2方法。	There are two basic ways countries can stimulate their economics.	Chapter III: The State of the Economy の Sometimes an economy can become too robust. を読んでくる。 指定単語の学習
4	経済はときには強すぎる。	Sometimes an economy can become too robust.	Chapter III: The State of the Economy の In extrem casus, the economy can grow like a bubble. を読んでくる。 指定単語の学習
5	経済は泡のように膨らむ。	In extrem casus, the economy can grow like a bubble.	Chapter v: Economic Systems の There are two main economic systems in operation today. を読んでくる。 指定単語の学習
6	今日の2つの経済システム。	There are two main economic systems in operation today.	これまでの復習。
7	Review, Midterm Exam	復習、期間外試験1	Chapter v: Economic Systems の Socialism largely ended in failure. を読んでくる。 指定単語の学習
8	社会主義の失敗。	Socialism largely ended in failure.	Chapter v: Economic Systems の Globalization has its good points and its bad. を読んでくる。 指定単語の学習
9	グローバリゼーションの良い点と悪い点。	Globalization has its good points and its bad.	Chapter v: Economic Systems の Neo-liberalism is changing the way business done. を読んでくる。 指定単語の学習
10	新自由主義はビジネスを変える。	Neo-liberalism is changing the way business done.	Chapter v: Economic Systems の Economic policies can serve to protect the natural environment. を読んでくる。 指定単語の学習
11	経済政策は自然環境の保護に役立つ。	Economic policies can serve to protect the natural environment.	プリントを用意する。 指定単語の学習
12	食物アレルギー	Food allergies	Food allergies を読んでくる。 指定単語の学習
13	食物アレルギー	Food allergies	プリントを用意する。 指定単語の学習
14	青色発光ダイオード	Blue LED	Blue LED を読んでくる。 指定単語の学習
15	青色発光ダイオード	Blue LED	期末テストの注意と重点項目。

関連科目	英語関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	All About Money and the Economy	池上 彰	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト)	西谷恒志	成美堂
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>試験 30%、TOEIC の語彙・聴解・長文を意識した小テスト 40%、課題レポート 10% 授業態度 10% (授業中の発表)、出席 10% の割合で評価する。</p> <p>※授業態度に問題のある場合 (遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など) は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。課題の全て、メールにて提出願います。</p>			
学生への メッセージ	<p>英語を効果的にマスターしたい人は、少しずつでも必ず毎日英語に触れましょう。 週に一日だけ 1 時間勉強するよりも、毎日 15 分勉強するほうがはるかに効果が上がります。 英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。 授業以外にも、自分の興味ある分野の英文をどんどん読んでみましょう。 全員参加で活気ある授業を創り上げましょう。</p>			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)			
備考	<p>【事前事後学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に単語は e-learning 学習など、毎日、平均 1 時間は学習してください。 ・授業の 13 回目までに、単語番号 600~800 までを最低一巡は終わるようにしてください。 <p>【授業中の注意点について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辞書を必ず持参してください。 <p>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>			

科目名	英語コミュニケーション I	科目名 (英文)	English Conversation I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アサヒ ロソグス
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN3333c1		

授業概要・目的	海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J[A2.1]、後期はCEFR-J[A2.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	総合的な英語力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Class introduction	ガイダンス	課題、小テスト対策
	2	Cerf Topic #1	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	3	Cerf Topic #2	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	4	Cerf Topic #3	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	5	Cerf Topic #4	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	6	Presentation Prep	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	7	Cerf Topic #5	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	8	Presentation	Presentation	課題、小テスト対策
	9	Group Game Activity	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	10	Cerf Topic #6	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	11	Cerf Topic #7	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	12	Cerf Topic #8	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	13	Presentation Prep	prep	課題、小テスト対策
	14	Cerf Topic #9	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	15	Presentation	presentation	試験対策

関連科目	英語科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Presentations 30 Attendance 50 Participation 20
-----------	---

学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	English Conversation II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アサヒ ロソグス
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN3334c1		

授業概要・目的	海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J[A2.1]、後期はCEFR-J[A2.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	総合的な英語力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Class introduction	ガイダンス	課題、小テスト対策
	2	Cerf Topic #1	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	3	Cerf Topic #2	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	4	Cerf Topic #3	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	5	Cerf Topic #4	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	6	Presentation Prep	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	7	Cerf Topic #5	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	8	Presentation	Presentation	課題、小テスト対策
	9	Group Game Activity	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	10	Cerf Topic #6	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	11	Cerf Topic #7	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	12	Cerf Topic #8	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	13	Presentation Prep	prep	課題、小テスト対策
	14	Cerf Topic #9	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	15	Presentation	presentation	試験対策

関連科目	英語科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Presentations 30 Attendance 50 Participation 20
-----------	---

学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ビジネス中国語基礎 a	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business a
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	薬 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1336e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業はオンライン形式で、学生と教師のインタラクティブな活動を中心に進める。 中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発音編 第1課 発音 1	ピンインと四声, 単母音, 子音①, 複母音①。	事前にテキストを目を通す。 授業後、習った発音を練習し、ピンインを書く、復習をすること (1時間)。
2	第2課 発音 2	複母音②, 鼻母音, 子音②。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する (1時間)。 授業後、習った発音を練習し、ピンインを書く、復習をすること (1時間)。
3	第3課 発音 3	複母音③④, 子音③。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する (1時間)。 授業後、習った発音を練習し、ピンインを書く、復習をすること (1時間)。
4	第4課 発音 4	子音④⑤。 あいさつ言葉の復習。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する (1時間)。 授業後、習った発音を練習し、ピンインを書く、復習をすること (1時間)。
5	本文編 第1課 お名前は?	人称代名詞, 形容詞述語文, 疑問文, 副詞「也」、「都」、「很」。	事前に、発音編のあいさつ用語の復習 (1時間)。 授業後、練習問題を解答し、会話を繰り返して読むこと (1時間)。
6	第1課 お名前は?	副詞「不」、疑問詞疑問文, 名前の言い方。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する (1時間)。 授業後、練習問題を解答し、会話を繰り返して読むこと (1時間)。
7	第2課 僕は日本人だ	「是」構文, 疑問詞「?」、副詞「都」。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する (1時間)。 授業後、練習問題を解答し、会話を繰り返して読むこと (1時間)。
8	第2課 僕は日本人だ	助詞「的」、反復疑問文, 疑問詞「誰」、指示代名詞。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する (1時間)。 授業後、練習問題を解答し、会話を繰り返して読むこと (1時間)。
9	第3課 君は大阪人だよ ね?	★単元テスト 動詞述語文, 終助詞「?」、省略疑問文。	事前に、テスト (第1~2課) の準備をすること (1時間)。 授業後、練習問題を解答し、会話を繰り返して読むこと (1時間)。
10	第3課 君は大阪人だよ ね?	同時進行の表現, 二重目的語。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する (1時間)。 授業後、練習問題を解答し、会話を繰り返して読むこと (1時間)。
11	第4課 おいくら?	単位の言葉「張」「個」、動詞の重ね型, お金の言い方。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する (1時間)。 授業後、練習問題を解答し、会話を繰り返して読むこと (1時間)。
12	第4課 おいくら?	「二」と「両」、「不太〜」、所有の「有」。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する (1時間)。 授業後、練習問題を解答し、会話を繰り返して読むこと (1時間)。
13	第5課 どの先生が好き?	★単元テスト 前置詞「和」、名詞述語文。	事前に、テスト (第3~4課) の準備をすること (1時間)。 授業後、練習問題を解答し、会話を繰り返して読むこと (1時間)。
14	第5課 どの先生が好き?	時間の言い方, 前置詞「跟」。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する (1時間)。 練習問題を解答し、会話を読み、覚えること (1時間)。
15	おさらい	★単元テスト 第1~5課までの復習	事前に、テスト (第5課) の準備をすること (1時間)。 授業後、前期の総復習をすること (1時間)。

関連科目 「ビジネス中国語基礎 b」(前期)、「ビジネス中国語基礎 c」(後期)

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編	
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度・課題提出：50% 単元テスト：50%			
学生への メッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。			
担当者の 研究室等 備考	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）			

科目名	ビジネス中国語基礎 b	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business b
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1337e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。 対面授業 状況によりオンラインでの双方向授業を実施。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	声調と単母音	単母音 中国語の音節, 声調。	CDを聞き発音練習をする。30分
2	複母音	複母音 ・ 会話練習 リスニング練習	CDを聞き発音練習をする。30分
3	母音 復習 子音 1	チェックテスト 子音 ・ 会話練習・リスニング練習	CDを聞き発音練習をする。30分
4	子音 2	子音 ・ 会話練習・リスニング練習	CDを聞き発音練習をする。 30分 次回の単元テストに備えて、これまでの復習をしておく。60分
5	子音まとめ 鼻母音 1	チェックテスト 鼻母音 会話練習・リスニング練習	CDを聞き発音練習をする 30分 。間違えたところをチェックして、練習を繰り返す。
6	鼻母音 2	鼻母音 会話練習・リスニング練習	CDを聞き発音練習をする。30分
7	鼻母音まとめ 発音篇 まとめ 1	チェックテスト 発音の総復習	CDを聞き発音練習をする。30分
8	発音篇 まとめ 2	第 1 回 単元テスト 発音篇まとめ	CDを聞き発音練習をする。30分 次回の単元テストに備えて、これまでの復習をしておく。60分
9	第 1 課 こんにちは 1	会話文 文法	CDを聞き発音練習をする。30分
10	第 1 課 こんにちは 2	会話文 基礎演習 発表	CDを聞き発音練習をする。30分
11	第 1 課 まとめ 第 2 課 学校 1	チェックテスト 会話文 文法	CDを聞き発音練習をする。30分 次回の単元テストに備えて、これまでの復習をしておく。60分
12	第 2 課 学校 2	会話文 基礎演習 発表	CDを聞き発音練習をする。30分
13	第 2 課 まとめ 第 3 課 新宿 1	チェックテスト 会話文 文法	CDを聞き発音練習をする。30分
14	第 3 課 新宿 2	会話文 基礎演習 発表	CDを聞き発音練習をする。30分
15	まとめ	第 2 回 単元テスト 第 1~3 課 まとめ	CDを聞き発音練習をする。30分

関連科目	ビジネス中国語基礎 a(経 S) ビジネス中国語基礎 a(経 D)
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ広場	相原茂 等	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	チェックテスト 単元テスト 80% 会話発表 授業態度 20% 出席回数は 10 回以上；単元テストの平均点が 60 点を越えていることを単位認定の基準とします。 音読発表は随時行いますが、その成績も平常評価として重視します。
-----------	--

学生へのメッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 教科書の音読練習は授業時間以外にも時間をとって練習してください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階) 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
------------	--

科目名	ビジネス中国語基礎 c	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business c
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1338e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	口語練習を重視し、中国語の発音、フレーズに慣れてもらう。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第6課 今は3時5分前だ	「有」と「在」、時間詞の語順。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
2	第6課 今は3時5分前だ	不定の数量を表す「些」、時刻の言い方、意見を求める言い方。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
3	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	時間に使う「上/下」、連動文、前置詞「在」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
4	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	標点符号「,」と「、」、文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。 テスト (第 6-7 課) の準備をすること。
5	第8課 小説は好きなの?	★単元テスト1 前置詞「從」と「到」、時量補語とその語順、文型「快～了」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
6	第8課 小説は好きなの?	前置詞「離」、強調の「是」、副詞「又」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
7	第9課 ファーストフード店は家から近い	副詞「就」、副詞「才」、動詞の「要」、前置詞「給」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
8	第9課 ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」、文型「一・・・就・・・」、 「未完成の「没有～」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。 テスト (第 8-9 課) の準備をすること。
9	第10課 北京ダックを食べたことある?	★単元テスト2 助詞「過」、助動詞「要」、「想」、「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
10	第10課 北京ダックを食べたことある?	助動詞「應該」、副詞「別」、「再」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
11	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文、助動詞「会」、構造助詞「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
12	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」、比較の「没有」、禁止表現「不要」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。 テスト (第 10-11 課) の準備をすること。
13	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	★単元テスト3 仮定表現「要是～」、助動詞「能」、可能性の「会」、比較表現「比」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
14	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	使役動詞「叫」、方向補語「～来/去」、 複合補語「～進來/進去」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。 テスト (第 12 課) の準備をすること。
15	おさらい	第 6～12 課の復習 ★単元テスト4	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。

関連科目 「ビジネス中国語基礎 a」(前期)、「ビジネス中国語基礎 b」(後期)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	撰南大学 中国語入門	撰南大学外国語学部編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
2	日中辞典			
3				

評価方法 (基準) 出席・課題提出: 50%
テスト: 50%

学生へのメッセージ 教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。
教室でも家でも声を出してよく読みましょう。
事前・事後の学習に1時間ずつ要します。

担当者の研究室等

備考 「ビジネス中国語基礎 a」を履修したうえ、「ビジネス中国語基礎 c」を履修するのが望ましい。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する、もしくは校内メールで」

科目名	ビジネス中国語基礎 d	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business d
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1339e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第4課 (1) カメラを買う	会話文 文法	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。30分
2	第4課 (2) カメラを買う	会話文 演習 発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。30分
3	第4課 まとめ 第5課 (1) 家族を語る	第4課チェックテスト 会話文 文法	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。30分
4	第5課 (2) 家族を語る	会話文 演習 発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。30分
5	第5課 まとめ 第6課 (1) 富士山	第5課チェックテスト 会話文 文法	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。30分
6	第6課 (2) 富士山	会話文 演習 発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。30分 次回の単元テストの復習をしておく。30分
7	第4～6課 まとめ	☆ 第1回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。30分
8	第7課 (1) 喫茶店	会話文 文法	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。30分
9	第7課 (2) 喫茶店	会話文 演習 発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。30分
10	第7課 まとめ 第8課 (1) 街	第7課チェックテスト 会話文 文法	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。30分
11	第8課 (2) 街	会話文 演習 発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。30分
12	第8課まとめ 第9課 (1) 京都	第8課 チェックテスト 会話文 文法	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。30分
13	第9課 2) 京都	会話文 演習 発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。30分
14	第9課まとめ 第8回～第13回 総復習	第9課チェックテスト 会話文 文法 総復習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。30分 次回の単元テストの復習をしておく。30分
15	総復習	☆ 第2回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。30分

関連科目	ビジネス中国語基礎 c (経S) ビジネス中国語基礎 c (経D)
------	--------------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日中いぶこみ広場	相原茂 等	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	単元テスト 80% 授業参加や提出物 20% 単元テストの平均点が 60 点以上；出席回数が 10 回以上であることが単位認定の最低条件となります。 音読発表も随時行いますが、その成績も平常点として重視します。
-----------	--

学生へのメッセージ	使用教科書は前期と同じなので、前期購入者は後期購入する必要はない。但し、後期から新しく登録したものは教科書の購入が必要である。私語を慎むように。他の受講生の迷惑になります。 上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。出席は 10 回以上ないと単位が認定できない。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	中国語を聞く a	科目名 (英文)	Chinese Listening a
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH2340e1		

授業概要・目的	これまでに学んだ中国語を基礎に、読む・聞く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の準中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを旨とする。
到達目標	中国語の基礎的な能力を身につけ、正しい発音で簡単な日常会話ができるようになる。
授業方法と留意点	授業は学生と教師のインタラクティブな活動を中心に進め、聞く・話すの練習に力を入れる。
科目学習の成果 (資格)	中国語検定試験4級レベル。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	授業方法のガイダンス、1年生の文法の復習	初級の文法を復習する。
2	第1課 値段を言う・尋ねる	本文、単語 1. 100以上の数	事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
3	第1課 値段を言う・尋ねる	2. 「この/あの～」を表す【指示詞+量詞+名詞】 3. 値段を言う・尋ねる表現	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
4	第2課 商品を比較検討する	本文、単語 1. 比較構文 (一)	事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
5	第2課 商品を比較検討する	2. 比較構文 (二) 3. 試してみたいかを尋ねるために	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
6	第3課 支払いの場面でやりとりする	本文、単語 1. 「少し X」「ちょっと X」という時の【有点儿 X】と【X 一点儿】	事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
7	第3課 支払いの場面でやりとりする	2. 特定可能なものを「A の (B)」と手短かに伝える【A 的 (B)】 3. 二重目的語構文	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
8	まとめと単元テスト	文法・語彙の復習、第1回単元テスト	テスト範囲の語句・構文を復習し、しっかりと習得する。
9	第4課 パーソナル・データに言及する	本文、単語 1. 「多」+形容詞 2. 年齢の尋ね方	事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
10	第4課 パーソナル・データに言及する	3. 「状況更新確認モードの“了”」を利用する表現間近構文【快……了】 4. 「祝」+〈人〉+〈これから発生すること〉	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
11	第5課 目印を利用して目的地の場所を特定する	本文、単語 1. 場所を表すための方位詞	事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
12	第5課 目印を利用して目的地の場所を特定する	2. 「ある場所の近く」を表す【〈目印〉+「附近」】 3. 方位を表す代名詞	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
13	第6課 目的地までの行き方を説明する	本文、単語 1. 道案内のための前置詞：往、从、到、離	事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
14	第6課 目的地までの行き方を説明する	2. 目的地への行き方を尋ねる【去〈目的地〉+「怎么走？」】 3. 「V1 したら、V2 する」ことを表す【V10、V2】	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
15	まとめと単元テスト	文法・語彙の復習、第2回単元テスト	テスト範囲の語句・構文を復習し、しっかりと習得する。

関連科目	「中国語を話す a」
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アクション! 開始! 2	鈴木慶夏	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み: 50% 単元テスト: 50%
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語訳や語句・構文を覚えるなど、予習と復習を行ってください。事前・事後に各 60 分の学習を要します。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 (小都研究室) 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	---

備考	授業は、1年生の「ビジネス中国語基礎 ac」または「ビジネス中国語基礎 bd」を履修しているか、これと同等レベルの中国語能力を備えていることを前提として進める。 単元テストは返却時、あるいは実施後に、間違いの多かったところを復習するなどし、必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語を聞く b	科目名 (英文)	Chinese Listening b
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH2341e1		

授業概要・目的	前年度に学んだ中国語をおよび今年度前期科目「中国語を聞く b」で学んだことを基礎に、読む・聞く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の準中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを旨とする。
到達目標	中国語の基礎的な能力を身につけ、正しい発音で簡単な日常会話ができるようになる。
授業方法と留意点	Teams を使った双方向型授業を行う。毎回の授業後に Web 小テストを受験する必要がある。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級レベル。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	授業方法のガイダンス、「中国語を聞く a」で学んだ内容の復習。	教科書第 1 課～第 6 課を復習する。
2	第 7 課 目的地までの所要時間と所要金額を伝える	本文, 単語 1. 幅としての時間「どのくらい」を表す語句事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
3	第 7 課 目的地までの所要時間と所要金額を伝える	2. 動詞“要”+<所要時間>3. 動詞“要”+<所要金額>事前に学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
4	第 8 課 交通案内についての必要な情報を伝える	本文, 単語 1. “要”+<VP>2. “不用”+<VP>事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
5	第 8 課 交通案内についての必要な情報を伝える	3. <VP1>時, 要/不用+<VP2>4. “能不能”+<頼みたいこと>?事前に学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
6	第 9 課 要求事項と禁止事項を伝える	本文, 単語 1. “先”<先にやること>, “再”<その後やること>2. “請”<やってほしいこと>事前に学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
7	第 9 課 要求事項と禁止事項を伝える	3. “請”+“不要”<やらないでほしいこと>4. “請”+“勿”<やらないでほしいこと>事前に学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
8	第 7 課～第 9 課のまとめと単元テスト	第 7 課～第 9 課で学んだ単語と文法事項を振り返りながら, 単元テストに取り組む。	事前に第 7 課～第 9 課の本文と学習事項を復習し, 事後に単元テストで誤った原因を確認し, 不足している知識を補う。
9	第 10 課 目の前にある<ソレ>をどう処理するか伝える [A]	本文, 単語 1. 目の前の<ソレ>を<こう>いう状態にする>事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
10	第 10 課 目の前にある<ソレ>をどう処理するか伝える [A]	2. 「打開」と「关上」3. “将”を使って目の前の<ソレ>を<こう>いう状態にする>事前に学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
11	第 11 課 目の前にある<ソレ>をどう処理するか伝える [B]	本文, 単語 1. 目の前の<ソレ>を<ここに配置する>事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
12	第 11 課 目の前にある<ソレ>をどう処理するか伝える [B]	2. 目の前の<ソレ>を<ここに到達させる>3. 目の前の<ソレ>を<ここに>入れる>	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
13	第 12 課 目の前にある<ソレ>をどう処理するか伝える [C]	本文, 単語 1. 目の前の<ソレ>を<どう移動させるか>事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
14	第 12 課 目の前にある<ソレ>をどう処理するか伝える [C]	2. 動作行為+方向移動 3. 目の前の<ソレ>を<こう移動させる>構文	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し, 事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
15	第 10 課～第 12 課のまとめと単元テスト	第 10 課～第 12 課で学んだ単語と文法事項を振り返りながら, 単元テストに取り組む。	事前に第 10 課～第 12 課の本文と学習事項を復習し, 事後に単元テストで誤った原因を確認し, 不足している知識を補う。

関連科目	「中国語を話す a」「中国語を聞く b」
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アクション! 開始! 2	鈴木慶夏	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内で実施する小テスト：50% 単元テスト：50%			
学生への メッセージ	この科目を履修するには中国語の学習歴が求められます。具体的には下の「備考」を参照してください。日本語訳や語句・構文を覚えるなど、予習と復習を行ってください。事前・事後に各 60 分の学習を要します。			
担当者の 研究室等	7号館 3階 (中西研究室)			
備考	授業は、1年生の「ビジネス中国語基礎 a c」または「ビジネス中国語基礎 b d」および2年生前期の「中国語を聞く b」を履修しているか、これと同等レベルの中国語能力を備えていることを前提として進める。 授業時間外に質問がある場合は、「連絡手段」の方法で問い合わせること。質問に対してはメールなどの方法で必ずフィードバックを行う。			

科目名	中国語を話す a	科目名 (英文)	Chinese Speaking a
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH2342e1		

授業概要・目的	基礎中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。読む、聴く、書くと言う総合的な学習をバランスよく行います。
到達目標	中国語を使って日常会話ができるレベルを目指します。
授業方法と留意点	中国語を「話す」、「使う」ことを重視する。大体、前の週に新しい文法と語彙を習い、次の週に完全に覚えるように指導する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第1課 再会する	文法 ①反語文の表現 ②積極的な姿勢を示す「来」	事前に、第1課の単語を覚える。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
2	第2課 入学する手続き	文法 ①兼語文 ②介詞「跟～」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
3	第3課 リスニング授業	文法 ①形容詞の重ね型 ②助動詞「会」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
4	第4課 朝市を見物する	文法 ①存現文 (場所詞+動詞+名詞) ②複文「除了A～選B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
5	第5課 動物園	文法 ①様態補語「得」 ②副詞「再」と「又」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
6	第6課 中秋の名月	文法 ①「快要～了」 ②複文「一边A～一边B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	復習課 単元テスト1	・第1課～第6課の復習 ・単元テスト1	第1課～第6課の復習すること。
8	第7課 国慶節	文法 ①複文「因為A～所以B」 ②可能補語	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
9	第8課 京劇を見る	文法 ①「没想到～」 ②動詞「像」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
10	第9課 本を借りる	文法 ①副詞「剛剛」 ②複文「一A～就B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
11	第10課 助け合い	文法 ①動詞「覺得」 ②指示代名詞	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
12	第11課 ホテルを探す	文法 ①量詞「～宿」 ②複合方向補語「～出来」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
13	第12課 端午の節句	文法 ①複文「雖然A～但是B」 ②助詞「什麼的」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
14	第13課 日の出を見る	文法 ①動詞「打算」 ②複文「即使A, 也B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文をじよ繰り返して読むこと
15	復習課 単元テスト2	単元テスト2	事前に、第7課～第13課の復習すること。

関連科目	「中国語を聞く a」
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	We Can 中国語	徐 送迎	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	参加度と課題：50% テスト：50%で評価する			
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 前・事後の学習に1時間ずつ要します。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	中国語を話す b	科目名 (英文)	Chinese Speaking b
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH2343e1		

授業概要・目的	基礎中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。読む、聴く、書くと言う総合的な学習をバランスよく行います。
到達目標	中国語を使って日常会話ができるレベルを目指します。
授業方法と留意点	中国語を「話す」、「使う」ことを重視する。大体、前の週に新しい文法と語彙を習い、次の週に完全に覚えるように指導する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第14課 ボランティア	文法 ①複文「如果A, 就B」 ②助動詞「願意」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
2	第15課 運動会	文法 ①介詞「為了〜」「為〜」 ②助動詞「應該」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
3	第16課 孔子廟を参拝する	文法 ①複文「既是A〜又是B」 ②挿入語「据说〜」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
4	第17課 スピーチコンクール	文法 ①受身文「被〜」 ②接続詞「可是」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
5	第18課 農家を訪問する	文法 ①「把」構文 ②「連A都(也)B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
6	第19課 試験	文法 ①複合方向補語「〜起来」 ②助詞「地」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
7	復習課 単元テスト1	・第14課〜第19課の復習 ・単元テスト1	事前に、第14課〜第19課を復習すること
8	第20課 コートを買う	文法 ①複文「既A、又B」 ②動量補語「一下兒」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
9	第21課 懇親会	文法 ①副詞「早就」 ②介詞「向〜」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
10	第22課道を尋ねる	文法 ①「去〜怎麼走？」 ②介詞「往〜」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
11	第23課 九寨溝	文法 ①「就像〜一樣」 ②助動詞「得」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
12	第24課 兵馬俑	文法 ①動詞「建議」 ②介詞「通過〜」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
13	第25課 仕事を探す	文法 ①指示代名詞「這樣」 ②「不知道〜」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
14	第26課 見送り	文法 ①可能補語 ②「对〜來說」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
15	復習課 単元テスト2	・第20課〜第26課の復習 ・単元テスト2	事前に、第20課〜第26課の復習すること。

関連科目	「中国語を聞く a」
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	We Can 中国語	徐 送迎	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席と課題の提出50% テスト50%で評価する。			
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 前・事後の学習に1時間ずつ要します。			
担当者の 研究室等 備考				

科目名	日本語表現法 I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	A B C D E F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1322a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	教科書・資料の復習 (1 時間)
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	教科書・資料の復習 (1 時間)
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1 時間)
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前・教科書・資料の見直し (1 時間)
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	教科書・資料の復習 (1 時間)
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1 時間)
	7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す (1 時間)
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1 時間)
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1 時間)
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1 時間)
	11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前・教科書・資料の見直し (1 時間)
	12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	教科書・資料の復習 (1 時間)
	13	フィードバック	課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す (1 時間)
	14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する (1 時間)
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	小テストの復習 (1 時間)	

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)、火曜日、金曜日に相談対応可能。
備考	事前事後学習時間の目安は 15 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現法 I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	G H J K L M
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島 誠司
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1322a1		

授業概要・目的
初回は対面授業ができたのですが、コロナ禍の広がりですりリモート授業に変わってしまいました。残念です。しかし、学びの歩みを止めてはいけません。2 回目からはパソコンの画面越しではありますが、リアルに授業を進めていきます。teams という会議システムを使い、時間割通りにやります。1 時限目が始まる午前 9 時 20 分の少し前になったらパソコンの前でスタンバイしてください。コロナなんかには負けず頑張りましょう。

文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。
大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。
考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。

到達目標
大学生、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。

授業方法と留意点
講義に基づいて、練習問題や課題に取り組む。
原則毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
毎回の授業は教科書に沿って講義を進める。

科目学習の効果 (資格)
授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	1 時間
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
4	【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習 事前事後あわせて 1 時間
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す 事前事後あわせて 1 時間
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
10	【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
11	レポートの書き方 1	レポート作成の方法と体裁について学ぶ 【課題 3】レポートの説明	これまでの復習 事前事後あわせて 1 時間
12	フィードバック	課題 2 のフィードバック	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
13	レポートの書き方 2	レポート作成の方法と体裁について学ぶ	課題 2 を見直す 事前事後あわせて 1 時間
14	【課題 3】レポートの提出 小テストの復習テスト	提出レポートのチェック 小テスト全体の講評	小テストの復習 事前事後あわせて 1 時間
15	レポートの講評	【課題 3】レポートについて具体的にフィードバック	課題レポートの復習 事前事後あわせて 1 時間

関連科目
すべての授業の日本語による課題作成

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。
課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。

学生へのメッセージ
コロナ禍はまだまだ終息する気配がありません。希望に胸膨らませて入学してこられた皆さんにとっては戸惑うことが多いと思います。しかしながら、憂いていても事態は好転しません。しっかり学び、将来に備えましょう。我々教員はそんな皆さんを応援します。
日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に

	日本語と向き合ってください。 ※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝る
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階） 学習支援センター
備考	事前事後学習の総時間の目安は 1.5 時間。 課題提出については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現法Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1323a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	レポートの書き方 (2)	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習 (1時間)
3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習 (1時間)
4	ディスカッション準備	配布された資料をまとめる	前回の復習 (1時間)
5	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す (1時間)
6	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	テーマの下調べ (2時間)
7	ディスカッション2	ディスカッションを行う	前回の復習 (1時間)
8	【課題2】報告文	ディスカッションの経過を文書で報告する	これまでの復習 (1時間)
9	資料作成	プレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備 (1時間)
10	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す (1時間)
11	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備 (1時間)
12	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備 (1時間)
13	【課題3】報告文	プレゼンテーションの内容を文書で報告する	報告文の準備 (1時間)
14	手紙の書き方	手紙の基本とマナーを学ぶ	前回の復習 (1時間)
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習 (1時間)

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題3回 (20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)、火曜日、金曜日、相談対応可能。
----------	--------------------------------

備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
----	---

科目名	日本語表現法Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	G H J K L M
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長谷川 雄高
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1323a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらおうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。
科目学習の効果 (資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明	教科書を読み返す (60分)
2	プリント資料の解説と前期の復習 (前半)	前期の内容を復習する	プリント資料を読む (60分)
3	プリント資料の解説と前期の復習 (後半)	課題①のテキスト (プリント資料) の解説を行う	プリント資料を読み、課題①を作成する準備を行う (150分)
4	課題①「論説文」の作成	各人で、ディスカッションの素材となる課題①論説文を作成する	—
5	ディスカッションとは	ディスカッションの技法・類型などについて	ディスカッションの準備を行う (60分)
6	ディスカッションについて	本授業におけるディスカッションのやり方についての説明、グループ分け	ディスカッションの準備を行う (60分)
7	ディスカッション①	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分)
8	ディスカッション②	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分)
9	ディスカッション③	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分)
10	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの技法・類型などについて	プレゼンテーション資料の作成準備を行う (60分)
11	プレゼンテーションについて	本授業におけるプレゼンテーションのやり方や資料作成について	プレゼンテーション資料の作成・推敲やリハーサルを行う (90分)
12	プレゼンテーション①	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分)
13	プレゼンテーション②	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分)
14	プレゼンテーション③	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分)
15	課題③「プレゼンテーション要旨」の作成	各人で発表内容をまとめた文章 (要旨) を作成する	—

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 必須課題を1つでも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	前期の内容に加え、ディスカッションやプレゼンテーションという新たな日本語表現に挑戦してみましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間となる。 提出課題については、授業プリントもしくはTeamsの機能を用いて、フィードバックを行う。 質問等は、メール・Teamsの機能を用いて対応する。			

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小泉 耕蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1347a1		

授業概要・目的
高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。

到達目標
文字式の基本的な演算ができる。
方程式および不等式を解くことができる。
数学的論理に基づいて、数式を立てることができる。
場合の数および確率の考え方を理解できる。

授業方法と留意点
新型コロナウイルスの感染拡大により、Web 授業に切り替える。
理解の促進と達成の度合いをみるため演習問題を課題配布する。

科目学習の効果 (資格)
問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の間 課題レポート
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の間 課題レポート
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の間 課題レポート
4	分数式・無理式 (2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第 2 章の間 課題レポート
5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート
6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート
7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート
8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート
9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の間 課題レポート
10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の間 課題レポート
11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の間 課題レポート
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の間 課題レポート
13	場合の数 (2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第 5 章の間 課題レポート
14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の間 課題レポート
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の間 課題レポート

関連科目
数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室編	学術図書出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
演習・小テスト 40%および期末試験 60%で成績評価を行う。
ただし、新型コロナウイルス拡大により、期末試験はレポート試験とする。

学生へのメッセージ
数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。

担当者の研究室等
3 号館 3 階 (数学準備室)

備考
事前学習は、毎回 30 分以上かけること。
事後学習は、毎回 1 時間以上かけること。
小テスト、演習問題等は採点して返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	③④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 章
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1347a1		

授業概要・目的
 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。

到達目標
 この授業を通じて学生には、
 (1) 式の展開・因数分解ができる。
 (2) 方程式・不等式を解くことができる。
 (3) 場合の数・確率の計算ができる。
 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。

授業方法と留意点
 あらかじめ講義ノートを配布し、予習課題とする。講義では講義ノートの解説と質疑応答を Teams を用いて行う。

科目学習の効果 (資格)
 問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。また、基礎的な計算能力を体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の間
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余、因数の定理	第 1 章の間
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の間
4	分数式・無理式 (2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第 2 章の間
5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の間
6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の間
7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の間
8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の間
9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の間
10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の間
11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の間
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の間
13	場合の数 (2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第 5 章の間
14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の間
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の間

関連科目
 数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
 各講義ノートにレポート問題を記載します。レポート問題を解いて提出していただき、その出来具合や提出回数により評価します。

学生へのメッセージ
 この授業で学んだ数学が社会へ直接役に立つとは断言できませんが、数学を考える過程で得た思考力は、きっと役に立つと思います。なので、積極的に問題に取り組み、また、わからないことがあれば調べる、もしくは質問をすることを望みます。楽しく、数学を学んでいきましょう。

担当者の研究室等
 3 号館 3 階 数学研究室 (学期中に 5 号館 1 階に移転予定)

備考
 講義ノートに一回でもいいので目を通しておくこと。
 講義で扱った計算は確実にできるよう復習すること。
 考えてもわからないことがあれば積極的に質問すること。

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	⑤⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	妻鳥 淳彦
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1347a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な高校 1 年時に学習する内容の数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	(1) 基本的な整式の展開・因数分解ができる。 (2) 問題の条件から 1 次方程式、1 次不等式を立式し、解を求めることができる。 (3) いろいろな場合の数を求めることができ、確率を求めることができる。
授業方法と留意点	オンライン授業の場合 授業時間に Microsoft Teams でリアルタイム授業配信を行います。1 回目の授業と同様に解説は 30 分から 40 分行い、問題演習のプリントを解答し、自己採点した上で当日の課題プリントを解答し、それを写真にとり pdf ファイルに変換して moodle に提出してください。授業時間中は Teams の会議を開き続けてますからリアルタイムでの質問対応をします。 学習の進め方の詳細を記載したファイルを Teams と moodle の両方にアップロードしている(同じファイルです)のでそれを必ず見てください
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則	教科書 p1~3 「1.1 単項式・多項式」を事前に読んでおくこと(0.5 時間) 問題演習プリントに対応する教科書問 1.1, 1.2 を復習すること(0.5 時間)
2	整式の計算(2)	・式の展開	教科書 p3~4 「1.2 式の展開」を事前に読んでおくこと(0.5 時間) 問題演習プリントに対応する教科書問 1.3, 1.5, 1.6 を復習すること(0.5 時間)
3	整式の計算(3)	・因数分解 (公式の利用)	教科書 p5~7 「1.3 因数分解」を事前に読んでおくこと(0.5 時間) 問題演習プリントに対応する教科書第 2 章の問を復習すること(0.5 時間)
4	整式の計算(4)	・整式の割り算 ・因数定理 ・因数定理を利用した因数分解 ・組立除法	教科書 p7~9 「1.4 整式の割り算」を事前に読んでおくこと(0.5 時間) 問題演習プリントに対応する教科書問 1.13, 1.15 を復習すること(0.5 時間)
5	分数式	・分数式の計算 (約分)	教科書 p10~13 「2.1 分数式」を事前に読んでおくこと(0.5 時間) 問題演習プリントに対応する教科書問 2.5, 2.7, 2.8, 2.9 を復習すること(0.5 時間)
6	無理式	・平方根 ・分母の有理化 ・2 重根号	教科書 p13~16 「2.2 無理式」を事前に読んでおくこと(0.5 時間) 問題演習プリントに対応する教科書第 3 章の問を復習すること(0.5 時間)
7	1 次方程式	・方程式の導き方 ・解き方	教科書 p17~18 「3.2 1 次方程式」を事前に読んでおくこと(0.5 時間) 問題演習プリントに対応する教科書の問 3.3~3.8 を復習すること(0.5 時間)
8	1 次不等式	・不等式の導き方 ・解き方	教科書 p19~20 「3.3 1 次不等式」を事前に読んでおくこと(0.5 時間) 問題演習プリントに対応する教科書問 3.10~3.14 を復習すること(0.5 時間)
9	連立 1 次方程式	・連立方程式の導き方 解き方(代入法・加減法)	教科書 p21~23 「4.1 2 元連立 1 次方程式」を事前に読んでおくこと(0.5 時間) 問題演習プリントに対応する教科書の問 4.3~4.7 を復習すること(0.5 時間)
10	場合の数(1)	・数え上げの原則 ・順列 ・円順列、数珠順列	教科書 p25~27 「5.1 数え上げの原則」「5.2 順列・並べ方」を事前に読んでおくこと(0.5 時間) 問題演習プリントに対応する教科書問 5.1~5.9 を復習すること(1 時間)
11	場合の数(2)	・組合せ	教科書 p28~p31 「5.3 組合せ・選び方」を事前に読んでおくこと(0.5 時間) 問題演習プリントに対応する教科書問 5.10~5.17 を復習すること(1 時間)
12	場合の数(3)	・同じものを含む順列 ・重複順列 ・重複組合せ	教科書 p31~p32 「5.4 重複のあるとき」を事前に読んでおくこと(0.5 時間) 問題演習プリントに対応する教科書問 5.18~5.23 を復習すること(1 時間)
13	確率(1)	・確率の計算 ・確率の加法定理	教科書 p33~35 「6.1 確率の定義」「6.2 確率の計算」を事前に読んでおくこと(0.5 時間) 問題演習プリントに対応する教科書の問 6.1~6.5 を復習すること(0.5 時間)
14	確率(2)	・条件つき確率 ・独立試行の確率	教科書 p35~38 「6.3 くりかえす志向の確率」を事前に読んでおくこと(0.5 時間) 問題演習プリントに対応する教科書の問 6.6~6.12

	15	まとめ	1～14 回の内容のまとめ	を復習すること(1時間) 試験勉強として苦手分野の問題演習プリントをやり直すこと (2時間) 第 15 回問題演習, 期末試験過去問を復習すること (3時間)																
関連科目	数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>数学基礎</td> <td>摂南大学数学研究室編</td> <td>学術図書出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	数学基礎	摂南大学数学研究室編	学術図書出版社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	数学基礎	摂南大学数学研究室編	学術図書出版社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<p>前期が残りすべてオンライン授業の場合 毎回の課題による平常点(60%)+試験に相当するまとめ課題(40%)で評価する。 平常点の評価方法は下の「期末試験が対面で実施される場合」の計算方法をすべて2倍としたものとする。</p> <p>期末試験が対面で実施される場合 期末試験(70%) + 平常点(30%)で評価する。 平常点は毎回の授業時の小テストの点数が5点以上の回数による基礎点20点と総合計点数に比例した加算点により30点満点とする。基礎点の満点は12回とし、それ以下は比例した点数とする。小テストの満点は10点以上で作成する。 毎回の授業時に提出する小テストは7割以上の提出を必要とする。</p>																			
学生への メッセージ	<p>数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。 どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。</p>																			
担当者の 研究室等	3号館3階(数学準備室)																			
備考																				

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小泉 耕蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1348a1		

授業概要・目的	この授業では、1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられることを目標とする。
到達目標	関数の変化の様子を数式から理解し図示することができる。 数列の基本的取り扱いができる。 微分および積分の簡単な計算ができる。
授業方法と留意点	授業形態(初回時を含む)として、Teamsにてオンライン授業を行う。 理解の促進と達成の度合いをみるため演習問題を課題配布する。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	座標 ・平面の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き, 切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点, 対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値, 最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数, 接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値, 極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加, 減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値, 最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積, 体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学研究室編	学術図書出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	演習・小テスト 40%および期末試験 60%で成績評価を行う。 期末試験はレポート試験で行う。
学生へのメッセージ	どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	3号館3階(数学準備室)
備考	事前学習は、毎回30分以上かけること。 事後学習は、毎回1時間以上かけること。 小テスト、演習問題等は採点して返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	③④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 章
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1348a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられるようになる。
授業方法と留意点	事前に講義ノートを配布し、講義当日に講義ノートの解説を Teams にて行う。 なお、講義ノートの解説は動画に収め、Teams から閲覧できるようにする。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の間
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の間
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の間
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の間
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の間
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の間
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の間
8	整関数の微分(1)(対面開始)	・変化率 ・微分係数、接線	第9章の間
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	第9章の間
10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の間
11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の間
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の間
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の間
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の間
15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の間

関連科目 数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	講義期間中に配布するレポート課題で評価する。 最低でも7回のレポートを講義期間中に課し、その総合評価で成績を出す。
学生へのメッセージ	この授業で学んだ数学が社会へ直接役に立つとは断言できませんが、数学を考える過程で得た思考力は、きっと役に立つと思います。なので、積極的に問題に取り組み、また、わからないことがあれば調べる、もしくは質問をすることを望みます。楽しく、数学を学んでいきましょう。
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室(学期中に5号館1階に移転予定)
備考	事前事後学習には1時間以上かけること。 授業で扱った計算は確実にできるように復習すること。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名 (英文)	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑤⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	妻鳥 淳彦
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1348a1		

授業概要・目的	この授業では、1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、整関数の微分・積分を学習する。微積分学の基本定理による定積分の計算方法を学び、経済系科目に必要な統計の計算ができるようになることを目的としている。
到達目標	(1) 1次関数、2次関数の挙動を理解し、グラフを描くことができる。 (2) いろいろな数列を項数nの式で表現し、和を求めることができる。 (3) 微分の計算ができ、整関数の極値を求めグラフを描くことができる。 (4) 整関数の定積分の計算ができる。
授業方法と留意点	第8回(11月8日)以降 対面授業に移行する。既に Moodle 及び Teams にアップロード済の教材ファイルをプリントとして配布し、その内容も含めて、空けてある所の説明を板書するので、プリントに書き込み、ノートをとるとする。その次に問題演習のプリントを解き、解答プリントを見て自己採点し、最後にその日の課題プリントを解き、提出する。 第7回(10月25日)まで MicrosoftTeams でのリアルタイム・オンライン授業による板書での内容説明、例題の解法を説明する。これは前期に実施した数学基礎Ⅰと同
科目学習の効果 (資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・平行移動, 対称移動	教科書 p39~42 「7.1 関数」「7.2 グラフ」を事前に読んでおくこと(0.5時間) 問題演習プリントに対応する教科書の間 7.2, 7.5, 7.6を復習すること(0.5時間)
2	1次関数	・グラフの描き方 ・傾き, 切片 ・1次関数の式の求め方 ・2直線の平行, 垂直	教科書 p43~45 「7.3 1次関数」を事前に読んでおくこと(0.5時間) 問題演習プリントに対応する教科書の間 7.7~7.9を復習すること(0.5時間)
3	2次関数(1)	・グラフの描き方 ・頂点, 対称軸 ・標準形の求め方	教科書 p46~48 「7.4 2次関数」を事前に読んでおくこと(0.5時間) 問題演習プリントに対応する教科書の間 7.12, 7.13を復習すること(0.5時間)
4	2次関数(2)	・最大値, 最小値 ・応用例	教科書 p49~50 「最大・最小(1)(2)」を事前に読んでおくこと(0.5時間) 問題演習プリントに対応する教科書の間 7.14, 7.17を復習すること(0.5時間)
5	2次方程式・2次不等式	・2次方程式の解 ・2次方程式の解の公式 ・2次不等式の解	教科書 p50~52 「2次方程式, 2次不等式」を事前に読んでおくこと(0.5時間) 問題演習プリントに対応する教科書の間 7.19, 7.20を復習すること(0.5時間)
6	無理関数, 数列(1)	・逆関数 ・無理関数 ・等差数列の一般項と和の公式	教科書 p53~57 「7.5 無理関数」「8.1 等差数列と等比数列」の等差数列の部分 を事前に読んでおくこと(0.5時間) 問題演習プリントに対応する教科書の間 7.24, 8.2, 8.3を復習すること(1時間)
7	数列(2)	・等比数列の一般項と和の公式	教科書 p58~59 「等比数列」を事前に読んでおくこと(0.5時間) 問題演習プリントに対応する教科書の間 8.6~8.9を復習すること(1時間)
8	数列(3)	・ Σ (シグマ) 記号 ・階差数列 ・部分分数分解による数列の和	教科書 p59~61 「総和の記号 Σ 」「8.3 さまざまな数列の和」を事前に読んでおくこと(0.5時間) 問題演習プリントに対応する教科書の間 8.10~8.13を復習すること(0.5時間)
9	整関数の微分(1)	・微分係数と接線 ・導関数	教科書 p62~65 「9.1 微分係数と接線」「9.2 導関数」を事前に読んでおくこと(0.5時間) 問題演習プリントに対応する教科書の間 9.3を復習すること(0.5時間)
10	整関数の微分(2)	・関数の増加, 減少 ・極大値, 極小値 ・関数のグラフ	教科書 p67~68 「9.3 増減と極値」を事前に読んでおくこと(0.5時間) 問題演習プリントに対応する教科書の間 9.7を復習すること(0.5時間)
11	整関数の微分(3)	・最大値, 最小値 ・方程式の解の個数 ・不等式の証明	教科書 p69~70 「9.4 微分的应用」を事前に読んでおくこと(0.5時間) 問題演習プリントに対応する教科書の間 9.9を復習すること(0.5時間)
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	教科書 p71 「10.1 不定積分」を事前に読んでおくこと(0.5時間) 問題演習プリントに対応する教科書の間 10.1を復習すること(0.1時間)
13	積分(2)	・定積分 ・微積分の基本定理 ・定積分の計算	教科書 p72~77 「10.2 定積分」「10.3 定積分の計算」を事前に読んでおくこと(0.5時間) 問題演習プリントに対応する教科書の間 10.3を復習すること(0.5時間)

	14	積分(3)	<ul style="list-style-type: none"> 絶対値の関数の定積分 偶関数と奇関数 面積, 体積 	教科書 p78~81 「10.4 面積・体積」を事前に読んでおくこと(0.5時間) 問題演習プリントに対応する教科書問 10.4~10.6を復習すること(1時間)
	15	まとめ	まとめ	試験勉強として自分の苦手な過去の問題演習を見直すこと(2時間) 問題演習 15 と期末試験の過去問を復習すること(3時間)
関連科目	数学基礎 I、統計学、経営数学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学研究室編	学術図書出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>期末試験(70%)+毎回の課題による評価(30%)で評価する。 対面授業での課題の評価方法も、オンライン授業時の方法(以下の内容)と同じとする。</p> <p>毎回の課題による評価は満点を必要とするわけではなく、5割程度あれば評価点は満点となるように算出する。 ただし、オンラインのためできる限りすべての課題を提出すること。 提出期限を過ぎていても解答ファイルのアップロード前は通常の評価点とし、アップロード後は5割を最高点として評価する。 まとめ課題は期末試験に準じる物なので必ず期限内に提出すること。毎回の課題と異なり厳密に評価する。</p>			
学生への メッセージ	どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。			
担当者の 研究室等	本来5号館1階(数学準備室)ですがオンライン授業のため学内にはいません。			
備考	ですから授業時間中はMicrosoftTeamsで、授業時間外はOffice365でのOutlookメールで連絡してください。			

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH1357a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本科目は「遠隔授業」として授業を行う。使用する ICT ツールは「Microsoft teams」とする。 なお、対面が可能になった場合は、対面授業を行う。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する (30 分)	事後：本実習の理解を深める (30 分)
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30 分)	事後：自身の体力についての振り返り (30 分)
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30 分)	事後：自身の体力についての振り返り (30 分)
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30 分)	事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30 分)
5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30 分)	事後：内容の振り返り (30 分)
6	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30 分)	事後：内容の振り返り (30 分)
7	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30 分)	事後：内容の振り返り (30 分)
8	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30 分)	事後：内容の振り返り (30 分)
9	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30 分)	事後：内容の振り返り (30 分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分)	事後：内容の振り返り (30 分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分)	事後：内容の振り返り (30 分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分)	事後：内容の振り返り (30 分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分)	事後：内容の振り返り (30 分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分)	事後：内容の振り返り (30 分)
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分)	事後：全授業の総括 (30 分)

関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実践と理論、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	対面授業：活動点 50%、技能点 25%、態度点 25% 遠隔授業：活動点 40%、実技課題点 30%、講義課題点 30% ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。遠隔授業の評価は、やむを得ず遠隔授業に切り替えた場合に適応する。
-----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。 1 回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、1 回目の授業に必ず出席してください。
-----------	--

担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
----------	-----------------

備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)
----	--------------------------------

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH1358a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	摂南大学の「新型コロナウイルス感染症への対応」に基づき、Microsoft Teamsを用い、「遠隔授業 (オンデマンド形式)」により行います。初回の授業は、ガイダンスも含めた資料をTeamsに提示します。 今後、新型コロナウイルスの感染状況の変化に伴い摂南大学の授業運営方針が変更された場合は、この科目の授業形態も対面授業に変更する可能性があります。その際は、変更日や内容を事前にお知らせします。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
4	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
5	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
6	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
7	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
15	・ゲーム ・2年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25% 遠隔授業：活動点40%、実技課題点30%、講義課題点30% ※ なお活動点は授業への参加意欲とする。態度点は積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。遠隔授業の評価は、やむを得ず遠隔授業に切り替えた場合に適応する。
-----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。
-----------	--

	1回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、1回目の授業に必ず出席してください。
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	生涯スポーツ実習	科目名 (英文)	Lifetime Sports
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH1359a1		

授業概要・目的	スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本科目は「遠隔授業」として授業を行う。使用する ICT ツールは「Microsoft teams」とする。 なお、対面が可能になった場合は、対面授業を行う。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
4	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
5	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実践と理論、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実践、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実践
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25% 遠隔授業：活動点40%、実技課題点30%、講義課題点30% ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。遠隔授業の評価は、やむを得ず遠隔授業に切り替えた場合に適応する。
-----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。 1回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、1回目の授業に必ず出席してください。
-----------	--

担当者の研究室等	総合体育館1F 体育館事務室
----------	----------------

備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと。
----	---------------------------

科目名	保健論	科目名 (英文)	Theory of Health
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 直生
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH2329a1		

授業概要・目的	健康に関して知識理解を深め、正しい情報を選択し実践することが重要である。 そのため本講義では、受講者が生涯にわたって自らの健康の維持増進を実行するための知識を学ぶ。
到達目標	①健康問題について理解することができる。 ②正しい情報を選択し、自身の健康に対する考えを持つことができる。 ③健康づくりのための知識を習得し、実践することができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
科目学習の効果 (資格)	健康維持・増進に関する知識が身につく、受講者自身の健康管理ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	課題・評価について	なし
2	健康とは	健康の定義 平均寿命・健康寿命	健康の定義について復習すること (1時間)
3	身体のしくみ	骨格筋・脳・神経系などの構造や機能について	骨格筋・脳・神経系などの構造や機能についての復習をしておくこと (1時間)
4	生活習慣病①	メタボリックシンドローム 生活習慣病、内臓脂肪、診断基準	メタボリックシンドロームの診断基準について復習すること (1時間)
5	生活習慣病②	高血圧症、糖尿病、脂質異常症、コレステロール、心疾患、脳卒中	高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの疾患について復習すること (1時間)
6	健康と食事	健康な食生活の形成 朝食の必要性	適切な食事について復習すること (1時間)
7	睡眠と健康	レム睡眠・ノンレム睡眠 睡眠負債と睡眠障害	健康づくりのための睡眠について、復習すること (1時間)
8	健康づくりのための運動基準	身体活動量 メッツ 健康日本 21	健康づくりのための運動基準について復習すること (1時間)
9	自身の健康チェック	除脂肪体重 体脂肪 BMI	自身の身長・体重を測定してくること (1時間)
10	計画的なスポーツ実践	運動・スポーツ トレーニングの原理・原則 休養の必要性	トレーニング方法について復習すること (1時間)
11	健康とスポーツ①	全身持久力を高めるための運動処方と実践方法の理解	全身持久力を高めるための運動処方と実践方法を復習すること (1時間)
12	健康とスポーツ②	筋力・筋持久力を高めるための運動処方と実践方法の理解	筋力・筋持久力を高めるための運動処方と実践方法を理解すること (1時間)
13	健康増進計画作成	受講者自身の運動維持・増進のための運動計画を、今までの知識を活用して作成する	運動計画を実際に実施すること (1時間)
14	健康増進計画の実施 保健論まとめ	健康増進計画の実施状況についての確認、 1回から 10 回までの授業内容の復習	1 回から 10 回までの授業内容を復習してくること (1時間)
15	保健論まとめ 確認テスト	11 回から 13 回までの授業内容の復習	これまでの授業の復習をすること (1時間)

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 50%、レポート 30%、授業態度 (質問に対する返答、積極性など) 20%の割合で総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	質問等がある場合は、事前にアポイントメントをとり、研究室あるいは総合体育館事務室に来ること
-----------	---

担当者の研究室等	総合体育館 1 階 非常勤講師室
----------	------------------

備考	初めのガイダンスには必ず出席のこと。 欠席を 5 回以上した際の単位取得は認めない。 事前事後学習の総時間の目安は 30 時間。
----	--

科目名	心理学 I	科目名 (英文)	Psychology I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 萍萍
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1301a1		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 心理学は、人間の行動を予測することを究極的な目標としている。本授業は、これまでに得られた心理学的知見を学ぶことで、自己と他者、そして自分の周囲を取り巻く社会を科学的な視点から見直すことを目指している。これにより、学生の友人や教員との関係の変化に柔軟に対応できるような人間力を得て、他者と接する上での心のあり方やマナーなどの態度について改善されることも期待している。</p> <p>【授業目的】 本講義の目的は下記の3つである。 1) 心理学という学問に対する初歩的な理解ができるようにする。 2) 情報を捉えるメカニズムを理解できるようにする。 3) 自己を探究するための手がかりをつかめるようにする。</p>
到達目標	<p>本講義の具体的な到達目標として以下の3点を挙げる。 1) 「学問としての心理学」に触れ、通俗的な心理学への誤解を解く。 2) 心理学のいくつかの理論について説明が出来る。 3) 現実場面の現象を見て、心理学の理論で解釈が出来る。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ Teams と Moodle を用いた遠隔授業を行う。 ・ 受講生は、必ず毎週各自 PC やスマホなどを利用して、teams や Moodle にアクセスすること。
科目学習の効果 (資格)	講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。
2	心理学概論	心理学の歴史、発展、学派、研究対象、研究分野、研究方法等について概説します。	心理学に対するこれまでのイメージと比較しながら、新たに認識した心理学を考えましょう。教科書第 10 章を予習してください。
3	心と脳	心と脳、脳と行動、脳の特徴・構造、部位の損傷と症状、脳波と自律系反応、睡眠と夢、記憶と脳、発達と脳について解説します。	脳に関する写真・ビデオなどを図書館などで見つけ、授業内容を映像で理解してください。3D Brain というアプリをダウンロードして、脳の各構造と機能を学習してください。
4	感覚と知覚(1)	感覚(視覚・聴覚・味覚・嗅覚・皮膚感覚)の種類と特性、感覚の役割・相互作用・基本特性について解説します。	教科書の第 5 章を事前に予習してください。
5	感覚と知覚(2)	知覚の体系化、知覚の恒常性、距離・奥行き、動きの知覚、動きの知覚、知覚から認知へについて解説します。	教科書の第 5 章を事前に予習してください。「錯覚」の例を調べてきて A4 1 枚のレポートにまとめましょう。
6	学習	学習とは、学習の方法、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、二つの条件付けの違いについて解説します。	教科書第 4 章の前半を事前に予習してください。例を挙げながら、二つの条件付けの違いについてレポートにまとめましょう。
7	記憶	記憶の過程、短期記憶、長期記憶、系列位置効果、忘却のメカニズムについて解説します。	教科書第 4 章の後半を事前に予習してください。
8	思考と言語	演繹推論と帰納推論、問題解決、概念とカテゴリ化について解説します。	教科書第 6 章を事前に予習してください。
9	動機づけと情動	動機付けの分類、達成と自己実現の動機づけ、フラストレーションと葛藤、情動の種類、情動の認知評価説について解説します。	教科書第 7 章を事前に予習してください。
10	パーソナリティ	精神分析学とパーソナリティ、外見とパーソナリティ、類型論、特性論、血液型とパーソナリティについて解説します。	教科書第 8 章を事前に予習してください。事前に自身のパーソナリティがどのようなものであるかについて、すぐ答えられるようになっておいてください。
11	発達	意識と行動、遺伝と環境、行動発達を規定する要因、発達の变化、発達障害について解説します。	教科書の第 2 章と第 3 章を事前に予習してください。
12	社会的認知	自己の認知(自我と自己、自己評価)、印象形成、帰属過程、クレーの共変動モデルについて解説します。	教科書第 9 章前半を事前に予習してください。
13	対人魅力と対人関係	対人魅力の規定要因について解説します。	教科書第 9 章 9.5 を事前に予習してください。
14	社会的影響と集団	社会的促進、社会的手抜き、同調、少数派集団の影響、集団意思決定について解説します。	教科書第 9 章 9.3 と 9.4 と 9.6 を事前に予習してください。これまでの授業テーマを見直し、最も興味のあるもの、そしてそれに関わる現象について考えてみてください。
15	まとめ	授業全体のまとめ	授業後、教科書およびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>心理学 [第 5 版補訂版]</td> <td>鹿取廣人など</td> <td>東京大学出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	心理学 [第 5 版補訂版]	鹿取廣人など	東京大学出版	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	心理学 [第 5 版補訂版]	鹿取廣人など	東京大学出版													
	2																
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	心理学	無藤隆など	有斐閣
	2	心理学概論	岡市廣成・鈴木直人（編）	ナカニシヤ出版
	3			
評価方法 （基準）	【授業内小テスト】50% 【授業内課題】30% 【教科書などを用いた課題（小レポート）】20%			
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めてください。			
担当者の 研究室等	11号館6階 経営学部事務室			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけるようにしてください。 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間かけるようにしてください。 遅刻、講義中の無断退出は他の受講者の迷惑にもなりますので厳に謹んでください。 新型コロナウイルス感染拡大の対策として、私語が禁止です。			

科目名	心理学Ⅱ	科目名(英文)	Psychology II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 萍萍
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1302a1		

授業概要・目的	心理学は、人間の社会行動に関する原理の追求を目的とする科学である。本講義では、心理学全般について、身近なエピソードを手がかりに様々な角度からの理論説明や実験などの紹介を行い、心理学が基礎から応用に至るまで幅広く展開し、日常生活ともリンクしていることを講義する。
到達目標	(1) 心理学の専門的基礎知識について説明できる。 (2) 心理学の実証研究について詳細に学ぶことによって、論理的な思考方法や分析手法が身につく。 (3) 心理学の基本的な考え方や知識について学ぶことによって、自分自身や周囲の人々の心の働きや行動について「考える」力が身につく。
授業方法と留意点	Teams と Moodle を用いた遠隔授業を行う。 受講生は、必ず毎週各自 PC やスマホなどを利用して、Teams や Moodle にアクセスすること。 ※初回授業(9月16日)は Teams でリアルタイムで実施する。 ※心理学的知見を実際に体感するため、心理学のアンケート調査なども行う予定にしているため、積極的に参加すること。
科目学習の効果(資格)	講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。
2	社会心理学とは	社会心理学の課題と研究視点、研究方法、理論について解説します。	予習：教科書の序章を読んでおく 復習：配布資料の内容を確認し、社会心理学の研究視点と研究方法を理解した上で、以降の授業に紹介される心理学実験や事例を分析・説明できるようにする
3	印象形成	対人認知の心的過程(印象形成の理論、印象形成の手がかり、対人記憶など)について解説します。	予習：教科書第1部第1章を読んでおく
4	対人認知における歪み	対人認知における歪み(期待効果、擦ステレオタイプ、暗黙の人格理論)について解説します。	予習：教科書第1部第1章を読んでおく 授業中、差別に関する動画を視聴してもらい、感想を書いてもらう。
5	社会的推論	社会的推論(ヒューリスティック、帰属、推論のエラーとバイアス)について解説します。	予習：教科書第1部第2章を読んでおく 授業中、ヒューリスティックに関するテストを実施する。
6	態度	態度(認知的不協和理論、態度と行動)について解説します。	予習：教科書第1部第3章を読んでおく
7	説得的コミュニケーション	説得的コミュニケーション(メッセージの要因、送り手の要因、状況要因、受け手の要因)について解説します。 対面授業に切り替えた。	予習：教科書第1部第3章3.4を読んでおく
8	感情	感情(感情の分類、感情生起に関する理論、気分一致効果)について解説します。	予習：教科書第1部第4章を読んでおく
9	感情表出	基本感情説、微表情、表示規則、表情に関する文化比較について説明します。	授業内で、「嘘の見抜き方」の動画を視聴してもらい、内容をまとめてもらう。
10	自己評価	自尊感情、自己呈示、自己評価維持モデルについて解説します。	予習：教科書第2部第6章と7章を読んでおく
11	対人行動	対人行動(自己意識、自己開示、援助行動、社会的排斥)について解説します。	予習：教科書第3部第8章を読んでおく
12	人間関係	人間関係(関係の成立・発展・維持と崩壊、人間関係の諸相)について解説します。	予習：教科書第3部第9章を読んでおく
13	集団と個人	内集団・外集団、集団意思決定、リーダーシップ、社会的ジレンマ、最小集団条件について解説します。	予習：教科書第3部第10章を読んでおく
14	文化と人間(1)	集団主義・個人主義、文化的自己観、文化心理学の視点、価値観調査について解説します。	予習：教科書第3部第12章を読んでおく
15	文化と人間(2)	認知プロセスに関する文化比較について解説する。	予習：教科書第3部第12章を読んでおく

関連科目 「心理と社会」も併せて履修することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	グラフィック社会心理学第2版	池上知子・遠藤由美	サイエンス社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 【授業内テスト】40%

(基準)	<p>【授業内課題】30%</p> <p>【レポート】30%</p> <p>※授業内テスト、授業内課題、レポートの得点を総合し、到達目標の理解度によって合否を判定する。</p>
学生へのメッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めて下さい。
担当者の研究室等	11号館6階 経営学部事務室
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけるようにしてください。

科目名	哲学 I	科目名 (英文)	Philosophy I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1303a1		

授業概要・目的	<p>「哲学」と聞くと、皆さんはどんなことを思い浮かべるでしょうか。「難しそうだな」と思うでしょうか。それとも「面白そう」とか、「深い話が聞けるかもしれない」と思う人もいるでしょうか。</p> <p>辞書で「哲学」と調べると、たいてい、次の二つの意味が載っています。</p> <p>一つ目は「自分自身の経験などから作り上げた人生観・世界観」というものです。このような意味での「哲学」は、「人生哲学」といったほうが正確かもしれません。何かの分野で成功した人や、興味深い人生観を持つ人が、このような意味での「哲学」について講演したり、本を出版することがあります。このような「哲学」を、この授業に期待してくれている人もいないかもしれません。</p> <p>もう一つの意味は「世界や人間の究極の根本原理を理性的に追求する学問」というものです。これはたとえば、「タレス」という哲学者は、世界の「根本原理」を「水」と考えたとか、「プラトン」という哲学者にとっては、「根本原理」は「善のイデア」である、とか、そのような仕方でも説明されることがあります。こちらの「哲学」は、もしかすると、私たちの日常生活からかけ離れた、空想めいた話のように聞こえてしまうこともあるかもしれません。「タレス」という人が、根本原理は「水」だと言ったからといって、それと自分の人生に一体何の関係があるのだ、私たちがそのことを学ぶメリットが一体どこにあるのか、と疑問に思う人もいないかもしれません。</p> <p>今挙げた「哲学」の様々な特徴——難しそうだとか、でも何か深いことを言っているのではないかとか、人生の大事な指針になるのではないかとか、いや、単に空想めいた、日常生活からかけ離れたことにすぎないのではないかと、ということ——は、おそらく、すべて当たっているところがあると思います。その中で、私としては、できるだけ哲学の「日常生活からかけ離れた」要素は少なくして、皆さんの人生に深くかかわる可能性のある部分を集中的に扱いたいと思います。</p> <p>歴史上、現代まで伝えられてきた哲学者がいます。その人たちは、死後何百年、人によっては何千年も経っているのに、まだ忘れ去られることなく、「その人の考えは今生きている私たちの参考になる」と、ずっと思われ続けてきた人たちです。どこかの時代の人が「もうこの人は何の参考にもならない」と思ったとしたら、現代にまで伝わっていないかもしれません。</p> <p>この授業では、このような人々の何人かを選んで、その人たちが言っていることなかで、現代を生きる私たちの参考になりそうなことを、皆さんと一緒に探っていきたいと思えます。このような人たちの哲学は、世界の根本原理の説明から、人生どのように生きるべきか、他者や自己とどのように付き合うべきか等、様々な要素を含んでおり、しかもそれらが密接に繋がって、一つの大きな、言わば「世界の見方」を作っています。皆さんは、その中で「これはなかなかいいな」とか「これはどうだろうか」と、自由な感性で考えてほしいと思います。ただし、その際に、「なぜ自分はそう思ったのだろうか」とさらに踏み込んで考えてもらおうと、これらの人々のことも、自分自身のことも、さらに深く理解できるようにするのではないのでしょうか。</p> <p>授業では、西洋哲学史上の著名な哲学者を十数名扱う予定です。しかし、一部変更がある可能性がありますので、その際はご承知願いたいと思います。</p> <p>※本講義は、大学の教養教育の理念における「人間の根源的な問いから、その内面を見つめる思考の幅を広げる」こと、また「人間をとりまく多様な世界を知ることを通じて、自己を確立できる人間の育成」の一環に位置付けられます。(大学の教養教育の理念については http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/kyouyou/about.html を参照してください)。</p>
---------	--

到達目標	<p>授業で扱う西洋哲学史上の人物について、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 彼らの置かれた時代的背景 ② 彼らの考えの要点 ③ 後の時代に与えた影響 <p>の3点を理解すること。</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>Teams を使用して、講義原稿と課題読書を配布します (毎回、ある程度の読書量があります)。授業ごとに Google Form を利用して、それらのテキストに関する小問題に答えてもらいます。</p> <p>※ コロナウイルスの影響で対面授業が不可能な場合は、対面授業が行われるべき日時に、Teams を利用しリアルタイムで授業を行います。また、その際の動画と音声録画し、Teams 経由でオンデマンドでも配信します。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	西洋哲学上の思想的変遷を追うことで、その延長上にわれわれが生きる現代の思想的状況があることを実感することができる。
--------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・授業全体の概要 ・哲学を定義することはできるか 	予習：なし 復習：なし
2	古代ギリシアの哲学 (1)	ソクラテス以前、ソクラテス	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料 (プラトン『ソクラテスの弁明』からの抜粋等) について的小問題に答えること (予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています)
3	古代ギリシアの哲学 (2)	プラトン	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料 (プラトン『国家』からの抜粋等) について的小問題に答えること (予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています)
4	古代ギリシアの哲学 (3)	アリストテレス	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料 (アリストテレス『形而上学』からの抜粋等) について的小問題に答えること (予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています)
5	古代ギリシア・ローマの哲学	ストア派	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料 (セネカ『生の短さについて』からの抜粋等) について的小問題に答えること (予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています)
6	中世の哲学 (1)	ユダヤ教とイエス	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料 (『旧約聖書』『新約聖書』からの抜粋等) について的小問題に答えること (予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています)
7	中世の哲学 (2)	アウグスティヌス	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料 (『新約聖書』『使徒言行録』、アウグスティヌス『告白』からの抜粋等) について的小問題に答えること (予習と復習合わせて、2 時間程度)

				度の作業時間を想定しています)
8	中世の哲学 (3)	トマス・アキナス		予習: 配布資料を読み、授業に持参すること 復習: 配布資料 (トマス『神学大全』からの抜粋等) についての小問題に答えること (予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています)
9	ルネサンス期の哲学	・ガリレオ・ガリレイ ・ルター ・ベーコン		予習: 配布資料を読み、授業に持参すること 復習: 配布資料 (ガリレオ『クリスティーナ大公妃への手紙』からの抜粋等) についての小問題に答えること (予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています)
10	近代の哲学 (1)	・デカルト ・ヒューム		予習: 配布資料を読み、授業に持参すること 復習: 配布資料 (デカルト『方法序説』からの抜粋等) についての小問題に答えること (予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています)
11	近代の哲学 (2)	カント		予習: 配布資料を読み、授業に持参すること 復習: 配布資料 (カント『道徳形而上学の基礎付け』『純粹理性批判』からの抜粋等) についての小問題に答えること (予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています)
12	近現代の哲学 (1)	進歩主義		予習: 配布資料を読み、授業に持参すること 復習: 配布資料 (ダーウィン『種の起源』序文原文、ヘーゲル『精神現象学』、マルクス・エンゲルス『共産党宣言』からの抜粋等) についての小問題に答えること (予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています)
13	近現代の哲学 (2)	実存主義		予習: 配布資料を読み、授業に持参すること 復習: 配布資料 (ニーチェ『力への意志』、ハイデガー『存在と時間』からの抜粋等) についての小問題に答えること (予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています)
14	現代の哲学 (1)	・構造主義 ・ポストモダンの思想		予習: 配布資料を読み、授業に持参すること 復習: 配布資料 (レヴィ=ストロース、リオタール、ドゥルーズからの抜粋等) についての小問題に答えること (予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています)
15	現代の哲学 (2)	・現代社会に関する思想 ・IT、BT 革命 ・ポストモダンか、モダンの継続か		予習: 配布資料を読み、授業に持参すること 復習: 配布資料 (ピーター・バーガー、マクルーハン、ボードリヤールからの抜粋等) についての小問題に答えること (予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A New History of Western Philosophy	Anthony Kenny	Oxford University Press
	2			
	3			

評価方法 (基準) Google Form によって提出してもらった各授業回の課題×14 回分 (第 2 回-第 15 回分) で評価します。

学生へのメッセージ 毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があるので、頑張ってついてきてください。

担当者の研究室等 非常勤講師室

備考

科目名	哲学Ⅱ	科目名 (英文)	Philosophy II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	濱 良祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1304a1		

授業概要・目的	<p>「哲学」と聞くとひどく難しい学問であると感じられるかもしれないし、ひとによっては役に立たない、自分には関係ない、と思うかもしれない。しかし、私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」、「他者とは何か」、「幸せとは何か」など、人間存在・人間関係に根本的に関わる難問に出会うことになる。</p> <p>この授業は、そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。そのためにこの授業では西洋哲学の諸思想を通して人間存在や社会に関わる諸問題に取り組み、さらに現代という時代を生きる私たち自身のあり方について考察していく。</p>
到達目標	<p>(1) 哲学に関する基礎的な知識を習得すること。</p> <p>(2) 人間存在や社会の問題に対する哲学的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。</p> <p>(3) 自らの思考を適切に伝えるための論理的表現力を高めること。</p>
授業方法と留意点	<p>講義形式 授業時に講義内容に関するプリントを配布する。参考文献は必要に応じて授業中に適宜紹介する。</p> <p>受講者には、授業で紹介される哲学思想を単に学習するだけでなく、それらについて自らで思考し、批判的に吟味するように求めたい。</p> <p>前の回までの内容をふまえて講義することになるので、各授業後にしっかりと復習を行い、ノートや資料の整理をしておくこと。病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、目を通しておくこと。</p> <p>授業期間中に授業の理解度を試す小レポートを数回実施する。</p>

科目学習の効果 (資格)	現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身につけることができる。
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーションとイントロダクション	授業の進め方、目的について説明する。「哲学」することの意義について考察する。	〈復習〉ノート・資料の整理。
	2	「知」の可能性—哲学の端緒 (1)	古代ギリシアの思想を通して「知」の可能性について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	3	「知」の探求—哲学の端緒 (2)	ソクラテスの思想を通して「知」の探求の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	4	近代科学の方法と哲学 (1)	西洋近代における自然観・人間観の変化と、それに基づく近代科学の発生などについて考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	5	近代科学の方法と哲学 (2)	近代科学の方法論とその限界を、哲学的視点から考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	6	近代的自我の確立—デカルト (1)	デカルトの思想を紹介し、近代的自我の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	7	合理主義の世界観—デカルト (2)	デカルトの思想から、哲学における「神」と「世界」の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。 ※この回以降、対面授業に移行。
	8	経験主義の認識論 (1)	ロックの思想から、確実な「知識」と蓋然的な「信念」の違いについて考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	9	経験主義の認識論 (2)	ヒュームの認識論を取り上げ、人間はなぜ不確実なものを確実だと信じるのか、という問題について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	10	啓蒙と理性	啓蒙主義における人間の理性への確信と、その限界について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	11	経験主義と合理主義の総合—カント (1)	カントの認識論の基本的前提について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	12	対象の構成—カント (2)	カントの認識論における構成のしくみについて考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	13	真理の内在主義—カント (3)	カントのコペルニクスの転回の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	14	理性の二律背反—カント (4)	カント哲学における自然と自由の二元論と、それに基づく人間観について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	15	総括と展望	これまでの学習内容を概観し、その成果を確認すると同時に残された課題についての展望を示唆する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。

関連科目	哲学Ⅰ、社会学、経済倫理、社会と人権
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での小レポート等を40%、期末レポートを60%として、総合的に評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	提出物についての全体的な講評は授業内で行う。具体的な評価に関する問い合わせ、質問等には学内メールで対応することができる。 授業外学習の目安は、予習復習を合わせて毎回1時間程度とする。

科目名	日本の歴史	科目名 (英文)	History of Japan
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曾我部 愛
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1306a1		

授業概要・目的	日本史学を含む歴史学は、過去のさまざまな歴史的事象が、いかなる原因によって起こり、先人達がそれにどのように対応をしたかを学び取り、そこから現代社会に起こっている多様な問題を解決するための糸口を考える学問である。 本授業は、上記の前提にもとづき、日本の歴史の基本的な流れを理解することを目的とする。 具体的には原始・古代から現代まで、毎回テーマを絞り込み、随時配布する資料レジュメをもとに講義を行う。 その際、高校の教科書などで通説として理解されている事柄について、歴史学研究の最新の成果を紹介する。
到達目標	歴史を学ぶにあたっては、歴史的事象を、主観的・恣意的ではなく、客観的に捉える視角が必要である。 したがって、本授業を通じて日本の歴史に関する最低限の知識を得たうえで、歴史に対する関心・客観的な考え方、そこから現代社会全体を見通す視角を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	教材を配布し、その都度到達度を確認する(数回程度の課題提出を求める)。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義の進め方、評価方法について説明する。 あわせて歴史学を学ぶ意義や、日本史学という学問の特質を提示する。	シラバスを一読しておくこと。
2	原始・古代(1):先史・原史時代から歴史時代へ	日本列島への人類の渡来と定住から、弥生時代から古墳時代を経て、ヤマト王権の誕生までの流れを、近年の研究成果をふまえて概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「継体天皇」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
3	原始・古代(2):古代国家の成立と律令制の展開	朝鮮半島や隋との国際交流に注目しながら、日本における律令国家の成立と展開について説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「難波宮・藤原京」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
4	原始・古代(3):摂関政治から院政へ	平安時代に始まる政治制度である摂関政治と院政について概観する。また浄土信仰の興隆など文化的側面にも注目する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「平安仏教」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
5	中世(1):武家政権の成立と展開	平氏政権・鎌倉幕府という武家政権の歴史的特質について説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「源平合戦」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
6	中世(2):モンゴル戦争から南北朝内乱へ	初めての大規模な対外戦争であるモンゴル戦争から、いかなる過程を経て幕府滅亡に至るのかを説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「建武親政」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
7	中世(3):室町幕府の成立と展開	室町幕府の成立から応仁の乱までの推移と、室町文化の広がりについて概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「一揆」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
8	中世(4):戦国の争乱と天下人の登場	戦国時代の始まりから織田信長・豊臣秀吉による天下統一までの動向について説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「一揆」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
9	近世(1):江戸幕府の開創と幕藩体制の展開	その後約250年続く江戸幕府の支配体制の成立と対外政策について考える。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「島原・天草一揆」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
10	近世(2):江戸幕府の動揺と開国	様々な改革にもかかわらず動揺する幕藩体制と、欧米列強の脅威にさらされた幕末日本の情勢について説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「大塩平八郎の乱」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
11	近世(3):幕末の動乱と江戸	攘夷の高まりと倒幕への動き、そして戊	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当す

		幕府の終焉	辰戦争への流れを概観する。	る記述・コラム、とくに「戊辰戦争」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	12	近・現代 (1)：明治政府の成立と近代国家への歩み	幕末の内乱を経て成立した明治政府が、どのような過程を経て近代国家への道のを歩んだのか考える。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「文明開化」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	13	近・現代 (2)：対外戦争と近代国家日本	日清・日露戦争を経て本格的に近代国家へ歩み始めた日本が直面した様々な問題について説明する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「関東大震災」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	14	近・現代 (3) 第二次世界大戦と日本の行方	欧米列強と比肩した日本が、アジアへの進出を果たそうとして起こった諸外国との戦争と、その?末について考える。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「アジア・太平洋戦争」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	15	近・現代 (4)：戦後日本と現代社会	敗戦後の日本の復興と、現代社会へと続く諸問題について考える。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「高度経済成長」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業後の提出物（コメントペーパー・課題等）20% 期末レポート 80%			
学生への メッセージ	積極的に日本史を学ぶ意欲を持つ学生の受講を期待します。 授業内の飲食、私語、携帯電話およびスマートフォン・音楽プレーヤー等の使用は厳禁。 その他、他の受講生に迷惑をかける行為を禁止する。これを守れない場合は、受講を認めない場合がある。			
担当者の 研究室等				
備考	課題・提出物等のフィードバックは授業内に行う。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	世界の歴史	科目名 (英文)	History of the World
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1307a1		

授業概要・目的	「都市」と聞いて私たちが思い浮かべるのは、経済・産業の中心であり、自由な活動の場といったイメージではなかろうか。経済と自由、この2つの特徴の歴史的ルーツをたどっていけば、ヨーロッパ中世都市に行き着く。高校世界史において、商業の復活がヨーロッパ中世都市を生み出し、市民の自治がこれを発展させたと教わった人も少なくないだろう。中国を代表として他の地域の都市の歴史もあわせてみることで、このような通説を疑い考えなおす。そのようにして、都市を窓に歴史を展望する。以上が本講義の目的である。支配と消費の中心ではなく、周辺の自然環境や地域社会と共存できる都市のあり方など、現代的な問題を解決するためのヒントも探りたい。
到達目標	学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。
科目学習の効果 (資格)	商業や市民に限られない、中世都市の多様なあり方とダイナミズムを中心として、経営を学ぶための基礎体力となる幅広い教養と具体的思考の習慣を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	歴史を学ぶにあたって (1)	授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す	必ず出席するよう予定を調整する。
2	歴史を学ぶにあたって (2)	成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	歴史を学ぶにあたって (3)	論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	都市を窓に世界史をみる (1)	視点をしぼる必要性、人間社会の焦点、魅力と危険が背中合わせ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	都市を窓に世界史をみる (2)	都市は文明とともにあった、世界史的な共通性、歴史の大きな流れがみえる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	都市を窓に世界史をみる (3)	都市とは壁で囲まれているもの、西洋でも中東でも中国でも、世界史からみえてくる日本史の個性	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
7	中国都市 (1)	「止まっている」「同じことのくり返し」という偏見、都市ができて国家ができる	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	中国都市 (2)	1000年前の大転換、防衛から経済へ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
9	中国都市 (3)	近現代を先取りしたウオーターフロント型の都市、世界の先端を行った貨幣経済の発展	同上の課題に加えて小レポート。
10	中国都市 (4)	近現代を先取りした都市的生活、流通の発展と試験・芸能・ファーストフード	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	中国都市 (5)	近現代を先取りした都市的生活、流通の発展と試験・芸能・ファーストフード	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	ヨーロッパ都市	アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さかった、農業中心の経済、「肉食＝豊か」ではない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	ヨーロッパ都市	政治の分裂と自治の発展、宗教と経済の結びつき	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	ヨーロッパ都市	巨大化したのは200年前、「産業革命」は何が「革命」なのか	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	ヨーロッパ都市	小さな都市への回帰、歴史に学ぶ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト (40点)、②レポート (30点)、③レスポンスペーパー (30点+α)。第3に60点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。
-----------	--

学生へのメッセージ	歴史が教えてくれるのは、「すべては表裏一体」ということです。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あら
-----------	---

担当者の	7号館2階 非常勤講師室
------	--------------

研究室等	
備考	

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1308a1		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野で、系統地理学（人文地理学・自然地理学）とともに地理学の根幹を成す。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。
到達目標	地誌学の基本的な考え方について、具体的な事例を通して理解できるようになる。 さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。
授業方法と留意点	講義内容を収録した音声付パワーポイントをオンデマンド配信する。音声付パワーポイントは、Moodle にアップロードする。第 5 回から対面授業に切り替える。
科目学習の効果 (資格)	中学社会・高校地理歴史教員免許

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方	講義ノートを確認しておくこと (事後学習 3 時間)
2	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林とサバンナ	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
3	熱帯気候と住民生活 (2)	熱帯雨林の近年の変化	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
4	熱帯気候と住民生活 (3)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
5	熱帯気候と住民生活 (4)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
6	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	砂漠と季節河川	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
7	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	砂漠ゾウと地域住民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
8	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
9	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	氷河地形と人々の暮らし	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
10	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
11	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
12	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
13	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
14	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
15	試験 (授業内で実施)	授業内試験	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 3 時間)

関連科目	人文地理学、自然地理学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界がわかる地理学入門	水野一晴	筑摩書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	試験 70%, 授業内課題 30%
-----------	-------------------

学生へのメッセージ	高校で地理 (A・B) を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回ノートを取りながら集中して受講してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師控室)。質問等は学内メールにて対応する。
----------	-------------------------------------

備考	
----	--

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1309a1		

授業概要・目的	人文地理学は、空間・地域・環境といった視点から人と社会を捉える学問です。様々な学問分野の間の境界領域に位置し、対象や方法が多岐にわたっているという特徴を持ちます。本講義では、こうした人文地理学の基本的な考え方を身につけることを目的とします。
到達目標	人文地理学の基本となる考え方について説明できること。また、特定の問題について地理学的な視点から捉えることができること。
授業方法と留意点	主に、①人文地理学がカバーする諸領域、②現代社会を理解するうえで重要と考えられる理論・学説、③人文地理学の歴史と現代的諸課題について講義します。さらに、学生の皆さんには、理解度を問うための小課題（理解度チェック）と学期末レポートに取り組んでもらいます。
科目学習の効果（資格）	皆さん自身が興味を持つ事象や問題について、空間・地域・環境といった視点から捉える能力を養うことができます。 ※本講義は、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教員免許を取得するための必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	人文地理学とはどのような学問か？	この授業の概要を理解し、人文地理学という分野の範囲と見方の特徴について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
2	地図の発達史：古代から現代まで	古代から現代にいたる地図の歴史、地図の製作・利用等について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
3	人口動態を捉える	人口転換や人口移動のメカニズムについて学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
4	気候変動と社会	人びとの暮らしと気候変動との関係について具体的な事例を踏まえつつ考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
5	文化の地域的多様性と進化	文化の多様性および動態の説明方法について事例を踏まえつつ考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
6	都市空間の構造と格差	居住者とその格差の視点から見た都市の構造とその変化について捉える方法について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
7	産業からみた都市の変遷	産業構造変化に伴い、都市モデルがどのように変遷してきたかを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
8	イノベーションと都市	現代の都市間競争について、イノベーションとその空間的諸条件という視点から学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
9	人口減少と都市の縮退	人口減少、経済停滞期における都市が抱える諸問題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
10	ジェンダーと行動・居住の制約	地域における行動・居住の制約という視点からジェンダーを考える視点を学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
11	疫病の空間的拡散	疫病の空間的拡散パターンに関する研究を学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
12	農と食をめぐる諸問題	世界の農業および食料供給の多様性と課題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
13	観光に関する地理学的研究	地域・空間の視点から観光を捉えるための方法やその成果について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
14	旅を再考する	人類社会における旅の歴史を振り返ることにより、COVID-19 以後の観光について考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
15	人文地理学の課題	これまでの人文地理学の歩みと、今後の人文地理学の課題について検討します。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。

関連科目 「自然地理学」「地誌学」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学：その主題と課題	杉浦章介ほか	慶應義塾大学出版会
2	現代人文地理学	佐藤廉也・宮澤仁編	放送大学教育振興会	
3				

評価方法（基準） レポート課題 70%、小テスト&コメント提出 30%

学生へのメッセージ 受講にあたり、まず高校までの「暗記科目」としての地理のイメージは完全に捨ててください。自分自身が関心を持っている問題とどうつながるか考えながら講義を聴いてもらえることを期待します。まだはつきりした関心を持っていない人は、授業を受けながら面白いと思えるトピックを探してみるといいでしょう。

担当者の研究室等
備考

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Literature
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1310a1		

授業概要・目的	日本の古典文学の物語を読む。なお、古代から江戸時代までの作品を古典文学と位置づける。 文学作品を読むことは、それだけで我々の心を豊かにしてくれる。この授業では、日本人が何を、どのように、何のために「物語」として描いたのかという点に着目して考える。古典文学作品を読むことで、現代の我々の思考力と想像力を豊かにすることを目的とする。 また、古典文学への抵抗をなくし、文学作品を読んで考える習慣を身につけることも目的とする。
到達目標	作品を鑑賞し、その文学的特徴を説明できる。 古典文学の流れについて概説できる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。 毎回、1作品を取り上げて、講義する。 受講生は事前に作品を読んで授業に臨む。講義を受けたのち、ペーパー（内容のまとめ・コメント等）を提出する。 ペーパーに対するフィードバックを次回に行う。 古典文学や文法に関する知識は一切必要ない。
科目学習の効果（資格）	文学に対する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	物語とは何か	古典文学について、物語についての基本的な事柄を学ぶ	事後：日本の古典文学について調べる
2	神話の世界 1 古事記を読む	英雄神話について考える	事前：配布したプリントを読んでおく 事後：講義を参考にして、作品を読み直し、疑問点などを挙げてみる
3	神話の世界 2 風土記を読む	神話と伝説の背景を考える	事前：配布したプリントを読んでおく 事後：講義を参考にして、作品を読み直し、疑問点などを挙げてみる
4	男女の物語 1 伊勢物語を読む	古代の恋がどのように描かれるのか考える	事前：配布したプリントを読んでおく 事後：講義を参考にして、作品を読み直し、疑問点などを挙げてみる
5	信仰の文学 1 今昔物語集を読む	古代の信仰がどのように表現されているのか考える	事前：配布したプリントを読んでおく 事後：講義を参考にして、作品を読み直し、疑問点などを挙げてみる
6	怪異を物語る 1 今昔物語集を読む	古代の人にとって怪異がどのように表現されているのか考える	事前：配布したプリントを読んでおく 事後：講義を参考にして、作品を読み直し、疑問点などを挙げてみる
7	戦乱のドラマ 平家物語を読む	中世の人物像の描かれ方について考える	事前：配布したプリントを読んでおく 事後：講義を参考にして、作品を読み直し、疑問点などを挙げてみる
8	男女の物語 2 しぐれ物語を読む	中世に恋がどのように描かれているのか考える	事前：配布したプリントを読んでおく 事後：講義を参考にして、作品を読み直し、疑問点などを挙げてみる
9	下剋上の文学 御伽草子を読む	室町期の人々の活躍がどのように描かれているのか考える	事前：配布したプリントを読んでおく 事後：講義を参考にして、作品を読み直し、疑問点などを挙げてみる
10	芸能と文学 1 狂言を読む	狂言に描かれる人間像について考える	事前：配布したプリントを読んでおく 事後：講義を参考にして、作品を読み直し、疑問点などを挙げてみる
11	芸能と文学 2 説教浄瑠璃を読む	説教浄瑠璃に描かれる人間像について考える	事前：配布したプリントを読んでおく 事後：講義を参考にして、作品を読み直し、疑問点などを挙げてみる
12	芸能と文学 3 男女の文学 3 人形浄瑠璃を読む	人形浄瑠璃（文楽）に描かれる男女像について考える	事前：配布したプリントを読んでおく 事後：講義を参考にして、作品を読み直し、疑問点などを挙げてみる
13	物語から小説へ 1 風流志道軒伝を読む	近世文学の個性について考える	事前：配布したプリントを読んでおく 事後：講義を参考にして、作品を読み直し、疑問点などを挙げてみる
14	物語から小説へ 2 雨月物語を読む	近世文学の個性について考える	事前：配布したプリントを読んでおく 事後：講義を参考にして、作品を読み直し、疑問点などを挙げてみる
15	まとめ	授業で取り上げなかった作品も含めて、古典文学について総括する。	事前：これまでの作品の流れを見直しておく

関連科目	歴史や言葉に関する授業
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業時のコメント・考察 (100%) 場合によっては、課題を出す。 ※オンライン授業でも同様
学生への メッセージ	古典文学や文法の知識は一切必要ありません。でも関心は持ってください。 しばし日常を離れ、古典の世界に遊びましょう。
担当者の 研究室等	橋本研究室 (7号館4階)
備考	提出されたペーパーに対するフィードバックは、次の授業内で行う。 事前事後学習時間は60時間を目安とする。

科目名	社会学 I	科目名 (英文)	Sociology I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1311a1		

授業概要・目的	私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自身がこれらの問いに向きあえるようになるために、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。講義では社会的な考え方や基礎知識を紹介したのち、教育、仕事・産業・経済といったテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。
到達目標	授業で説明した社会学の基本的な知識・考え方が説明できる。自らが直面する問題について社会的な発想に基づいて考察できる。日常生活における種々の問題について、社会学の知識に基づいた解釈ができる。
授業方法と留意点	講義形式を基本とするが、学生どうしでのディスカッション、映像資料の視聴なども適宜おこなう。
科目学習の効果 (資格)	社会生活を送る上で何かと直面することになるであろう「人と人」「人と集団」「集団と集団」に関わる問題に対する、幅広い視点を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義をはじめるにあたって	講義へのオリエンテーション	授業内容に関する復習
2	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (1)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)
3	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (2)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)
4	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (3)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)
5	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (4)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)
6	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (5)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)
7	中間試験	まとめと授業内容の理解度を問う記述式のテスト	(事前) 授業レジュメを精読し復習しておく (2 時間) (事後) 試験で十分できなかったところについてまとめ、レジュメをもとに復習しておく (2 時間)
8	2 教育の社会学	学歴社会のメカニズム (1)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)
9	2 教育の社会学	学歴社会のメカニズム (2)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)
10	2 教育の社会学	学歴社会のメカニズム (3)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)
11	3 仕事の社会学	働き方の変化とその背景 (1)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)
12	3 仕事の社会学	働き方の変化とその背景 (2)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)
13	4 産業と経済の社会学	豊かな社会への道 (1)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)
14	4 産業と経済の社会学	豊かな社会への道 (2)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)
15	講義を終えるにあたって	まとめ	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)

関連科目	社会学 II								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1									

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業態度 10%、課題 90%で評価する。 ※授業実施形態の変更があった場合は、それに伴って評価方法が変わることもある。その場合は、授業内で事前に周知する。			
学生への メッセージ	やや厳しい授業ですが、テーマに関心をもったやる気のある学生は受講してください。大事なものは「正解のない問題」と向き合う際の姿勢です。			
担当者の 研究室等	11号館7階 山本准教授室			
備考	授業の実施と運営の方法について、詳細は Teams 内で指示する。 課題に関して、授業内で結果とポイントについて解説する時間を設ける予定である。			

科目名	社会学Ⅱ	科目名 (英文)	Sociology II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1312a1		

授業概要・目的	私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自身がこれらの問いに向きあえるようになるために、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。具体的には、家族と子ども、政治、宗教、社会意識といったテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。
到達目標	授業で説明した社会学の基本的な知識・考え方が説明できる。自らが直面する問題について社会的な発想に基づいて考察できる。日常生活における種々の問題について、社会学の知識に基づいた解釈ができる。
授業方法と留意点	講義形式を基本とするが、学生同士のディスカッションや映像資料の視聴も適宜おこなう。
科目学習の効果 (資格)	社会生活を送る上で何かと直面することになるであろう「人と人」「人と集団」「集団と集団」に関わる問題に対する、幅広い視点を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義をはじめるにあたって	講義へのオリエンテーション	授業内容に関する復習
2	1 家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか (1)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする。
3	1 家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか (2)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする。
4	1 家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか (3)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする。
5	2 宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか (1)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする。
6	2 宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか (2)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする。
7	2 宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか (3)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする。
8	中間課題	まとめと授業内容の理解度を問う記述式の課題	(事前) 授業レジュメを精読し復習しておく (1時間) (事後) 課題で十分できなかったと思われるところについて、レジュメをもとに復習しておく (1時間)
9	3 政治の社会学	平和と共存の作法を求めて (1)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする。
10	3 政治の社会学	平和と共存の作法を求めて (2)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする。
11	3 政治の社会学	平和と共存の作法を求めて (3)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする。
12	4 社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」(1)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまと

				めておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする。
	13	4 社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」(2)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする。
	14	4 社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」(3)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする。
	15	講義を終えるにあたって	まとめ	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする。
関連科目	社会学 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業態度 10%、課題・試験 90%で評価する。 ※授業実施形態の変更があった場合は、それに伴って評価方法が変わることもある。その場合は、授業内で事前に周知する。			
学生への メッセージ	やや難しい授業ですが、テーマに関心をもったやる気のある学生は受講してください。大事なのは「正解のない問題」に向きあう際の姿勢です。			
担当者の 研究室等	11号館7階 山本准教授室			
備考	1) 授業の実施と運営の方法について、詳細はTeams内で指示する。 2) 講義の内容の順序については途中で変更される場合がある。 3) 課題に関して、授業内で結果とポイントについて解説する時間を設ける予定である。			

科目名	倫理学	科目名 (英文)	Ethics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1305a1		

授業概要・目的	科学技術の急速な発達、宗教的権威の低下、資本主義と市場原理主義の支配を背景として、現代社会における倫理的な問題は、複雑さを増し、また、解決が難しいものとなっている。この講義では、倫理と倫理学の基本的な知識を学ぶとともに、現代の倫理的な問題に対するアプローチを試みる。
到達目標	倫理と倫理学の基本を学び、理解する。 倫理学のさまざまな立場の特長を理解する。 現代社会における倫理的な問題がどうして生じているのかを理解する。 倫理的な問題に対して、各自で考え、解決の方向を探っていく。
授業方法と留意点	マイケル・サンデル著『これからの「正義」の話しよう』をテキスト（基本資料）として用いる。 事前学習はサンデルの著書の該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。また、レポート課題もこの著書の事例について考えてもらう。 講義そのものは、こちらの計画に沿って進める。 サンデルの扱っていない問題など、適宜資料を配付する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業への導入	・倫理と倫理学の区別 ・倫理学の立場の違いについて ・倫理学の扱う領域について	倫理についての自分なりの考えをまとめる。
2	功利主義 (1)	・功利主義とは何か ・最大多数の最大幸福 ・幸福とは何か ・ベンサムとミルの立場	サンデル 第1章を参照
3	功利主義 (2)	・選好功利主義 (ヘア) ・トロッコ問題の解決策はあるのか	サンデル 第2章を参照
4	功利主義 (3)	・功利主義への批判と功利主義の応答 ・幸福 (快楽) か義務か	功利主義の問題についてまとめる レポート課題
5	義務論 (1)	・カントの義務論 ・ヒュームのカント批判	サンデル 第5章を参照
6	義務論 (2)	・機会の平等をめぐる学説 ・ロールズの思想	サンデル 第6章を参照
7	市場と道徳 (1)	・リバタリアニズムの主張 ・リバタリアニズムとコミュニタリアニズム	サンデル 第4章を参照
8	市場と道徳 (2)	・金で買えるもの、買えないもの ・インセンティブの問題 ・経営の倫理	サンデル 第7章を参照 レポート課題
9	徳倫理学の復権	・古代ギリシアの徳倫理学 ・現代の徳倫理学	サンデル 第8章
10	良心と悪の問題	・良心とは何か ・根源悪の問題	良心と悪について自分の考えをまとめる。
11	自由と決定論	・人間の自由とは何か ・自由と責任	人間の自由と責任について自分の考えをまとめる。 レポート課題
12	現代の倫理的な問題 (1)	・現代の倫理的状況 ・脳死と臓器移植の問題	配付資料を参照 臓器移植についての自分の考えをまとめる。
13	現代の倫理的な問題 (2)	・安楽死・自殺の権利をめぐる問題	配付資料を参照 安楽死についての自分の考えをまとめる。
14	現代の倫理的な問題 (3)	・自然に「権利」はあるのか ・動物に「権利」はあるのか ・地球全体主義について	配付資料を参照 レポート課題
15	まとめ	・講義全体のまとめ	これまでの講義ノートをもとめておく。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	これからの「正義」の話しよう	サンデル	ハヤカワ文庫
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業内のレポート・平常点 (35%)、授業後のレポート (65%) 出席は評価対象としない。
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階 (有馬研究室)
----------	---------------

備考	事前事後学習に全部で60時間程度必要。
----	---------------------

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Jurisprudence
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1313a1		

授業概要・目的	法は私たちの日常生活と密接な関係にあり、私たちが普段あまり意識しないで行動していても、その行為の裏には法律関係若しくは法律的問題のあるものが沢山あります。法を学ぶことは世の中を知ることもつながります。この講義では、現実の社会と法の世界がどのように関係しあっているかということについて理解してもらいたいと思います。法についての基本的な知識と考え方を身につけ、世の中の動きに関心を持ってもらえたらと思います。内容としては、国の基本法である憲法と私生活を規律する民法が中心となります。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①憲法が守ろうとしているものが何であるかを概ね理解できるようになること。 ②民法の枠組みと基本事項を理解できるようになること。																																																																		
授業方法と留意点	原則として、対面方式による講義を行います。決まった教科書は使用しませんが、レジュメと参考資料を毎回配布します。聞きなれない用語も出てくるとは思いますが、法律の基本的な考え方を理解することが重要です。なお、感染症の状況に応じて、やむを得ず遠隔授業を行う場合があります。その場合は、moodleを使った「教材・課題提供型授業」を行います。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や教員免許の取得等に参考になると思います。また、法律や政治に関する時事問題が理解し易くなります。さらに、法律的なものの考え方が理解できるようになります。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法とは何か</td> <td>法規範と道徳の違い、法源とは何かなど</td> <td>配布資料を見直すこと (約1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>法の解釈</td> <td>法令解釈の基本</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>国家と法 (I)</td> <td>国家と憲法、日本国憲法</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>国家と法 (II)</td> <td>三権分立、国民主権、選挙制度</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>平和と法</td> <td>平和主義</td> <td>配布資料を見直すこと (約1時)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>人権と法 (I)</td> <td>基本的人権の保障 (自由権)</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>人権と法 (II)</td> <td>基本的人権の保障 (社会権)</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>政治と法</td> <td>統治機構 (立法府)</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>行政と法、紛争解決と法</td> <td>統治機構 (立法府、裁判所)</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>国と地方</td> <td>地方自治</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>民法総則、財産と法</td> <td>総則、物権法総論</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>契約と法 (I)</td> <td>債権法総論</td> <td>配布資料を見直すこと (約1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>契約と法 (II)</td> <td>契約各論、不法行為、担保</td> <td>配布資料を見直すこと (約1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>家族と法</td> <td>結婚と離婚、相続</td> <td>配布資料を見直すこと (約1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>全体のまとめ</td> <td>これまでの講義内容を見直し、理解を確実にすること。(約3時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	法とは何か	法規範と道徳の違い、法源とは何かなど	配布資料を見直すこと (約1時間)	2	法の解釈	法令解釈の基本	配布資料を見直すこと (約2時間)	3	国家と法 (I)	国家と憲法、日本国憲法	配布資料を見直すこと (約2時間)	4	国家と法 (II)	三権分立、国民主権、選挙制度	配布資料を見直すこと (約2時間)	5	平和と法	平和主義	配布資料を見直すこと (約1時)	6	人権と法 (I)	基本的人権の保障 (自由権)	配布資料を見直すこと (約2時間)	7	人権と法 (II)	基本的人権の保障 (社会権)	配布資料を見直すこと (約2時間)	8	政治と法	統治機構 (立法府)	配布資料を見直すこと (約2時間)	9	行政と法、紛争解決と法	統治機構 (立法府、裁判所)	配布資料を見直すこと (約2時間)	10	国と地方	地方自治	配布資料を見直すこと (約2時間)	11	民法総則、財産と法	総則、物権法総論	配布資料を見直すこと (約2時間)	12	契約と法 (I)	債権法総論	配布資料を見直すこと (約1時間)	13	契約と法 (II)	契約各論、不法行為、担保	配布資料を見直すこと (約1時間)	14	家族と法	結婚と離婚、相続	配布資料を見直すこと (約1時間)	15	まとめ	全体のまとめ	これまでの講義内容を見直し、理解を確実にすること。(約3時間)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	法とは何か	法規範と道徳の違い、法源とは何かなど	配布資料を見直すこと (約1時間)																																																																
2	法の解釈	法令解釈の基本	配布資料を見直すこと (約2時間)																																																																
3	国家と法 (I)	国家と憲法、日本国憲法	配布資料を見直すこと (約2時間)																																																																
4	国家と法 (II)	三権分立、国民主権、選挙制度	配布資料を見直すこと (約2時間)																																																																
5	平和と法	平和主義	配布資料を見直すこと (約1時)																																																																
6	人権と法 (I)	基本的人権の保障 (自由権)	配布資料を見直すこと (約2時間)																																																																
7	人権と法 (II)	基本的人権の保障 (社会権)	配布資料を見直すこと (約2時間)																																																																
8	政治と法	統治機構 (立法府)	配布資料を見直すこと (約2時間)																																																																
9	行政と法、紛争解決と法	統治機構 (立法府、裁判所)	配布資料を見直すこと (約2時間)																																																																
10	国と地方	地方自治	配布資料を見直すこと (約2時間)																																																																
11	民法総則、財産と法	総則、物権法総論	配布資料を見直すこと (約2時間)																																																																
12	契約と法 (I)	債権法総論	配布資料を見直すこと (約1時間)																																																																
13	契約と法 (II)	契約各論、不法行為、担保	配布資料を見直すこと (約1時間)																																																																
14	家族と法	結婚と離婚、相続	配布資料を見直すこと (約1時間)																																																																
15	まとめ	全体のまとめ	これまでの講義内容を見直し、理解を確実にすること。(約3時間)																																																																
関連科目	憲法、民法など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>民事法入門</td> <td>野村豊弘</td> <td>有斐閣アルマ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	民事法入門	野村豊弘	有斐閣アルマ	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	民事法入門	野村豊弘	有斐閣アルマ																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	定期試験の結果で評価しますが、途中で理解度テストを行う場合は、期末試験の点数 (60%) と理解度テストの総点数 (40%) の合計点で評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	学生時代には、いろいろなことに興味を持ち、専門分野以外の勉強をすることも、将来何かの役に立つと思います。法の世界もその一つです。授業が進めば新たな世界が見えてくると思います。																																																																		
担当者の研究室等	11号館10階 小島研究室																																																																		
備考	講義の内容は、憲法と民法を中心とする基本的なものですから、ご自分に合った入門書を適宜選んで、講義内容に相当するところを講義の前後に読み、予習・復習を心がけるようにして下さい。これらに要する時間は通算20時間を目安として下さい。ただし、講義は入門書に書いていない事柄も少なからず含まれますので、特に講義内容の復習を欠かさずに行ってください。レジュメには比較的重要な用語の一部を穴あきにしてありますので、講義に使用するスライドに記載してある用語で埋めて下さい。																																																																		

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲 淳介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1314a1		

授業概要・目的	日本国憲法をおおまかに理解できるように、基本的人権を中心に、授業テーマと関連する憲法に関わる問題を取りあげ、これに関わる基本的な事項、判例、学説を説明していきます。この授業の目的は、身近に生じる憲法に関わる問題を通して、憲法の基本的な内容と考え方を理解してもらうことです。
到達目標	この授業を通じて学生には、憲法の基本的な知識を習得し、「首相の靖国神社参拝」や「一票の格差」などの身近で話題になっている問題を憲法を通して考え説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回、授業の始めに資料を配布します。この資料に記載してある設題に関連する学説・判例などを講義形式で説明していきます。受講生は授業終了後、配布資料中の確認問題をしてください。この問題についての解答・解説は次回の授業で行います。
科目学習の効果 (資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	憲法とは	憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。	事前に教科書11頁から20頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
2	国民主権	国民主権の意味、国民主権を具体化する制度、国民主権が人権の解釈にどのような関係かなどについて説明します。	事前に教科書243頁から249頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
3	基本的人権の保障1	人権の歴史、人権の分類、人権の限界、人権の享有主体について説明します。	事前に教科書21頁から30頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
4	基本的人権の保障2	外国人にも日本国憲法が保障する人権の享有が認められるか、認めえるとしてその人権は何かなどについて説明します。	事前に教科書31頁から40頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
5	幸福追求権	幸福追求権の意味と範囲、新しい人権について説明します。	事前に教科書49頁から58頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
6	法の下での平等	憲法14条の定める平等の意味、差別の許される合理的根拠かどうかの判断基準などについて説明します。	事前に教科書60頁から70頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
7	信教の自由と政教分離	信教の自由の内容と限界、国家と宗教の関わりなどについて説明します。	事前に教科書71頁から82頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
8	表現の自由	表現の自由の保障の範囲、限界、検閲などについて説明します。	事前に教科書83頁から104頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
9	経済的自由権	職業選択の自由とその規制などについて説明します。	事前に教科書105頁から114頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
10	社会権	生存権の法的性格、教育を受ける権利の法的性格について説明します。	事前に教科書115頁から134頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
11	刑罰と刑事手続	刑罰と憲法、適正手続について説明します。	事前に教科書135頁から144頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
12	国会	国会の最高機関性、立法機関性について説明します。	事前に161頁から172頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
13	内閣	議院内閣制、衆議院の解散などについて説明します。	事前に教科書173頁から184頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
14	裁判所	司法権の定義、司法権の範囲、司法権の独立、違憲立法審査権について説明します。	事前に教科書185頁から206頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
15	平和主義	戦争の放棄の意義、放棄された戦争の範囲、戦力の不保持の意味について説明します。	事前に教科書217頁から229頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)

関連科目	法学入門
------	------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての憲法学 (第4版)	中村睦男・岩本一郎・大島佳代子・木下和朗・齊藤正彰・佐々木雅寿・寺島壽一	三省堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	1回25点満点の小テストを4回行い、その得点合計で評価します。 なお、この小テストの追試験、再試験は実施しません。
学生への メッセージ	授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	①小テストは、チームズに「テスト用」チャンネルを設けますので、これを通じて提出してください。 ②授業形態を変更することがあります。変更するときは、「連絡用」チャンネルを使って連絡します。

科目名	政治学概論 I	科目名 (英文)	Introduction to Politics I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IS02415a2		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業、景気の影響を避けて生きることではできません。それらを決定・介入するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。こうしたことは、企業経営に関わろうとする経営学部の皆さんにはより深刻な事実として突きつけられる事柄でしょう。 この授業では、有権者である学生の皆さんに政治と政治学についての基本的な知識・技能を与えることを一番大きな目的としています。政治学の中でも、政治体制論、政治過程論、国際政治にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	この授業を通じて学生は、政治・政治学についての基本的な知識・技能を獲得し、いかなる法・政策・立候補者が望ましいか理性的・論理的に判断し、政治に積極的に参加する中でそれを表明していくという政治・政治学に関する思考力・判断力・表現力を育成することができます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーに政治問題に関する意見を論理的に書いてもらったり、予習・復習テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識・技能を獲得し、そのメリット・デメリットを判断し、政治的意見として表明することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～政治とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と政治・政治参加の必要性について授業します。	事前学習：政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
2	政治と権力①～政治の条件とは何か?	身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
3	政治と権力②～正当な権力とは何か?	マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性とは何かを考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
4	国家と政治システム～システムとは何か?	政治システムとはどういう構造になっているのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第六章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
5	デモクラシー～デモクラシーの条件とは何か?	さまざまな政治システムがあるなかで、デモクラシーとはいかなる政治システムなのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
6	マスメディアと世論①～政治文化と初期の世論研究	世論と政治文化について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
7	マスメディアと世論②マスメディアの役割とは何か?	マスメディアの役割とそのさまざまな効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
8	選挙と政党～中選挙区制から小選挙区比例代表並立制へ	日本の選挙制度を中心に、選挙と政党制について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
9	国会と内閣～議院内閣制と今世紀の行政改革	行政改革による内閣の権限強化を中心に、日本の国会と内閣について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
10	国際政治の二つの観点①～アイディアリズム	国際連盟から国際連合への経過について授業します。また国際連盟から離脱したときの日本の状況について映像資料を見て考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第七章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
11	国際政治の二つの観点②～リアリズム	東西冷戦の基盤となるリアリズムの考え方について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
12	冷戦終結後の日本外交①～	冷戦終結後の新しい国際秩序を開くこ	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マ

		湾岸戦争とその結果	とになった湾岸戦争と日本政府の対応について授業します。	メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジюме・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。																
	13	冷戦終結後の日本外交②～米国同時多発テロとアフガニスタン戦争、イラク戦争	米国同時多発テロをきっかけに生じたアフガニスタン戦争と後のイラク戦争と日本の新法作成について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジюме・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。																
	14	冷戦終結後の日本外交③～安全保障体制の転換	集団的自衛権の行使の閣議決定を中心に、近年の日本外交の転換について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジюме・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。																
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習:来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジюме・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく(30分)。 事後学習:試験に向けて教科書やノート、レジюмеを読み直す(時間の許す限り)。																
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の政治学概論Ⅱ、社会学、国際政治など。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>政治学</td> <td>久米郁男・川出良枝ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—</td> <td>仲正昌樹編</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>18歳から考える日本の政治</td> <td>五十嵐仁</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社	2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社																	
2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社																	
3																				
評価方法(基準)	レポート(約70%)と小テスト(約30%)で評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。																			
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の研究室等	11号館10階 和田講師室																			
備考	予習・復習テストについては次回の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。																			

科目名	政治学概論Ⅱ	科目名 (英文)	Introduction to Politics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IS02416a2		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業、景気の影響を避けて生きることにはできません。それらを決定・介入するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。こうしたことは、企業経営に関わろうとする経営学部の皆さんにはより深刻な事実として突きつけられる事柄でしょう。 この授業では、有権者である学生の皆さんに政治と政治学についての基本的な知識・技能を与えることを一番大きな目的としています。政治学の中でも、日本政治史、地方自治、政治哲学にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
---------	--

到達目標	この授業を通じて学生は、政治・政治学についての基本的な知識・技能を獲得し、いかなる法・政策・立候補者が望ましいか理性的・論理的に判断し、政治に積極的に参加する中でそれを表明していくという政治・政治学に関する思考力・判断力・表現力を育成することができます。
------	---

授業方法と留意点	新型コロナウイルスが猛威を振るっているため、Microsoft Teams によるオンライン授業で行います。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識・技能を獲得し、そのメリット・デメリットを判断し、政治的意見として表明することができます。
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～「近代」とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と「近代(modern)」とは何を意味するのかについて授業します。	事前学習：今まで勉強してきた歴史の教科書などを再読し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
2	戦前日本の政治史①～明治・大正の政党の活動と大日本帝国憲法	政党史を中心に大正デモクラシーまでの政治史を概観し、大日本帝国憲法の政治的な重要箇所について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第二回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
3	戦前日本の政治史②～軍部の台頭	映像資料を見ながら、日本が日中戦争・太平洋戦争へと向かっていった原因の一つである軍部を考えます。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第三回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
4	戦前日本の政治史③～満州国の設立	映像資料を見ながら、なぜ日本がワシントン体制から脱して満州国設立へと向かって行ってしまったのかを考えます。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第四回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
5	戦後日本の政治史①～GHQによる日本の初期占領政策	GHQの日本占領政策と連立政権について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第五回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
6	戦後日本の政治史②～インフレ対策と逆コース	冷戦の激化にともない、GHQの日本占領政策が転換していった過程について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第六回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
7	戦後日本の政治史③～日本の独立と吉田茂の退場	サンフランシスコ平和条約締結周辺の経過と吉田保守本流の外交方針について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第七回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
8	戦後日本の政治史④～新日米安保条約と安保闘争	岸内閣を中心に、新日米安保条約の改定が望まれた理由や安保闘争の経過について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第八回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
9	戦後日本の政治史⑤～沖縄返還問題と非核三原則	佐藤内閣を中心に、当時の沖縄返還をめぐる諸問題について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第九回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
10	戦後日本の政治史⑥～派閥の強化と田中派の隆盛	自民党の派閥政治の特徴と田中派が勢力を拡大していく過程について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第十回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
11	戦後日本の政治史⑦～田中派から竹下派への禪譲	田中派から竹下派へと自民党の権力が移行していった 80 年代の自民党政治について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第十一回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
12	戦後日本の政治史⑧～政治	55 年体制が崩壊し、細川連立内閣が成	事前学習：レジュメの該当箇所 (第十二回) を読み、

		改革と55年体制の崩壊	立した90年代の政治史を授業します。	マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。																
	13	戦後日本の政治史⑩～小泉内閣から民主党内閣へ	小泉内閣の外交や郵政民営化法案を中心に授業します。	事前学習:レジュメの該当箇所(第十三回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。																
	14	戦後日本の政治史⑩～安倍内閣の諸政策	国家の自衛権とは何かを解説しながら、安倍内閣における集団的自衛権の行使の閣議決定の内容について授業します。	事前学習:レジュメの該当箇所(第十四回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。																
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習:来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく(30分)。 事後学習:試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す(時間の許す限り)。																
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の政治学概論、社会学、国際政治など。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>近代日本政治史</td> <td>坂野潤治</td> <td>岩波書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>現代日本政治史</td> <td>廣澤孝之</td> <td>晃洋書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	近代日本政治史	坂野潤治	岩波書店	2	現代日本政治史	廣澤孝之	晃洋書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	近代日本政治史	坂野潤治	岩波書店																	
2	現代日本政治史	廣澤孝之	晃洋書房																	
3																				
評価方法(基準)	レポート(70%)とMicrosoft Formsによる小テスト(30%)で評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。																			
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の日本の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の研究室等	11号館10階 和田講師室																			
備考																				

科目名	住まいとデザイン	科目名 (英文)	Design and Living Environment
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大高 和香
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA1317a1		

授業概要・目的	最も身近な空間である住居について、その歴史の中で生み出された住まいの工夫と文化を知り、快適な住生活と、特にデザインとのかかわりを考察する。
到達目標	将来、住み手の立場で必要となる基礎知識を身につけることが目標である。
授業方法と留意点	毎回のテーマに沿った、パワーポイント資料を視聴し、出席確認を兼ねた「コメント」を各自提出する。2~3回のミニレポートに取り組む。授業資料視聴後、30分~60分程度、復習をするのが望ましい。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	インテリアの常識	身近なインテリアの用語、法規について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
3	インテリアの構成要素	住空間を構成する主な要素について学び、知識を深める。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
4	インテリアの歴史 1	エジプト文明~ロココ時代のデザインについて学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
5	インテリアの歴史 2	ネオクラシック~20世紀モダニズムのデザインについて学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
6	家具 1	家具の分類:様々な家具の種類からその機能とデザインについて学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
7	家具 2	デザイナーズファニチュア「名作家具」に触れ、時代を超えて愛されるデザインについて学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
8	ウィンドートリートメント	主に、カーテン、ブラインド類について、スタイル、素材、機能について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
9	住まいの色彩計画	インテリアデザインにおける、カラーコーディネート基礎を学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
10	住まいの照明計画	照明器具の種類、機能と、プランニングについて学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
11	住まいの設備 1	キッチンの、形状、素材、機能について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
12	住まいの設備 2	浴室・洗面・トイレについて、形状、素材、機能について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
13	和のしつらい 1	日本の家の歴史から、和室の基礎を学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
14	和のしつらい 2	和室の各エレメントを知り、現代の住宅に生かす	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
15	我が国の住まいの現状と未来の住宅	住宅市場の現状から、これからの住まいを考えてみる	自分なりの理想の住まいについて考えてみよう

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	期末テスト: 70%、受講態度 (課題レポート、など): 30%を、合わせて評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	第二回目から、遠隔授業となり、「実習」が出来なくなりました。それに伴い、シラバスを一部変更し期末テストを実施することになりました。毎週の授業資料 (音声付パワーポイント)、出席確認を兼ねた「コメント」及び、最終回までに2~3回課す「課題レポート」をWeb folderに掲載します。提出も、同じWeb folderの指定のファイルに入れて下さい。授業資料の掲載期間、[コメント]「課題レポート」に提出期日は、次回授業の前日 (日曜日 23:59) とします。また、質問などはTEAMSの指定の場所に投函下さい。3~4日で
-----------	--

担当者の研究室等	12号館7階、8号館3階 大谷教授室
----------	--------------------

備考	原則、5回以上の欠席の場合、期末テスト受験不可とします。
----	------------------------------

科目名	自然地理学	科目名 (英文)	Physical Geography
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA1318a1		

授業概要・目的	自然地理学は地球環境問題や自然災害と深い関わりを持つとともに、私たちの日々の生活とも密接に関わっています。本授業では、身近な場所から辺境の地まで、さまざまな地域の自然環境を理解するための基礎を学びます。具体的には、1. プレート運動や気候といった地球規模のシステム、2. 日本や世界で観察される景観の形成要因やその形成過程、3. 自然災害や地球環境問題、といった内容を扱います。講義では各地の写真や映像などを数多く使って解説し、初学者にもイメージがつかみやすい内容にする予定です。授業を通して、自然現象を様々な時間・空間スケールに位置づけて理解する基礎を身につけ、それを将来様々な形で活かしていくことを期待します。
到達目標	日本・世界各地の自然環境の実態とそのシステムを学ぶことを通して自然環境の見方の基礎力を養い、日常で目にする自然景観の形成要因や災害の発生等について論理的に理解できるようになること
授業方法と留意点	講義を中心とするが、ディスカッションやグループワーク等を実施する時間を設ける場合がある。また、講義時間内に質疑応答時間を設ける他、授業内で課された課題(小テスト等)に対しては解説を行う。また、遠隔授業で実施する場合には、Moodle を授業時間・授業外学習時に利用するためスマートフォンやタブレット、PC等を各自用意すること。
科目学習の効果 (資格)	地震等自然災害に対する認識の強化、環境に対する意識の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、評価方法等について説明	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
2	I. 日本の自然を知る 1	プレートテクトニクスと日本列島の形成	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
3	I. 日本の自然を知る 2	地震のメカニズム	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
4	I. 日本の自然を知る 3	地震災害	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
5	I. 日本の自然を知る 4	火山と日本列島	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
6	II. 多様な日本の自然 1	気候環境	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
7	II. 多様な日本の自然 2	植生	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
8	II. 多様な日本の自然 3	山地の隆起と侵食	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
9	II. 多様な日本の自然 4	河川と平野・海岸	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
10	II. 多様な日本の自然 5	大阪の自然・関西の自然	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
11	III. 世界の自然を知る 1	熱帯から極地	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
12	III. 世界の自然を知る 2	砂漠や高山	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。

	13	III. 世界の自然を知る 3	自然と人々の暮らしの関係性	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
	14	IV. 環境と私たち	地球温暖化や砂漠化	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
	15	まとめ	授業全体のまとめ	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業期間中に実施する理解度確認テスト(60%)や期末に提出を求める課題(40%)をもとに評価する。			
学生への メッセージ	高校地理・高校地学を学んでいない人でも理解できるような内容を扱い、難しい部分はフォローアップしながら授業を進めていく予定です。			
担当者の 研究室等	7号館5階			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。理解度確認テストとは、講義内容に関するテストです。毎回の授業終了後や授業開始時には不明点や質問等に関してフィードバックをおこないます。			

科目名	環境と現代社会	科目名 (英文)	Environment and Modern Society
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井上 尚之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2319a1		

授業概要・目的	日本における環境経営を歴史的に辿ると、「環境経営」⇒「CSR経営」⇒「サステナビリティ経営」という系譜である。本講義では、この歴史の流れを追うと共に、サステナビリティ経営とは何かを探る。
到達目標	サステナビリティ経営に関して自分なりの意見が言え、プレゼンテーションするレベルを目指す。
授業方法と留意点	授業中に教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う双方向の授業を目指す。
科目学習の効果 (資格)	サステナビリティ経営を学ぶことによって、経営の基礎及び企業のCSR部門における必須知識の獲得を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第1回 日米の環境政策の歴史	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)
2	第2回 日本における環境経営の本格開始—ISO14001:1996発行	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)
3	第3回 トヨタの環境経営	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)
4	第4回 3Rからゼロエミッションへ	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)
5	第5回 環境経営とサステナビリティ経営の相違	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)
6	第6回 社会的な影響に配慮するとはどういうことか—トリプルボトムラインの登場	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)
7	第7回 2003年は日本のCSR元年	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)
8	第8回 ISO26000とサステナビリティ経営—CSRの国際規格 ISO26000の発行	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)
9	第9回 ISO26000の社会的責任を果たすための7つの原則	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)
10	第10回 社会的責任の7つの中核主題	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)
11	第11回 組織にとってのISO26000を順守するメリットは何か?	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)
12	第12回 ISO26000の具体例	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)
13	第13回 中小企業にISO26000を広め、定着させる企業市民制度	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)
14	第14回 GRIとは何か?	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)
15	第15回 国連主導のCSR—SDGs	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する(90分)。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	サステナビリティ経営	井上尚之	大阪公立大学共同出版会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期レポート2回メールで提出。定期レポートで評価。			
学生への	サステナビリティ経営・環境経営は今や企業の常識となっています。この講義で環境経営の概要を知ることが重要です。			

メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	遠隔授業となったときは、オンデマンド（録画）で行う。

科目名	公衆衛生学	科目名 (英文)	Public Health Science
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2320a1		

授業概要・目的	授業では、まず基礎編として、健康の観点からみた人類史に始まり、公衆衛生の歴史、日本の人口の現在と将来、人々の健康を守るための方法論（疫学）、予防医学の考え方とその具体例（感染症、生活習慣病）について学ぶ。また応用編として、人の健康が社会から受ける影響について移民（外国人）を事例に解説する。さらに人の健康に関する研究の倫理について、過去の歴史から学ぶ。
到達目標	公衆衛生学が扱う内容の全体像とその方法論の概要を把握するとともに、私たちの健康が社会や環境から受ける影響について理解する。
授業方法と留意点	講義を中心とするが、各回の最新の話題に関する視聴覚教材や時事ニュースなどを随時活用し、身近な話題から専門的な話へとつなげていく。第2回（4月22日（木））以降は、Moodleによるオンライン講義とする。

科目学習の効果（資格）	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	人口転換と疫学転換	人類史と健康	・予習をすること（教科書第1章 p7-10, 第2章 p22-25）(30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
2	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	・予習をすること（教科書第1章 p1-12）(30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
3	保健統計 (1)	日本の人口	・予習をすること（教科書第2章）(30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
4	保健統計 (2)	健康指標	・予習をすること（教科書第2章）(30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
5	疫学 (1)	疫学の歴史と指標	・予習をすること（教科書第3章）(30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
6	疫学 (2)	関連と因果関係	・予習をすること（教科書第3章）(30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
7	疾病予防	予防医学の考え方	・予習をすること（教科書第4章 p51-55）(30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
8	感染症 (1)	感染症の疫学と予防	・予習をすること（教科書第5章 p81-98, 164-176）(30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
9	感染症 (2)	感染症流行拡大の事例	・予習をすること（教科書第5章 p81-98, 164-176）(30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
10	生活習慣病	生活習慣病の疫学と予防	・予習をすること（教科書第5章 p98-111）(30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
11	環境保健	地球規模の環境問題と取り組み	・予習をすること（教科書第6章 p137-147）(30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
12	国際保健	世界の健康・日本の健康	・予習をすること（教科書第13章）(30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
13	移民と健康 (1)	移民の健康と社会	・予習をすること（前回配布の課題に取り組み提出）(30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
14	移民と健康 (2)	日本在住外国人の健康	・予習をすること（前回配布の課題に取り組み提出）(30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
15	研究の倫理	人体実験の歴史と倫理	・予習をすること（教科書第1章 p14-17）(30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シンプル衛生公衆衛生学 2021	鈴木庄亮	南江堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 2020/2021	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題および/または小テスト(100%)で評価する。60%以上を合格とする。
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	・授業では、公衆衛生学を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を用意して、毎回の授業に真剣に臨むこと。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。 ・授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。
-----------	--

担当者の研究室等	枚方キャンパス 看護学部 3階 24
----------	--------------------

備考	提出された課題内容について授業で解説する。
----	-----------------------

科目名	科学技術教養 (V1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	居場 嘉教
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが、その内容を理解することは容易ではない。本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、生命現象との関係などを個体レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は、病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。また、病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で、課題配信型 (Moodle) での授業を行う。講義ごとに講義メモまたは、Moodle 上で講義内容の理解度を確認する小テストなどを行う。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、明確に理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	不妊のしくみ	日本人夫婦 (カップル) は 10 組のうち 1 組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかははっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
2	病気と遺伝子	我々が持つ DNA は日常生活で頻繁に「傷 (変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
3	なぜ肥満は問題なのか?	肥満そのものは病気とは言えない。しかし、糖尿病、高脂血症、高血圧、脳血管障害など様々な「生活習慣病」と呼ばれる疾患のリスクファクターになることが知られている。なぜ肥満が様々な疾患の原因になってしまうのか、そのメカニズムと予防・治療法について解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
4	免疫が引き起こす病気のしくみ	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染 (インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
5	がんの発生とその予防法	死因別死亡率のトップはがんであり、約 3 人に 1 人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が、がんの原因の 30% を占めており、単因子要因としては最大である。本講義では、がんの発生機序やその予防法について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
6	ミトコンドリアと病気	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
7	くすりと遺伝子工学	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して、遺伝子産物 (タンパク質) を生産したり、新しい形質を作り出すなど、遺伝子を人工的に操作する技術、遺伝子工学について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
8	くすりと組換え生物	生物が持つ遺伝情報に改変を施した「遺伝子組換え生物」は、再生医療やヒト疾患の治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の開発などにも役立っている。本講義では、遺伝子組換え生物やクローン生物の作製に関する技術と応用について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
9	くすりとバイオインフォマティクス	遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し、病気と遺伝子、ゲノム創薬への応用について述べる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
10	くすりとタンパク質のかたち	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)

			医薬品開発への応用について述べる。	
	11	くすりとゲノム	ゲノムとは、創薬とは、遺伝子診断などを解説し、生命倫理、歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	12	薬物乱用と依存性薬物	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	13	遺伝子治療の最前線	遺伝子により治療はできるか、遺伝性疾患、科学・技術の概要、基本的な原理、を解説。生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	14	認知症～その原因と治療法	我が国は超高齢化社会へと進行し続けおり、2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つからなければ、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	15	iPS 細胞研究の最前線	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり、新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
関連科目	科学技術教養 V2			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内容の理解度を確保するもの 30%、およびレポート・小論文・演習問題などの課題 70%の総合点で評価する。			
学生へのメッセージ	病気やくすりはみなさんの身近な問題で、関心も大きいと思います。本講義では病気やくすりについて、生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。本講義は生物・薬を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。毎回レポート・課題があるので、毎回出席すること。			
担当者の研究室等	1 号館 9 階 川崎, 尾山, 西村, 中嶋, 宮崎, 船越, 井尻, 居場研究室			
備考	レポート・課題は各教員が採点した後、適宜返却する。			

科目名	科学技術教養 (V2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長田 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々の暮らしを豊かにするバイオテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。また、企業で商品開発等に20年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かして化粧品や繊維製品のバイオテクノロジー応用に関する教育も行う (第3,4回)。 SDGs-2, 3, 12, 13
到達目標	醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能的食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について説明できる。
授業方法と留意点	講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々の暮らしや健康との関わりが理解できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	遺伝子組換え植物とその将来	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	配布資料を復習する。
	2	バイオレメディエーションの可能性	過去、日本であった重金属汚染について簡単に復習し、特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する。物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら、適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し、植物を用いた生物学的浄化法についても説明する。	配布資料を復習する。
	3	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	配布資料を復習する。
	4	繊維とバイオテクノロジー	繊維に反応する酵素を紹介し、これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する。	配布資料を復習する。
	5	エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響	近年、エネルギーの枯渇問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する。	配布資料を復習する。
	6	バイオエネルギー技術	21世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場から解説する。	配布資料を復習する。
	7	機能的食品などの新しい食品の形態	食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	配布資料を復習する。
	8	食品の健康障害リスクと対策	微生物、アレルギー性物質、残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ、解説する。	配布資料を復習する。
	9	動く分子とバイオテクノロジー	ATP合成酵素や細菌のべん毛モーターなどの動く分子を紹介し、生物がもつ運動機能を生体分子モーターなどへ応用するバイオテクノロジーについて解説する。	配布資料を復習する。
	10	昆虫学を用いた、ヒトの暮らしを支える科学技術	地球上でもっとも繁栄した生物群である昆虫は、時にヒトの暮らしを脅かす害虫となり、時にヒトに恵みをもたらす益虫となる。害虫からヒトの財産・健康を守り、益虫をもたらす恩恵を最大化するためには、昆虫を「知る」ことが不可欠である。本講義では、昆虫学がうみだす知識が、どのように科学技術に応用されているかを紹介する。	配布資料を復習する。

	11	機能性糖質	食品や産業などに利用されている機能性の糖質の具体例を紹介し、人の健康や産業にとってどのような機能性があるのかを解説する。	配布資料を復習する。																
	12	糖質とバイオ医薬	人の体の中で、糖質はエネルギー源として利用されているだけでなく、免疫応答・代謝物の末梢組織への運搬など、多岐に渡った生命維持に必要な機能を有している。本講義では、このような糖質の生理機能について解説する。	配布資料を復習する。																
	13	生体高分子の利用	最近、廃棄されたプラスチックにより生成されるマイクロプラスチックによる環境汚染問題が問題視されている。本講義では、今後幅広く使用されることが期待される生体高分子がどのように利用され、化学合成によりつくられる様々なマテリアルに代替されているかについて解説する。	配布資料を復習する。																
	14	環境リスクの評価方法	環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し、水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる。	配布資料を復習する。																
	15	地球規模の環境破壊と人体への影響	主にオゾン層の破壊、地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因、発生機構、人への影響およびその防止対策に関して述べる。	配布資料を復習する。																
関連科目	科学技術教養V1																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。30分未満の遅刻は欠席0.5日、30分以上の遅刻は欠席1日とする。																			
学生への メッセージ	本講義では、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。本講義は、生物・環境を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。毎回レポート・課題があるので、毎回出席すること。出席および遅刻・欠席の扱いは、一回目の講義で説明します。																			
担当者の 研究室等	1号館8階 長田講師室																			
備考	事後学習に要する総時間の目安は15時間																			

科目名	科学技術教養 (R1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川上 比奈子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的
 古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らし続けてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる知識を学ぶ。
 オムニバス形式の中で、建築設計や都市計画の実務経験を持つ教員が、建築やまち・都市がどのように創られているかについて実践的な授業を行う回がある。

到達目標
 住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎を理解できる。

授業方法と留意点
 ICT ツールを使用または活用する。オムニバス形式の講義中心授業である。場合によって、担当教員の順番を入れ替えることがある。
 毎回、課題を出すので、教科書、ネットで調べるなどして、自主的に学習してください。
 必ず、期日までに課題を提出すること。
 最終回には、まとめテストを行う。
 担当者によっては、講義時間内に小テストを行う場合があるので、注意すること。
 提出された課題や小テストの中で誤解や不正解が多かった点は授業内で解説する。理解できない時は疑問点を質問してほしい。

科目学習の効果 (資格)
 身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	(オリエンテーション) 自然の力をかりた住宅デザイン	(科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。) 古代より人間は自然と共生するためにさまざまな工夫をこらした。世界各地におけるそれらの住まいの事例を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
2	エコ技術と住宅デザイン-近代の住宅事例	新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
3	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
4	環境配慮型デザインプロセス	環境配慮型建築・設備設計のデザインプロセスと、住宅のパッシブ・アクティブ技術を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
5	住環境における換気	換気の考え方の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気の重要性について学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
6	健康で快適な生活とにおける対策	心身ともに健康に過ごすための、住宅内での問題や対策の考え方について学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
7	生活の中における香りの活用	屋内外の香りや人との関わりのはなしから、香りの人への心理生理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
8	いのちを守るあかりとサイン	大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
9	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
10	暮らしの中のさまざまな寸法	身近なモノの寸法がどのように決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
11	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)

	12	野生動物との共存のデザイン	近年獣害が増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を、具体的事例を通して学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1時間）																
	13	住環境における図の役割	身近に用いられている図の重要性とその役割について学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1時間）																
	14	住環境と情報技術	私たちが毎日暮らす空間で利用されている情報技術について事例を通して学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1時間） ・復習：全授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめテストの準備をしておくこと（1時間）																
	15	解説 まとめテスト	解説およびまとめテストを実施する。	予習：講義内容の復習をして、 まとめテストを受けること（1時間）																
関連科目	なし																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>科学技術教養（R1） 住環境デザイン学科 教科書</td> <td>摂南大学理工学部住環境デザイン学科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	科学技術教養（R1） 住環境デザイン学科 教科書	摂南大学理工学部住環境デザイン学科		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	科学技術教養（R1） 住環境デザイン学科 教科書	摂南大学理工学部住環境デザイン学科																		
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	毎回の課題 15%、まとめテスト 85%で評価する。																			
学生への メッセージ	毎回の課題提出をもって出席とします。15 回目のまとめテストは、可能な限り、対面で行う予定です。状況によって対面が不可能な場合はオンラインに変更します。Teams の投稿欄において周知するので、注意してください。																			
担当者の 研究室等	住環境デザイン学科共通準備室 12号館7階 樋口教授室、山根講師室、川上教授室、久富教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、大橋准教授室 12号館6階 坂本教授室																			
備考	場合によって、担当教員の順番を入れ替えることがある。講義に係る予習・復習などの学習時間は、毎回1.5時間程度を目安とする。提出された課題や小テストの中で誤解や不正解の多かった点は授業内で解説してフィードバックする。理解できない時は疑問点を質問してほしい。 各回の課題については、随時評価の上返却する。																			

科目名	科学技術教養 (R2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	坂本 淳二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	日本の伝統的な住宅は、気候風土、地形、材料などに影響を受けて地方色が豊かであり、歴史的、文化的な相違からも地域性が認められる。現代の住まいや暮らしはそれらの影響を受けて、さまざまな技術の発達、社会の変化とともに、かつての住まいや暮らしの形は変容しつつある。このような身近な住まい、まち、暮らしについての知識を得て、今後の持続可能な社会の創造に関わる知識を学ぶ。
到達目標	到達目標：建築都市インテリアなどの空間における歴史的文化的背景による地域性を理解し、持続可能な社会を創造するためのまちづくりや住宅建築など、住環境の未来に向けたデザインの基礎を理解できる。
授業方法と留意点	毎回、課題を出すので、教科書、ネットで調べるなどして、自主的に学習してください。 必ず、期日までに課題を提出すること。 最終回には、まとめテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日本の住まいの地域性	気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的日本住宅について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45分以上)、復習 (45分以上) を十分に行う。
3	住環境とパッシブデザイン	住環境におけるパッシブデザインの変遷を建築家の作品を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45分以上)、復習 (45分以上) を十分に行う。
4	住環境と考現学	私たちの身の回りにある住環境を観察・記録することから新しい環境デザインをつくりだす方法を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45分以上)、復習 (45分以上) を十分に行う。
5	大規模災害時の避難生活環境	阪神淡路大震災・東日本大震災など大規模災害時の避難生活状況と支援活動を知ることから未来への備えを学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45分以上)、復習 (45分以上) を十分に行う。
6	スマートウェルネスなまちづくり	環境配慮型まちづくりの世界の事例、およびスマートグリッド・スマートコミュニティや健康に配慮したまちづくりに対する、日本での取り組みを知り、今後のまちづくりについて考える。	配布資料の講義部分の予習 (45分以上)、復習 (45分以上) を十分に行う。
7	高齢者のための生活空間	高齢者の外出行動、生活環境の広がり、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45分以上)、復習 (45分以上) を十分に行う。
8	高齢者の生活環境の広がり と支援	高齢者の心身機能の特性を踏まえて、高齢者をめぐる住宅行政や、様々な高齢者居住について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45分以上)、復習 (45分以上) を十分に行う。
9	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45分以上)、復習 (45分以上) を十分に行う。
10	地球共生デザイン・ 建築・住環境のすすめ	環境と人間活動、二つの観点からアプローチする共生デザイン・建築・住環境の考え方について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45分以上)、復習 (45分以上) を十分に行う。
11	バイオミメティックデザイン	自然界における形態・構造・システムとそれらの応用デザインについて学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45分以上)、復習 (45分以上) を十分に行う。
12	次世代の住環境を考える	私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生についてを考える。	配布資料の講義部分の予習 (45分以上)、復習 (45分以上) を十分に行う。
13	省エネルギーとパッシブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のパッシブデザイン技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45分以上)、復習 (45分以上) を十分に行う。
14	省エネルギーとアクティブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のアクティブデザイン技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45分以上)、復習 (45分以上) を十分に行う。
15	【対面で実施】 解説 まとめテスト	まとめテストを実施する。	配布資料の講義部分の予習 (45分以上)、復習 (45分以上) を十分に行う。

関連科目 なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 (R2) 住環境デザイン学科 教科書	理工学部住環境デザイン学科	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回の課題 15%、まとめテスト 85%で評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	12号館 6・7階 各教員研究室
備考	各回の課題については、随時評価します。 第15回(2022年1月14日)の授業は対面を予定しています。

科目名	科学技術教養 (A1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加嶋 章博
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。(SDGs-11)
到達目標	インテリアから都市空間にいたるまで、広範な建築技術、建築デザイン、建築文化における現状と課題を通して、建築がどのように考え出され、社会、生活、文化にどのような影響を及ぼすものかを理解する。その上で、身近な生活環境から公共的な都市空間にいたるまで、そのあり方を的確に考察することができる基本的な教養を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	教科書・資料等は、各講義時に配布する。 Teams や Moodle 等を活用する授業があるため、詳細について初回授業で説明する。 各講で用意する教材や資料の理解に努め、課題を通して、建築と社会の繋がりを考えられるようになることを重視する。各講の内容に沿った演習課題を毎回実施する。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	建築の歴史	建築の歴史の変遷から建築における多様な「技術」について学ぶ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を養います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒音・エネルギー、エレベーター、エスカレーター	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	建築とは何か	建築の考え方、建築家の果たす役割	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	建築と都市環境	建築と都市の関係、都市環境のデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	建築の内装	インテリア、家具・内装	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	建築の外装・外構	外装材とは、エクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	建築のUD	こどもと建築、バリアフリー、ユニバーサルデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバージョンといった建築保存の視点から見る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教科書・資料等は、授業で配布予定。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	計 15 回の課題 (各回、課題レポート・講義メモ・小テスト・グループワーク・ディスカッション等により構成され、それぞれの割合の合計が 100% となる) により評価する。期末試験は行わない。原則として、課題提出の割合が 80% 以上の履修者を成績評価の対象とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業で得た建築学に関する基礎的な知見を、日常生活や社会で起こっている様々な事象に照らして、自ら考え判断することを心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階・各授業担当者の研究室
----------	------------------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、原則として、理工学部における出席および遅刻・欠席の扱いに準ずる (出席率 80% 以上を成績評価の対象 / 30 分以上の遅刻は欠席扱いとする / 遅刻は 2 回で欠席 1 回とみなす)。 事前あるいは事後学習として、教科書の当該回の範囲または指定した資料等を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業 1 回あたり 1.5 時間以上をかける必要がある。
----	--

科目名	科学技術教養 (A2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加嶋 章博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。(SDGs-11)
到達目標	建築学に関連する科学技術についての教養を身につけることで、卒業後も社会生活を送るうえで、様々な状況において適用し、建設的な思考につなげていくことができることを目標とする。
授業方法と留意点	教科書・資料等は、Moodleに掲載する。 TeamsやMoodle等を活用する授業があるため、詳細について初回授業で説明する。 各講で用意する教材や資料の理解に努め、課題を通して、建築と社会の繋がりを考えられるようになることを重視する。各講の内容に沿った演習課題を毎回実施する。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	環境共生と建築	環境と共生する建築について考える	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	住む建築	住宅、住むことの工夫	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	集まって住む建築	集まって住む楽しさ、集まって住むカタチ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	福祉医療の建築	建築と福祉医療	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	建築の公共性	公共の建築、パブリックスペース、公共性のある都市施設等に着目し、建築の公共性について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	商業の建築	商業建築、商店街の歴史と再生	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	文化の建築	建築に象徴された様々な文化を読み取る	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	交通の建築	陸・海・空の交通 交通建築の特徴	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	木造の建築	木匠、伝統技術と最新技術 木造建築、木材の使用	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	地下空間の建築	地下空間のメリット、地下空間の利用、大深度地下、地下都市	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	高層の建築	五重塔と超高層、 超高層建築の性能と設計、耐震要素と構造技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	プレハブ建築	種類と概要、 プレハブ化の普及、設計と生産、 災害仮設住宅	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築とロボット	ロボット導入の経緯、 ロボット化の現状と技術、 今後のロボット	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	街並みの建築	ランドスケープと建築、 街並みと要素	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	建築空間と心理	空間条件と心理、ヒューマンスケール、 人はどこに住むか、 近代建築の問題、将来の建替	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目	専門科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教科書・資料等はMoodleに掲載する。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	計15回の課題(各回、課題レポート・講義メモ・小テスト・グループワーク・ディスカッション等により構成され、それぞれの割合の合計が100%となる)により評価する。期末試験は行わない。原則として、課題提出の割合が80%以上の履修者を成績評価の対象とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業で得た建築学に関する基礎的な知見を、日常生活や社会で起こっている様々な事象に照らして、自ら考え判断することを心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、原則として、理工学部における出席および遅刻・欠席の扱いに準ずる(出席率80%以上を成績評価の対象/30分以上の遅刻は欠席扱いとする/遅刻は2回で欠席1回とみなす)。ただし、出席は課題解答提出時間内の提出により判断する。事前あるいは事後学習として、教科書の当該回の範囲または指定した資料等を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業1回あたり1.5時間以上をかける必要がある。
----	---

科目名	科学技術教養 (M1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岸本 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を提供する。 教科書を準備すること。なお、適宜、追加資料を配布する。 講義の最後に、課題を提出する。原則、次回の講義のはじめに、採点済みの課題を返却する。 時間配分の目安：講義 (約60分) → 質疑応答 (15分) → 課題 (15分)
科目学習の効果 (資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは？	<ul style="list-style-type: none"> 機械工学の発展の歴史を概観する。 「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。 	事前：テキスト第1章を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
2	道具を作る (1) - ヒトと道具	<ul style="list-style-type: none"> 道具の歴史：ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ 農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具 	事前：テキスト第2章 2.1-2.3を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
3	道具を作る (2) - 作り方	<ul style="list-style-type: none"> 鋳造、塑性加工、粉末冶金、材料加工、生産加工 刀鍛冶、セラミックス、溶接・切断 	事前：テキスト第2章 2.4-2.5を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
4	モノの材料を知る (1) - 金属材料	<ul style="list-style-type: none"> 金属材料はなぜ素材たり得るか？ 鉄鋼の製造方法 	事前：テキスト第3章 (鉄つくりの変遷) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
5	モノの材料を知る (2) - セラミックス・ポリマー	<ul style="list-style-type: none"> セラミックス・ポリマーの構造 (金属と何が異なるか？) 高強度・機能性材料の話 	事前：テキスト第4章 (非金属材料) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
6	モノの材料を知る (3) - 新素材	<ul style="list-style-type: none"> 新素材と高度産業化社会 形状記憶、超伝導、ナノ材料 	事前：テキスト第5章 (新素材) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
7	ものづくり (1) - 母なる機械	<ul style="list-style-type: none"> 機械部品を作る機械 (工作機械の歴史) 機械時計、工具と運動、機械部品 	事前：テキスト第6章 (母なる機械) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
8	ものづくり (2) - 精密に加工する	<ul style="list-style-type: none"> 精度を追求する (コンピュータと工作機械) 精密加工、マシニングセル、ナノ加工 	事前：テキスト第7章 (精密に加工する) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
9	ものづくり (3) - 工場 (ファクトリー)	<ul style="list-style-type: none"> 世界が学ぶ・日本が誇る製造システム 無人化工場、デジタル屋台、トヨタ生産方式 	事前：テキスト第8章 (ファクトリー) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
10	大きな力を得る (1) - 車輪	<ul style="list-style-type: none"> 作業を補助する機械の歴史 車輪、滑車、てこ、歯車 	事前：テキスト第9章 (人間の作業を補助する機械) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
11	大きな力を得る (2) - 建設運搬機械	<ul style="list-style-type: none"> 巨大な力を得るためのアクチュエータ 油圧・水圧・空気圧機器、電動機 	事前：テキスト第10章 (力を伝える・増幅する機械) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
12	大きな力を得る (3) - パワーアシスト	<ul style="list-style-type: none"> アクチュエータの知能化とパワーアシスト パワードスーツ、電動アシスト自転車、人工筋肉 	事前：テキスト第11章 (機械の知能化) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
13	ミクロの機械 (1) - 精密機械	<ul style="list-style-type: none"> 小さくなることで変わる使い方 時計、携帯電話、計算機、テレビカメラ、情報機器 	事前：テキスト第12章 (精密機械) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
14	ミクロの機械 (2) - 小さく作る	<ul style="list-style-type: none"> 小さくすることで変わる物理の法則、加工法・アクチュエータ 微細加工、ナノテク、半導体製造、カーボンナノチューブ、微細気泡 	事前：テキスト第13章 (小さくつくる) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
15	ミクロの機械 (3) - 小さくて広大な世界	<ul style="list-style-type: none"> 半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 カプセル内視鏡、鞭毛モーター 	事前：テキスト第14章 (小さくて広大な世界) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養M1		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回提出する課題（各回 10 点満点）に基づき成績評価をする。 ・ 満点は 150 点（講義 15 回分）で、これを 100 点満点に換算する。 		
学生への メッセージ	機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか？ 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？ 近未来にどういう乗り物が実現されているか？ 等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。		
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1 号館の 3 階・4 階・5 階]		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席および遅刻・欠席の扱いは、次のルールを原則とする。 ・ 出席率 80%以上を成績評価の対象とする。 ・ 30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・ 遅刻は 2 回で欠席 1 回とみなす。 ※ 詳細は、初回に配布する『M科開講「科学技術教養 M1・M2」受講の際の注意』を熟読すること。 【フィードバック】 原則、講義の初めに、前回の課題（採点済み）を返却する。		

科目名	科学技術教養 (M2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岸本 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	人の活動に貢献し生活を豊かにする機械技術を理解するとともに、機械システムと社会や経済活動、生活・生命との関わりを理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を提供する。 Web上で配布する教科書 (PDF) を事前に読んでおく。 時間配分の目安 : Web教材を視聴する (約60分) ⇒課題作成 (20分) ⇒課題のPDF化と提出 (10分) <p>【留意点】担当教員によってWeb教材や提出方法が異なるので、アナウンスに注意すること。</p>
科目学習の効果 (資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは?	<ul style="list-style-type: none"> 機械工学の発展の歴史を概観する。 「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。 	事前: テキスト第1章 (機械工学とは) を読んでおく (2時間) 事後: 関連事項について調べる (2時間)
2	活動の源(1) - 動力・エネルギーの世界	<ul style="list-style-type: none"> 身近なエネルギー利用と動力の歴史 人力、蓄力、水力、風力、蒸気力 	事前: テキスト第2章 (動力) を読んでおく (2時間) 事後: 関連事項について調べる (2時間)
3	活動の源(2) - 発電	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー利用と発電 水力、風力、火力、地熱、原子力発電 	事前: テキスト第3章 (電力) を読んでおく (2時間) 事後: 関連事項について調べる (2時間)
4	乗り物(1) - エンジン	<ul style="list-style-type: none"> 熱工学とエンジンシステム 種々のエンジン (ガソリン等)、電気モータ 	事前: テキスト第4章 (エンジン) を読んでおく (2時間) 事後: 関連事項について調べる (2時間)
5	乗り物(2) - 輸送する	<ul style="list-style-type: none"> 交通と物流 自動車交通、船舶、鉄道 	事前: テキスト第5章 (輸送する) を読んでおく (2時間) 事後: 関連事項について調べる (2時間)
6	空間を移動する(1) - 空を飛ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 空中を飛ぶことができる機械の機能、種類、歴史と原理 飛行機、ヘリコプター、飛行船、揚力 	事前: テキスト第6章 (空を飛ぶ) を読んでおく (2時間) 事後: 関連事項について調べる (2時間)
7	空間を移動する(2) - 高速移動	<ul style="list-style-type: none"> 深海に潜ることができる機械の機能、種類、歴史と原理 しんかい 6500、深海探査、水圧、チタン合金、生命維持システム 	事前: テキスト第7章 (深海に潜る) を読んでおく (2時間) 事後: 関連事項について調べる (2時間)
8	空間を移動する(3) - 宇宙へ飛び立つ	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙空間に飛んでいける機械の機能、種類、歴史と原理 ロケット、スペースシャトル、宇宙ステーション、高真空、ロケットエンジン 	事前: テキスト第8章 (宇宙へ飛び立つ) を読んでおく (2時間) 事後: 関連事項について調べる (2時間)
9	物を測る	<ul style="list-style-type: none"> 測り方を共通にすることで広がる世界 度量衡と政治の関係、原器、ものさし、機械的測定 	事前: テキスト第9章 (物を測る) を読んでおく (2時間) 事後: 関連事項について調べる (2時間)
10	センサで測る	<ul style="list-style-type: none"> センサの発達と誤差との戦い センサ、センシング技術、計測と誤差 	事前: テキスト第10章 (センサで測る) を読んでおく (2時間) 事後: 関連事項について調べる (2時間)
11	制御する	<ul style="list-style-type: none"> 制御の成り立ちと発展、自動制御とは? 调速機、結果を見て制御する (フィードバック) 	事前: テキスト第11章 (制御するとは?) を読んでおく (2時間) 事後: 関連事項について調べる (2時間)
12	操る・抑える	<ul style="list-style-type: none"> サーボ機構とプロセス制御 ロボットアーム、ロケット、原子力発電、鉄鋼プラント 	事前: テキスト第12章 (操る・抑える) を読んでおく (2時間) 事後: 関連事項について調べる (2時間)
13	生命・生体に倣う機械(1) バイオエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> バイオエンジニアリング、生体工学の世界 生体の模倣と設計、鳥と飛行機、ハコブと低燃費自動車、サソリと多足ロボット 	事前: テキスト第13章 (バイオエンジニアリング) を読んでおく (2時間) 事後: 関連事項について調べる (2時間)
14	生命・生体に倣う機械(2) - 医療と健康	<ul style="list-style-type: none"> 人間を援ける医用工学、人間を癒す福祉工学の世界 人工臓器、福祉機器、健康機器、スポーツ機器 	事前: テキスト第14章 (医療と健康) を読んでおく (2時間) 事後: 関連事項について調べる (2時間)
15	生命・生体に倣う機械(3) - ヒューマノイド	<ul style="list-style-type: none"> 人間を測る、診る、まねる世界 生体計測、生体力学、医用診断装置、ヒューマノイドロボット 	事前: テキスト第15章 (ヒューマノイド) を読んでおく (2時間) 事後: 関連事項について調べる (2時間)

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回提出する課題（各回 10 点満点）に基づき成績評価をする。 ・ 満点は 150 点（講義 15 回分）で、これを 100 点満点に換算する。 			
学生への メッセージ	<p>機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか？ 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？ 近未来にどのような乗り物が実現されているか？ 等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。</p>			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1 号館の 3 階・4 階・5 階]			
備考	<p>出席および遅刻・欠席の扱いは、次のルールを原則とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席率（期限までの課題提出）80%以上を成績評価の対象とする。 <p>※ 詳細は、初回に配布する『M科開講「科学技術教養 M1・M2」受講の際の注意』を熟読すること。</p> <p>【フィードバック】 Teams の成績および Moodle の評価表で採点済みの課題の得点を確認することができる。</p>			

科目名	科学技術教養 (E1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片田 喜章
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにある電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどのような様子で暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	[オンライン (教材・課題提供型) 授業] 電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。 毎回、課題レポートが用意されている。課題レポートの提出はMoodle上で行う。課題レポートのフィードバックもMoodle上で行う。
科目学習の効果 (資格)	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ること、その性能をフルに引き出すことができる。 また、身近な電気製品のしくみを知ること、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史と電気回路の基礎	科学技術教養の意義 電磁気学の歴史、電気回路の基礎、抵抗と電気エネルギーの利用、消費電力、交流と直流	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
2	電池の構造と応用技術	交流と直流、電池の種類と電圧発生原理、1次電池と2次電池	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
4	半導体のお話	半導体とは何か、p形とn形、大規模集積回路、LED照明とは	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する。売電のしくみ。	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
6	様々な電子回路	電子回路の歴史、真空管と半導体・集積回路、代表的なアナログ電子回路	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
8	モールス通信から携帯電話へ	モールス通信からベルの電話へ、電話機と交換機のしくみ、アナログからデジタルへ、携帯電話とネットワークのしくみ	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
10	パソコン・スマートフォンの内部構造	構成要素と機能、ハードウェアの構成、ソフトウェアの役割、パソコン・スマートフォンの進化	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジやIHのしくみ	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
12	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、立体映像表示の原理と実例	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
13	インターネットのつながり	インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線LAN、ネットワークセキュリティ	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
14	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
15	マルチメディア技術	ICカード、公衆無線LAN、カーナビゲーションシステム、電子カルテ	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 授業の各回で課される課題レポートの合計点で評価する。
原則として課題レポートの提出率80%以上を成績評価の対象とする。

学生へのメッセージ 身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。

担当者の研究室等	1号館4階・5階の電気電子工学科教員室 責任者：片田（1号館4階）
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 原則として課題レポートの提出率80%以上を成績評価の対象とする。 課題提供はMoodle上で行い、課題レポート提出はすべてMoodle上で行う。 課題レポートには提出期日がある。 課題レポートの結果はMoodle上で個別に通知する。

科目名	科学技術教養 (E2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	片田 喜章
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後、電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに、現代社会において応用されている電気電子工学、通信情報工学の最新科学技術について講述する。
到達目標	電車のしくみや放送技術、携帯電話やレーザー光線の原理、最新のナノテクノロジー、ロボット工学や人工知能の話などもあり、最終的には電気を使った科学技術がどのようなしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	[対面授業(11/5より)]および[教材・課題提供型授業] 電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。 毎回、課題レポートが用意されている。課題レポートの提出はMoodle上で行う。課題レポートのフィードバックもMoodle上で行う。
科目学習の効果 (資格)	現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより、電気への理解を深め、これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。 また、携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史	科学技術教養の意義 磁石の利用、クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導、マクスウェル理論と電磁波の予言	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	発電の原理と発電所	電気エネルギーを発生させるしくみ、発電機、水力、火力 交流発生か直流か、50Hzと60Hz	テキストを復習する。1時間
3	再生可能エネルギー	太陽光発電、風力発電 地熱発電、海洋エネルギー、宇宙発電、エネルギー効率	テキストを復習する。1時間
4	送電・配電	電気を安定に送る、交流送電か直流送電、周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換、スマートグリッド	テキストを復習する。1時間
5	モータのしくみと電車	磁石と電流による力の発生、モータのしくみ 電車、リニア新幹線、電気ブレーキと電力回生	テキストを復習する。1時間
6	ネットワークセキュリティ	インターネット、サイバー攻撃、セキュリティ	テキストを復習する。1時間
7	電波と放送	電波の利用と電波法、ラジオ放送、テレビ放送、衛星放送、放送の進化	テキストを復習する。1時間
8	携帯電話のしくみ	固定電話から携帯電話へ、セルラーシステム、携帯電話のつながるしくみ、音声通信からデータ通信へ、携帯電話の進化	テキストを復習する。1時間
9	私たちの生活をささえる電気照明	エジソンによる電灯の発明、蛍光灯のしくみ、青色LEDの発明、LED照明	テキストを復習する。1時間
10	レーザーの発明	物質からの光放射、線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ、レーザーの特徴	テキストを復習する。1時間
11	光デバイス	さまざまな光デバイスの原理と応用など	テキストを復習する。1時間
12	進化するナノテクノロジー	半導体の動作原理、半導体集積回路の構造、集積回路技術の歴史と現状、スマートフォンからウェアラブル計算機へ、今後の発展	テキストを復習する。1時間
13	プログラマブル高速計算機の発達	チューリング機械、手回し計算機と計算尺、最初の電算機 ENIAC 弾道ミサイルの計算、金融計算から天気予報まで	テキストを復習する。1時間
14	ロボット工学	ロボットのシステム構成からロボット工学の過去・現在を解説	テキストを復習する。1時間
15	人工知能	知能・人工知能とは？ 人工知能の歴史、人工知能の分類、ルールベースとエキスパートシステム、機械学習と深層学習	テキストを復習する。1時間

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業の各回で課される課題レポートの合計点で評価する。 原則として課題レポートの提出率 80%以上を成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて、エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし、単純に噂などを鵜呑みにするのではなく、電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば、風評に惑わされることなく、対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。			
担当者の 研究室等	1号館4階・5階電気電子工学科教員室 責任者：片田（1号館4階）			
備考	原則として課題レポートの提出率 80%以上を成績評価の対象とする。 課題提供はMoodle 上で行い、課題レポート提出はすべて Moodle 上で行う。 課題レポートには提出期日がある。 課題レポートの結果は Moodle 上で個別に通知する。 テキストは Moodle からダウンロードできますが、電気電子工学科準備室(1号館5階)で印刷したものを配布します。大学に来たときに受取りに来てください。			

科目名	科学技術教養 (C1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的
 授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回目の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。

到達目標
 土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。

授業方法と留意点
 ・基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。
 ・歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。
 ・講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。
 2021年4月26日の第2回講義から、Teamsによる動画配信のオンライン授業となります。課題の提出もTeamsで行います。講義日までにTeamsへの登録を済ませて

科目学習の効果 (資格)
 産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網、上下水道、エネルギー施設、防災施設、憩い。・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人たち（建設会社、設計コンサルタント、公務員、メーカー・・・）	配布資料講義部分の予習と復習
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどのようにして重力に抵抗しているのか、構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ、水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間、地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 (計画学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 (上下水道学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会 (環境工学)	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目
 特になし

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布資料：科学技術教養 C1	都市環境工学科全教員	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特になし		
2			
3			

評価方法
 受講メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。※レポートは、授業のまとめとして毎回提出すること。期末試験は行わない。

(基準)	
学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。
担当者の研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 (C2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 謙
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	概要：いくつかのプロジェクトを例に、建設事業の流れに沿って、社会的な位置づけ、市民生活との関わりを解説する。第1回目の授業では、事業主体別にプロジェクトの流れを説明する。第2～3回目は、高速道路建設を例に地形の調査・土質の調査、環境の調査を解説する。第4～7回は高速道路を構成する橋、トンネル、道路の設計と施工の考え方を解説する。第8～15回は、安全で潤いのある社会を築く観点からダム・堰、堤防、浸水対策、ライフライン、公園・まちづくり、地震防災など身近なテーマを概説する。
到達目標	土木構造物の計画から施工管理までの流れの概要を理解し土木構造物と社会や経済活動、生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	講義は非対面型遠隔授業方式で行う。講義資料はICTツール(Moodle)を用いて、PPT+ナレーションを用いた動画とPDFを配布し、課題の回収も行う。当該資料を繰り返し視聴し学習するとともに課題に取り組み理解を深める。私たちの生活を支える社会基盤がどのようにして計画され、設計・施工されているかを事業の流れに沿って解説する。代表的な構造物や身近なテーマを取り上げ、安全で安心な社会を築くため、何が重要かを理解できるように講義を進める。
科目学習の効果 (資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているかなどの知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	社会基盤をつくる建設事業の流れ	国家プロジェクト、地域プロジェクト、民間主導プロジェクトなど事業主体別の建設の流れ、計画(意思決定)～調査～設計～施工の概要	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
2	高速道路建設の計画・調査・設計	国土開発や都市計画・地域計画との関連、一般道路や鉄道との関連、需要予測、予算、資本回収の考え方	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
3	建設に必要な調査①(地形の調査・土質の調査)	測量計測技術(地形測量・平板測量・水準測量・写真測量・GPS測量)、地盤の調査	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
4	建設に必要な調査②(環境の調査)	生態系・環境への影響、負荷の軽減策、排ガス規制と大気汚染など環境アセスメント	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
5	橋の設計と施工	コンクリート橋と鋼橋、橋の形式と適用支間長、景観設計、施工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
6	トンネル、半地下開削工法	山岳トンネル・都市地下トンネルの設計と施工、地山の強度と工法、半地下開削工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
7	道路の設計と施工	盛土形式と高架形式、道路の構造、道路舗装	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
8	ダム・堰の計画と施工	洪水への備え(治水、防災)、発電・灌漑・上水などの多目的ダム、ダムの構造と種類	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
9	堰・堤防の計画と設計・施工	洪水・土砂災害への備え(治山・治水、防災)、計画雨量、遊水池、親水施設	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
10	都市型洪水への備え	透水性舗装、都市大型地下貯槽、屋上緑化、排水と下水道設計、地下道・地下鉄の浸水対策	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
11	市民の日常生活を支えるライフライン	上下水道、水質管理、水質浄化、下水処理、電気、通信設備	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
12	市民の生活に潤いを与える公園・まちづくり	まちづくりとは、実現するものは、人とのかかわり、技術とのかかわり	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
13	市民の生活環境を守る	地球環境と生態系、人口増加と都市化・食糧生産、自然エネルギーの問題点、火力発電所と大気汚染・温暖化、原子力発電と放射能問題、温排水問題	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
14	震災から市民を守る	地震の種類と特性、地震に備える構造とは?制震構造と免震構造、ライフラインの耐震、避難体制、緊急地震速報	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
15	津波や台風・高潮から市民を守る	港湾施設・防波堤、津波、避難施設、避難誘導	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C2	都市環境工学科全教員	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
2				
3				

評価方法 (基準) 受講メモ 50%, レポート 50%の総合点で評価する。※レポートは、授業のまとめとして毎回提出すること。期末試験は行わない。

学生へのメッセージ 豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているか知り理解を深めていただければ幸いです。

担当者の研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 (T1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東 武大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	「信念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。 SDGs-9
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	Moodle を経由したオンライン授業で実施する。テキスト及び毎回の配布資料に基づく講義主体の授業とする。講義ごとに講義メモの提出を求めるとともに、レポート等の課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	数学・物理の発展に関する幅広い知識を得て知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	教科書 1 章の予習復習 (1 時間)
3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	教科書 1 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)
5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)
6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	教科書 2 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
7	波の数理 (音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
8	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
9	電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返して現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マクスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
10	レーザー光	光を発するもの (光源) には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード (LED) が急速に普及している。本講では人が創り出した「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
11	X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)

			線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。																	
	12	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題(1 時間)																
	13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	教科書 5 章の予習復習(1 時間)																
	14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	教科書 5 章の予習復習(1 時間)																
	15	ガリレイの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	教科書 5 章の予習復習、レポート課題(1 時間)																
関連科目	数学・物理の全科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>科学技術教養 T1(教科書は初回講義時に配布)</td> <td>基礎理工学機構</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	科学技術教養 T1(教科書は初回講義時に配布)	基礎理工学機構		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	科学技術教養 T1(教科書は初回講義時に配布)	基礎理工学機構																		
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	講義メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。																			
学生への メッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。																			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1 号館 2 階, 3 号館 3 階(学期途中で 5 号館 1 階へ移転予定), 8 号館 2 階]																			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回 1 時間以上かけること。講義メモは毎回採点して返却する。																			

科目名	科学技術教養 (T2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。 SDGs-9
到達目標	時間や位置とともに変化する量をどのように表すのか、そして、その変化の割合がいったい何を意味し、現代科学につながっていくのかを、歴史的背景も込めて、知る。
授業方法と留意点	座学・説明中心の講義となるので、遅刻・私語は厳禁である。 状況によっては Teams・Moodle 等を用いた遠隔授業を行う場合もある。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	微積分学が成立するまでの話	ニュートンとライブニッツという2つ異なる個性が微積分学の成立にどう影響したか、その歴史を概観する。	課題・レポート
	2	文字式から単位のない実数の世界へ	微積分の厳密化の過程で、記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。	課題・レポート
	3	ヒルベルトのテーゼ: 無矛盾ならば存在する	微積分学が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。	課題・レポート
	4	現代科学は力 (ちから) F から始まった	ニュートンの運動の法則 $F=ma$ は、なんだか良くわからない力 F を使って、なんだか良くわからない質量 m を定めた。どちらもわかっていないのに、大丈夫なのだろうか。	課題・レポート
	5	万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か	ニュートンが発見した「万有引力の法則」は、巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず、人工衛星や、飛行機、果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは、自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい、人類の科学の発展にとって、計り知れないほど幸運であった。	課題・レポート
	6	破壊力、衝撃力はどちらも同じ意味か	物体がもつ「運動の勢い」を考えると、2つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい、他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は50年間議論した。その結論はどうだったのか。	課題・レポート
	7	蒸気機関と熱力学の誕生 (1)	18世紀イギリス産業革命と熱機関。蒸気機関の改良・熱効率・熱素説。	課題・レポート
	8	蒸気機関と熱力学の誕生 (2)	カルノー登場。カルノーサイクルとそれを用いる思考実験。カルノーの定理の発見。	課題・レポート
	9	蒸気機関と熱力学の誕生 (3)	カルノーからケルビン、そしてクラウジウスに至る道。エネルギー保存則 (熱力学第一法則)。熱力学第二法則とその表現。熱力学的エントロピー。	課題・レポート
	10	角の3等分について (1)	歴史的背景、方程式と結びつける、ユークリッド作図、作図できる数・できない数	課題・レポート
	11	角の3等分について (2)	60度は3等分できない、体の考え方	課題・レポート
	12	角の3等分について (3)	体の拡大と作図できる数、定理の証明	課題・レポート
	13	ニュートンからアインシュタインへ	慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等々アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。	課題・レポート
	14	特殊相対論――原理はたったの2つだけ	2つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。	課題・レポート
	15	一般相対論――重力の謎	ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか?	課題・レポート

関連科目	数学・物理の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 T2		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義メモ(小テスト)50%, レポート50%で評価する。			
学生への メッセージ	講義の進め方は先生毎に異なります。まずは teams にアクセスして、各先生の指示に従ってください。1、2、3 回目の島田担当の講義は、Moodle を用いた遠隔授業です。			
担当者の 研究室等				
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は毎回1時間以上かけること。			

科目名	キャリアデザイン	科目名 (英文)	Introduction to Career Design
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1501a3		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義には積極的な態度で受講すること。 講義は教室での対面講義と Web (Teams) によるリアルタイム講義を並行して行う。学生は受講形態を選択できるので自身の事情に応じて時間割通りに講義を受けること。なお、対面講義は初回の教室と同様で、Teams コードは 学籍番号:21G001~21G093 は水野クラス : tkoluv9 学籍番号:21G094~21G802 上野山クラス : mie9io6 ※再履修生は水野クラスで受講してください。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か? 何故必要なのか? ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前: 0.5 時間)
2	さあ始めよう! 大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること(事前: 0.5 時間)
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後: 0.5 時間) ・講義で課された課題に取り組むこと(事後:2 時間)
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと(事後: 2 時間)
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs とは何かについて予習しておくこと(事前: 0/5 時間) ・グループで課題に取り組むこと(2 時間)
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること(事後: 0.5 時間)
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後: 0.5 時間)
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後: 0.5 時間)
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前: 1 時間)
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後: 0.5 時間)
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後: 0.5 時間)
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前: 1 時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(事前: 1 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後: 0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(1 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後: 0.5 時間)
15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5 時間) ・期末レポートを作成すること(1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(30%)、グループ課題(20%)、最終レポート(50%)で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	教育イノベーションセンター(上野山) 教育イノベーションセンター(水野)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。 3. 講義の連絡事項、課題の提出方法は各教員のTeamsから確認してください。 Teams コードは 学籍番号:21G001~21G093 は水野クラス : tkoluv9 学籍番号:21G094~21G802 上野山クラス : mie9io6 ※再履修生は水野クラスで受講してください。			

科目名	インターンシップ基礎	科目名 (英文)	Introduction to Internship
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1502a3		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
---------	--

到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
------	---

授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 講義はWeb (Teams) によるリアルタイム講義を行う。 teams コードは 学籍番号:21G001～21G093 は水野クラス : 7d91vs0 学籍番号:21G094～21G802 上野山クラス : g35fwga ※2020年度以前の学生は水野クラスで受講してください。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(事前:1時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後:0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後:2時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる(事後:0.5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる(0.5時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後1時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後:0.5時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後:0.5時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前:0.5時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前:1時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる(事前:0.5時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
学生への メッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)
備考	グループワークを用いて学修をすすめるので能動的態度で参加すること

科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment Design I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1352a1		

授業概要・目的
この科目は学生が「協働作業」「意思決定」「創造的志向」「探求」など、エンプロイアビリティ（将来社会に出て仕事をする際に必要な能力）の獲得の必要性を認識するための科目である。また、大教室での多くの学生と共に話を聴き、理解しようとする態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方に気づくようになることが期待される。

到達目標
講義、個人ワーク、グループワークを通じて、目標と手段、意思決定や探求に向けて試行錯誤することができるようになることが目標である。

授業方法と留意点
「学びを通じて学び方を学ぶ」姿勢をもつことを心がける。また、講義で出た課題を実践し、振り返ることが課題となることもあるため、メモを取る習慣を身に付ける。
この科目は1年生向けの科目で、2021年度入学生のみ履修ができる。
また、講義は当面は Teams を利用したリアルタイム型講義と教室受講ができるハイフレックス形式で行う。
Teams コード：51q6o2g

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して	・講義内容を振り返ること (0.5 時間)
2	私が NO.1 プロジェクト①	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1 になる」ための計画を立て、実践する	・設定した課題を実践すること (2 時間)
3	私が NO.1 プロジェクト②	・講義 3 で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること (0.5 時間)
4	仕事で使う分析スキルについての解説	・定量、定性分析の概説、定量分析の 3 つの場面の概説	・講義内容を振り返ること (0.5 時間)
5	私が NO.1 プロジェクト③最終振り返り	・講義 3 で設定した個別の課題の結果の振り返り、共有	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること ・第一回課題「NO.1 プロジェクトの振り返り」レポートを作成すること (2 時間)
6	数字を用いて意思決定を行う①	・損益分岐点を使った意思決定方法を学ぶ	・講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
7	数字を用いて意思決定を行う②	・機会費用と埋没費用を使った意思決定、重み付けを使った意思決定の方法を学ぶ	・講義の内容を振り返り、日常生活で活かせる場面を考えること (1 時間)
8	議論を進めるファシリテーションの基本	・グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること (1 時間)
9	創造的思考の枠組みを使って議論する	・クレイジープレスト、スマッシュアップなどアイデアを拡散する方法を学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること (1 時間)
10	グループでリサーチプロポーザル (研究計画書) を作ろう	・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザル (研究計画書) の作成」	・グループで課題に取り組むこと (2 時間)
11	担当講師のキャリアについて①	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
12	担当講師のキャリアについて②	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
13	担当講師のキャリアについて③	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
14	グループで研究計画書を発表	・講義 10 で取り組んだ課題をグループごとに発表する	・自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること ・第二回課題「グループレポート」提出 (0.5 時間)
15	講義のまとめ (担当: 教育イノベーションセンター)	・エンプロイメントデザイン I の振り返り	・講義全体を振り返ること ・第三回課題「講義の最終レポート」を作成すること (2 時間)

関連科目 キャリアデザイン I・キャリアデザイン II・エンプロイメントデザイン II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 毎回のミニツペーパー (15%)、グループワーク (10%)、グループレポート (10%)、個人レポート 3 回 (65%) を総合的に判断する。

学生への 自身の将来の職業選択を考えるために、様々な課題を真摯な態度で聴いてほしい。

メッセージ	また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切にし、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井） 7号館3階 教育イノベーションセンター（上野山） 7号館3階 教育イノベーションセンター（水野）
備考	教科書：各回、必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回、必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。 中間課題の評価基準・書き方に関する注意事項は講義内またはポータルサイトで伝達する。

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名 (英文)	Employment Design II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1353a1		

授業概要・目的	外部講師（本学卒業生を含む）をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てることが期待される。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。なお、本講義は Teams と用いてリアルタイム Web 講義を実施する。学生は時間割通りに下記の Teams コードから暮らすに入り、該当日の講義チャンネルに立てられた会議室から受講すること。 Teams コード：v2yvhd
科目学習の効果（資格）	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(教育イノベーションセンター)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点(特に聴く態度)について	・事前学修：シラバスを熟読すること(1時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
2	警察官として、生きていく。大阪府警察は、この街を、人を、そしてキミの人生を、全力で守り続ける。(警察官)	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介いたします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	社会人として転職4回で5社目に勤務しながら週末にNPOも立ち上げたばかりが、20歳から40歳まで何を悩んでどう生きてきたかの事例紹介(社会起業家)	・ゲストのキャリアの履歴とその節目で感じたこととお話いただきます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
4	SDGs で世の中を変える～未来の子どもたちのためにやるべきこと～	SDGs について、ゲスト企業の取り組みについてお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
5	社会問題と対峙する仕事 -ソーシャルワーカーについて- (摂南大学 OB・ソーシャルワーカー)	①講師の学生生活から学んだことを伝える。グループワークを実施。 ②社会問題が他人事ではなく、自分事であることに気付く個人ワークやグループワーク、実際にあった事例を編集して伝える、事例検討を行います。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
6	「ビジネス創造に必要な力」を実例から学ぶ(IT/役員)	・現役のビジネスパーソンが日々実践している 「ビジネスに必要な力」を実例を通じて解説します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
7	【業務告白】フツのサラリーマンが PR の仕事の経験から感じたこと(グループ広報)	自身のキャリア・経験談など、2社3職種から学んだことを中心にお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間) ・中間レポートを作成すること(1.5時間)
8	My proud work しあわせのまちづくり?主役は地域住民!『こどもからおとしよりまで笑顔あふれる地域づくり』の支え方?(社会福祉協議会職員)	・地域住民にもっとも近い社会福祉法人である社会福祉協議会の仕事と理念についてお話しします	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
9	プログラマーを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで(摂大 OB/NPO 法人代表)	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタンププログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
10	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大 OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
11	信用金庫の仕事と期待される人財(金融/人材開発)	仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
12	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ(摂南大学 OB/経営者)	・社会人となる学生へ、体験談を通じて企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
13	ともに強いまちを創る～公務員という選択～(摂南大学 OB/市役所職員)	・仕事を通して社会や地域に貢献ができる、自らが成長できる、公務員のやりがいについて熱くお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
14	先人(企業家)に学ぶ仕事への心構え(商工会議所/職員)	・企業家から学ぶ、仕事的心構えについてお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)

	15	講義のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：講義全体を振り返り、ノートにまとめること(1.5時間) ・事後学修：最終課題を作成すること(2.5時間)
関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の感想レポート(30%)、中間レポート1回(30%)、期末レポート1回(40%)を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、撰大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。			
担当者の 研究室等	教育イノベーションセンター(上野山) 教育イノベーションセンター(水野)			
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。			

科目名	ビジネスインターンシップ I	科目名 (英文)	Business Internship I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA2505a3		

授業概要・目的	<p>この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感 を直接肌で感じる事が期待される。インターンシップ I では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。</p> <p>なお、講義では担当者の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>SDG s 4-4 SDG s 8-6</p>
到達目標	<p>就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。</p> <p>インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>インターンシップの現場につながる講義 (演習を含む) であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。</p> <p>なお、講義は対面による講義と Teams を用いたリアルタイム型講義を同時進行で行う。</p> <p>各自の事情や希望に合わせて受講形式を選択すること (受講形式は固定しなくともよい)。</p> <p>対面で受講する場合は初回の教室と同じ 1152、Teams で受講する場合は 3fz1pgv からクラスに入り、講義日のチャンネルで受講すること。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	<ul style="list-style-type: none"> ・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：インターンシップとは何かについて考えること (1 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (2 時間)
2	企業組織・ビジネスの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと (3 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (1 時間)
3	実習参加企業について	<ul style="list-style-type: none"> ・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：興味のある会社や自治体などの組織について調べること (1 時間) ・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること (3 時間)
4	効果的なプレゼンテーションとは	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：効果的なプレゼンテーションについて考えること (1 時間) ・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること (3 時間)
5	課題のプレゼンテーション①	<ul style="list-style-type: none"> ・第 4 回目の課題をプレゼンテーションする 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：第 4 回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること (3 時間) ・事後学修：プレゼンテーションのポイントをまとめる (1 時間)
6	社会人のマナー①	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること (2 時間) ・事後学修：配付されたテキストを精読すること (2 時間)
7	社会人のマナー②	<ul style="list-style-type: none"> ・文書でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (2 時間) ・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること (2 時間)
8	社会人のマナー③	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (2 時間) ・事後学修：マナーの大切さを再度考えること (2 時間)
9	履歴書を記入する	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ用の履歴書を記入する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと (2 時間) ・事後学修：講義を振り返り、履歴書を書き直すこと (2 時間)
10	グループワーク①	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること (2 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (2 時間)
11	グループワーク②	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：グループでプレゼンテーションを行う準備をすること (2 時間) ・事後学修：自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること (2 時間)
12	事前訪問について	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問のマナーと準備について 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること (2 時間) ・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること (2 時間)
13	課題のプレゼンテーション②	<ul style="list-style-type: none"> ・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (2 時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること (2 時間)

	14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること(2時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(2時間)
	15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修：インターンシップIで学んだことをまとめること(2時間) ・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること(3時間)
関連科目	この科目を履修する学生は、「インターンシップII(企業等の組織での就業体験)」を履修することが望まれる。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	各課題55%とレポート45%(企業研究のPPTと企業研究レポート25%、最終レポート20%)を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	<p>インターンシップの流れは以下のとおりである。 ※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始(予定)</p> <p>インターンシップ先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。</p>			
担当者の研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)			
備考	<p>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。</p> <p>インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。</p>			

科目名	ビジネスインターンシップⅡ	科目名 (英文)	Business Internship II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA3506a3		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 なお、直前学修および実習の有無・形態に関してはインターンシップⅠで伝達する。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。

科目学習の効果 (資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。
--------------	-------------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	直前学修② 6月19日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習：マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修：事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間)
8	事後学修① 9月18日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
9	事後学修② 9月18日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
10	事後学修③ 9月25日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
11	事後学修④ 9月25日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
12	事後学修⑤ 10月2日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	・事前学習：実習記録簿を見直してくること(1時間)
13	事後学修⑥ 10月2日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修：インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間)
14	事後学修⑦ 10月16日(土) (予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	・事前学修：全員スーツ着用で受講するため、身だしなみを再度確認すること *学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること
15	事後学修⑧ 10月16日(土) (予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ(予定)	

関連科目	インターンシップⅠ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など)(40%)を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	1. 「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 2. 「インターンシップⅠ」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)			
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。 なお、振り返りの課題(体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など)は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。			

科目名	キャリアプラン	科目名 (英文)	Career Plan
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1507a3		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 この科目を通じて、学生は、学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材(人財)になるために何をすべきかを考えられるようになることが期待される。 なお、授業担当者の人材業界での業務経験・起業経験を講義に活かす講義の内容となる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の特性や強みについて、他者に伝えられることができる。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義では能動的な姿勢が求められる。 なお、講義は対面による講義と Teams を用いたリアルタイム型の講義の同時進行で行う。 各自の事情に合わせて、受講形式を選択すること。 対面講義での受講は初回と同じ教室で、Teams で受講する場合は i4whgry から入り、各日の講義チャンネルから受講すること。
科目学習の効果(資格)	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意思が伝えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説 ・就職活動のスケジュールを知る	事後学習：配付資料を熟読すること(1時間)
2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	事後学習：配付資料を熟読し、どんな業界があるのかを調べること(1時間)
3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	事後学習：配付資料を熟読し、どんな会社があるのかを調べること(1時間)
4	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	事後学習：配付資料を熟読し、自分のワークスタイルを考えること(1時間)
5	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	事後学習：配付資料を熟読し、グループワークに取り組むこと(2時間)
6	ビジネス研究⑥	・グループでプレゼンテーション	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと(1時間)
7	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーション	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと(1時間) 事後学習：他グループのプレゼンテーションを振り返ること(0.5時間)
8	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	事後学習：配付資料を熟読し、自分の未来について考えること(1時間)
9	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	事後学習：配付資料を熟読し、自分について振り返ること(0.5時間)
10	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	事後学習：配付資料を熟読し、自分の特性について考えること(0.5時間)
11	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	事後学習エントリーシートを作成する準備をしておくこと(1時間)
12	グループでのコミュニケーション①	・グループディスカッションの種類を知る ・グループディスカッションを実際に体験してみる	事後学習：配付資料を熟読し、自身のグループへの貢献の仕方を考えること(1時間)
13	グループでのコミュニケーション②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習：配付資料を熟読し、グループへの貢献の仕方を考えること(1時間)
14	面接における対人コミュニケーション	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	事後学習：配付資料を熟読し、対面での対人コミュニケーションについて考えること(1時間)
15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無いか確認すること(1時間)

関連科目	・キャリアデザイン、インターンシップ基礎、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、教的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義での提出物(30%)、グループ課題(20%)、期末レポート(50%)を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。
担当者の研究室等	教育イノベーションセンター(水野研究室)
備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。

科目名	職業能力開発	科目名 (英文)	Human Resources Development
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1356a1		

授業概要・目的	<p>この科目を通じて、学生は</p> <p>【目的】 社会生活およびビジネスに必要な社会的基礎力の向上を目指す。 社会人・職業人に求められる社会的基礎力<論理的な思考力、新しいアイデアを生み出す発想力、チームワーク力の向上を目指すことが期待される。</p> <p>【概要】 日本の産業の変遷の視点からビジネスパーソンに求められる能力の変化について理解し、その能力の獲得方法について考える。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<p>1. 日本の産業の変遷を理解する</p> <p>2. ビジネスにおいて求められる力を理解し、その獲得のために行動変容を起こせるようになる</p> <p>3. チームで成果物を創出する</p> <p>4. 自らのやる気の源泉を考えられるようになる</p>
授業方法と留意点	<p>配布資料とスライドに基づいて講義を行う。授業ではグループワークを多用するので能動的に自ら考えて答えを出すように心掛けること。</p> <p>なお、当面の間は Teams を使用して時間割通りにリアルタイム講義を行う。</p> <p>Teams コード : t0wvj7i</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>ビジネス社会で必要な能力を習得し、活用することができる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス:講義概要と講義の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 講義目的と講義内容を説明し、講義の進め方、成績評価の方法について解説する。 職業の定義を知る 	<p>事前学習：シラバスを熟読すること (0.5 時間)</p> <p>事後学修：講義の内容、進行方法を理解すること (0.5 時間)</p>
2	キャリア理論を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> キャリアに関する様々な理論を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習：自身のキャリアについて考えておくこと (0.5 時間) 事後学修：多数ある理論から興味を持ったものについて調べること (0.5 時間)
3	日本の職業指導の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 日本の作業の変遷と求められた能力の変化を知る 	<p>事前学習：現在の社会で求められる能力について考えておくこと (0.5 時間)</p> <p>事後学修：配布レジュメを熟読し、日本の産業の変遷について復習すること。(0.5 時間)</p>
4	グループワークのウォーミングアップ	<ul style="list-style-type: none"> グループ分け グループで企画を考える 	<p>事前学習：自らのグループを確認し、グループへの貢献の仕方を考えておくこと (0.5 時間)</p> <p>事後学修：グループで課題に取り組むこと (0.5 時間)</p>
5	グループワークの提示	<ul style="list-style-type: none"> グループワークの提示 グループで工程管理を考える 	<p>事前学習：リサーチプロポーザルとは何かを調べておくこと (0.5 時間)</p> <p>事後学修：グループで課題に取り組むこと (2.5 時間)</p>
6	マーケット感覚を身につける	<ul style="list-style-type: none"> 市場化する社会について考える 	<p>事前学習：第 5 回でやる課題に取り組むこと (0.5 時間)</p> <p>事後学修：配布資料を見直し、市場化する社会の中で自分の出来ることについて考えること (0.5 時間)</p>
7	営業力向上計画	<ul style="list-style-type: none"> 「営業力とは何か」について個々で考える 	<p>事前学習：営業職について調べておくこと (0.5 時間)</p> <p>事後学修：「営業力とは何か」について個々で考えること (0.5 時間)</p>
8	グループ発表	<ul style="list-style-type: none"> 講義④の課題のグループ発表 	<p>事前学修：発表の準備をしておくこと (0.5 時間)</p> <p>事後学修：自らの発表を内省すること (0.5 時間)</p>
9	ワークモチベーション研究の歴史を学ぶ①	<ul style="list-style-type: none"> ワークモチベーション研究の歴史とその内容を知る 	<p>事前学習：自らのやる気の源泉について考えておくこと (0.5 時間)</p> <p>事後学修：講義の内容を踏まえ、自分のやる気の源泉について考えること (0.5 時間)</p>
10	ワークモチベーション研究の歴史を学ぶ②	<ul style="list-style-type: none"> ワークモチベーション研究の歴史とその内容を知る 	<p>事前学習：他者はどんな時にやる気が出ると思うのか考えること (0.5 時間)</p> <p>事後学修：講義の内容を踏まえ、自分のやる気の源泉について考えること (0.5 時間)</p>
11	ライフデザイン①	<ul style="list-style-type: none"> 自らのライフデザインを考える 	<p>事前学習：自らの学生生活を内省すること (0.5 時間)</p> <p>事後学修：講義内で出された課題を作成すること (0.5 時間)</p>
12	ライフデザイン②	<ul style="list-style-type: none"> 自らのライフデザインを考える 	<p>事前学習：自らの将来について考えること (0.5 時間)</p> <p>事後学修：配布された資料を見直し、講義を振り返ること (0.5 時間)</p>
13	問題解決の事例を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 実社会で起こった問題の解決事例とその対処について知る 	<p>事前学習：「問題」とは何か考えること (0.5 時間)</p> <p>事後学修：講義で扱った内容以外でも実ビジネスの事例を収集すること (0.5 時間)</p>
14	内省する技術	<ul style="list-style-type: none"> 今までの学生生活を振り返って今後活かす方法を知る 	<p>事前学修：今までの学生生活を振り返り、他者に伝えられるようにまとめておくこと (0.5 時間)</p> <p>事後学修：講義内容を踏まえ、自らの学生生活を内</p>

	15	講義のまとめ	・講義の振り返り	省すること(0.5時間) 最終課題作成：課題を作成すること。提出物等、出し忘れが無い確認すること(0.5時間) 事後学習：講義内容を振り返ること(0.5時間)
関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業での提出物(30%)、グループワーク(20%)、期末レポート(50%)を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	私語厳禁。遅刻厳禁。授業中の入退室禁止。飲食等の禁止。スマホ・携帯の使用禁止。居眠り禁止。これらに違反した学生には退室を命ずることがある。 講義では自ら考えて答えを出すこと。そのためにはまず自分の頭で考えることを心がけることで、皆さんの就業力を伸ばすの方法を共に考える。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター 水野研究室			
備考	講義に関する質問には積極的に対応します。			

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1509a3		

授業概要・目的	<p>数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。</p> <p>講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。</p>
到達目標	<p>授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと。</p>
授業方法と留意点	<p>11月5日より対面で実施します。それまでの実施方法は指定された問題を自力で解く→解答解説や解説動画による正誤確認と誤答訂正→他の問題にチャレンジ (任意) という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。問題集に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>対面授業では、「問題を解く」⇒講師が問題を解説⇒正誤確認 最後の15分ほどを小テストで理解度確認という流れです。 (小テストはMoodleを使用します) 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習 30分以上を目安とする
	2	計数問題①	割合と比	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	3	計数問題②	割合の応用問題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	4	計数問題③	損益算	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	5	計数問題④	速度算①	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	6	計数問題⑤	速度算②	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	7	復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習 30分以上を目安とする
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習 30分～1時間程度を目安とする
	9	論理問題①	集合	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	10	論理問題②	場合の数	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	11	論理問題③	確率	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	12	論理問題④	表の読み取り	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	13	論理問題⑤	推論①	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	14	論理問題⑥	推論②	全ての問題を事前に復習 30分以上を目安とする
15	総合テスト	これまでの全範囲	全ての問題を事前に復習 30分～1時間程度を目安とする	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
学生への	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。

メッセージ	毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター
備考	Teams コードは、コピー&ペーストでの入力をオススメします。

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1509a3		

授業概要・目的	<p>数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。</p> <p>講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。</p>
到達目標	<p>授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと。</p>
授業方法と留意点	<p>11月5日より対面で実施します。それまでの実施方法は指定された問題を自力で解く→解答解説や解説動画による正誤確認と誤答訂正→他の問題にチャレンジ (任意) という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。問題集に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>対面授業では、「問題を解く」⇒講師が問題を解説⇒正誤確認 最後の15分ほどを小テストで理解度確認という流れです。 (小テストはMoodleを使用します) 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習 30分以上を目安とする
	2	計数問題①	割合と比	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	3	計数問題②	割合の応用問題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	4	計数問題③	損益算	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	5	計数問題④	速度算①	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	6	計数問題⑤	速度算②	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	7	復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習 30分以上を目安とする
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習 30分～1時間程度を目安とする
	9	論理問題①	集合	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	10	論理問題②	場合の数	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	11	論理問題③	確率	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	12	論理問題④	表の読み取り	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	13	論理問題⑤	推論①	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	14	論理問題⑥	推論②	全ての問題を事前に復習 30分以上を目安とする
15	総合テスト	これまでの全範囲	全ての問題を事前に復習 30分～1時間程度を目安とする	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
学生への	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。

メッセージ	毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター
備考	Teams コードは、コピー&ペーストでの入力をオススメします。

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1509a3		

授業概要・目的
 数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の20年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。

到達目標
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと

授業方法と留意点
 11月4日以降は対面形式で実施します。指定された問題を自力で解く→講師が問題を解説→正誤確認と誤答訂正という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。また授業最後の小テストで理解度を確認します。(小テストはMoodleを使用します) 毎回異なる内容に取り組むため、取り上げた問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行うことがあります。

科目学習の効果 (資格)
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習 (約1時間)
2	計数問題①	割合と比	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約1時間)
3	計数問題②	割合の応用	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約1時間)
4	計数問題③	損益算	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約1時間)
5	計数問題④	速度算①	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約1時間)
6	計数問題⑤	速度算②	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約1時間)
7	総復習①	総復習①	計数問題全範囲の復習 (約2時間)
8	中間テスト	中間テスト	計数問題全範囲の復習 (約2時間)
9	論理問題①	集合	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約1時間)
10	論理問題②	場合の数	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約1時間)
11	論理問題③	確率	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約1時間)
12	論理問題④	表の読み取り・資料解釈	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約1時間)
13	論理問題⑤	推論①	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約1時間)
14	論理問題⑥	推論②	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約1時間)
15	総合テスト	これまでの全範囲	全範囲の復習 (約2時間)

関連科目
 コミュニケーション能力開発、就職実践基礎、キャリアデザイン

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
 「小テスト 40%」「中間テスト・最終テスト 50%」「SmartSPI 10%」

学生へのメッセージ
 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、どんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等
 2号館2階 ラーニングセンター

備考
 所属クラスごとに Teams および Moodle の登録先が異なります。クラス確定後に所属先を連絡しますので再登録を行ってください。

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名 (英文)	Development of Communication Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1510a3		

授業概要・目的
 社会に必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの4技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。講師陣は航空業界で多種多様な価値観に触れた経験や、様々な業界で実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。

到達目標
 高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。
 SDGs4
 SDGs10

授業方法と留意点
 授業は理論と実践で構成されています。コミュニケーション能力は理論を知ったうえで、アウトプットする訓練が必要です。実践については授業の性質上、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションになることもあります。対面時は必ずマスク着用、適度な距離を保つことに留意してください。基本はオンライン（同時双方向）、状況によっては対面になることもあります。情報は Microsoft Teams に発信しますので、必ず確認するようにしてください。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	シラバス熟読
2	傾聴力、質問力を高める	聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。
3	ロジカルコミュニケーション	論理的に会話するための基礎を学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:1時間)。
4	コミュニケーションの技法	相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:1時間)。
5	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの基礎について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:1時間)。
6	プレゼンテーション②	プレゼンテーション(個人プレゼンの準備)	講義内容を復習し、実践すること(目安:1時間)。
7	プレゼンテーション③	プレゼンテーション(個人プレゼン完成) ※評定あり	講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ作成を行うこと(目安:2時間)。
8	言語理解①	社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。	今までの範囲を復習しておくこと(目安:30分)。
9	言語理解②	社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。
10	言語理解③	社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり	講義内容を復習し、実践すること(目安:1時間)。
11	グループディスカッション①	グループディスカッションの基礎について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。
12	グループディスカッション②	グループディスカッションの演習(基本編)で学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで実践を行う(目安:1時間)。
13	面接技術	面接技術を学ぶ。 ※評定あり	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。個人で実践を行う(目安:1時間)。
14	ダイバーシティ・コミュニケーション	多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:2時間)。
15	総合演習	これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。 ※評定あり	全ての範囲を確認しておくこと(目安:2時間)

関連科目 キャリアデザインⅡ, 数的能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 毎回の小レポート30点、プレゼンテーション発表15点、言語理解20点、グループディスカッション10点、総合演習25点

学生へのメッセージ 人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかなければなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきたいと思います。

担当者の 研究室等	
備考	

科目名	ビジネスマナー I	科目名 (英文)	Business Manners I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1511a3		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	配布する資料をもとに授業を展開する。毎回、事前学修・事後学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション -あいさつの重要性 (理論と実践)	<ul style="list-style-type: none"> 授業のオリエンテーション 授業のルール あいさつの真の意味とは 正しい基本姿勢を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: ビジネスマナーとは何かを考える。(30分) 事後学修: ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。(90分)
2	仕事の進め方と組織活動	<ul style="list-style-type: none"> 定型業務と非定型業務 コスト意識とエコ活動 仕事の基本の8つの意識 話し方と聞き方 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 企業のエコ活動について調べる。(30分) 事後学修: 仕事とは何か、まとめる。(90分)
3	目標設定とPDCA サイクル	<ul style="list-style-type: none"> 目標設定 (MBO) PDCA とは チームと個人の役割 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: PDCA について調べる。(30分) 事後学修: あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめる (400字以上)。(90分)
4	スケジュールと出張業務	<ul style="list-style-type: none"> スケジュールの作り方 業務としての出張-YTT 方式- 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: あなたの1週間予定表を作成する。(30分) 事後学修: あなたの予定表作成について振り返り、まとめる。(90分)
5	ビジネスの場での敬語表現	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な敬語表現の復習 ビジネスの場での使用方法-TP0 をもとに- 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 敬語プリント①をする。(30分) 事後学修: ケーススタディプリントをする。(90分)
6	電話応対	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスフォンの扱い方 5W2H から 6W3H へ 簡潔メモの作り方 不在処理と伝言 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 電話応対プリントをする。(30分) 事後学修: ロールプレイングを繰り返す。(90分)
7	来客応対	<ul style="list-style-type: none"> 組織図と対応 簡単な応対から不在処理や重複処理まで 名刺交換 ※対面授業に切り替え 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 来客応対プリント①をする。(30分) 事後学修: 来客応対プリント②をする。(90分)
8	ハウ・レン・ソウ	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスにおける「報連相」 指示の受け方 業務の優先順位 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる。(30分) 事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。(90分)
9	ビジネス文書の基本①	<ul style="list-style-type: none"> 社外文書が基本 商取引文書と社交文書の相違 社内文書と社外文書の種類 ファイリング 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: ビジネス文書始める前にする。(30分) 事後学修: ビジネス文書②をする。(90分)
10	ビジネス文書の基本②	<ul style="list-style-type: none"> 実践 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: ビジネス文書③をする。(30分) 事後学修: ビジネス文書④をする。(90分)
11	ビジネス通信の基本	<ul style="list-style-type: none"> 通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 作成上の注意点 郵便・宅配便の知識 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 郵便の知識プリント①をする。(30分) 事後学修: メール文書を作成する。(90分)
12	法的業務	<ul style="list-style-type: none"> 押印と印鑑の意味 内容証明 個人情報保護 (P マーク) コンプライアンス 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習: コンプライアンスについて調べる。(30分) 事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成する。(400字以上) (90分)
13	設営の基本	<ul style="list-style-type: none"> YTT 方式からの業務遂行 確認の必要性 他部署とのコミュニケーションの必要性 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。(30分) 事後学修: 設営事例をまとめる。(90分)
14	慶弔と贈答	<ul style="list-style-type: none"> 慶弔時の基本的マナー 「式」について 業務としての贈答 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 慶弔・贈答プリント①をする。(30分) 事後学修: 慶弔・贈答プリント②をする。(90分)
15	協働とコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 外国人同僚・異文化への対応 働き方とキャリア開発 公共の場でのマナー 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考える。(30分) 事後学修: 共生関係について自らの考えをまとめる。(90分)

関連科目 キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
-----	----	-----	-----	------

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のワーク（事前学修、事後学修等）(50%)、期末試験レポート課題（50%）を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席6回以上）は評価できないことがある。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室（石井）			
備考	総学習時間の目安は60時間程度。事前学修・事後学修の課題については、授業中にフィードバックを行う。			

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IS02315a1		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業、景気の影響を避けて生きることではできません。それらを決定・介入するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。こうしたことは、企業経営に関わろうとする経営学部の皆さんにはより深刻な事実として突きつけられる事柄でしょう。 この授業では、有権者である学生の皆さんに政治と政治学についての基本的な知識・技能を与えることを一番大きな目的としています。政治学の中でも、政治体制論、政治過程論、国際政治にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	この授業を通じて学生は、政治・政治学についての基本的な知識・技能を獲得し、いかなる法・政策・立候補者が望ましいか理性的・論理的に判断し、政治に積極的に参加する中でそれを表明していくという政治・政治学に関する思考力・判断力・表現力を育成することができます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーに政治問題に関する意見を論理的に書いてもらったり、予習・復習テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識・技能を獲得し、そのメリット・デメリットを判断し、政治的意見として表明することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～政治とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と政治・政治参加の必要性について授業します。	事前学習：政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
2	政治と権力①～政治の条件とは何か?	身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
3	政治と権力②～正当な権力とは何か?	マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性とは何かを考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
4	国家と政治システム～システムとは何か?	政治システムとはどういう構造になっているのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第六章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
5	デモクラシー～デモクラシーの条件とは何か?	さまざまな政治システムがあるなかで、デモクラシーとはいかなる政治システムなのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
6	マスメディアと世論①～政治文化と初期の世論研究	世論と政治文化について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
7	マスメディアと世論②マスメディアの役割とは何か?	マスメディアの役割とそのさまざまな効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
8	選挙と政党～中選挙区制から小選挙区比例代表並立制へ	日本の選挙制度を中心に、選挙と政党制について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
9	国会と内閣～議院内閣制と今世紀の行政改革	行政改革による内閣の権限強化を中心に、日本の国会と内閣について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
10	国際政治の二つの観点①～アイディアリズム	国際連盟から国際連合への経過について授業します。また国際連盟から離脱したときの日本の状況について映像資料を見て考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第七章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
11	国際政治の二つの観点②～リアリズム	東西冷戦の基盤となるリアリズムの考え方について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
12	冷戦終結後の日本外交①～	冷戦終結後の新しい国際秩序を開くこ	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マ

		湾岸戦争とその結果	とになった湾岸戦争と日本政府の対応について授業します。	メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジюме・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	13	冷戦終結後の日本外交②～米国同時多発テロとアフガニスタン戦争、イラク戦争	米国同時多発テロをきっかけに生じたアフガニスタン戦争と後のイラク戦争と日本の新法作成について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジюме・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	14	冷戦終結後の日本外交③～安全保障体制の転換	集団的自衛権の行使の閣議決定を中心に、近年の日本外交の転換について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジюме・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習:来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジюме・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく(30分)。 事後学習:試験に向けて教科書やノート、レジюмеを読み直す(時間の許す限り)。
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の政治学概論Ⅱ、社会学、国際政治など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社
	2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社
	3			
評価方法(基準)	レポート(約70%)と小テスト(約30%)で評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。			
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。			
担当者の研究室等	11号館10階 和田講師室			
備考	予習・復習テストについては次回の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。			

科目名	世界の政治	科目名 (英文)	World Politics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IS02316a1		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業、景気の影響を避けて生きることにはできません。それらを決定・介入するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。こうしたことは、企業経営に関わろうとする経営学部の皆さんにはより深刻な事実として突きつけられる事柄でしょう。 この授業では、有権者である学生の皆さんに政治と政治学についての基本的な知識・技能を与えることを一番大きな目的としています。政治学の中でも、日本政治史、地方自治、政治哲学にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
---------	--

到達目標	この授業を通じて学生は、政治・政治学についての基本的な知識・技能を獲得し、いかなる法・政策・立候補者が望ましいか理性的・論理的に判断し、政治に積極的に参加する中でそれを表明していくという政治・政治学に関する思考力・判断力・表現力を育成することができます。
------	---

授業方法と留意点	新型コロナウイルスが猛威を振るっているため、Microsoft Teams によるオンライン授業で行います。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識・技能を獲得し、そのメリット・デメリットを判断し、政治的意見として表明することができます。
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～「近代」とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と「近代(modern)」とは何を意味するのかについて授業します。	事前学習：今まで勉強してきた歴史の教科書などを再読し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
2	戦前日本の政治史①～明治・大正の政党の活動と大日本帝国憲法	政党史を中心に大正デモクラシーまでの政治史を概観し、大日本帝国憲法の政治的な重要箇所について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第二回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
3	戦前日本の政治史②～軍部の台頭	映像資料を見ながら、日本が日中戦争・太平洋戦争へと向かっていった原因の一つである軍部を考えます。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第三回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
4	戦前日本の政治史③～満州国の設立	映像資料を見ながら、なぜ日本がワシントン体制から脱して満州国設立へと向かって行ってしまったのかを考えます。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第四回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
5	戦後日本の政治史①～GHQによる日本の初期占領政策	GHQの日本占領政策と連立政権について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第五回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
6	戦後日本の政治史②～インフレ対策と逆コース	冷戦の激化にともない、GHQの日本占領政策が転換していった過程について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第六回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
7	戦後日本の政治史③～日本の独立と吉田茂の退場	サンフランシスコ平和条約締結周辺の経過と吉田保守本流の外交方針について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第七回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
8	戦後日本の政治史④～新日米安保条約と安保闘争	岸内閣を中心に、新日米安保条約の改定が望まれた理由や安保闘争の経過について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第八回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
9	戦後日本の政治史⑤～沖縄返還問題と非核三原則	佐藤内閣を中心に、当時の沖縄返還をめぐる諸問題について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第九回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
10	戦後日本の政治史⑥～派閥の強化と田中派の隆盛	自民党の派閥政治の特徴と田中派が勢力を拡大していく過程について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第十回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
11	戦後日本の政治史⑦～田中派から竹下派への禪譲	田中派から竹下派へと自民党の権力が移行していった 80 年代の自民党政治について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第十一回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
12	戦後日本の政治史⑧～政治	55 年体制が崩壊し、細川連立内閣が成	事前学習：レジュメの該当箇所 (第十二回) を読み、

		改革と55年体制の崩壊	立した90年代の政治史を授業します。	マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。																
	13	戦後日本の政治史⑩～小泉内閣から民主党内閣へ	小泉内閣の外交や郵政民営化法案を中心に授業します。	事前学習:レジュメの該当箇所(第十三回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。																
	14	戦後日本の政治史⑩～安倍内閣の諸政策	国家の自衛権とは何かを解説しながら、安倍内閣における集団的自衛権の行使の閣議決定の内容について授業します。	事前学習:レジュメの該当箇所(第十四回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。																
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習:来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく(30分)。 事後学習:試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す(時間の許す限り)。																
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の政治学概論、社会学、国際政治など。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>近代日本政治史</td> <td>坂野潤治</td> <td>岩波書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>現代日本政治史</td> <td>廣澤孝之</td> <td>晃洋書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	近代日本政治史	坂野潤治	岩波書店	2	現代日本政治史	廣澤孝之	晃洋書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	近代日本政治史	坂野潤治	岩波書店																	
2	現代日本政治史	廣澤孝之	晃洋書房																	
3																				
評価方法(基準)	レポート(70%)とMicrosoft Formsによる小テスト(30%)で評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。																			
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の日本の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の研究室等	11号館10階 和田講師室																			
備考																				

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1. Sharing information about yourselves.	Reading, vocabulary building. Speaking and listening activities. Pair and group work.	Follow instructions as provided in class.
3	Unit 1	Writing. Basic form of a paragraph. Using "but" "so" and "because" in college English. Sharing your writing and asking questions.	Follow instructions as provided in class.
4	How was your golden Week Talking about the recent past.	Speaking, listening and note taking. Speaking strategies, especially follow up questions.	Follow instructions as provided in class.
5	Unit 2. Friends.	Reading, vocabulary building. Speaking and listening activities. Pair and group work.	Follow instructions as provided in class.
6	Unit 2	Writing. Ready to write. Preparing ideas. Editing and adding detail. Re-writing. Sharing your writing and asking questions.	Follow instructions as provided in class.
7	Unit 3 "Special friends"	Reading, vocabulary building. Speaking and listening activities. Pair and group work.	Follow instructions as provided in class.
8	Unit 3	Writing. Using the skills taught so far. Sharing your writing and feedback.	Follow assessment instructions
9	Unit 4 Shopping. Yes, we are going to do unit 6 before unit 5.	Reading, vocabulary building. Speaking and listening activities. Pair and group work.	Follow assessment instructions.
10	Unit 4	Writing. Using the skills taught so far. Sharing your writing and feedback.	Follow instructions as provided in class.
11	Unit 6. Jobs. Yes, we are going to do unit 6 before unit 5.	Reading, vocabulary building. Speaking and listening activities. Pair and group work.	Follow instructions as provided in class.
12	Unit 6	Writing. Using the skills taught so far. Sharing your writing and feedback.	Follow instructions as provided in class.
13	Unit 5 The future: Plans for the summer	Reading, vocabulary building. Speaking and listening activities. Pair and group work.	Follow instructions as provided in class.
14	Unit 6: Summer plans.	Writing. Using the skills taught so far. Sharing your writing and feedback.	Follow assessment instructions.
15	Review and feedback.		Follow assessment instructions.

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Face to Face (second edition) ISBN 978477363919	Dale Fuller/ Corey Fuller	MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (participation, speaking and communication skills, various written activities, such as paragraphs, interaction and reflection reports) 80%		
学生への メッセージ	I'm looking forward to teaching you this year. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.		
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Course introduction Unit 1</td> <td>Syllabus will be explained. Textbook layout and purposes will be discussed. Getting to Know You</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1 continued</td> <td>Getting to Know You</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 2</td> <td>Food & Drink</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 3</td> <td>Your Neighborhood</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 4</td> <td>Daily Routines</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 5</td> <td>Entertainment</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Review /Preparation / Quiz</td> <td></td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Midterm Assessment Activity /Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 6</td> <td>Friends & Dating</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 7</td> <td>Fashion & Style</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 8</td> <td>University Life</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 9</td> <td>Shopping</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 10</td> <td>Travel</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Review /Preparation / Quiz</td> <td></td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>End of Term Assessment Activity / Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Course introduction Unit 1	Syllabus will be explained. Textbook layout and purposes will be discussed. Getting to Know You		2	Unit 1 continued	Getting to Know You	Homework	3	Unit 2	Food & Drink	Homework	4	Unit 3	Your Neighborhood	Homework	5	Unit 4	Daily Routines	Homework	6	Unit 5	Entertainment	Homework	7	Review /Preparation / Quiz		Homework	8	Midterm Assessment Activity /Quiz			9	Unit 6	Friends & Dating	Homework	10	Unit 7	Fashion & Style	Homework	11	Unit 8	University Life	Homework	12	Unit 9	Shopping	Homework	13	Unit 10	Travel	Homework	14	Review /Preparation / Quiz		Homework	15	End of Term Assessment Activity / Quiz		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Course introduction Unit 1	Syllabus will be explained. Textbook layout and purposes will be discussed. Getting to Know You																																																																	
2	Unit 1 continued	Getting to Know You	Homework																																																																
3	Unit 2	Food & Drink	Homework																																																																
4	Unit 3	Your Neighborhood	Homework																																																																
5	Unit 4	Daily Routines	Homework																																																																
6	Unit 5	Entertainment	Homework																																																																
7	Review /Preparation / Quiz		Homework																																																																
8	Midterm Assessment Activity /Quiz																																																																		
9	Unit 6	Friends & Dating	Homework																																																																
10	Unit 7	Fashion & Style	Homework																																																																
11	Unit 8	University Life	Homework																																																																
12	Unit 9	Shopping	Homework																																																																
13	Unit 10	Travel	Homework																																																																
14	Review /Preparation / Quiz		Homework																																																																
15	End of Term Assessment Activity / Quiz																																																																		
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>The English Gym</td> <td>Jon Charles</td> <td>Oak Hills Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%																																																																		
学生へのメッセージ	Bring your textbook to every class. Let's enjoy speaking in English together!																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Course introduction	Syllabus will be explained. Textbook layout and purposes will be discussed.	
2	Unit 1	It's nice to meet you	Homework
3	Unit 1	It's nice to meet you	Homework
4	Unit 2	Who are they talking about?	Homework
5	Unit 2	Who are they talking about?	Homework
6	Unit 3	When do you start?	Homework
7	Unit 3	When do you start?	Homework
8	Unit 4	Where does this go?	Homework
9	Unit 4	Where does this go?	Homework
10	Unit 5	How do I get there?	Homework
11	Unit 5	How do I get there?	Homework
12	Unit 6	What happened?	Homework
13	Unit 6	What happened?	Homework
14	Review / Preparation / Quiz		
15	End of Term Assessment Activity / Quiz		

関連科目	他の英語科目
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand 1, Fifth Edition	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生へのメッセージ	Do your best to succeed in the online environment!
担当者の研究室等	非常勤講師室(前期3号館2階/後期7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、自己紹介	テキストの予習と単語の学習
	2	Unit 1 I'm a Big Fan (1)	Be 動詞 (1)	テキストの予習と単語の学習
	3	Unit 1 I'm a Big Fan (2)	Be 動詞 (2)	テキストの予習と単語の学習
	4	Unit 2 He's Kissing Her (1)	現在進行形 (1)	テキストの予習と単語の学習
	5	Unit 2 He's Kissing Her (2)	現在進行形 (2)	テキストの予習と単語の学習
	6	Unit 3 I Don't Have Any Money (1)	現在形・肯定文と否定文 (1)	テキストの予習と単語の学習
	7	Unit 3 I Don't Have Any Money (2)	現在形・肯定文と否定文 (2)	テキストの予習と単語の学習 確認テストに向けての学習
	8	確認テスト	Unit 1-3の内容のテスト	テキストの予習と単語の学習
	9	Unit 4 What Do You Do Every Day? (1)	現在形・疑問文 (1)	テキストの予習と単語の学習 暗唱テストの予習
	10	Unit 4 What Do You Do Every Day? (2)	現在形・疑問文 (2)	テキストの予習と単語の学習
	11	Unit 5 Wow! Is That Your Car? (1)	代名詞 (1)	テキストの予習と単語の学習
	12	Unit 5 Wow! Is That Your Car? (2)	代名詞 (2)	テキストの予習と単語の学習
	13	Unit 6 Be Careful! (1)	命令文 (1)	テキストの予習と単語の学習
	14	Unit 6 Be Careful! (2)	命令文 (2)	テキストの予習と単語の学習 まとめテストに向けての学習
	15	まとめテスト・復習	これまでの内容の復習とまとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Charge	Robert Hickling、市川泰弘	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% テスト 30% 課題 50%
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	毎回課題を提出することを心掛けてください。
-----------	-----------------------

担当者の研究室等	3号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	Moodle を使ったオンデマンド型の授業を行う。毎回課題を提示し、期限までに提出を求め、提出期限後に解答や解説を提示して行く。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、自己紹介、プリント教材を使った学習	テキストの予習と単語の学習 テキストの予習をしながら単語帳を作ること (以下同様)
	2	Fashion (1)	名詞	テキストの予習と単語の学習
	3	Fashion (2)/ Companies (1)	名詞/ 代名詞	テキストの予習と単語の学習
	4	Companies (2)	代名詞	テキストの予習と単語の学習
	5	Business Trips (1)	自動詞・他動詞	テキストの予習と単語の学習
	6	Business Trips (2)/ Transportations and Commuting (1)	自動詞・他動詞/ 助動詞	テキストの予習と単語の学習
	7	Transportations and Commuting (2)	助動詞	テキストの予習と単語の学習
	8	Marketing, Sales and Products (1)	不定詞・動名詞	テキストの予習と単語の学習
	9	Marketing, Sales and Products (2)/ Offices and Supplies (1)	不定詞・動名詞/ 場所・動きを表す前置詞	テキストの予習と単語の学習
	10	Offices and Supplies (2)	場所・動きを表す前置詞	テキストの予習と単語の学習
	11	Meetings and Presentations (1)	時間を表す前置詞	テキストの予習と単語の学習
	12	Meetings and Presentations (2)/ Art (1)	時間を表す前置詞/ 形容詞・副詞	テキストの予習と単語の学習
	13	Art (2)	形容詞・副詞	テキストの予習と単語の学習
	14	復習	前期の内容の復習	テキストの予習と単語の学習
	15	まとめの課題	前期内容のまとめの課題	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Grip	本多 吉彦、Robert Hickling Hickling	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% Moodle の提出課題 80%
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	毎回期限までに課題を提出するように心がけてください。また共通課題は英語課題は計画的に進めて、必ず期限までに終わるようにしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (3 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions.
2	Conversation Strategies	Students will learn how to make comments, follow-up questions, and how to add detail in their speaking. Pair and group work activities will be used.	Follow instructions as provided in class.
3	Unit 1	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
4	Unit 1	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
5	Unit 2	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
6	Unit 2	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
7	Unit 4	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
8	Unit 4	Students will complete a small group written task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instructions
9	Midterm Assessment	Students will complete activities reviewing what they have studied in units 1, 2 & 4 and demonstrate that they understand the material.	Follow assessment instructions.
10	Unit 5	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
11	Unit 5	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
12	Unit 6	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
13	Unit 6	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
14	Review Lesson	Students will complete a small group written task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instruction
15	Final Assessment	Students will complete activities reviewing what they have studied in units 1, 2, 4, 5 & 6 and demonstrate that they understand the material.	Follow assessment instructions.

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 1 (ISBN 9780194603126)	Susan Stempleski	Oxford
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	I'm looking forward to teaching you this year. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。※専任教員は「その他質問等は学生アワーにて対応する。」と記入する。			

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction オリエンテーション	Introductions, explaining the class.	No preparation required. 準備は必要ありません。
	2	Unit 1 Lifestyles.	Asking people about themselves. Telling about yourself.	Pages 4 - 5.
	3	Unit 1 Lifestyles continued.	Exchanging personal information.	Pages 6 - 8.
	4	Unit 2 Student Life.	Describing your student life.	Pages 10 - 11.
	5	Unit 2 Student Life continued.	Describing daily routines.	Pages 12 - 14.
	6	Unit 3 Hobbies and interests.	Talking about people's interests.	Pages 16 - 17.
	7	Unit 3 Leisure time and abilities.	How you spend your free time.	Pages 18 - 20.
	8	Test of units 1-3. Special topic.	Test of units 1-3. Special topic.	Review of grammar and vocabulary of units 1 - 3.
	9	Unit 4 Neighborhoods.	Talking about your hometown.	Pages 24 - 25.
	10	Unit 4 Neighborhoods continued.	Neighborhood facilities.	Pages 26 - 28.
	11	Unit 5 Directions and travel	How to describe where things are.	Pages 30 - 31.
	12	Unit 5 Direction and travel continued.	Finding places when you travel.	Pages 32 - 34.
	13	Unit 6 Shopping and money.	Expressions for money and travel.	Pages 36 - 37.
	14	Unit 6 Shopping and money continued.	Talking about shopping.	Pages 38 - 39.
15	Test of units 4 - 6.	Test of units 4 - 6.	Review of grammar and vocabulary of units 4 - 6.	

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Breakthrough Plus 1 (2nd edition)	Miles Craven	MacMillan ISBN: 9781380003089
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	中間テスト: 25% 期末テスト: 25% 小テスト(2): 20% 出席授業参加態度: 30%。 Online Classes Grading: 成績評価: リスニングテスト 30%、レポート 25%、授業勉強、宿題 45%。
----------	--

学生へのメッセージ	オンライン授業にはZoomを使用します。ZoomのURL、パスワード、IDは1週目の摂南WebFolderにありますのでご確認ください。 We will use Zoom for online classes. Please find the Zoom URL, password and ID in Setsunan Web Folder in Week 1 folder. 良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(前期3号館2階/後期7号館2階)
----------	-------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ※専任教員は「・・・行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。」とする。
----	---

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェンバーンター
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IE1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達する
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction オリエンテーション	Introductions, explaining the class..	No preparation required. 準備は必要ありません。
2	Unit 1 Lifestyles.	Asking people about themselves.	Telling about yourself. Pages 4 - 5.
3	Unit 1 Lifestyles continued.	Exchanging personal information.	Pages 6 - 8.
4	Unit 2 Student Life.	Describing your student life.	Pages 10 - 11.
5	Unit 2 Student Life continued.	Describing daily routines.	Pages 12 - 14.
6	Unit 3 Hobbies and interests.	Talking about people's interests.	Pages 16 - 17.
7	Unit 3 Leisure time and abilities.	How you spend your free time.	Pages 18 - 20.
8	Mid-term test of units 1-3.	Special topic. Mid-term test of units 1-3.	Special topic. Review of grammar and vocabulary of units 1 - 3.
9	Unit 4 Neighborhoods.	Talking about your hometown.	Pages 24 - 25.
10	Unit 4 Neighborhoods continued.	Neighborhood facilities.	Pages 26 - 28.
11	Unit 5 Directions and travel.	How to describe where things are.	Pages 30 - 31.
12	Unit 5 Direction and travel continued.	Finding places when you travel.	Pages 32 - 34.
13	Unit 6 Shopping and money.	Expressions for money and travel.	Pages 36 - 37.
14	Unit 6 Shopping and money continued.	Talking about shopping.	Pages 38 - 39.
15	Test of units 4 - 6.	Test of units 4 - 6.	Review of grammar and vocabulary of units 4 - 6.

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Breakthrough Plus 1, 2nd edition	Miles Craven	MacMillan ISBN: 9781380003089
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	Short tests and quizzes 20 percent, speaking test 20 percent, presentation 25 percent, final test 30 percent, class participation 5 percent
学生へのメッセージ	Please bring the textbook, pen, pencil, paper and a dictionary (or use an online dictionary on your cell phone) to every class.
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期3号館2階/後期7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達する
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting a stranger.
2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
3	Unit 1: Describing hobbies (using present perfect continuous tense). Complete textbook vocabulary, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
4	Unit 1: Describing hobbies (using present perfect continuous tense). Complete textbook vocabulary, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
5	Unit 2: Describing TV shows (using indirect questions). Complete textbook vocabulary, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
6	Unit 2: Describing TV shows (using indirect questions). / Units 1&2 test. Complete textbook vocabulary, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
7	Unit 3: Talking about art	Students will discover, practice	Complete online homework

		(using passive tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	(https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	8	Unit 3: Talking about art (using passive tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	9	Unit 4: Describing people (using relative clauses). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	10	Unit 4: Describing people (using relative clauses). / Units 3&4 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	11	Unit 5: Discussing technology (using infinitives and gerunds). Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	12	Unit 5: Discussing technology (using infinitives and gerunds). Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	13	Unit 6: Describing events (using the past perfect tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	14	Unit 6: Describing events (using the past perfect tense) / Units 5 & 6 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback.
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English level 'maintenance' methods.

	using 'will' and 'going to'.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Smart Choice: 4th Edition Level 2 Student Book with Online Practice (ISBN: 978-0-19-406114-8)	Wilson, K.
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	Class participation / Online homework sc3e.ouonlinepractice.com (10%) Unit review tests (3x30%) In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.		
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.		
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内 で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・グアイース
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IE1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction オリエンテーション	Introductions, explaining the class..	No preparation required. 準備は必要ありません。
	2	Grammar of Questions 1 Small Talk	Open Questions, General Verbs	Review
	3	Grammar of Questions 2 Small Talk	Open Questions, Verb "To Be"	Review
	4	Grammar of Questions 3 Small Talk	Yes/No Questions	Review
	5	Grammar of Questions 4 Small Talk	Else/ What movie did you watch?	Review
	6	Grammar of Questions 5 Small Talk	How Questions	Review
	7	Grammar of Questions 6 Small Talk	Questions about preferences	Review
	8	Mid-term test. Grammar of Questions Small Talk	Mid Term Test. Grammar of Questions	Review
	9	Unit 1 Small Talk	Introductions	Review
	10	Unit 1 Small Talk	Introductions	Review
	11	Unit 2 Small Talk	Exchanging personal information	Review
	12	Unit 2 Small Talk	Exchanging personal information	Review
	13	Unit 3 Small Talk	Offering and Accepting Food and Drink	Review
	14	Unit 3 Small Talk	Offering and Accepting Food and Drink	Review
	15	Test of units 1-3 and small talk questions	Test of units 1-3 and small talk questions	

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	International Express Beginner	Bryan Stephens	Oxford
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席授業参加態度: 50%. 中間テスト: 25% 期末テスト: 25%
-----------	--

学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IE1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業、提出物、評価方法の説明	————
	2	Unit1	be 動詞	教科書 p14-16
	3	Unit2	一般動詞 (現在)	教科書 p. 17-19
	4	Unit3	一般動詞 (過去)	教科書 p. 20-22
	5	Unit4	進行形	教科書 p. 23-25
	6	Unit5	未来形	教科書 p. 26-28
	7	Unit6	助動詞	教科書 p. 29-31
	8	Unit7	名詞、冠詞	教科書 p. 32-34
	9	Unit8	代名詞	教科書 p. 35-37
	10	Unit9	前置詞	教科書 p. 38-40
	11	Unit10	形容詞、副詞	教科書 p. 41-43
	12	Unit11	比較	教科書 p. 44-46
	13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	習った内容は何度も復習して覚えよう
	14	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	習った内容は何度も復習して覚えよう
15	総合復習	定期試験対策	教科書など前期範囲一通り	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Primer <Revised Edition> 基礎からの英語入門 <改訂新版>	佐藤哲三、アベ松伸二、愛甲ゆかり、小手川巧光、福島孝夫、重久睦美、村上美穂、新彰	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集) 改訂新版	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (70%)、授業中の小テスト (5%)、平常点 (提出物、授業への参加、貢献度含め 25%) の点数を総合評価します。また、日頃の授業態度も重視します。 進行状況により授業内容が変わる事があります。 オンライン授業期間中は単語の小テストは行いません。また最後までオンライン授業が続いた場合は期末試験は行わず、課題提出 (100%) で評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	「明るく、元気で感動を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction オリエンテーション テキスト Getting to Know You, Class Rules, Evaluation, etc.	Introduction exercises Getting to Know You	Students should study the content of the day's lesson
	2	単語テスト Exercises - Getting to Know You Pt 2	次回の単語テストの予習 テキスト Getting to Know You	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	単語テスト Exercises - Food & Drink	次回の単語テストの予習 テキスト Eating Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	単語テスト Exercises - Your Neighbourhood	テキスト Living Conditions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises - Daily Routines	次回の単語テストの予習 テキスト Personal Schedules	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	単語テスト Exercises - Daily Routines	次回の単語テストの予習 テキスト Personal Schedules	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	単語テスト Exercises - Entertainment	次回の単語テストの予習 テキスト Movies, TV, Music	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	単語テスト Exercises - Friends & Dating	テキスト Relationships, Going Out	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises - Fashion & Style	次回の単語テストの予習 テキスト Dress for Success	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	単語テスト Exercises - University Life	次回の単語テストの予習 テキスト Education, Club Activities	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	単語テスト Exercises - University Life	テキスト Student Life	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises - Shopping	次回の単語テストの予習 テキスト Clothes, Supermarket, On-line	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	13	単語テスト Exercises - Travel	次回の単語テストの予習 テキスト Travel Experience	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	単語テスト Exercises - Summer Vacation	テキスト Summer Activities	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review Test and Feedback Session	Feedback session	Students should prepare for review test

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press ISBN 978-4-9909741-0-7
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	25% of Grade on unit assignments
------	----------------------------------

(基準)	25% of Grade on end-of-unit quizzes 50% of Grade on Review Test (in-class Final Test)
学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Re-orientation and The Recent Past. How was your summer?	Orientation. Re-familiarising yourself with the course and the participants.	Follow orientation instructions.
	2	Unit 7	Giving and understanding opinions. Reading, vocabulary building. Speaking strategies, especially follow-up questions.	Follow instructions as provided in class.
	3	Unit 7	Writing. Sharing your writing and feedback.	Follow instructions as provided in class.
	4	Unit 8	Music. Giving and understanding opinions. Reading, vocabulary building. Speaking strategies, especially follow-up questions.	Follow instructions as provided in class.
	5	Unit 8 and Cultural festivals	Writing. Sharing your writing and feedback.	Follow instructions as provided in class.
	6	Unit 9 character	Discussing personality. Writing and interaction report.	Follow instructions as provided in class.
	7	Unit 10: money	Asking and answering questions regarding money and its importance. Writing an interaction report.	Follow instructions as provided in class.
	8	Street Food	Talking about food from your hometown. Writing interaction report.	Follow assessment instructions
	9	Interesting things about your hometown.	Places of interest in your hometown discussion and interaction report.	Follow assessment instructions.
	10	Unit 11 Situations in life.	Discussing various situations in life.	Follow instructions as provided in class.
	11	Travel	Making a travel plan.	Follow instructions as provided in class.
	12	Unit 12	Plans for the future.	Follow instructions as provided in class.
	13	Your plans for the winter break.	Conversation and discussion and interaction report.	Follow instructions as provided in class.
	14	How was your winter break.	Conversation discussion and interaction report.	Follow assessment instructions.
15	Review. Feedback. Saying goodbye.		Follow assessment instructions.	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Face to Face (2nd Edition)	Dale Fuller/ Corey Fuller	MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	---

学生への	I'm looking forward to teaching you this year.
------	--

メッセージ	Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Course Review Taking about summer break Start Unit 11</td> <td>Summer Vacation</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 11</td> <td>Summer Vacation continued</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 12</td> <td>Family & Home</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 13</td> <td>Eating Out</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 14</td> <td>Work (Part-time Jobs & Future Career)</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 15</td> <td>Marriage & Family Life</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Review /Preparation / Quiz</td> <td></td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Midterm Assessment Activity /Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 16</td> <td>People</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 17</td> <td>Sightseeing in Japan</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 18</td> <td>Holidays & Special Days</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 19</td> <td>Big Issues</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 20</td> <td>Future Plans</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Review /Preparation / Quiz</td> <td></td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>End of Term Assessment Activity / Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Course Review Taking about summer break Start Unit 11	Summer Vacation		2	Unit 11	Summer Vacation continued	Homework	3	Unit 12	Family & Home	Homework	4	Unit 13	Eating Out	Homework	5	Unit 14	Work (Part-time Jobs & Future Career)	Homework	6	Unit 15	Marriage & Family Life	Homework	7	Review /Preparation / Quiz		Homework	8	Midterm Assessment Activity /Quiz			9	Unit 16	People	Homework	10	Unit 17	Sightseeing in Japan	Homework	11	Unit 18	Holidays & Special Days	Homework	12	Unit 19	Big Issues	Homework	13	Unit 20	Future Plans	Homework	14	Review /Preparation / Quiz		Homework	15	End of Term Assessment Activity / Quiz		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Course Review Taking about summer break Start Unit 11	Summer Vacation																																																																	
2	Unit 11	Summer Vacation continued	Homework																																																																
3	Unit 12	Family & Home	Homework																																																																
4	Unit 13	Eating Out	Homework																																																																
5	Unit 14	Work (Part-time Jobs & Future Career)	Homework																																																																
6	Unit 15	Marriage & Family Life	Homework																																																																
7	Review /Preparation / Quiz		Homework																																																																
8	Midterm Assessment Activity /Quiz																																																																		
9	Unit 16	People	Homework																																																																
10	Unit 17	Sightseeing in Japan	Homework																																																																
11	Unit 18	Holidays & Special Days	Homework																																																																
12	Unit 19	Big Issues	Homework																																																																
13	Unit 20	Future Plans	Homework																																																																
14	Review /Preparation / Quiz		Homework																																																																
15	End of Term Assessment Activity / Quiz																																																																		
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>The English Gym</td> <td>Jon Charles</td> <td>Oak Hills Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	Bring your textbook to every class. Let's enjoy speaking in English together!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IE1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Course Review and orientation</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 7</td> <td>I'd love that job</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 7</td> <td>I'd love that job</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 8</td> <td>What's playing?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 8</td> <td>What's playing?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 9</td> <td>What are you going to do?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 9</td> <td>What are you going to do?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 10</td> <td>How much is this?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 10</td> <td>How much is this?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 11</td> <td>How do you make it?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 11</td> <td>How do you make it?</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 12</td> <td>Listen to the music</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 12</td> <td>Listen to the music</td> <td>Homework</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Review / Preparation / Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>End of Term Assessment Activity / Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Course Review and orientation			2	Unit 7	I'd love that job	Homework	3	Unit 7	I'd love that job	Homework	4	Unit 8	What's playing?	Homework	5	Unit 8	What's playing?	Homework	6	Unit 9	What are you going to do?	Homework	7	Unit 9	What are you going to do?	Homework	8	Unit 10	How much is this?	Homework	9	Unit 10	How much is this?	Homework	10	Unit 11	How do you make it?	Homework	11	Unit 11	How do you make it?	Homework	12	Unit 12	Listen to the music	Homework	13	Unit 12	Listen to the music	Homework	14	Review / Preparation / Quiz			15	End of Term Assessment Activity / Quiz		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Course Review and orientation																																																																		
2	Unit 7	I'd love that job	Homework																																																																
3	Unit 7	I'd love that job	Homework																																																																
4	Unit 8	What's playing?	Homework																																																																
5	Unit 8	What's playing?	Homework																																																																
6	Unit 9	What are you going to do?	Homework																																																																
7	Unit 9	What are you going to do?	Homework																																																																
8	Unit 10	How much is this?	Homework																																																																
9	Unit 10	How much is this?	Homework																																																																
10	Unit 11	How do you make it?	Homework																																																																
11	Unit 11	How do you make it?	Homework																																																																
12	Unit 12	Listen to the music	Homework																																																																
13	Unit 12	Listen to the music	Homework																																																																
14	Review / Preparation / Quiz																																																																		
15	End of Term Assessment Activity / Quiz																																																																		
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Firsthand 1, Fifth Edition</td> <td>Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Firsthand 1, Fifth Edition	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Firsthand 1, Fifth Edition	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<table border="1"> <tr> <td>全学共通英語課題</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>TOEIC Bridgeのスコア</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)</td> <td>70%</td> </tr> </table>			全学共通英語課題	20%	TOEIC Bridgeのスコア	10%	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	70%																																																										
全学共通英語課題	20%																																																																		
TOEIC Bridgeのスコア	10%																																																																		
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	70%																																																																		
学生へのメッセージ	Bring your textbook to every class. Let's enjoy speaking in English together!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	前期の復習 プリント教材	前期内容のポイントのチェックとプリントを使った課題	テキストの予習と単語の学習
2	Unit 7 let's Meet at the Station (1)	場所を示す前置詞 (1)	テキストの予習と単語の学習
3	Unit 7 let's Meet at the Station (2)	場所を示す前置詞 (2)	テキストの予習と単語の学習
4	Unit 8 How Was Rome? (1)	was/were (1)	テキストの予習と単語の学習
5	Unit 8 How Was Rome? (2)	was/were (2)	テキストの予習と単語の学習
6	Unit 9 I Read it in a Magazine (1)	過去形・肯定文 (1)	テキストの予習と単語の学習 確認テストに向けての学習
7	確認テスト	これまでの内容の確認テスト	テキストの予習と単語の学習
8	Unit 9 I Read it in a Magazine (2) 第 8 回目より対面授業	過去形・肯定文 (2)	テキストの予習と単語の学習
9	Unit 10 What Did You Do on Sunday? (2)	過去形・否定文と疑問文 (2)	テキストの予習と単語の学習
10	Unit 10 What Did You Do on Sunday? (2)	過去形・否定文と疑問文 (2)	テキストの予習と単語の学習
11	Unit 11 The Goats Were Dancing (1)	過去進行形 (1)	テキストの予習と単語の学習
12	Unit 11 The Goats Were Dancing (2)	過去進行形 (2)	テキストの予習と単語の学習
13	Unit 12 If Animals Could Tali (1)	接続詞 (1)	テキストの予習と単語の学習
14	Unit 12 If Animals Could Tali (2)	接続詞 (2)	テキストの予習と単語の学習 まとめテストに向けての学習
15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習、まとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Charge	Robert Hickling, 市川康弘	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge のスコア 10% 課題 40% テスト 30%
-----------	--

学生へのメッセージ	オンライン授業授業ですので、確実に課題を提出して下さい。辞書を使い必ず毎回課題提出すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IE1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	毎回 Moodle を通して課題や講義資料を提示、提出期限後に解説、提出された解答に対するコメント、注意点を提示して行く。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 8 回目からは対面授業に変更。原則として、未提出課題と対面授業の欠席の合計が 4 回以上あった場合には単位が取得できない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習</td> <td>前期内容のポイントの復習</td> <td>テキストの予習と単語の学習 予習をしながら単語帳を作ること (以下同様)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Restaurants and Food (1)</td> <td>原級・比較級・最上級</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Restaurants and Food (2)/ Housing (1)</td> <td>原級・比較級・最上級/ 接続詞 ①</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Housing (2)</td> <td>接続詞 ①</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>The Environment and Recycling (1)</td> <td>現在時制と現在進行時制</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>The Environment and Recycling (2)/ Business Profile (1)</td> <td>現在時制と現在進行時制/ 過去時制</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Business Profile (2)</td> <td>過去時制</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Schedules (1)</td> <td>未来時制</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Schedules (2)/ Computers and the Internet (1)</td> <td>未来時制/ 現在完了時制・過去完了時制</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Computers and the Internet (2)</td> <td>現在完了時制・過去完了時制</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Industry and Manufacturing (1)</td> <td>能動態と受動態</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Industry and manufacturing (2)/ Making Arrangements (1)</td> <td>能動態と受動態/ 接続詞 ②(従位接続 詞)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Making Arrangements (2)</td> <td>接続詞 ②(従位接続詞)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>後期内容の確認の英作文</td> <td>後期内容の復習、英作文の練習など</td> <td>テキストの復習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめの課題</td> <td>後期内容のまとめの課題</td> <td>これまでの内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	前期内容のポイントの復習	テキストの予習と単語の学習 予習をしながら単語帳を作ること (以下同様)	2	Restaurants and Food (1)	原級・比較級・最上級	テキストの予習と単語の学習	3	Restaurants and Food (2)/ Housing (1)	原級・比較級・最上級/ 接続詞 ①	テキストの予習と単語の学習	4	Housing (2)	接続詞 ①	テキストの予習と単語の学習	5	The Environment and Recycling (1)	現在時制と現在進行時制	テキストの予習と単語の学習	6	The Environment and Recycling (2)/ Business Profile (1)	現在時制と現在進行時制/ 過去時制	テキストの予習と単語の学習	7	Business Profile (2)	過去時制	テキストの予習と単語の学習	8	Schedules (1)	未来時制	テキストの予習と単語の学習	9	Schedules (2)/ Computers and the Internet (1)	未来時制/ 現在完了時制・過去完了時制	テキストの予習と単語の学習	10	Computers and the Internet (2)	現在完了時制・過去完了時制	テキストの予習と単語の学習	11	Industry and Manufacturing (1)	能動態と受動態	テキストの予習と単語の学習	12	Industry and manufacturing (2)/ Making Arrangements (1)	能動態と受動態/ 接続詞 ②(従位接続 詞)	テキストの予習と単語の学習	13	Making Arrangements (2)	接続詞 ②(従位接続詞)	テキストの予習と単語の学習	14	後期内容の確認の英作文	後期内容の復習、英作文の練習など	テキストの復習と単語の学習	15	まとめの課題	後期内容のまとめの課題	これまでの内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	前期内容のポイントの復習	テキストの予習と単語の学習 予習をしながら単語帳を作ること (以下同様)																																																																
2	Restaurants and Food (1)	原級・比較級・最上級	テキストの予習と単語の学習																																																																
3	Restaurants and Food (2)/ Housing (1)	原級・比較級・最上級/ 接続詞 ①	テキストの予習と単語の学習																																																																
4	Housing (2)	接続詞 ①	テキストの予習と単語の学習																																																																
5	The Environment and Recycling (1)	現在時制と現在進行時制	テキストの予習と単語の学習																																																																
6	The Environment and Recycling (2)/ Business Profile (1)	現在時制と現在進行時制/ 過去時制	テキストの予習と単語の学習																																																																
7	Business Profile (2)	過去時制	テキストの予習と単語の学習																																																																
8	Schedules (1)	未来時制	テキストの予習と単語の学習																																																																
9	Schedules (2)/ Computers and the Internet (1)	未来時制/ 現在完了時制・過去完了時制	テキストの予習と単語の学習																																																																
10	Computers and the Internet (2)	現在完了時制・過去完了時制	テキストの予習と単語の学習																																																																
11	Industry and Manufacturing (1)	能動態と受動態	テキストの予習と単語の学習																																																																
12	Industry and manufacturing (2)/ Making Arrangements (1)	能動態と受動態/ 接続詞 ②(従位接続 詞)	テキストの予習と単語の学習																																																																
13	Making Arrangements (2)	接続詞 ②(従位接続詞)	テキストの予習と単語の学習																																																																
14	後期内容の確認の英作文	後期内容の復習、英作文の練習など	テキストの復習と単語の学習																																																																
15	まとめの課題	後期内容のまとめの課題	これまでの内容の復習																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Grip</td> <td>本多 吉彦、Robert Hickling</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Grip	本多 吉彦、Robert Hickling	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Grip	本多 吉彦、Robert Hickling	金星堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% Moodle を通した課題の評価及び授業中の課題の評価 70% TOEIC Bridge のスコア 10%																																																																		
学生へのメッセージ	期限を確認して、必ず毎回課題を提出するように心がけてください。わからないことがあれば、学内メールアドレスに質問してください。課題提出期限後に、解答、解説、皆さんが提出した解答に対するコメントを提示しますので、必ず目を通して復習してください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions.
2	Conversation Strategies	Students will learn strategies to help them communicate when difficulties arise. These include asking clarification questions and making comprehension checks.	Follow instructions as provided in class.
3	Unit 7	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
4	Unit 7	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
5	Unit 9	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
6	Unit 9	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
7	Conversation Strategy	Students will learn how to give their opinions, as well as how to agree and disagree with others opinions. Pair and group work activities will be used.	Follow instructions as provided in class.
8	Midterm Assessment	Students will complete an assessment activity to display their understanding of the materials taught in weeks 1~7.	Follow assessment instructions
9	Unit 10	Students will complete a small group speaking task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow instructions as provided in class.
10	Unit 10	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
11	Unit 12	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
12	Unit 12	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
13	Review Unit	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
14	Final Assessment	Students will complete an assessment activity to display their understanding of the materials taught in this course.	Follow assessment instructions.
15	Discussion Activity	Students will take part in small group discussion activities	Follow instructions provided in class.

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 1 (ISBN 9780194603126)	Susan Stempleski	Oxford
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%			
学生への メッセージ	Will be returning to face to face classes from November 8th.			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 後期 7号館 2階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IE1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Special topic.	Special topic.	No preparation required.
	2	Unit 7 Your Life.	Describing daily routines. Describing daily routines.	Pages 44 - 45.
	3	Unit 7 Your Life continued.	Talking about what you do. Asking what others do.	Pages 46 - 48.
	4	Unit 8 Describing People.	Words and expressions for describing people.	Pages 50 - 51.
	5	Unit 8 Describing People continued.	Asking others about people in their lives.	Pages 52 - 54.
	6	Unit 9 Future plans.	Talking about what you will do in the future.	Pages 56 - 57.
	7	Unit 9 Future plans continued.	How you spend your free time.	Pages 58 - 60.
	8	Test of units 7 - 9. Special topic.	Test of units 7 - 9. Special topic.	Review of words and grammar of units 7 - 9.
	9	Unit 10 Vacations.	Words to describe travel.	Pages 64 - 65.
	10	Unit 10 Vacations continued.	Where you like to go on vacation and what you like to do.	Pages 66 - 68.
	11	Unit 11 Early Memories.	Describing events in your life.	Pages 70 - 71.
	12	Unit 11 Early Memories continued.	Asking about people's lives.	Pages 72 - 74.
	13	Unit 12 Hopes and Dreams.	What you would like to do in the future.	Pages 76 - 77.
	14	Unit 12 Hopes and dreams continued.	Asking others about their dreams.	Pages 78 - 80.
15	Test of units 10 - 12.	Test of units 10 - 12.	Review of words and grammar of units 10 - 12.	

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Breakthrough Plus 1 (2nd edition)	Miles Craven	MacMillan ISBN: 9781380003089
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	成績評価：中間テスト 35%、期末テスト 35%、授業、教科書と参加 30%。 オンライン成績評価： 授業勉強、宿題：50%、レポート 20%、ビデオレポート 20%、参加 10%。もし、対面式の授業に戻すことができれば、筆記試験があり、採点方法も少し変わります。
-----------	--

学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェーン・バーンター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 7 Your Life.	Describing daily routines.	Pages 44 - 45.
	2	Unit 7 Your Life continued.	Talking about what you do. Asking what others do.	Pages 46 - 48.
	3	Unit 8 Describing People.	Words and expressions for describing people.	Pages 50 - 51.
	4	Unit 8 Describing People continued.	Asking others about people in their lives.	Pages 52 - 54.
	5	Unit 9 Future plans.	Talking about what you will do in the future.	Pages 56 - 57.
	6	Unit 9 Future plans continued.	How you spend your free time.	Pages 58 - 60.
	7	Mid-term test of units 7 - 9. Special topic.	Mid-term test of units 7 - 9. Special topic.	Review of words and grammar of units 7 - 9.
	8	Unit 10 Vacations.	Words to describe travel.	Pages 64 - 65.
	9	Unit 10 Vacations continued.	Where you like to go on vacation and what you like to do.	Pages 66 - 68.
	10	Unit 11 Early Memories.	Describing events in your life.	Pages 70 - 71.
	11	Unit 11 Early Memories continued.	Asking about people's lives.	Pages 72 - 74.
	12	Unit 12 Hopes and Dreams.	What you would like to do in the future.	Pages 76 - 77.
	13	Unit 12 Hopes and dreams continued.	Asking others about their dreams.	Pages 78 - 80.
	14	Review	Review of units 10 - 12.	No preparation required.
15	Test of units 10 - 12.	Test of units 10 - 12.	Review of words and grammar of units 10 - 12.	

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Breakthrough Plus 1	Miles Craven	MacMillan ISBN: 9781380003089
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席授業参加態度: 40%. 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。I'm looking forward to our classes. Please relax and don't worry about making mistakes!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1326c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation, review greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
	2	Unit 7: Describing appearance (using have/get something done). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	3	Unit 7: Describing appearance (using have/get something done). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	4	Unit 8: Describing places (using second conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	5	Unit 8: Describing places (using second conditional). Units 7 & 8 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	6	Unit 9: Talking about regrets and solutions (using should/would have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	7	Unit 9: Talking about regrets and solutions (using should/would have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	8	Unit 10: Speculating on	Students will discover, practice	Complete online homework

		the past (using may, might, could couldn't, and must have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	(https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	9	Unit 10: Speculating on the past (using may, might, could couldn't, and must have). / Units 9 & 10 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	10	Unit 11: Describing inventions (using the third conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups. Units 3 & 4 test.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	11	Unit 11: Describing inventions (using the third conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	12	Unit 12: Discussing the news (using reported speech). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	13	Unit 12: Discussing the news (using reported speech).. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	14	Unit 12 review. Units 11 & 12 Test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

関連科目

英語基礎会話 b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice Level 2 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406114-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	All online homework assignments completed by deadline (10%) Unit review tests (3x30%) In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.			
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English Iib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・グアイース
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IE1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 4 Small Talk	Making an Arrangement	Review
	2	Unit 4 Small Talk	Making and Arrangement	Review
	3	Unit 5 Small Talk	Talking about things you like/suggestions	Review
	4	Unit 5 Small Talk	Talking about things you like/suggestions	Review
	5	Unit 6 Small Talk	Eating Out	Review
	6	Unit 6 Small Talk	Eating Out	Review
	7	Mid-term test. Units 4-6 Unit 7	Mid-term test. Units 4-6 Making Requests	Review
	8	Unit 7 Small Talk	Making Requests	Review
	9	Unit 8 Small Talk	Checking in and out of a hotel	Review
	10	Unit 8 Small Talk	Checking in and out of a hotel	Review
	11	Unit 9 Small Talk	Directions	Review
	12	Unit 9 Small Talk	Directions	Review
	13	Unit 10 Small Talk	Saying Thank you and Goodbye	Review
	14	Unit 10 Small Talk	Saying Thank you and Goodbye	Review
	15	Test of units 7-10	Test of units 7-10	

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	International Express Beginner	Bryan Stephens	Oxford
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	出席授業参加態度: 50%. 中間テスト: 25% 期末テスト: 25%
----------	--

学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習</td> <td>前期に習った内容の復習など</td> <td>――</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit13</td> <td>接続詞(1)</td> <td>教科書 p.50-52</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit14</td> <td>不定詞(1)、動名詞(1)</td> <td>教科書 p.53-55</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit15</td> <td>受動態</td> <td>教科書 p.56-58</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit16</td> <td>現在完了形</td> <td>教科書 p.59-61</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit17</td> <td>接続詞(2)(時勢の一致を含む)等</td> <td>教科書 p.62-64</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit18</td> <td>5つの基本文型</td> <td>教科書 p.65-67</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit19</td> <td>各種疑問文</td> <td>教科書 p.68-70</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit20</td> <td>不定詞(2)</td> <td>教科書 p.71-73</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit21</td> <td>Itの特別用法</td> <td>教科書 p.74-76</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit22</td> <td>分詞、動名詞(2)</td> <td>教科書 p.77-79</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit23</td> <td>関係代名詞</td> <td>教科書 p.80-82</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>資格、検定などの問題演習</td> <td>授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。</td> <td>習った内容は何度も復習して覚えよう</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資格、検定などの問題演習</td> <td>授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。</td> <td>習った内容は何度も復習して覚えよう</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総合復習</td> <td>定期試験対策</td> <td>教科書など後期範囲一通り</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	前期に習った内容の復習など	――	2	Unit13	接続詞(1)	教科書 p.50-52	3	Unit14	不定詞(1)、動名詞(1)	教科書 p.53-55	4	Unit15	受動態	教科書 p.56-58	5	Unit16	現在完了形	教科書 p.59-61	6	Unit17	接続詞(2)(時勢の一致を含む)等	教科書 p.62-64	7	Unit18	5つの基本文型	教科書 p.65-67	8	Unit19	各種疑問文	教科書 p.68-70	9	Unit20	不定詞(2)	教科書 p.71-73	10	Unit21	Itの特別用法	教科書 p.74-76	11	Unit22	分詞、動名詞(2)	教科書 p.77-79	12	Unit23	関係代名詞	教科書 p.80-82	13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	習った内容は何度も復習して覚えよう	14	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	習った内容は何度も復習して覚えよう	15	総合復習	定期試験対策	教科書など後期範囲一通り
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	前期に習った内容の復習など	――																																																																
2	Unit13	接続詞(1)	教科書 p.50-52																																																																
3	Unit14	不定詞(1)、動名詞(1)	教科書 p.53-55																																																																
4	Unit15	受動態	教科書 p.56-58																																																																
5	Unit16	現在完了形	教科書 p.59-61																																																																
6	Unit17	接続詞(2)(時勢の一致を含む)等	教科書 p.62-64																																																																
7	Unit18	5つの基本文型	教科書 p.65-67																																																																
8	Unit19	各種疑問文	教科書 p.68-70																																																																
9	Unit20	不定詞(2)	教科書 p.71-73																																																																
10	Unit21	Itの特別用法	教科書 p.74-76																																																																
11	Unit22	分詞、動名詞(2)	教科書 p.77-79																																																																
12	Unit23	関係代名詞	教科書 p.80-82																																																																
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	習った内容は何度も復習して覚えよう																																																																
14	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	習った内容は何度も復習して覚えよう																																																																
15	総合復習	定期試験対策	教科書など後期範囲一通り																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Primer <Revised Edition> 基礎からの英語入門 <改訂新版></td> <td>佐藤哲三、アベ松伸二、愛甲ゆかり、小手川巧光、福島孝夫、重久睦美、村上美穂、新彰</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶTOEICテスト(単語集) 改訂新版</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Primer <Revised Edition> 基礎からの英語入門 <改訂新版>	佐藤哲三、アベ松伸二、愛甲ゆかり、小手川巧光、福島孝夫、重久睦美、村上美穂、新彰	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶTOEICテスト(単語集) 改訂新版	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	First Primer <Revised Edition> 基礎からの英語入門 <改訂新版>	佐藤哲三、アベ松伸二、愛甲ゆかり、小手川巧光、福島孝夫、重久睦美、村上美穂、新彰	南雲堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶTOEICテスト(単語集) 改訂新版	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験(70%)、授業中の小テスト(5%)、平常点(提出物、授業への参加、貢献度含め25%)の点数を総合評価します。また、日頃の授業態度も重視します。進行状況により授業内容が変わる事があります。オンライン授業期間中は単語の小テストは行いません。11月第1週の7回目より対面授業に変わっています。単語帳より単語小テストを行っています。最後まで対面授業が続いた場合は課題提出(オンライン40%及び対面20%)、単語テスト(5%)及び授業最終日の復習テスト(35%)で評価します(授業評価の各割合は目安で多少変わる場合があります)。今後の社会情勢及び授業形態の変化に伴い、評価方法が変更になる場合があります。																																																																		
学生へのメッセージ	「明るく、元気で感動を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Writing - Your Summer	How did you spend your summer?	Students should study the content of the day's lesson
	2	単語テスト Exercises - Summer Vacation	次回の単語テストの予習 テキスト Summer in Japan	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	単語テスト Exercises - Family & Home	次回の単語テストの予習 テキスト Family Life	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	単語テスト Exercises - Eating Out	次回の単語テストの予習 テキスト Restaurant Culture	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises - Work	次回の単語テストの予習 テキスト Part-time, Career	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	単語テスト Exercises - Marriage, Family Life	次回の単語テストの予習 テキスト Future Plans	Students should review the lessons in preparation of the midterm
	7	Mid-term Test	Mid-term Test	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Test Review	Test Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	単語テスト Exercises - People	次回の単語テストの予習 テキスト Appearances	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	単語テスト Exercises - Sightseeing in Japan	テキスト Where to Visit in Japan	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Writing - Planning a Day Trip	次回の単語テストの予習 テキスト Travel in Japan	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	単語テスト Exercises - Holidays	次回の単語テストの予習 テキスト Japanese & North American Holidays Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	13	単語テスト Exercises - Big Issues	テキスト Global Warming, Natural Disasters, etc.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	単語テスト Exercises - Future Plans	単語テスト Exercises - Future Plans	Students should review the lessons
	15	Final Test	Final Test	Students should review

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press ISBN 978-4-9909741-0-7
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Grading will be based on weekly assignments to be found on Moodle, including end of unit quizzes and tests. Final grade points will be deducted for incomplete assignments or tests.
-----------	--

学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応
----	--

する。

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2327c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業のガイダンス	授業の進め方と評価方法の説明 短いニュースの聴きとりと内容把握	教科書と辞書を持参
	2	Unit 1 Making Waves with a Magical Instrument 不屈のテルミン奏者	語彙問題と聴きとり	当該Unitの予習と復習
	3	Unit 1: Making Waves with a Magical Instrument 不屈のテルミン奏者	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 1の小テストの準備
	4	Unit 2: Backstage Tour with Augmented Reality Stars ARアイドルの裏側に迫る	語彙問題と聴きとり Unit 1の小テスト	当該Unitの予習と復習
	5	Unit 2: Backstage Tour with Augmented Reality Stars ARアイドルの裏側に迫る	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 2の小テストの準備
	6	Unit 3: Drinking to Eat 現代人の食事、「飲む」おにぎり	語彙問題と聴きとり Unit 2の小テスト	当該Unitの予習と復習
	7	Unit 3 Drinking to Eat 現代人の食事、「飲む」おにぎり	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit3の小テストの準備
	8	Unit 4: Next Generation Mobility 次世代の移動手段	語彙問題と聴きとり Unit3の小テスト	当該Unitの予習と復習
	9	Unit 4: Next Generation Mobility 次世代の移動手段	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 4の小テストの準備
	10	Unit 5: Eco-friendly Fashion Statement 衣料品ロス	語彙問題と聴きとり Unit4の小テスト	当該Unitの予習と復習
	11	Unit 5: Eco-friendly Fashion Statement 衣料品ロス	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit5の小テストの準備
	12	Unit 6: Building a Bridge to Share a Son's Dream 日韓の架け橋になりたい	語彙問題と聴きとり Unit 5の小テスト	当該Unitの予習と復習
	13	Unit 6: Building a Bridge to Share a Son's Dream 日韓の架け橋になりたい	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 6の小テストの準備
	14	Unit 7: Taking Aim シュートの達人、スリーポイントおじいさん	語彙問題と聴きとり Unit 6の小テスト	当該Unitの予習と復習 前期内容の総復習
	15	前期のまとめ	前期の学習範囲の習熟度をテストの形で実施	前期内容の学習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	NHK NEWSLINE 4	山崎達朗・Stella M. Yamazaki・Erika C. Yamazaki	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生への メッセージ	予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。
担当者の 研究室等	3号館2階(前期) 7号館2階(後期) 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	嶋村 貢志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2327c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業のガイダンス Unit 1 Spill the Beans	授業の進め方と成績の説明 秘密を漏らす 以下、毎回講読、演習形式	教科書を購入し、Unit 1をざっと一読しておくこと。 辞書を毎回持参のこと。
	2	Unit 2 Sell Like Hotcakes	飛ぶように売れる	予習と復習
	3	Unit 3 Bring Home the Bacon	生活費を稼ぐ	予習と復習
	4	Unit 4 Butter Someone Up	人にごまをする	予習と復習
	5	Unit 5 Wine and Dine	酒食でもてなす	予習と復習
	6	Unit 6 Put All One's Eggs in One Basket	一つの事業に全財産を投資する	予習と復習
	7	Unit 7 Turn Green with Envy	嫉妬で青ざめる	予習と復習
	8	Unit 8 A White Lie	罪のないウソ	予習と復習
	9	Unit 9 See Red	かっとなる	予習と復習
	10	Unit 10 With Flying Colors	大成功を収めて	予習と復習
	11	Unit 11 Out of the Blue	思いがけずに	予習と復習
	12	Unit 12 Catch Someone Red-handed	人を現行犯で逮捕する	予習と復習
	13	サントリーホールディングス株式会社	水と生きる	予習と復習
	14	前期の確認	意見発表	予習と復習
	15	前期のまとめ	前期の学習範囲の習熟度をテストの形で実施	前期内容の学習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Idioms in 24 Exciting Stories ストーリーで学ぶ英語イディオム	佐藤史郎 / John Oliphant / 古田島綾子	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
----------	--

学生へのメッセージ	予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。
-----------	--

担当者の研究室等	3号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。Zoomによるライブで解説授業を行う。ZoomのURLは授業開始時間までにMoodleにアップする。その他の質問等はメールで。
----	--

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2327c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	Moodleを使ったオンデマンド型の授業を行う。毎回課題を提示して期限までに提出を求め、提出期限後に解答や解説を提示して行く。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える未提出のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業についての説明、自己紹介、プリント教材を使った学習	テキストの予習と単語の学習 予習をしながら単語帳を作ること(以下同様)
2	Canada: Natural Beauty Abounds (1)	自然に恵まれたカナダの調和の文化(1)	テキストの予習と単語の学習
3	Canada: Natural Beauty Abounds (2)	自然に恵まれたカナダの調和の文化(2)	テキストの予習と単語の学習
4	Thailand: Where Culture and Fragrance Harmonize (1)	香りにこだわるタイの文化(1)	テキストの予習と単語の学習
5	Thailand: Where Culture and Fragrance Harmonize (2)	香りに「こだわるタイの文化(2)	テキストの予習と単語の学習
6	Germany: Leaders in Protecting Our Environment (1)	環境先進国ドイツ(1)	テキストの予習と単語の学習
7	Germany: Leaders in Protecting Our Environment (2)	環境先進国ドイツ(2)	テキストの予習と単語の学習
8	Turkey: Finish Up Your Coffee (1)	コーヒーとお茶がつなぐトルコの人情文化(1)	テキストの予習と単語の学習
9	Turkey: Finish Up Your Coffee (2)	コーヒーとお茶がつなぐトルコの人情文化(2)	テキストの予習と単語の学習
10	Russia: Home to the Coldest Place Inhabited by Humans (1)	極寒の中に生きるロシアの文化(1)	テキストの予習と単語の学習
11	Russia: Home to the Coldest Place Inhabited by Humans (2)	極寒の中に生きるロシアの文化(2)	テキストの予習と単語の学習
12	Israel: A Land of Tradition and Technology (1)	伝統と技術が融合するイスラエルの文化(1)	テキストの予習と単語の学習
13	Israel: A Land of Tradition and Technology (2)	伝統と技術が融合するイスラエルの文化(2)	テキストの予習と単語の学習
14	South Africa: The Country with 11 Different Names	アフリカ大陸最南端の親睦文化	テキストの予習と単語の学習
15	まとめ課題	前期の内容のまとめの課題	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Guess What?!-Intercultural Surprises-	松井 夏津紀 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% Moodle の提出課題 80%
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	期限を厳守して、毎回課題を提出するように心がけてください。共通英語課題は、計画的に進めて期限までに必ず終わるようにしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(3号館2階)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応
----	--

する。

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大江 麻里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2327c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	授業の進め方の説明	テキストにざっと目を通しておくこと
	2	Chapter 1 Things Young People Are Less Interested in	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	3	Chapter 1 Things Young People Are Less Interested in	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	4	Chapter 2 What's in a Name?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	5	Chapter 2 What's in a Name?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	6	Chapter 3 Throwing It All Away	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	7	Chapter 3 Throwing It All Away	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	8	Chapter 4 Everything Caught on Video	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	9	Chapter 4 Everything Caught on Video	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	10	Chapter 5 Employers Checking Facebook	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	11	Chapter 5 Employers Checking Facebook	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	12	Chapter 6 LCCs	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	13	Chapter 6 LCCs	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	14	前期の総復習	質疑応答	前期の範囲で分からなかった点などをまとめておく
15	まとめのテスト	これまでの内容の総復習	テキストのこれまでの内容の復習	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Trend Watching	Jonathan Lynch 他	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
----------	--

学生へのメッセージ	英語の学習は地道な努力が必要です。授業中にだす指示に従って、積極的に参加してください。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室(前期3号館2階/後期7号館2階)
----------	-------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 三千代
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2327c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	遠隔での課題授業で進める。e-learning 課題や、授業課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える課題未提出の場合には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Orientation	授業の進め方の説明	テキストの予習
2	Welcome to the "Big Apple"	お礼を伝える 動詞の現在形を理解する 自己紹介をする	テキストの予習と単語の学習
3	Welcome to the "Big Apple"	お礼を伝える 動詞の現在形を理解する 自己紹介をする	テキストの予習と単語の学習
4	What's the Boss Like?	感想を述べる 代名詞の使い方に慣れる 友人を紹介する	テキストの予習と単語の学習
5	What's the Boss Like?	感想を述べる 代名詞の使い方に慣れる 友人を紹介する	テキストの予習と単語の学習
6	Masa's First Day on the Job	勤務時間についてたずねる 前置詞の使い方に慣れる 行動予定について書く	テキストの予習と単語の学習
7	Masa's First Day on the Job	勤務時間についてたずねる 前置詞の使い方に慣れる 行動予定について書く	テキストの予習と単語の学習
8	Summer Fun	週末にしたことを述べる 動詞の過去形を理解する ある1日を振り返る	テキストの予習と単語の学習
9	Summer Fun	週末にしたことを述べる 動詞の過去形を理解する ある1日を振り返る	テキストの予習と単語の学習
10	Hotel Guest Satisfaction	相手を励ます 可算名詞・不可算名詞を理解する 大学に必要な物について書く	テキストの予習と単語の学習
11	Hotel Guest Satisfaction	相手を励ます 可算名詞・不可算名詞を理解する 大学に必要な物について書く	テキストの予習と単語の学習
12	Brainstorming	これからすることを提案する 進行形の使い方に慣れる 健康状態について書く	テキストの予習と単語の学習
13	Brainstorming	これからすることを提案する 進行形の使い方に慣れる 健康状態について書く	テキストの予習と単語の学習
14	Glad to Be of Service	助けを求める WH 疑問文の使い方に慣れる 好きな人物を紹介する	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Missions! Basic	Robert Hickling 他	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (Revised Edition)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 課題提出率と内容 40%
-----------	------------------------------

	まとめのテスト 40%
学生へのメッセージ	今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによってあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じ、親しむように心がけて欲しい。
担当者の研究室等	3号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題の準備などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降に行う。その他の質問等は学内メールにて対応する。

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2327c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。4回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ・毎回授業の始めに前回の授業の復習小テスト（3～5分）を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 小テスト	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明 小テスト答え合わせ Lesson 1 を始める	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
2	1-1 No Poverty 貧困をなくそう	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
3	1-11 Donate what you don't use	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
4	2-1 Zero Hunger 飢餓をゼロに	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
5	2-11 Avoid throwing away food	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
6	3-1 Good Health & Well-being すべての人に健康と福祉を	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
7	3-11 Vaccinate your family to protect them and improve public health	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
8	中間テスト 4-1 Quality Education 質の高い教育をみんなに	前半の学習内容の復習 CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	中間テストに備えて勉強 下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
9	4-11 Help children in your community to read	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
10	5-1 Gender Equality ジェンダー平等を実現しよう	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
11	5-11 Call out sexist language and behavior	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
12	6-1 Clean Water & Sanitation 安全な水とトイレを世界に	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
13	6-11 Avoid wasting water	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
14	7-1 Affordable & Clean Energy エネルギーをみんなに、そしてクリーンに	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
15	最終テスト	後半の学習内容の復習	最終テストに向けての勉強

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>AFP World News Report 5 (「AFP ニュースで見る世界 5」)</td> <td>宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test— Revised Edition—</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	AFP World News Report 5 (「AFP ニュースで見る世界 5」)	宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test— Revised Edition—	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	AFP World News Report 5 (「AFP ニュースで見る世界 5」)	宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子	成美堂													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test— Revised Edition—	西谷 恒志	成美堂													
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (English Central) 20%			
	授業への参加度 (小テスト、質問に対する発言、中間、最終テスト、宿題など) 80%			
学生への メッセージ	<p>持続可能な開発目標として国連が掲げている 17 項目を読んでいます。 指定された箇所を必ず辞書を引き予習しておくこと。余裕ができ授業中での理解度も高まります。</p> <p>Teams はリアルタイムで行う。 コロナの感染状況によってはシラバスの予定が多少変わることもある。</p>			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。			

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	猪熊 慶祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2328c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。なお、Wi-Fiの通信障害等で出席できなかった場合は、課題提出等をもって代替とする。 *Teamsに障害等が生じた場合には、Zoomを代替のツールとする。リンクはウェブフォルダに格納済みなので各自で確認しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Orientation, Questionnaire, Self-Introduction	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法、英語共通課題などについて説明を行う。また、教科書の内容について導入を行う。	教科書の内容や構成を確認する。(1時間)
2	Unit 1 College Sports (1) アメリカの大学生とスポーツについてのエッセイの読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
3	Unit 1 College Sports (2) アメリカの大学生とスポーツに関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 1 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。(1時間)
4	Unit 2 Hip Hop Music (1) アメリカの若者とヒップホップ音楽についてのエッセイの読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
5	Unit 2 Hip Hop Music (2) アメリカの若者とヒップホップ音楽に関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 2 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。(1時間)
6	Unit 3 Travel (1) 旅行についてのエッセイの読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
7	Unit 3 Travel (2) 旅行に関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 3 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。(1時間)
8	Unit 4 Video Games (1) テレビゲームについてのエッセイの読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
9	Unit 4 Video Games (2) テレビゲームに関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 4 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。(1時間)
10	Unit 5 Recycling (1) リサイクルについてのエッセイの読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
11	Unit 5 Recycling (2) リサイクルに関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 5 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。(1時間)
12	Unit 6 Fast Food (1) ファーストフードについてのエッセイの読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
13	Unit 6 Fast Food (2) ファーストフードに関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 6 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。(1時間)
14	Unit 7 Extreme Weather (1) 異常気象についてのエッセイの読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
15	Unit 7 Extreme Weather (2)	エッセイの内容に関連した英文を完成	Unit 7 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いて

		異常気象に関連した英作文と会話の聴解	させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	おく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。(1 時間)
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Indicator 3	Cohen, Mihara 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は、自主発表するなどの積極的な態度が評価されます。 ・折々、復習テストを行いますので、常に授業外の学習を行ってください。 ・授業内容は進度によって変更する場合があります。 			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	竹部 春樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2328c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業についての注意事項や進め方の説明。	テキストを購入して、目を通しておくこと。
2	Things Young People Are Less Interested in (1)	教科書の第一章を学習する。	テキストの予習
3	Things Young People Are Less Interested in (2)	教科書の第一章を学習する。	テキストの予習・復習
4	What's in a Name? (1)	教科書の第二章を学習する。	テキストの予習・復習
5	What's in a Name? (2)	教科書の第二章を学習する。	テキストの予習・復習
6	Throwing It All Away . . . the Danshari Boom (1)	教科書の第三章を学習する。	テキストの予習・復習
7	Throwing It All Away . . . the Danshari Boom (2)	教科書の第三章を学習する。	テキストの予習・復習
8	Everything Caught on Video (1)	教科書の第四章を学習する。	テキストの予習・復習
9	Everything Caught on Video (2)	教科書の第四章を学習する。	テキストの予習・復習
10	Employers Checking Facebook (1)	教科書の第五章を学習する。	テキストの予習・復習
11	Employers Checking Facebook (2)	教科書の第五章を学習する。	テキストの予習・復習
12	LCCs - Low Cost Carriers (1)	教科書の第六章を学習する。	テキストの予習・復習
13	LCCs - Low Cost Carriers (2)	教科書の第六章を学習する。	テキストの予習・復習
14	Young People Don't Travel Abroad (1)	教科書の第七章を学習する。	テキストの予習・復習
15	Young People Don't Travel Abroad (2)	教科書の第七章を学習する。	テキストの予習・復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Trend Watching	Jonathan Lynch / 委文光太郎	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生へのメッセージ	英語の訓練は楽器やスポーツの練習に似ているところがあって、(少しずつでも)毎日やるのが大切だと思います。がんばりましょう。質問などあればいつでもどうぞ。
担当者の研究室等	非常勤講師室(前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2328c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	――
	2	Unit 1 Lions 百獣の王ライオン	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 1-4
	3	Unit 2 Ramen ラーメン	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 5-8
	4	Unit 3 The Leaning Tower ピサの斜塔	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 9-12
	5	Unit 4 A Smart Dog 賢いワンちゃん	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 13-16
	6	Unit 5 Twenty-First Century Books 電子書籍	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 17-20
	7	Unit 6 Valentine's Day バレンタインデー	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 21-24
	8	Unit 7 The Taj Mahal ある愛の形	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 25-28
	9	Unit 8 A Computer Problem コンピューターのホットな問題	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 29-32
	10	Unit 9 The Mobius Band 不思議な輪	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 33-36
	11	Unit 10 A Long Weekend 休日の落とし穴	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 37-40
	12	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
	13	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
	14	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
	15	総合復習	試験に向けた復習	教科書など前期範囲一通り

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Basic Faster Reading New Edition 速読の基礎演習 最新版	Casey Malarcher、原田慎一	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集) 改訂新版	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 定期試験 50% 授業への参加、貢献 (提出物、小テスト、まとめテスト等も含む) 30% 進行状況により授業内容が変わる場合があります。 オンライン授業中は単語テストはありません。また最後までオンライン授業が続いた場合は課題提出 (80%) 及び全学共通英語課題 (20%) で評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)
----------	------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応
----	--

する。

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	東野 厚子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2328c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 1 It's a pleasure to meet you.	授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習
	2	Unit 1 It's a pleasure to meet you.	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	3	Unit 2 Business English	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	4	Unit 2 Business English	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	5	Unit 3 Culture Skills	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	6	Unit 3 Culture Skills	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	7	Unit 4 More than Just Words	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	8	Unit 4 More than Just Words	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	9	Unit 5 Meetings	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	10	Unit 5 Meetings	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	11	Unit 6 Business Communication Style	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	12	Unit 6 Business Communication Style	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	13	Unit 7 Let's negotiate.	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	14	Unit 7 Let's negotiate.	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	15	まとめテスト	全体の復習とテスト	単語学習 テキスト (Unit1-7) の復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Indicator 4	Alison Kit z man 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西垣恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通課題 20% 授業への参加、貢献 (課題、まとめテスト等を含む) 80%
学生へのメッセージ	知っておきたい基本的なビジネスルールを英語で学びます。主体的に取り組み、英語の運用能力を向上させましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。質問等は学内メールにて対応する。

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2328c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1: The United Kingdom	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.6-7 練習問題を行うこと。
	2	Unit 1: The United Kingdom	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.8-9 練習問題を行うこと。
	3	Unit 2: Germany	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.10-11 練習問題を行うこと。
	4	Unit 2: Germany	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.12-13 練習問題を行うこと。
	5	Unit 3: France	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.14-15 練習問題を行うこと。
	6	Unit 3: France	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.16-17 練習問題を行うこと。
	7	Unit 4: Switzerland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.18-19 練習問題を行うこと。
	8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	9	Unit 4: Switzerland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.20-21 練習問題を行うこと。
	10	Unit 5: Finland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.22-23 練習問題を行うこと。
	11	Unit 5: Finland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.24-25 練習問題を行うこと。
	12	Unit 6: Sweden	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.26-27 練習問題を行うこと。
	13	Unit 6: Sweden	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.28-29 練習問題を行うこと。
	14	Unit 7: Russia	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.30-33 練習問題を行うこと。
	15	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Business Trends	Iwao Yamashita ほか	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80% なお、遠隔授業の場合は課題提出をもって小テスト等の代替とする。
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 TOEICを受験することを勧める。さらに単語力を増強するため、リンガポルテを活用し、積極的に自習すること。 リンガポルテの取り組みも成績評価に反映されます。
担当者の研究室等	非常勤講師室(前期3号館2階/後期7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	利ハ・ケイブレット
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2328c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introductions	Meeting other class members	Please prepare some questions to ask your classmates.
	2	Unit 1 Introducing People	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	3	Unit 1	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	4	Unit 2: Invitations	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	5	Unit 2	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	6	Unit 2	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	7	Unit 3 Checking Travel Information	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	8	Unit 3	Reading, writing, listening and speaking tasks Small test	Homework and previous class review.
	9	Unit 3	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	10	Unit 4 Giving and getting directions	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	11	Unit 4	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	12	Unit 4	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	13	Unit 5 Offers and requests	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	14	Unit 5	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.
	15	Unit 5 and review	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and previous class review.

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	International Express Elementary	Angela Buckingham 他	オックスフォード
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	I look forward to working with you all to level up your Business English skills. Don't worry about having perfect English, just try your best in class to produce as much as you can!
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期3号館/後期7号館2階)
----------	------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2329c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unit 7: Taking Aim シュートの達人、スリーポイントおじいさん	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 7の小テストの準備
2	Unit 8: Boccia Boom Revitalizing Japanese Companies 企業に広がるボッチャ競技	語彙問題と聴きとり Unit 7の小テスト	当該Unitの予習と復習
3	Unit 8: Boccia Boom Revitalizing Japanese Companies 企業に広がるボッチャ競技	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 8の小テストの準備
4	Unit 9: Rising Profile 人気のインスタ「東北女子」	語彙問題と聴きとり Unit 8の小テスト	当該Unitの予習と復習
5	Unit 9: Rising Profile 人気のインスタ「東北女子」	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 9の小テストの準備
6	Unit 10: All Blacks Cause City to Rethink Ink ラグビーが 뜨なぐリスペクト	語彙問題と聴きとり Unit 9の小テスト	当該Unitの予習と復習.
7	Unit 10: All Blacks Cause City to Rethink Ink ラグビーが 뜨なぐリスペクト	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 10の小テストの準備
8	Unit 11: Man-made Threat to Japanese Deer ブラゴミから鹿を守る	語彙問題と聴きとり Unit 10の小テスト	当該Unitの予習と復習
9	Unit 11: Man-made Threat to Japanese Deer ブラゴミから鹿を守る	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 11の小テストの準備
10	Unit 12: Home Appliance Maker Leads Comeback 海外の巻き返しを図る家電メーカー	語彙問題と聴きとり Unit 11の小テスト	当該Unitの予習と復習
11	Unit 12: Home Appliance Maker Leads Comeback 海外の巻き返しを図る家電メーカー	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 12の小テストの準備
12	Unit 13: Hospitals Breaking Down Language Barrier 広がる医療通訳	語彙問題と聴きとり Unit 12の小テスト	当該Unitの予習と復習
13	Unit 13: Hospitals Breaking Down Language Barrier 広がる医療通訳	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 13の小テストの準備
14	Unit 14: A New View of Hokusai 知られざる北斎の魅力	語彙問題と聴きとり Unit 13の小テスト	当該Unitの予習 後期内容の総復習
15	後期内容のまとめのテスト	後期学習範囲の習熟度をテストの形で復習する	後期学習範囲の習熟度

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	NHK NEWSLINE 4	山崎達朗・Stella M. Yamazaki・Erika C. Yamazaki	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge 10% 平常点(小テスト・授業への参加度等) 35% まとめのテスト 35%			
学生への メッセージ	予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	3号館2階(前期) 7号館2階(後期) 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 後期8回目から対面授業へ変更			

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	嶋村 貢志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2329c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から</p>																																																																		
授業方法と留意点	当面の間、Moodleの課題、オンラインの解説授業を行う。3回を超える課題の提出忘れがある場合は原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>序 Unit 13 The Lion's Share</td> <td>後期の説明 不当に大きな分け前</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 14 The Rat Race</td> <td>出世競争</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 15 Like a Fish Out of Water</td> <td>場違いで</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 16 Crocodile Tears</td> <td>ウン泣き</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 17 Take the Bull by the Horns</td> <td>困難に敢然と立ち向かう</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 18 A Dark Horse</td> <td>意外な力量を持った候補者.</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 19 Save Face</td> <td>面目を保つ</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 20 Play It by Ear</td> <td>臨機応変に処理する</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 21 Get Cold Feet</td> <td>おじげづく</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 22 A Pain in the Neck</td> <td>うんざりさせる人</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 23 Give Someone the Cold Shoulder</td> <td>人を冷たくあしらう</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 24 Not Lift a Finger</td> <td>(否定形で) 何の努力もしない</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>映画</td> <td>視聴</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>映画、後期の確認</td> <td>字幕復習、意見交換</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>後期内容のまとめのテスト</td> <td>後期学習範囲の習熟度をテストの形で復習する</td> <td>後期学習範囲の習熟度</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	序 Unit 13 The Lion's Share	後期の説明 不当に大きな分け前	予習と復習	2	Unit 14 The Rat Race	出世競争	予習と復習	3	Unit 15 Like a Fish Out of Water	場違いで	予習と復習	4	Unit 16 Crocodile Tears	ウン泣き	予習と復習	5	Unit 17 Take the Bull by the Horns	困難に敢然と立ち向かう	予習と復習	6	Unit 18 A Dark Horse	意外な力量を持った候補者.	予習と復習	7	Unit 19 Save Face	面目を保つ	予習と復習	8	Unit 20 Play It by Ear	臨機応変に処理する	予習と復習	9	Unit 21 Get Cold Feet	おじげづく	予習と復習	10	Unit 22 A Pain in the Neck	うんざりさせる人	予習と復習	11	Unit 23 Give Someone the Cold Shoulder	人を冷たくあしらう	予習と復習	12	Unit 24 Not Lift a Finger	(否定形で) 何の努力もしない	予習と復習	13	映画	視聴	予習と復習	14	映画、後期の確認	字幕復習、意見交換	予習と復習	15	後期内容のまとめのテスト	後期学習範囲の習熟度をテストの形で復習する	後期学習範囲の習熟度
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	序 Unit 13 The Lion's Share	後期の説明 不当に大きな分け前	予習と復習																																																																
2	Unit 14 The Rat Race	出世競争	予習と復習																																																																
3	Unit 15 Like a Fish Out of Water	場違いで	予習と復習																																																																
4	Unit 16 Crocodile Tears	ウン泣き	予習と復習																																																																
5	Unit 17 Take the Bull by the Horns	困難に敢然と立ち向かう	予習と復習																																																																
6	Unit 18 A Dark Horse	意外な力量を持った候補者.	予習と復習																																																																
7	Unit 19 Save Face	面目を保つ	予習と復習																																																																
8	Unit 20 Play It by Ear	臨機応変に処理する	予習と復習																																																																
9	Unit 21 Get Cold Feet	おじげづく	予習と復習																																																																
10	Unit 22 A Pain in the Neck	うんざりさせる人	予習と復習																																																																
11	Unit 23 Give Someone the Cold Shoulder	人を冷たくあしらう	予習と復習																																																																
12	Unit 24 Not Lift a Finger	(否定形で) 何の努力もしない	予習と復習																																																																
13	映画	視聴	予習と復習																																																																
14	映画、後期の確認	字幕復習、意見交換	予習と復習																																																																
15	後期内容のまとめのテスト	後期学習範囲の習熟度をテストの形で復習する	後期学習範囲の習熟度																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Idioms in 24 Exciting Stories</td> <td>佐藤史郎 / John Oliphant / 古田島綾子</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Idioms in 24 Exciting Stories	佐藤史郎 / John Oliphant / 古田島綾子	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Idioms in 24 Exciting Stories	佐藤史郎 / John Oliphant / 古田島綾子	金星堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%																																																																		
学生へのメッセージ	予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2329c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	Moodleを通して課題や講義資料を提示、提出期限後に解説、提出された解答に対するコメント、注意点等を提示して行く。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。毎回の課題を期限を確認して提出すること。8回目からは対面授業に変更。原則として、未提出課題と対面授業の欠席の合計が4回以上あった場合には単位が取得できない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	前期の内容の復習	前期の内容の復習	テキストの予習と単語の学習 予習をしながら単語帳を作ること (以下同様)
2	The United States: A Nation on the Road (1)	自動車大国、アメリカ (1)	テキストの予習と単語の学習
3	The United States: A Nation on the Road (2)	自動車大国、アメリカ (2)	テキストの予習と単語の学習
4	France: A Place of Little Waste (1)	効率重視のフランス文化 (1)	テキストの予習と単語の学習
5	France: A Place of Little Waste (2)	効率重視のフランス文化 (2)	テキストの予習と単語の学習
6	Bangladesh: Where Chaos and Peace Coexist (1)	バングラデシュの混沌とのどかさ (1)	テキストの予習と単語の学習
7	Bangladesh: Where Chaos and Peace Coexist (2)	バングラデシュの混沌とのどかさ (2)	テキストの予習と単語の学習
8	New Zealand: Where Native Culture Thrives (1)	共生のニュージーランド文化 (1)	テキストの予習と単語の学習
9	New Zealand: Where Native Culture Thrives (2)	共生のニュージーランド文化 (2)	テキストの予習と単語の学習
10	South Korea: The Crossroads of Food, Culture and Tradition (1)	食で深まる韓国の絆文化 (1)	テキストの予習と単語の学習
11	South Korea: The Crossroads of Food, Culture and Tradition (2)	食で深まる韓国の絆文化 (2)	テキストの予習と単語の学習
12	Niger: Friendly Faces in a Dry Land (1)	長い挨拶とおしゃべり好きなニジェール文化 (1)	テキストの予習と単語の学習
13	Niger: Friendly Faces in a Dry Land (2)	長い挨拶とおしゃべり好きなニジェール文化 (2)	テキストの予習と単語の学習
14	Brazil: A Paradise for Soccer and Dance Lovers	サッカーとダンスが織りなすブラジル文化	テキストの予習と単語の学習
15	まとめの課題	まとめの課題、後期の内容の復習	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Guess What?!-Intercultural Surprises-	松井 夏津紀 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge のスコア 10% Moodle を通した課題と対面授業の課題の評価 70%
-----------	---

学生へのメッセージ	課題の期限を確認して、必ず毎回提出するように心がけてください。わからないことがあれば、学内メールアドレスに質問してください。課題提出期限後に、解答、解説、皆さんが提出した解答に対するコメントを提示しますので、必ず目を通して復習してください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大江 麻里子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2329c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	テキスト前期の内容の確認と後期の進め方の説明	テキストの予習
	2	Chapter 7 Young People Don't Travel Abroad	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	3	Chapter 7 Young People Don't Travel Abroad	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	4	Chapter 8 Foreign Views of Japanese Culture	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	5	Chapter 8 Foreign Views of Japanese Culture	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	6	Chapter 9 Rethinking University Education	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	7	Chapter 9 Rethinking University Education	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	8	Chapter 10 Graffiti	英語学習・読解・英作 対面授業再開	テキストの予習と単語の学習
	9	Chapter 10 Graffiti	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	10	Chapter 13 Bright White Teeth for Everybody	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	11	Chapter 13 Bright White Teeth for Everybody	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	12	Chapter 16 QR Codes--A Japanese Success Story	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	13	Chapter 16 QR Codes--A Japanese Success Story	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
	14	後期の総復習	質疑応答	後期の範囲で分からなかった点をまとめておく
	15	まとめのテスト	これまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Trend Watching	Jonathan Lynch 他	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ	英語学習は地道な努力が必要です。授業中に出される指示に従い、積極的に参加してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 三千代
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2329c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ		内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation		授業の進め方の説明
2	Socializing Co-Workers	with	パーティーに誘う 動名詞・不定詞を理解する 好きなこと・嫌いなことについて書く	テキストの予習と単語の学習
3	Socializing Co-Workers	with	パーティーに誘う 動名詞・不定詞を理解する 好きなこと・嫌いなことについて書く	テキストの予習と単語の学習
4	Vacation Spots		相手に約束する 未来形の使い方に慣れる 未来の自分について書く	テキストの予習と単語の学習
5	Vacation Spots		相手に約束する 未来形の使い方に慣れる 未来の自分について書く	テキストの予習と単語の学習
6	Sports Talk		好みを伝える 比較級・最上級を理解する 自分の価値観について書く	テキストの予習と単語の学習
7	Sports Talk		好みを伝える 比較級・最上級を理解する 自分の価値観について書く	テキストの予習と単語の学習
8	Tour Day		同僚に確認する 助動詞の使い方に慣れる 大学の規則について書く	テキストの予習と単語の学習
9	Tour Day		同僚に確認する 助動詞の使い方に慣れる 大学の規則について書く	テキストの予習と単語の学習
10	Party Time!		喜びを伝える 現在完了形を理解する 最近したことについて書く	テキストの予習と単語の学習
11	Party Time!		喜びを伝える 現在完了形を理解する 最近したことについて書く	テキストの予習と単語の学習
12	Office Meeting		滞在先の感想をたずねる 関係詞を理解する 尊敬する人物について書く	テキストの予習と単語の学習
13	A Bit of History		観光名所を案内する 受動態を理解する 通っている大学について書く	テキストの予習と単語の学習
14	farewell, Masa and Lucy		お礼の言葉を述べる 接続詞の使い方に慣れる 普段の習慣について書く	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習		まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Missions! Basic	Robert Hickling 他	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (Revised Edition)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 TOEIC Bridge	20% 10%
-----------	--------------------------	------------

	授業への参加(課題提出等)、貢献(小テスト、まとめのテスト等も含む) 70%
学生へのメッセージ	辞書を活用して、必ず予習しておくことを心がけてください。授業中は積極的に発表することだけでなく、クラスメートの発表をしっかり聞くことも大切です。今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによってあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じ、親しむように心がけて欲しい。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2329c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 ・各 Lesson の終わりにまとめの語彙テスト (3~5 分) を行う。 ・4 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ・遠隔授業では常に Teams を使用し、リスニングなどの課題提出は Moodle を使用する。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	9-11 Think of innovative new ways to repurpose old material	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
3	10-1 Reduced Inequalities 人や国の不平等をなくそう	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
4	10-11 Raise your voice against discrimination	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
5	11-1 Sustainable Cities & Communities 住み続けられるまちづくりを	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
6	11-11 Bike, walk, or use public transportation	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
7	12-1 Responsible Consumption & Production つくる責任、つかう責任	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
8	12-1 Responsible Consumption & Production つくる責任、つかう責任 中間テスト (予定)	Exercise (語彙、英問英答など) 前半の学習の確認テスト	中間テストの勉強 下読みと単語調べ、exercise の予習 (1 時間)
9	12-11 Recycle paper, plastic, glass, and aluminum	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
10	13-1 Climate Action 気候変動に具体的な対策を	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
11	13-11 Educate young people on climate change	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
12	14-1 Life Below Water 海の豊かさを守ろう	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
13	14-11 Avoid plastic bags to keep the ocean safe and clean	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
14	まとめ (復習) テスト	後半の学習の確認テスト	まとめテストに備え復習をしておくこと
15	まとめテストの解答・解説 (実力問題に挑戦)	テストの答え合わせ (教科書に出て来た語彙の総復習など)	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AFP World News Report 5 (「AFP ニュースで見る世界 5」)	宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test— Revised Edition—	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（小テスト、中間及び期末テスト、宿題等も含む） 80%			
学生への メッセージ	国連が掲げている、17 項目の開発目標の後半部分を読んでいきます。Lesson 9 から始めます。（途中計画通りに進まないこともあります。） 授業に備えて、単語調べや構文確認は毎回必ずしておくように。余裕ができ授業中での理解度も高まります。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語 II b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	猪熊 慶祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2330c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。なお、Wi-Fi等の通信障害による欠席は、課題の提出等により代替とする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 6 Fast Food (1) ファーストフードについてのエッセイの読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
2	Unit 6 Fast Food (2) ファーストフードに関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 6 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させるようにする。(1時間)
3	Unit 7 Extreme Weather (1) 異常気象についてのエッセイの読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
4	Unit 7 Extreme Weather (2) 異常気象に関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 7 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させるようにする。(1時間)
5	Unit 8 Medical Tourism (1) 医療サービスを受けるための海外渡航についてのエッセイ読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
6	Unit 8 Medical Tourism (2) 医療サービスを受けるための海外渡航に関連した英作文と会話聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 8 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させるようにする。(1時間)
7	Unit 9 Advertising (1) 宣伝広告についてのエッセイ読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
8	Unit 9 Advertising (2) 宣伝広告に関連した英作文と会話聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 9 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させるようにする。(1時間)
9	Unit 10 Business Travel (1) 出張についてのエッセイ読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
10	Unit 10 Business Travel (2) 出張に関連した英作文と会話聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 10 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させる。(1時間)
11	Unit 11 E-commerce (1) インターネットによる商取引についてのエッセイ読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
12	Unit 11 E-commerce (2) インターネットによる商取引に関連した英作文と会話聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 11 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させるようにする。(1時間)
13	Unit 12 Coffee Shop (1) 世界にチェーン店をもつスターバックスについてのエッセイ読解	350語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
14	Unit 12 Coffee Shop (2) コーヒーチェーン店に関連する英作文と会話聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 12 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させるようにする。(1時間)
15	Units 6-12 復習	今学期に読んだ、教科書のエッセイや、	事前に、今学期の自分の提出物に目を通し、質問す

			それに関連した読解・作文・文法の練習問題を再確認し、分からない点が無いようにする。	べきことを準備する。事後に、まとめのためのテスト問題を解答する。(1時間)
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Indicators 3	Cohen, Mihara 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	遠隔授業で、教科書の課題を、締め切り日までに解答して提出する。毎回の課題の分量を少なめにしているため、その分、時間をかけてじっくりと基礎的なことから学習し、身に付けていってほしい。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 毎回の課題を有効に利用し、基礎から少しずつ英語力をつけていってください。 少しでも疑問に思う点や不明な点があれば、そのつど質問してください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 7 号館 2 階			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹部 春樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2330c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業についての注意事項や進め方の説明。	テキストを購入して、目を通しておくこと。
2	Asian Dust and PM2.5 - A Deadly Mix	教科書の第 11 章を学習する。	テキストの予習
3	Tsunami Countermeasures (1)	教科書の第 12 章を学習する。	テキストの予習・復習
4	Tsunami Countermeasures (2)	教科書の第 12 章を学習する。	テキストの予習・復習
5	Bright White Teeth for Everybody	教科書の第 13 章を学習する。	テキストの予習・復習
6	Helium in Short Supply (1)	教科書の第 14 章を学習する。	テキストの予習・復習
7	Helium in Short Supply (2)	教科書の第 14 章を学習する。	テキストの予習・復習
8	Forced Drinking at Universities	教科書の第 15 章を学習する。	テキストの予習・復習
9	QR Codes - A Japanese Success Story (1)	教科書の第 16 章を学習する。	テキストの予習・復習
10	QR Codes - A Japanese Success Story (2)	教科書の第 16 章を学習する。	テキストの予習・復習
11	Rebuilding the Titanic	教科書の第 17 章を学習する。	テキストの予習・復習
12	The Costco Phenomenon (1)	教科書の第 18 章を学習する。	テキストの予習・復習
13	The Costco Phenomenon (2)	教科書の第 18 章を学習する。	テキストの予習・復習
14	Tablets for Business	教科書の第 19 章を学習する。	テキストの予習・復習
15	Are We Running Out of Fuel?	教科書の第 20 章を学習する。	テキストの予習・復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Trend Watching	Jonathan Lynch / 委文光太郎	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	英語の訓練は楽器やスポーツの練習に似ているところがあって、(少しずつでも) 毎日やるのが大切だと思います。がんばりましょう。質問などあればいつでもどうぞ。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室(前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	---------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2330c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習	前期に習った内容の復習	———
	2	Unit 11 Breakfast in America アメリカの朝食	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 41-44
	3	Unit 12 The World Cup ワールドカップ	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 45-48
	4	Unit 13 Blood Types 血液型で性格判断	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 49-52
	5	Unit 14 Reality TV リアリティ番組	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 53-56
	6	Unit 15 Rodeos ロデオ	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 57-60
	7	Unit 16 Women's Sumo 女子相撲	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 61-64
	8	Unit 17 Studying Abroad 海外で学ぼう	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 65-68
	9	Unit 18 The Palace of Salt しよっぱいホテル	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 69-72
	10	Unit 19 The Mona Lisa モナリザの微笑	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 73-76
	11	Unit 20 Lizards トカゲは好きですか	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 77-80
	12	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
	13	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
	14	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
	15	総合復習	試験に向けた復習	教科書など後期範囲一通り

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Basic Faster Reading New Edition 速読の基礎演習 最新版	Casey Malarcher, 原田慎一	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition 改訂新版	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 定期試験 50% 授業への参加、貢献 (提出物、小テスト、まとめテスト等も含む) 30% オンライン授業期間中は単語の小テストは行いません。 11月第1週の7回目より対面授業に変わっています。単語帳より単語小テストを行っています。最後まで対面授業が続いた場合は課題提出(オンライン 25%及び対面 15%)、単語テスト(5%)及び授業最終日の復習テスト(25%)に全学共通英語課題(20%)、TOEIC Bridge(10%)を足して総合評価します(授業評価の各割合は目安で多少変わる場合があります)。今後の社会情勢及び授業形態の変化に伴い、評価方法が変更になる場合があります。
-----------	--

学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	東野 厚子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2330c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行い、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 8 The Modern Workplace	授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習
	2	Unit 8 The Modern Workplace	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	3	Unit 9 The Use of Social Media	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	4	Unit 9 The Use of Social Media	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	5	Unit 10 Effective Business Writing	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	6	Unit 10 Effective Business Writing	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	7	Unit 11 The Modern Office 《第7回より対面授業に移行》	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	8	Unit 11 The Modern Office 《対面授業》	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	9	Unit 12 Socializing with a Purpose 《対面授業》	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	10	Unit 12 Socializing with a Purpose 《対面授業》	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	11	Unit 13 The Business Trip 《対面授業》	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	12	Unit 13 The Business Trip 《対面授業》	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	13	Unit 14 Dining In and Dining Out 《対面授業》	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	14	Unit 14 Dining In and Dining Out 《対面授業》	文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
15	まとめ Unit 8-14 の復習 《対面授業》	全体の復習 まとめテスト	単語学習 テキスト (Unit8-14) の復習	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Indicator 4	Alison Kitzman 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西垣恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	全学共通課題 TOEIC Bridge 授業への参加、貢献(課題、小テスト、まとめテスト等を含む)	20% 10% 70%	
学生への メッセージ	知っておきたい基本的なビジネスルールを英語で学びます。主体的に取り組み、英語の運用能力を向上させましょう。 授業での課題等は必ず、期限を守って提出してください。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2330c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 8: South Korea	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.34-35 練習問題を行うこと。
	2	Unit 8: South Korea	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.36-37 練習問題を行うこと。
	3	Unit 9: Vietnam	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.38-39 練習問題を行うこと。
	4	Unit 9: Vietnam	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.40-41 練習問題を行うこと。
	5	Unit 10: China	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.42-43 練習問題を行うこと。
	6	Unit 10: China	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.44-45 練習問題を行うこと。
	7	Unit 11: Thailand	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.46-47 練習問題を行うこと。
	8	復習, 臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	9	Unit 11: Thailand	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.48-49 練習問題を行うこと。
	10	Unit 12: India	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.50-51 練習問題を行うこと。
	11	Unit 12: India	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.52-53 練習問題を行うこと。
	12	Unit 13: Brazil	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p54-55 練習問題を行うこと。
	13	Unit 13: Brazil	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.56-57 練習問題を行うこと。
	14	Unit 14: The United States of America	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.58-61 練習問題を行うこと。
	15	復習, 臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を復習しておく。

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Business Trends	Iwao Yamashita ほか	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(臨時テスト、小テストなども含む) 80% なお、遠隔授業の場合は課題提出をもって臨時テスト、小テスト等の代替とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業に関する大切なお知らせが1回目 WebFolder に入っています。必ずご確認ください。 毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 TOEICを受験することを勧める。さらに単語力を増強するため、リンガポルテを活用し、積極的に自習すること。 リンガポルテの取り組みも成績評価に反映されます。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室(前期3号館2階/後期7号館2階)
----------	-------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	利ハ・ケイアレット
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2330c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 6 Welcoming a visitor	Meeting other class members	Please bring a short report on what you did over the break (150 words)
	2	Unit 6	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	3	Unit 6	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	4	Unit 7 Making arrangements	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	5	Unit 7	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	6	Unit 7	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	7	Unit 8 Recommending places to visit	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	8	Unit 8	Reading, writing, listening and speaking tasks Short test	Homework and review classwork.
	9	Unit 8	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	10	Unit 9 Giving opinions	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	11	Unit 9	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	12	Unit 9	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	13	Unit 10 Discussing progress	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	14	Unit 10	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework and review classwork.
	15	Unit 10	Final review, wrapping up, small presentation	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	International Express Elementary	Angela Buckingham 他	オックスフォード
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	We will continue building on the skills you have developed in the first semester and look at more challenging Business English. Remember just to participate and try your best! Please check Moodle - "Announcements" for Zoom link
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期3号館/後期7号館2階)
----------	------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	A B C D E F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1344a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	教科書・資料の復習 (1 時間)
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1 時間)
4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前・教科書・資料の見直し (1 時間)
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	教科書・資料の復習 (1 時間)
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1 時間)
7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す (1 時間)
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1 時間)
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1 時間)
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1 時間)
11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前・教科書・資料の見直し (1 時間)
12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	教科書・資料の復習 (1 時間)
13	フィードバック	課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す (1 時間)
14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する (1 時間)
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	小テストの復習 (1 時間)

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)、火曜日、金曜日に相談対応可能。
備考	事前事後学習時間の目安は 15 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	G H J K L M
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島 誠司
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1344a1		

授業概要・目的	<p>初回は対面授業ができたのですが、コロナ禍の広がりでもリモート授業に変わってしまいました。残念です。しかし、学びの歩みを止めてはいけません。2 回目からはパソコンの画面越しではありますが、リアルに授業を進めていきます。teams という会議システムを使い、時間割通りにやります。1 時限目が始まる午前 9 時 20 分の少し前になったらパソコンの前でスタンバイしてください。コロナなんかには負けず頑張りましょう。</p> <p>文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。</p>
---------	--

到達目標	<p>大学生、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。 適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>講義に基づいて、練習問題や課題に取り組む。 原則毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。 毎回の授業は教科書に沿って講義を進める。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。
--------------	--------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	1 時間
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
4	【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習 事前事後あわせて 1 時間
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す 事前事後あわせて 1 時間
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
10	【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
11	レポートの書き方 1	レポート作成の方法と体裁について学ぶ 【課題 3】レポートの説明	これまでの復習 事前事後あわせて 1 時間
12	フィードバック	課題 2 のフィードバック	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
13	レポートの書き方 2	レポート作成の方法と体裁について学ぶ	課題 2 を見直す 事前事後あわせて 1 時間
14	【課題 3】レポートの提出 小テストの復習テスト	提出レポートのチェック 小テスト全体の講評	小テストの復習 事前事後あわせて 1 時間
15	レポートの講評	【課題 3】レポートについて具体的にフィードバック	課題レポートの復習 事前事後あわせて 1 時間

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	<p>課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。</p> <p>課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。</p>
-----------	---

学生へのメッセージ	<p>コロナ禍はまだまだ終息する気配がありません。希望に胸膨らませて入学してこられた皆さんにとっては戸惑うことが多いと思います。しかしながら、憂いていても事態は好転しません。しっかり学び、将来に備えましょう。我々教員はそんな皆さんを応援します。</p> <p>日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に</p>
-----------	---

	日本語と向き合ってください。 ※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝る
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階） 学習支援センター
備考	事前事後学習の総時間の目安は 1.5 時間。 課題提出については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1345a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	レポートの書き方 (2)	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習 (1時間)
3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習 (1時間)
4	ディスカッション準備	配布された資料をまとめる	前回の復習 (1時間)
5	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す (1時間)
6	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	テーマの下調べ (2時間)
7	ディスカッション2	ディスカッションを行う	前回の復習 (1時間)
8	【課題2】報告文	ディスカッションの経過を文書で報告する	これまでの復習 (1時間)
9	資料作成	プレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備 (1時間)
10	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す (1時間)
11	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備 (1時間)
12	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備 (1時間)
13	【課題3】報告文	プレゼンテーションの内容を文書で報告する	報告文の準備 (1時間)
14	手紙の書き方	手紙の基本とマナーを学ぶ	前回の復習 (1時間)
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習 (1時間)

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題3回 (20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)、火曜日、金曜日、相談対応可能。
----------	--------------------------------

備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
----	---

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	G H J K L M
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長谷川 雄高
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1345a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。
科目学習の効果 (資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明	教科書を読み返す (60分)
2	プリント資料の解説と前期の復習 (前半)	前期の内容を復習する	プリント資料を読む (60分)
3	プリント資料の解説と前期の復習 (後半)	課題①のテキスト (プリント資料) の解説を行う	プリント資料を読み、課題①を作成する準備を行う (150分)
4	課題①「論説文」の作成	各人で、ディスカッションの素材となる課題①論説文を作成する	—
5	ディスカッションとは	ディスカッションの技法・類型などについて	ディスカッションの準備を行う (60分)
6	ディスカッションについて	本授業におけるディスカッションのやり方についての説明、グループ分け	ディスカッションの準備を行う (60分)
7	ディスカッション①	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分)
8	ディスカッション②	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分)
9	ディスカッション③	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分)
10	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの技法・類型などについて	プレゼンテーション資料の作成準備を行う (60分)
11	プレゼンテーションについて	本授業におけるプレゼンテーションのやり方や資料作成について	プレゼンテーション資料の作成・推敲やリハーサルを行う (90分)
12	プレゼンテーション①	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分)
13	プレゼンテーション②	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分)
14	プレゼンテーション③	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分)
15	課題③「プレゼンテーション要旨」の作成	各人で発表内容をまとめた文章 (要旨) を作成する	—

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 必須課題を1つでも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	前期の内容に加え、ディスカッションやプレゼンテーションという新たな日本語表現に挑戦してみましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間となる。 提出課題については、授業プリントもしくはTeamsの機能を用いて、フィードバックを行う。 質問等は、メール・Teamsの機能を用いて対応する。			

科目名	キャリアデザイン I	科目名 (英文)	Career Planning I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1349a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義には積極的な態度で受講すること。 講義は教室での対面講義と Web (Teams) によるリアルタイム講義を並行して行う。学生は受講形態を選択できるので自身の事情に応じて時間割通りに講義を受けること。なお、対面講義は初回の教室と同様で、Teams コードは 学籍番号:21G001~21G093 は水野クラス : tkoluv9 学籍番号:21G094~21G802 上野山クラス : mie9io6 ※再履修生は水野クラスで受講してください。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か? 何故必要なのか? ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前: 0.5 時間)
2	さあ始めよう! 大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること(事前: 0.5 時間)
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後: 0.5 時間) ・講義で課された課題に取り組むこと(事後:2 時間)
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと(事後: 2 時間)
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs とは何かについて予習しておくこと(事前: 0/5 時間) ・グループで課題に取り組むこと(2 時間)
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること(事後: 0.5 時間)
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後: 0.5 時間)
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後: 0.5 時間)
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前: 1 時間)
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後: 0.5 時間)
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後: 0.5 時間)
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前: 1 時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(事前: 1 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後: 0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(1 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後: 0.5 時間)
15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5 時間) ・期末レポートを作成すること(1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(30%)、グループ課題(20%)、最終レポート(50%)で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	教育イノベーションセンター(上野山) 教育イノベーションセンター(水野)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。 3. 講義の連絡事項、課題の提出方法は各教員のTeamsから確認してください。 Teams コードは 学籍番号:21G001~21G093 は水野クラス : tkoluv9 学籍番号:21G094~21G802 上野山クラス : mie9io6 ※再履修生は水野クラスで受講してください。			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Planning II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1350a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
---------	--

到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
------	---

授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 講義はWeb (Teams) によるリアルタイム講義を行う。 teams コードは 学籍番号:21G001～21G093 は水野クラス : 7d91vs0 学籍番号:21G094～21G802 上野山クラス : g35fwa ※2020年度以前の学生は水野クラスで受講してください。
----------	---

科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(事前:1時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後:0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後:2時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる(事後:0.5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる(0.5時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後1時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生生活における自身の習慣について振り返ること(事後:0.5時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後:0.5時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前:0.5時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前:1時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる(事前:0.5時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
学生への メッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)
備考	グループワークを用いて学修をすすめるので能動的態度で参加すること

科目名	スポーツと健康	科目名 (英文)	Sports and Health
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 直生
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	IPH2360a1		

授業概要・目的	健康に関して知識理解を深め、正しい情報を選択し実践することが重要である。 そのため本講義では、受講者が生涯にわたって自らの健康の維持増進を実行するための知識を学ぶ。
到達目標	①健康問題について理解することができる。 ②正しい情報を選択し、自身の健康に対する考えを持つことができる。 ③健康づくりのための知識を習得し、実践することができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
科目学習の効果 (資格)	健康維持・増進に関する知識が身につく、受講者自身の健康管理ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	課題・評価について	なし
2	健康とは	健康の定義 平均寿命・健康寿命	健康の定義について復習すること (1時間)
3	身体のしくみ	骨格筋・脳・神経系などの構造や機能について	骨格筋・脳・神経系などの構造や機能についての復習をしておくこと (1時間)
4	生活習慣病①	メタボリックシンドローム 生活習慣病、内臓脂肪、診断基準	メタボリックシンドロームの診断基準について復習すること (1時間)
5	生活習慣病②	高血圧症、糖尿病、脂質異常症、コレステロール、心疾患、脳卒中	高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの疾患について復習すること (1時間)
6	健康と食事	健康な食生活の形成 朝食の必要性	適切な食事について復習すること (1時間)
7	睡眠と健康	レム睡眠・ノンレム睡眠 睡眠負債と睡眠障害	健康づくりのための睡眠について、復習すること (1時間)
8	健康づくりのための運動基準	身体活動量 メッツ 健康日本 21	健康づくりのための運動基準について復習すること (1時間)
9	自身の健康チェック	除脂肪体重 体脂肪 BMI	自身の身長・体重を測定してくること (1時間)
10	計画的なスポーツ実践	運動・スポーツ トレーニングの原理・原則 休養の必要性	トレーニング方法について復習すること (1時間)
11	健康とスポーツ①	全身持久力を高めるための運動処方と実践方法の理解	全身持久力を高めるための運動処方と実践方法を復習すること (1時間)
12	健康とスポーツ②	筋力・筋持久力を高めるための運動処方と実践方法の理解	筋力・筋持久力を高めるための運動処方と実践方法を理解すること (1時間)
13	健康増進計画作成	受講者自身の運動維持・増進のための運動計画を、今までの知識を活用して作成する	運動計画を実際に実施すること (1時間)
14	健康増進計画の実施 保健論まとめ	健康増進計画の実施状況についての確認。 1回から 10回までの授業内容の復習	1回から 10回までの授業内容を復習してくること (1時間)
15	保健論まとめ 確認テスト	11回から 13回までの授業内容の復習	これまでの授業の復習をすること (1時間)

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 50%、レポート 30%、授業態度 (質問に対する返答、積極性など) 20%の割合で総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	質問等がある場合は、事前にアポイントメントをとり、研究室あるいは総合体育館事務室に来ること
-----------	---

担当者の研究室等	総合体育館 1階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	初めのガイダンスには必ず出席のこと。 欠席を5回以上した際の単位取得は認めない。 事前事後学習の総時間の目安は30時間。
----	--

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IKY2369a1		

授業概要・目的	<p>数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。</p> <p>講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。</p>
到達目標	<p>授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと。</p>
授業方法と留意点	<p>11月5日より対面で実施します。それまでの実施方法は指定された問題を自力で解く→解答解説や解説動画による正誤確認と誤答訂正→他の問題にチャレンジ (任意) という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。問題集に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>対面授業では、「問題を解く」⇒講師が問題を解説⇒正誤確認 最後の15分ほどを小テストで理解度確認という流れです。 (小テストはMoodleを使用します) 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習 30分以上を目安とする
	2	計数問題①	割合と比	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	3	計数問題②	割合の応用問題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	4	計数問題③	損益算	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	5	計数問題④	速度算①	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	6	計数問題⑤	速度算②	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	7	復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習 30分以上を目安とする
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習 30分～1時間程度を目安とする
	9	論理問題①	集合	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	10	論理問題②	場合の数	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	11	論理問題③	確率	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	12	論理問題④	表の読み取り	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	13	論理問題⑤	推論①	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	14	論理問題⑥	推論②	全ての問題を事前に復習 30分以上を目安とする
	15	総合テスト	これまでの全範囲	全ての問題を事前に復習 30分～1時間程度を目安とする

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
学生への	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。

メッセージ	毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター
備考	Teams コードは、コピー&ペーストでの入力をオススメします。

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IKY2369a1		

授業概要・目的	<p>数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。</p> <p>講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。</p>
到達目標	<p>授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと。</p>
授業方法と留意点	<p>11月5日より対面で実施します。それまでの実施方法は指定された問題を自力で解く→解答解説や解説動画による正誤確認と誤答訂正→他の問題にチャレンジ (任意) という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。問題集に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>対面授業では、「問題を解く」⇒講師が問題を解説⇒正誤確認 最後の15分ほどを小テストで理解度確認という流れです。 (小テストはMoodleを使用します) 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習 30分以上を目安とする
	2	計数問題①	割合と比	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	3	計数問題②	割合の応用問題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	4	計数問題③	損益算	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	5	計数問題④	速度算①	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	6	計数問題⑤	速度算②	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	7	復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習 30分以上を目安とする
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習 30分～1時間程度を目安とする
	9	論理問題①	集合	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	10	論理問題②	場合の数	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	11	論理問題③	確率	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	12	論理問題④	表の読み取り	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	13	論理問題⑤	推論①	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	14	論理問題⑥	推論②	全ての問題を事前に復習 30分以上を目安とする
15	総合テスト	これまでの全範囲	全ての問題を事前に復習 30分～1時間程度を目安とする	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
学生への	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。

メッセージ	毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター
備考	Teams コードは、コピー&ペーストでの入力をオススメします。

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IKY2369a1		

授業概要・目的
 数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の 20 年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。

到達目標
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと

授業方法と留意点
 11 月 4 日以降は対面形式で実施します。指定された問題を自力で解く→講師が問題を解説→正誤確認と誤答訂正という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。また授業最後の小テストで理解度を確認します。(小テストは Moodle を使用します) 毎回異なる内容に取り組むため、取り上げた問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。なお、履修者数によっては、2 回目以降の授業を複数クラスに分けて行うことがあります。

科目学習の効果 (資格)
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習 (約 1 時間)
2	計数問題①	割合と比	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約 1 時間)
3	計数問題②	割合の応用	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約 1 時間)
4	計数問題③	損益算	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約 1 時間)
5	計数問題④	速度算①	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約 1 時間)
6	計数問題⑤	速度算②	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約 1 時間)
7	総復習①	総復習①	計数問題全範囲の復習 (約 2 時間)
8	中間テスト	中間テスト	計数問題全範囲の復習 (約 2 時間)
9	論理問題①	集合	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約 1 時間)
10	論理問題②	場合の数	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約 1 時間)
11	論理問題③	確率	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約 1 時間)
12	論理問題④	表の読み取り・資料解釈	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約 1 時間)
13	論理問題⑤	推論①	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約 1 時間)
14	論理問題⑥	推論②	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること (約 1 時間)
15	総合テスト	これまでの全範囲	全範囲の復習 (約 2 時間)

関連科目
 コミュニケーション能力開発、就職実践基礎、キャリアデザイン

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
 「小テスト 40%」「中間テスト・最終テスト 50%」「SmartSPI 10%」

学生へのメッセージ
 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、どんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等
 2 号館 2 階 ラーニングセンター

備考
 所属クラスごとに Teams および Moodle の登録先が異なります。クラス確定後に所属先を連絡しますので再登録を行ってください。

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語読解 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)
----------	------------------------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。</p> <p>(4) 小テストの FB に関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。</p>
----	--

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・ 語彙力をつける。 ・ 一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主に講義形式で行う。 ・ 授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・ 語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・ Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認
	8	ついでに何をする?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何をする?②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認
	10	ウイルス発見!①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見!②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語読解 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。</p>
----	--

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語表現作文FII
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)
----------	------------------------------

備考	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。
----	---

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。 ・オンライン授業になった場合、プリントはパワーポイントに変更する。 																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>前期で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>発表のFBを元に復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントはパワーポイントに変更する。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習

関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。
----	---

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
----	---

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: B○, C科: III○, VI○, L科: DP1△, DP2○, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, DP7○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2				
3				

評価方法 各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。

(基準)	
学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の研究室等	11号館11階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : B○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1△, DP2○, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP7○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02131a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	映画 1 : テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計 1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計 1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計 1.5 時間)

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2				
3				

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう! 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP7 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *オンライン授業に変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮して判断する。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になった場合は、毎回の課題提出により評価する。
--------------	---

学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
---------------	---

担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
--------------	----------------------------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。 以下、ZOOM の ID です。 ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500 SIP で参加 87890485750@zoomcrc.com
----	--

	H. 323 で参加 162. 255. 37. 11 (米国西部) 162. 255. 36. 11 (米国東部) 115. 114. 131. 7 (インドのムンバイ) 115. 114. 115. 7 (インド)
--	---

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *再度オンライン授業になった場合はZOOMで授業する。 Zoom ミーティングに参加する https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09 ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500

科目学習の 効果(資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td> <td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック 1-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック 1-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック 2-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック 2-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック 3-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック 3-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック 4-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック 4-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック 5-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック 5-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>発表資料の作り方</td> <td>発表資料の作り方について学ぶ</td> <td>発表テーマを決めておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発表準備 1</td> <td>発表資料の作成</td> <td>発表資料の作成(残り)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>発表準備 2</td> <td>発表資料の修正</td> <td>発表練習(文体に気を付ける)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>口頭発表</td> <td>発表 質疑応答 振り返り</td> <td>質疑応答の仕方について復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成(残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習(文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																														
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																														
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成(残り)																																																														
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習(文体に気を付ける)																																																														
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																														

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法 (基準)	<p>授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。</p> <p>*オンライン授業になった場合、毎回の課題提出により評価する。</p> <p>Zoom ミーティング https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09 ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500</p> <p>SIP で参加 87890485750@zoomcrc.com</p>
学生への	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。

メッセージ	これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7号館2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、確認問題等 (70%)、課題等の提出物 (30%)
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)
----------	------------------------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週 1時間。
----	--

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。 ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。 ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。 異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語のレベルチェック	授業の説明	授業で確認した語彙、表現の復習
2	ビジネス日本語 1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
3	ビジネス日本語 2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
4	ビジネス日本語 3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
5	ビジネス日本語 4 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	ビジネス日本語 5 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネス日本語 6 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
8	ビジネス日本語 7 書く	Eメールの書き方	ビジネスにおけるEメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
9	ビジネス日本語 8	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションに必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
11	日本の会社 1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	日本の会社 2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	日本の会社 3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (40%)、課題の提出物 (30%)、活動 (30%) 等授業時の参加度により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
-----------	------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 (2) 授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。
----	---

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	茶園 直人
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	<p>日本語でディスカッションを行うことができるようになることを目指します。 具体的には、自分の意見を明確に表明できるようになること、相手の意見を受信し、検討できるようになることを目的とします。 また、議論を通して、問題発見解決能力の向上を目指し、最終的にはアカデミックな議論や就職活動など様々な場面に対応できるようになることを目標とします。</p> <p>授業の概要は以下の通りです。 ・まとまった発話を聞いて、そこから話者の抱える問題を発見する。 ・発見した問題についての議論を行い、解決策を提示する。 ・自分の興味関心のある事象について、専門外の人にも分かりやすいように発表する。</p>		
到達目標	<p>まとまった話を聞いて、概要、問題点を把握することができる。 問題に対する解決策（自分の意見）を明確かつ論理的に説明できる。 自分の意見を発信するだけでなく、他者の意見を受信、検討することができる。</p>		
授業方法と留意点	<p>さまざまなテーマに関する話を聞き、話者が抱える問題とその解決策についてディスカッションを行う。 学生はディスカッションへの積極的参加が求められる。また、毎回の授業にはディスカッションの振り返りシートを作成してもらう。 教員は適宜フィードバックを行う。</p>		
科目学習の 効果 (資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介
	2	トピック 1	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	3	トピック 2	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	4	トピック 3	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	5	トピック 4	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	6	トピック 5	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	7	トピック 6	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	8	トピック 7	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	9	トピック 8	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	10	トピック 9	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	11	トピック 10	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	12	発表準備 1	スクリプトの作成
	13	口頭発表・ディスカッション	発表者：ディスカッションを通して、自分の抱えている問題をどのように解決するかを再考し、シートにとめて提出する。
	14	口頭発表・ディスカッション	発表者：ディスカッションを通して、自分の抱えている問題をどのように解決するかを再考し、シートにとめて提出する。
	15	授業の振り返り	振り返り 授業内で扱ったテーマで印象深かったことをテーマにディスカッションを行う

			う。	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	試験は発表形式とし、適宜フィードバックを行なう。 授業時間外の相談はメールにて行うが、必要に応じて別途指示する。			

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意しておくこと。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7 号館 2 階)
----------	---------------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。
----	---

科目名	日本語読解R	科目名 (英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語読解 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)
----------	------------------------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。</p> <p>(4) 小テストの FB に関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。</p>
----	--

科目名	日本語表現作文R	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> レポート・論文の文体で書ける。 読んだ内容を要約できる。 段落分けして書ける。 経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。 授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語表現作文FII
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)
----------	------------------------------

備考	<ol style="list-style-type: none"> 授業外の質問等には、メールで対応する。 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。
----	---

科目名	日本語文法R	科目名 (英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。
----	---

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III o, IV o, R 科 : A o, A 科 : C o, M 科 : B2 o, E 科 : B o, C 科 : III o, VI o, L 科 : DP1 Δ, DP2 o, D 科 : DP1 o, S 科 : DP1 o, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 o, W 科 : DP1 o, N 科 : DP1 o, DP8 ΔN : DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
------	--

(基準)	
学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の研究室等	11号館11階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III o, IV o, R 科 : A o, A 科 : C o, M 科 : B2 o, E 科 : B o, C 科 : III o, VI o, L 科 : DP1 Δ, DP2 o, D 科 : DP1 o, S 科 : DP1 o, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 o, W 科 : DP1 o, N 科 : DP1 o, DP8 ΔN : DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	映画 1 : テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計 1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計 1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計 1.5 時間)

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2				
3				

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう! 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本語総合R	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *再度オンライン授業になった場合は ZOOM で授業する。 Zoom ミーティングに参加する https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09 ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500

科目学習の 効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td> <td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック 1-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック 1-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック 2-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック 2-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック 3-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック 3-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック 4-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック 4-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック 5-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック 5-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>発表資料の作り方</td> <td>発表資料の作り方について学ぶ</td> <td>発表テーマを決めておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発表準備 1</td> <td>発表資料の作成</td> <td>発表資料の作成 (残り)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>発表準備 2</td> <td>発表資料の修正</td> <td>発表練習 (文体に気を付ける)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>口頭発表</td> <td>発表 質疑応答 振り返り</td> <td>質疑応答の仕方について復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																														
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																														
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																														
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)																																																														
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																														

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法 (基準)	<p>授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。</p> <p>*オンライン授業になった場合、毎回の課題提出により評価する。</p> <p>Zoom ミーティング https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09 ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500</p> <p>SIP で参加 87890485750@zoomcrc.com</p>
学生への	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。

メッセージ	これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7号館2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	専門日本語R	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、確認問題等 (70%)、課題等の提出物 (30%)
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期3号館2階/後期7号館2階)
----------	--------------------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語会話R	科目名 (英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 授業中はカメラをONにすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7号館 2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	教育社会学	科目名 (英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題、ジェンダーにかかわる問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。

到達目標
本講義の到達目標は以下の通りです。
1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。
2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。
3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。
4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。

授業方法と留意点
○準備学習の具体的な方法
指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み、要約する。また、日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。授業の進め方についてはオンライン (Zoom の使用) と課題提出 (Moodle の利用) で行います。オンラインの場合は実際の時間割にある授業時間にリアルタイムオンラインで行います。

科目学習の効果 (資格)
(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：教育の基礎理論に関する科目
各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	近代学校教育制度	近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
3	教師と子ども	教師-生徒の関係性」という視点から、学校における教育活動全般を考えていく。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
4	校則・体罰・校内暴力	学校が抱える諸問題(体罰等)が発生する背景や要因について考え、これら問題が発生した際の危機管理や学校対応等について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
5	いじめについて	学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにし、いじめが発生した際の危機管理や対応等について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
6	不登校について	学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
7	教育格差・階層問題Ⅰ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
8	教育格差・階層問題Ⅱ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
9	国の教育政策：海外との比較	教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。	事前課題：それぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
10	地域と学校Ⅰ	地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。また、連携をする際、何か不測の事態が起こった場合の危機管理や子どもたちの安全等についても考える。	事前課題：前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
11	地域と学校Ⅱ	地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行うとともに、学校安全の観点から連携の事例を検討し、よりよい連携のあり方について検討する。	事前課題：前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
12	ジェンダーと教育	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事前課題：教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
13	国家と教育	教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。	事前課題：ジェンダー問題を扱った資料(読み物)を読み、その内容についてまとめてくる。
14	在日外国人の子どもたち	学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。	事前課題：教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
15	総括	「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える	事前課題：最終レポート・試験(予定)の準備

関連科目
「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス
	2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社
	3	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	ブレイディみかこ	新潮社
評価方法 (基準)	毎時間の課題・ミニレポート 100% (内容、提出状況、剽窃等を確認することで評価する) 課題・ミニレポートは提出期限を厳守すること。期限後の提出は認めない。 なお、オンライン上で毎回出欠も取ります。			
学生への メッセージ	毎時間の事前課題・ミニレポートにしっかりと取り組み、授業を受けてください。詳細については第一回目の授業 (オンライン) でお伝えします。 Moodle のアナウンスメント機能や第一回目の部分を確認の上、参加してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室) ※メールで連絡してください。アドレスは j-oono@arc.setsunan.ac.jp です。			
備考	事前・事後学習総時間はおおよそ2時間程度とする。特に事前学習にテキスト(教科書)を使用しての課題を出すので指定している教科書を購入しておくこと。			

科目名	教育経営論	科目名 (英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとってはあたりまえで意識することもないうような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としての LTD について説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第1部を読んでくる。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」	テキスト第2部を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権論争についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。
4	学校体系のしくみ	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合	テキスト第1部を読んでくる。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第3部を読んでくる。
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第3部を読んでくる。
9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 教育行政の原則、監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。
10	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第3部を読んでくる。
11	指導行政と教育課程管理	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政 学力論争と教育評価論	テキスト第4部を読んでくる。
12	人事行政と教職員管理	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク 教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」 「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第4部を読んでくる。
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む)	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第4部を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	7号館 3階 朝日研究室			
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。			

科目名	社会科・地歴科教育法 I	科目名 (英文)	Geography and History Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大井 秀士
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近代教育制度の変遷を考察する中で、社会科・地歴科が持つそれぞれの使命と責任を理解するように努める。その基礎の上に具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。このほか現場で起こる各種の問題についても適宜説明する。 授業担当者は高校と特別支援学校で教諭や管理職を経験し、さらに教育委員会で指導主事を経験している。 経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論等を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の発表や討論を中心として行うので、特に積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。
科目学習の効果 (資格)	中学・高校教員免許 (社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと年間計画	年間講義内容の概略・受講上の注意点・成績評価について	事前 既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
2	日本の教育制度の歴史について	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前に中高校で学習した明治以降の歴史を復習概観しておくこと。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
3	学習指導要領について	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前 中高等学校学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
4	学習指導案の作成について 1	地理・歴史科学学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 学習指導案とは何かを調べておく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
5	学習指導案の作成について 2	地理・歴史科学学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 与えられたテーマで各自学習指導案を作成し発表に備える。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
6	学習指導案の作成と模擬授業 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
7	学習指導案の作成と模擬授業 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
8	学習指導案の作成と模擬授業 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
9	学習指導案の作成と模擬授業 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
10	学習指導案の作成と模擬授業 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
11	学習指導案の作成と模擬授業 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
12	学習指導案の作成と模擬授業 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
13	学習指導案の作成と模擬授業 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
14	授業記録について	社会科教員として授業を見る目を鍛える為の授業記録の形式や方法について学ぶ。	事前 どのような授業記録方法があるかを考えておく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
15	評価の方法と理論	生徒の学習成果を検証するための視点と評価方法について学ぶ。	事前 評価方法の種類について考えておく。 事後 評価は自己の教育技術の反映であることを考える。 (4時間程度)

関連科目	社会科・地歴科教育法 II
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。			
学生への メッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考				

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大井 秀士
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	講義参加者全員が実際に研究授業展開を行い、教員として必要な基本的知識・技能を習得する。模擬授業を実践する中で講義参加者全員で討議・批評を行い各自の授業力向上を図る。 授業担当者は高校と特別支援学校で教諭や管理職を経験し、さらに教育委員会で指導主事を経験している。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の模擬授業実践発表や討論を中心として行うので、積極的な発表、発言が望まれる。
科目学習の効果(資格)	中学・高校教員免許(社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分: 教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学習指導要領歴史的分野(世界史)の内容等の確認。	世界史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認。	事前 学習指導要領の通読 事後 講義後指示する。 (4時間程度)
2	学習指導要領歴史的分野(日本史)の内容等の確認。	日本史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認。	事前 学習指導要領の通読 事後 講義後指示する。 (4時間程度)
3	学習指導要領地理的分野の内容等の確認。	地理的分野の基礎的事項の確認。	事前 学習指導要領の通読 事後 講義後指示する。 (4時間程度)
4	学習指導案の作成と研究授業実施 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
5	学習指導案の作成と研究授業実施 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
6	学習指導案の作成と研究授業実施 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
7	学習指導案の作成と研究授業実施 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する。(4時間程度)
8	学習指導案の作成と研究授業実施 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
9	学習指導案の作成と研究授業実施 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
10	学習指導案の作成と研究授業実施 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
11	学習指導案の作成と研究授業実施 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
12	学習指導案の作成と研究授業実施 9	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
13	学習指導案の作成と研究授業実施 10	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
14	授業実践発表の年間総括 1	後期授業全体についての総括と反省点を討議する。	事前 全員の授業計画案を再度確認 事後 レポート作成、提出。(4時間程度)
15	授業実践発表の年間総括 2	後期授業全体についての講義担当者からの総括。	事後 レポート作成、提出。(4時間程度)

関連科目	社会科・地歴科教育法Ⅰ
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
担当者の研究室等	3号館2階非常勤講師室
備考	

科目名	道徳教育の研究	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。	(事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後)テキスト2のP.8～17を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	(事前)テキスト1のP.6～12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	(事前)テキスト1のP.12～25を精読しておく。 (事後)道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.26～35及びテキスト2のP.26～29を精読しておく。 (事後)道徳の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	(事前)テキスト1のP.36～48及びテキスト2のP.30～33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	(事前)テキスト1のP.49～58及びテキスト2のP.34～37を精読しておく。 (事後)道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	(事前)テキスト1のP.59～68及びテキスト2のP.38～41を精読しておく。 (事後)道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.71～85及びテキスト2のP.42～45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	(事前)テキスト1のP.86～95及びテキスト2のP.46～49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	(事前)テキスト1のP.96～106及びテキスト2のP.50～53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実際①：カリキュラム・マネジメント、テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前)テキスト1のP.107～130及びテキスト2のP.54～57を精読しておく。 (事後)カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
12	授業づくりの実際②：問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前)テキスト1のP.131～152及びテキスト2のP.58～61を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
13	学習指導案の作成	これまでの講義内容をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	(事前)テキスト2のP.62～65を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	(事前)テキスト2のP.66～69を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備

	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び 考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検 討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめ る。	をしておく。 (事前) グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備 をしておく。 (事後) 「よい道徳科の授業」について考えをまと める。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>道徳科 初めての授業づくり</td> <td>吉田誠・木原一彰 編著</td> <td>大学教育出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編</td> <td>文部科学省</td> <td>教育出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版	2	中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編	文部科学省	教育出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版																	
2	中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編	文部科学省	教育出版																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編</td> <td>文部科学省</td> <td>廣済堂あかつき</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集</td> <td>『道徳教育』編集部</td> <td>明治図書出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき																	
2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版																	
3																				
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、作成した学習指導案(20%)、学期末試験の結果(50%)等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。																			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7号館4階(谷口研究室) ※現在は耐震工事中のため、11号館11階です。																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。																			

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p> <p>学級担任が担当する場合が多い総合的な学習(探求)の時間の理論と指導法では、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。</p> <p>公立高校での学級担任、学年主任、総合的な学習の時間の企画主担等、34年間の教員経験に基づき、学校現場での学級づくりや総合的な学習の時間の展開に役立つ実践的な授業を行う。</p> <p>SDGs-1, 4, 5, 10</p>
到達目標	<p>教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。</p> <p>特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。</p> <p>総合的な学習(探求)の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重</p>
授業方法と留意点	<p>新型コロナウイルス感染拡大に対応した授業の実施形態として、「講義科目はオンライン授業」と決定されたため、授業は原則として、時間割通りの曜日・時に、Teamsを使用して動画配信型(リアルタイム方式)で行っていたが、授業方針の変更に伴い10月11日、18日は準備のためにオンデマンド方式で、10月25日から対面方式で実施する。</p> <p>第15回の授業の後半に、授業時間内テストを行う(定期試験期間中の考査は行わない)。</p> <p>「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や、自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析</p>
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動および総合的な学習(探求)の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習(探求)の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
2	特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって(ソロワーク)	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習するとともに課題を作成する(2時間)。
3	学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入学して(ソロワーク)	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするをするとともに課題を作成する(2時間)。
4	学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出(ソロワーク)	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
5	生徒会活動・児童会活動、学校行事ワーク④学校行事の思い出(ソロワーク)	生徒会(児童会)活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点	特別活動テキスト第3章第2・3節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習をするをするとともに課題を作成する(2時間)。
6	体験活動・体験的な学びの意義ワーク⑤「14歳の頃・17歳の頃」(ソロワーク)	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
7	特別活動の歴史ワーク⑥ワークショップ入門(ソロワーク、グループ討議、発表)	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがい	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
8	特別活動と学級経営ワーク⑦メディアリテラシー(グループ討議、交流)	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
9	特別活動と生徒指導ワーク⑧いじめへの対応(1)(グループ討議、交流)	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
10	特別活動の指導計画と評価ワーク⑨生徒指導・問題行動への対応(即興劇、グループ討議、交流)	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用	特別活動テキスト第4章第1・2・5節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
11	特別活動と総合的な学習(探求)の時間の共通点と相違点ワーク⑩不登校への対応(グループ討議、交流)	特別活動と総合的な学習(探求)の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
12	総合的な学習(探求)の時間の目標・内容・原理ワーク⑪進路指導・キャリア教育(即興劇、グループ討議、交流)	総合的な学習(探求)の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
13	総合的な学習(探求)の時間の学習活動と学習指導ワーク⑫ジェンダーフリー(グループ討議、交流)	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
14	総合的な学習(探求)の時間	全体計画、年間計画、単元計画の作成、	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義

		の指導計画・評価・校内体制 ワーク③いじめへの対応 (2) (グループ討議、交流)	生徒の学習状況の評価	資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2 時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (2 時間)。																
	15	補足とまとめ/授業時間内 テスト	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 授業時間の後半にテストを行う。	特別活動のテキスト第 4 章第 2・3・4 節、総合的な学習の時間のテキスト第 9 章、講義資料を事前に読んでおく (2 時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (2 時間)。																
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことに関連づけるとともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総合的な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別活動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別活動編	文部科学省	東山書房																	
2	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高等学校学習指導要領解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東京書籍</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>学校図書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東京書籍	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編	文部科学省	学校図書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東京書籍																	
2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編	文部科学省	学校図書																	
3																				
評価方法 (基準)	授業への参加状況及び課題 (40%)、中間レポート (30%)、最終回授業内テスト (30%) を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 (林研究室)																			
備考	授業外総学習時間は 60 時間とする。																			

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一, 朝日 素明, 大野 順子, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p>
到達目標	<p>免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。</p>
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目 (教職実践演習を除く) の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものである。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・2回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。 	教育実習ノートの点検と再確認
2	いじめの現状	<p>問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。</p> <p>配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。</p>	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
3	いじめ問題への取り組み	<p>日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。</p> <p>配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。</p>	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
4	ジェンダーと教育	<p>近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。</p> <p>近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点を扱い、学校教育を改めて考えてみたい。</p> <p>特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。</p>	(事前) 第1回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1～2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
5	学校の中のマイノリティ: 外国にルーツをもつ子どもたち	<p>1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。</p> <p>それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。</p> <p>ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。</p>	(事前) 第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1～2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
6	学校の危機管理①: 学校管理下の事件・事故	<p>学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。</p>	(事前) 学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
7	学校の危機管理②: 災害	<p>災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。</p>	(事前) 災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
8	教員の体罰はなぜなくなるのか?	<p>教員の体罰の実態や体罰防止の現状等について学ぶとともに、体罰の背景にある指導観、子ども観について考える。</p>	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
9	教員の勤務時間はなぜ長くなるのか?	<p>労働時間法制や教員の勤務時間の実態について学ぶとともに、長時間勤務の背</p>	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。

			景にある問題について考察し、働き方改革の方途を考える。	(事後) ミニレポートを課す。
	10	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート
	11	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート
	12	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)①	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。 ※本年度は新型コロナのため、VTRを視聴し学修を進める。	中学校における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
	13	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)②	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。 ※本年度は新型コロナのため、VTRを視聴し学修を進める。	中学校における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
	14	専攻科目における実践上の課題①	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理する
	15	専攻科目における実践上の課題②	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理する
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。			
学生へのメッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力を身に付けること。			
担当者の研究室等	7号館3階(朝日、大野、林、吉田) 7号館4階(谷口)			
備考	事前・事後総学習時間は、60時間程度である。			

科目名	職業指導 I	科目名 (英文)	Vocational Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で意見を出し合ってください。 なお、講義は対面による講義 (1051 教室) と Teams を用いたリアルタイム型 Web 講義 (3geidm7) を同時進行で行う。 自身の事情により受講形式を選択すること。
科目学習の効果 (資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習：本科目のシラバスを熟読すること (1 時間) 事後学習：年間の学びの計画を立てること (3 時間)
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習：職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと (2 時間) 事後学習：職業指導に関する資料を熟読すること (2 時間)
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習：欧米の職業指導に関して調査すること (3 時間) 事後学習：講義の内容を振り返ること (1 時間)
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習：日本の産業の変遷について市調べしておくこと (3 時間) 事後学習：講義内容を振り返ること (1 時間)
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	事前学習：日本の戦後の教育改革について調べておくこと (2 時間) 事後学習：配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習：日本型雇用について発表資料を作成すること (3 時間) 事後学習：発表及びディスカッションの内容を振り返ること (1 時間)
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習：高卒労働市場に関して調べておくこと (2 時間) 事後学習：講義内容を振り返ること (2 時間)
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	事前学習：高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること (3 時間) 事後学習：講義内容を振り返ること (1 時間)
9	「労働すること」を考える	・仕事をするものの意義を考える	事前学習：仕事をする意味について意見をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：自らの労働観について考えること (2 時間)
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習：職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること (2 時間) 事後学習：講義内容を振り返ること (2 時間)
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：自己について考えておくこと (2 時間) 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること (2 時間)
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：児童・生徒の発達について考えておくこと (3 時間) 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること (1 時間)
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習：高校でのキャリア教育の事例について調べておくこと (1 時間) 事後学習：模擬授業の準備をすること (3 時間)
14	模擬授業	・講義 13 で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習：模擬授業の準備をすること (2 時間) 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること (2 時間)
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、最終レポートの提出	事前学習：前期のレポートを作成すること (3 時間) 事後学習：講義全体を振り返ること (1 時間)

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。</p> <p>平常点(30%)、(授業課題 20%)、期末レポート(50%) また、前期最終時にレポートを実施します。</p>			
学生への メッセージ	<p>「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。なお、講義は科目担当者の人材業界での業務経験・及び起業経験を元にしたお話も交えて進行します。</p>			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)			
備考				

科目名	職業指導Ⅱ	科目名(英文)	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化とそれが職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。 なお、当面の間はTeamsを使用してリアルタイム講義を行う。 Teamsコード：h2f18nk
科目学習の効果(資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付く

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明	事前学習：本科目のシラバスを再度熟読すること(1時間)。 事後学習：後期の学習計画を立てること(3時間)
2	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：商業高校の職業指導事例に関して調査すること(2時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること(2時間)
3	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：工業高校の職業指導事例に関して調査すること(2時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること(2時間)
4	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	事前学習：普通科高校の職業指導事例に関して調査すること(2時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること(2時間)
5	フリーター・ニートについて	グループ(またはペア)でフリーター・ニート対策を考える	事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるよう準備すること(2時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること(2時間)
6	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること(2時間)。 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること(2時間)
7	キャリアデザインとは何か	キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること(2時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること(2時間)
8	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者に求められる基本的な能力 ・職業適性、アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること(2時間)。 事後学習：自らの適性の活かし方を考えること(2時間)。
9	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILOの提唱する「人間らしい働き方」について調査すること(2時間)。 事後学習：配布資料を精読すること(2時間)
10	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	事前学習：AIによる仕事の代替可能性について調査すること(2時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること(2時間)
11	就業力向上企画を立案①	高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること(3時間)。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること(1時間)
12	就業力向上計画立案②	11回目まで考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること(3時間)。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること(1時間)
13	キャリアカウンセリング理論①	自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと(2時間)。 事後学習：講義の内容について振り返ること(1時間)
14	キャリアカウンセリング理論②	カウンセリングマインドについて	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと(1時間)。 事後学習：講義の内容について振り返ること(2時間)
15	まとめ/講義の振り返り	提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること(4時間)。 事後学習：講義全体を振り返ること(2時間)

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。「特別活動論」にも近接します。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポートを実施します。その他、授業への積極的参加、その他課題の提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(20%)、調査・プレゼンテーション課題(30%)、期末レポート(50%)			
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義では担当者の実務経験にもとづいて議論を進めることもあります。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)			
備考				

科目名	特別支援教育論	科目名 (英文)	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教職課程「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に対応する科目である。</p> <p>障害をはじめ、日本語指導や貧困、被虐待、性的マイノリティ等による特別な教育ニーズのある児童・生徒が、安心安全のうちに、楽しく学び、達成感を持ちながら学校生活を送り、生きる力を身に付けることができるよう、教員として必要な知識及び支援の方法について学ぶ。</p> <p>メディア言説に囚われた「障害」理解が一面的なものであることを可視化させ、「障害」の概念について再構成することと併せて、特別支援教育の理念・制度・方法・教育課程の歴史の変遷及び現状と課題について整理し、インクルーシブな教育の今後の在り方について展望する。</p> <p>中・高（小）免許状取得希望者を対象とする科目であることを踏まえ、公立高校教員として34年間勤務し、特別支援教育コーディネーターや人権教育主担としての実務経験をもつ授業担当者が、通常の学級（・学校）での特別支援教育の実践に焦点をしばって授業をすすめる。</p>
到達目標	<p>①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する理念や仕組みについて理解する。</p> <p>②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について理解する。</p> <p>③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性、障害の場合はその特性について理解する。</p> <p>④さまざまな障害や成育歴をもち、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。</p> <p>⑤個別的教育支</p>
授業方法と留意点	<p>コロナ感染拡大防止のため、第2回から授業方法の変更を行う。原則として時間割通りの曜日・時限で行われる Teams を使用したオンライン授業（リアルタイム方式）を受講すること。</p> <p>第15回授業の後半にオンラインを利用したテストを行う。</p> <p>大学のHPやポータル、Teamsでの連絡を見逃すことのないように留意すること。</p> <p>授業形態</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、授業はオンライン（動画配信・リアルタイム方式）で行う。ICTツールはTeamsを使用する。状況の変化があれば、対面授業に戻ることもある。</p>

科目学習の効果（資格）	教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。
-------------	-------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、インクルーシブ教育システムの概要	わが街は暮らしやすいか、わが学校は学びやすいか。障害とは何か。自立と共生を求める当事者。インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育とは何か	教科書の序章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
2	新しい障害観と特別支援教育への転換	ICIDHからICFへ。医学モデルから社会モデルへ。特殊教育から特別支援教育へ。法律の整備と社会システムの整備	教科書の第1・2章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
3	障害者権利条約と合理的配慮	国連障害者権利条約の批准に向けた国内法の整備。障害者差別解消法に基づく差別的取り扱いの禁止と合理的配慮の提供義務。インクルーシブ教育システムの構築	講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
4	戦前・戦後の特殊教育の成立と展開	障害のある子どもの学校の誕生。重い障害のある子どもの学校教育からの排除。盲・ろう学校の義務制度化と特殊学級の設置拡大	教科書の第5・6章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
5	養護学校義務制度化からすべての学校における特別支援教育への転換まで	養護学校（知的・肢体不自由・病弱）の義務制度化。障害種別と程度に応じた教育の場の分離。障害種別と程度に応じた教育から個別のニーズに応じた教育へ。発達障害も特別支援教育の対象に。通級制度の創設。	教科書の第7章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
6	障害のある子供たちの学校生活と家庭生活の課題	就学前からの地域支援。共生社会に向けた教育権の保障。孤立・排除・いじめのない人間関係づくり。ともに生きともに学ぶ学級集団づくり。介助員制度の活用。周りの保護者や地域の理解。保護者との連携と家族支援	教科書の第3章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
7	障害のある子供たちの進路選択と地域生活の課題	就学先の決定は保護者・本人の意向尊重が原則。差別的取り扱い禁止及び合理的配慮としての入試受験配慮。人権保障としての就労移行支援・就労継続支援、日常生活支援・社会参加支援	講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
8	通常学級での特別支援教育の実践	個別支援とアセスメント。個別指導の最適化。授業のユニバーサルデザイン化。通級制度の活用。高等学校での特別支援教育	教科書の第4章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
9	発達障害・知的障害の理解と支援	知的障害の定義と分類、障害の特性と身体・心理的特性、学習上の課題と対応。発達障害の定義と分類、身体・心理的特性、学習上の課題と対応。	講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
10	肢体不自由・病弱、重度重複障害の理解と支援	肢体不自由・病弱の定義と分類、身体・心理的特性、学習上の課題と対応。重度重複障害の定義と分類、身体・心理的特性、学習上の課題と対応。障害の多様性についての理解	講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
11	視覚障害・聴覚障害の理解と支援	視覚障害・聴覚障害の定義と分類、身体・心理的特性、学習上の課題と対応	講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。

	12	個別の指導計画と個別の教育支援計画、外国の特別支援教育	話し合い、方向を決めるツールとしての指導計画、つなぐツールとしての教育支援計画。個別の指導計画の作成の仕方。個別の指導計画の授業への生かし方。諸外国における SNE (スペシャル・ニーズ・エデュケーション)	教科書第 8・9 章、講義資料を事前に読んでおく (2 時間)。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2 時間)。																
	13	校内支援体制の構築と SC・SSW 等との連携・協働、特別支援教育の今後の課題	教員間の連携。他職種との連携。福祉・医療等関係機関との連携。見えてきた特別支援教育の課題。よりインクルーシブな教育を展望して	教科書の第 11 章、講義資料を事前に読んでおく (2 時間)。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2 時間)。																
	14	ニューカマー、社会的養護、LGBT など性的マイノリティの子供の理解と対応	ニューカマーの子供、施設から通学する子供、LGBT など性的マイノリティの子供等を視野に入れた学級づくりと授業づくり	講義資料を事前に読んでおく (2 時間)。授業後、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2 時間)。																
	15	被虐待の子供など家庭の問題を抱えた子供の理解と対応、まとめ	非虐待の子供等、家庭の問題を抱えた子供への心理的ケアと関係機関との連携、授業全体のまとめ	講義資料を事前に読んでおく (2 時間)。授業後、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2 時間)。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特別支援教育 多様なニーズへの挑戦</td> <td>柘植雅義</td> <td>中央公論新社 (中公新書)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特別支援教育 多様なニーズへの挑戦	柘植雅義	中央公論新社 (中公新書)	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	特別支援教育 多様なニーズへの挑戦	柘植雅義	中央公論新社 (中公新書)																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特別支援教育資料 (令和元年度版)</td> <td>文部科学省</td> <td>Web</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特別支援教育資料 (令和元年度版)	文部科学省	Web	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	特別支援教育資料 (令和元年度版)	文部科学省	Web																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業への参加状況【課題等】(40%)、中間レポート (30%)、オンライン・テスト (30%) を総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	オンラインでの授業という制約下ではあるが、本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1 人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。																			
担当者の研究室等	11 号館 11 階 階林研究室																			
備考	授業外総学習時間を 60 時間とする。																			

科目名	道徳教育論	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける「立場」からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。

授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
----------	---

科目学習の効果 (資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。	(事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後)テキスト2のP.8～17を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	(事前)テキスト1のP.6～12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	(事前)テキスト1のP.12～25を精読しておく。 (事後)道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.26～35及びテキスト2のP.26～29を精読しておく。 (事後)道徳の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	(事前)テキスト1のP.36～48及びテキスト2のP.30～33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	(事前)テキスト1のP.49～58及びテキスト2のP.34～37を精読しておく。 (事後)道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	(事前)テキスト1のP.59～68及びテキスト2のP.38～41を精読しておく。 (事後)道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.71～85及びテキスト2のP.42～45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	(事前)テキスト1のP.86～95及びテキスト2のP.46～49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	(事前)テキスト1のP.96～106及びテキスト2のP.50～53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実際①：カリキュラム・マネジメント、テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前)テキスト1のP.107～130及びテキスト2のP.54～57を精読しておく。 (事後)カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
12	授業づくりの実際②：問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前)テキスト1のP.131～152及びテキスト2のP.58～61を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
13	学習指導案の作成	これまでの講義内容をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	(事前)テキスト2のP.62～65を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	(事前)テキスト2のP.66～69を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備

	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び 考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検 討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめ る。	をしておく。 (事前) グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備 をしておく。 (事後) 「よい道徳科の授業」について考えをまと める。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>道徳科 初めての授業づくり</td> <td>吉田誠・木原一彰 編著</td> <td>大学教育出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編</td> <td>文部科学省</td> <td>教育出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版	2	中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編	文部科学省	教育出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版																	
2	中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編	文部科学省	教育出版																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編</td> <td>文部科学省</td> <td>廣済堂あかつき</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集</td> <td>『道徳教育』編集部</td> <td>明治図書出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき																	
2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版																	
3																				
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、作成した学習指導案(20%)、学期末試験の結果(50%)等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。																			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7号館4階(谷口研究室) ※現在は耐震工事中のため、11号館11階です。																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。																			

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名 (英文)	Methodology of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p> <p>総合的な学習 (探求) の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。</p> <p>公立高校での学級担任、学年主任、総合的な学習の時間の企画担当者等、34年間の教員経験に基づき、学校現場での学級づくりや総合的な学習の時間の展開に役立つ実践的な授業を行う。</p> <p>SDGs-1, 4, 5, 10</p>
---------	--

到達目標	<p>教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。</p> <p>特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。</p> <p>総合的な学習 (探求) の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要</p>
------	---

授業方法と留意点	<p>新型コロナウイルス感染拡大に対応した授業の実施形態として、「講義科目はオンライン授業」と決定されたため、授業は原則として、時間割通りの曜日・時に、Teamsを使用して動画配信型 (リアルタイム方式) で行ってきたが、緊急事態宣言解除により第7回授業から対面授業に切り替える。</p> <p>第15回の授業の後半に、授業時間内テストを行う (定期試験期間中の考査は行わない)。</p> <p>「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や、自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ・表現することが求められる総合的な学習の</p>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。
--------------	-----------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習 (探求) の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (2時間)。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ワーク①「キャラ」をめぐって (ソロワーク)	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料を参考に復習するとともに課題を作成する (2時間)。
3	学級活動・ホームルーム活動①	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 ワーク②大学に入学して (ソロワーク)	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (2時間)。
4	学級活動・ホームルーム活動②	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ワーク③学級活動の思い出 (ソロワーク)	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (2時間)。
5	生徒会活動・児童会活動、学校行事	生徒会 (児童会) 活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ワーク④学校行事の思い出 (ソロワーク)	特別活動テキスト第3章第2・3節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (2時間)。
6	体験活動・体験的な学びの意義	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性 ワーク⑤「14歳の頃・17歳の頃」 (ソロワーク)	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (2時間)。
7	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ ワーク⑥ワークショップ入門 (ソロワーク、グループ討議、発表)	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (2時間)。
8	特別活動と学級経営	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 ワーク⑦メディアリテラシー (グループ討議、交流)	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (2時間)。
9	特別活動と生徒指導	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 ワーク⑧いじめへの対応 (1) (グループ討議、交流)	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (2時間)。
10	特別活動の指導計画と評価	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 ワーク⑨生徒指導・問題行動への対応 (即興劇、グループ討議、交流)	特別活動テキスト第4章第1・2・5節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (2時間)。
11	特別活動と総合的な学習 (探求) の時間の共通点と相違点	特別活動と総合的な学習 (探求) の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 ワーク⑩不登校への対応 (グループ討議、交流)	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (2時間)。

	12	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 ワーク⑩進路指導・キャリア教育（即興劇、グループ討議、交流）	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2時間）。																
	13	総合的な学習（探求）の時間の学習活動と学習指導	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び ワーク⑪ジェンダーフリー（グループ討議、交流）	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2時間）。																
	14	総合的な学習（探求）の時間の指導計画・評価・校内体制	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 ワーク⑬いじめへの対応（2）（グループ討議、交流）	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2時間）。																
	15	補足とまとめ／授業時間内テスト	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。授業時間の後半にテストを行う。	特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2時間）。																
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房																	
2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高等学校学習指導要領解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東京書籍</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>学校図書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東京書籍	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編	文部科学省	学校図書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東京書籍																	
2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編	文部科学省	学校図書																	
3																				
評価方法（基準）	授業への参加状況及び課題（40%）、中間レポート（30%）、最終回授業内テスト（30%）を総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																			
担当者の研究室等	寝屋川7号館3F林研究室																			
備考	授業外学習総時間を60時間とする。																			

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー（DP）			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指すという素養を養います。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	対面授業で、プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に進めます。また時折、レポートを課します。Teamsのチャネルを通してテキストや資料を配布します。また、レポート課題提示・提出受付はMoodleを通して行います。「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教育課程と生徒指導・進路指導	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり	テキスト pp. 3-6、pp. 25-32、pp. 80-100
2	生徒指導の目標と意義	生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 6-17
3	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 17-24
4	生徒指導の理論	発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 32-42
5	生徒理解の進め方（1）	生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法	テキスト pp. 43-52
6	生徒理解の進め方（2）	生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 52-62
7	学級経営の進め方（1）	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
8	学級経営の進め方（2）	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-79
9	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
10	学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力	学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携	テキスト pp. 116-131
11	生徒の進路・キャリアに関する実態と課題	進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
12	進路指導・キャリア教育の目標と意義	進路指導・キャリア教育の意義 進路指導・キャリア教育の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
13	進路指導・キャリア教育の理論	キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論	キャリア発達理論に関する配布資料
14	進路指導における「ガイダンスの機能」	ガイダンスを活かした指導	テキスト pp. 220-223
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 196-220、pp. 223-234

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成29年告示）	文部科学省	
2	高等学校学習指導要領（平成30年告示）	文部科学省	
3			

評価方法（基準）	定期試験 50%、レポート 50%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。定期試験はオンライン Web 試験に変更する場合があります。その場合は試験時間割公開に先立ち指示します。
学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
担当者の研究室等	7号館3階 朝日研究室

備考	<p>必ず自分が履修登録をした曜日時限の Teams チームおよび Moodle コースにメンバー登録をしてください。自分が履修登録した曜日時限以外の Teams チームおよび Moodle コースにメンバー登録をしたものは成績評価対象外です（全欠席扱いとし、単位認定しません）。</p> <p>また、ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。</p> <p>事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。</p>
----	---

科目名	教育相談 (カウンセリングの基礎を含む)	科目名 (英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
 教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識 (カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む) を身に付ける。
 特に、学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と“問題”への対応について、実践的な取り組み方を考える。

到達目標
 教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と“問題”への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。

授業方法と留意点
 講義と演習を組み合わせて行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。

科目学習の効果 (資格)
 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。
 【免許法施行規則に定める科目区分】
 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
 各科目に含める必要事項：教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。) の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育相談とは何か	教育相談の意義、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1講、配付資料を用いた予習・復習
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、カウンセリングの技法	テキスト第2講・第3講、配付資料を用いた予習・復習
3	グループ発表の準備	グループワーク (アイスブレイク含む)	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)..... 治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第2講、第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)..... 開発的カウンセリング活動	テキスト第2講・第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第11講・第12講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
8	“問題”の理解と対応1	“問題”とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
9	“問題”の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
10	心の発達と“問題”	青年期の発達 (認知、自己意識、道徳性、仲間関係等)	テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	相談援助活動の実際1	不登校.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第4講、配付資料を用いた予習・復習
12	相談援助活動の実際2	いじめ.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第4講、配付資料を用いた予習・復習
13	相談援助活動の実際3	授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第5講、配付資料を用いた予習・復習
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第7講、配付資料を用いた予習・復習
15	これからの教育相談	新たな課題、教師のメンタルヘルス、さらなる連携	テキスト第15講、配付資料を用いた予習・復習

関連科目 教職課程の科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかる! 教職エクササイズ3 教育相談	森田健宏・吉田佐治子 (編著)	ミネルヴァ書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) グループ発表 50%、期末試験 50%

学生へのメッセージ これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

担当者の研究室等 7号館3階 (吉田研究室)

備考 グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。グループ内ではピア評価を行います。

事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

Teams コードと科目名

火曜 2 限 : dm62fep 21 後-教職-010-教育相談 (火 2) -吉田 佐治子

木曜 1 限 : x0o8r2g 21 後-教職-015-教育相談 (木 1) -吉田 佐治子

木曜 4 限 : 4cvqalv 21 後-教職-020-教育相談 (木 4) -吉田 佐治子

Moodle コース名と登録キー

火曜 2 限 : 2

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」をはじめ履修する学生を対象とする。
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
	2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
	3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日報等) の作成
	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	すべての科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 (朝日研究室)、7号館3階 (大野研究室)、7号館4階 (谷口研究室)、7号館3階 (林研究室)、7号館3階 (吉田研究室)
----------	--

備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。
----	--

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」をはじめて履修する学生を対象とする。
科目学習の効果(資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	事前指導1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
	2	事前指導2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
	3	事前指導3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
	5	活動1～25	受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成
	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	すべての科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)、7号館3階(大野研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)
----------	---

備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。
----	--

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明・大野 順子・谷口 雄一・林 茂樹・吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義 (体験報告を含む)、演習 (文献購読、発表、討議を含む)、実習 (指導案作成、模擬授業を含む) を行う。対面授業を基本とする。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち「教育実習に係る事前及び事後指導」1単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】教育実践に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：教育実習 (教育実習に係る事前及び事後指導)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	実習中の勤務の要領	学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
6	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
7	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
8	指導案の作成 (1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
9	指導案の作成 (2)	学級 (ホームルーム) 活動等の指導案について	授業時に指示する
10	模擬授業 (1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業 (2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業 (3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	模擬授業 (4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
14	教育実習の実際 (1)	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する
15	教育実習の実際 (2)	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する

関連科目 教職課程で学んだ全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
	2			
	3			

評価方法 (基準) 課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。

学生へのメッセージ 教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。

担当者の研究室等 吉田研究室・林研究室・大野研究室・朝日研究室 (7号館3階)
谷口研究室 (7号館4階)

備考 教育実習体験発表会 (10月末土曜日)、教育実習総括講義 (11月末土曜日) には必ず出席すること。
ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。
担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。
事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度となる。

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにしているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務 (チーム学校運営への対応を含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることとなります。教養もともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の 7号館3階 朝日研究室

研究室等	
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と1	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1, 配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と2	発達の要因, 主な発達理論の概観	テキスト第8章1, 配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第9章, 配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章, 配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達3	青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章, 配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能1	思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1, 配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能2	言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達	テキスト第11章, 配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章, 配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び1	さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ	テキスト第1章, 配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び2	さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習	テキスト第1章・第6章, 配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級	テキスト第0章2・第10章, 配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....ATI, 学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2, 配付資料による本時の予習と復習

関連科目 教職課程におけるすべての科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 小テスト 30%, 期末試験 70%

学生へのメッセージ これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。

担当者の研究室等 7号館3階 (吉田研究室)

備考 Teams コードと科目名
火曜 5限: e9cb86b 21前-教職-010-教育心理学 (火5) -吉田 佐治子
木曜 1限: ghkw1pp 21前-教職-018-教育心理学 (木1) -吉田 佐治子
木曜 5限: h135mtc 21前-教職-023-教育心理学 (木5) -吉田 佐治子
金曜 5限: lgnr3zw 21前-00-034-教育心理学 (金5) -吉田 佐治子
Moodle コース名と登録キー
火曜 5限: 2021 教育心理学 (火5) あるいは 21 教心 (火5) 2021EPTUE5

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろうか？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろうか？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p>
---------	--

到達目標	<p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>【スケジュール】 授業のスケジュールはおおよそ下記の通りです。</p> <p>【連絡方法】 授業についての連絡やOPPシートの提出は、Teamsを使います。 ※シラバス下部にある Teams コードを使って登録しておいてください。</p> <p>【授業方法】 Moodle を使ったリアルタイム授業を行います。 ※シラバス下部にある自己登録キーを使って登録しておいてください。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の学修内容を確認する 2. 前回の感想・疑問等を交流する 3. 本時の学修内容について自学する 4.
----------	---

科目学習の 効果 (資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>
------------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキスト P. 3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろうか」という問いについて自分の考えをまとめておく。
	2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
	3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
	4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキスト P. 76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
	5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキスト P. 69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
	6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキスト P. 93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
	7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキスト P. 86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
	8	近代の教育思想①： コメニウスの教育思想	コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 20～22 及び P. 94～95 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	9	近代の教育思想②： ルソー、ペスタロッチの教育思想	ルソー、ペスタロッチの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 23～25 及び P. 77 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	10	近代の教育思想③： ヘルバルト、フレーベルの教育思想	ヘルバルト、フレーベルの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 26～27 及び 81～82 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	11	現代の教育理論①： デューイの教育思想	デューイの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 28～29 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
	12	現代の教育理論②： 20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 29～32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
	13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 50～54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。

			る。																	
	14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.147～151を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。																
	15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキストP.169～178を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>哲学する教育原理</td> <td>伊藤潔志 編著</td> <td>教育情報出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>高等学校学習指導要領</td> <td>文部科学省</td> <td>東洋館出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>哲学する学校経営</td> <td>伊藤潔志 編著</td> <td>教育情報出版</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房	2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房																	
2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版																	
3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版																	
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパー (OPPシート) の内容 (30%) や学期末試験の結果 (70%) 等をもとに総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。																			
学生への メッセージ	授業の中でチャットを使用した対話を多く予定しています。受講者の皆さんの積極的な発言を期待しています。																			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7号館4階 (谷口研究室)																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。																			

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	本授業は、授業全体を通して、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を熟読し、さらに、それぞれが取得する免許教科の学習指導要領を入手し、熟読しておいてください。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げている教科書を購入し、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
5	教育評価 その1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
6	教育評価 その2	教育課程評価について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
9	新しい教育課程 その2	「アクティブラーニング」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
10	新しい教育課程 その3	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中高編。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
12	教育課程と教育改革 その2	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成する。

関連科目	教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程(第4版)	田中耕治他	有斐閣アルマ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新教育課程ライブラリ(Vol.1～Vol.12)	(株)ぎょうせい	(株)ぎょうせい
2	ワークで学ぶ教育課程論	尾崎博美他	ナカニシヤ出版	
3				

評価方法(基準)	事前課題・レポートの内容(40%)と最終試験(60%)により総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	指定している「教科書」を活用し、毎時間、事前事後学習をしっかりと行ってください。レポート等の提出物に関しては期日までに提出すること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階(大野順子研究室) 連絡先：j-oono@arc.setsunan.ac.jp
----------	---

備考	2009年度以前入学生は、(高校)教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。 授業で用いる資料等については、適宜印刷し、配布します 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。
----	--

科目名	教育方法論	科目名 (英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、①テキストにもとづいた教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成についての理解、基礎的な授業技術と方略等に関する講義、②授業にあたって留意すべき事項についての授業ミニ講座、③教材の開発及び授業の進め方に関する活動（個人ワーク及びグループディスカッション）で構成する（オンライン授業では、グループでのマイクロ・ティーチングの活動はできないので、3年次以降の授業で取り扱うこととした）。</p> <p>授業担当者は、高校現場で34年間にわたり、「授業」を行ってきた経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場ではなく、「作る」立場に転換した能動的な学びを経験することを期待する。</p> <p>より具体的には、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について捉えなおし、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「知識や技能を教え込む技術」の習得をめざすのではなく、生徒の生活背景や教室内の人間関係の把握を前提に、教室での突発的な出来事にも柔軟かつ的確に対処し、生徒からのリアクションを教材の文脈にもどしながら、意図的・計画的なカリキュラムを臨機応変に調整することによって、「教室を豊かな学びの場とする授業づくり」を追求する姿勢を身に付ける。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、上記(2)に関する専門性を個々に向上させるだけでなく、同僚間で相互に学び合う「同僚性」を構築すること、また、教育諸科学の最新の研究から新しい知見を積極的に摂取することの重要性について理解する。</p>
---------	---

到達目標	<p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。</p>
------	---

授業方法と留意点	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第2回から授業方法の変更を行う。原則として時間割通りの曜日・時限で行われる Teams を使用したオンライン授業（リアルタイム方式）を受講すること。</p> <p>第15回の授業の後半で、オンラインを利用したテストを行う。</p> <p>大学のHPやポータル・Teamsでの連絡を見逃すことのないように留意すること。</p> <p>当初予定していたグループでの「マイクロ・ティーチング」の活動（教材作成及び授業実施のグループワーク）はオンラインではできないので、3年次以降の授業で取り扱うこととした</p>
----------	---

科目学習の効果（資格）	教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。
-------------	-------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、教職科目「教育方法論」について	授業のオリエンテーション 講義：今、なぜ教育方法の学なのか・教育方法学の論点と課題 ミニ講座：①授業びらき・授業じまい 課題：印象に残る授業	教科書序章・第3章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
2	学習とは何か（学習論）	講義：学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態 ミニ講座：②褒美と罰 発展：学ぶとはどういうことか 課題：指導方略	教科書第5章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
3	子どもたちは何を学ぶのか（教育目標・内容論）	講義：教育目標に関する基本的な考え方、教育目標と内容 ミニ講座：③発問 発展：授業研究 課題：発問と予想される子どもの応答	教科書第4章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
4	欧米における授業の歴史（教授論の歴史①）	講義：近代以前の教育、近代教育思想と教授法の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開 ミニ講座：④指示・説明・共有 発展：学級の規模と形態 課題：授業形態と学級規模	教科書第1章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
5	日本における授業の歴史（教授論の歴史②）	講義：古代から近世の教育、近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、授業改造の試み ミニ講座：⑤発問の工夫と仕方 発展：学級崩壊 課題：学級崩壊の経験	教科書第2章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
6	学力をどう高めるか（学力論）	講義：学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める ミニ講座：⑥指名・助言・発言の受け方、教師の話し方 発展：戦後学力論争史 課題：全国学力・学習状況調査	教科書第6章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備を行う（2時間）
7	授業をどうデザインするか（設計・デザイン論）	講義：授業のデザイン、教科内容と子どもの学び、対話的・協同的な学び合い、学びのための指導・支援 ミニ講座：⑦板書・机間指導・ノート指導 発展：授業の設計とデザインの違い 課題：学びからの逃走	教科書第7章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備を行う（2時間）
8	8 教育の道具・素材・環境（教材論）	講義：教材づくりの発想、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境と	教科書第8章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。

			しての時空間 ミニ講座：⑧観察・実験・フィールドワーク 発展：教材研究・教材開発・授業の構想 課題：体験型の授業と座学型の授業	時間。模擬授業の準備を行う（2時間）。
9	何をどう評価するか（評価論）		講義：指導要録における教育評価観の変遷、目標に準拠した評価の意義と展開、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、教育評価論としての「実践記録」 ミニ講座：⑨グループ学習・ペア学習・話し合い 発展：現在の学習評価 課題：内申書とテスト	教科書第9章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備・振り返りを行う（2時間）
10	誰がカリキュラムを編成するのか（カリキュラム論）		講義：教育課程の編成にあたって、教育課程の構造と類型 ミニ講座：⑩ノート指導、レポート指導、プレゼンテーション指導 発展：総合的な学習の時間の授業づくり 課題：探求学習の指導	講義資料をよく読んでおく（2時間）。講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備・振り返りを行う（2時間）
11	授業・学習へのICTの活用（教育の情報化論1）		講義：教育の情報化（その1）、教育の情報化の今日的意義、教育情報化の加速、ICTを活用した学びの実践、学校のICT環境整備、学習環境を支えるICT環境 ミニ講座：⑪授業中の私語 発展：コロナと学校の授業 課題：大学のオンライン授業	講義資料をよく読んでおく（2時間）。講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備・振り返りを行う（2時間）
12	情報教育と校務の情報化（教育の情報化論2）		講義：教育の情報化（その2）、情報教育、校務の情報化の推進、教育情報セキュリティの確保、教師に求められるICT活用指導力等の向上 ミニ講座：⑫学びの空間 活動：グループディスカッション① 課題：教師のファシリテーションスキル	講義資料をよく読んでおく（2時間）。講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備・振り返りを行う（2時間）
13	インクルーシブな授業をつくる（インクルーシブ教育論）		講義：インクルーシブ教育とインクルーシブ教育システム、ICIDHからICFへの転換、特別支援教育の理念と合理的配慮の考え方、授業における合理的配慮 ミニ講座：⑬ワークショップ型の授業 活動：グループディスカッション② 課題：PBL（問題解決型学習）問題点	講義資料をよく読んでおく（2時間）。講義資料を参考に学習内容を整理する。模擬授業の振り返りを行う（2時間）。
14	ユニバーサルデザイン化した授業をつくる（ユニバーサルデザイン論）		講義：バリアフリーとユニバーサルデザイン、教育のユニバーサルデザイン化、基礎的環境整備と合理的配慮の関係、教室環境のユニバーサルデザイン、授業のユニバーサルデザイン化と指導の三段構え ミニ講座：⑭授業研究の方向性 発展：新しい学び 課題：学び合いの変化	講義資料をよく読んでおく（2時間）。講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の振り返りを行う（2時間）。
15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって／テスト		講義：すぐれた教師になるために、2つの教師モデル、教師としての成長に向けて、結論 ミニ講座：教師をめざすオンラインテスト	教科書第11章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の振り返りを行う（2時間）

関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	授業への参加状況【課題等】（40%）、レポート（30%）、テスト（30%）により総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	オンラインでの授業という制約下ではあるが、「授業に参加するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。			
担当者の研究室等	11号館11階(林研究室)			
備考	授業外総学習時間を60時間とする。			

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」をはじめ履修する学生を対象とする。
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
	2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
	3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日報等) の作成
	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	すべての科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 (朝日研究室)、7号館3階 (大野研究室)、7号館4階 (谷口研究室)、7号館3階 (林研究室)、7号館3階 (吉田研究室)
----------	--

備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。
----	--

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を既に履修した学生を対象とする。
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	事前指導1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
	2	事前指導2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
	3	事前指導3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
	5	活動1～25	受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日報等) の作成
	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	すべての科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 (朝日研究室)、7号館3階 (大野研究室)、7号館4階 (谷口研究室)、7号館3階 (林研究室)、7号館3階 (吉田研究室)
----------	--

備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。
----	--

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部 [A]，理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果 (資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
5	街頭犯罪——ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
7	性犯罪——街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まささが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
10	詐欺——高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
11	サイバー犯罪——子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)

			罪を取り上げる。																	
	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青バト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	期末課題(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。																			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえらると思う。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室																			
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトなどを通じて行う。																			

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式
科目学習の効果 (資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間1時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷—	武居 奈緒子	千倉書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房	
3				

評価方法 期末レポート (100%)

(基準)	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室
備考	

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名 (英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1○E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。</p> <p>・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害（マルチ商法）、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりが無い。</p> <p>・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。</p> <p>・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>・犯罪被害者を論ずる前に、講義の教回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。</p> <p>・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」（教養）でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。</p>
到達目標	<p>この講義を通じて学生には、</p> <p>「・「被害者」概念について説明できる</p> <p>・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できる</p> <p>・犯罪被害者の支援制度について理解できる」</p> <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<p>・新型コロナ変異株の流行により、第1回目の授業から当面のあいだ、本授業はMicrosoft社のteamsを用いたオンデマンド動画配信方式で行う。</p> <p>↓</p> <p>※【講義形式変更告知】職域ワクチン接種が終了したのちの2021年10月28日（木）～</p> <p>・2021年10月28日（木）から対面にて講義を行う。</p> <p>・成績評価は従来通り、teams上のリンクから回収した同一の課題に対する答案の総得点で評価する。</p> <p>・課題は対面講義が終了した後に、teams上の該当回のチャンネルに上げる。同時に復習に資する動</p>
科目学習の効果（資格）	<p>・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。</p> <p>・公務員や法律事務所などへの就職に役立つ。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の入手 事前：教科書第1章をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること（2時間）
2	少年犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・少年法と被害者救済 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること（2時間）
3	性犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・性犯罪被害特有の問題点 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「性犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）
4	ドメスティックバイオレンス（DV）の被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・DV被害の特殊性 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「DV」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「DV被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）
5	ストーカー犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーカーへの対抗手段 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）
6	インターネット犯罪の被害者 刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット犯罪被害の特殊性 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）
7	児童虐待の被害者救済	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待の意義 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「児童虐待」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）
8	触法精神障害者からの被害	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者の加害行為と対処法 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）
9	犯罪被害救済総論①	<ul style="list-style-type: none"> ・被害届と告訴・告発の効果 ・加害者との示談交渉 ・マスコミ対策 ・検察審査会 ・検察審査員 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第2章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること（2時間）

			<ul style="list-style-type: none"> ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度 																	
	10	犯罪被害救済総論②	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者による裁判傍聴と参加 ・被害者による記録の閲覧と謄写 ・被害者における心情陳述 ・被害者等特定事項の非公開 ・遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判 	事前：教科書第3章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「被害者参加制度」についてノートにまとめること（2時間）																
	11	犯罪被害救済総論③	<ul style="list-style-type: none"> ・損害賠償命令制度 	事前：教科書第4章「損害賠償命令制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「損害賠償命令制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）																
	12	犯罪被害救済総論④	<ul style="list-style-type: none"> ・被害回復給付金制度 	事前：教科書第4章「被害回復給付金制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「被害回復給付金制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）																
	13	犯罪被害救済総論⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪被害者等給付金支給制度 	事前：教科書第7章「犯罪被害者等給付金支給制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「犯罪被害者等給付金支給制度」についてノートにまとめること（2時間）																
	14	犯罪被害救済総論⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・加害者情報へのアクセス ・法テラス 	事前：教科書第7章「法テラス」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「法テラス」についてノートにまとめること（2時間）																
	15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：教科書で取り扱った箇所をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：重要事項についてノートにまとめること（2時間）																
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック</td> <td>第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会</td> <td>東京法令出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	開講時に指示する。																			
2																				
3																				
評価方法（基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・形成的評価を行うため、Microsoft 社 teams を通じて、Microsoft forms から課題を提出し、その回答内容を評価対象とする（100%）。 ・2021年10月28日（木）から対面にて講義を行う。 ・成績評価は従来通り、teams 上のリンクから回収した同一の課題に対する答案の総得点で評価する。 ・課題は対面講義が終了した後に、teams 上の該当回のチャンネルに上げる。同時に復習に資する動画ファイルも配信する。 ・受講者は teams 上のレジュメをダウンロードし、各自プリントアウトし必ず持参すること（レジュメの教室配布はしない）。 ・対面講義参加希望者は六法全書を必ず持参すること。 ・課題提示や資料の配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 																			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。 																			
担当者の研究室等	11号館10階 小野教授室																			
備考	講義の理解を試すミニツッパーパーに対するコメントは次回講義の冒頭で行う。																			

科目名	現代韓国論	科目名 (英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1, L科:LT01366a1~LT01370a1, D科・S科:IT01371a1~IT01375a1, P科:YT01423a2~YT01427a2, J科:JT01374a~JT01378a1, W科:WT01352a1~WT01356a1, N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているように異なる、また異なっているように似通っている、そんな存在である韓国。本授業では、日韓関係の変遷を手がかりとし、現代の韓国社会における変化を中長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	本授業を通じて、現代韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国現代史について、とりわけポスト冷戦時代の日韓関係史を軸として、概観できるようになる。 ・ポスト「バブル経済」時代における日本社会についての理解を踏まえて、ポスト「民主化」の時代における韓国社会についての理解を深める。
授業方法と留意点	韓国現代史の基礎的事実関係を踏まえつつ、基本的には教科書に基づいて講義を進める。具体的なイメージをつかむために、関連する映画作品を鑑賞することも予定している。 【シラバス更新にもなうお知らせ】(2021.04.16) ・講義は、①Teamsを通じたりアルタイム配信(後日視聴も可能)、②Moodleを通じたレジュメ・課題等の配信、という2つの手段を適宜組み合わせさせていただきます。 ・授業形態の変更にもなう計画調整によって、授業の進行スケジュールにも変更が生じます。あらかじめご了承ください。
科目学習の効果(資格)	韓国現代史および現代の日韓関係に関する基礎的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 (「まえがき」「プロローグ」についてはここで取り上げる。)	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	第I部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想(1)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
3	第I部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想(2)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
4	第I部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開(1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
5	第I部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開(2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
6	第I部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題(1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
7	第I部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題(2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
8	第I部 相互信頼から相互不信へ	第4章 「小春日和」の時代	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
9	第II部 対立激化への展開	第5章 領土問題の相克と定着化(1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
10	第II部 対立激化への展開	第5章 領土問題の相克と定着化(2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
11	第II部 対立激化への展開	第6章 民主党政権と李明博政権(1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
12	第II部 対立激化への展開	第6章 民主党政権と李明博政権(2) 第7章 外交争点としての「慰安婦」問題(1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
13	第II部 対立激化への展開	第7章 外交争点としての「慰安婦」問題(2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
14	第II部 対立激化への展開	第8章 文在寅政権の転換	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)

	15	映画作品に見る現代韓国	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] 提示する資料を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 提示した資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民 [編著]	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国現代史	木村幹	中公新書
	2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房
	3			
評価方法 (基準)	<p>提出レポートに基づく評価を行なう。(100%) 詳細については授業内で指示する。</p> <p>【シラバス更新にともなうお知らせ】(2021.04.16) ・基本的に変更はありません。定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価(100%)を実施します。 (課題の提示および提出は、Moodleを通じて行ないます。)</p>			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室 ※ただし2021年度は校舎改修工事のため、一時的な研究室移動があります。			
備考	授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 なお、2019年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。			

科目名	AI ビジネス創造実習	科目名 (英文)	Practicum in Business Creation by Using AI
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	近年、情報処理基盤の社会浸透、人工知能 (AI) や IoT 等の最先端技術のオープン化に伴い、既存のビジネスモデルが大きく変化するとされています。本講義では、学生の自由な発想のもと、一人ひとりが独自の AI を作ることで、AI とは何か、AI にできること、AI では難しいことを理解します。そして、作成した AI を持ち寄り、新しいビジネスプランを考えるグループワークを通して、事業創造に必要な企画・構想力を身に着けます。																																																																		
到達目標	(1) AI の基本原理を理解し、AI を活用した既存サービスに関する知識を深めること (2) AI の作り方を知り、独自の AI を作れること (3) AI を活用したビジネスプランを発売し、グループディスカッションにより洗練させた上でプレゼンテーションができること																																																																		
授業方法と留意点	情報処理室を使用した対面授業です。 授業資料 (PDF) は、各回の授業日までに Web Folder の「AI ビジネス創造実習」クラスにアップロードします。 毎回の授業でテーマに関する演習課題を課します。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組みましょう。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方、AI の構築環境の準備</td> <td>シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>AI の基本原理と最新動向 (1)</td> <td>AI の歴史、AI の仕組み、最新動向</td> <td>配布資料の指定頁の予復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>AI の基本原理と最新動向 (2)</td> <td>最新動向の調査、アイデア出し</td> <td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>AI を作るための準備 (1)</td> <td>データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け</td> <td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>AI を作るための準備 (2)</td> <td>データの整備</td> <td>データの整備、授業内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>AI の作り方</td> <td>CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法</td> <td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>AI の使い方</td> <td>画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法</td> <td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>AI の評価方法</td> <td>画像認識 AI モデルの評価、再学習</td> <td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>AI によるビジネスプランの考案</td> <td>作成した AI の相互評価、グループ分け</td> <td>学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>AI によるビジネスプランの考案 (2)</td> <td>グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方</td> <td>グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの考案</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>AI によるビジネスプランの考案 (3)</td> <td>ビジネスプランと AI の作成</td> <td>ビジネスプランの文書作成、AI の作成</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>AI によるビジネスプランの考案 (4)</td> <td>ビジネスプランの推敲、AI の作成</td> <td>ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>AI によるビジネスプランの考案 (5)</td> <td>ビジネスプランの推敲、AI の評価</td> <td>ビジネスプランの文書修正、AI の評価</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループによる発表、相互評価</td> <td>授業内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括</td> <td>これまでのまとめ</td> <td>授業内容の振り返り</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方、AI の構築環境の準備	シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習	2	AI の基本原理と最新動向 (1)	AI の歴史、AI の仕組み、最新動向	配布資料の指定頁の予復習	3	AI の基本原理と最新動向 (2)	最新動向の調査、アイデア出し	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	4	AI を作るための準備 (1)	データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	5	AI を作るための準備 (2)	データの整備	データの整備、授業内容の見直し	6	AI の作り方	CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	7	AI の使い方	画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	8	AI の評価方法	画像認識 AI モデルの評価、再学習	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	9	AI によるビジネスプランの考案	作成した AI の相互評価、グループ分け	学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し	10	AI によるビジネスプランの考案 (2)	グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方	グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの考案	11	AI によるビジネスプランの考案 (3)	ビジネスプランと AI の作成	ビジネスプランの文書作成、AI の作成	12	AI によるビジネスプランの考案 (4)	ビジネスプランの推敲、AI の作成	ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化	13	AI によるビジネスプランの考案 (5)	ビジネスプランの推敲、AI の評価	ビジネスプランの文書修正、AI の評価	14	プレゼンテーション	グループによる発表、相互評価	授業内容の振り返り	15	総括	これまでのまとめ	授業内容の振り返り
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方、AI の構築環境の準備	シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習																																																																
2	AI の基本原理と最新動向 (1)	AI の歴史、AI の仕組み、最新動向	配布資料の指定頁の予復習																																																																
3	AI の基本原理と最新動向 (2)	最新動向の調査、アイデア出し	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
4	AI を作るための準備 (1)	データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
5	AI を作るための準備 (2)	データの整備	データの整備、授業内容の見直し																																																																
6	AI の作り方	CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
7	AI の使い方	画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
8	AI の評価方法	画像認識 AI モデルの評価、再学習	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
9	AI によるビジネスプランの考案	作成した AI の相互評価、グループ分け	学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し																																																																
10	AI によるビジネスプランの考案 (2)	グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方	グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの考案																																																																
11	AI によるビジネスプランの考案 (3)	ビジネスプランと AI の作成	ビジネスプランの文書作成、AI の作成																																																																
12	AI によるビジネスプランの考案 (4)	ビジネスプランの推敲、AI の作成	ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化																																																																
13	AI によるビジネスプランの考案 (5)	ビジネスプランの推敲、AI の評価	ビジネスプランの文書修正、AI の評価																																																																
14	プレゼンテーション	グループによる発表、相互評価	授業内容の振り返り																																																																
15	総括	これまでのまとめ	授業内容の振り返り																																																																
関連科目	情報リテラシーやプログラミングに関連する科目を履修済みであることが望ましいでしょう。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人工知能が変える仕事の未来</td> <td>野村 直之</td> <td>日本経済新聞</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>人工知能は人間を超えるか</td> <td>松尾 豊</td> <td>角川</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人工知能が変える仕事の未来	野村 直之	日本経済新聞	2	人工知能は人間を超えるか	松尾 豊	角川	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	人工知能が変える仕事の未来	野村 直之	日本経済新聞																																																																
2	人工知能は人間を超えるか	松尾 豊	角川																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	成績は、演習課題の回答内容に基づき評価します。期限内に提出できなかった場合は、大幅に減点します。																																																																		
学生へのメッセージ	Society 5.0 時代は、高度な情報システムやデータ処理技術を「作る人」よりも、上手に「使う人」が重宝されるでしょう。だれもが、わずかな専門知識と大いなる熱意があれば、驚くようなプロダクトやソリューションを創造することができる世の中になっています。この授業をとおして、そのことを大いに実感してほしいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 8 階 塚田研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	社会福祉論	科目名 (英文)	Social Welfare
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	Ⅴ科:Ⅱ◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:Ⅱ◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	Ⅴ科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	本講義では、さまざまな要因から生きづらさを感じている人びとの暮らしをどのように支えていくかについて、社会福祉の制度や地域における支え合い、個々人の生き方など、多角的な視点から考えていきます。 本講義を通じ、受講生は、社会に貢献できる能力として、社会福祉の知識だけでなく、これからの地域、社会の担い手に求められる技能、態度を身につけることが期待されます。 SDGs-1, 3, 5, 10, 11, 17
---------	---

到達目標	①講義で取り扱うテーマを理解し、その概要について説明ができること ②日本の社会福祉の特徴と概要について説明ができること ③これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、態度を身につけること
------	---

授業方法と留意点	学生に対する積極的な問いかけ、講義中のディスカッション、グループワークを取り入れた講義を行います
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方について説明を行うとともに社会福祉の基本理念について理解を深めます	事後学修:配布資料を熟読すること(2時間)
2	社会福祉の歴史①	諸外国における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習:テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること(2時間) 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと(2時間)
3	社会福祉の歴史②	日本における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習:テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること(2時間) 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと(2時間)
4	社会福祉の実施主体	社会福祉の実施主体について理解を深めます	事前学習:テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること(2時間) 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと(2時間)
5	社会保障の概観	社会保障の機能および種類を概観したのち、公的扶助と保険制度の内容について理解し、その役割について考えます	事前学習:テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること(2時間) 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと(2時間)
6	高齢者福祉	高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに高齢者福祉のこれからのことについて考えます	事前学習:テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること(2時間) 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと(2時間)
7	認知症の人を社会で支える	認知症になっても地域で暮らしつづけるにはどうすればよいか、認知症にかんする基本的な知識を踏まえて考えます	事前学習:テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること(2時間) 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと(2時間)
8	障害者福祉	障害のある人びとを取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに障害者福祉のこれからのことについて考えます	事前学習:テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること(2時間) 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと(2時間)
9	子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに子ども家庭福祉のこれからのことについて考えます	事前学習:テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること(2時間) 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと(2時間)
10	地域福祉①	地域福祉の考え方と手法、キーワードを紹介し、地域福祉についての基礎的理解を目指します	事前学習:テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること(2時間) 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと(2時間)
11	地域福祉②	地域福祉の国内における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習:テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること(2時間) 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと(2時間)
12	地域福祉③	地域福祉の海外における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習:テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること(2時間) 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと(2時間)
13	地域福祉④	地域が抱える課題とその解決法を模索するワークに取り組みます	事前学習:地域が抱える課題とその解決法を模索するワークに取り組みます(4時間) 事後学習:提出した成果物の内容について振り返りを行うこと(2時間)
14	社会福祉と大学生の役割	社会福祉を展開に対して大学生にどのような役割が期待されるかについて実践事例を通じて考えます	事前学習:テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること(2時間) 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと(2時間)
15	講義のふりかえり	講義のふりかえりをおこない、これからの地域、社会の担い手に求められる知	事後学習:講義の内容について振り返りを行うこと(4時間)

			識、技能、態度についてあらためて考え ます	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のレポート 50%、最終レポート 50%			
学生への メッセージ	社会福祉に関するさまざまな知識、視点を踏まえて、みなさん自身に考えていただく機会になればと考えています。			
担当者の 研究室等	7号館3階（上野山研究室）			
備考				

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 浩
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1○E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本授業で提供する「金融知力 (リテラシー)」とは、経済・金融に関する知識や情報を正しく理解し、自らが主体的に判断できる能力のことであり、社会人として経済的に自立し、より良い暮らしを送っていくうえで欠かせない生活スキルです。</p> <p>講師が、証券業界に長く勤務した経験を生かして、経済・金融の動向、金融商品の基本的な仕組みや特性、リスクマネジメント、金融資産の形成・運用方法について、実例となる日常のニュースを理解しながら、すでに学んでいる知識と融合させて具体的かつ現実に則した「金融知力 (リテラシー)」の習得を目指します。</p> <p>サブテーマとして、ESG・SDG's等近年注目されているテーマについても、随時授業に取り入れます。</p>
到達目標	<p>経済・金融の仕組みやさまざまな金融商品の性格・特性を理解し、ライフステージのさまざまな局面での金融資産形成における的確な判断や行動に結びつく「金融知力 (リテラシー)」を習得することで、将来の自らの資産形成に的確な判断ができる一助になる事を目標にします。</p> <p>また証券系の研究機関として蓄積した企業評価、市場分析の手法を学び、投資のみならず、就職活動における企業選択にも役立てることを目標とします。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。 ・教材・課題提供型遠隔授業を、行います。 ・教科書と配布レジュメをよく読んで復習を行い、理解を進めていくこと。 ・レポート課題等の提出物は要提出、提出期限を厳守してください。 <p>・毎回レジュメを配布し・時事問題についても解説します</p>

科目学習の効果 (資格)	<p>日々、刻々と変わるマーケットを理解できる可能性があります。</p> <p>企業経営者の考え方が理解できる可能性があります。</p> <p>中長期の経済トレンドを自ら予測し活動できる可能性があります。</p>
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	金融知力リテラシー習得の必要性	科学技術のイノベーションとグローバル化の急速な進展、結果として、様々な市場の変化により、学生諸君を取り巻く環境の変化を紹介し、自らのライフプランの中で「金融リテラシー (知力)」を身につけなければならない必要性を解説します。	少子高齢化問題・財政赤字に関する報道内容の整理確認
2	金融・経済の仕組み①	資産形成の前提となる経済の基礎的条件 (ファンダメンタルズ) の知識を2回にわたって解説します。	経済用語等を理解し、経済記事を読みこなす様習慣を持つ
3	金融・経済の仕組み②	金利や金融政策など経済と金融のかかわり、世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	金融政策全般の再確認
4	ライフプランニング①	ライフプランとは生涯生活設計といった意味で、自分と家族の生活プラン、暮らし方を表します。ライフデザインを描き、ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる
5	ライフプランニング② キャッシュフロー表の作成	人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します	自分の大学卒業までの学費、大学生の間の生活費について、自身で計算する
6	貯蓄型商品	預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	金融機関の業態の理解に努める
7	リスクとリターンとは	投資は利益 (リターン) をあげることを目的とする行為ですが、その利益は将来回収されるものであり、現時点では必ずしも確定していません。そのためいろいろな可能性、逆にいえば不確実性があるということになります。「リスク」とはこの不確実性のことをいいます。リスクとリターンの関係、リスクマネジメントについて解説します。	自身の人生設計、今後就職される会社にもリスクリターンの考え方は通じる。派生的に考えてみる
8	アセットクラス※の基礎知識 / 株式 (1) (ESG投資への展開含む)	上場、株式投資の魅力とリスク、取引の仕組みなどについて解説します。 ※アセットクラス: 資産クラス、資産の種類のこと	媒体でのESG投資に関する記事を確認 株式の模擬売買を経験する
9	アセットクラスの基礎知識 / 株式 (2)	マーケット・企業分析株価は、会社の業績のほか、景気、為替相場、金利、需給関係、政治、国際情勢、天候等さまざまな要因によって日々、変動しています。企業の株価や経営効率を判断する投資指標、株価水準の割安・割高を判断する分析手法等について解説し、実際の株式投資や企業分析に役立つ手法を解説します。	企業の開示資料への理解を深める
10	アセットクラスの基礎知識 / 債券 (1) (SDG's含む)	債券とは、国をはじめ、地方公共団体、政府関係機関、事業会社などが広く一般の投資者から、まとまった資金を調達す	財務省のHPで20年度予算の概要を確認

			ることを目的として発行される証書です。債券の種類・特徴とリスク、”格付け”について学びます。																	
	11	アセットクラスの基礎知識 ／債券（２）－金利と債券	前回に引き続き、債券投資の理解を深めます。債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してください。	債券の発行市場・流通市場への理解を深める																
	12	アセットクラスの基礎知識 ／投資信託	投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。	銀行・証券の投資信託販売手法に批判存在。整理確認																
	13	アセットクラスの基礎知識 ／外貨建て商品・証券化商品・ 外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品	外貨建て商品・証券化商品・ 外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品の解説します。	日々の為替の推移、変動要因をチェック																
	14	ファイナンシャルプランニング、セーフティネット	これまで学んでいた「金融知力（リテラシー）」を総括して解説します。あわせて、金融資産の形成に欠かせないコストや優遇税制制度、預金保険制度などについて解説します。	自身の今後の人生での最優先課題、夢を今一度考えてみる																
	15	講義総括・レポート課題の解説	レポート課題の解説と参考資料も提示します	レポート期限は厳守ください																
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>金融経済と資産運用の基礎</td> <td>日興リサーチセンター</td> <td>星雲社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	星雲社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	星雲社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<p>授業の参加姿勢 20% 理解度等を総合的に評価します。</p> <p>・レポート： 80%（レポート内容・実施時期は今後確定しますが、講義終了後のレポートを重視します）</p>																			
学生への メッセージ	<p>実務経験をベースととし、マーケットメカニズムを、お伝えできればと考えています。 半年の授業に是非お付き合いください。 授業計画は変更される場合があります</p>																			
担当者の 研究室等	11号館1階（教務課）																			
備考	<p>質問等は、下記メールで受け付けますが、一定の期間を要する場合があります yayoidai8603@gmail.com</p> <p>この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。</p>																			

科目名	暗号資産とデリバティブ	科目名 (英文)	Cryptocurrency and Derivatives
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>社会生活様式の激変から、ICT活用による距離と時間を短縮する社会システムが構築されつつある。その状況下において、通貨流通システムも新たな手法への導入が進んでいる。本講座は工学と経済学の融合科目として、暗号資産（仮想通貨）の汎用性の仕組みと課題、および金融ビジネスで普及が進むデリバティブ取引の基本的仕組みについて学ぶ。</p> <p>【留意点】投機を目的とした仮想通貨の投機手法を学ぶ授業ではありません。</p> <p>【担当教員実務経歴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金融機関での経営企画、金融商品研究業務 ・ベンチャー投資財団での投資業務担当 ・監査法人での株式上場、業務監査 ・国立大学法人での教育指導（教授）および投資ファンド設立およびベンチャー事業設立指導
到達目標	<p>時代の変遷に則した新たな金融手法、および決済手段の仕組みを学び、金融に係る様々なリスクの知識を得て、自ら将来の資産形成に向けた金融資産の多様性を理解する。また近い将来発行が予測されている「デジタル通貨」の活用とリスク対応についての理解度を高める。</p>
授業方法と留意点	<p>オンライン授業を実施します。</p> <p>毎回の授業に係る資料等は Teams の「日付」のチャンネル内のファイルに、授業回の前週金曜日に格納しておきますので、各自、印刷準備の上、授業に参加して下さい。</p> <p>毎回、授業内容に関するアンケート（設問）を提示します。当日の 24 時まで提出してもらいます。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>これから社会人および消費生活者として必要な暗号資産の活用理解、およびデリバティブ金融商品のリスク、構造を理解した上での活用方法について会得する。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 決済手段とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 電子マネーの概念と暗号資産（仮想通貨）との比較	<事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
2	暗号技術の概要	暗号資産の種類と暗号技術 アンケート設問による授業内容の再確認。	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
3	ビットコイン	ビットコイン型仮想通貨とは？ アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
4	ブロックチェーン	ブロックチェーンとブルーフ・オブ・ワーク法の概念 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
5	暗号資産をめぐる課題	議論体系と法律との関係 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
6	暗号資産の事件簿	暗号資産と国際破綻 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
7	デリバティブを知る	リスクヘッジと金融工学の世界。 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
8	デリバティブ理論とは	デリバティブ理論の基本的な考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
9	投資とキャッシュフロー	キャッシュフロー現在価値の考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
10	株式のキャッシュフロー	株式のキャッシュフローモデルの考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
11	オプション取引	オプションとランダムウォークの基本的考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
12	ブラック＝ショールズモデル	投資手法の機械的考え方であるブラック＝ショールズモデルの仕組み アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
13	リスク管理	デリバティブリスクへの対応とは？ アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）

	14	投資戦略	イールドカーブの作り方 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得 (30分)。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習 (1時間)
	15	総論	暗号資産、デリバティブ取引の将来性と課題整理。	<事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習 (1時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	①毎回のアンケート設問に対する回答内容。なお回答は正解/不正解を問うものではありません。自身の考えを述べるとともにその結論に至った理由も記載すること (評価割合: 50%) ②期末レポート (評価割合: 50%)			
学生への メッセージ	今後、身近な決済手段として利用が促進されるものであるからこそ、構造およびリスクについてしっかりと理解してもらいたい。 なお、投機 (ギャンブル) 目的で学ぼうと考えている方は、受講を止めて下さい。			
担当者の 研究室等	11号館 7階 林研究室			
備考	投機 (ギャンブル) 目的で学ぼうと考えている方は、受講を止めて下さい。			

科目名	学びのデザイン論	科目名 (英文)	Designing Learning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子, 梅原 聡
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	体験型学習やサービスマーケティング、PBLではもちろんのこと、授業内でのグループワークやペアワークなど、他者と共に学ぶ機会は今後ますます増えていく。本授業は、他者と関わりながら学ぶ方法を体系的に学ぶことを目的とする。その際、他者の学びを助ける環境の作り手となる視点や、ピア・サポートの視点を取り入れる。 本授業を通して、他者との関わりに苦手意識を持つ学生や、グループワーク等の経験が少ない学生が、他者やグループワークを自分なりにバックアップできるようになることを目指す。
---------	--

到達目標	1. 学びの現場での「私」の姿を捉え、再形成を試みることができる 2. 他者、及びグループとの関係の中における学びの深め方に気づくことができる 3. 体験型学習での学びの深め方に気づくことができる 4. 大学での学び、及び体験型学習での学びへの関心が高まる
------	---

授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせて行う。演習は、テーマに応じて個人ワーク/ペアワーク/グループワークを用い、適宜ディスカッションやプレゼンテーションの時間を設ける。各テーマのねらいは、以下の通りである。 【私】: 学ぶ「私」の姿を捉える 【私とあなた】: 他者との関わりの中で学習を深める方法を知る 【私とあなたたち】: グループの中で学習を深める方法を知る 【私たちと社会】: 体験型学習の中で学習を深める方法を知る 【再び、私】: 学ぶ「私」の姿を探す 受講生の細かな心情変化や、興味関心を大切
----------	--

科目学習の効果 (資格)	・主に「他の学生等との関わりの中で学ぶ姿勢」の認識・再形成を通じて、他の科目(体験型学習やPBL等)で得られる学びの獲得・さらなる深化が期待できる。 ・他者と支え合いながら共に学ぶ視点や力の獲得を通じて、グループ(学習共同体)への関わりの中で得られる学びの獲得・さらなる深化が期待できる。 ・グループワーク等を用いる学習手法への動機付けを通じて、他の科目履修(体験型学習やPBL等)への積極的な履修意欲・態度の形成が期待できる。
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	【私】1: オリエンテーション/「私」と学び	「私」と学びの関係を、これまでの経験から振り返る	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)
2	【私】2: 学ぶ場面の「私」と他の場面での「私」	場面に応じて異なる顔を持つ「私」を捉える	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
3	【私とあなた】1: 自己表現/コミュニケーション	自分の自己表現やコミュニケーションの特徴に気づく	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
4	【私とあなた】2: 他者を正しく捉えるファシリテーション(1)	ファシリテーション技法の活用を通じて他者に対するバイアスを排除する方法に触れる	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
5	【私とあなた】3: 他者を正しく捉えるファシリテーション(2)	ファシリテーション技法の活用を通じて他者の気づきを引き出す方法に触れる	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
6	【私とあなたたち】1: 心理的安全性の場作り	誰もが安心して発言・行動できる環境デザインの手法に触れる	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
7	【私とあなたたち】2: 他者の助けとなるピア・サポート	他者と深め合う・活かし合う関係性づくりやアクションに触れる	<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
8	【私とあなたたち】3: 他者と学習を深めるワークショップ(1)	チーム内での合意形成・対立解消を促すコミュニケーション技法に触れる	<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
9	【私とあなたたち】4: 他者と学習を深めるワークショップ(2)	チーム内での創造的発想・深化を促すコミュニケーション技法に触れる	<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
10	【私たちと社会】1: プロジェクトマネジメント	体験型学習・探求学習での学習法/プロジェクトデザインに触れる	<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケー	

				ションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)
11	【私たちと社会】2:プロジェクトラーニング(1):チームビルディング	地域課題解決プロジェクト演習を通じて、協働意欲が高まる過程を体感する		<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)
12	【私たちと社会】3:プロジェクトラーニング(2):発散	地域課題解決プロジェクト演習を通じて、アイデアの発散過程を体感する		<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)
13	【私たちと社会】4:プロジェクトラーニング(3):収束	地域課題解決プロジェクト演習を通じて、アイデアの収束過程を体感する		<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)
14	【私たちと社会】5:プロジェクトラーニング(4):成果まとめ	地域課題解決プロジェクト演習を通じて、協働成果をまとめる過程を体感する		<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)
15	【再び、私】:まとめ/「私」と学び	授業での経験から「私」と学びの関係を探る		<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)
関連科目	これまで学んできたこと、これから学ぶこと、すべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プレイフル・ラーニング:ワークショップの源流と学びの未来	上田 信行, 中原 淳	三省堂
	2	問いのデザイン:創造的対話のファシリテーション	安齋勇樹, 塩瀬隆之	学芸出版社
	3	対話型ファシリテーションの手ほどき	中田豊一	ムラのミライ
評価方法(基準)	授業で提示する小課題 60%, レポート課題 40%			
学生へのメッセージ	本学では、様々な体験型学習が用意されています。本科目では、そうした科目を受講するための基本的な姿勢を身に付けていただきたいと思っています。特に他の学生を支えながら、共に学び進んでいく、そのような姿をイメージしています。“人見知り”だと思っている方、グループワークがどこか苦手だと思っている方にこそ、ぜひ受講していただきたいと思っています。他の学生との関わりやグループワーク等への不安を取り除き、楽しみながら取り組めるように進めていくので、気軽に受講して下さい。			
担当者の研究室等	吉田:7号館3階			
備考	教科書は特に指定しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。 詳しい授業方法・評価方法等については、第1回の授業時に説明する。 授業の進行に伴い、シラバスの組み替えや変更を行う場合がある。			

科目名	SDG s で読み解く淀川流域	科目名 (英文)	The Yodo-gawa river region and SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後藤 和子, 赤澤 春彦, 朝田 康禎, 石田 裕子, 郭 進, 加嶋 章博, 小林 健治, 手代木 功基, 鳥谷部 壤, 中塚 華奈, 増田 知也
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1~TT01465a1, L 科: LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1~IT01375a1, P 科: YT01423a2~YT01427a2, J 科: JT01374a~JT01378a1, W 科: WT01352a1~WT01356a1, N 科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。
到達目標	(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。 (2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。 (3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。
授業方法と留意点	この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs (2030 年までの世界の目標) との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。 毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを基に地域の社会的課題について討議できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス—淀川流域のいま・過去・未来と SDG s	科目全体のガイダンス (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[序章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 13・6] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 1 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・17] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 2 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・16] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 14 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
5	些細なことでも豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 15] (担当: 小林健治)	事前: 教科書[第 5 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・12] (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[第 6 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろうか? [関連 SDG 11] (担当: 加嶋章博)	事前: 教科書[第 7 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 11] (担当: 赤澤春彦)	事前: 教科書[第 8 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
9	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 八木紀一郎)	事前: 教科書[第 9 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
10	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)	事前: 教科書[第 10 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
11	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[第 11 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
12	産業連関分析	淀川流域における 3 市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)	事前: 教科書[第 12 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
13	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力を発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 17] (担当: 増田知也)	事前: 教科書[第 13 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
14	滋賀県朽木地域の森林利用の変遷	淀川源流の森はどのように変化してきたのか? [関連 SDG 15] (担当: 手代木功基)	事前: 教科書[第 3 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・12] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 4 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名	
			1	2
1	(仮題) SDGs で読み解く淀川流域—近畿の水源から地球の未来を考えよう	後藤和子・鳥谷部壤編著	昭和堂	
2				
3				

番号	書籍名	著者名	出版社名	
			1	2
1				
2				
3				

評価方法 (基準) 第 2 回目~15 回目までの授業内で実施される理解度確認 (クイズ or 簡単な小レポートなど) (いずれも 5 点満点、14 回分で計 70 点) と、期末のレポート (30 点) の合計 100 点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、

	いずれか1つを選択し、A4 2枚程度のレポート作成に取り組む。
学生へのメッセージ	今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいる SDGs について、身近な地域を素材と一緒に考えましょう。就活や社会人となってからも、この経験はきっと役に立つはず。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。
担当者の研究室等	1号館7階 後藤研究室
備考	SDGs の 17 の目標とその内容は次の通り。SDG1 (貧困をなくそう)、SDG2 (飢餓をゼロに)、SDG3 (すべての人に健康と福祉を)、SDG4 (質の高い教育をみんなに)、SDG5 (ジェンダー平等を実現しよう)、SDG6 (安全な水とトイレを世界中に)、SDG7 (エネルギーをみんなに そしてクリーンに)、SDG8 (働きがいも経済成長も)、SDG9 (産業と技術革新の基盤をつくろう)、SDG10 (人や国の不平等をなくそう)、SDG11 (住み続けられるまちづくりを)、SDG12 (つくる責任 つかう責任)、SDG13

科目名	脳の情報処理	科目名 (英文)	Computing in Brain
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	人間の知的活動の中核である脳における諸機能の理解を通して、認識、思考、判断、注意などの人間の諸活動に関わる基礎知識を獲得し、専門分野に活かす。
到達目標	脳における情報処理の基礎事項の理解とそれらを自身の生活に活かすこと。
授業方法と留意点	当面はリモート形式で実施しますが、状況により変更の可能性はあります。 初回の授業で、Teamsの会議にて授業の受講方法についてアナウンスしますので、受講希望者は必ず参加してください。 毎回、関連映像を視聴し、講義内でミニッツペーパーおよび質問作成して提出する。復習のための課題レポートの提出を必要とする。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	脳について学習する上で知っておくべき用語や概念を説明する	課題レポートを仕上げる
2	脳の構造	大脳は頭部にある様々な器官と連携してはたしている。それぞれの器官の構造と役割を概説する	課題レポートを仕上げる
3	学習: シナプスと可塑性	脳による認識・記憶・学習の基本となる神経細胞のシナプスにおける信号伝達の変化(可塑性)について概説する	課題レポートを仕上げる
4	視覚	感覚情報の大部分を占める視覚の情報処理について概説する	課題レポートを仕上げる
5	錯視・錯覚	認識戦略におけるわれわれの積極的な推測による副作用である錯視や錯覚から、人間の認識手法を知る	課題レポートを仕上げる
6	男女の脳	生理学的な脳の男女の差から男女の心理行動の違いについて考える	課題レポートを仕上げる
7	注意と選択	認識をはじめとする脳の情報処理は、意識の注がれるところに集中的に作用する。その現象を説明する	課題レポートを仕上げる
8	聴覚と言語	コミュニケーションや情緒の表現に使用される音楽や音声の取扱いの違いや意味の取扱いが、いかになされるかを概説する	課題レポートを仕上げる
9	感覚の連合	複数の感覚からひとつの概念が形成されることを情報の流れを通じて説明する	課題レポートを仕上げる
10	運動	大脳のさまざまな部位での情報処理と小脳および周辺器官の連携による、運動の生成および運動の学習について概説する	課題レポートを仕上げる
11	思考と推論	高度に発達した人間の特徴のひとつである思考と推論について概説する	課題レポートを仕上げる
12	構造と認知	ゲシュタルト心理等の構造の知覚および認知について概説する	課題レポートを仕上げる
13	記憶	大脳と辺縁系による記憶の定着と再現のしくみについて概説する	課題レポートを仕上げる
14	人間関係	人間の社会性における自他の区別や共通性、自我や感情について脳の機能を中心に考える	課題レポートを仕上げる
15	総括	まとめ	期末試験に向けて復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	MIND HACKS	Tom Stafford, Matt Webb	オライリー・ジャパン
	2			
	3			

評価方法 (基準)	ミニッツペーパー等の平素の活動を含めた授業態度と課題レポート 60%、試験 40% を総合して判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	誰もが有しており、最も身近な未知の高度情報処理機構である脳について、さまざまな角度から見ていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館10階 寺内研究室
----------	---------------

備考	本人確認のため、メールで連絡する場合には大学のアドレスから送信してください。
----	--

科目名	使えるデータサイエンス	科目名 (英文)	Useful Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 譲
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	これからの社会では実務のさまざまな場面でデータを適切に扱い、分析するデータサイエンスのスキルが重視される。データサイエンスのスキルはどの分野でも重要視されている「情報を扱う力」であり、すべての学生が対象となる。ビジネスの現場では顧客情報の分析による、商品開発やサービスの提案などにおける意思決定プロセスなどでも大きな力を発揮する。これからの進路を決めたり、日常の行動で判断にも役立つものとなる。本科目では理系・文系に関わらず大学生から社会人において役立つデータ収集と分析スキルを基礎から学べる状況を作り、さらに AI を含む実践的な応用についても多方面の事例を通じてわかりやすく学ぶ。
到達目標	この講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 現代社会でのデータサイエンスの重要性と限界を説明できる (2) データサイエンスのために必要な EXCEL 等汎用ソフトの基礎的な操作法を身に付けている (3) インターネットや卒業研究レベルのデータ分析の手順が設計できる
授業方法と留意点	本科目ではすべての学部学生が興味を持てるように、心理学、経済学、工学、教育学などの多方面の教員によるオムニバス形式で講義、演習を行う。実際に PC を操作してデータ収集、データ分析を行うため、毎回の出席が必要である。授業時間以外にも利用できるオンラインコンテンツ (履修者のみがアクセス可能) を使って、データサイエンスの利用シーンやビジネスに繋がる知識も学ぶ。また、本科目では【履修生を 50 人に限定】し、有償の e-Learning 教材を提供する。
科目学習の効果 (資格)	社会で役立つ実践的なデータ処理能力、AI を活用する力、卒業研究、調査報告書作成、分析ソフトウェアの操作

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	データサイエンスが必要とされる理由 (オリエンテーション)	開講にあたってのポイント説明、受講生の期待調査、Society 5.0 時代のデータの価値について C科 伊藤教授、S科 牧野准教授、久保准教授	e-Learning 教材:「第 1 回 データサイエンスとは」
2	データ活用の最新事例	データサイエンスを学ぶためのハード、ソフト両面の説明、AI を前提とした社会のあり方 S科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 2 回 社会で起きている変化」
3	データ分析の準備	Excel によるデータ整理、基本統計量からわかる事柄 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 9 回 データを読む (1)」
4	Excel のできるデータ分析	ピボットテーブルの有効活用 CEI 寺内准教授	e-Learning 教材:「第 11 回 データを説明する」
5	Excel のできる統計分析	データの関係がわかる関数 S科 橋本講師	e-Learning 教材:「第 10 回 データを読む (2)」
6	オープンデータの収集と活用	RESAS (地域経済分析システム) によるオープンデータの分析 W科 植杉教授	e-Learning 教材:「第 3 回 社会で活用されているデータ」
7	Excel で行える高度な分析	Excel によるオープンデータの研究活動への活用方法 W科 朝田准教授	e-Learning 教材:「第 12 回 データを扱う」
8	商品企画につながる分析実習	統計分析ソフトウェア (SPSS) によるデータ整理 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 6 回 データ活用とは」
9	優良顧客を見つける方法	SPSS による統計分析の実習 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 4 回 データ・AI の活用領域」
10	データから相性を評価する	ビジネスデータ分析の実際 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 13 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (1)」
11	スマホのできるアンケート調査	GoogleForms の便利な使い方 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 14 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (2)」
12	社会の動きを見るデータ	経済社会データベース (学術データ) の便利な使い方	e-Learning 教材:「第 14 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (2)」
13	ロボティクスで利用されるデータ	ロボットを動かすデータ処理 E科 片田准教授	e-Learning 教材:「第 7 回 データ・AI 利活用の現場」
14	普段の SNS 利用から法則を見つける	ノート PC によるフィールドワークノートづくり S科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 8 回 データ・AI 利活用の最新動向」
15	データサイエンスの知識を今後に活かす	スモールグループディスカッション (ELSI、データの活用、人間中心の新しい社会) C科 伊藤教授、CEI 石井教授、S科 牧野准教授、S科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 15 回 データを守る上での留意事項とまとめ」

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AI・データサイエンス ～リテラシーレベル～	三谷慶一郎	

		e-learning 教材 (受講者のみ利用可能)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業での課題 50%、e-Learning 教材 40%、事前事後の学修進捗度 (アンケート) 5%、学修ノート 5%、以上を総合して 60%以上を合格とする。なお、無断欠席が 20%以上の場合は成績評価の対象外とするので注意すること。			
学生への メッセージ	商品企画や心理テスト、世論調査などわたしたちの普段の生活でデータは分析され、活用されています。みなさんが「自分の専門」プラス「データサイエンス」の力をつけると大きな可能性が拓けます。日常生活から研究活動、ビジネスの現場でも活用できるデータサイエンスを総合大学ならではの環境で学びましょう。			
担当者の 研究室等	1 号館 3 階 伊藤教授室、11 号館 7 階 久保准教授室、牧野准教授室、11 号館 10 階 寺内准教授室、11 号館 8 階 橋本講師室、1 号館 7 階 植杉教授室、朝田准教授室、1 号館 4 階 片田准教授室、7 号館 5 階 石井教授室			
備考				

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人・久保 廣正・白鳥 武・田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ○R 科:A○A 科:A○M 科:A1○E 科:B △C 科: II ○L 科:DP2○D 科:DP1○S 科:DP1○J 科:DP1○W 科:DP1○, DP7○		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1~TT01465a1, L 科: LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1~IT01375a1, P 科: YT01423a2~YT01427a2, J 科: JT01374a~JT01378a1, W 科: WT01352a1~WT01356a1, N 科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目で、大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています。科目のテーマである SDGs (持続可能な開発目標) とは、国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で、わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています。つまり、この科目は SDGs の全体像を主体的に学ぶ、本格的なアクティブラーニング型教養科目です。反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク、ABD と振り返りにより生きた知識として定着させます。さらに、経済学、環境工学、建築学、農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め、獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます。このような流れを通じて、大学生として必要な、SDGs を理解するための教養 (特に、社会、経済、環境等) を身につけ、その知識をもとに考え、自分の意見を持ち、討議ができるようになります。
到達目標	(1)世界の目標 SDGs(2030 年までの世界の目標)について知り、説明と討議をすることができる。 (2)現代世界の課題について知り、SDGs との関係を説明することができる。 (3)課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる。 (4)自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど、アクティブラーニングの手法を駆使するので、極めて密度の高い授業となります。授業開始時には、事前学習における知識の定着を確認するため、ICT ツールによるクイズ、ミニプレゼンを行い、中盤から後半部で各テーマをとりあげます。学生は解説時にはメモをとり、主としてグループワークにより課題に取り組みます。授業最後には、振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます。また、授業資料はフラットファイルを用いて管理してもらいます。 学生は対面授業かオンライン授業を選択して
科目学習の効果 (資格)	社会課題を議論するための教養として SDGs (2030 年までの世界の目標) を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP 1 を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後: CHAP 1 を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 SDGs カードゲーム 振り返りシート	事前: CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
3	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP3 リレープレゼン、対話 リレープレゼン、対話 振り返りシート	事前: CHAP 3 を学び、ABD サマリを作成する
4	気候変動に関する諸問題 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 13 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 地球温暖化とは」 https://www.youtube.com/watch?v=URSj7PA_ZwY ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 地球温暖化の現状と予測」 https://www.youtube.com/watch?v=JyFOa_Fo3Nk
5	気候変動に関する諸問題 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 14, 15 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 温暖化の影響へ適応するために」 https://www.youtube.com/watch?v=vQ2scQfpmkw
6	地球共生デザインを考える I: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、5 (特に 5.1, 5.2)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.youtube.com/watch?v=kDz6h8ZhhnQ
7	地球共生デザインを考える II: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、4 (特に 4.5, 4.7)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf
8	日本の食文化 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1: 目標 2, 3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 日本の食文化 1 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
9	日本の食文化 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1: CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
10	中間成果発表	理解度確認テスト プレゼンテーション 対話 振り返りシート	事前 1: ポスターの準備 事後: 第 1 回レポート
11	食糧安全保障 1	理解度確認テスト	事前 1: 目標 2 (2.4.2.c) を学び、ABD サマリを作成する

		SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前2：食料安全保障とバイオ燃料の関連性を理解する。(※日本語字幕を選択する) The State of Food Security and Nutrition in the World 2020 : https://www.youtube.com/watch?v=64KLuGzGxEQ&ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations Introduction t
12	食糧安全保障 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前1：目標：2 (2.4, 2.c) を学び、ABD サマリを作成する 事前2：フードロスとその日本の現状について理解する。 (※日本語字幕を選択する。) REDUCE THE FOOD LOSS : https://www.youtube.com/watch?v=60rb07dGHNQ&ab_channel=Cauz.jp , London's rubbish problem : https://www.youtube.com/watch?v=ccr2zK6yn8o&ab_channel=BBCLondon
13	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前1：目標：8, 9, 12, 17 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：ESG 投資とは何かを理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=IZJ5FYtfcFE https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sD76c
14	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前1：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：SDGs 達成のために ESG 投資が果たす役割について理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&t=436s https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc 事後：第2回レポート
15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事前：SDGs1-17 の復習

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊で しっかりわかる教科書」(1680 円+税)	バウンド	技術評論社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> 理解度確認クイズ (個人：10%) 事前・事後学習課題・ABD サマリ (個人：15%) 取組み姿勢 (チーム：20%) 成果発表・プレゼンテーション2回 (チーム：20%) 振り返りシート (個人：10%)、レポート2回 (個人：20%)、授業資料管理 (個人：5%) ※以上の合計で60%以上の学生を合格とする。また、出席率80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。
学生への メッセージ	この授業では、摂南大学のすべての学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs 実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。
担当者の 研究室等	大塚教授 (薬学部 11 号館 5F)、久保副学長 (7 号館 8F)、伊藤教授 (1 号館 3F)、喜多教授 (農学部 1 8 号館 2F)、白鳥准教授 (1 2 号館 7 階)、佐藤准教授 (1 号館 3F)、田中講師 (1 号館 7F)、横山講師 (総合体育館 1F)
備考	この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で、教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています。

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人・久保 廣正・白鳥 武・田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ○R 科:A○A 科:A○M 科:A1○E 科:B △C 科: II ○L 科:DP2○D 科:DP1○S 科:DP1○J 科:DP1○W 科:DP1○, DP7○		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1~TT01465a1, L 科: LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1~IT01375a1, P 科: YT01423a2~YT01427a2, J 科: JT01374a~JT01378a1, W 科: WT01352a1~WT01356a1, N 科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目で、大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています。科目のテーマである SDGs (持続可能な開発目標) とは、国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で、わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています。つまり、この科目は SDGs の全体像を主体的に学ぶ、本格的なアクティブラーニング型教養科目です。反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク、ABD と振り返りにより生きた知識として定着させます。さらに、経済学、環境工学、建築学、農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め、獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます。このような流れを通じて、大学生として必要な、SDGs を理解するための教養 (特に、社会、経済、環境等) を身につけ、その知識をもとに考え、自分の意見を持ち、討議ができるようになります。
到達目標	(1)世界の目標 SDGs(2030 年までの世界の目標)について知り、説明と討議をすることができる。 (2)現代世界の課題について知り、SDGs との関係の説明をすることができる。 (3)課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる。 (4)自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど、アクティブラーニングの手法を駆使するので、極めて密度の高い授業となります。授業開始時には、事前学習における知識の定着を確認するため、ICT ツールによるクイズ、ミニプレゼンを行い、中盤から後半部で各テーマをとりあげます。学生は解説時にはメモをとり、主としてグループワークにより課題に取り組みます。授業最後には、振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます。また、授業資料はフラットファイルを用いて管理してもらいます。 学生は対面授業かオンライン授業を選択して
科目学習の効果 (資格)	社会課題を議論するための教養として SDGs (2030 年までの世界の目標) を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP 1 を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート		事後: CHAP 1 を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 SDGs カードゲーム 振り返りシート	事前: CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する	
3	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP3 リレープレゼン、対話 リレープレゼン、対話 振り返りシート	事前: CHAP 3 を学び、ABD サマリを作成する	
4	気候変動に関する諸問題 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 13 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 地球温暖化とは」 https://www.youtube.com/watch?v=URSj7PA_ZwY ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 地球温暖化の現状と予測」 https://www.youtube.com/watch?v=JyFOa_Fo3Nk	
5	気候変動に関する諸問題 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 14, 15 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 温暖化の影響へ適応するために」 https://www.youtube.com/watch?v=vQ2scQfpmkw	
6	地球共生デザインを考える I: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、5 (特に 5.1, 5.2)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.youtube.com/watch?v=kDz6h8ZhhnQ	
7	地球共生デザインを考える II: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、4 (特に 4.5, 4.7)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf	
8	日本の食文化 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1: 目標 2, 3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 日本の食文化 1 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。	
9	日本の食文化 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1: CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。	
10	中間成果発表	理解度確認テスト プレゼンテーション 対話 振り返りシート	事前 1: ポスターの準備 事後: 第 1 回レポート	
11	食糧安全保障 1	理解度確認テスト	事前 1: 目標 2 (2.4.2.c) を学び、ABD サマリを作成する	

		SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前2：食料安全保障とバイオ燃料の関連性を理解する。(※日本語字幕を選択する) The State of Food Security and Nutrition in the World 2020 : https://www.youtube.com/watch?v=64KLuGzGxEQ&ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations Introduction t
12	食糧安全保障 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前1：目標：2 (2.4, 2.c) を学び、ABD サマリを作成する 事前2：フードロスとその日本の現状について理解する。 (※日本語字幕を選択する。) REDUCE THE FOOD LOSS : https://www.youtube.com/watch?v=60rb07dGHNQ&ab_channel=Cauz.jp , London's rubbish problem : https://www.youtube.com/watch?v=ccR2zK6yn8o&ab_channel=BBCLondon
13	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前1：目標：8, 9, 12, 17 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：ESG 投資とは何かを理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=IZJ5FYtfcFE https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sD76c
14	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前1：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：SDGs 達成のために ESG 投資が果たす役割について理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&t=436s https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc 事後：第2回レポート
15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事前：SDGs1-17 の復習

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊で しっかりわかる教科書」(1680 円+税)	バウンド	技術評論社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> 理解度確認クイズ (個人：10%) 事前・事後学習課題・ABD サマリ (個人：15%) 取組み姿勢 (チーム：20%) 成果発表・プレゼンテーション2回 (チーム：20%) 振り返りシート (個人：10%)、レポート2回 (個人：20%)、授業資料管理 (個人：5%) ※以上の合計で60%以上の学生を合格とする。また、出席率80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。
学生への メッセージ	この授業では、摂南大学のすべての学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs 実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。
担当者の 研究室等	大塚教授 (薬学部 11 号館 5F)、久保副学長 (7 号館 8F)、伊藤教授 (1 号館 3F)、喜多教授 (農学部 1 8 号館 2F)、白鳥准教授 (1 2 号館 7 階)、佐藤准教授 (1 号館 3F)、田中講師 (1 号館 7F)、横山講師 (総合体育館 1F)
備考	この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で、教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています。

科目名	まちづくり入門	科目名 (英文)	introduction to Urban Planning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	これからの社会において「まち」の役割は重要になっている。まちを発展、維持していくために行政、団体、民間企業などさまざまな主体が計画を立て、課題を克服する活動が続いている。さらに今後は市民、学生が新たな担い手として期待されている。本講義では文理それぞれの観点から講演者を招き実践的な活動について知るとともに、大学の幅広い学術的知見を活用して摂南大学生が貢献するまちづくりの在り方を学び、検討を行う。
到達目標	(1) まちづくりの課題を多面的に理解できる (2) 大学生が行えるまちづくりの可能性と限界を理解する (3) 主体性と責任を持ってまちづくりに参加する知識と意識を持つている
授業方法と留意点	本授業ではまちづくりに関係する多様な講師によって構成される。行政経験者、民間での実務経験、コンサルティング経験者、および、市民活動の主催や支援、社会貢献の実行者などがそれぞれの専門的知見から「まちづくりとはなにか」を講義する。毎回の授業に予習と復習のための主体的な学びを設定する。
科目学習の効果 (資格)	学生として大学の知識、技術を総動員して地域問題解決に当たる気持ちを涵養する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	大学がまちづくりに関わる意義	オリエンテーション 教務部長 C科 伊藤教授	事前: シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後: 学修ポイントに合った計画の提出
2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (1)	社会変化とまちづくり 大手前大学 坂倉孝雄 准教授 (前 経済産業省)	授業担当者から指示する
3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (2)	都市計画とまちづくり C科 熊谷教授	授業担当者から指示する
4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (3)	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方プロジェクト推進室 部長 大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する
5	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (4)	都心とまちづくり 大阪市立大学大学院都市経営研究科 佐藤 道彦 教授 (元堺市副市長、元大阪市都市計画局長)	授業担当者から指示する
6	民間団体が関わるまちづくり (1)	産業とまちづくり W科 野長瀬教授	授業担当者から指示する
7	民間団体が関わるまちづくり (2)	商業とまちづくり S科 久保准教授	授業担当者から指示する
8	民間団体が関わるまちづくり (3)	空き家とまちづくり R科 稲地准教授	授業担当者から指示する
9	民間団体が関わるまちづくり (4)	観光とまちづくり W科 野村教授	授業担当者から指示する
10	市民 (大学生) が関わるまちづくり (1)	まちづくりの担い手としての市民 J科 増田講師	授業担当者から指示する
11	市民 (大学生) が関わるまちづくり (2)	福祉とまちづくり CEI 上野山講師	授業担当者から指示する
12	市民 (大学生) が関わるまちづくり (3)	文化資源とまちづくり L科 古矢講師	授業担当者から指示する
13	市民 (大学生) が関わるまちづくり (4)	歴史・文化とまちづくり A科 加嶋教授	授業担当者から指示する
14	市民 (大学生) が関わるまちづくり (5)	防災とまちづくり A科 池内教授	授業担当者から指示する
15	大学生がまちづくりで担う役割	グループ発表、討論会 教務部長 C科 伊藤教授	事前: これまでの講義の振り返り 事後: 振り返りレポート

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各回の事後レポート
学生へのメッセージ	ソーシャル・イノベーションを成立させるためには広い視野と深い洞察が必要となります。受講生による総合大学の社会貢献活動が実践的なものになるように多面的に学修してください。
担当者の研究室等	1号館3階 伊藤教授室、1号館4階 熊谷教授室、11号館7階 久保准教授室
備考	

科目名	チームビルディング	科目名 (英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2回生以降に摂南大学PBLプロジェクトを履修する際にも役立つ。なお、講義は担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]</p>
---------	--

到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
------	--

授業方法と留意点	<p>講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。なお、講義は対面講義とTeamsによるリアルタイム講義の同時進行で行う。各自の事情や希望に合わせて受講形式を選択すること（受講形式固定する必要はない）。対面講義で受講する場合は初回の教室で、Teamsで受講する場合は 9pwmqp6 からクラスに入り、講義日のチャンネルから受講すること。また、対面とウェブのそれぞれの人数の状況を確認してからチーム分けを実施する。</p>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。
--------------	------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 講義の進め方 なぜチームが必要なのかを知る チームビルディングとは何かを理解する 	<p>事前学習：本科目のシラバスを精読し、自身が学びたいことをまとめること（2時間）</p> <p>事後学習：講義で配付された資料を見直すこと（2時間）</p>
2	グループ分けを自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> グループ分け 自己紹介ワーク 	<p>事前学習：自己紹介の内容を考えること（2時間）</p> <p>事後学習：チームにどのように貢献できるかを考える。（2時間）</p>
3	チームビルディングの理論を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> チームビルディングの理論を学ぶ 	事後学習：講義資料を熟読すること（2時間）
4	チームビルディング体験①	<ul style="list-style-type: none"> コンセンサスゲーム チームの10箇条 	<p>事前学習：自身のチームへの貢献の仕方について考えること（2時間）</p> <p>事後学習：自身のチームへの貢献の内容を振り返ること（2時間）</p>
5	チームビルディング体験②	チームで推理クロスに挑む	<p>事前学習：自身のチームへの貢献の仕方について考えること（2時間）</p> <p>事後学習：自身のチームへの貢献の内容を振り返ること（2時間）</p>
6	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	<ul style="list-style-type: none"> リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける 	<p>事前学習：今で出会ったリーダーについて思い出し、レポートを作成すること（2時間）</p> <p>事後学習：講義資料を熟読し、自身のリーダーシップの発揮の仕方について考えること（2時間）</p>
7	話し合う技術①	<ul style="list-style-type: none"> GDに関する知識を学ぶ 	事後学習：講義で身につけた知識を日常生活で試してみる（3時間）
8	話し合う技術②	<ul style="list-style-type: none"> 議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ 	事後学習：講義で身につけた知識を日常生活で試してみる（3時間）
9	組織で学習するためのチームづくり	<ul style="list-style-type: none"> チームを機能させるために必要な要素を学ぶ 	<p>事前学習：チームにどのように貢献できるかを考えること（2時間）</p> <p>事後学習：講義で配付された資料を見直すこと（2時間）</p>
10	情報の読み取りと活用	<ul style="list-style-type: none"> チームで改善計画を考える 	事後学習：講義資料を熟読すること（2時間）
11	1チームで課題解決に挑む	<ul style="list-style-type: none"> チームでニッポンの課題の解決策を考える 	<p>事前学習：チームにどのように貢献できるかを考えること（2時間）</p> <p>事後学習：講義で配付された資料を見直すこと（2時間）</p>
12	チームで企画する	<ul style="list-style-type: none"> チームで学生提案のPBLプロジェクトを企画する 	<p>事前学習：摂南大学PBLプロジェクトについて調べること（2時間）</p> <p>事後学習：チームでワークに取り組むこと（5時間）</p>
13	チームでワークに取り組む①	<ul style="list-style-type: none"> チームで地域創生のワークに取り組む 	事後学習：チームで発表をする準備をすること（3時間）
14	チームでワークに取り組む②	<ul style="list-style-type: none"> チームで地域創生のワークに取り組む 	<p>事後学習：チームで発表をする準備をすること（3時間）</p> <p>事後学習：自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること（2時間）</p>
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	<p>事前学習：提出物などの出し忘れがないか確認する。（1時間）</p> <p>事後学習：講義全体を振り返ること（2時間）、期末レポートを作成すること（4時間）</p>

関連科目	<ul style="list-style-type: none"> 「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学PBLプロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、個別課題 10%、最終レポート 40% で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。			
担当者の 研究室等	教育イノベーションセンター（水野研究室）			
備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。			

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名 (英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知る。 2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことをわかる。 3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ (多様性) を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 4) ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰する。容認することが期待される。 <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-5</p>
---------	--

到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
------	---

授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・2019年度までの入学生で「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」を取得希望者にとっては、「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ダイバーシティに関して、調べること (1時間) ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること (3時間)
2	ダイバーシティと境界線	<ul style="list-style-type: none"> ・ウチとソトの感覚 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 私たちの周りにおける伝統や習慣について考えること (2時間) ・事後学修: 「ウチとソト」に関するレポートを作成すること (2時間)
3	ジェンダー視点	<ul style="list-style-type: none"> ・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・時代を生きた女性たち6名に関して調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること (2時間) ・事後学修: 活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること (2時間)
4	日本の近代化	<ul style="list-style-type: none"> ・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること (2時間) ・事後学修: 明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること (2時間)
5	国際統計比較	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること (2時間) ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること (2時間)
6	性役割の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デートDV ・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること (2時間) ・事後学修: 中間発表用レポート作成 (2時間)
7	中間発表	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のあるテーマに関して、個人発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 中間発表準備 (2時間) ・事後学修: 中間発表レポート手直し (2時間)
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	<ul style="list-style-type: none"> ・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること (2時間) ・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること (2時間)
9	男女共同参画社会とワークライフバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーマネジメント ・働き方改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること (2時間) ・事後学修: ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること (2時間)
10	アサーティブネス理論①	<ul style="list-style-type: none"> ・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: アサーティブネスについて調べること (2時間) ・事後学修: アサーティブに話す練習をすること (2時間)
11	アサーティブネス理論②	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること (2時間) ・事後学修: アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成すること (2時間)
12	リプロダクティブ・ヘルス&ライツ	<ul style="list-style-type: none"> ・リプロの正しい意味を理解する ・リプロの歴史と現状の課題を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: リプロの意味と現状を調べる (2時間) ・事後学修: 一つの課題を発見し、その解決策の提

			・DV、デートDVについて現状を理解する	案についてまとめ、レポートを作成すること（2時間）																
	13	ダイバーシティマネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティマネジメントについて、事例研究すること（2時間） ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成すること（2時間）																
	14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間） ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間）																
	15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめること（2時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間）																
関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>共に学ぶ女性学</td> <td>石井三恵</td> <td>泉文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ジェンダーで学ぶ社会学</td> <td>伊藤公男</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかるジェンダー・スタディーズ</td> <td>木村 涼子 他</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>性と法律</td> <td>角田 由紀子</td> <td>岩波新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社																	
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房																	
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書																	
評価方法 (基準)	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもにそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。																			

科目名	グローバル・シチズンシップ論 (入門)	科目名 (英文)	Global Citizenship (Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。当該副専攻課程を履修する最初の学期に履修することが望ましい。受講者は、グローバル・シチズンシップ (GC) およびグローバル・シチズンシップ教育 (GCED) の基礎的な概念を理解し、これらの概念が必要とされるに至ったグローバルな歴史的背景と、現在まで続く課題について、基礎的な知識を獲得する。また獲得した知識と理解について、日本語および簡単な英語でアウトプットできるようになることを目指す。</p> <p>この授業は、GC と GCED に < ついて > の授業であると同時に、授業自体が GCED の一環である。GCED では、一方的な講義ではなく、受講生の自発的な調査と対話による学びが重視される。受講生には、この授業を通じて GCED を体験的に学びつつ、自らが GCED のファシリテーターとなり、この授業の内外で GCED の実践者となってゆく姿勢が求められる。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 「グローバル・シチズンシップ」および「グローバル・シチズンシップ教育」が現在の国際社会においてどのように定義づけられているか、なぜそうした概念や教育活動が必要とされるようになったのかを説明できる。 背景にある国境を越えた社会課題について、具体例をいくつか挙げながら説明できる。 事前に準備をすれば、上記の説明を日本語だけでなく、平易な英語を用いて行うことができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> いわゆる「実習」ではなく、知識と理解を身につけることを主目標とする授業であるが、アクティブ・ラーニングは GCED の根幹である。教員からの一方の方向の情報伝達は最小限に留め、受講する学生が自ら資料を読み、考え、他の学生および教員と対話しながら知識をつけ、理解を深めてゆく。学生には、自律的な予習と復習、情報検索やファクトチェック、ディスカッションと質疑への積極的な参加が求められる。 教員によるファシリテーション、学生の質疑やディスカッションなどは原則として日本語で行うが、GC 副専攻の海外実習や EMI (Eng
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、TOEFL、IELTS、英検、国連英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション (1)	オリエンテーション、受講上の注意、スケジュール確認ほか	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
2	イントロダクション (2)	チーム・ビルディング	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
3	イントロダクション (3)	「グローバル・シチズンシップ」の概念について、テキスト概観	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
4	グローバル・シチズンシップと人権、政治的権利 (1)	市民性 (citizenship)、主権者教育 (citizenship education)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
5	グローバル・シチズンシップと人権、政治的権利 (2)	人権 (human rights)、世界人権宣言 (Universal Declaration of Human Rights, 1948)、SDGs、政治弾圧 (repression)、難民 (refugees, asylum seekers)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
6	グローバル・シチズンシップと人権、政治的権利 (3)	政治的権利 (political rights)、参政権 (suffrage, voting rights)、反植民地主義運動 (anti-colonial movements)、アイデンティティ政治 (identity politics)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
7	グローバル・シチズンシップと経済的権利 (1)	経済的権利 (economic rights)、労働問題 (labor issues)、公正かつ平等な賃金 (fair and equal wages)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
8	グローバル・シチズンシップと経済的権利 (2)	児童労働 (child labor)、人身売買 (human trafficking)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
9	グローバル・シチズンシップと経済的権利 (3)	企業利益 (corporate interests)、オフショアリング (offshoring)、アウトソーシング (outsourcing)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
10	グローバル・シチズンシップと文化 (1)	グローバル化 (globalization)、均質化 (homogenization)、文化的権利 (cultural rights)、多様性 (diversity)、ハイブリディティ (hybridity)、摩擦 (conflict)、ナショナリズム (nationalism)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
11	グローバル・シチズンシップと文化 (2)	日本における外国人労働者 (foreign workers)、技能実習生 (technical intern trainees)、難民 (refugees)、留学生 (international students)、日本語教育、多文化共生 (multicultural symbiosis)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
12	グローバル・シチズンシップと文化 (3)	多様性 (diversity)、多文化主義 (multiculturalism)、普遍的人権 (universal human rights)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
13	グローバル・シチズンシップと環境問題 ゲスト・レクチャー (1)	問題解決への事例 (1) 西アフリカ半乾燥地での砂漠化とその対処法 関連するキーワード: 砂漠化 (desertification)、土地荒廃 (land degradation)、貧困削減 (poverty alleviation)、異常気象/極端気象 (extreme weather)、水不足 (water scarcity)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
14	グローバル・シチズンシップと環境問題 ゲスト・レクチャー (2)	問題解決への事例 (2) 東アフリカ山間地域における人々の暮らしの向上と生態系保全の両立 関連するキーワード: 森林破壊	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。

			(deforestation)、土地荒廃 (land degradation)、貧困削減 (poverty alleviation)、生物多様性 (biodiversity)	
	15	総括	授業全体の振り返りワーク	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
関連科目	グローバル・シチズンシップ論 (応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)、グローバル・シチズンシップ海外実習 (応用)、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常評価 80% (小テスト、平常の提出物、グループワークや質疑への貢献を総合的に評価する) プレゼンテーション課題 20% (作成過程を含む)			
学生へのメッセージ	グローバル・シチズンシップ副専攻、今年度より本格始動します。価値ある学びの場を一緒につくりましょう。			
担当者の研究室等	2号館2階グローバル教育センター			
備考	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックにかかる時間、自発的な英語のトレーニングや、グローバル教育センター主催の学習イベントに参加する時間等も全て合算し、週平均で4時間程度、総計で60時間程度の授業外学修時間を確保すること。			

科目名	グローバル・シチズンシップ論 (応用)	科目名 (英文)	Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。グローバル・シチズンシップ論 (入門) 履修後に履修することが望ましい。</p> <p>本科目はグローバル・シチズンシップ論 (入門) で学んだ知識や概念等をもとに、日本国内における社会課題 (多文化共生、外国人労働者、SDGs など) に焦点を当て、グローバルとローカルのつながりについて学ぶものである。授業自体がグローバル・シチズンシップ教育の一環であり、受講者自身が授業を通じ体験的に学び、実践者として行動していく姿勢が求められる。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本国内における社会課題について、歴史的背景、現状等が理解できる さまざまな分野での実践者の経験から、実践上の留意点を理解できる 身近にある社会課題について分析し、課題解決の方策の提案ができる
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> いわゆる一方的な講義ではなく、学んだことをもとにグループでディスカッションしたり、関心のある課題について調査、発表するなど、主体的に取り組む形式が多い。 取り扱う課題により、外部講師を招聘し、実践に関する講義やワークショップ等も実施する。 <p>・本科目は2021年度後期90分授業x2・3コマの集中講義で実施される予定である。詳細なスケジュールは決定次第、ポータルサイト等で連絡をする。</p> <p>初回授業以降は担当教員からの連絡を常に受け取れるようにしておくことが必要である。</p> <p>・その他、履修にあたって不明</p>
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業概要、受講方法、注意点の確認 日本におけるグローバルシチズンシップ	指定された教材の読解、課題を行う
	2	グローバルとローカルのつながり (1) 消費社会	エシカル消費について	指定された教材の読解、課題を行う
	3	グローバルとローカルのつながり (2) 消費社会	ゲスト・レクチャー、ワークショップ	指定された教材の読解、課題を行う
	4	グローバルとローカルのつながり (3) 消費社会	まとめ、発表	指定された教材の読解、課題を行う
	5	グローバルとローカルのつながり (4) 日本における多文化共生	日本における多文化共生の歴史、課題等	指定された教材の読解、課題を行う
	6	グローバルとローカルのつながり (5) 日本における多文化共生	ゲストレクチャー、ワークショップ 日本における多文化共生 多文化共生マネージャーの取り組み	指定された教材の読解、課題を行う
	7	グローバルとローカルのつながり (6) 日本における多文化共生	外国にルーツを持つ子どもの課題と支援	指定された教材の読解、課題を行う
	8	グローバルとローカルのつながり (7) 日本における多文化共生	災害時の外国人支援	指定された教材の読解、課題を行う
	9	グローバルとローカルのつながり (8) 日本における多文化共生	多様性教育	指定された教材の読解、課題を行う
	10	グローバルとローカルのつながり (9) 日本における多文化共生	まとめ、発表	指定された教材の読解、課題を行う
	11	グローバルとローカルのつながり (10) SDGs	SDGs と身近な生活のつながり	指定された教材の読解、課題を行う
	12	グローバルとローカルのつながり (11) SDGs	ゲストスピーカー、ワークショップ	指定された教材の読解、課題を行う
	13	グローバルとローカルのつながり (12) SDGs	まとめ、発表	指定された教材の読解、課題を行う
	14	プレゼンテーション (1)	1回~13回の授業をもとに、自分たちのできることを考え、プレゼンテーションをする	指定された教材の読解、課題を行う
	15	プレゼンテーション (2)	1回~13回の授業をもとに、自分たちのできることを考え、プレゼンテーションをする	指定された教材の読解、課題を行う

関連科目	グローバル・シチズンシップ論 (入門)、グローバル・シチズンシップ海外実習、摂南大学 PBL プロジェクトなど
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常評価 60% (平常の提出物、課題への取り組み等総合的に評価) プレゼンテーション課題 40% (作成過程を含む)			
学生への メッセージ	身近な場所で自ら行動が起こせるきっかけになればと思っています。受講生同士の関わりからも多くのことも学んでもらいたいと思いますので、積極的に参加してください。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	Topics in Global Citizenship (EMI)	科目名 (英文)	Topics in Global Citizenship (EMI)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的
 This course is compulsory for those who are taking the Global Citizenship Minor Program. The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. Students are expected to have learned basic concepts of global citizenship in グローバル・シチズンシップ論 (入門). This course discusses several specific topics on SDGs, human rights and equality, war and peace, politics and citizenship, economic justice, global environment, and cultural rights. Students will also be empowered and encouraged to take on the responsibilities of global citizenship. Through a problem posing approach, students will be challenged to rethink about dominant ideologies and how they contradict with the ideas of global citizenship. Additionally, there will be opportunities to engage in discussions with students in a foreign country, which will allow students to learn perspectives from those who have with different cultural values.

- 到達目標**
1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures.
 2. Increase knowledge of both historical and recent global events.
 3. Acquire necessary skills and behaviors to become a global citizen.
 4. Acquire pr

授業方法と留意点
 This course will be taught entirely in English, and the reading materials will also be in English. Students are often required to research for information to expand their knowledge, so that discussions in class will be more informative and in depth. The c

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials	
2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship
3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs
4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights
5	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of equality
6	War and peace Invited speaker (date might change)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of historical events related to war
7	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work Online or offline video communication with students abroad (date might change)	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
8	Midterm exam: group presentations	Group presentations	
9	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work Online or offline video communication with students abroad (date might change)	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
10	Economic justice	Lecture, pair work, group work Online or offline video communication with students abroad (date might change)	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
11	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local environmental issues
12	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global environmental issues
13	Cultural rights	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local culture
14	Cultural rights	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional

				materials 2. Research for information and examples of foreign cultures
	15	Final exam - group presentations	Group presentations	
関連科目	グローバル・シチズンシップ論 (入門)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Attendance and participation: 30% Completion of assignments: 30% Midterm group presentation: 20% Final group presentation: 20%			
学生へのメッセージ	Students are encouraged to use English in the classroom to share your ideas with each other. We will be working with three groups of students in the United States to learn together on topics related to global citizenship. Please be prepared to work ha			
担当者の研究室等備考	2号館2階グローバル教育センター (旧: 国際交流センター)			

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙・久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1, N科: NKY1349a1, AC科・AB科・AF科・AE科: OHU0401a2		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGsとUNAIについて基礎的な知識を身につけている。 (5)読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方向的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。 学生は対面授業かオンライン授業を選
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、どこへ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABDの体験	事前学習: 「おとなの教養」第二章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門: 「大人の教養」第二章 宇宙	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第二章 宇宙」	事前学習: 「おとなの教養」第三章を読む(1.5時間以上)
3	教養入門: 第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
4	教養入門: 第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第五章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
5	教養入門: 第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上)
6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事後学習: 第1回レポート 事前学習: SDGsとは何か、指定した資料を調べる(3時間以上)
7	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 SDGsとは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDGsとは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5時間以上)
8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsを考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: UNAIとは何かを調べる(1.5時間以上)
9	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事後学習: 第2回レポート 事前学習: 「アドラー心理学」第一章を読み事前学習シートを作成する(2時間以上)
10	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第一章 アドラーはどんな人だったか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
11	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
12	自分を知る教養: 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
13	自分を知る教養: 第四章 アドラー心理学の基礎理論	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上)
14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事後学習: 第3回レポート(2時間以上)
15	大学教養入門: まとめ	グループワーク「教養とは何か？」	事後学習: 第4回レポート

		事後アンケート	(2時間以上)	
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム: 20%) ・中間発表・まとめ (チーム: 20%) ・レポート 4回 (個人: 20%) ・振り返りシート (個人: 15%) ・理解度確認クイズ (個人: 15%) ・事前学習シート (個人: 5%) ・授業資料の管理 (個人: 5%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	伊藤謙 (1号館 3F), 久保貞也 (11号館 7F), 石井三恵 (7号館 5F), 大塚正人 (薬学部 1号館 5F), 寺内睦博 (11号館 10F), 佐井英子 (11号館 6F), 瀬川智広 (スポ振)			
備考	この科目は、入学式〜キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 謙
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1459a1, L科: LKY1361a1, D科・S科: IKY1368a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1370a1, W科: WKY1349a1, N科: NTO1350a1~NTO1354a1		

授業概要・目的	この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。
到達目標	(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。 (2)ABDによる読書法の基礎(要約、プレゼンテーション、対話)を身につけている。 (3)自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4)チームワーク能力やリーダーシップを身につけている。 (5)わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6)テーマにそった対話(感想、質疑応答)を行うことができる。 (7)自主学習の習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業の7回目まではオンラインで実施する。7回目の時点で8回目以降を対面授業とするか判断する。授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果(資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABDやQFT等の協働学習の方法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説(教科書、ABDとは) 協働学習(p.18-47:要約、プレゼン、対話)、振り返りシート	『未来の年表』p.48-79を読み、事前学習シート(①不明な用語を調べる、②重要箇所を抜き出す)を作成する。(2時間程度)
2	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	チーム分け、役割分担、確認試験 解説(振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書p.80-108を読み、事前学習シートを作成する。
3	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書p.109-146を読み、事前学習シートを作成する。
4	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 投票と表彰、振り返りシート	教科書第二部を読み、事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度)
5	教養としての社会の課題を知る:中間発表1回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	『コロナ後の世界』第一章を読み、事前学習シート(要約)を作成する。 第1回レポート
6	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。
7	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	QFT(質問づくり) 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。
8	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第四章を読み、事前学習シートを作成する。
9	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度)
10	教養としての社会の課題を知る:中間発表2回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	「星の王子様」1~10章を読み、事前学習シート(要約、感想)を作成する(2時間程度) 第2回レポート
11	教養としての社会の課題を知る:「星の王子様」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書11~20章を読み、事前学習シートを作成する
12	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書21~27章を読み、事前学習シートを作成する
13	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書あとがきを読み、事前学習シートを作成する
14	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話)	ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度)

			QFT (中間発表のテーマ出し) 振り返りシート																	
	15	教養としての文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート 事後アンケート	第3回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>未来の年表</td> <td>河合雅司</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>星の王子様</td> <td>サン＝テグジュペリ</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>コロナ後の世界</td> <td>大野和基 (編)</td> <td>文春新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書	2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫	3	コロナ後の世界	大野和基 (編)	文春新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書																	
2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫																	
3	コロナ後の世界	大野和基 (編)	文春新書																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢／ルーブリック (チーム：15%)、・ファイリング (個人：5%) ・ポスター発表 (チーム：20%) ・レポート 3回 (個人：30%)、・振り返りシート (個人：10%) ・理解度確認クイズ (個人：10%) ・事前学習シート (個人：10%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？																			
担当者の 研究室等	伊藤 謙 (1号館 3F)、寺内 睦博 (11号館 10F)、石井 三恵 (7号館 5F)、上野 山裕士 (7号館 3F)、水野 武 (7号館 3F)、友枝 恭子 (5号館 1F)、瀧 (スポ振)																			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。この授業は原則的に対面で実施します。やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします。																			

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的
 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。

到達目標
 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。
 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。

授業方法と留意点
 ※リモート形式への移行により、教材・課題提供型にて実施します。
 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。

科目学習の効果 (資格)
 社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (35%)、SmartSPI (15%)

学生へのメッセージ 数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の研究室等 7号館3階 教育イノベーションセンター

備考

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	11月4日以降は対面形式で実施します。基本的に数的能力をメインに学習します。毎回オリジナル教材を用いて様々な問題を解いていきます。取り扱いテーマが広いので、予習・復習が大切です。 ※授業は対面で進行しますが Teams を連絡用に使い、Moodle で小テストやレポート提出を行います。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用① (割合の基礎と濃度算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用② (損益算の基礎と料金の割引)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③ (損益算の応用と代金の精算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	数的思考⑤	分数の活用 (分割払いと仕事算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	数的思考⑥	速度算の基本	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	復習と中間テスト	今までの問題の復習と中間テスト	1~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
9	数的思考⑦	速度算の応用	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	論理思考①	場合の数と確率	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理思考②	集合の概念	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理思考③	表の読み取り	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理思考④	論理推論①	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理思考⑤	論理推論②	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	復習と期末テスト	今までの問題の復習と期末テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	小テスト 30%、中間テスト 20%、期末テスト 35%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得して行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	簿記入門	科目名 (英文)	Introduction to Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F G H J
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1004a0		

授業概要・目的	簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。 SDGs-8
到達目標	簿記一巡の手続きを理解し、日商簿記3級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	対面授業の再開まで、動画視聴型の授業を行います。毎回 Teams の授業動画を視聴し、その内容をノートに整理しまとめた後で、moodleを通じて、毎回必ず小テストに解答し、提出して下さい。小テストの解答の際、必要な場合電卓を使用しても構いません。小テストの提出には期限 (1週間) がありますので、必ず指定された期限までに提出して下さい。なお、小テストの解答は、実施授業回ごとに、moodle に資料として解答期限の後に提示しますので確認してください。
科目学習の効果 (資格)	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	簿記の基礎①	簿記の目的、資産・負債・資本、収益・費用	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
2	簿記の基礎②	取引と勘定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
3	簿記の基礎③	仕訳と転記	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
4	簿記の基礎④	試算表	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
6	簿記の基礎⑥	損益計算書及び貸借対照表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
7	まとめ	第1回から第6回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する (3時間)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く (3時間)。
8	現金・預金①	現金・現金過不足	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
9	現金・預金②	当座預金・当座借越、小口現金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
10	商品売買	三分法による商品売買取引の記帳、返品 の処理、売上原価の算定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
14	手形・クレジット売掛金	手形の種類、約束手形の記帳、電子記録 債権・債務、クレジット売掛金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収入金・未払金、前 払金・前受金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
16	その他の債権・債務②	立替金・預り金、仮払金・仮受金、差入 保証金、受取商品券	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
17	有形固定資産	有形固定資産の取得・減価償却・売却	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
18	営業費・法定福利費・税金	営業費・法定福利費の記帳、税金の分類、 法人税等・消費税の記帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
19	まとめ	第8回から第18回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する (3時間)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く (3時間)。
20	決算①	費用の前払い・収益の前受け	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
21	決算②	費用の未払い・収益の未収	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
22	決算③	試算表の作成 1 (合計残高試算表の作成)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (2時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (2時間)。
23	決算④	試算表の作成 2 (合計残高試算の作成及 び売掛金明細表・買掛金明細表の作成)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (2時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (2時間)。
24	決算⑤	精算表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (2時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (2時間)。
25	財務諸表の作成	損益計算書の作成、貸借対照表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (2時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (2時間)。
26	伝票	伝票の意味、3伝票制、一部現金取引	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
27	株式の発行、剰余金の配 当と処分	株式会社の純資産、株式の発行・増資、 剰余金の配当・処分	事前：教科書の該当箇所を読んでおく (1時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く (1時間)。
28	まとめ	第20回から第27回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する

				(3時間)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(3時間)。
	29	日商簿記検定問題①	仕訳、帳簿の問題	事前：教科書の仕訳、帳簿の問題を解く(3時間)。 事後：間違えた問題を再度解く(3時間)
	30	日商簿記検定問題②	試算表、精算表の問題	事前：教科書の試算表、精算表の問題を解く(3時間)。 事後：間違えた問題を再度解く(3時間)
関連科目	財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 四訂版		実教出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト30%、定期試験70%			
学生への メッセージ	簿記は借方・貸方などの専門用語があつて最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかり身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。			
担当者の 研究室等 備考	11号館7階(三木准教授室)			

科目名	簿記入門	科目名 (英文)	Introduction to Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	KLM
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1004a0		

授業概要・目的
簿記とは、企業活動を一定のルールにもとづいて帳簿に記録する技術であり、この記録技術によって財務諸表とよばれる報告書が作成される。したがって、簿記を学習すると、企業がおこなうさまざまな活動を理解し、企業の報告書を分析することができる。

到達目標
① 財務諸表を作成する技術である複式簿記を用いて企業がおこなう取引を帳簿に記録できる。
② 取引の発生から報告まで企業活動の全体像が理解できる。
③ 他の会計関連科目の関連性が理解でき、会計に対する理解を深める。

授業方法と留意点
★ 4月26日の授業から、オンライン授業となります。講義内で案内したように、リアルタイム+Teams で実施しますので、該当授業日・授業開始時間に「簿記入門・呉重和」のTeams (コード:「xfts9yqj」)の授業日チャンネルに参加してください。
例えば、4月26日1限の授業については、4月26日9:20に、「簿記入門・呉重和」Teams→「13. 第3回4月26日」のチャンネルで、リアルタイムの授業を実施します。
▶授業レジュメを事前にMoodle から入手し、活用すること
▶カメラはオン、マイクはオフで参加
▶Teams によるオンライン講義は、リアルタイムで実施します。原則、講義日・講義時間に参加してください。講義内容は録画する予定ですが、ネットワーク環境等の問題で順調に受講できない方のための措置です。後から受講することを保証するものではありませんので、できるだけリアルタイムで出席して下さい。ご注意ください。

以下の内容は4月14日までの授業方法と留意点となります。レジュメを含めた講義資料等のMoodle 掲載、Teams による小テスト、などについてはオンライン授業時にも実施しますので、ご参照ください。

原則対面授業を実施するが、オンライン授業ツールであるMoodle と Teams を利用する。(状況によって Teams によるオンライン授業に変更することもある)
・ 講義資料(講義概要、スライド、レジュメ)→Moodle から事前入手
・ 小テスト→Teams 又は Moodle で実施(当日提出)
・ 期末テスト→原則対面で実施するが、オンライン授業時 Moodle で実施
▶ Moodle (<https://moodle2.setsunan.ac.jp/moodle/>)
→コース→摂南大学→寝屋川キャンパス→経営学部→2021年度簿記入門(呉)を検索し、
→登録キー(2021)で自己登録
▶ Teams コード(xfts9yqj)で参加
→小テストは、Teams の該当講義日チャンネルから回答
→オンライン実施の場合、Teams の該当講義日チャンネルに参加

科目学習の効果(資格)
日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	基礎編：複式簿記	講義概要、簿記の目的、複式簿記	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
2	基礎編：貸借対照表と損益計算書	帳簿と財務諸表	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
3	基礎編：取引と仕訳①	取引と仕訳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
4	基礎編：取引と仕訳②	仕訳と財務諸表	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
5	基礎編：転記①	仕訳と総勘定元帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
6	基礎編：転記②	総勘定元帳と財務諸表	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
7	基礎編：試算表	試算表とその役割	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
8	基礎編：決算①	決算手続と損益勘定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
9	基礎編：決算②	決算手続と次期繰越	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
10	応用編：現金と預金①	現金と現金過不足	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
11	応用編：現金と預金②	当座預金と当座借越、小口現金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
12	応用編：三分法	三分法と売上原価	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
13	応用編：返品と値引き	返品と値引き、諸掛り	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。

				解く(20分)。
	14	応用編：商品有高帳①	先入先出法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
	15	応用編：商品有高帳②	移動平均法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
	16	応用編：貸倒	貸倒損失と貸倒引当金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
	17	応用編：手形	約束手形の振出と受取	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
	18	応用編：手形記入帳と電子記録債権	手形記入帳と仕訳、電子記録債権と債務	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
	19	応用編：その他の債権と債務①	債権の取得と債務の発生	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
	20	応用編：その他の債権と債務②	債権の消失と債務の消滅	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
	21	応用編：固定資産①	固定資産の取得と売却	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
	22	応用編：固定資産②	固定資産の減価償却	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
	23	応用編：固定資産③	固定資産の期中取得と売却	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
	24	応用編：営業費と税金	法人税法等、消費税、法定福利費	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
	25	応用編：費用収益の見越し	未収収益と未払費用	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
	26	応用編：費用収益の繰り延べ	前払費用と前受収益	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
	27	応用編：精算表①	6桁精算表	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
	28	総合編：精算表②	決算整理事項	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
	29	総合編：精算表③	8桁精算表	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30分)。 事後：小テストを解く(20分)、テキストの練習問題を解く(20分)。
	30	まとめ	簿記の一巡のまとめ	事前：テキストの試算表、精算表の問題を解く(60分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30分)
関連科目	財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 三訂版	渡辺正直 ほか	実教出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初級簿記の知識	山浦久司・大倉学	日経文庫
	2	会計学入門	桜井久勝	日経文庫
	3	決算書からすらすらわかる財務3表一休理解法	國貞克則	朝日新書
評価方法 (基準)	小テスト 30%+学期末試験 70%=100%で評価する。 ・ 小テストはほぼ毎回実施し、当日提出 ・ 期末試験は対面で実施予定であるが、オンライン実施の場合、Moodle 提出			
学生への メッセージ	簿記は、帳簿に取引を記録する「技術」である。極めて簡単な仕組み(足し算と引き算のみ)であるが、慣れるまで記帳する練習が必要である。以下の学習方法を意識し練習することが望ましい。 ・ 事前に講義内容に関連する部分を「一読」する。 ・ 配布資料を活用し、「復習」する。テキストの問題を解いてみる。 ・ 毎回の講義は関連性が高く、「欠席」することは学習効果を下げることには注意する。 ・ わからないことはわかるまで「質問」する。 ・ 「電卓」を持参・利用する。			
担当者の 研究室等	11号館7階(呉研究室)			
備考	質問は、①講義内で質問、②Teamsの質問チャンネルで質問、③メールで質問、を活用してください。			

科目名	商業科教育法	科目名(英文)	Business Education Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	久井 孝則
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>前期は、商業高校の教育課程の特徴について理解を深める。そのために、学習指導要領に示された「商業科」の科目について、その目指す学力観及び指導内容と留意点を明らかにしていく。また、商業教育の課題と展望を通して、次代を担う教員としてどのような教育を行うべきかを考察する。</p> <p>後期は、模擬授業を中心に行い、お互いに評価をし合うことにより、発表者の授業に対する教材研究、教材提示、板書法や教育姿勢などについて考察する。また、担当教員の実務経験を活かした適切な助言をする。</p> <p>また、新学習指導要領の改訂のポイントを理解させ、その体現者としての自覚を促す。</p>
到達目標	<p>①商業科教員としての基本的かつ幅広い知識を習得する。</p> <p>②学習指導計画の立案ならびに模擬授業を行い、実践的な能力を体得する。</p> <p>③ビジネス教育のあり方について考え、将来の方向性について理解を深める。</p>
授業方法と留意点	<p>前期授業については、遠隔による教材・課題提供型授業とし、後期授業では模擬授業などの実践授業を取り入れ課題や調査研究成果を発表させるなどの対話型授業を行う。前期授業については毎回レポートを求め、一方的な授業にならないよう努める。また、配布された学習資料について必ず事前学習をしていくこと。特に学習指導計画案の作成や模擬授業では、綿密な資料研究が必要である。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>本講座は、高等学校教職員免許状「商業」を取得するための必修科目である。商業高校では、様々な分野の専門科目を担当する可能性があり、そのための基本的な知識・技能を習得することができる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	前期のガイダンス「授業の進め方」 商業教育の意義と必要性	自己申告表・授業の進め方 (1)商業教育の基本理念 (2)商業教育で育む資質・能力 (3)商業科担当教員への期待	
2	我が国における商業教育の歩み	(1)明治期の商業教育 (2)大正期・昭和20年以前の商業教育 (3)新教育制度と商業教育 (4)科目構成、科目名の変遷	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと(30分)
3	高等学校学習指導要領と商業教育	(1)学習指導要領の法的位置づけ (2)学習指導要領の理念 (3)時代の進展等と商業科の改善 (4)商業科の学習指導を考える文脈	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと。平成30年3月告示の新学習指導要領について調べてくること(30分)
4	商業科の教育課程の編成と実施	(1)教育課程の意義 (2)専門性の深化 (3)カリキュラム・マネジメント (4)専門学科における各教科・科目の履修 (5)文部科学省検定済教科用図書等の使用義務 (6)職業資格とのつながり (7)各学科で育成する人材像と教育課程	〔事前〕出身高校の教育課程をインターネットで検索し、プリントアウトして持参すること。(30分)
5	商業科の学習指導	(1)商業科教育における学習指導の理念と方向性 (2)商業科教育における主体的・対話的で深い学び	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと(30分)
6	各分野の学習指導 [1] 基礎的科目	(1)科目構成 (2)基礎的科目が育成を目指す資質・能力 (3)「ビジネス基礎」の授業改善 (4)「ビジネス・コミュニケーション」の授業改善 (5)学習指導案の例	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと(30分)
7	各分野の学習指導 [2] マーケティング分野	(1)科目構成 (2)マーケティング分野が育成を目指す資質・能力 (3)「マーケティング」の授業改善 (4)「商品開発と流通」の授業改善 (5)「観光ビジネス」の授業改善 (6)学習指導案の例	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと(30分)
8	各分野の学習指導 [3] マネジメント分野	(1)科目構成 (2)マネジメント分野が育成を目指す資質・能力 (3)「ビジネス・マネジメント」の授業改善 (4)「グローバル経済」の授業改善 (5)「ビジネス法規」の授業改善 (6)学習指導案の例	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと(30分)
9	各分野の学習指導 [4] 会計分野	(1)科目構成 (2)会計分野が育成を目指す資質・能力 (3)「簿記」の授業改善 (4)「財務会計Ⅰ」の授業改善 (5)「財務会計Ⅱ」の授業改善 (6)「原価計算」の授業改善 (7)「管理会計」の授業改善 (8)学習指導案の例	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと(30分)
10	各分野の学習指導 [5] ビジネス情報分野	(1)科目構成 (2)ビジネス情報分野が育成を目指す資質・能力	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと(30分)

		(3)「情報処理」の授業改善 (4)「ソフトウェア活用」の授業改善 (5)「プログラミング」の授業改善 (6)「ネットワーク活用」の授業改善 (7)「ネットワーク管理」の授業改善 (8)学習指導案の例	
11	各分野の学習指導 〔6〕総合的科目(課題研究, 総合実践)	(1)科目構成 (2)総合的科目が育成を目指す資質・能力 (3)「課題研究」の授業改善 (4)「総合実践」の授業改善 (5)学習指導案の例	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくる(30分)
12	指導計画の理念と作成	(1)指導計画の意義と作成 (2)指導計画の実施・評価・改善	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくる(30分)
13	学習評価の理念と実際	(1)評価の目的 (2)目標に準拠した評価と評価の観点 (3)評価方法の工夫	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくる(30分)
14	魅力ある商業教育	(1)これからの商業教育 (2)体系的な商業教育の意義 (3)魅力ある商業教育を目指して	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくる(30分)
15	前期のまとめ	前期の講義を振り返り、商業教育についてそれぞれの感想を述べる	〔事前〕これまでの講義ノート等に目を通しておく(30分)
16	基礎的科目「ビジネス基礎」の学習指導計画案の作成	遠隔授業で行う (1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習してくる(30分)
17	基礎的科目「ビジネス基礎」の模擬授業	対面授業で行う (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習してくる(30分)
18	OA 機器を利用した新しい授業法	遠隔授業で行う (1)全国の商業高校における先行例を取り上げる (2)次回の模擬授業に取り入れる	〔事前〕出身高校におけるOA機器を使った授業を調べる(30分)
19	ビジネス情報分野「情報処理」の学習指導計画案の作成	遠隔授業で行う (1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習してくる(30分)
20	ビジネス情報分野「情報処理」の模擬授業	対面授業で行う (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくる(30分)
21	ビジネス情報分野「情報処理」の遠隔授業による模擬授業	遠隔授業で行う (1)エクセルを使った模擬授業 (2)評価表 (3)自由感想表の作成	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくる(30分)
22	会計分野「簿記」の学習指導案の作成①	遠隔授業で行う (1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習してくる(30分)
23	会計分野「簿記」の模擬授業①	対面授業で行う (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくる(30分)
24	会計分野「簿記」①の遠隔授業による模擬授業	遠隔授業で行う (1)パワーポイントを使った模擬授業 (2)評価表 (3)自由感想表の作成	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくる(30分)
25	会計分野「簿記」の学習指導案の作成②	遠隔授業で行う (1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習してくる(30分)
26	会計分野「簿記」の模擬授業②	対面授業で行う (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくる(30分)
27	会計分野「簿記」②の遠隔授業による模擬授業	遠隔授業で行う (1)パワーポイントを使った模擬授業 (2)評価表 (3)自由感想表の作成	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくる(30分)
28	マーケティング分野「マーケティング」の学習指導計画案の作成	遠隔授業で行う (1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習してくる(30分)
29	マーケティング分野「マーケティング」の模擬授業	対面授業で行う (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくる(30分)
30	後期のまとめ	商業科教育法を学んで感じたこと、及び自身が描く教員像について発表する	

関連科目	大学の経営学部や経営情報学部で学ぶ専門科目は、商業科の専門科目として活かせる魅力がある。 簿記、会計、原価計算、管理会計、情報処理、電子商取引、経営学、経済学、マーケティング、民法、会社法、ベンチャービジネス論など、幅広く履修しておくことが大切。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	商業科教育論	日本商業教育学会	実教出版株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題・レポート50%、授業への参加度(学習意欲、事前学習、発表等) 50%とし、総合的に判断して評価する。			
学生への メッセージ	商業科教員採用試験では、日本商工会議所簿記検定2級程度の問題が出題されるので、在学中の取得を目指して欲しい。また、新聞やインターネットの政治・経済や教育に関する記事を日頃から読み、社会の変化に興味・関心を持ち、幅広いビジネスに関する知識を有する商業科教員を目指そう。			
担当者の 研究室等				
備考	質問等はメール等で対応します。 課題については、Web Folder で、随時評価します。 事後学習については、特に表記していませんが、事前学習と合わせた総時間は120時間程度です。			

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北 真取
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協働する力、コミュニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる 																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成、プレゼンテーションなどをクラス制で行う。</p> <p>演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。</p> <p>・授業後、課題を提示する際は、図書館等で調べ、発表用資料を作成して、プレゼンテーションに備える。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題へ取り組む姿勢、協働できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館8階 北 真取 研究室（相談時は事前に連絡してください）																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。</p>																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 連絡などはteamsを使って行うようにします。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミュニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる 																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。</p> <p>演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。</p> <p>・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階 杉本准教授室																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。</p>																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	伊瀬 堂人
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・講義ではディスカッションを行うことがあるので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミュニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる 																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。</p> <p>演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p> <p>履修者には、受講に関する詳細を初回授業前に連絡するため、大学で付与されるメールアドレスをこまめに確認すること。教員より連絡を行います。他の留意点については、初回授業時に説明する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館8階 伊瀬講師室 (相談時は事前に連絡してください)																		
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミュニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる 																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。</p> <p>演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。</p> <p>・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	授業は基本的に対面授業で行う予定ですが、コロナの感染状況によっては、一時的に Teams などによるオンライン授業に切り替える可能性があります。授業形態を変更する場合、こちらからメール等で連絡します。																		
担当者の研究室等	11号館7階 三木准教授室																		
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミュニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる 																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。</p> <p>演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。</p> <p>・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																		
担当者の研究室等	11号館7階 呉准教授室																		
備考	初回に連絡方法の登録、オンライン授業実施時の方法などについて説明します。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	<p>基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。</p> <p>【担当教員 実務経験】</p> <p>①金融機関（本部経営企画調査役、本店営業部融資与信管理役） ②公的投資財団（ベンチャー企業投資業務） ③監査法人（株式公開コンサルティング） ④ベンチャー企業監査役兼務（複数社）</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミュニケーション能力を習得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる 																		
授業方法と留意点	<p>原則、対面授業および対面でのディスカッション形式。 グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをチーム制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。</p> <p>・授業後、課題を提示するので、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。</p>																		
関連科目	専門基礎演習																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	<p>①課題へ取り組む姿勢、チーム内での協同作業ができているか、チームでのプレゼンテーション（評価割合：80%）。 ②期末レポート：簡単なレポートを提出してもらいます（評価割合：20%）。 ①と②で総合的に評価します。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。</p>																		
担当者の研究室等	11号館7階 林教授室																		
備考	<p>プレゼンテーションの資料作成においては、チーム内でポータルのノートパソコンを用意できると授業での討議が進みやすくなります。企業に就職すれば、どの部署においても今や情報機器を扱わない仕事は皆無と言っていいので、大学生になった以上、自身のノートパソコン（モバイル用）は使いこなせるよう準備して下さい。</p>																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミュニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる 																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。</p> <p>演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。</p> <p>・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階 大田教授室																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。</p>																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	島山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミュニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる 																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。</p> <p>演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。</p> <p>・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館8階 島山研究室																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。</p>																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミュニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる 																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。</p> <p>演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。</p> <p>・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館8階 西之坊准教授室																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。</p>																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	K
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミュニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる 																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。</p> <p>演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。</p> <p>・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館8階 田中准教授室																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。</p>																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	L
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協働する力、コミュニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる 																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成、プレゼンテーションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。 ・授業後、課題を提示する際は、図書館等で調べ、発表用資料を作成して、プレゼンテーションに備える。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	課題へ取り組む姿勢、協働できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 塚田研究室																
備考	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	M
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐藤 秀昭
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミュニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる 																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。</p> <p>演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。</p> <p>・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階 佐藤講師室																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。</p>																		

科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北 真取
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すこと。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	課題へ取り組み姿勢、レポート・レジメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションの内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	当面は、オンラインで実施しますが、緊急事態宣言後は対面で実施する予定です。2年次以降の必修科目である演習の選択のために必用な科目です。ゼミ内容等、各教員に積極的に質問して下さい。																
担当者の研究室等	11号館8階 北 真取 研究室(相談時は事前に連絡してください)																
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら爽やかな大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すこと。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	課題へ取り組み姿勢、レポート・レジメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションの内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	当面は、オンラインで実施しますが、緊急事態宣言後は対面で実施する予定です。2年次以降の必修科目である演習の選択のために必用な科目です。ゼミ内容等、各教員に積極的に質問して下さい。																
担当者の研究室等	11号館7階 杉本准教授室																
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら爽やかな大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	伊瀬 堂人
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すこと。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	課題へ取り組み姿勢、レポート・レジメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションの内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	当面は、オンラインで実施しますが、緊急事態宣言後は対面で実施する予定です。2年次以降の必修科目である演習の選択のために必用な科目です。ゼミ内容等、各教員に積極的に質問して下さい。																
担当者の研究室等	11号館7階 伊瀬研究室(相談時は事前に連絡してください)																
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら爽やかな大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すこと。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	課題へ取り組み姿勢、レポート・レジメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションの内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	当面は、オンラインで実施しますが、緊急事態宣言後は対面で実施する予定です。2年次以降の必修科目である演習の選択のために必用な科目です。ゼミ内容等、各教員に積極的に質問して下さい。																
担当者の研究室等	11号館7階 三木准教授室																
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら爽やかな大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すこと。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	課題へ取り組み姿勢、レポート・レジメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションの内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	当面は、オンラインで実施しますが、緊急事態宣言後は対面で実施する予定です。2年次以降の必修科目である演習の選択のために必用な科目です。ゼミ内容等、各教員に積極的に質問して下さい。																
担当者の研究室等	11号館7階 呉准教授室																
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら爽やかな大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すこと。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	課題へ取り組み姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションの内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	2年次以降の必修科目である演習の選択のために必用な科目です。ゼミ内容等、各教員に積極的に質問して下さい。																
担当者の研究室等	11号館7階 林教授室																
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら爽やかな大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すこと。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	課題へ取り組み姿勢、レポート・レジメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションの内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	当面は、オンラインで実施しますが、緊急事態宣言後は対面で実施する予定です。2年次以降の必修科目である演習の選択のために必用な科目です。ゼミ内容等、各教員に積極的に質問して下さい。																
担当者の研究室等	11号館7階 大田教授室																
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら爽やかな大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	島山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すこと。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	課題へ取り組み姿勢、レポート・レジメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションの内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	当面は、オンラインで実施しますが、緊急事態宣言後は対面で開催する予定です。2年次以降の必修科目である演習の選択のために必用な科目です。ゼミ内容等、各教員に積極的に質問して下さい。																
担当者の研究室等	11号館8階 島山研究室																
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら爽やかな大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すこと。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	課題へ取り組み姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションの内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	当面は、オンラインで実施しますが、緊急事態宣言後は対面で開催する予定です。2年次以降の必修科目である演習の選択のために必用な科目です。ゼミ内容等、各教員に積極的に質問して下さい。																
担当者の研究室等	11号館8階 西之坊准教授室																
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら爽やかな大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	K
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すこと。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	課題へ取り組み姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションの内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	当面は、オンラインで実施しますが、緊急事態宣言後は対面で実施する予定です。2年次以降の必修科目である演習の選択のために必用な科目です。ゼミ内容等、各教員に積極的に質問して下さい。																
担当者の研究室等	11号館8階 田中准教授室																
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら爽やかな大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	L
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すこと。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	課題へ取り組み姿勢、レポート・レジメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションの内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	当面は、オンラインで実施しますが、緊急事態宣言後は対面で実施する予定です。2年次以降の必修科目である演習の選択のために必用な科目です。ゼミ内容等、各教員に積極的に質問して下さい。																
担当者の研究室等	11号館8階 塚田研究室																
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら爽やかな大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	M
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐藤 秀昭
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すこと。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	課題へ取り組み姿勢、レポート・レジメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションの内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	当面は、オンラインで実施しますが、緊急事態宣言後は対面で開催する予定です。2年次以降の必修科目である演習の選択のために必用な科目です。ゼミ内容等、各教員に積極的に質問して下さい。																
担当者の研究室等	11号館7階 佐藤講師室																
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら爽やかな大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	<p>企業が直面する問題に関心をもち、その問題を解決するために必要な知識を身につける。 とりわけ、下記について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業のマネージャー・担当者へインタビューを行うことによって得た質的データの分析方法について ・課題に応じた質問票の作成方法と量的データの分析方法について ・上記から得た発見を具体的なマーケティング戦略と結びつける一連のプロセスについて <p>グループで課題に取り組み、議論や発表を通してマーケティングへの理解を深める。 なお、授業担当者の旅行会社での経験から、「モノ」だけでなく、「サービス」に関するマーケティングについても解説する。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・業界や企業が抱える問題を発見し、それに適した解決策を提案することができる。 ・企業のマーケティング活動についてマーケティング・マネジメントの視点だけではなく、消費者の視点で説明することができる。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを取り入れながら講義を進める。 ・各グループで企業や地域に関するテーマを見つけ、そのテーマに沿いながらマーケティングに関する学びを深める。 ・授業時間外にグループ発表の準備等を行ってもらう。グループのメンバーと協力して取り組むこと。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【前期】</p> <p>1回：授業の進め方について 役割・グループの決定 2回～3回：グループ毎にテーマの設定 4回～5回：インタビュー、フィールドワークに向けた準備 6回～9回：インタビュー、フィールドワーク 10回～11回：質的データの分析 12回～14回：発表準備 15回：発表</p> <p>【後期】</p> <p>1回：授業の進め方について グループの決定 2回～3回：グループ毎にテーマの設定 4回～6回：質問票の作成・データ収集 7回～10回：データ分析 11回～13回：発表準備 14回：発表 15回：まとめ</p>																		
関連科目	マーケティング、消費者行動論、演習 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>その都度指示します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	その都度指示します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	その都度指示します。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>その都度指示します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	その都度指示します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	その都度指示します。																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	参加態度 (役割・発表準備・発言) : 40% 発表・発表資料 : 60%																		
学生へのメッセージ	企業のブランドマネージャーや地域のプロデューサーに来て頂くことを予定しています。 積極的に参加してください。																		
担当者の研究室等	田中祥司研究室 11号館8階																		
備考	・各回の授業に向けた準備(予習)や学びに対する復習が必要(約1時間程度)。																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 組織とヒトのマネジメントについて研究します。また、教員の企業人事での実務経験を通じた教育を行います。</p> <p>【目的】 本演習では、戦略、組織、人のマネジメントについて基礎から段階的に学び、自らの問題意識をもって様々な組織やヒトに関する経営現象を考察できるようになることを目的としています。</p>																
到達目標	<p>①様々な経営現象に広く関心を持つ。 ②経営学の理論に関する知識をディスカッションやプレゼンテーションを通じて習得する。 ③論理的に自分の考えをまとめ、他者に伝えられるようになる。 ④他者の意見を聞き、また他者に自分の考えを伝えられるようになる。 ⑤ワークでは、企業で実際に働く人にアポイントを取る必要があるため、その際に必要なビジネスマナーを習得する。</p> <p>演習 I の終わりには、4年次に提出する卒業論文に向けてそれぞれの研究テーマを設定していきます。</p>																
授業方法と留意点	<p>①ゼミをグループに分けてテーマを決め、ゼミ生の知人が働く会社における関心テーマについて調査、分析、考察する。最後はグループ別プレゼンテーション大会を行います。 ②実務家をゼミに招いたり、休みを利用して企業訪問することがよくあります。 ③卒業研究テーマを選定します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 「組織とヒトのマネジメントに関する基本的考察」</p> <p>【授業内容】 ①問題意識、文献調査・実地調査、プレゼンテーション、フィードバックを繰り返し行います。 ②報告者は、事前に文献・新聞・ウェブ検索を参考に報告者間での議論をレジュメにまとめます。次に、用意したレジュメをもとにプレゼンテーションを行います。 ③報告者以外の人は、意見・質問等の発言ができるようにプレゼンテーションをしっかりと聞いて準備すること。発言等、授業への参画がない場合、欠席扱いにします。</p> <p>【事前、事後学習課題】 新聞等でのニュースで経営に関する情報を常に入手し、ゼミ等で関わったどの経営現象で説明できるか考察すること。 ゼミでも随時、日経新聞記載のニュースを中心に取り上げ、ディスカッションを行います。</p> <p>なお、上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育します。</p>																
関連科目	演習 II、卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	提出物、プレゼンテーション、ディスカッション、参加意欲の総合評価 (発言等がない場合、欠席扱いにする場合があります)																
学生へのメッセージ	ゼミへの主体的な参加は必須のゼミです。																
担当者の研究室等	11号館 8F 西之坊研究室																
備考	<p>①参考書等については、演習の中で紹介し、必要に応じて購入してもらう場合がある。 ②随時、企業家を招いてディスカッションを行う。招く場合は事前に伝えますので、所属組織について事前調査を必ず行うこと。 ③ゼミ活動は基本的に全員参加することを通じて社会人基礎力を養います。 ④ゼミの懇親会およびゼミ合宿等を行い、集団凝集性を高めます。</p>																

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	伊瀬 堂人
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	近年、企業を取り巻く環境は複雑化している。その中で、企業の財政状況や経営成績を正しく把握する能力の必要性はますます高まっている。会計学の知識は「ビジネス言語」とも呼ばれ、企業の情報を読み解くためには必須の知識である。この講義では、会計学の基礎的な知識を習得するとともに、会計学を実社会で有用に用いる方法を学習する。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会で会計というシステムがどのように扱われているのかを理解する。 ・会計情報を読み解くために必要な必要最低限の簿記の知識を習得する。 ・会計情報を根拠として、企業の状態を推量することができる。 ・卒業論文のテーマを思索する。 																		
授業方法と留意点	講義形式ではなく、学生の参加形式であり、会計知識の習得・グループディスカッション・グループワーク・プレゼンテーションなどを予定しています。講義は基本的にアクティブラーニング形式ですので、個々人の積極的な参加が不可欠です。必ず出席をするようにしてください。やむを得ず欠席する場合は、担当教員へできる限り事前に連絡してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の講義では、企業分析を行うために必要な簿記および会計学の基礎的な知識を習得することに注力する。 ・後期の講義では、自ら企業の情報を収集し、その情報に基づいた企業分析を行い、結果の報告を行う。 ・該当講義および次回の講義テーマに関して、課題を提示する。事前および事後にわからない用語・事象など自ら調べ、円滑にディスカッションをできるように準備しておくこと。 <p>講義の各回の詳細な内容などは初回授業で告知する。</p>																		
関連科目	2年次...財務会計論 I・II、商業簿記、3年次...コーポレート・ファイナンス I・II など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定なし			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	特に指定なし																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『ビジネススクールで教える経営分析』</td> <td>太田 康弘</td> <td>日経文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『財務会計講義(第21版)』</td> <td>桜井 久勝</td> <td>中央経済社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『ビジネススクールで教える経営分析』	太田 康弘	日経文庫	2	『財務会計講義(第21版)』	桜井 久勝	中央経済社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『ビジネススクールで教える経営分析』	太田 康弘	日経文庫																
2	『財務会計講義(第21版)』	桜井 久勝	中央経済社																
3																			
評価方法 (基準)	<p>討議参加の積極性 30%</p> <p>グループワークでの協同性 30%</p> <p>ゼミでの報告 40%</p>																		
学生へのメッセージ	【学生へのメッセージ】この講義はゼミ形式の講義です。教員はあくまでもみなさんのサポート役です。主体的に参加し、この講義を有用に活用してください。また、議論したい、あるいは掘り下げてみたいテーマなどがあれば、積極的に提案してください。																		
担当者の研究室等	11号館8階 伊瀬研究室																		
備考	初回講義は、Zoomを用いたオンラインでのリアルタイム配信で実施します。その他留意事項に関しては、ゼミ所定の連絡方法で連絡しますので、こまめに確認しておいてください。																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	<p>テーマ 経済データの利用</p> <p>日本社会、経済に関する様々な問題を分析するため、基本的なデータの利用の仕方を身に付ける。そして以下のような目標を達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 現状をよく知るために、新聞などを読む。 (2) 理論的な知識をつけるために、多くの本を読む。 (3) 論理的な思考をする。 (4) 自分の考えを、口頭で発表する。 (5) 形式の整った、内容のあるレポートを書く。 <p>連絡、質問は teams を利用して行います。</p>																		
到達目標	<p>自分で問題を設定できる。</p> <p>その問題を分析するための情報を収集できる。</p> <p>情報、データを有効に活用できる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>【授業内容】</p> <p>[授業内容]</p> <p>データの意味。利用の仕方。経済の現状の把握。</p> <p>[授業方法と留意点]</p> <p>テキストを利用した、発表と討論。出席と授業中の発言が、最も重視される。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>日本の企業、経済、社会に関する問題を分析するためのデータを利用する方法やその意義について考えていく。テキストなどの担当項目の報告を通じ、理論的に思考し、また自分の考えを表現する力をつけていく。</p> <p>上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>若者は本当にお金がないのか? -統計データが語る意外な真実-</td> <td>久我尚子</td> <td>光文社新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>データ分析をマスターする12のレッスン</td> <td>畑農、水落</td> <td>有斐閣アルマ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	若者は本当にお金がないのか? -統計データが語る意外な真実-	久我尚子	光文社新書	2	データ分析をマスターする12のレッスン	畑農、水落	有斐閣アルマ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	若者は本当にお金がないのか? -統計データが語る意外な真実-	久我尚子	光文社新書																
2	データ分析をマスターする12のレッスン	畑農、水落	有斐閣アルマ																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高校生からの経済データ入門</td> <td>吉本佳生</td> <td>ちくま新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高校生からの経済データ入門	吉本佳生	ちくま新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	高校生からの経済データ入門	吉本佳生	ちくま新書																
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業での取り組み、レポートなどで総合的に評価。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階杉本研究室																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>上にも書いたように、できるだけ多くの本を読むようにしてほしい。基本的知識をつけることは、どのような分野を勉強するにも大事なことである。また自分の考えをまとめ、人に伝える技量をつけてほしい。</p>																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	島山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	本演習では、グループプレゼンテーションやグループディスカッションを通じて企業の国際化の実態や理論について学習する。		
到達目標	①国際経営論に関する基礎的知識を習得する。 ②課題を分析して、自分の考えをまとめる力を身につける。 ③自分の意見をわかりやすく伝える力を身につける。		
授業方法と留意点	教科書を用いたグループプレゼンテーションと質疑応答、グループディスカッションを中心に授業を進める。各自が責任を持って授業に取り組むことが重要である。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	文献の輪読を通じて国際経営に関する基礎的な知識の理解を深めていく。発表グループは文献を熟読して内容をレジュメにまとめてプレゼンテーションを行う。その後、全体でグループディスカッションを行う。他のメンバーも事前に文献を読み、重要だと思う点と質問したい点についてまとめておく必要がある。 尚、経営学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても取り上げ、指導・教育する。		
関連科目	経営学 I・II、経営戦略論、グローバル経営論		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	ケースに学ぶ国際経営	吉原秀樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏 有斐閣
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	下記の輪読の取り組み状況(100%)で評価する。 1. グループプレゼンテーションの内容 2. 質疑応答における発言 3. グループディスカッションにおける発言		
学生へのメッセージ	ゼミの主役は教員ではなく学生である。「自ら考え行動する力」を身につけるために、主体的にゼミの活動に取り組んで欲しい。		
担当者の研究室等	11号館8階 島山研究室		
備考	授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	北 真取
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	<p>3年間の演習（ゼミナール）を通して、戦略的思考を学ぶ。</p> <p>経営戦略や事業戦略、事業の仕組みであるビジネスモデルを教材として使いながら、ものごとを大局的に考える力を涵養することを目的とする。</p> <p>演習 I では、ブルーオーシャン戦略やビジネスモデルの理論や事例に触れながら基礎的なスキルの習得を目指します。</p> <p>企業での企画調査や海外駐在の実務経験を講義に取り入れます。</p>																		
到達目標	<p>経営の現象について、</p> <p>① 「何（どんなこと）を」(What)</p> <p>② 「なぜ（どうして）」(Why)</p> <p>③ 「どんな方法で」(How)</p> <p>の観点から考察するスキルを身につけて、分析力、判断力を養うこと。</p> <p>英語などの検定を継続して受験しレベルアップを図ること。</p>																		
授業方法と留意点	<p>自分の考えをまとめ、それを発表し、他の人の理解を得たり、他の人の違う意見を取り入れて自らの考えを改善する。</p> <p>こうした方法を毎回、繰り返すことで、他者との相互作用のあり方についても習得していきます。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期のテーマはブルーオーシャン戦略。授業では、その理論的側面と事例的側面の双方から深く理解します。</p> <p>理論的側面に関しては、テキストのエッセンスについて、各グループごとに発表を積み重ねていきます。</p> <p>事例的側面では、実際に応用したような事例を調査し、情報を収集・分析してブルーオーシャンからみた解釈や考察を行います。</p> <p>情報収集状況から判断して、対象事例について取材したり、詳細な説明を受ける機会を設けることもあります。</p> <p>後期のテーマはビジネスモデル。まず、どのようなモデルがあるのか、ビジネスモデルをピクト図で表しながら明解かつ単純化して理解を深めていく。</p> <p>次に、多種多様なビジネスモデルについて、事例を観察してその収益源のしくみ、顧客の価値を学習する。</p> <p>事前学習：グループ毎の担当表に従って、レポート作成、発表準備を行う（所要3時間）</p> <p>事後学習：授業での指摘事項についてレポートを加筆修正し再提出する（所要2時間）</p>																		
関連科目	経営戦略論、経営組織論、グローバル経営論など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新版 ブルー・オーシャン戦略</td> <td>キム&モボルニュ</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 ブルー・オーシャン戦略	キム&モボルニュ	ダイヤモンド社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新版 ブルー・オーシャン戦略	キム&モボルニュ	ダイヤモンド社																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	小テスト（50%）と課題レポートの作成・発表・討議（50%）にもとづいて評価する。																		
学生へのメッセージ	いろんな角度から疑問を持って授業に臨んでください。そうした疑問について皆で討議をしながら学習していきます。皆が寄れば文殊の知恵です。																		
担当者の研究室等	11号館8階 北 真取研究室																		
備考																			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐井 英子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	英語、パソコン、会計（国際）が現代の「三種の神器」である、といわれるがこの三者に共通していることは、どれもグローバルなコミュニケーション手段であるということです。会計は企業活動を計数的に写像したものであり、企業経営そのものを指し示している。経営者による裁量的な会計行動による不祥事が次々と発覚し、近年、会計の重要性が再認識されつつある。本演習では、会計情報を利用する立場から会計の基礎知識の修得に努める。また、レポート作成時など不正防止のための研究倫理についても取り上げ、指導・教育する。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会計情報開示制度と会計の基本を理解する。 ・会計の基本的ルール、財務諸表作成のルール、会計基準等を理解する。 ・会計情報を自ら分析、理解して、会計情報から企業の経営内容を読み取る力を修得する。 ・財務諸表を理解し、使いこなし、説得力のあるプレゼンテーションができるようになる。 ・グループワークを通して、コミュニケーション能力、協同する態度を修得する。 ・研究倫理について理解し、実践する姿勢を身につける。 ・会計情報開示制度と会計の基本を理解する。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、対面で実施します。 ・課題の提出は Web Folder を利用します。 ・基礎的知識を修得するための資料の読解、インターネット等での情報収集。 ・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションする。 																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・会計と経営、経済社会の関わりについて学び、会計の基本的な枠組み、知識を習得する。ゼミでは、毎回、各自の発言を求め、質疑、応答形式で進めていく ・グループワークでの研究、調査を行い、協同してプレゼン等を行う。 ・事前学習は、配布資料等で分からない用語等事前に調べ、自分なりに理解してゼミに参加すること。ただし、内容がどうしても分からないところは、ゼミで必ず質問し、理解するようにする。事後学習は、毎回のゼミで、レポート課題、さらに詳しく調べることなどの課題をその都度、指示するので、グループまたは個人で調べ、プレゼンテーション用のスライド等を作成しておくこと。 ・事前学習に毎回2時間、事後学習に2時間予定しています。 																		
関連科目	企業簿記、財務会計論、経営学、																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	討議への参加、レポートの提出、発表等																		
学生へのメッセージ	ゼミは、必ず出席し、積極的に参加してください。一方的に知識が与えられる場としてではなく、活発な討論を通じて教員もゼミ生も互いに切磋琢磨していける場としてゼミを考えています。																		
担当者の研究室等	11号館8階																		
備考	コロナの感染状況により、対面上業を実施します。																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	金融・ファイナンスで扱う事象は、わたしたちの身の回りにある。端的に言えばお金に関する事で、財布の中の現金をはじめ、電子マネーやクレジットカード、銀行、証券会社、保険、国債、株式、資産運用、借入等々、延々と続くお金の通り道で起こる様々な事象を体系的に論じるのが学問としての金融・ファイナンスである。日頃の生活はもちろん、ビジネスとも密接な関係にある。本ゼミでは、そのようなお金に関する事象や問題を『研究・探究』し、金融・ファイナンスの考え方を修得するとともに、客観的な根拠に基づき主張する能力の修得を目的とする。本ゼミ希望者には成績の良し悪しは問わないが、自律的で能動的な姿勢を求めたい。																		
到達目標	金融・ファイナンスを中心とした経済・経営問題に関心を持ち、客観的視点から問題を把握し、解決する能力を身につけること																		
授業方法と留意点	原則として学生による発表・質疑応答形式（プレゼンテーション）で進める。発表者だけでなく、聴き手学生にも積極性を求める。ゼミを単位取得のための「がまん大会」にしてはならない。不幸にして欠席・遅刻しそうなら、教員に速やかに連絡すること。また年末には卒研究生（4回生）の卒論報告会への参加とルーブリック評価基準に基づく卒論の評価をしてもらう予定である。なお、2021年度は対面式であるが、新型コロナウイルス感染症防止のためテレビ会議システム（Teams）を用いた遠隔方式もありうる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本演習では、所定の書籍をもとに発表・質疑応答形式（プレゼンテーション）で進める。発表者が発表準備をするのは当然だが、聞き手学生も書籍の発表箇所を事前に読んでおくこと。また、適宜レポートも課す。加えて該当する分野に関連する不正防止のための研究倫理についても合わせて取り上げ、指導・教育する。																		
関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンス等																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	学習態度、プレゼンテーションの出来映えなどを総合的に判断する。																		
学生へのメッセージ	企業が学生に求める能力は依然として高い。易きに流れるは世の常なれど、後悔するのは自分自身である。その点、覚悟願う。																		
担当者の研究室等備考	11号館8階（岩坪教授室）																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	本演習では、管理会計について学んでいく。管理会計とは、企業内部の各階層の経営管理者に、経営管理に有用な会計情報の提供を目的とする会計である。管理会計は、経営管理を有効に行うために不可欠な手段であり、管理会計を学ぶことは今後社会に出るにあたって、大変意義のあることであると考えられる。本演習では、管理会計の意義や伝統的な管理会計の諸技法など管理会計の基礎的事項について学ぶ。 SDGs-8, 9, 12			
到達目標	① 管理会計とは何かや、予算管理、標準原価計算といった伝統的な管理会計技法の意義・手続きについて理解する。② 伝統的な管理会計に関する理解を踏まえて、伝統的な管理会計の課題について理解する。			
授業方法と留意点	毎回、発表者を事前に指名し、各回の授業テーマについて教科書の内容をまとめたレジュメを作成してもらった上で、それに基づき報告をしてもらう。報告の後で、授業の参加者でその内容について議論を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	管理会計に関する基礎的な教科書を用いて、授業を進める。毎回の進度は、教科書1章分。前期は、管理会計を理解する上で欠かすことのできない原価計算の基礎的な事項について学ぶ。後期は、予算管理や標準原価計算など伝統的な管理会計技法について学んでいく。授業での発表者以外の人、当日の授業内容について事前に自分なりにまとめておくこと(2時間)。また、授業後に受講者全員にその日にやった内容についてまとめたレポートを毎回作成してもらう(2時間)。加えて、会計分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導教育する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート 80%、発表・授業中の発言 20%			
学生へのメッセージ	授業の無断欠席や遅刻は認めません。授業には、真剣に取り組んで下さい。また、授業中は、積極的に発言することを期待します。演習参加者全員の努力で、演習での学びを、充実した実りのあるものにしましょう。			
担当者の研究室等	11号館7階(三木准教授室)			
備考	教科書については第1回目の授業の際に指示します。ゼミは現在のところ Teams を用いてオンラインで授業で行う予定ですが、コロナの感染状況によっては、対面授業に切り替える可能性があります。授業形態を変更する場合、こちらからメール等で連絡します。			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	企業（または、世の中で経済活動をおこなう経済主体）に関連する社会問題を発見し、問題を解決する方法を学習し、分析をおこない、わかった知識を発信することを自ら行える能力を習得する。																		
到達目標	① 会計セミナーに所属する学生として必要最低限である会計関連知識を習得する。 ② 企業に関連する問題について、会計情報を根拠として提示しながら、意思表示ができる。 ③ 簿記関連資格を取得する。 ④ 卒業論文のテーマを決める。																		
授業方法と留意点	☆ 4月22日以降の演習についても対面で実施します。オンライン実施の場合はゼミ内で案内します。 演習 I は講義形式ではなく、学生の参加形式であり、会計学の知識の習得、会計情報の分析、ディスカッションの実施、プレゼンによる知識の発信などが予定されている。 ① ゼミの活動に積極的に参加すること ② やむを得ない事情を除き、出席すること ③ ディスカッションに積極的に参加すること ④ 学内で生じた問題については素早く相談すること																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	+ 前期では、簿記に関連する基礎知識の学習・発表と関心テーマを発見する。 + 後期では、会計に関連する基礎知識の学習・発表と関心テーマに関連する新聞記事などの背景を調べ、報告する。 + 毎週行われるテーマに合わせて、事前に課題などが提示される。提示された課題については、報告者でなくても事前にわからない用語等を調べるなどし、ディスカッションに参加できるようにすること。(詳細な計画については初日の演習で告知する)																		
関連科目	経営学に関連する授業全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	特に指定しない																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門経営分析</td> <td>倉田三郎</td> <td>同文館出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>なぜ、会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった？</td> <td>村上裕太郎</td> <td>東洋経済新聞社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ビジネススクールで教える経営分析</td> <td>太田康弘</td> <td>日経文庫</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門経営分析	倉田三郎	同文館出版	2	なぜ、会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった？	村上裕太郎	東洋経済新聞社	3	ビジネススクールで教える経営分析	太田康弘	日経文庫
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	入門経営分析	倉田三郎	同文館出版																
2	なぜ、会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった？	村上裕太郎	東洋経済新聞社																
3	ビジネススクールで教える経営分析	太田康弘	日経文庫																
評価方法 (基準)	ディスカッションへの参加、発表、報告などを総合的に評価																		
学生へのメッセージ	ゼミは教員主導の講義ではなく、学生主導の学習の場です。教員はあくまでも学習の補助者であります。皆さんが希望するゼミ活動があれば積極的に提案し、参加するなど、イメージしていたゼミを作り上げていきましょう。																		
担当者の研究室等	11号館7階																		
備考	Zoom や Teams で実施する可能性もあります。初回ゼミラインなどの連絡方法を登録してもらいますので、必ず参加してください。																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	<p>社会人になるためのスキルを身に付けるだけではなく、専門職として必要な知識とノウハウを習得し、自身の創造性と挑戦意欲を引き出すための演習を実施します。</p> <p>具体的には、各自が希望する学外プロジェクトに挑戦し、各プロジェクトでチーム（チームメンバー4名程）を編成し、協議・協力しながら目的を達成する取り組みを実施します。</p> <p>また、数理判断能力（暗号解読、図形空間判断など）やパソコンソフト活用（Word、Excel関数分析、PowerPoint）などの向上を目指した演習も実施します。</p> <p>Python プログラム言語を活用したプログラミングの基礎を習得します。</p> <p>更に、実際の株式市場での取引をシミュレーション化した、投資技法の習得も実施します。</p>
到達目標	<p>チームメンバー内のディスカッションを経て、自身の知識を知恵に転換する思考力と創造性を有するようになり、且つ、コンペティションによる競争意欲と更なる挑戦意欲を持つ人材を目指します。</p> <p>企業人として社会人として必要不可欠な教養知識の習得を目指します。</p>
授業方法と留意点	<p>対面での演習またはチームディスカッションを行います。</p> <p>★チーム編成によるコンペティション（コンテスト）への挑戦</p> <p>チーム内でのディスカッションに参加し、積極的な提案・意見を述べる。</p> <p>★自身のノートパソコンを使用した情報ソフトの有効的な活用</p> <p>企業での業務に就く前に、基本的で且つ有効な操作技法の習得に努める。</p>
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】</p> <p><前期>授業ガイダンス <後期>数理判断（1）</p> <p><前期>参加コンテストへのチーム別取組 <後期>コンテスト別提出ドラフトの最終調整</p> <p><前期>コンプライアンス指導 <後期>数理判断（2） コンテスト別提出ドラフトの最終調整</p> <p><前期>コンテストチームディスカッション <後期>数理判断（3）</p> <p><前期>コンテストチームディスカッション <後期>数理判断（4）</p> <p><前期>コンテストチームディスカッション <後期>数理判断（5）</p> <p><前期>コンテストチームディスカッション <後期>PCソフトの戦略的活用 【Excel】の機能（1）</p> <p><前期>コンテストチームディスカッション <後期>PCソフトの戦略的活用 【Excel】の機能（2）</p> <p><前期>コンテストチームディスカッション <後期>PCソフトの戦略的活用 【Python プログラミング】</p> <p><前期>コンテストチームディスカッション <後期>PCソフトの戦略的活用 【Python プログラミング】</p> <p><前期>コンテストチームディスカッション <後期>PCソフトの戦略的活用 【Python プログラミング】</p> <p><前期>コンテストチームディスカッション <後期>参加コンテストの結果分析</p> <p><前期>コンテストチームディスカッション <後期>卒論研究テーマ選定の考え方</p> <p><前期>コンテストチーム別原案作成 <後期>PCを活用した株式投資・債券投資（1）</p> <p><前期>コンテストチーム別原案作成 <後期>PCを活用した株式投資・債券投資（2）</p> <p>-----</p> <p>【内容・方法】</p> <p><前期>参加コンテストの説明 チーム編成</p>

<後期>数値判断問題への取組暗号解読、図形判断などの問題解決

<前期>参加コンテスト別テーマ 選定とディスカッション
<後期>コンテスト提出のドラフトチェック

<前期>配布資料に基づく座学
<後期>暗号解読、図形判断などの問題
コンテスト提出のドラフトチェック

<前期>チームディスカッション
<後期>暗号解読、図形判断などの問題

<前期>チームディスカッション
<後期>暗号解読、図形判断などの問題

<前期>チームディスカッション
<後期>暗号解読、図形判断などの問題

<前期>チームディスカッション
<後期>策定問題に基づき、様々な編集機能等を習得する。【単純グラフ①】

<前期>チームディスカッション
<後期>策定問題に基づき、様々な編集機能等を習得する。【単純グラフ②】

<前期>チームディスカッション
<後期>自身のPCでPythonプログラミングを習得する。

<前期>チームディスカッション
<後期>自身のPCでPythonプログラミングを習得する。

<前期>チームディスカッション
<後期>自身のPCでPythonプログラミングを習得する。

<前期>チームディスカッション
<後期>特性要因図分析によるチームディスカッション

<前期>チームディスカッション
<後期>卒論のテーマ選定の事前調査および書き方のルール

<前期>チームディスカッション
<後期>投資分析データの活用方法

<前期>チームディスカッション
<後期>投資分析データの活用方法

【事前事後】

<前期>コンテスト別実施要領の確認
<後期>数値問題の復習 (30分)

<前期><後期>
コンテスト提出物への取組 (チーム内打ち合わせ) (30分)

<前期>小レポートでの確認
<後期>コンテスト提出物の仕上げ (チーム内打ち合わせ) (30分)
前回「暗号解読」の復習、解読のためのポイント整理 (30分)

<前期>チーム別個人調査 (30分)
<後期>前回「暗号解読」の復習、解読のためのポイント整理 (30分)

<前期>チーム別個人調査 (30分)
<後期>前回「暗号解読」の復習、解読のためのポイント整理 (30分)

<前期>チーム別個人調査 (30分)
<後期>前回「暗号解読」の復習、解読のためのポイント整理 (30分)

<前期>チーム別個人調査 (30分)
<後期>編集・関数分析機能の復習 (30分)

<前期>チーム別個人調査 (30分)
<後期>編集・関数分析機能の復習 (30分)

<前期>チーム別個人調査 (30分)
<後期>編集・関数分析機能の復習 (30分)

<前期>チーム別個人調査 (30分)
<後期>編集・関数分析機能の復習 (30分)

<前期>チーム別個人調査 (30分)
<後期>編集・関数分析機能の復習 (30分)

	<前期>チーム別個人調査 (30分) <後期>チーム別特殊性要因分析図の完成版提出 (30分) <前期>チーム別個人調査 (30分) <後期>作成ルールの復習 (30分) <前期>チーム別個人調査 (30分) <後期>長期的投資手法の復習 (30分) 投資シミュレーションの実施 (30分) <前期>チーム別個人調査 (30分) <後期>長期的投資手法の復習 (30分) 投資シミュレーションの実施 (30分)																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	コンテストへの参加 (ディスカッションへの取組状況)、各作成問題への取組度など、演習への積極的な参加姿勢を評価する。 また、日商簿記資格試験、TOEIC への挑戦なども評価対象とする。																
学生への メッセージ	チームで取り組むコンペティションへの参加を通じて、社会における不具合の解決策を真剣に考えられる人材になってほしい。 また自身の将来のために必要な役立つ知識の習得と、応用力を身に付けてほしい。																
担当者の 研究室等	1 1号館 7階<林研究室>																
備考	自身のノートパソコンは普段よりセキュリティソフトの更新などしっかりと整備しておく事。																

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	AI 等の OSS (Open Source Software) の調査・試行、ビジネスプランの考案、効果的な情報発信方法の企画・立案、民間企業との共同研究等の活動を通して、経営的視点から最新の情報処理技術を上手に使いこなせる力を養成します。																
到達目標	(1) AI 等の情報処理技術を上手に使う術を知り、新しい技術やビジネスに興味を持つマインドが育つこと (2) 研究チーム毎の活動において自らの役割や立場に応じた適切な行動をとることができ、チームとして一定の目標を達成すること (3) ビジネスプランコンテストに応募すること (4) 就職したい企業と卒業研究のテーマを設定すること (今後、変更してもよい)																
授業方法と留意点	初回授業では、ゼミの上位年次との日程調整を行うため、必ず参加してください。 授業資料 (PDF) や課題は、Web Folder にアップロードします。 前半は、AI に関する座学と実習をおおして、最先端の ICT を上手に使う術を身に付けてもらいます。 そのあと、学年混合チームを結成し、チーム毎にテーマを決め、設定課題の解決に向けた取り組みを実行してもらいます。 具体的なテーマは、共同研究や社会情勢に応じて、適宜変化します。 最新の授業情報は Teams で配信するため、Teams で本講義のクラス																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	座学と実習を通じて ICT を使いこなす知識と技能を習得します。 ゼミ内でのディスカッションを受けて、学年混合チームを結成し、社会ニーズに合致した研究プロジェクトを立ち上げます。 ゼミでは、大きなスケジュールは提示しますが、細かなスケジュールは学生自らが考えて設定することを基本とします。 皆さんの自発的な行動を期待します。 プロジェクトの進捗が悪い場合や、コンテンツの締切前などは、講義時間外の学習時間が長くなる場合があります。																
関連科目	演習 II、卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	課題への取組姿勢、出来栄え、討議への参加意欲で総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	意思決定の軸は常に自己成長と捉え、ゼミ活動には積極的に参加してください。																
担当者の研究室等	11 号館 8 階 塚田研究室																
備考																	

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	島山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	本演習では、グループごとにテーマを設定して研究活動を行い、学外の研究プレゼンテーション大会で研究成果を発表する。																		
到達目標	①プレゼンテーション・スキルを習得する。 ②論理的文章の作成スキルを習得する。 ③論理的思考力を鍛える。																		
授業方法と留意点	グループによるプレゼンテーションとディスカッションを中心に授業を進める。各自が責任を持って授業に取り組むことが重要である。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	学外の研究プレゼンテーション大会に参加することが主な活動になる。学外の研究プレゼン大会はグループごとに研究調査、企画シート、プレゼンテーション資料の作成、大会におけるプレゼンテーションと質疑応答に取り組む。 尚、経営学分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き努める。																		
関連科目	経営学Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論、グローバル経営論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ケースに学ぶ国際経営</td> <td>吉原秀樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ケースに学ぶ国際経営	吉原秀樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ケースに学ぶ国際経営	吉原秀樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏	有斐閣																
2																			
3																			
評価方法(基準)	下記の研究プレゼンテーション大会の取り組み状況(100%)で評価する。 1. 企画シートの内容 2. プレゼンテーションの内容																		
学生へのメッセージ	ゼミの主役は教員ではなく学生である。「自ら考え行動する力」を身につけるために、主体的にゼミの活動に取り組んで欲しい。																		
担当者の研究室等	11号館8階 島山研究室																		
備考	授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐井 英子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	英語、パソコン、会計(国際)が現代の「三種の神器」である、といわれるがこの三者に共通していることは、どれもグローバルなコミュニケーション手段であるということです。会計は企業活動を計数的に写像したものであり、企業経営そのものを指し示している。経営者による裁量的な会計行動による不祥事が次々と発覚し、近年、会計の重要性が再認識されつつある。本演習では、会計情報を利用する立場から会計の基礎知識の修得に努める。また、レポート作成時など不正防止のための研究倫理についても取り上げ、指導・教育する。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会計情報開示制度と会計の基本を理解する。 ・会計の基本的ルール、財務諸表作成のルール、会計基準等を理解する。 ・会計情報を自ら分析、理解して、会計情報から企業の経営内容を読み取る力を修得する。 ・財務諸表を理解し、使いこなし、説得力のあるプレゼンテーションができるようになる。 ・グループワークを通して、コミュニケーション能力、協同する態度を修得する。 ・研究倫理について理解し、実践する姿勢を身につける。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・当面の間は、オンラインで行う。Web-Boxも課題を提示し、レポートを提出する。Teamsを利用してプレゼン等を原則的に対面授業で実施する。Teamsを用いたオンライン授業も必要に応じて実施する予定。 ・基礎的知識を修得するための資料の読解、インターネット等での情報収集。 ・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションする。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・会計と経営、経済社会の関わりについて学び、会計の基本的な枠組み、知識を習得する。ゼミでは、毎回、各自の発言を求め、質疑、応答形式で進めていく ・、グループワークでの研究、調査を行い、協同してプレゼン等を行う。(当面、オンラインで) ・実際の経営の現場に触れるために、校外学習を積極的に実施する(工場見学等) ・事前学習は、配布資料等で分からない用語等事前に調べ、自分なりに理解してゼミに参加すること。ただし、内容がどうしても分からないところは、ゼミで必ず質問し、理解するようにする。事後学習は、毎回のゼミで、レポート、さらに調べることなどの課題をその都度、指示するので、調べて次回発表すること。また、当日学修した内容で、理解できなかった所を中心に、自分で再度調べ直すこと。(毎回4時間程の事前・事後学修時間を予定しています) 																		
関連科目	企業簿記、財務会計論、経営学、																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	演習への参加(レポートの提出、発表等)																		
学生へのメッセージ	ゼミは、必ず出席し、積極的に参加してください。一方的に知識が与えられる場としてではなく、活発なディスカッションを通じて教員もゼミ生も互いに切磋琢磨していただける場としてゼミを考えています。																		
担当者の研究室等	11号館8階																		
備考	感染状況により、対面授業へ変更します																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	SeminarⅡ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	<p>企業が直面する問題に関心をもち、その問題を解決するために必要な知識を身につける。 演習Ⅱでは、とりわけ、下記について取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習Ⅰで修得した研究方法を意識しながら、卒業論文のテーマを決定する。 ・企業と連携し、製品開発等に取り組みながら、実践的なマーケティングについて学ぶ。 <p>なお、授業担当者の旅行会社での経験から、「モノ」だけではなく、「サービス」に関するマーケティングについても概説する。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・業界や企業が抱える問題を発見し、それに応じた解決策を提案することができる。 ・質的・量的調査を通じて、消費者ニーズを的確に掴むことができる。 ・消費者ニーズを叶える製品の具体案を企業に提案できる。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・企業連携は、グループワークを中心に進める。 ・授業時間外にグループ発表の準備等を行ってもらう。グループのメンバーと協力して取り組むこと。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【前期】</p> <p>1回：授業の進め方について 役割・グループの決定 2回～3回：グループ毎に調査テーマの設定 4回～9回：調査の準備、および、実践 10回～11回：調査結果のまとめ 12回～14回：発表準備 15回：発表</p> <p>【後期】</p> <p>1回：授業の進め方について 2回～14回：卒業論文のテーマについて発表と議論 15回：まとめ</p>																		
関連科目	マーケティング、消費者行動論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>その都度指示します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	その都度指示します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	その都度指示します。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>その都度指示します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	その都度指示します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	その都度指示します。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	参加態度(役割・発表準備・発言)：40% 発表・発表資料：60%																		
学生へのメッセージ	企業連携、是非、積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	田中祥司研究室 11号館8階																		
備考	・各回の授業に向けた準備(予習)や学びに対する復習が必要(約1時間程度)。																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 組織とヒトのマネジメントについて研究します。</p> <p>【目的】 本演習では、戦略、組織、人のマネジメントについて基礎から段階的に学び、自らの問題意識をもって様々な組織やヒトに関する経営現象を考察できるようになることを目的としています。</p>																
到達目標	<p>①様々な経営現象に広く関心を持つ。 ②経営学の理論に関する知識をディスカッションやプレゼンテーションを通じて習得する。 ③論理的に自分の考えをまとめ、他者に伝えられるようになる。 ④他者の意見を聞き、また他者に自分の考えを伝えられるようになる。 ⑤ワークでは、企業で実際に働く人にアポイントを取る必要があるため、その際に必要なビジネスマナーを習得する。</p> <p>演習Ⅱの終わりには、4年次に提出する卒業論文序論を作成します。</p>																
授業方法と留意点	<p>①ゼミをグループに分けてテーマを決め、ゼミ生の知人が働く会社における関心テーマについて調査、分析、考察する。最後はグループ別プレゼンテーション大会を行います。 ②実務家をゼミに招いたり、休みを利用して企業訪問することがよくあります。 ③研究発表またはビジネスプランコンテストに参加します。 ④卒業研究テーマを選定します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 「組織とヒトのマネジメントに関する基本的考察」</p> <p>【授業内容】 ①問題意識、文献調査・実地調査、プレゼンテーション、フィードバックを繰り返し行います。 ②報告者は、事前に文献・新聞・ウェブ検索を参考に報告者間での議論をレジュメにまとめます。次に、用意したレジュメをもとにプレゼンテーションを行います。 ③報告者以外の人は、意見・質問等の発言ができるようにプレゼンテーションをしっかり聞いて準備すること。発言等、授業への参画がない場合、欠席扱いにします。</p> <p>【事前、事後学習課題】 新聞等でのニュースで経営に関する情報を常に入手し、ゼミ等で関わったどの経営現象で説明できるか考察すること。 ゼミでも随時、日経新聞記載のニュースを中心に取り上げ、ディスカッションを行います。</p> <p>なお、上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育します。</p>																
関連科目	演習Ⅰ、卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	提出物、プレゼンテーション、ディスカッション、参加意欲の総合評価(発言等がない場合、欠席扱いにする場合があります)																
学生へのメッセージ	ゼミへの主体的な参加は必須のゼミです。																
担当者の研究室等	11号館8F 西之坊研究室																
備考	<p>①参考書等については、演習の中で紹介し、必要に応じて購入してもらった場合がある。 ②随時、企業家を招いてディスカッションを行う。招く場合は事前に伝えますので、所属組織について事前調査を必ず行うこと。 ③ゼミ活動は基本的に全員参加することを通じて社会人基礎力を養います。 ④ゼミの懇親会およびゼミ合宿等を行い、集団凝集性を高めます。</p>																

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	<p>テーマ 経済データの利用</p> <p>日本社会、経済に関する様々な問題を分析するため、基本的なデータの利用の仕方を身に付ける。そして以下のような目標を達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 現状をよく知るために、新聞などを読む。 (2) 理論的な知識をつけるために、多くの本を読む。 (3) 論理的な思考をする。 (4) 自分の考えを、口頭で発表する。 (5) 形式の整った、内容のあるレポートを書く。 <p>演習1を踏まえて、卒業研究のテーマを決め、研究を深める。 リモート講義、質問の対応は teams を使います。</p>																		
到達目標	<p>自分で問題を設定できる。 その問題を分析するための情報を収集できる。 情報、データを有効に活用できる。 卒業研究の作成の準備を完了する。</p>																		
授業方法と留意点	<p>【授業内容】</p> <p>[授業内容] データの意味。利用の仕方。経済の現状の把握。</p> <p>[授業方法と留意点] テキストを利用した、発表と討論。出席と授業中の発言が、最も重視される。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>日本の企業、経済、社会に関する問題を分析するためのデータを利用する方法やその意義について考えていく。テキストなどの担当項目の報告を通じ、理論的に思考し、また自分の考えを表現する力をつけていく。 上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>若者は本当にお金がないのか？－統計データが語る意外な真実－</td> <td>久我尚子</td> <td>光文社新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	若者は本当にお金がないのか？－統計データが語る意外な真実－	久我尚子	光文社新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	若者は本当にお金がないのか？－統計データが語る意外な真実－	久我尚子	光文社新書																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高校生からの経済データ入門</td> <td>吉本佳生</td> <td>ちくま新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>データ分析をマスターする12のレッスン</td> <td>畑農鋭矢・水落正明</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高校生からの経済データ入門	吉本佳生	ちくま新書	2	データ分析をマスターする12のレッスン	畑農鋭矢・水落正明	有斐閣	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	高校生からの経済データ入門	吉本佳生	ちくま新書																
2	データ分析をマスターする12のレッスン	畑農鋭矢・水落正明	有斐閣																
3																			
評価方法(基準)	授業での取り組み、レポートなどで総合的に評価。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>上にも書いたように、できるだけ多くの本を読むようにしてほしい。基本的知識をつけることは、どのような分野を勉強するにも大事なことである。また自分の考えをまとめ、人に伝える技量をつけてほしい。</p>																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	北 真取
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	<p>3年間の演習(ゼミナール)を通して、戦略的思考を学ぶ。その2年目となる。</p> <p>経営戦略や事業戦略、事業の仕組みであるビジネスモデルを教材として使いながら、ものごとを大局的に考える力を涵養することを目的とする。</p> <p>演習Ⅱでは、経営分析の手法、ビジネスモデルの多様性について消化・吸収しながら知識とスキルの習得を目指します。企業での企画調査や海外駐在の実務経験を講義に取り入れます。</p>																		
到達目標	<p>経営の現象について、</p> <p>① 「何(どんなこと)を」(What)</p> <p>② 「なぜ(どうして)」(Why)</p> <p>③ 「どんな方法で」(How)</p> <p>の観点から考察するスキルを身につけて、分析力、判断力を養うこと。</p> <p>演習Ⅰで習得した水準を上回ることが目標。</p>																		
授業方法と留意点	<p>英語などの検定を継続して受験しレベルアップを図ること。</p> <p>自分の考えをまとめ、それを発表し、他の人の理解を得たり、他の人の違う意見を取り入れて自らの考えを改善する。こうした方法を毎回、繰り返すことで、他者との相互作用のあり方についても習得していきます。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期のテーマは有価証券報告書や統計データを使った経営分析。有価証券報告書を使って、連結貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書を調べる。財務指標を計算し経営分析を行う。</p> <p>他にも、価格やコストの変動と利益の変化を見る感度分析、店舗数や広告費の売上高に対する影響度合いの分析などを行い、さまざまな手法を学ぶ。</p> <p>後期のテーマはビジネスモデルの創造。異業種のモデルを組み合わせたり、複数のモデルを組み合わせ、モデルの拡張性や付加価値の源泉の多様性を学習する。</p> <p>事前学習：グループ毎の担当表に従って、レポート作成、発表準備を行う(所要3時間)</p> <p>事後学習：授業での指摘事項についてレポートを加筆修正し再提出する(所要2時間)</p>																		
関連科目	経営戦略論、経営組織論、グローバル経営論など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	小テスト(50%)と課題レポートの作成・発表・討議(50%)にもとづいて評価する。																		
学生へのメッセージ	いろんな角度から疑問を持って授業に臨んでください。そうした疑問について皆で討議をしながら学習していきます。皆が寄れば文殊の知恵です。																		
担当者の研究室等備考	11号館8階 北 真取研究室																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	<p>・本科目は、第1回目の授業から、以下のとおり対面授業(1065教室)を実施します。ただし、状況によって、一部オンライン授業を併用する場合があります。</p> <p>・学ぶのは、「戦略」です。演習Ⅱでは、卒業研究および就職後の実社会におけるビジネス・リーダー育成へ向けて、各自の研究ターゲットとなる業界および関連企業等について、以下の①～③のとおり、徹底的に調査・研究します。</p> <p>①前期は、次年度の卒業研究に向け、業界研究を行うとともに、研究論文「第2章 先行研究の課題」の執筆に着手します。</p> <p>②後期は、自分の研究ターゲットとする業界または関連企業をさらに絞り込み、文献資料、データ等の先行研究を収集し、各自10分程度のプレゼンを実施します。</p> <p>③当然ながら、これまで演習Ⅰにおいて体験したビジネス・スクール形式の授業(グループディスカッション、プレゼン、質疑応答など)は、演習Ⅱにおいても継続します。つまり、上記②～③は個人作業に加え、グループワークも合わせて実施します。</p> <p>・なお、この科目は、「実務経験のある教員による授業科目」です。民間企業、経済団体、シンクタンク等に通算29年間勤務し、また経営コンサルタント(中小企業診断士)として150社以上の企業経営支援に携わった実務経験を活かし、実践的な授業を行います。</p>																
到達目標	<p>・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。</p> <p>・様々な業界(業種、業態等)の現状、課題およびビジネス戦略について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることが出来ます。</p>																
授業方法と留意点	<p>・本科目は、第1回目の授業から、以下のとおり対面授業(1065教室)を実施します。ただし、状況によって、一部オンライン授業を併用する場合があります。</p> <p>①この授業は、座学ではありません。卒業研究および就職後、実社会におけるビジネス・リーダー育成へ向けて、各自の研究ターゲットとなる業界および関連企業等について、徹底的に調査・研究します。</p> <p>②これまで演習Ⅰにおいて体験したビジネススクール形式の授業(グループディスカッション、プレゼン、質疑応答など)は、演習Ⅱにおいても継続します。</p> <p>③なお、企業経営、経</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業の具体的な内容は、以下のとおりです。</p> <p><前期></p> <p>①2年次後期に使用したテキストを使用し、ケースメソッド授業(ビジネススクール形式)を3～4回程度継続します。</p> <p>②約1,500の業種別資料の中から、自分の研究ターゲットとする業界または関連企業を複数選択し、文献資料、統計データ、ネット資料等の先行研究資料を収集します。</p> <p>③論文に引用する先行研究資料を吟味しながら、「第2章 先行研究の課題」の執筆に着手します。</p> <p>④各自の作業進捗度に応じ、さらなる研究深化についての具体的手法を検討します。</p> <p><後期></p> <p>①前期の研究成果を踏まえ、自分の研究ターゲットとする業界または関連企業をさらに絞り込みます。</p> <p>②個人作業に加え、関連業種毎のグループワーク等を通じて、最終的には各自10分程度のプレゼンを実施します。</p>																
関連科目	生産管理論、CSR経営論、企業論ほか																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくに指定しません</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくに指定しません			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくに指定しません																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各自の研究テーマに応じ、適宜指示します</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各自の研究テーマに応じ、適宜指示します			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	各自の研究テーマに応じ、適宜指示します																
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>・個人の研究成果(プレゼン含む)80%、研究への取り組み姿勢およびグループワーク等への貢献度20%</p> <p>・結果が全てですが、そこに至るプロセス(仕事振り)も評価対象とします。</p>																
学生へのメッセージ	<p>・コロナ禍は、成績不良の理由にはなりません。厳しい状況下、自分自身をしっかり見つめ、学業等に励んでください。</p> <p>・3年生からは、いよいよ「個」の力勝負となります。指導も個人指導が中心となります。</p> <p>・プロのビジネスリーダーは、「結果」が全てです。卒業および実社会での活躍を常に念頭に置き、逆算して自身の研究活動に励まれることを期待します。</p>																
担当者の研究室等備考	11号館7階 大田研究室																

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	ファイナンス(金融)で扱う事象は、わたしたちの身の回りにある。端的に言えばお金に関する事で、財布の中の現金をはじめ、銀行や証券会社、保険会社、国債、株式、資産運用、キャッシュレス、フィンテック、企業の資金調達等々お金に関する様々な事象を体系的に論じるのが学問としてのファイナンスである。日頃の生活はもちろん、ビジネスとも密接な関係にある。本ゼミでは、そのようなお金に関する事象や問題を『研究・探究』し、ファイナンス(金融)の考え方を修得するとともに、客観的な根拠に基づき主張する能力の修得を目的とする。本ゼミ希望者には成績の良し悪しは問わないが自律的で能動的な姿勢を求めたい。																		
到達目標	ファイナンス(金融)を中心とした経営・経済問題に関心を持ち、客観的視点から問題を把握し、解決する能力を身につけること																		
授業方法と留意点	本演習では卒業論文の作成を行う。発表・質疑応答形式(プレゼンテーション)を進める。発表の準備をする人はいうまでもないが、聞き手の学生にも積極性を求める。問題意識に沿って資料収集と仮説設定を行い、教員や他の学生との討論を通して問題解決の“コツ”を掴んで欲しい。また年末には卒研(4回生)の卒論報告会への参加とルーブリック評価基準に基づく卒論の評価をもらう予定である。なお、2021年度は原則対面式で行うが、新型コロナウイルス感染症防止のため、テレビ会議システム(Teams)を用いた遠隔方式も想定している																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4月から6月にかけてテーマを選定し、順次作成する。12月末までに80%の完成を目指す。加えて該当する分野に関連する不正防止のための研究倫理についても合わせて取り上げ、指導・教育する。																		
関連科目	経営学、経済学入門、ICT概論、ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンス、コーポレートファイナンス等																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	学習態度やプレゼンテーションの出来映えなどを総合的に判断する。																		
学生へのメッセージ	企業が学生に求める能力は依然として高い。易きに流れるは世の常なれど、後悔するのは自分自身である。この点、重々承知のこと。																		
担当者の研究室等備考	11号館8階(岩坪教授室)																		

科目名	演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	本演習では、演習 I で学んだことを踏まえて、さらに進んだ管理会計の理論や実務について学ぶ。1980 年代後半以降、伝統的な管理会計の理論や実務の限界が指摘されるようになり、戦略管理会計という新しい管理会計の研究が行われるようになった。そこで、本演習では、この戦略管理会計に焦点を当てて、授業を行う。 SDGs-8, 9, 12																		
到達目標	① 伝統的な管理会計の限界を踏まえて、戦略管理会計の意義を理解する。 ② ABC やバランスト・スコアカードなど戦略管理会計の諸技法が実務でどのように活用されているのかを知る。																		
授業方法と留意点	毎回、発表者を事前に指名し、各回の授業テーマについて教科書の内容をまとめたレジュメを作成してもらった上で、それに基づき報告をしてもらう。報告の後で、授業の参加者でその内容について議論を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	教科書を用いて、授業を進める。毎回の進度は、教科書 1 章分。前期は、戦略管理会計の理論について書かれた教科書を用いて、ABC やバランスト・スコアカードなど戦略管理会計の諸技法について学ぶ。後期は、ABC やバランスト・スコアカードなどのケース・スタディが書かれた本を教科書として用いて、実務において戦略管理会計の諸技法がどのように活用されているのかを学ぶ。授業での発表者以外の人も、当日の授業内容について事前に自分なりにまとめておくこと (2 時間)。また、事後にその日の授業内容についてまとめたレポートを毎回作成すること (2 時間)。加えて、会計分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導教育する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	レポート 80%、発表・授業中の発言 20%																		
学生へのメッセージ	授業の無断欠席や遅刻は認めません。授業には、真剣に取り組んで下さい。また、授業中は、積極的に発言することを期待します。演習参加者全員の努力で、演習での学びを、充実した実りのあるものにしましょう。																		
担当者の研究室等	11 号館 7 階 (三木准教授室)																		
備考	教科書については第 1 回目の授業の際に指示します。ゼミは現在のところ Teams を用いてオンラインで授業で行う予定ですが、コロナの感染状況によっては、対面授業に切り替える可能性があります。授業形態を変更する場合、こちらからメール等で連絡します。																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	企業（または、世の中で経済活動をおこなう経済主体）に関する社会問題を発見し、問題を解決する方法を学習し、分析をおこない、わかった知識を発信することを自ら行える能力を習得する。																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 研究テーマを決定し、研究目的を明らかにする。 ② 研究目的に関連する背景（新聞記事、関連書籍）を調べる。 ③ 研究論文の序論を作成する。（目的、背景、先行研究、予想結果） ④ 研究目的が達成できる分析を実施する。 ⑤ 簿記関連資格を取得する。 ⑥ 将来の夢と希望就職先を具体的に決める。 ⑦ 希望就職先に関する情報を収集する。 																
授業方法と留意点	<p>★ 4月22日以降の演習についても対面で実施します。オンライン実施の場合はゼミ内で案内します。</p> <p>演習2では、学生自ら決めた研究テーマを用いて、研究目的、背景、先行研究、分析過程と結果について、プレゼンを行う。また、分析の客観的な根拠となるデータ分析に関する知識について学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ゼミの活動に積極的に参加すること ② やむを得ない事情を除き、出席すること ③ ディスカッションに積極的に参加すること ④ 学内で生じた問題については素早く相談すること 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>＋ 前期では、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究目的、背景、演習①で指定した関連書籍の内容を発表する。 2. データ分析に関する知識について学習する。 3. 希望就職先に関する情報を収集する。 <p>＋ 後期では、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究目的に合わせた分析を実施し、その結果を報告する。 2. 就職活動について、就職部、先輩の話を伺い、希望就職先を具体化する。 <p>＋ データ分析については、事前に課題などが提示される。提示された課題については、報告者でなくても事前に内容を読んでおき、わからない用語等を調べるなどし、ディスカッションに参加できるようにする。（詳細な計画については初日の演習で告知する）</p>																
関連科目	経営学に関連する授業全般																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	特に指定しない																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門経営分析</td> <td>倉田三郎</td> <td>同文館出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>なぜ、会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった？</td> <td>村上裕太郎</td> <td>東洋経済新聞社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ビジネススクールで教える経営分析</td> <td>太田康弘</td> <td>日経文庫</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門経営分析	倉田三郎	同文館出版	2	なぜ、会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった？	村上裕太郎	東洋経済新聞社	3	ビジネススクールで教える経営分析	太田康弘	日経文庫
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	入門経営分析	倉田三郎	同文館出版														
2	なぜ、会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった？	村上裕太郎	東洋経済新聞社														
3	ビジネススクールで教える経営分析	太田康弘	日経文庫														
評価方法(基準)	<p>研究論文の序論作成 30%</p> <p>分析内容の報告 30%</p> <p>グループワーク・ディスカッションへの参加、発表、報告、などの総合評価 40%</p>																
学生へのメッセージ	ゼミは教員主導の講義ではなく、学生主導の学習の場です。教員はあくまでも学習の補助者であります。皆さんが希望するゼミ活動があれば積極的に提案し、参加するなど、イメージしていたゼミを作り上げていきましょう。																
担当者の研究室等	11号館7階																
備考	演習①と同様、ZoomやTeamsで実施する可能性もあります。また、課題の提出はDROPBOXを利用します。提出課題については、DROPBOXでフィードバックする予定です。																

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	<p>【教養演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日商簿記3級の取得(履修生全員)、金融機関への就職希望者については日商簿記2級の取得 ・TOEIC試験への挑戦を重ねることによる、TOEIC点数の向上 ・株式投資シミュレーションによる資産運用の基本的な技法・知識の習得 ・Python(コンピュータ言語)を用いたプログラミング技法の習得 <p>【専門演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベンチャープランニング、特許活用製品企画に係るコンテストへの参加(チーム単位) ・企業研究およびインターンシップへの実習 ・卒業研究に必要な事前調査 																
到達目標	<p>企業人材に必要とされる教養および専門知識が身に付きます。 特に文科系学部だからと選択肢を狭めず、自身の能力を発揮できる業務の選択、企業で即戦力となりうる技能・知識を習得し、知恵としての応用力を高めます。</p>																
授業方法と留意点	<p>対面による演習を実施します。 コンテスト参加については、チーム単位によるディスカッションを基本とします。 他の演習回については、毎回提示する課題解決のため、各自所有のノートパソコンを使用。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンテストへの参加 以下の内から各自、1つ選択。4名程のチームを編成。ディスカッションによる提案書作成・提出 ①キャンパス・ベンチャー・グランプリ(CVG)[経済産業省] ②開放特許を活用したビジネスアイデアコンテスト[経済産業省] ③関西大学 ビジネスプラン・コンペティション[関西大学] ④立命館大学 学生ベンチャーコンテスト[立命館大学] ⑤デザイン・パテント・コンテスト[文部科学省] ⑥ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテスト[寝屋川市] チーム自治による適宜、ディスカッションの時間、場を設定し、課題整理と計画書の作成を行う。 2. 企業研究 データに基づく企業訪問(一人あたり2社程度) 個別指導による実施 3. インターンシップの実施(夏期休暇中) 就職部と協働の上、実施企業を選定する。 4. 投資シミュレーション(株式投資) 「演習Ⅰ」に続き、シミュレーションソフトを活用した自身の投資スタイルの構築を目指す。 5. Python(プログラミング)の組み立て方 課題に対し、各自所有のノートパソコンによるプログラムの実施。 6. 卒論研究の準備 テーマ選定(何を研究するのか) 仮説(事象)検討と解決策(調査方法)の検討 7. TOEIC受験回数経過による得点増進。 日商簿記3級の全員取得 日商簿記2級への挑戦(金融機関就職希望者のみ) 																
関連科目	「演習Ⅰ」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	結果(採択、表彰など)を問うものではなく、各演習課題への取組姿勢、理解度、応用による自己解決能力を個別指導により評価する。																
学生へのメッセージ	就職まで1年しかないという自覚の基に、真剣に取り組み自身の能力を最大限に引き出すことを目指してほしい。																
担当者の研究室等	11号館7階<林研究室>																
備考	ノートパソコンは対面演習の際には持参すること。																

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	プロジェクトチームでのビジネスプランの考案、効果的な情報発信方法の企画・立案、民間企業との共同研究等の活動を通して、経営的視点から最新の情報処理技術を上手に使いこなせる力を養成します。																
到達目標	(1) AI等の情報処理技術を上手に使うための知識を深め、新しいビジネスに興味を持つマインドが定着すること (2) 研究チーム毎の活動において自らの役割や立場に応じた適切な行動をとることができ、チームとして一定の目標を達成すること (3) ビジネスプランコンテストに応募すること (4) 就職したい企業と卒業研究のテーマを設定すること																
授業方法と留意点	初回授業では、ゼミの上位・下位年次生との日程調整を行うため、必ず参加してください。 授業資料(PDF)や課題は、Web Folderにアップロードします。 前半は、AIに関する座学と実習をおおして、最先端のICTを上手に使う術を身に付けてもらいます。 そのあと、学年混合チームを結成し、チーム毎にテーマを決め、設定課題の解決に向けた取り組みを実行してもらいます。 具体的なテーマは、共同研究や社会情勢に応じて、適宜変化します。 最新の授業情報は Teams で配信するため、Teams で本講義																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	最新機器・技術(シーズ)と社会課題(ニーズ)の2つのアプローチから、新しいビジネスのアイデアを形にします。 ゼミ内でのディスカッションを受けて、学年混合チームを結成し、社会ニーズに合致した研究プロジェクトを立ち上げます。 ゼミでは、大きなスケジュールは提示しますが、細かなスケジュールは学生自らが考えて設定することを基本とします。 学生には、課題解決に向けた自発的な行動を期待します。 プロジェクトの進捗が悪い場合やコンテンツの締切前などは、講義時間外の学習時間が長くなる場合があります。																
関連科目	卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	課題への取組姿勢、出来栄え、討議への参加意欲で総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	意思決定の軸は常に自己成長と捉え、ゼミ活動には積極的に参加してください。																
担当者の研究室等	11号館8階 塚田研究室																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	島山 俊宏
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	企業経営について関心のあるテーマを選定し、経営学の理論を用いて分析して卒業論文を作成する。																		
到達目標	①論理的文章の作成スキルを習得する。 ②論理的思考力を習得する。 ③情報収集能力と情報分析能力を習得する。 ④プレゼンテーション・スキルを習得する。																		
授業方法と留意点	卒業論文の作成と最終発表会を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自でスケジュールを立てて卒業論文を作成する。適宜、ゼミ内での進捗報告とディスカッションを行い、内容を深めていく。提出を許可するまで定期的にゼミに出席して指導を受けることが必要である。尚、経営学分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き努める。																		
関連科目	演習Ⅰ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	経営学部のルーブリックに基づいて卒業論文 (90%)、最終発表会 (10%) で評価する。																		
学生へのメッセージ	ゼミの主役は教員ではなく学生である。「自ら考え行動する力」を身につけるために、主体的にゼミの活動に取り組んで欲しい。																		
担当者の研究室等	11号館8階 島山研究室																		
備考	授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐藤 正志
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	<p>テーマ「経営者の研究・企業経営の歴史的研究（経営史）」</p> <p>各自が興味ある経営者（企業家）の経営理念や企業の歴史的発展・現状についての研究をおこない、卒業論文の作成の指導をおこないます。</p> <p>加えて、卒業論文作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導します。習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒論を作成してください。</p>																		
到達目標	卒論をまとめる作業を通して、さまざまな資料の分析方法を身につけ、論文やレポートなどのテーマの設定、論述の仕方などの技術的能力を高める。																		
授業方法と留意点	<p>基本的には指定時間に対面（およびグループLINE）を用いて行います。また、Teams および Web Folder の指定箇所に資料ファイル等をアップします。質問等は従来どおり随時LINEを用いて行います。</p> <p>なお、卒論作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理について改めて指導します。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を踏まえ、論文作成に当たらなければなりません。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業内容】</p> <p>企業家の経営活動が彼らが経営した企業の発展過程といかに関わったのか分析します。レベルが高くオリジナリティのある卒論執筆のために、関連論文や専門書などにあたり、深く研究していきます。</p> <p>卒論執筆の基本的な方法について全体的に説明し、個別指導を経て、各自締め切りまでに研究をまとめます。最終的な論文内容等の個別指導の後、卒論を完成させ、提出します。</p> <p>(前期) (1) 卒業論文のテーマの確定と章立ての確認 (2) 論文作成の関する具体的な方法（目次、内容の展開、資料収集・分析、文献引用など）についての指導・説明</p> <p>(後期) (1) 論文執筆に関する個別指導 (2) 卒論内容の発表、質疑</p> <p>前期において、基本的なやりとりは、指定時間に対面（およびグループLINE）で行います。また、指定箇所に資料ファイル等をアップします。質問等は従来どおり随時LINEを用いて行います。</p> <p>後期は、状況に応じて個別指導を中心に実施します。また、卒論執筆段階ではメールで添削を行う形で指導します。</p>																		
関連科目	経営史																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>企業家に学ぶ日本経営史</td> <td>宇田川勝</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	企業家に学ぶ日本経営史	宇田川勝	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	企業家に学ぶ日本経営史	宇田川勝	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒論内容で評価する。その際、研究の独自性（30%）、資料の適切な引用と分析（30%）、論理的展開（20%）、論文の完成度（20%）に関して基準を示し、その達成度についてルーブリック評価を行う。																		
学生へのメッセージ	就活と卒論作成の時期が重なります。計画的・効率的な時間の使い方をし、なるべく多くの文献や資料を読みこなし、独創性のある論文を作成してもらいたいと思っています。卒論に関する一般的質問は、従来通りLINEで受け付けます。卒論の添削は、メールに卒論のファイルを添付して送ってください。締め切り期限を厳守してください。																		
担当者の研究室等備考	11号館8階																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	<p>テーマ 日本経済の分析</p> <p>日本経営、経済に関する様々な問題を分析するため、基本的な理論的分析力を身に付ける。そして以下のような目標を達成する。</p> <p>(1) 現状をよく知るために、新聞などを読む。</p> <p>(2) 理論的な知識をつけるために、多くの本を読む。</p> <p>(3) 論理的な思考をする。</p> <p>(4) 自分の考えを、口頭で発表する。</p> <p>(5) 形式の整った、内容のある卒業研究を作成する。</p> <p>リモート講義、質問の受付などは teams を利用します。</p>																		
到達目標	<p>形式と内容が伴った卒業研究を完成させる。</p> <p>充実した発表を行う。</p>																		
授業方法と留意点	<p>【授業内容】</p> <p>[授業内容]</p> <p>各自の卒業研究のテーマに関する発表。個人的な論文の指導。</p> <p>[授業方法と留意点]</p> <p>個人発表と討論。出席と授業中の発言などが、最も重視される。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>卒業研究の製作。加えて、卒業論文作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒論を作成すること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>授業での取り組み、卒研レポート、報告などで総合的に評価。</p> <p>(1) 日本語として成立しているか? (2) 内容の充実 (3) 文献リスト (4) 過去の研究の総括 (5) 独自性が卒業研究の採点ポイントとなる (詳細は経営学部のルーブリック評価に従う)</p> <p>具体的採点基準は授業中にお知らせします。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>卒業研究の内容が重要なのは言うまでもないが、形式を整えることも必要である。またプレゼンテーションも重視される。いずれにしろ、早めに準備することが大切である。</p>																		
担当者の研究室等																			
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>上にも書いたように、できるだけ多くの本を読むようにしてほしい。基本的知識をつけることは、どのような分野を勉強するにも大事なことである。また自分の考えをまとめ、人に伝える技量をつけてほしい。</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	卒業研究テーマに関する経営現象について、今まで学んできた経営学の諸理論・諸概念を用いながら分析し、卒業研究論文を執筆していきます。 自分自身で研究テーマを見つけ、文献・資料を収集し、研究テーマの理解を深めていきます。自分自身でしっかりと理解した内容をもとに、「論文」と呼ぶにふさわしい内容と形式を整えた卒業論文を完成させること。さらに、完成した卒業論文の内容を中間発表会および最終発表会でプレゼンテーションを行います。																		
到達目標	①課題と解決方法を自ら探究することを通して、主体性とクリティカル・シンキング力を養う。 ②他メンバーとのディスカッションを通してコミュニケーション能力を養う。 ③論文の正しい書き方やルールを学び、研究能力を養う。 ④研究倫理を養う。																		
授業方法と留意点	文献研究及び事例分析																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[授業内容]</p> <p>各自の研究テーマに沿って、文献、事例を分析していきます。 当該分野に関する不正防止のための研究倫理についても、併せて取り上げ、教育・指導します。</p> <p>[研究テーマ]</p> <p>戦略、組織、人に関わる組織マネジメントの諸課題に取り組んでいきます。</p> <p>[学習課題]</p> <p>常に新聞や専門雑誌に目を通し、研究テーマに関わる経営現象をチェックしておきましょう。</p> <p>なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を踏まえて卒業論文を作成すること。</p>																		
関連科目	経営管理論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、組織行動論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	中間発表会 25%、最終発表会 50%、学部ルーブリックに基づいた評価を 25% の割合で評価する。 また、中間発表会および最終発表会では、それぞれ発表したところまでの卒業論文提出を必須とする。 なお、就職活動および慶弔関係以外でゼミの講義を 8 割以上出席しないと単位は認めない。																		
学生へのメッセージ	他メンバーとの意見交換を積極的に行い、切磋琢磨しながら卒業研究論文に取り組んでいきましょう。																		
担当者の研究室等備考	11号館8階 西之坊研究室																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	北 真取
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	卒業研究は、演習（ゼミナール）の締め括りである。これまで学んだ経営学の領域から、自身で研究テーマを見つけ、文献・資料を収集し、研究テーマの理解を深め、自身の理解のもとに、「論文」にふさわしい内容と形式を整えた卒業論文を完成する。加えて、発表会において、完成した卒業論文の内容をパワーポイントを用いて各自プレゼンテーションを行う（持ち時間は質問を含め20分）。																
到達目標	経営学部のルーブリック評価表に基づいて、論理的な内容を持ち、形式の整った研究論文を仕上げる。 論文内容を他人に説明するプレゼンテーション能力を身につける。 他人の報告について、質問・コメントすることのできる能力を身につける。																
授業方法と留意点	卒業論文について、テーマの選択から、使用する資料、ストーリーなど、論文完成に向けて、個別の相談に応じます。進捗に沿った各段階での経過報告とプレゼンテーションに対して個別指導を行います。 卒業論文の完成に向けて少しずつだが、着実に、前進することが肝要です。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業論文のテーマに関しては、経営学に含まれるものが望ましいが、特にこだわらない。企業ないし産業に関連するテーマであればよい。 卒業論文の完成と発表会での口頭報告を目指して、「割り当てられた日時に、経過報告・予備的なプレゼンテーションを行い、今後の作業についての指導を受ける」、というルーティンを繰り返す。 加えて、著作権や個人情報の保護など卒業論文の作成に際しての研究不正行為に改めて注意を喚起する。																
関連科目	経営戦略論、経営組織論、企業分析（経営戦略ケース分析）など																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	卒業論文の内容と形式に関するルーブリック評価（50%）および卒業論文発表会での口頭報告の実施とその内容（50%）																
学生へのメッセージ	自ら、テーマを選定し、資料を収集し、形式を整えた論文の作成と報告という経験を通じて、自立した社会人（ビジネスパーソン）となるための第一歩を築いてください。																
担当者の研究室等	北 真取研究室（11号館8階）																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐井 英子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・3年後期から各自進めている企業分析をさらに進め、卒業論文を完成させる。また、実際の企業、経営、経済の動向について、会計領域に限定せずその内容等を調べ、経営学全般の知識の修得に努めるとともに、社会人基礎力を身につける。加えて、不正防止のための研究倫理についても取り上げ、指導・教育する。 																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身で、研究テーマを決める。何が分からないのか、何を調べたいのか、明らかにしたいのか、問題意識を明確に持つ。 ・研究のプロセス管理がきちんとできる。 ・研究内容を論文として書き上げる。 ・研究内容を、他人に分かりやすく説明、プレゼンできる。 ・卒業後の自らの学びの糧となるものを修得する。 																
授業方法と留意点	<p>基本的には、各自の進捗度の沿った個人指導が中心となるが、全員で中間発表、最終発表を行う卒業論文の経過発表を行い、必要に応じて修正、加筆を行う。</p> <p>卒業論文完成後にゼミで発表会を開催する。</p> <p>前記は、オンライン(Teams)と対面で実施する。後期は、原則的に対面で実施する。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各自のテーマにそって卒論を作成し、ゼミでプレゼンテーションを行う。 ・論文の内容はもちろんですが、そのまとめ方、論文の概要を分かりやすくまとめ、きちんと相手に伝わるようにプレゼンテーションができる、自分の意見をきちんと説明できるコミュニケーション能力の修得に努める。そのために、通常のゼミ室ではなく、プチアトルで2, 3, 年次生の前でプレゼンテーションする機会を設ける。 ・実際の経営の現場を体験するために、校外学習(工場見学等)を実施する。 ・卒論のチェックは、メールを利用して実施します。必要に応じて対面で個人指導を実施します。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	研究への取り組み姿勢と卒業論文の経営学部ルーブリック評価などに基づき総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	ゼミは、必ず出席し、積極的に参加してください。一方的に知識が与えられる場としてではなく、活発な討論を通じて教員もゼミ生も互いに切磋琢磨していける場としてゼミを考えています。																
担当者の研究室等	11号館8階																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	ファイナンス（金融）で扱う事象は、わたしたちの身の回りにある。端的に言えばお金に関する事で、財布の中の現金をはじめ、銀行や証券会社、保険会社、国債、株式、資産運用、キャッシュレス、フィンテック、企業の資金調達等々お金に関する様々な事象を体系的に論じるのが学問としてのファイナンスである。日頃の生活はもちろん、ビジネスとも密接な関係にある。本ゼミでは、そのようなお金に関する事象や問題を『研究・探究』し、ファイナンス（金融）の考え方を修得するとともに、客観的な根拠に基づき主張する能力の修得を目的とする。本ゼミ希望者には成績の良し悪しは問わないが自律的で能動的な姿勢を求めたい。			
到達目標	ファイナンス（金融）を中心とした経済・経営問題に関心を持ち、客観的視点から問題を把握し、解決する能力を身につけること			
授業方法と留意点	本演習では卒業論文の作成を行う。発表・質疑応答形式（プレゼンテーション）で進める。発表の準備をする人はいうまでもないが、聞き手の学生にも積極性を求める。問題意識に沿って資料収集と仮説設定を行い、教員や他の学生との討論を通して問題解決の“コツ”を掴んで欲しい。 11/12 現在、対面式で進めています。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文の完成に向けて、主として個人別に指導していく。年末には卒論報告会があるので、それに向けた準備も行う。なお、卒業論文の作成に当って配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	日頃の学習状況と卒業論文については、経営学部のルーブリック評価を基準とし、これら結果を総合して評価する。			
学生へのメッセージ	企業が学生に求める能力は依然として高い。易きに流れるは世の常なれど、後悔するのは自分自身である。この点、重々承知のこと。			
担当者の研究室等備考	11号館8階（岩坪教授室）			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	三木 僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	各自選定したテーマに基づいて作成していく卒業論文の指導を行う。卒業論文は、各自がテーマを設定し、様々な調査や文献・資料の収集を行い、論文を完成させていく。授業では、毎週交代で数人に卒業論文の中間報告をしてもらい、教員や他の受講生と意見交換をしながら、内容面・形式面の充実を図っていく。 並行して、各人の進捗状況に応じて、個別指導も行う。 SDGs-8, 9, 12																		
到達目標	① 問題発見能力、論理的思考力および問題解決能力を身につける。 ② 学術論文の書き方を身につける。																		
授業方法と留意点	卒業論文の作成に真摯に取り組み、4年間の大学生活の集大成となるような卒業論文を完成させてほしい。授業では、受講生にレジメを作成してもらい論文の中間報告や最終成果報告を行ってもらう。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文の完成度を高めていく。なお、卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。 資料・文献の収集、調査、論文執筆については、授業時間以外の時間に行う。授業時間以外において積極的に研究を進めていく姿勢が重要である。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	論文 80%、発表 20%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階(三木准教授室)																		
備考	論文の評価は、経営学部のルーブリック評価基準表を用いて行う。授業は現在のところ Teams を用いてオンラインで授業で行う予定ですが、コロナの感染状況によっては、対面授業に切り替える可能性があります。授業形態を変更する場合、こちらからメール等で連絡します。																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、第1回目の授業から、以下のとおり対面授業(ゼミ室)を実施します。ただし、状況によって、一部オンライン授業を併用する場合があります。 ・本授業は、学生の研究テーマにもとづき、卒業研究論文(以下、「卒論」)を作成します。授業の主役はあくまで学生です。学生自身が自らの研究計画(ロードマップ)と自己責任にもとづいて研究を遂行し、教員が指導・サポートします。 ・学生と十分な議論を行い、何が課題なのかについて、様々な資料をもとに徹底的に分析し、課題を抽出します。 ・とくに、企業経営や経営戦略に関する過去の事例研究を踏まえ、また今日の外部および内部環境等を考慮した上で、新規性、進歩性、有用性に優れた卒論の完成を目指します。 ・なお、この科目は、「実務経験のある教員による授業科目」です。民間企業、経済団体、シンクタンク等に通算29年間勤務し、また経営コンサルタント(中小企業診断士)として150社以上の企業経営支援に携わった実務経験を活かし、実践的な授業を行います。 																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・卒論を執筆し、完成させるだけでは目標到達ではありません。それを就職先において入社後にプレゼンしたと仮定した場合、就職先の外部評価に値するレベルまで完成させることが最終到達目標です。 ・研究計画(ロードマップ)にもとづき、卒論完成までどのような視点で研究を立案し、どのような手順で進めれば良いのか、その効果的な解決手法を習得します。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、第1回目の授業から、以下のとおり対面授業(ゼミ室)を実施します。ただし、状況によって、一部オンライン授業を併用する場合があります。 ・学生本人と十分な議論を行い、研究計画(ロードマップ)作成について指導します。 ・文献やネット情報だけでなく、実際のビジネス現場を視察するフィールドワーク調査を原則実施します。 ・なお、研究活動における不正防止のための研究倫理教育を併せて実施します。 <p>この授業は、当面は「対面授業」で行います。ただし、コロナ感染状況次第では、今後Microsoft Tea</p>																
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	<p><授業の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業は、学生が設定した研究テーマに沿い、①研究の目的と背景、②業界の現状と課題、③本研究における仮説、④競合企業との戦略比較、⑤総括、という順序で執筆指導します。 (2) テーマ設定する業界および企業は、原則として学生自身の就職先と定めます。つまり、入社前に自分が勤務する企業の戦略および業界の課題や競合企業との戦略比較について研究することとなります。 (3) 研究論文の章毎に、都度、提出期限を設定し、予め学生が提出した原稿をもとに、授業では学生と原則1対1で修正指導を行います。 (4) 卒業論文完成・提出後、研究内容について全員がプレゼン(約7分)する研究発表会を2回に分けて開催します。なお、この発表会は、3年生との合同授業となります。 <p><予習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定研究テーマに関連する文献・資料等を調べておくこと。(1時間) <p><復習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導教員から指摘された修正箇所の訂正、加筆、関連文献・資料等の参照を行い、次回授業に備えるとともに、決められた期限内に修正原稿を提出すること。(3時間) 																
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ・企業論、CSR経営論、生産管理論など。 ・なお、研究テーマによっては、大学4年間で受講した全ての科目が関連します。 																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・学部統一ルーブリック表による評価を行います。 ・毎回の事業における学生自身のプレゼン内容(40%)、研究計画の新規性・進歩性(30%)、研究成果の完成度(30%)による総合評価を行います。ただし、毎回の授業の都度採点し、集計します。 																
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍は、成績不良の理由にはなりません。厳しい状況下、自分自身をしっかりと見つめ、学業等に励んでください。 ・卒論は、大学4年間の学修の集大成であり、自身の研究成果物として一生残ります。 ・「君の卒論のテーマは何か?」「どんな内容か?」-就職活動や実社会においてそう聞かれた時、胸を張って答えられるような卒論を教員やゼミ仲間と一緒に頑張って完成させましょう! 																
担当者の研究室等備考	11号館7階 大田住吉研究室																

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	企業(又は、世の中で経済活動を行う経済主体)に関連する社会問題を発見し、問題を解決する方法を学習し、分析をおこない、わかった知識を社会に発信することを自ら行える能力を習得する。																		
到達目標	① 事前に決めた卒業論文の研究目的を明らかにする分析を実施する。 ② 研究内容に関連する先行研究(関連書籍・論文)をサーベイする。 ③ 卒業論文を完成する。 ④ 卒業論文の進捗報告を行う。 ⑤ 卒業要件を満たす成績管理																		
授業方法と留意点	卒論の相談は、①対面、②Teams、③Zoomで対応する。 卒業研究では、演習1と2で実施した研究テーマ、目的、分析内容を用いて、卒業論文を執筆し、進捗状況を随時報告する。(進捗状況によっては、週1回以上報告を実施する) ① 指導教員からのコメントを必ず反映し、次回の報告に挑む。 ② 他の報告に支障がないように、報告予定日を守る。 ③ 卒論進捗報告とともに就職活動状況も報告する。 ④ 学内で生じた問題については素早く相談する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	+前期では、 1. 各自の研究目的を明らかにする分析を実施する。 2. 研究内容に関連する先行研究(関連書籍・論文)をサーベイする。 3. 卒業論文を執筆する。 +後期では、 1. 卒業論文を完成する。 2. 卒業論文報告会に実施する。																		
関連科目	経営学に関連する授業全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	特に指定しない																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>財務諸表分析</td> <td>桜井久勝</td> <td>中央経済社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>財務諸表分析</td> <td>乙政正太</td> <td>同文館出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>戦略思考で読み解く経営分析入門</td> <td>大津広一</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	財務諸表分析	桜井久勝	中央経済社	2	財務諸表分析	乙政正太	同文館出版	3	戦略思考で読み解く経営分析入門	大津広一	ダイヤモンド社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	財務諸表分析	桜井久勝	中央経済社																
2	財務諸表分析	乙政正太	同文館出版																
3	戦略思考で読み解く経営分析入門	大津広一	ダイヤモンド社																
評価方法(基準)	卒業論文 70% 卒業論文報告会 30%																		
学生へのメッセージ	就職活動、成績管理、卒業論文など、忙しい1年になると思います。皆さんが希望する就職先、満足する卒業論文が完成できるように頑張りましょう。																		
担当者の研究室等	11号館7階																		
備考	演習IIと同様、TeamsやZoomで対応することがあります。ゼミラインなどを随時確認ください。																		

科目名	海外語学研修	科目名(英文)	Overseas Language Training
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	カーティス チュウ・鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IE11335c1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課 																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間2回実施される。()内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2～3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集説明会：4月中旬 (9月下旬～10月上旬) ・事前授業10回：6月中下旬～7月下旬 (11月～2月) ・現地派遣：2週間程度 8月中旬～9月上旬 (2月中下旬～3月下旬) ・事後授業5回(成果報告会含む)：9月～10月中旬 (3月～4月下旬) <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしないといけない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2～3月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるように行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)																
学生へのメッセージ	在学中に一度は海外に行きましよう。いけるなら二度行きましよう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましよう。																

担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は2号館2階グローバル教育センター (旧：国際交流センター)まで
備考	

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上(80時間以上)の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(3月～4月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～7月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～7月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(8月～11月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び事前指導・事後指導における課題提出物、教育実習記録による総合評価を行う。いずれか不十分なものは、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上(120時間以上)の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(3月～4月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～7月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～7月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(8月～11月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(10月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 総括講義出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	地域実習	科目名(英文)	Introductory Training for Regional Study
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎, 谷口 雄一, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1, L科:LT01366a1~LT01370a1, D科・S科:IT01371a1~IT01375a1, P科:YT01423a2~YT01427a2, J科:JT01374a~JT01378a1, W科:WT01352a1~WT01356a1, N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程1年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は2年次の「摂南大学PBLプロジェクト」、3年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけられています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。																
到達目標	①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。																
授業方法と留意点	主として現地でのフィールドワークです。1か月に2回程度全体で集まり、進捗状況や問題点、解決策などを共有します。従来から感染防止に注意の上で対面授業を行っています。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	1 チーム10名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. スケジュール管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 上記の1~6の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第1回授業は4月14日(水)6時間目です。この時に詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。 今年度、この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設のことです。このような施設に実習に行くことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。 【前期】 開講時間はいずれも6時間目です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。開講日は調整の関係で変更されることがあります。 第1回4月14日(水)「ガイダンス(授業概要の説明)」 第2回4月28日(水)「寝屋川市の現状を考える(1)」 第3回5月12日(水)「寝屋川市の現状を考える(2)」 第4回5月19日(水)「寝屋川市まちあるき(学外)」 第5回5月26日(水)「社会教育とは(1)」 第6回6月2日(水)「社会教育とは(2)」 第7回6月9日(水)「まちあるき報告会」 第8回6月3日~6月22日までのいずれかの日「実習先挨拶(学外)」 第9回7月7日(水)「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第10回~第18回「実習(学外)(夏季休暇中の5日間)」 ※実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。状況により実習できない場合もあることをお含みおきください。 【後期】 後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせいたします。 第19回「実習ふりかえり(1)」 第20回「実習ふりかえり(2)」 第21回「全体報告会」																
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	提出物(20%)、活動への参画の程度(40%)、最終報告プレゼンテーション(20%)、最終レポート(20%)																
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみましょう!																
担当者の研究室等	朝田研究室 1号館7階 谷口研究室 11号館11階(後期は7号館4階) 吉田研究室 11号館11階(後期は7号館3階)																
備考																	

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)	科目名(英文)	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1, L科:LT01366a1~LT01370a1, D科・S科:IT01371a1~IT01375a1, P科:YT01423a2~YT01427a2, J科:JT01374a~JT01378a1, W科:WT01352a1~WT01356a1, N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 グローバル・シチズンシップ副専攻課 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間2回実施される。()内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2～3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 募集説明会:4月中旬(9月下旬～10月上旬) 事前授業10回:6月中下旬～7月下旬(11月～2月) 現地派遣:2週間程度8月中旬～9月上中旬(2月中下旬～3月下旬) 事後授業5回(成果報告会含む):9月～10月中旬(3月～4月下旬) <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしないといけない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2～3月に現地派遣されるプログラムの場合、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地が必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまっただけではいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合)</p> <p>現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合)</p> <p>事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)</p>																

学生へのメッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。
担当者の研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は2号館2階グローバル教育センター（旧：国際交流センター）まで
備考	